10周年目の終焉! “PRIDE孤児”の行方!!

kamipro

紙のプロレス

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

enterbrain MOOK

2007

116

880yen

PRIDEまで
また逢う日まで



●髙田延彦、ヒクソンに完敗●藤田和之、新日本プロレスから
参戦●桜庭が90分死闘の末ホイス破る●ミルコ・クロコップ電
撃移籍●高山とフライが壮絶殴り合い●エメリヤーエンコ・ヒョ
ドル、圧倒的強さで戴冠●吉田秀彦、柔道王のプライド
ハッスルのために、小川直也がGP出場●アントニオ・ホドリ
ノゲイラ、栄冠に届かず●桜庭和志『HERO'S』移籍●賛
否両論・金子賢の参戦●五味隆典、日本人初PRIDE王
者に●地上波放送打ち切り●マイク・タイソン、会見に登場●
メリカ・ラスベガスに進出●青木真也、すい星のように出現
ヴァンダレイ・シウバが王座陥落、ダン・ヘンダーソンがミド
級王者に●榊原代表退陣、オーナー交代●PRIDE FC
WORLD WIDEの事務所が突然閉鎖に……

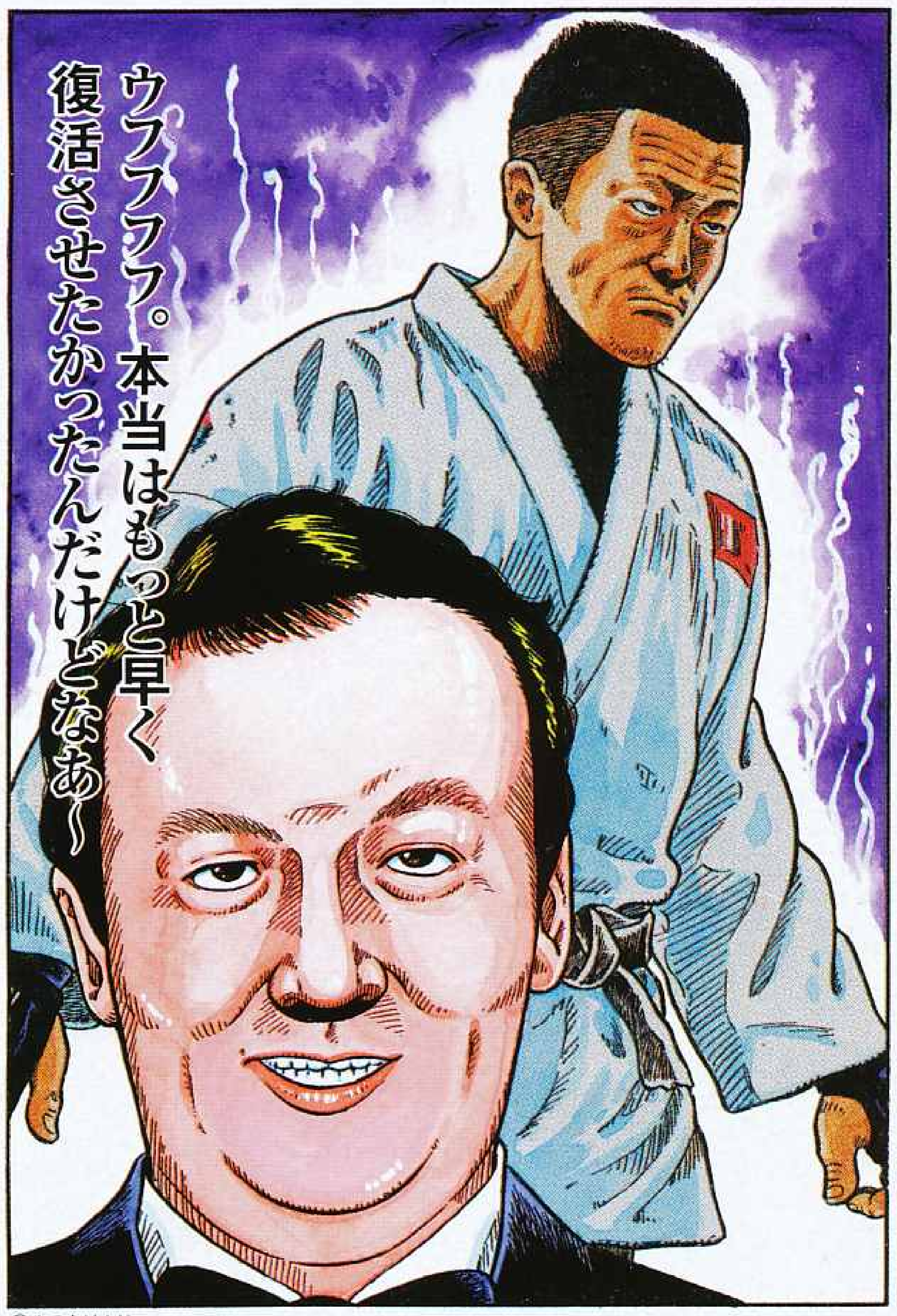
kamipro 116 再び逢うための遠い約束……なのか!? enterbrain

印刷・製本／図書印刷株式会社

秋山成勲"英雄"として韓国に凱旋、そして復帰戦――。次号、TBSの秘策が炸裂する!?



うわ～ん、うわ～ん!! "恐怖の魔王"が復活するよ～!




©みのもけんじ

秋山成勲"英雄"として韓国に凱旋、そして復帰戦——。次号、TBSの秘策が炸裂する!?

2007 No.116 CONTENTS

kamipro

※せきしろの『サムライシロー三昧』は都合によりお休みさせていただきます。


UFC
PRIDE
PROPERTY OF
AMERICAN
TOP TEAM

ロレンゾ・フェティータ、コンノヤロ～ウ!!

“PRIDE消滅”!!されど“夢の続き”はすでに動き始めている！









大晦日に何かが起こる？
徹底追跡座談会

10月4日、あまりにも突然発表されたPRIDE FC WORLD WIDEの日本事務所閉鎖および全社員解雇。これにてかつてのDSEスタッフが作る『PRIDE』は事実上“消滅”してしまったわけだが、全社員解雇が発表されて以降、元PRIDE関係者たちが、さまざまな可能性を求めて動き出しているという。ファン、そして業界内のあいだでは「大晦日に何かが起こる」ともっぱらの噂だが、はたして日本マット界はどうなっていくのか？“夢の続き”に向けた動きを座談会でとことん追っていく!

PFWWの日本事務所閉鎖、全社員解雇は多くの人にとって寝耳に水の事態だった

ジャン　10月4日に突然のPRIDEFCWORLDWIDE（以下PFWW）の日本事務所閉鎖、および全社員の解雇という衝撃の騒動が起こったわけですけど、いよいよ来るときが来た感じですね。

ガンツ　ざまあみろだね！　○○○は○○○のもとに帰れ!!（某SV調）。

ジャン　そんなことを言ってると、20分以内にここから退場させますよ。

ガンツ　すいません。不適切な発言があったことをお詫び申し上げます（谷川貞治FEG代表調）。

ジャン　TBSが「48歳の若さが出てしまいました!!」とフォローすれば問題ないんですけどね（笑）。

X　それは亀田大毅の〝エメラルド・フロウジョン〟のことだろ！（笑）。いまはそんなスーパーバイザーのたわ言に付き合っているヒマがないほど、いろんなことが動いてますね。

ジャン　あ、ご紹介が遅れました。名前を伏せずにはいられない、業界一の情報通ミスターXさんです。

X　みなさん、こんにちは。○○○○です。

ジャン　他人の名前を使わない！（笑）。

ガンツ　まあでも、いまは刻々と状況が変化してますよね。

X　来週はさらに動きますね（この座談会は10月12日に収録）。

ジャン　動きますか！　ネット上の噂ではウチの発行元のエンターブレインが新格闘技イベントに出資するらしいですけど、実際はどうなんですかね？

X　おまえが一番知ってるだろ（笑）。

ジャン　（無視して）その噂をかぎつけた山口日昇が「それなら『ハッスル』をスポンサードしてくれ!!」と騒いだとか。

ガンツ　そんな適当な冗談をファンや関係者が簡単に信じてしまうほど、マット界は大混乱しているわけです（笑）。ホントだったら、PFWWの閉鎖だけで座談会の話題には事欠かないはずなんですけど……。

X　もうそんなのは過去の話ですね。大過去です。

ガンツ　確かに話題は、『PRIDE』の〝遺伝子〟を持った次なるイベントは生まれるのか？　ということに移ってますよね。

ジャン　ただ、新しい動きを追うためにも、それまでの流れを把握しておかないとマズいので、PFWW事務所閉鎖の話から進めたいと思います。それにしても突然でしたよね。

X　でも一部には前日から、とにかく大ナタが振るわれそうだという噂は飛び交ってました。アメリカ本社から「明日、電話で全体会議を開く」という連絡が来たとき、一部のスタッフはこれはマズいと思って、選手や関係者にプライベートの連絡先を教え合ったという話ですよ。

ジャン　解雇になったら、社用ケータイは没収になるわけですからね。その前に関係者にはプライベートの番号を知らせておいた、と。

ガンツ　もともと9月末にPFWWのジェイミー・ポラック社長が来日して、そこで人員整理がされるんじゃないかという噂は出てましたよね。

10周年目の終焉！
“PRIDE孤児”の行方

ジャン　でもまさか事務所閉鎖、全員解雇までとは……。

X　さすが外資系ですよね。解雇通知がされたあと「20分以内に私物を整理し、すみやかに出ていくように」って言われたらしいですから（笑）。

ジャン　そもそも大ナタが振るわれるという噂は、PFWW社員のバックグラウンドチェックが終了して、それによって今後の新しい体制を作るために、いらない社員を切るんじゃないか？　という話から始まってるわけですよね。そのバックグラウンドチェック自体にはけっこうな大金が使われたと聞くし、そこまでするからには、大晦日にイベントをやらなくても、来年以降は何かしらやるための体制作りだと思われた矢先なんですよね。

X　だから、日本での『PRIDE』開催をあきらめたということなんでしょう。

ジャン　急にあきらめたのは、何が原因だったんですかね？

X　ダナ・ホワイト（UFC代表）が「あそこの会社（PFWW）はメチャクチャだ！」っていつだかの記者会見で言ってましたけど、やっぱり優良企業を買ったつもりだったのが、フタを開けてみると不良債権だったってことじゃないですか。

ジャン　ええと、それは「ざあまみろ!!」と言っていいんでしょうかね（笑）。

ガンツ　あとは地上波のテレビ中継が絶望的だとわかって「ダメだ、こりゃ」ってなった感じなのかな。アメリカ側は、『PRIDE』は新しい会社になったら、すぐにでもテレビがつくものだと思ってたみたいだから。

ジャン　実際、ズッファ社側の声明文には「DSEの元役員が協力不足だった」ってありましたけど、あの役員っていうのは誰なんですかね？

X　PFWW関係者も誰のことを指しているのか、何に対して「協力不足」と言っているのかはわからないみたいですよ。榊原（信行）元代表はもう関係ないとして、加藤元専務のことなのか、それとも別の人間なのか……。DEEPの佐伯さんは「もしかして、俺のことか!?」って言ってたみたいですけど（笑）。

ジャン　佐伯さんは役員じゃないでしょう（笑）。

X　そうなんだけどね。そもそも、あの声明文は誰が作ったの？

ジャン　あれはズッファですね。もちろん英文で作ったものを日本のPR代理店を通じて翻訳して、そこから各社にFAXで送られたようです。

ガンツ　でも、『kamipro』はその前から、「早く声明を出せ!!」ってズッファに直接連絡してたんですよ。ジェイミー・ポラック社長のケータイに直接電話をして怒られたり（笑）。そのおかげで、他社よりも先に原本である欧文のリリースが届いたんですよね。

［座談会出席者］

堀江ガンツ
本誌編集部。子どもの頃から変態的プロレスファン＆UWF信者として鳴らし、本誌入社後もUWF研究家を自称。変態的『PRIDE』支持者でもある34歳。

ジャン斉藤
本誌編集統括本部長。雀鬼・桜井章一の内弟子を経て『kamipro』入り。永久電機などの夢いっぱいなアントン事業をライフワークとする32歳。

ミスターX
どこから仕入れてくるのか、格闘技業界のあらゆる情報を集める地獄耳。本誌の座談会に出席するときは、「名前を伏せてください」が口癖。

X　素晴らしい！

ガンツ　そして、英語ができるウチの上杉SVがせっせと訳してたんですけど、ちょうど訳し終わった頃に翻訳されたものが送られてきちゃって（笑）。

ジャン　しかも、緊急を要する記事なのに、まるでもう『頑固プロレス』のカードリリース並みの扱いで。モタモタモタモタしているから、あとからFAXをもらったほかのウェブサイトに先を越されちゃったんですよ。

X　そういう社員は20分以内に出ていかせたほうがいいですね（笑）。でも、あの声明文によって、やはり『PRIDE』は兄妹会社ではなく、UFCの傘下にあるってことがよくわかった。

ジャン　だからPFWWは組織自体ができてなかったわけじゃないですか。たとえば、ある選手をPFWWを通じてインタビューしたんですけど、取材謝礼を主催団体を通じて選手に支払おうとしたら、なんとPFWWは銀行口座がなくていつになっても振り込むことができなかったりとか。

ガンツ　どんな会社なんだって話だよね。

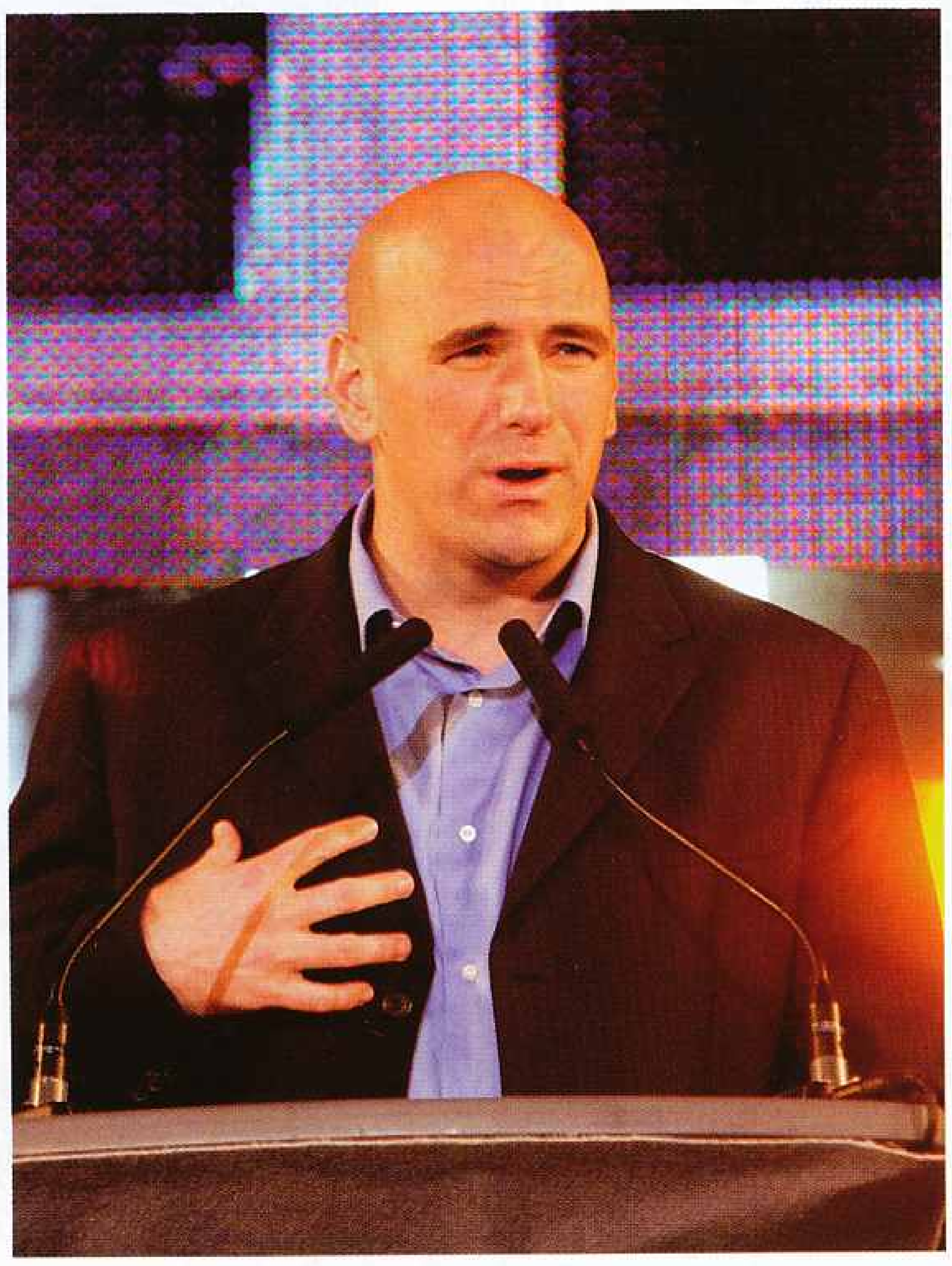
ジャン　あと、社員たちは「とりあえず、おまえたちは何もするな。トイレットペーパーも買うな」くらいのことを言われてたらしいですからね。それくらい会社としての機能してなかったわけだから、これはもうズッファが取り仕切るしかなかったわけですよ。

X　だから、いわゆる軟禁状態だよね。青山のビルがミャンマーの軍事政権下にみたいな感じに置かれていたんですよ（笑）。

ガンツ　ズッファ（UFC）とPFWWの関係というのは、ズッファのほうが明らかに力があって、ジェイミー・ポラック社長自体がズッファの弁護士さんだったわけじゃないですか。だから普通に考えると、ダナ・ホワイトが好き勝手に動かせそうなものなんですけど、榊原前代表がロレンゾ・フェティータに経営権を譲渡したとき、「PFWWは独立した会社であり、ズッファ社の社長であるダナ・ホワイトはPFWWの経営にタッチさせない」という契約を結ばせたらしいんですよ。だからダナとしたら、自分の手で『PRIDE』を展開したくてもできなかった。だから、これは結果論ですけど、もしダナにPFWWの株を持たせていたら、UFCと『PRIDE』の両方をやっていたかもしれないんですよね。

X　両輪をきれいに回していたかもしれない、と。

ガンツ　でも、ダナとしてはPFWWは自分が手を出せない会社だけど、『PRIDE』にはいい選手はたくさんいるから、ロレンゾオーナー傘下全体の利益のためにも、トップファイターを次々とUFCに契約していったという。



これまで『PRIDE』のスポークスマンのように、地上波問題や興行再開問題について語りまくってきたダナ・ホワイトUFC代表だが、今回のPFWW日本事務所閉鎖についてはノーコメントを貫いている。その裏にある意図は？

X　手っ取り早い方法を選択したってことね。

ガンツ　PFWWにはそれを止める力もないし、ジェイミー社長には『PRIDE』を開催する権限もじつはない。できることといったら、『PRIDE』の契約選手をUFCに斡旋して、選手を無駄にしないことぐらいなんですよ。

ジャン　だから郷野（聡寛）がPFWW経由でUFCと契約したことで、一部スポーツ紙は「PRIDE解体」って大騒ぎしましたけど、それ以前にもダン・ヘンダーソンなんかも同じかたちなんですよね。

X　日本人で第一号っていうだけだよね。

ジャン　だからPFWWとしたら、バックグラウンドチェックをやって、社内の体制を整えて、『PRIDE』を展開していこうと思っていたけれども、結局そこまでたどり着かなかったってことですよね。

X　志半ばにして全社員解雇。

ジャン「まだ始まってもねえよ!!」ってとこで終わってしまって。

X　ホント、『キッズリターン』だね。それでエンディングっていう。

ジャン　で、ファンの中にはズッファの声明文の中にあった「DSE元役員が非協力不足が原因」一文を受けて、旧経営陣を中心とした新イベント立ち上げのことを指しているんじゃないか？　と予想している人が多いようですけど。

X　その「DSE元役員が非協力的だった」一文がそのことを指しているんじゃないと思いますけど、今回の事務所閉鎖を受けて、動き始めてはいるという話ですけどね。

ジャン　でも、もし噂されるように大晦日にイベントをやるとしたら、問題は山積みも山積みですよ。

X　ボクが聞いたのは、旧PRIDEスタッフの多くは、最終的にはアメリカ側と一緒に『PRIDE』ができると信じていた部分があって、逆に裏切られたってことなんでしょうね。だから、もしイベントをやるとしたら、「やりたいから」というより、こうなった以上、「やらざるを得ないから」という感じになるんじゃないかと思います。

ジャン　そりゃそうですよ。『PRIDE』がなぜダメになったかといえば、地上波放送がなくなって、スポンサー収入も激減して、お金が回らなくなったからできなくなったわけですからね。もし、新しいイベントを立ち上げても、どうしても同じ問題はついてまわるわけで。

X　年末一発ぐらいだったら大丈夫だと思うんですよ、おそらく。

ジャン　でも、大晦日だけの打ち上げ花火なんて、それはあまり意味がないような……。だから〝閉鎖後〟の話として「やらざるを得ない」状況はわかるんですけど、〝閉鎖前〟の状況で、収益構造が組み立てられないのにそんなギャンブルをするかといえば、非常に現実的な話じゃないなってボクは思っていたんです。加藤元専務や佐伯さんの名前を出したりして騒

いでいたマスコミはよくわからなかったなあ。

ガンツ　どうしてこういう噂が出たかといえば、大晦日のさいまたスーパーアリーナを押さえているのが、主催会社であるDSEやPFWWではなく、加藤元専務が社長を務める『PRIDE』の制作会社だったということからでしょう。そして、ただ今回のことがきっかけでいろいろ動きが出てきたのは確実、と。

ジャン　具体的な行動という点では、10月15日に（株）ワールドビクトリーロードという会社が「総合格闘技に関する記者会見」を開催。この座談会をやっている時点では、どんな内容になるかわかりませんけど、Xさんは情報お持ちじゃないですか？

X　これはですね、いまの『PRIDE』が大山倍達総裁が亡くなられた直後の極真空手になる可能性もあるいうことです。

ガンツ　松井館長派、遺族派、支部長協議会派みたいな分裂が起こってもおかしくない、と（笑）。

X　だから、この記者会見には木下工務店の社長や、ドン・キホーテの社長、それからレスリング協会の福田会長が前面に出ていますけど、業界内ではJ－ROCK（吉田道場）が主とする組織だという意見で一致してますね。

ジャン　ドン・キホーテのドンペン君といえば、吉田道場ですからね。でも、PFWWは動かないからしびれを切らしただけで、分裂というニュアンスではないとボクは聞いてますけどね。

ガンツ　状況が状況だけにそう見えるのは致し方ないよね。吉田道場がイベントをやるかもしれないというのはもう、今年の夏ぐらいから噂になってましたから、それがついに動き出したということなんでしょう。



巨大資本を得てUFCに対抗する体力を得たとされる新生M-1との契約を決意したヒョードル。この動きは世界のMMA勢力分布図を塗り替えるとともに、日本マット界にも大きな影響を与えることになるのか？

10周年目の終焉！
“PRIDE孤児”の行方

いまの『PRIDE』は大山倍達総裁が亡くなった直後の極真のような状態ですよ

X　だからPFWW事務所の閉鎖がなかったとしても、遅かれ早かれ動き始めていたでしょうね。で、ビクトリー派が発表できる一番のセールスポイントは、木下工務店とドン・キホーテ、そしてレスリング協会という「後ろ盾」なんですよ。ところがここは絶対的に選手が足りない。いま抱えているのは、基本的に吉田道場の選手。しかも、カズ（中村和裕）や小見川道大はUFCと契約してしまったから、ヘタしたら吉田秀彦しかいない。

ガンツ　WOWOWはついてるけど、選手は前田日明しかいなかった、旗揚げ前のリングスみたいですね（笑）。

X　まさにそう！　だからリングスがオランダ勢やロシア勢を集めて、それから正道会館と提携したように、これから選手を集めなきゃいけない。だから、彼らはこれから元『PRIDE』の選手を取り込みに行くんじゃないでしょうか。しかし、元『PRIDE』の日本人選手の多くが、旧DSE派についているという現実がある。

ガンツ　ボクが聞いた情報では、現時点ではビクトリー派と旧DSE派はお互いが様子見をしているみたいですね。

X　しかしさ、客観的に見ると、大晦日のさいたまスーパーアリーナを押さえていて、興行のノウハウもある旧DSE派の存在は大きいですよね。加えて、かつての『PRIDE』を踏襲しているのは、旧DSE派だってみんな思っている。

ガンツ　でも、ファンが旧DSE派に求めているのは、あの『PRIDE』をそのまま復活させてほしいってことですよね？

X　そこが一番のジレンマですよ。『PRIDE』的なものを観たがっている人はたくさんいるけど、フジテレビが中継を打ち切って、ズッファにも切られた『PRIDE』というイメージを残しているのは、地上波やスポンサー獲得には得策とは限らない。

ジャン　それに大晦日独自開催に照準を絞るなら、イベントの体力をつけるだけの時間はちょっと足りないですよね。

X　だから、結局はどこかと組むことになるでしょうね。たとえば、ホントにウルトラC的に旧DSE派とFEGが組んだら、『Dynamite!!』をさいたまスーパーアリーナで行なうということもありえるわけですよ！

ジャン　確かに谷川さんが旧『PRIDE』で一番必要としているのは、一人一人の選手ではなくて、佐藤大輔さんを含めた〝PRIDEの世界観〟ですからね。

X　そうなれば、対戦カード的にも演出的にも素晴らしいものができるんじゃないですか？　ついに『Dynamite!!』も念願の佐藤大輔煽りVでできるわけですよ（笑）。

ガンツ　でも、旧DSE派の方々の性格を考えると、FEGの〝軍門に下る〟ようなかたちは死んでも避けそうな気もします（笑）。

ジャン　まあ、いろいろ話題になった挙げ句、結局『ハッスル』の大晦日たまア

鍵を握るのはヒョードルを獲得したM－1
旧DSE派との合体はあり得るのか？

リ開催になったりするんじゃないかと思ってるんですけど（笑）。

ガンツ　あと日本だけ見ていても、このマット界再編は見えてこないと思うんだよね。とにかく世界中が大きく動いているんで。まずは大きな鍵を握ると思われていたエメリヤーエンコ・ヒョードルが、UFCとは契約しないと決めたみたいだし。

X　その話はボクも聞いたけど、結局、自分のところのM－1でやるってことなんでしょ？

ガンツ　M－1はM－1なんですけど、巨大資本が入ってM－1が新会社になるらしいんですよ。そして「M－1グローバル」として、ロシアだけじゃなくて、アメリカや、そして日本でもやる考えがあるみたいです。

X　どういうふうに日本に入ってくるの？

ガンツ　それはどこかとジョイントするしかないでしょうね。

ジャン　ビクトリー派、旧DSE派、FEG、そこにさらにM－1も絡んでくるんだ（笑）。

X　それとも自分たちだけでやるのか……、やっぱり組むとしたらFEGなのかなあ。

ジャン　それはFEGもそういう意向があるってことですか？

X　意向はありますよ。自分たちが損しないかたちでヒョードルを使えるんであれば。もしかしたら、今頃テーブルに着いて交渉してるかもしれない（笑）。

ガンツ　あとUFCが来年、日本に来るという話もありますよね。

X　それは関係者から情報が入ってきました。来るというか、日本にUFCの〝受け皿〟が立ち上がるらしい。

ガンツ　ほう、立ち上がりますか！　そうなると、受け入れる日本側の組織はどこが母体になるんですか？

X　本来なら、PFWの日本オフィスになるはずだったんでしょうけど、こうなった以上、いまは皆目見当もつきません。すべてゼロからのスタートでしょう。ただ、UFCはいまのところどの派閥からも敵という認識を受けてますからね。〝受け皿〟になる団体は、これまでの関係を一切断ち切らないといけない。そこまでして〝受け皿〟になるのはリスキーだよなあ……。

ジャン　いやあ、グチャグチャしてますねぇ。あの2003年の大晦日並みに（笑）。

X　それぞれいろんな動きを見せてますよ。だから今年の大晦日なんかは、ヘタしたら2003年のように3つぐらいのイベントが行なわれているかもしれない。

ガンツ　でも、地上波は『Dynamite!!』だけで、あとはみんなスカパー！なんでしょうね（笑）。

X　でも、これで足の引っぱり合いなんかになったら、ホントに格闘技界のイメージはさらに悪くなりますよ。FEGも対岸の火事ではいられない。格闘技のイメージに直結するわけですから。

ジャン　へんな話、世間の矢面に立つFEGが一番ダメージを受ける可能性もありますよね。

X　だからね、FEGも前田SVのたわ言だけで謝ってる場合じゃないんだよ。

ジャン　そういえば、前田SVの話をするのを忘れてましたね（笑）。

X　もう忘れていいですよ。いまの格闘技界に起こっていることと比べたら、そのぐらい小さなことだから。彼は凄くスケールが小さいところで「ざまあみろ」と言ってるんですけど、いまはもっとスケールの大きな「ざまあみろ」を言ってる人が必ず世の中にいると思うから。人の聞こえないところで（笑）。

ジャン　こんなに新しい動きが出てきてる状況ですから、どんな可能性でもあるはずなのに、第二次リングス旗揚げだけは、多くの関係者が信用してないっていうのも凄いですよね（笑）。

X　いやいや、M－1とジョイントするかもしれません！

ガンツ　前田日明がヒョードル獲得！　それはウルトラCですね！（笑）。

X　でも、相当トボけた投資家だったらの話ですけど（笑）。でも、いまの格闘技界はホントに何が起こるかわかりませんから。もし週刊なり隔週の格闘技雑誌があったら、メチャクチャおもしろいことになってると思いますよ。



いまや年末の風物詩となった、"PRIDEの聖地" さいたまスーパーアリーナでの『男祭り』。今年の大晦日にここでイベントは開かれるのか？

ガンツ　『週刊ファイト』なんて『マット界舞台裏』のネタには事欠かないですよね。

X　でも完全に話題がプロレスじゃなくて格闘技。しかもワールドワイドなレベルで。

ジャン　この号の発売日の頃にはどうなってるかわからないから相関図は作りませんけど、大晦日騒動に多少なりとも首を突っ込んでいるのは、FEG、旧DSE、ビクトリー、M－1、DEEP……あと『ハッスル』か（笑）。

ガンツ　なんでだよ!!（笑）。

ジャン　これは〝閉鎖前〟の話ですけど、大晦日のたまアリは、昼は『ハッスル』、夜は『PRIDE』開催という噂もありましたよね。髙田総統劇場が終わったあとに、髙田本部長のふんどし暴れ太鼓があるという（笑）。

X　マジメな話、いろんな人間がいろんなところで相談をしてるんじゃないかと思う。「あいつはあっちに動きそうだけど、俺はどうしよう？」とか。

ジャン　いずれにしても、この号が発売される頃には大きな動きがありますかね。

X　もちろんあるでしょう！　でも、動きによってはもしかしたら、この座談会はもの凄くトンチンカンな話になっているかもしれない（笑）。

ジャン　そこが月刊誌のつらいところなんですよねぇ。でも、この問題を追うために、本誌次号を11月中旬頃に発売して、『kamipro Special』を11月30日に出して徹底的に追跡しますから！　ウチが『週刊ファイト』の役目をはたしますよォォォ！

X　くれぐれも休刊にならないように注意してください（笑）。

【07年10月12日／『kamipro』編集部にて収録】



レスリング協会、木下工務店、そしてドン・キホーテが合体!! ♪ドンドンドン!!

実力未知数の格闘新勢力は何をもたらすか!?
『日本総合格闘技協会』と『ワールドビクトリーロード』が発足!

「PRIDEの元スタッフ? 我々の訴えたいことに賛同していただける方で、なおかつ優秀な方であれば大歓迎です」

撮影／乾晋也

この〝格闘新勢力〟はマット界に何をもたらすか? そして、その〝実力〟はいかに――!?

〝PRIDE消滅〟から11日後の10月15日――、総合格闘技イベントを管理する任意団体「日本総合格闘技協会」と経営団体「株式会社ワールドビクトリーロード」(以下、WVR)が発足した。事前に記者会見のリリースがウェブ上に流失してしまったことで、ファンのあいだでは噂が噂を呼び、「PRIDEのイズムを受け継ぐプロモーションの発表か?」「吉田秀彦、五味隆典が登場する?」「なんと安田忠夫が出席(ドン・キホーテの安田会長違い)」などなど、直前までさまざまな憶測が飛び交っていた。

会見には多くの記者やテレビカメラも入り、大々的に開催。別掲のようなかつてないスケールのメンバーを揃えた日本総合格闘技協会は、総合格闘技を不透明性や〝黒いつながり〟を排除して公明正大に運営していくことになると意気込む。協会としての活動は、ルールの制定や選手の育成など多岐にわたるそうだ。

興行を手がけることになる株式会社ワールドビクトリーロード(WVR)社長・木下直哉氏は「現在、日本における総合が下火になっている。日本発祥の総合格闘技がこのままでは消えてしまう。数名の有志を募り協会を設立しました」と挨拶。このプロ興行については、イベント名は未定で10月末まで公募して決めたい、としている。

日本総合格闘技協会の会長を務める福田富昭会長(財団法人日本レスリング協会会長)は「日本に総合格闘技の協会がないわけですが、競技を確立するために協会を設立することになりました」と挨

これが“公明正大”な
格闘新勢力の役員構成だ!!

[日本総合格闘技協会]

会長	福田富昭	国際レスリング連盟(FILA)　副会長 (財)日本レスリング協会　会長
副会長	馳　浩	衆議院議員、元プロレスラー
副会長	安田隆夫	(株)ドン・キホーテ 代表取締役会長
理事長	高田裕司	(財)日本レスリング協会　専務理事
副理事長	木下直哉	(株)木下工務店　代表取締役社長
理事	具志堅用高	元WBA世界ライトフライ級チャンピオン
理事	富山英明	(財)日本レスリング協会　選手強化委員長
理事	七戸穣	(株)木下工務店　代表取締役
事務局長	七戸穣	
事務局長補佐	木名瀬重雄	全日本女子レスリング連盟　理事

[コミッション委員会]

コミッショナー	井上幸彦	元警視総監
副委員長	篠沢恭助	元大蔵省事務次官
副委員長	松浪健四郎	衆議院議員
委員	浅井和子	弁護士・前ガーナ全権特命大使
委員	大高時男	元内閣調査室室長
委員	古村澄一	元文部省初等中等教育局長
委員	原和雄	税理士・元日本橋税務署長
委員	日野正晴	元名古屋高等検察庁検事長
委員	福田富昭	国際レスリング連盟(FILA)副会長 (財)日本レスリング協会会長　(五十音順)

[株式会社ワールドビクトリーロード]

会社名	株式会社ワールドビクトリーロード
代表取締役社長	木下直哉


かつて『PRIDE』との協力関係も築いていた福田会長。ゆくゆくはMMAの五輪競技化を目指す。


興行面を管理する木下工務店の木下社長。「皆さんが予想している以上の選手を集めます」。


MMAの想いを熱く語りまくったドンキの安田会長！　我らが川村社長を彷彿させるエネルギッシュさだよ!!



イベント概要はまだ固まっていないが安田会長の熱意だけはとにかくガチ!!

拶。日本総合格闘技協会は、現在のところ法人格は得ておらず任意団体だというが、アジア大会などの国際的な大会に選手を送り込むためにJOCの準加盟団体になることを目指すことになる。

そして一人遅れて登壇した株式会社ドン・キホーテの安田隆夫会長がとにかく熱かった！「現在総合格闘技という競技はマイナーなスポーツと認識されているが、競技者やファンの数ではきわめてメジャー。NHKなどでは真剣勝負であるにもかかわらず取り上げられることがない!!」と熱く語り、さらに今回の協会設立に参加したことについては『PRIDE』というきわめて大きな団体がなくなったことで多くの選手が宙に浮いています。選手は大変な努力をしております。血と汗を流した努力の結晶が発表できないという不条理に陥っております。私は力のない正義は無力だと思います。流れる川に我が子が落ちた、それを見ていた母親が我が子を助けたいと思っても、母親に泳ぐ力がなければ助けることはできない。まあ、私はある意味では他人ですが、微力ながら力になれればと立ち上がりました」と独特の言い回しで説明。♪ドンドンドン!!

この会見では具体的な参戦選手、開催日時、会場、テレビ中継などについては「現段階で発表できる状態にはない」と一切発表がなかった。ドン・キホーテがスポンサードしてきた吉田道場勢の参戦は有力視されているが、この会見のプレスリリースのようにポロっと事前に漏れることもなく、近々発表される模様だ。選手については現在絶賛交渉中で、「イベントとしては素晴らしいものにしたい。皆さんが望む以上のものにしたい」（木下社長）とのこと。

また注目すべきは旧『PRIDE』のスタッフの受け入れについて聞かれた際の木下社長の以下の発言だろう。

「スタッフの方を引き継ぐというわけではなくて、当社の、また総合格闘技協会の訴えたいことに賛同していただける方で、なおかつ優秀な方であれば大歓迎で受け入れたいと思います」

ズバリ言えば、この会見では新たなイベントについての理念、方向性は言及されたが、具体性のある決定事項は何も発表されなかった。WVRや日本総合格闘技協会の〝実力〟はわからない。見えていないのである。

マット界関係者によれば、WVRの旗揚げイベントは「2月さいたまスーパーアリーナ開催」が濃厚だという。とすれば、このWVRや日本総合格闘技協会の設立は、DEEP佐伯代表の「大晦日はさいたまで」という発言、そして五味隆典の「大晦日にドリームマッチを期待してもらっていい」という発言とは、まったくリンクしていないということ？

いやいや、大晦日格闘技ウォーズに向けて大混乱5秒前のマット界だけに、急転直下なサプライズ、ミラクルドッキングはいつ起こってもおかしくない。マット界地殻変動をもたらす〝格闘シャッフル〟はまだまだ続く！



10.14「ダイヤモンド・キッズ・カレッジ」で

髙田道場代表・髙田延彦が『PRIDE』について語った!

「男の中の男たち、出てこいやーっ!?」このフレーズが、ずいぶん懐かしく感じられるようになってしまった昨今。『PRIDE』で、一時代を築いた髙田延彦はこの状況に何を思うのか!?　10月14日に品川区立総合体育館で開催された髙田道場主催「ダイヤモンド・キッズ・カレッジ」終了後の囲み取材で髙田がその胸中を激白した。

文／坂井ノブ　撮影／山口比佐夫

から0年と3日目の本音を囲み取材で激白!!

田 延 彦



『PRIDE.1』から10

高

10・11は私の中でしんみりと味わった今後については"思わせぶりなしの白紙"

『ダイヤモンド・キッズ・カレッジ』での高田延彦は、いつもテンションが高い。これまで何度かこの高田道場主催のイベントを取材しているが、子どもたちのテンションに引っぱられるように、コーチ陣もテンションがどんどん高くなっていく。

今回の「ダイヤモンド・キッズ・カレッジ」が行われたのは10月14日、つまり『PRIDE・1』が開催された『PRIDE』記念日と言うべき97年10月11日から丸10年と3日目にあたる。『PRIDE』休止以降、まったく再開の見通しが立たない中で、高田は「10月11日に何かセレモニーのようなものはできないか」と訴え続けたが、それもかなわぬまま、『PRIDE』日本事務所は閉鎖されてしまった。

ここでは、高田延彦がイベント後の囲み取材で記者陣の質問に答えたときの模様をお届けしたい。高田が今回の騒動をどのような心境で受け止めているのだろうか？

——今回、日本の事務所が閉鎖されてしまったのですが、率直な感想は？

高田　そういう匂いというか、雰囲気はあったんで。ただ、今回のことに関しては、たとえば、「来週あたりかな？」というような前触れや予兆はなくて、いきなりだったんでしょ？　よくわからないんだけど。ちょっと驚いたけど、「いずれこうなるのかな」といった感じはあった。ただ、それは私だけが特別に感じているわけではないので。ファンやマスコミも同じように情報がいってない。同じような感じで見ていた。それこそ（『PRIDE』の）元社員も知らなかったんだから。突然といえば、突然だね。

10周年目の終焉!
"PRIDE孤児"の行方

——元社員の方と接触したりとかは？

高田　（即答して）ない。元社員の人と話しても、何も始まらないしね。我々が団結することになっても、我々にはなんの力もない。決めるのは先方だから。（今回の件は）義理人情とは程遠いところにあるね。これを一つの結果として、受け止めざるを得ないということでしょう。

10月11日という記念すべき日に「なんらかのイベントを！」と訴え続けた高田。当然、頭の中にあったのは『PRIDE』ファンのことだろう。3月のロレンゾ・フェティータも参加した記者会見で、『PRIDE』の明るい未来（たとえば『PRIDE』vs UFCのMMAワールドシリーズなど）を自分の口から発信してしまった手前もあるだろう。ファンも、関係者も、それこそ高田本人も信じていた『PRIDE』の再開。だが、何一つ動く気配のないアメリカ側に、最も憤りを感じていたのは高田かもしれない。

——今回の騒動が起きたのは、高田さんがヒクソン（・グレイシー）と闘って、ちょうど10年目の直前というところでした。

高田　それは私の中でしんみりと味わって、10月11日を過ごした。でも、まあ、そういう（閉鎖になる）雰囲気がかけらもなかったわけではなかったので。そんな中で、さっと過ぎていった10・11だった。ま、もったいない話だけどね。

——今後、現存するほかの団体も含めて、新しいイベントに関わっていったりすることはありますか？

高田　いまの段階では、"思わせぶりなしの白紙"という回答だろうね。きれいな真っ白な白紙でしょう。あれだけの世界最高峰のイベントに10年間、携わってきて、やっぱり一度覚えた味覚を落とすことは、なかなか私の中ではできない。落とした中で携わっていくことが、できるのか？　できないのか？　という答えがない。その答えを出す作業はしてないけ

どね。それだけ、私の中で『PRIDE』は、いままでの私の人生にないほどの大きさで支配していた存在だった。格闘技に携わってりゃいいというものじゃない。

『PRIDE』によって大きく人生が変わってしまった人は多いが、髙田ほど劇的に変化したファイターはいないだろう。髙田vsヒクソン戦がすべての始まりとなって日本の総合格闘技の発展の礎となり、やがて多くの日本人がこの舞台に飛びだしていくことになった。

『PRIDE』から多くのスター選手が生まれたが、その中でも一、二を争う輝きを放っていたのが五味隆典だ。現在、その去就が最も注目される日本人ファイターである。小路晃、西島洋介、＼(^o^)／チエ、KUSHIDA、岩見谷智義といったDKCおなじみのコーチ陣の中に、五味が初めて加わった。自らを「五味ファン」とまで言いきる髙田は、いったいどんな言葉をかけたのだろうか？

――今日は、五味選手が来ていましたが？

髙田　昨日、「時間があれば、おいでよ」ってね。彼も（木口道場で）キッズを教えていたんで、前から「時間があれば顔を出します」っていう話をしていた。「時間が空いてりゃ、来るだろう」って、軽い気持ちでね。顔を見せてくれて、ありがたいよね。

――今後の相談を受けたりとかは？

髙田　ここまで時間が空いたなら、あわてずにいいコンディションを作って、気持ちを高めて、（05年の『PRIDEライト級GP』で）優勝したときと同じものを作り上げる、という（こと）。あとは、「五味隆典という男をしっかりと等身大で評価してくれるところが出るのを待て」と。あわてて、勢いでリングに向かうことがないように、と私は思ってます。いま、どこの団体も彼をほしがってるから。重いよね、彼にかかるプレッシャーは。どこの団体に出ても「ミスターPRIDE」として見られるし、そういうふうに団体側も打ち出すからね。重いものを背負って闘わなければならない、と思うので、あのときの五味を作り出せればいいな、と思います。

高田の五味を見つめる目線は優しい。







この日のエキシビションではKUSHIDAと＼(^o^)／チエがマットの上で闘ったのだが、そこになんと黄鬼蜘蛛が乱入!! あっという間に二人を蹴散らすと、次なる標的は髙田延彦に!? しかし、総統の友人である髙田延彦は現役時を彷彿とさせる鋭いローキックから"わがままなヒザ小僧"が炸裂!! 参加した子どもたちの喝采を浴びた。

以前から「ファイターの旬は短いから」と、かつて五味が示唆した『PRIDE』以外の団体への出撃についても「快く送り出してやりたい」と語ったことがある。上がるリングがない以上、それは当然とも言える選択だが、まったく先が見えない状況下でこうしたことを発言できるのは髙田延彦しかいない。それは、かつて『PRIDE』統括本部長という立場で、"顔"としてファンや選手や関係者の気持ちを代弁してきた髙田だからこそ言えたのだろう。

しかし、今回の事務所閉鎖とPRIDE FC WORLDWIDEから流れてきたプレスリリースによって、事実上、『PRIDE』は消滅してしまった。今回の騒動を受けて、髙田は「この状況で『PRIDE』統括本部長を名乗るのもおかしい。自分の中では（統括本部長の肩書きは）ない」と語った。『PRIDE』の"顔"として活躍していた髙田延彦は今後、どこへ向かうのだろうか？

この状況で『PRIDE』統括本部長を名乗るのもおかしい。自分の中では「ない」

次回の「DKC（ダイヤモンド・キッズ・カレッジ）」は12月9日!! 開催場所は東京・東久留米市立スポーツセンター



4歳から小学校6年生までを対象に、レスリングとボクシングを通じて格闘技の楽しさを知ってもらおうという趣旨でいままで6回行なわれてきた「DKC」。次回は12月に開催決定！　プロ選手のエキシビションもあり、保護者も楽しめるはず！　参加無料、見学自由なのでぜひ参加してみよう！
[問い合わせ] 髙田道場　TEL.03-5749-5030

髙田総統がついに激怒！「ロレンゾ！ 日本をナメるな！ コンノヤロォ〜」



10月10日、『ハッスル・ハウスvol・29』（後楽園ホール）で、髙田延彦の古くからの友人である髙田総統が激怒した。ちょうどこの日、日本事務所の閉鎖のプレスリリースが発表されたこともあり、髙田総統はバルコニーに登場するなり凄まじいテンションで「ロレンゾ！ 貴様、日本をナメるなよ！ コンノヤロォ〜！」と怒りを爆発させて、満員の観客から喝采を浴びた。『PRIDE』関係者がコメントを出すよりも先に、一番早く反応したのが髙田総統だったのだ。また、この日はオープニングの映像にも登場し「おまえら全員集まれ。全員解雇だ。20分以内に荷物をまとめて出ていけ。携帯電話も置いていくように」と、強烈なブラックジョークを炸裂させている。さすが全知全能のハッスルの支配者である。

五味隆典がDKC(ダイヤモンド・キッズ・カレッジ)に現われた"意味"を読む!!



囲み取材で日本人相手のドリームマッチ出陣を予告した五味は大晦日どこに上がるのか!?

五味隆典の"祭り"はこれからだ!!「ダイヤモンド・キッズ・カレッジ」にサプライズ・コーチとして登場した五味。以前から噂される『Dynamite!!』参戦に加えて、海外サイトでは『ワールドビクトリーロード』参戦が一方的に書きたてられているが、突然のこのアクションは、いったいどんな意味が込められているのか!? イベント終了後の囲み取材で記者陣の質問に五味が答えた!!

——今日、ここに来たのは?

五味 ジムの生徒に、このイズムを伝えていきたいな、と。僕自身が木口道場に入った頃から子どもと関わりながら、こだわってやってきたんで、他人との練習というかそういったものより得ることが凄くあるんです。そういった感性を伝えていきたいですね。

——『PRIDE』の"消滅"について。

五味 わりと僕は早い段階からね、気持ちの整理がついていましたからね……。やっぱり、力の抜ける部分もあります。日本に一つ傷がついたわけですから。残念な部分もありますけど、そんな状況になっても強く生きていく、と。

——次の試合は?

五味 もちろん、僕も大晦日はどこかの舞台でやるでしょう。ドリームマッチをね、期待してもらっていいんで。

——ドリームマッチの相手は日本人か?

五味 そうじゃないとおもしろくないでしょう! 若い世代が続くようなドリームマッチを数年のうちに何試合かやりたいですね。

——FEGの谷川さんが五味さんと魔裟斗選手の試合を観たいと言ってました。

五味 あ~、なるほど。(苦笑しながら)まぁ、ありがたいですけど。ありがたいですけど、それも違うかなって。僕はやっぱり、総合格闘技の人間だから。

——新団体出場のウワサもありますが。

五味 いまどういう状況なのか、わからないですね。僕ができることはどんな試合も出れるような体調を作っていく、と。

——大晦日開催を予定しているのは『Dynamite!!』だけ。

五味 あと(年末では)UFCがありますね。

——闘いたい相手というのはいますか?

五味 (しばらく考え込んで)……まぁ、そのうち言いますよ、ハイ(笑)。

——大晦日以降は?

五味 まずは今年のモヤモヤしたのを、バーンとできるような試合をしないとね。ジムの子たちもそうですけど、自分より強い選手と向き合った瞬間に、自分の中がスッキリするんですよね。やっぱり男は闘って生きていくし、ファイターは闘わなきゃ話にならないですね。そんな感じです。


五味は子どもたちにレスリングやボクシングを優しく指導。リング上では観られない柔らかい表情が印象的だった。

大晦日、日本人、総合格闘技、ドリームマッチ。五味隆典が挙げたこれらのキーワードから推測される舞台、相手とは——。答えはもうすぐ出る!! ……はずです。

消えたPRIDE



©GBR

電撃解散の真相
徹底追跡ドキュメント

構成／上杉SV

社員たちは私物を整理して20分で事務所から退去するよう指示された

「PRIDE」10周年目直前の10月4日、マット界に衝撃が走った——。PRIDE FC WORLDWIDEによる日本支社の全社員解雇及び事務所閉鎖というショッキングなニュース。もともと何人かの社員が解雇されるのでは？ というウワサは流れていたが、まさか、ここまで大がかりな決定が下されるとは！ いったい『PRIDE』に何があったのか？ 本誌は、その真相を追求するべく、今回の解散命令を出したPRIDE FC WORLDWIDEジェイミー・ポラック社長を追跡することにした。ここでは、事実を整理しながら、我々の取材の経過を報告させていただきたい。

10月4日(木)

10月11日の『PRIDE』10周年記念日を1週間後に控えたこの日の午前10時、都内・表参道にあるPRIDE FC WORLDWIDEの事務所にて会議が行なわれ、国際電話を通じて、ジェイミー・ポラック社長が全社員20人に事務所の閉鎖と解雇を通告。ロレンゾ・フェティータ新オーナーに経営権を譲渡して以降、再開を目指していた『PRIDE』は、事実上、日本での活動に終止符を打つことになったのだ。

現場に立ち会った社員に聞いたところ、その会議の時間はわずか10分……。呆然とする社員たちは、ポラック社長の代理人や弁護士が立ち会う中、私物を整理し、会社から支給されていた携帯電話やパソコンなどを置いて20分で事務所から退去するよう指示されたという。事務所は封鎖され、『PRIDE』のポスターやフィギュアが飾られていた1階壁面のショーケースの中は空っぽに。後日、『PRIDE』のロゴも取り外された。『PRIDE』の痕跡はすべて消されたわけだ。

このニュースは、『Yahoo!』もトップニュースとして扱うなど、格闘技ファンのみならず世間にも大きなインパクトを与えることになった。

アメリカ本社側から社員に対して解雇についての説明はなく、「質問はメールで受け付ける」とだけ伝えられたとのこと。これを受け社員たちの一部は、社屋脇で“青空会見”を開催。公式サイトでの報告もできない事態に、元広報スタッフは「ファン、関係者の方に説明もできないまま、このような事態になってしまって申し訳ない。私たちを支えてくださった方々を突然裏切るような米国首脳陣のやり方に憤りを感じています」と無念さを滲ませながら、集まった報道陣にコメントを残す。なお一部では、社員の契約は翌年5月までであり、それまでの給料は支払われるとの報道もなされた。

一方、契約選手たちへの連絡もアメリカ本社側からはなく、選手たちも戸惑うことに。吉田秀彦はブログで「解散という突然の知らせにただただ驚いている。これまで『PRIDE』再開を信じていただけに、残念で仕方がない」と語った。



数日前までPRIDE FC WORLDWIDEが入っていた北青山の一等地にそびえ立つビル。日本事務所が使用していた3Fのフロアは封鎖され、看板が外されていた。

10月5日(金)

“解散騒動”から一夜明けた5日、本誌はすぐさま米国滞在中のポラック社長にコンタクトすることに。“解散命令”の真相を知るためには、辞令を発した本人に確認するのが一番だ。

以前、本誌の発行元・エンターブレインの松林貴が『UFC74』ラスベガス大会で、ポラック社長と名刺交換していたことを思い出し、ポラック社長の携帯番号をゲット！ さっそく、遠慮なしに何度も何度もコールしまくる。だが、捕まらない。この騒ぎの直後では、しばらく捕まらないのもムリはない。しかし午前10時、ついにポラック社長が電話に応対。もしかすると、うっかり電話をとってしまったのかもしれない。すかさず取材である旨を告げ、矢継ぎ早に質問を投げかけるが、ポラック社長は「広報を通じてでなければ、私は何も言うことができない」との返答を繰り返すばかりで、ラチが開かない（ポラック社長の対応は、まったくもってあたりまえの正しい対応だが）。

ここでポラック社長の言う“広報”とは、当然のことながら、PRIDE FC WORLDWIDEの広報ではなく、UFCを運営するズッファ社の広報のこと。そこで、そのズッファ社の広報担当者に電話をかける。何度もかけるがつながらない。しかし、その後、ポラック社長がその広報担当者に連絡を入れたことで、ついにコンタクトをとることに成功した。ポラック社長のコメントがほしい旨を告げると、「（現地・米太平洋時間の）今晩か、もし間に合わなければ、明日の午前中には、PRIDE FC WORLDWIDEの件についてのプレスリリースを配布します」との回答。日本のメディアを含めて、すでに多くの問い合わせが来ているとのことで、対応に忙殺されているらしい。

また驚くことに、この電話の直前に、

©乾晋也


リングス時代に選手を『PRIDE』に引き抜かれたと主張する前田は、『PRIDE』の解散に対してファン・関係者のシンパシーが集まる中、一人、暴言三昧。FEG関係者を大慌てさせることに。さすが兄さん!!

©平工幸雄



結果的に4月のDSE体制最終興行が、そのまま最後の大会となってしまった『PRIDE』。仮に、今後米国側の主導で大会が開催されても、スタッフが入れ替わる以上、それはかつての『PRIDE』とは性質が異なることになるかもしれない。

ヴァンダレイ・シウバがズッファ社に来ていたとのこと。"解散"のニュースに本社まで駆けつけてきたのだろうか? と思ったが、そうではなく、ヴァンダレイが取材を受けた本誌『kamipro Special 2007 AUTUMN』を受け取りに来ていたとのことだった。広報担当者は「ヴァンダレイは気に入ってたわ」と呑気に笑う。しかし一転、「ちゃんと取材の手順を踏んでね」とポラック社長に直接連絡したことをたしなめられてしまった。

なお、この日、DSE体制時に『PRIDE』に協力していた佐伯繁DEEP代表が「第一優先が『PRIDE』でしたから、再開を待つあいだに動くということはしてこなかった。ただ、こうして結論が出たことによって僕はこれから動きます」と新イベントへの参加を匂わせるコメントを発表。

また『PRIDE』と競い合ってきた谷川貞治FEG代表は「こういう展開を予測していなかったわけではないですが、ファンの気持ちを考えると、"なんで『PRIDE』を買ったの?"という単純な疑問が残ります。格闘技はファンあってのビジネス。たとえどんな事情があろうが、『PRIDE』を壊した事実は大きいですね」とオーナーのロレンゾ・フェティータ氏を批判。また「ファンの居場所がなくなるのは避けたい」とマーケットの縮小を危惧した。

その一方で、前田日明HERO'Sスーパーバイザーはこの日、都内で行なわれた『HERO'S』韓国大会の記者会見で『PRIDE』について質問されると、「因果応報だ。契約中の選手を引き抜くという、自分たちがやってきたことをUFCからやられたんだ」と発言。さらに「ざまあみろ、『PRIDE』」と言い放って会見場をあとにした。FEGは当日夜、谷川氏名義でこの発言について謝罪文を発表。早急に対応するとのことだったが、その後も、本誌締め切り時点(10月12日現在)で前田SVからの謝罪文はない。

10月6日(土)

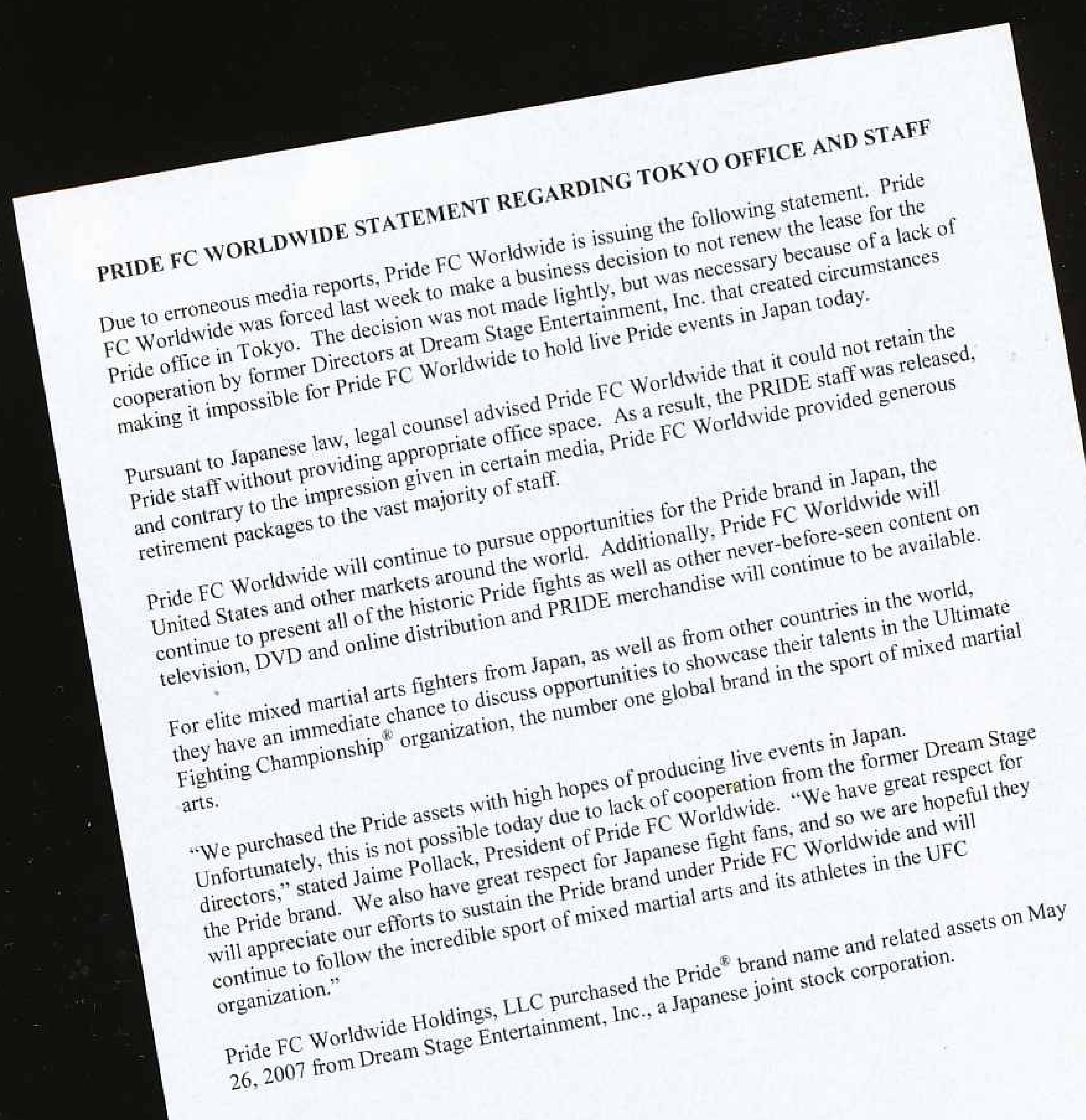
朝からパソコンの前で待機するが、この日の午後になっても従業員解雇及び事務所閉鎖に関するプレスリリースは届かず。逆に、関係各所から「リリースはまだか?」といった問い合わせが編集部に届くようになる。ここはズッファ社の日本支社じゃねぇ!「もしかして、先に海外で発表されたりしてないか?」などと不安になり、『MMA WEEKLY』のスコット・ピーターソンらに電話をかけまくるも、何も得られず。スコットは「UFCは大会前でそれどころじゃない。日本のことなんかにかまってられない」と素っ気ない。バカヤロー! こっちでは一大事なんだ。そうこうするうちに、ズッファ社の広報担当者から「来週の月曜日にプレスリリースを送ります」との連絡が。現地で月曜日ということは、日本時間の火曜日の午前中までに公式見解が示されるということ。ファン、マスコミはしばらく待たされることになった。

10月9日(火)

当初の声明文発表予定日から、週をまたいだ、この日。午前中にはリリースが発表される予定だったが、午後になっても音沙汰はなし。広報担当者に問い合わせたところ、「現在、プレスリリースを制作中。まもなく発表します」とのこと。「いま出ます!!」を連呼するソバ屋の出前じゃないんだから! "PRIDE解散"の真相は、いったい何か? ファン、マスコミ、マット界関係者が固唾を飲んで公式発表を待ったが、結局、この日も何も発表されず、またしても、肩透かしを食うことに。ホントに発表するのか? 編集部に届くのは「リリースはまだか?」という関係者の問い合わせだけ。

10月10日(水)

"解散の真相"は迷宮入り!? 発表期限がたびたび遅れたことから、「このまま、アメリカ本社からの声明文は発表されないだろう」という空気が色濃くなった編


PRIDE FC WORLDWIDE STATEMENT REGARDING TOKYO OFFICE AND STAFF

Due to erroneous media reports, Pride FC Worldwide is issuing the following statement. Pride FC Worldwide was forced last week to make a business decision to not renew the lease for the Pride office in Tokyo. The decision was not made lightly, but was necessary because of a lack of cooperation by former Directors at Dream Stage Entertainment, Inc. that created circumstances making it impossible for Pride FC Worldwide to hold live Pride events in Japan today.

Pursuant to Japanese law, legal counsel advised Pride FC Worldwide that it could not retain the Pride staff without providing appropriate office space. As a result, the PRIDE staff was released, and contrary to the impression given in certain media, Pride FC Worldwide provided generous retirement packages to the vast majority of staff.

Pride FC Worldwide will continue to pursue opportunities for the Pride brand in Japan, the United States and other markets around the world. Additionally, Pride FC Worldwide will continue to present all of the historic Pride fights as well as other never-before-seen content on television, DVD and online distribution and PRIDE merchandise will continue to be available.

For elite mixed martial arts fighters from Japan, as well as from other countries in the world, they have an immediate chance to discuss opportunities to showcase their talents in the Ultimate Fighting Championship® organization, the number one global brand in the sport of mixed martial arts.

"We purchased the Pride assets with high hopes of producing live events in Japan. Unfortunately, this is not possible today due to lack of cooperation from the former Dream Stage directors," stated Jaime Pollack, President of Pride FC Worldwide. "We have great respect for the Pride brand. We also have great respect for Japanese fight fans, and so we are hopeful they will appreciate our efforts to sustain the Pride brand under Pride FC Worldwide and will continue to follow the incredible sport of mixed martial arts and its athletes in the UFC organization."

Pride FC Worldwide Holdings, LLC purchased the Pride® brand name and related assets on May 26, 2007 from Dream Stage Entertainment, Inc., a Japanese joint stock corporation.

翻訳されたものが報道各社に流される前に、米国本社から編集部に送られてきた英文のリリース。ファンの感情を配慮した表現が使われていた。

ファイターたちはUFCとすぐにでも交渉する機会を持つことができます

©平工幸雄



クールな印象を保ち続けたロレンゾ・フェティータUFC&『PRIDE』オーナー。髙田総統から批判を受けることになったが、はたして実際にはどこまで経営に参画していたのだろうか？

集部。もう半分あきらめかけたそのとき！　なんと、ついにリリースが送られてきた！　午前10時、アメリカ本社から英文のリリースが編集部に。さっそく翻訳作業にとりかかる。テーマがテーマだけに、慎重を期して訳す。さらに午後2時にはPRIDE FC WORLDWIDEが広報業務契約を結ぶ日本のPR会社からも日本語訳のリリースが流されてきた。

報道関係各位

PRIDE FC WORLDWIDEの東京事務所および社員について

PRIDE FC WORLDWIDE（以下、弊社）は、表題の件に関し、いくつかのメディアにおいて誤った報道が見受けられるため、以下の声明を発表いたします。

弊社は先週、東京事務所の賃貸借契約を更新しないという経営的判断をやむを得ず下すことに至りました。かかる決定は軽々しく下されたものではありませんが、しかし、それはDSEの元役員たちの協力が得られず、弊社が現在、日本でイベントを開催することが不可能となったため、必要に迫られた判断でした。

日本の法令の下、弊社は顧問弁護士より、適切な事務所スペースなくして社員を雇い続けることは困難であるとの助言を受けました。その結果として、社員は職を解かれましたが、しかし一部のメディアで報じられている内容とは反し、弊社は大半の社員に対して、充分な退職金を支払いました。

弊社は今後も日本、アメリカ、そして世界中において、『PRIDE』ブランドを展開する機会を追求してまいります。そして今後も、これまでの歴史に残る『PRIDE』の試合や未公開映像をテレビやDVD、またはオンライン配信などで提供し、『PRIDE』関連商品の販売も継続してまいります。

日本にいる優れたファイターたちについては、他の世界中のファイターたちと同様、MMAのナンバーワン・グローバル・ブランドであるUFCとすぐにでも交渉する機会を持つことができます。

▼ジェイミー・ポラック社長のコメント

「我々は日本でライブイベントを行なうという大きな希望を持って『PRIDE』の資産を購入しましたが、しかし残念ながら、DSEの元役員たちの協力を得ることができず、現在、イベントを開催することができません。

我々は、この『PRIDE』というブランドをリスペクトしています。また、『PRIDE』を愛する日本のファンに対しても尊敬の念を抱いております。我々は、ファンの皆様が『PRIDE』ブランドを維持しようとする弊社の取り組みを理解してくださり、これまでと同じように、UFCの下にあっても、MMAという素晴らしいスポーツと、そこで闘うアスリートたちを応援して、ともに歩み続けてくださることを願っています」

●

ポラック社長が言う〝DSEの元役員〟が誰を指すのかはわからないが、この日、佐伯繁DEEP代表は「12月31日は埼玉にいるんじゃないかな。そこで年を越そうかなと思います」と衝撃発言！　元DSE関係者が当日のさいたまスーパーアリーナを押さえていること、また恒例となっていた年越し興行が開催されるようなことをほのめかした。

また髙田延彦PRIDE統括本部長の友人、髙田総統は後楽園ホールで開催された『ハッスル・ハウスvol・29』のオープニングで「おまえら全員解雇だ。20分以内に私物をまとめて立ち去れ！」というパロディを披露。「こんなこと言っても虚しいだけだ」と言いつつも、エンディングでは、バルコニーから「ロレンゾ！　日本をナメるな!!」と怒りを爆発させた。日本反撃の狼煙は上がるのか？

10月12日(金)

今回のPRIDE FC WORLDWIDE日本事務所閉鎖について、ダナ・ホワイトUFC代表はどう考えているのか？　『UFC77』のプロモーションのため、カンファレンス・コール（電話による記者会見）にダナ・ホワイト代表が出席する情報を入手した我々は、その見解を聞くべく、この日、そのカンファレンス・コールに参加した。

しかし、ダナ・ホワイト代表は『PRIDE』関連の質問に対して「『UFC77』以外に関する質問は受けない」と回答を拒否！　ん？　ちょっと待て！　ダナ・ホワイト代表はこれまで、大会前のカンファレンス・コールにおいてたびたび、『PRIDE』について好き勝手に発言していたはずなのに。今回の『PRIDE』日本事務所閉鎖問題については、一転して口を閉ざした格好となった。

とにかく事情はどうあれ、ファン不在のまま進んだ今回の〝解散劇〟。本誌の締め切りである10月12日の時点で今回の騒動に対する『PRIDE』から日本のファンへの充分な説明はなく、いまとなっては『PRIDE』の存在がかすかに息づく、その公式サイトにも声明文すらアップされていない。そして、そのトップページには、ミノワマンの『CMAフェスティバル』参戦のニュースがどこかもの悲しく掲載されているのであった。


M-1
M-1

ヒョードル、ついに決断！
UFCからのオファーを拒否!!

皇帝の選択は

ロシア巨大資本イベント

新生M-1だった！

ロシア、アメリカ、そして日本にも進出の噂
“夢の続き”はこれなのか!?

文／堀江ガンツ　写真協力／レッドデビル

皇帝、ついに動く！

今年3月にロレンゾ・フェティータが『PRIDE』を買収。『PRIDE』のトップファイターが次々とUFCと契約していく中、最もその去就が注目されていたエメリヤーエンコ・ヒョードルがついに新たな契約を結ぶ決断をしたという情報が入ってきた。

この半年間、UFCをはじめ、『HERO'S』、ボードッグ、さらにNBAダラス・マーベリックスのオーナー、マーク・キューバン氏といった大富豪など、世界中のMMAイベントがヒョードル獲得に次々と名乗りを挙げ、皇帝争奪戦の様相を呈していた。それでも〝大本命〟はもちろん業界の盟主UFCだと思われていたが、最終的にヒョードルが選んだのは、意外にもロシアのMMAイベント、M―1だった。

M―1といえば、ヒョードルが所属するチーム、レッドデビルが主宰する格闘技イベント。今年4月には、ヒョードルvsマッド・リンドランドをメインに据えて、ボードッグと共催でロシアでビッグイベントを開催。プーチン大統領が来場して話題になったことは記憶に新しい。

では、ヒョードルは自分の所属チームのイベントに〝残留〟しただけなのかというと、それは違う。これまではレッドデビルが主催する一イベントにすぎなかったM―1だが、このたびアメリカのエンターテインメント専門の投資会社が資本参加。新会社として大量の資本投入を行ない、潤沢な資金を持った新生M―1として再スタートを切ることになったようなのだ。そういった背景もあって、今回のヒョードル獲得につながったということだろう。

対するUFCは金銭的には満足いく額を提示したようだが、独占契約にこだわる姿勢や、主催者側に有利な条項が含まれていたことがネックになったようだ。また、ヒョードルはオクタゴンではなく、リングでの闘いを希望したとも伝えられている。そういった諸々の条件により、最終的にはM―1がヒョードル争奪戦に勝利したかたちだ。



今年４月14日、M-1&ボードッグ共催大会でマッド・リンドランドを破ったヒョードル。新生M-1では誰と闘うのか？ランディ・クートゥアー戦がここで実現する可能性もある？

いずれにしても、今回のヒョードル獲得失敗はUFCにとってあまりにも痛い。ヒョードルのアメリカでの知名度を考えると直接的な収益に響くわけではないが、世界中のMMAファンや関係者の多くが〝世界最強〟と認めるヒョードルがいないことで、UFCヘビー級戦線が事実上の〝ナンバー1 2争い〟になってしまうのだ。

しかも、現UFCヘビー級王者ランディ・クートゥアーが、今回の件を受けて、「ヒョードルと闘えないのなら、MMAで自分が証明すべきことはもう何も残っていない」として、UFCを電撃退団してしまった。これにてUFCでの〝ヘビー級頂上対決〟は完全に消滅。〝ミスターUFC〟ともいえるランディ・クートゥアーの退団によって、UFCの勢いが翳りを見せることも充分考えられる。ヒョードルの決断は、MMAの勢力分布図をさらに激変させる可能性を秘めているのだ。

一方、新生M―1はロシアだけでなく、アメリカ、さらに日本での大会も計画。旗揚げは来年2月にアメリカ（カリフォルニア州が有力）で予定しているようだが、早ければ年末にも大会を開く可能性があるという。

ということは、ヒョードルの試合が日本で観られる可能性が出てきたということ。また、ヒョードルとレッドデビルのワジム代表は旧『PRIDE』のハード面を高く評価していただけに、M―1日本進出の際、旧DSEスタッフたちと共同でイベントを開催するということも考えられない話ではない。もし、それが実現すれば、ハード面、ソフト面ともに、かつての『PRIDE』に迫るようなイベントを開催することも可能に思えるが……はたしてどうなるか。

いずれにしても〝皇帝〟ヒョードルを擁するM―1が、世界のMMAにとって台風の目になることは間違いなさそうだ。

なお、今回のヒョードルM―1参戦のニュースは、10月12日現在、まだ正式にアナウンスはされていない。今月中にも開かれるという記者会見に注目だ。

今回、吉田の取材を行なったのは、アメリカの『ＰＲＩＤＥ ＦＣ ＷＯＲＬＤ ＷＩＤＥ』本社から"ＰＲＩＤＥ消滅"に関する説明文が届いた10月10日。

別ページで紹介している（株）ワールドビクトリーロードの会見内容は、このページの締め切りの関係上、わからないのだが、吉田の所属するＪ−ＲＯＣＫがなんらかのかたちで関わっているような気がする。そんな微妙な時期の吉田をゲッツ！……じゃなくてキャッチし、たっぷりと話を聞いてみた。吉田秀彦はどこへ行く？

――いま、日本格闘技界で一番動向が注目されている吉田さんですが……。

吉田　（さえぎって）いやいや、あんまり注目されてないでしょ（笑）。

――そんなことないですよ。早速ですが、数日前、『ＰＲＩＤＥ ＦＣ ＷＯＲＬＤ ＷＩＤＥ』（以下・『ＰＲＩＤＥ』）の日本事務所が閉鎖され、スタッフが全員解雇というかたちになってしまったわけですけれど。

吉田　非常にアメリカ的ですね。

――その後、アメリカの『ＰＲＩＤＥ』サイドから今回の件について声明文が発表されるはずが、しばらく音沙汰がなくて、今日やっと発表されたんです。

吉田　なんて書いてました？

――簡単に説明すると、事務所の閉鎖については、ＤＳＥの元役員たちの協力が得られず、日本でイベントを開催することが不可能となったため、事務所の賃貸借契約を更新しないという判断をしたとのことで。ただ、全スタッフ一斉解雇で、しかも20分以内に事務所を出て行け、みたいな一部の報道に対しては「弊社は大半の社員に対して、充分な退職金を支払いました」と説明してました。

吉田　退職金って、それは選手にも与えるのかなあ？

――どうなんでしょうね。

吉田　ＤＳＥと契約してる人たちは、そのあいだ無職だったわけじゃないですか。その保証もしてくれるんですかね？

――選手に退職金が出るのかはわかりませんが、とりあえず、『ＰＲＩＤＥ』が日本で開催される可能性はなくなったみたいで。

吉田　でも、『ＰＲＩＤＥ』っていう名前は使えるんですかね？

――アメリカの本社が権利を持ってるんで、向こうサイドにやる気があるんであれば、使えるんでしょうけども、たとえば『ＰＲＩＤＥ』の元スタッフが、同じ名前を使ってやるというのは無理でしょうね。

吉田　ほかの会社が『ＰＲＩＤＥ』って大会を立ち上げるのは？

――それも現実的には難しいと思います。

吉田　じゃあ、"プライド"じゃなくて"プライト"にしたら？（笑）。

――それは問題ないかもしれませんが、イメージ的によろしくないかもしれません（笑）。

吉田　そうだよな（笑）。

――それだけ、『ＰＲＩＤＥ』というイベントや名前に対して思い入れがあったと？

吉田　あります、あります。ファンもたぶん思い入れあると思うし。

――そうですよね。"ＰＲＩＤＥファン"って、いまだに多いですからね。

吉田　でも、やろうと思っても『ＰＲＩＤＥ』っていう大会はもうできないじゃないですか。そうなると、どうなんですかね？

――『ＰＲＩＤＥ』の再開をずっと待っていたファンは多いと思うんですけど、現実的に『ＰＲＩＤＥ』という大会が行なわれる可能性はなくなったということを認識しなければいけないでしょうね。

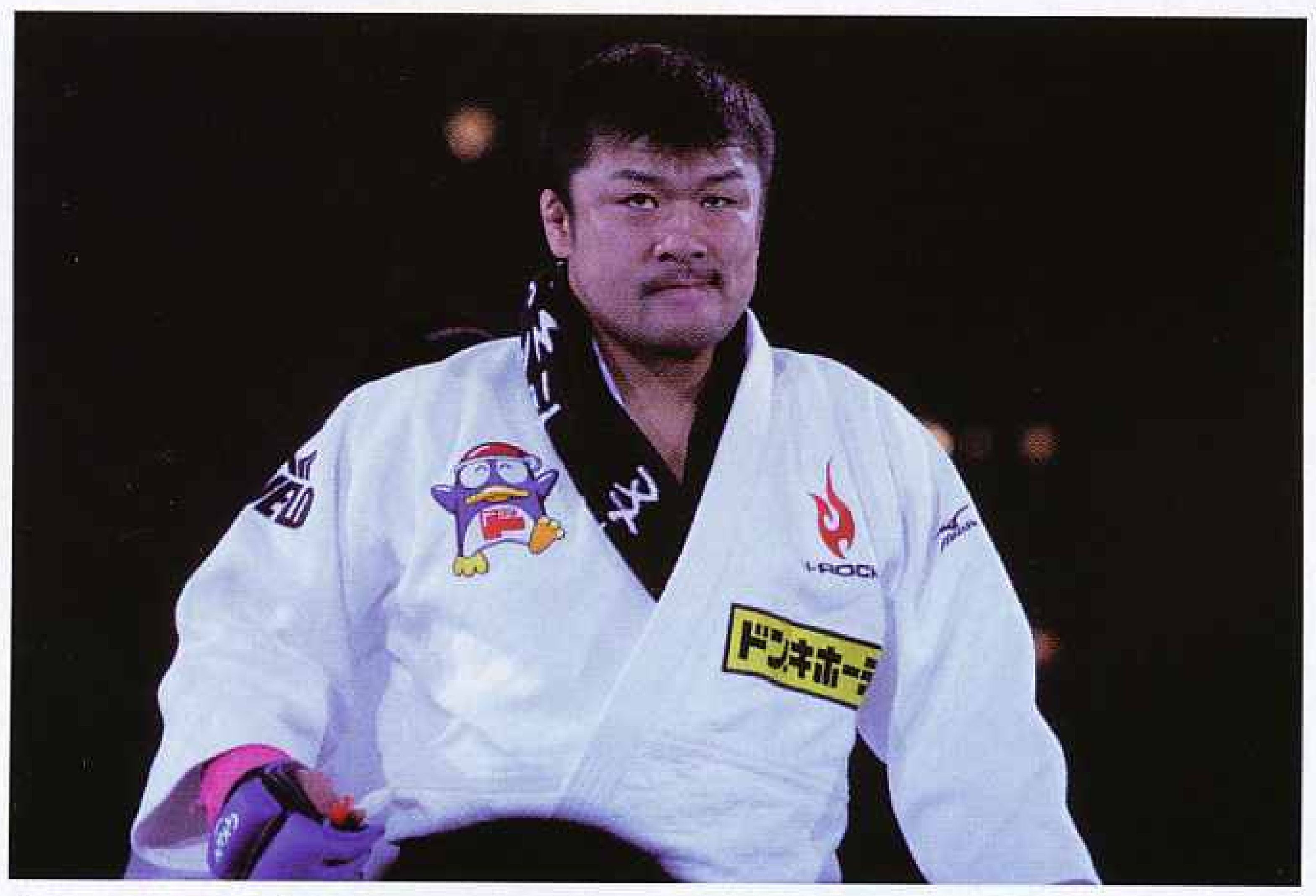
吉田　それは選手もそうですね。

――吉田さんも再開を待っていた一人だと思うんですが、9月の段階で「闘う場がなければ自分の戦場を考えなければいけない」みたいな発言に変わってきましたよね。

吉田　その時点では、海外も視野に置きつつ、日本を視野に入れて、みたいな感じで。

――"ＰＲＩＤＥ消滅"後は「日本の格闘技の火を消したくない」ということで、主戦場を国内にするという報道もありましたが。

吉田　それで盛り上がればね。いまは、いろんなことがあって、日本の格闘技の人気



"PRIDE消滅"を受け、その動向が注目されているのが"柔道王"吉田秀彦である。昨年大晦日の『男祭り』でのジェームス・トンプソン戦以来、試合から遠ざかっている吉田は、長らく『PRIDE』再開待ちのスタンスを取っていたが、しびれを切らしたか、9月には「もう待てない」と他団体参戦も視野に入れていることを表明。はたして、吉田が次に上がるリングとは『Dynamite!!』か!?　それとも新たなイベントなのか!?

聞き手／阿修羅チョロ　撮影／乾晋也

"PRIDE消滅"を受け、柔道王が衝撃プランを告白！

田秀彦


よし！　ドンキの社長にお願いして
さいたまスーパーアリーナを買ってもらおう！（笑）
吉



吉田の『PRIDE』ラストマッチは昨年大晦日の『男祭り』でのジェームス・トンプソン戦。大会直前でのカード決定となったこの試合は、20kgの体重差も響いたか、トンプソンとの打撃戦の末、TKO負けという結果に。次の相手は誰なんだ!?

カズのヘアスタイル？　あれね、ホトちゃん（蛍原徹）目指してるらしいよ（笑）

Hidehiko Yoshida

が昔より落ちてるじゃないですか。

――一連の『PRIDE』の騒動もそうですし、秋山（成勲）さんの件もありましたし、いまはちょっとイメージが悪いですよね。

吉田　だからまた違ったかたちでやっていくのが一番かなって。まあ、それを誰がやるかっていう問題があるんだけど。どうだろう？　DEEPがデカくなるのかなあ？

――それは佐伯さん次第でしょうね（笑）。たとえば一部報道で出てますが、吉田さんの所属するJ－ROCKが『PRIDE』の元スタッフとかと協力して、新たなイベントを立ち上げるんじゃないかって話もチラホラ聞こえてきますが。

吉田　どうなんですかねぇ。まだそこまでは考えてないですね。

――道場のほうは順調に増えていってますが、吉田さん的には吉田道場で大会を開きたいという考えはないんですか？

吉田　いや～、大会をやるには、いろんなことが絡むんで、そう簡単にできるもんじゃないじゃないですか。あんまりそこには興味がないですね。僕は経営者の器じゃないというか、現場の人間なんで。そういうのは人に任せてるし、なるべく耳に入らないようにしてもらってるんで。

――そうなんですか。そういえば、同じ柔道出身の秋山さんも復帰が決まりましたね。

吉田　それはね、嬉しいことだと思いますよ。『PRIDE』じゃないけど、やっぱりイメージが崩れたものを立て直すのは難しいと思うんで、少しずつでも頑張ってもらって、いままでのものを取り返してもらえればいいんじゃないですか。

――秋山さんも吉田さんと同じで昨年の大晦日以来の試合なんですけど、無期限出場停止の秋山さんのほうが早く試合が決まってしまったわけですけど（笑）。

吉田　そう言われるとそうだよなぁ（笑）。

――年内もあと3カ月もないわけですが、やっぱり選手として早く試合がしたいっていう気持ちは当然……。

吉田　（さえぎって）やりたいっていうか、大会がなんかできたり、オファーがあったら当然考えますし。去年みたいにね、急に「やれ」って言われてもできないからね。

――去年は急なオファーで、しかも超ヘビー級が相手でしたからね（笑）。

吉田　そうそう（苦笑）。まあでも、ここまで来たらないでしょ。だから、今年はゆっくりと年越しそばでも食いながら『紅白』でも観ようかなって（笑）。

――いやいや（笑）。『PRIDE』がなくなったら、当然『Dynamite!!』からもオファーがあるんじゃないですか。

吉田　あったらあったで考えますけど。いまは、整理がついてないところもあるんで、あんまりやる気もしないですね。何がどうなってるのかもちょっと見えてこないし。

――現時点ではまだ整理がついてないと？

吉田　まあ、一つ整理がついたのが『PRIDE』がなくなったので、ほかのことを考えなきゃいけないなっていうね。だから、これで晴れて契約解除になったし、日本国内でオファーがあれば、いろんなことを考えてみたいなっていうのはありますよ。

――国内でと言いますと、たとえばDEEPとかに出場するっていう可能性もあるんですか？　佐伯さんは「吉田さんや五味クラスになるとギャラも高いんで難しい」っ

金とかの問題より、日本の格闘技界を盛り上げるためにやらなきゃいけない！

て冗談まじりに話してましたけど（笑）。

吉田　いや、金とかの問題よりもね、日本の格闘技界を盛り上げるためにはやらなきゃいけないし。いままでずっと格闘技の世話になってきてるんで、返すことができればいいなと思ってるんで。

―ほかの吉田道場の選手は、それぞれの意向で試合をさせていくって感じですか？

吉田　そうですね。若い選手は可能性がありますからね。その可能性に向かってどんどん挑戦してもらってね。やっぱり道は自分で切り開いてかないといけないですから。

―若い選手といえば、最近話題になってるのが中村（和裕）選手のヘアスタイルなんですけど（笑）。

吉田　あれね、ホトちゃん（雨上がり決死隊の蛍原徹）目指してるらしいよ（笑）。

―あのマッシュルームヘアは蛍原さんの影響でしたか（笑）。

吉田　イメチェンでやってるみたいですよ。サラサラヘアのカズになろうって（笑）。

―UFCでは、あのヘアスタイルで番傘を持って相撲の格好で登場したので、どういう心境の変化かなと思ってたんですけど。

吉田　ただ単にイメチェンです。

―ちょっと脱線してしまいましたが「吉田はいつになったら試合するんだ」と思ってるファンに何かメッセージはありますか？

吉田　それまではバラエティ番組での活躍を観てください（笑）。

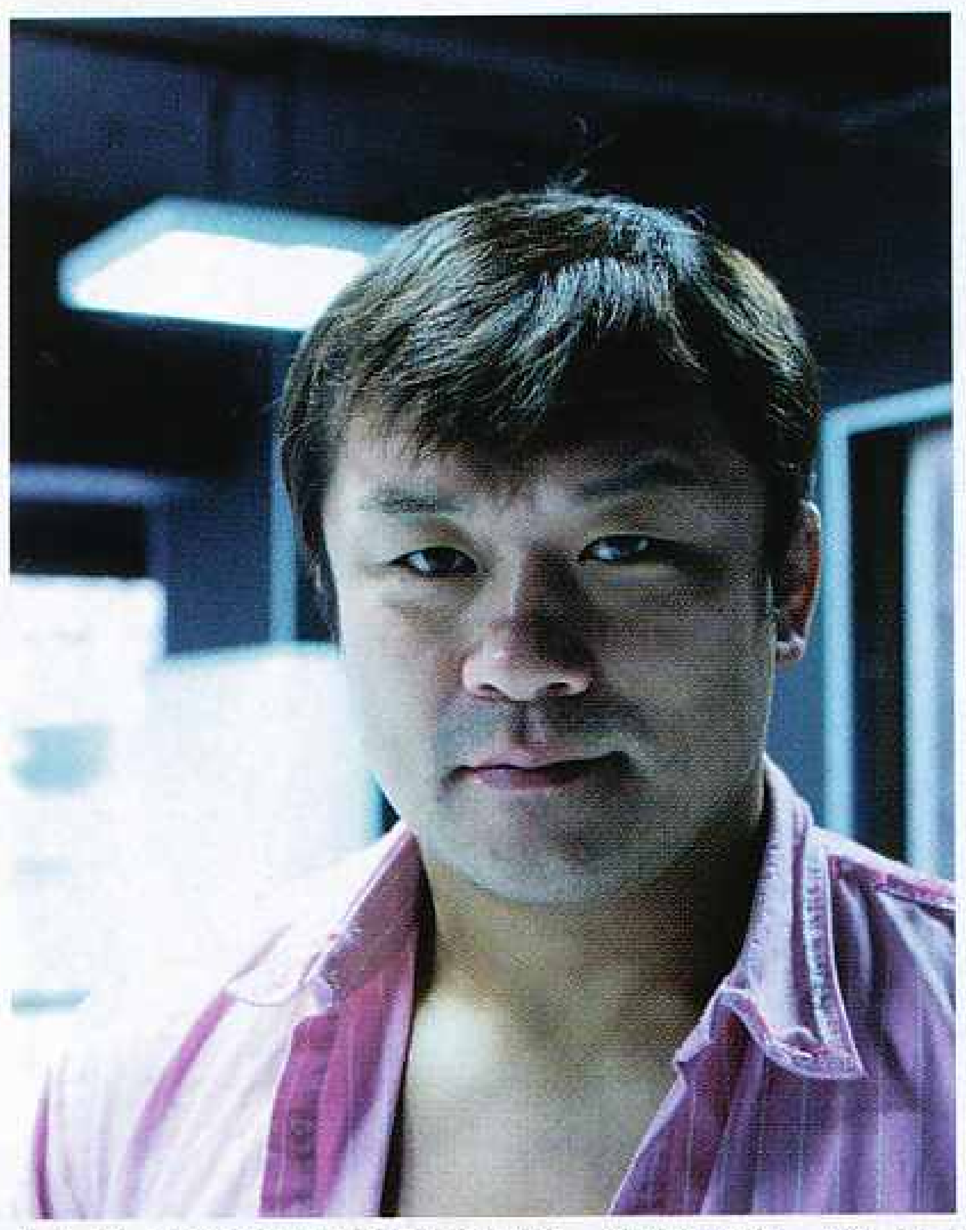
―そっちですか（笑）。バラエティもいいですけど、やはり闘ってる吉田さんの姿が観たいと思ってる人は多いと思うんですよ。

吉田　まあ、だから上がれるように頑張っていきたいな、と。まだ引退もしてないから。する場所もなくなっちゃったけど（笑）。

―まあ、そうですよね。これまでずっと『PRIDE』でやってきたわけですから。

吉田　このまま引退になったら、それはそれでいいのかなって。

―いやいや、それはよくないでしょう。



よしだ・ひでひこ■1969年9月3日、愛知県出身。バルセロナ五輪柔道78kg級金メダルを筆頭に数々のタイトルを獲得し、90年代の日本柔道界を牽引。02年『Dynamite!!』国立競技場大会でのホイス・グレイシー戦でMMAデビュー。その後は昨年大晦日の『男祭り』まで『PRIDE』のリングで活躍。現在は関東圏に7つの道場を持ち、今年9月には初の総合格闘技道場を都内・品川にオープン。180cm、104kg。

吉田　でも、どういうふうに動いてるの？

―へ？　誰がですか？

吉田　上の人たちは。俺よりマスコミの人のほうが絶対に情報知ってるでしょ。

―そんなことないと思いますけど。

吉田　俺ね、そういう経営者向きなところはないから。面倒くさいことはなるべく関わらないようにしてるんで。

10周年目の終焉！
“PRIDE孤児”の行方

―吉田さんの所属するJ-ROCKで何かしらの新しいイベントを立ち上げるんじゃないかという噂なら耳にしますが（笑）。

吉田　だから、なんで、そこでウチの会社が出てくるんだよ（笑）。

―まあでも、『PRIDE』ファンはJ-ROCKではないにしろ、『PRIDE』系のイベントを期待する声は消滅前からもの凄く多かったですからね。

吉田　よし、じゃあドンキの会長に言って、さいたまスーパーアリーナでも買っちゃおうか！（笑）。

―買っちゃいますか！（笑）。

吉田　そう。借りるんじゃなくて買う。

―興行やるんじゃなくて？（笑）。

吉田　もうどうせならね。でも、いくらぐらい？　さいたまスーパーアリーナって。

マネージャー　億……？

吉田　あたりまえだろ。何百億だろ。

―もしホントに買ったら興行も「VIVA JUDO!」もやり放題ですよ！　ドンペン君だって踊りまくれるし（笑）。

吉田　そうだよね（笑）。

―まあ、ドン・キホーテの会長だったら、それぐらいやってくれそうですよね（笑）。

吉田　ドンキの会長はホントに格闘技が大好きなんだよ。選手も凄い知ってるしね。

―じゃあ、ホントに格闘技が好きでサポートしてるわけですね。

吉田　そうそう。ホント大好きだから。

―ドン・キホーテアリーナは夢があっていいですね。もちろん、24時間営業で（笑）。

吉田　いいなぁ。会長にそれ言おう、「買って」って（笑）。それが一番早いよな。

―まあ、確かに（笑）。

吉田　まあ、それは冗談にしてもね、やっぱり、ウチの会社だけじゃ無理ですよ。いろんなところが協力してやらないと。GRABAKAってどうなの？

―郷野（聡寛）さんのUFC参戦が決まりましたし、ほかの選手もDEEPに出たりしてますね。吉田道場と同じくボスの菊田さんの進路は未定ですけど（笑）。

吉田　アイツ、俺のマネしてんな（笑）。

―そうかもしれません（笑）。

吉田　でも、郷野はUFC決まったんだ？

―11月の大会に出ますね。

吉田　勝ってくんねえかな、そろそろ。

―ここ最近は「『PRIDE』がまた負けた」って感じになっちゃってますからね。

吉田　ホント、そうだよね。まあ、俺も頑張りますよ。

―今年中に吉田さんの試合が観られるよう期待してます！

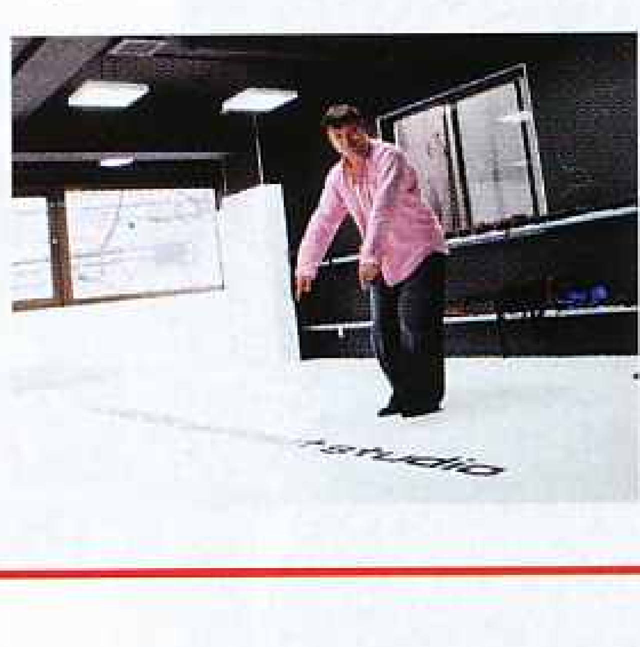
吉田　はい。なんか早く動いてくれないかなぁ。何もなかったら『紅白』観ながら年越しそばでも食ってますよ（笑）。

【07年10月10日／都内・品川『J-ROCK workout studio』にて収録】

吉田道場初の総合格闘技ジム「J-ROCK workout studio」絶賛営業中

吉田道場初の本格的総合格闘技ジムが「J-ROCK workout studio」内で9月より絶賛営業中だ。吉田道場所属選手の指導を受け、将来のスターの座を“ゲッツ”しよう！

【吉田道場】
[住所]
東京都品川区平塚1-8-20 2F
[電話] TEL.03-5702-0009
●総合格闘技クラス
火曜～日曜 17:30～22:00
●フィットネスクラス
火、木、金、日 13:30～17:00
[問い合わせ]
ジェイロック TEL.03-5485-5555





ボクは『PRIDE』の元スタッフについていきます！

也

『HERO'S』ミドル級トーナメント二連覇をやってのけたJZカルバンの対戦要求を受けて、『kamipro Special 2007 AUTUMN』で実現した青木真也インタビュー。『PRIDE』が再開しないことで試合の機会に恵まれないうっぷんを晴らすがごとく（?）、そのデタラメなバカサバイバーぶりは普段よりアップ!!
「『HERO'S』の感想？ 俺のほうが強いじゃん!! って感じですね！」
「『PRIDE』再開までの肩慣らし！ PRIDE代表として周りが見てくれるのなら、その気持ちに応えたいですね」
「……ああ、『HERO'S』にはエッチな子（井上和香）がいたねぇ〜」
という感じで、PRIDEファンに希望と笑いを与えたセクハラ格闘家であったが、あっという間に事態は急変する!!
『PRIDE』の日本事務所が閉鎖。社員は全員解雇。事実上の"PRIDE消滅"である。以前から、『PRIDE』スタッフとの"結束"をアピールしていた青木は何を思うのか。

――『PRIDE』の日本事務所閉鎖があった翌日は、『どハッスル!!』（テレビ東京系）の撮影で"疫病神"のRGと絡んでいたそうですね（笑）。

青木 そうなんですよ。まあ、そのニュース自体は、あんまりビックリしなかったですけどね。

――そのシチュエーションにビックリしたんじゃないですか？「こんなときにRG！」っていう（笑）。

青木 いやあ、それよりその収録にいたオンナの子がかわいかったんですよね〜。

――アシスタントの折原みかちゃん？

青木 そう！ みかちゃ〜ん！「職業＝かわいい」って感じでよかったですねぇ。エッチな娘だったねぇ……（遠い目で）。

――（冷たい目で）まあ、青木さんのことだから、へんなチョッカイを出して、イヤがられたんじゃないんですか？

青木 （即座に）そうなんですよ!!

――ダハハハ！ そうでしたか！

青木 あの子が「青木さん、身体が凄いですねぇ」って言うから、「凄くかわいいですねぇ」って返しました。会話のキャッチボールになってないのはあくまで気のせいですけど。ええ。

――いや、決して気のせいじゃないですよ！

青木 （無視して）彼女は「日本一華奢かわいい」というキャッチフレーズがあるみたいだから、「ボクは"日本一キチかわいい"というキャッチフレーズなんです」ってアピールしときましたよ。テヘ!!

――このままだと、どこに出しても恥ずかしい格闘家になりますよ！（笑）。そんなことより、どうですか、『PRIDE』の件は？

青木 さっきも言いましたけど、べつにビックリはしませんでしたよね。

――ということは、再開へ向けてのポジティブな話は青木さんのところにはまったくなかったということですか？

青木 まったくないですね！ それにボクの考えている『PRIDE』と、彼らの『PRIDE』はな〜〜〜んか違うなあっていう気持ちもありましたし。

――たとえば、どういったところが違うんですかね？

青木 それはいままで『PRIDE』を支えてきたスタッフの皆さんを大事にしなかったことですよ。それはおかしいですよ、あの『PRIDE』をやるというのに。やっぱり『PRIDE』を大事にするイコール、『PRIDE』のスタッフを大事するということですよ。いまから新しいスタッフを雇ってあの『PRIDE』が再現できるのかっていったら、絶対に無理でしょう。やったとしてもイベントの名前が『PRIDE』というだけであって、それはボクの好きな『PRIDE』じゃないですね。

――青木さんはこれまで『PRIDE』の再開をずっと待っていたわけですけど、それは『PRIDE』の日本人スタッフについていくというスタンスだったわけですよね。

青木 はい。だから今後のことは、ボクが信頼してきた『PRIDE』の元スタッフ次



携帯サイト『kamipro Hand』のブログで青木真也が予告した、10.9『DEEP』後楽園ホール大会の"サプライズ"。それは、『PRIDE』の元スタッフや"煽りVアーティスト"佐藤大輔らがリングサイドに並ぶ姿だった。無言を貫く彼らのこの行動は何を表わすのか？ そして青木真也は彼らと行動をともにする旨をアピール。いったい何が起きるんだ!?

聞き手／ジャン斉藤　撮影／吉場正和

"PRIDE"を背負うセクシャルハラスメント格闘家

青木真

たとえ名前が『PRIDE』じゃなくても作っている人が一緒ならば〝PRIDE〟

第ですね。もし新しいリングを作るなら、そこで竹ヤリを持って闘います。逆に「ワオ木、あそこに突撃だ!」って言われたら、竹ヤリを持ってどこにでも殴り込みます!!

――では、ワオ木さんはアメリカ主導の『PRIDE』に上がるつもりはない?

青木 ないですねえ。ボクがしなし（さとこ）選手と結婚するくらい、ない!（笑）。

――ダハハハハハ! 青木さんが『kamipro Hand』のブログで予告していた『DEEP』のサプライズって、青木さんがセコンドについた、しなし選手の結婚報告だったんですよね?

青木 違いますよ! あのときのリングサイドを見なかったんですか?

――ああ、あの日のリングサイドには、『PRIDE』の元スタッフや佐藤大輔さんが並んでましたけど、ファンはスタッフの顔なんてあまりわからないもんですよ。

青木 そんなもんなんですかね? でも、今後のことを想像すると……（遠い目で）

――確かに今後のマット界を考えると、非常に興味深いですよね。〝愉快犯〟の青木さんのことだから、ボクはてっきり、しなし選手の結婚報告を匂わせているのかと思ってましたけど（笑）。

青木 あれはヤバイ! しなし選手が試合に勝って「私事ですが、しなしさとこ、結婚します!!」ってマイクアピールしたとき、ボクだけリングサイドに立っていたわけですよ!! あのシーンだけ観たら、ボクと結婚するみたいじゃないですかっ!!

――ダハハハハハ!

青木 あのあと携帯にメールが殺到してましたからね。「しなしさとこの結婚相手は青木さんなんですか?」って。もう一件、一件、丁寧に返信しときましたよ。

――とにかく、青木さんはしなしさとこにじゃなくて、『PRIDE』の元スタッフについていく、と（笑）。

青木 そうです。しなし選手にはついていきません。ボクの器量じゃ、しなし選手は受け止めきれませんよ。一日でおなかいっぱいだ! ククク。

――しかし、近々〝何か〟が動き出すということでよろしいんですか?

青木 ボクは全然知りません!!

――またまたぁ（笑）。誰にも言いませんから、小さな声で。

青木 じつはですねえ……って、ホントに知りません（笑）。もしあるとしたら、そのリングはボクが思い描く〝PRIDE〟になりますよ。『PRIDE』って、今回、解雇されたスタッフが作ってきたものじゃないですか。その作り手が作るリングは『PRIDE』だと思うんです。大輔さんの煽りVでイベントが始まってね。

――そんな青木さんからすると、前田日明の〝ざまあみろ〟発言はどう



いくらお金があっても簡単に作れないのが『PRIDE』の独特の世界。それらをこれまで築いてきた日本人スタッフを解雇したことで、『PRIDE』は"PRIDE"ではなくなってしまったといえる。

なんですか?

青木 べつになんとも思わないですね～。

ウエートレス すみません。アイスティー、お待たせいたしました。

青木 （ウエートレスに満面の笑みを向けて）どうも! ……かわいいですねっ!

ウエートレス は、はあ。

――ちなみにアイスティーを注文したのはボクです（笑）。

ウエートレス ああ、すみません……。今日から入ったばっかりなんで。

青木 いやいやいやいやいや! 全然いいですよ。かわいいから!

ウエートレス は、はあ。

――すみませんね（笑）。

青木 なんで謝ってるんですか! ちょっと。

――前田日明の代わりに谷川さんが謝るようなもんですよ!（笑）。そういえば、前回のインタビューで、青木さんに対戦要求をしてきたJZカルバンと『Dynamite!!』でやっていいと言ってましたよね?

青木 全然いいですよ。やるのはいいんですけど……。

――いいんですけど……、もしかしてお金ですか?（笑）。

青木 そうです! ボクはエッチな娘とお金ですぐ動きますから! ククク!

――煩悩と俗物にまみれた男（笑）。『PRIDE』の元スタッフについていくんじゃなかったんですか!

青木 （無視して）やっぱりPRIDEライト級王者がいいですね!

――は? つまり、五味さんと闘いたいってことですか? どーでもいいですけど、話が急展開すぎますよ、青木さん（笑）。

青木 五味選手とやるとなったら、本当なら『PRIDE』のライト級グランプリがあったわけですから、その〝PRIDEの続き〟としてはロマンがありますよ。まあ、この業界は面倒くさいことが多いですけどね。やっぱり一番大事にしなきゃいけないのはロマンですよ。やれ若いだの、世代が違うだの、難しいことはどうでもよくて、ボクらは政治家じゃなくて、格闘家なんです。政治家は「善処します!」で済むけど、格闘家はただただ闘わないとダメなんだよ! って。

――青木さん、今日はエンジンが入ってますね（笑）。

青木 コーヒー飲んでるからね! ウエートレスもかわいいし!!

――じゃあ、年内大勝負があると見ていいんですか?

青木 ボクはそう信じてますし、待っていてくれてるPRIDEファンの皆さんを絶対に満足させますよ。そうなったら、最後はみんなで「3、2、1、チェストー!」って叫んで合掌です!

――チェストの意味がわからないんですけど。

青木 もし新しいイベントがあるんなら、その名前は『チェスト』にしたいんです!

――……び、微妙ですねえ。


青木 絶対にいいですよ! 『チェスト』!!

――まあ、青木さんが元気でよかったですよ、今日は（笑）。

【07年10月10日/都内・新入りウエートレスがかわいい(?)カフェにて収録】


10・9『DEEP』後楽園大会の試合直後、しなしさとこが結婚を報告! 状況的にセコンドの青木はムコ様と疑われるはめに……。



Shinya Aoki

あおき・しんや■1983年5月9日、静岡県出身。現・修斗世界ミドル級チャンピオン。06年に『PRIDE』に参戦。エガちゃん調のロングタイツと、切れ味抜群の極めで一躍人気ファイターに。格闘家モノマネの第一人者でもある。180cm、72.6kg。



いつでも試合ができるように準備はしてたんですけどね

也

待ち続けたクラッシャーを声明文発表直後に直撃!!

川尻達

聞き手／ジャン斉藤　撮影／吉場正和

新生『PRIDE』が再開していればライト級の中心ファイターとして活躍が期待されていた、〝クラッシャー〟川尻達也。昨年の大晦日『PRIDE男祭り』でのギルバート・メレンデス戦以降、しばらくリングからは遠ざかっているが、新生『PRIDE』の再開を待ち続け、トレーニングを欠かすことはなかったのである。

そうして起こった突然の日本事務所閉鎖、全社員解雇、アメリカからの声明文……事実上の〝PRIDE消滅〟を表わすシグナルに、川尻の反応は？　練習直後の川尻を直撃した！

——ライターって締め切りがないと原稿を書けない体質の人が多いんですけど、川尻さんは試合が決まってないのに、よくあんなにハードな練習ができますね。

川尻　そうですね。練習大好きですから（笑）。

——だいぶ試合から遠ざかっていて、まだ次の試合が見えてない状況で何をモチベーションにしているんですか？

川尻　たぶん、一人だったら面倒くさくてやんないと思うんですけど、みんなが集まって頑張っているからモチベーションも上がるし、楽しくできてますね。

——でも、前回の試合から10カ月間ってハンパじゃなく長いですね。

川尻　まあ、試合がないだけで、普段の生活は変わらないですけど。練習は変わらず続けてきたのは、いつ試合が決まるがわかんなかったからという理由もあるんですよ。試合が決まってるときはオンとオフがうまく入るんですけど、そういうのがなかったからぶっ通しで練習してる感じでしたね。

——そういう意味では〝いつ何時でも闘う!!〟という臨戦態勢だったんですね。

川尻　そうですね。いつでも試合できるように準備はしてたんですけどね。できませんでしたけど（苦笑）。

——なんと言っていいやら。普段はどういうスケジュールで練習してるんですか？　以前は大久保のDEEPジムにも出稽古されてるって聞いてましたけど。

川尻　いや、DEEPジムには一ヵ月以上、行ってないですよ。週3回、このJBスポーツに来て、自分のジムも週3回ぐらい。あとはパラエストラ松戸の練習に参加したりとか。いまは走り込みと筋トレが多いですね。10月ぐらいまで坂ダッシュとか階段ダッシュとか、身体能力を鍛えるのを中心にやろうと思ってますね。

——そこまでトレーニングされているのに、試合が決まらない現状に対してはどのように思われていたんですか？

川尻　いやあ、こればっかりはしょうがないんで。試合がないからって練習しないでいると、すぐにみんなに追い越されちゃうんで。もしボクが天才だったら試合前だけちょこっと練習して試合に臨みますけど（笑）、残念ながら才能がないので練習し続けるしかないんで。

——現状への焦りはなかったんですか？

川尻　あんまりないですね。1年ぐらい試合してなかったことは過去にもあるし、試合しないからこそできることもあるから。

——いろんな選手や関係者から話を聞くんですけど、そういう状況でも「川尻さんは非常に落ち着いている」と。

川尻　そうですかね？（苦笑）。誰と比べてそう言ってるですかね。

——誰って……、青木（真也）さんとかかな。

川尻　ハハハハハ！　青木くんはね、確かに「試合がやりたい！　やりた〜〜い!!」って感じですけど、普段からうるさいだけですよ（笑）。

——ああ、比較対象にはなりませんか（笑）。

川尻　ほかの選手はどうしてるんですかね。五味くんは『HERO'S』ですか？



本来ならば、10月5日に収録が予定されていたこの取材は、4日の事務所閉鎖を受けて急きょ延期に。仕切り直しのインタビュー取材当日、川尻は“チーム黒船”を率いる山田武士トレーナーのもとで、T-BLOODの盟友・石田光洋ら汗を流していた。風雲急を告げる大晦日ははたしてどこのリングに上がっているのか？　日本人ライト級トップファイターの川尻の動向はガ然、注目されるだろう。

——うーん。ちょっとどうなるかわからないんですよね。ま、この業界って、日によって情報が違うので（笑）。

川尻　ボクは東京にはいないし、あまり情報は入ってこないんですよね。

——たとえば、今後のことをチームメイトの石田（光洋）選手とお話しされたりは？

川尻　たまに「どうなんだろうね？」って話をしたりはしますけど、深く話しちゃう



かわじり・たつや■1978年5月8日、茨城県出身。元・修斗世界ウェルター級チャンピオン。『PRIDE武士道』で、五味隆典と格闘技史上に残る死闘を繰り広げた。171cm、72.9kg。

10周年目の終焉！
“PRIDE孤児”の行方

とネガティブなことばっかじゃないですか。だから、そういう話はあんまりしません。

——この沈黙のあいだ、『PRIDE』から何かお話とかありました？

川尻　たぶん、マネージャーに話は入ってたんじゃないですかね。ボクは詳しく聞かないで、「とにかく信じて待ってよう！」って感じでした。選手間でもやっぱいろんな話があるじゃないですか。そういうのもあんまり聞かないようにしてましたし。

——強いですね、川尻さん。

川尻　まあ、一生、格闘技ができなくなるならさすがに焦りますけど（笑）。修斗でデビューしてからもっと苦しい時期もあったし。仮に『PRIDE』がなくなったとしても、要は強ければどこででも生きていけると思うから。そういう自信もあるし、あんまり小さいことは気にしないで、やるべきことをやろうかなと思って。

——その『PRIDE』のことなんですが、ついさっき、日本事務所閉鎖の件でアメリカサイドから声明文が出されたんですよ。

川尻　マジっすか⁉

——簡単に要約すると、「現時点で日本で大会が開催できないから事務所を閉鎖しただけで、決して『PRIDE』をやらないわけじゃない」ということなんですけど。

川尻　……それ、どうなんだろうね（笑）。

——原文、読みます？　ウチの携帯サイトにアップされてますけど。

川尻　ああ、読みます。（聞き手の携帯を渡されて）…………ムチャクチャじゃないですか！

——どのへんがムチャクチャですか？

川尻　「元役員の協力が得られず」ってね、みんなやりたがっていたと思うんですけどね。

——これまで川尻さんは『PRIDE』の再開を待つという姿勢をとられてたと思う

これからはいいオファーをいただければ、どこのリングでも出たいですね

Tatsuya Kawajiri

んですけど。

川尻　やらないのなら、待ってもしょうがないですよね。まあ、これで契約の件もクリアにできるだろうから。

――川尻さんは『PRIDE』との契約が残ってたんですか。

川尻　はい。でも、これからはいいオファーをいただければ、どこのリングにも出たいですね。総合もそうだし、キックもちょっとやってみたいなと思ってるんで。

――今回の事態を受けて、『PRIDE』の元スタッフたちが新しい格闘技イベントをやるんじゃないかという噂もありますけども。

川尻　いや、ボクは何も聞いていないので、まだなんとも言えないですよね。ただ、こういうことになった以上、試合はどんどんしていきたいですよね。できるのにやらないのは精神的にも病んでくるんで。

――まあ、機会があるんだったら逃したくないってことですよね。

川尻　そうですね。

――日本事務所閉鎖前のことをおうかがいしたいんですけど、「もしかしたらもう『PRIDE』はやらないかもしれない」って考えたりしました？

川尻　「難しいのかな……」っていうのは考えたりもしましたけど、まあ、ボクにはどうにもできないんで、なるようにしかなんないなって。ボクが『PRIDE』というイベントをできるのなら喜んでやりますけど、残念ながらそんな力はないんで（苦笑）。

――そうですよね（笑）。『PRIDE』が沈黙しているために、UFCに上がったりしてる選手もいますよね。郷野（聡寛）選手とか中村カズ選手とか。川尻さんにはUFCという選択肢はなかったんですか？

川尻　う～ん、UFCで一番闘いたいショーン・シャークがステロイド問題でこれからどうなるかハッキリしないんで、いまいちピンとこないですね。どっちかというとJZカルバンとかのほうが選手としては闘いたいなと思いますね。

――ということは『HERO'S』のリングですね。

川尻　どこのリングというよりも、闘いたい相手としてカルバンがいる感じですね。

――カルバンが優勝した『HERO'S』のミドル級トーナメントはどうでした？

川尻　いやあ、おもしろかったですね。強い選手がやっと揃ってきてトーナメントらしくなってきたというか。

――魅力的なリングではあると？

川尻　うーん、カルバンとはやってみたいですけど。リングうんぬんはわからないです。やっぱり『PRIDE』は最高のリングでしたから。ああいうリングがなくなってしまうっていうのは、凄い悲しいですよね。スタッフも一丸となってたじゃないですか。なんか弁当の配達の人でさえも一丸となってたというか（笑）。

――ダハハハ！　確かにそんなムードはありましたね。

川尻　あと「こんな扱いを受けていいのかな」っていうぐらい大事にしてくれて。

――ファイターはみんなそう言ってるんですよ。トップ選手じゃないかぎり、UFCはあまり待遇がよくないみたいで。

川尻　ホントに『PRIDE』が一番よかったですよ。ボクが初めて『PRIDE』に出たときはビックリしましたもん。「ええ!? オレ、そんなたいした人間じゃないんだけど。こんな丁寧な扱いをされると、逆にまいっちゃうな」みたいな。こっちが勘違いしちゃうぐらい選手のことを大事に扱ってくれてたんで……。そういう意味でも世界最高峰のリングだったと思います。

――できるんだったら『PRIDE』のようなイベントができればいいですよね。

川尻　ホントにね、ボクができればいいですけどね……。『kamipro』さんでなんとかしてもらえないんですか（笑）。

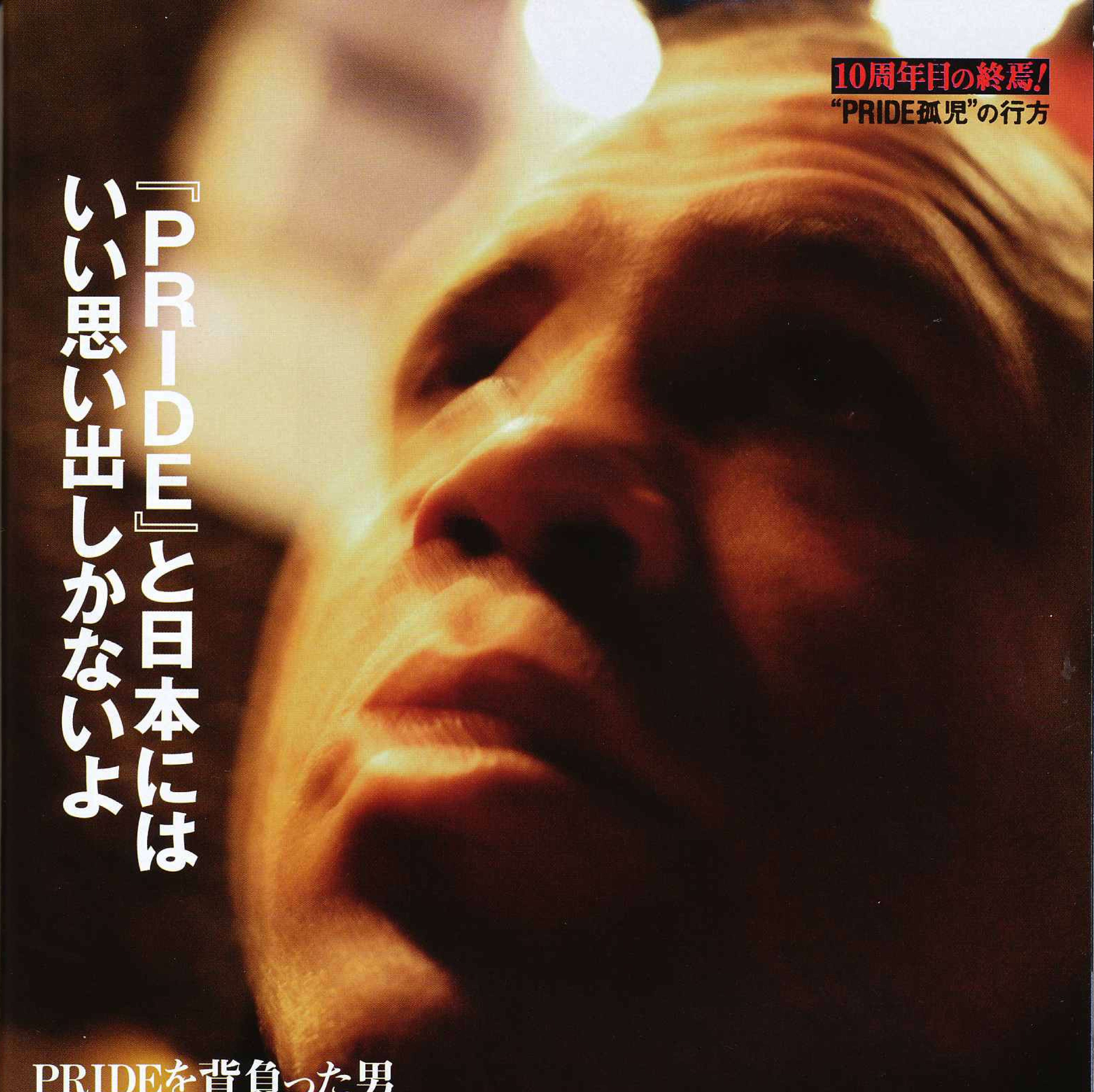
――いや、ウチは新木場1stリングなんかでやるのが限界です（笑）。じゃあ、今回の声明文を受けて、川尻さんはやっと動き出すという感じですね。

川尻　対戦相手もそうだし、いろいろ考えて決めたいですね。いままでもそうですけど、絶対に後悔しないように、自分の感覚を大切にしていきたいですね。こんなでいいですか？

――そうですね。また来月、お話を聞くことになりそうな気配ですけど（笑）。

【07年10月10日／足立区・JBスポーツにて収録】

10周年目の終焉!
"PRIDE孤児"の行方



『PRIDE』と日本には いい思い出しかないよ

PRIDEを背負った男

Wanderlei Silva

ヴァンダレイ・シウバ

誰よりも『PRIDE』を愛し、日本のファンに愛された男——、ヴァンダレイ・シウバ。『PRIDE』10周年という節目に、この男を欠かすことはできないだろう。シウバは自らを「『PRIDE』の孤児」とまで言い、ショックのあまり「『PRIDE』の活動休止以来、自分を見失なったようだ」と語ったほど。そして、日本のファンに対してどこまでも優しいファイターである。すべてが思い出になってしまう前に、この男の言葉を心に刻んでおこう!

聞き手／坂井ノブ　撮影／黒田史夫　試合写真／乾晋也

俺はダナ・ホワイトやほかのボスに言ってるよ、「日本でイベントを開催するべきだ」ってね

ここに掲載するのは9月21日、つまり『UFC76』の前日に行なったミニ・インタビューだ。まさか『PRIDE』が10周年を目前に控えた10月4日に事務所が閉鎖されるとは思ってもみなかったので、そのことについては聞いていないのだが、シウバの中に息づく『PRIDE』の魂と新たな戦場にかける意気込みは感じ取れるはずだ。

――8月にアメリカに移住して、いよいよ12月29日にはUFC出場ですね。

シウバ ああ、楽しみで仕方ないよ。家族はフロリダで暮らしてるけど、俺は単身赴任さ。フロリダに帰るのは1月になる。それまでラスベガスでトレーニングだよ。

――英語も上達しましたよね。

シウバ でも、もっといろんな言語を学びたいと思ってる。

――ほう、なぜですか？

シウバ 将来はフランスや日本にも住みたいと思ってるからさ。パリには大勢の友だちが住んでいるし、現在の自分があるのは日本のおかげだから。中国にも住みたい！

――へぇ～、それは意外ですねぇ。

シウバ （真顔で腕を組みながら）中国は超大国だし、格闘技人口も多いだろう。でも、彼らはMMAや柔術を知らない。将来、その巨大マーケットを開拓したいんだ。

――ビジネスマンのような発想ですね。

シウバ ガハハハハ！　そうだろ？　うまくいくと思うよ。

――じつは、シウバ選手の格闘技キャリアの扉を開いた『PRIDE』が10月で10周年になるんですよ。

シウバ そうなのか。『PRIDE』はいつも俺の心の中にある。忘れることなんか不可能だ。俺の人生そのものだった。俺のファンが最も多いのは日本だし、ファンの期待に応えるために闘ってきたつもりだ。

――『PRIDE』でのベストマッチを挙げるとすれば、どの試合になりますか？

シウバ 生涯最高の試合が二つある。一つはサクラバとの最初の試合、もう一つはクイントン・"ランペイジ"・ジャクソンとの二度目の試合だ。素晴らしい思い出ばかりだよ……。俺にチャンスを与えてくれたサカキバラサンにはいくら感謝してもしきれない。そして日本のファンに感謝してるよ。

――日本のファンはシウバ選手の闘いが観られなくて悲しんでますよ。

シウバ おお、そうなのか（悲しそうな顔）。ダナ・ホワイトやほかのボスにも俺はいつも言ってるんだよ。「日本で大きなイベントを開催すれば、必ず大勢の格闘技ファンが熱狂的に迎えてくれるはず。日本でイベントを開催するべきだ！」ってね。

――そうなんですか!?　もっと言ってやってくださいよ！　日本のファンの中には『PRIDE』を早く再開しろ！」という怒りの声も挙がってるんですよ。

シウバ ダナは人間的にもビジネスマンとしても凄くいい人だよ。一生懸命、この業界の発展のために働いている。

――それでも日本の『PRIDE』ファンにはなかなか割りきれないんですよ！　ところで、UFCでは『PRIDE』ファイターが連敗を喫してますね。

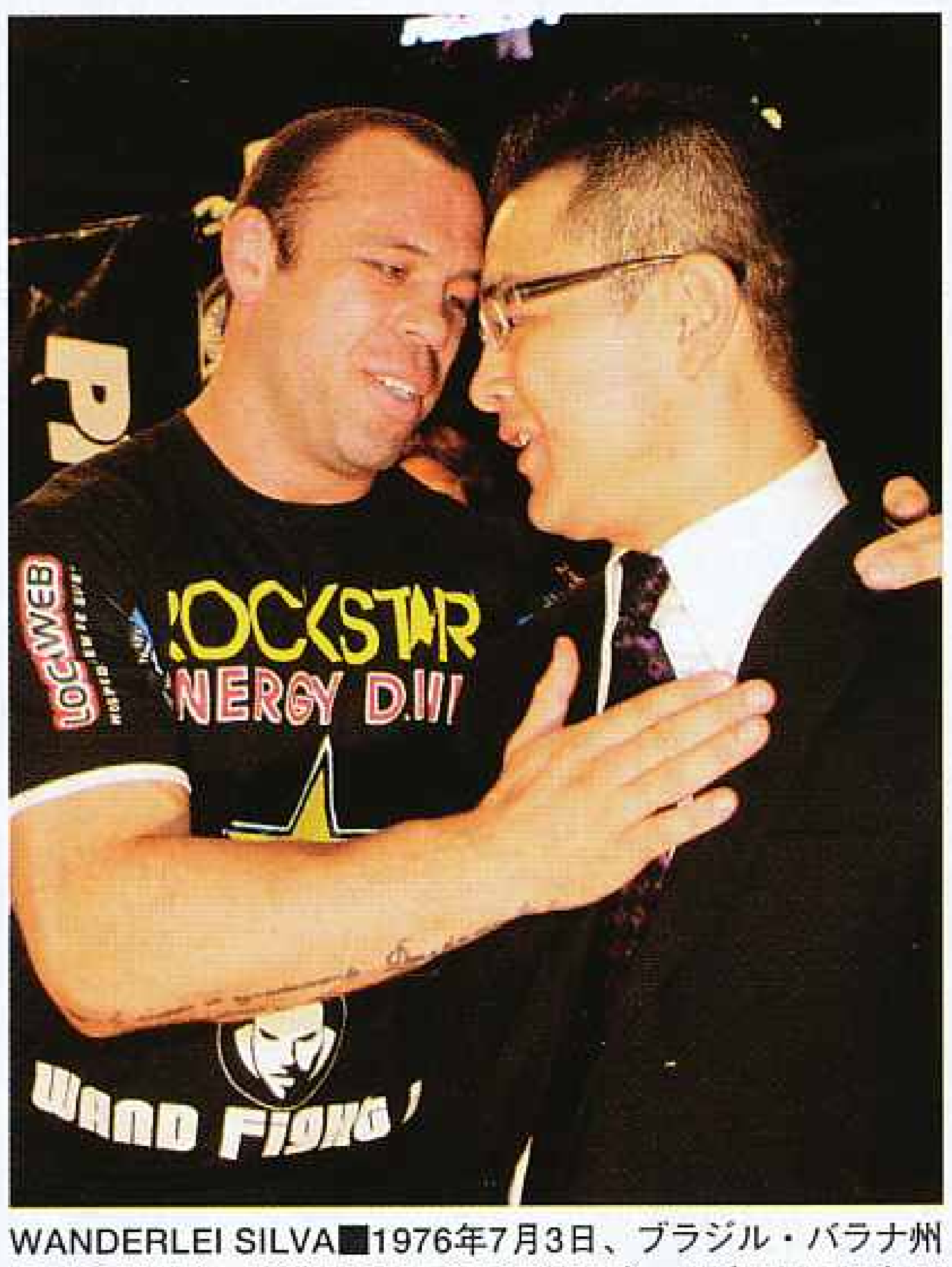
シウバ リングとケージの違いがある。グローブのサイズも違えば試合時間も違う。そううまくはいかないよ。ただ、UFCへの対応は俺も取り組んでいるから心配ないよ。

――シウバ選手が闘うことになるライトヘビー級にはクイントン・"ランペイジ"・ジャクソンが王者として君臨していますね。

シウバ 12月にチャックに勝って、タイトルに挑戦したい。『PRIDE』でランペイジには二回勝ってるから、勝てる可能性は高いよ。でも、勝負だからどうなるかわからないな。この階級にはティト・オーティズというスターもいるから楽しみだね。

――アメリカでブレイクするには『TUF』でコーチをやるというのも、一つの手段かとは思いますが？

シウバ あれはおもしろいな！　コーチはぜひやってみたい！　ブラジルや日本から来た生徒たちをコーチするようなことになれば最高だ。少しでもブラジルや日本のために力になればと思っているよ。



WANDERLEI SILVA■1976年7月3日、ブラジル・バラナ州クリチバ出身。初代PRIDEミドル級王者、03年PRIDEミドル級GP優勝など輝かしい戦績を残した『PRIDE』の象徴的選手の一人。182cm、92.9kg。

Wanderlei Silva

【07年9月21日／米国カリフォルニア州アナハイム、「ホンダセンター」にて収録】

このインタビューの翌日、マウリシオ・ショーグンが、新鋭フォレスト・グリフィンに一本負けを喫してしまう。ヴァンダレイはその日のうちに、さっそく「グリフィンと闘ってショーグンのリベンジをしたい!!」と名乗りを挙げた（『kamipro Special 2007 AUTUMN』に掲載）。

やはりヴァンダレイには『PRIDE』の血が流れている。即座に闘いのドラマを紡いでファンの観たいカードを提示していく姿勢は、昔となんら変わらない。『PRIDE』っぽい」とは、こういうことだ！

このインタビューを掲載するにあたって『PRIDE』日本事務所閉鎖についてコメントをもらおうとコンタクトを試みたが、残念ながら締め切りまでに取材することはかなわなかった。ラスベガスでの練習拠点になっていたランディ・クートゥアーのジムでは、フォレスト・グリフィンもトレーニングをしているから練習場所を移したのだろうか。12月のUFCデビューに向けて、そして"『PRIDE』の孤児"となってしまった日本のファンにメッセージをもらいたいと思っていたのだが……。

最後に、本誌114号のインタビューに掲載したシウバの言葉で締めくくりたい。

「ときどき、ふと思うんだ。『PRIDE』は大丈夫だ。目が覚めたら、すべてが元どおりになっているんじゃないか……ってね」

日本事務所閉鎖の前の言葉だが、シウバはいまでも変わらない気持ちを持ち続けているだろう。きっとこれからも『PRIDE』の孤児のために闘い続けるに違いない。



プロレスマスコミで最も藤田に近い男
金沢"GK"克彦が激筆!!

"野獣"藤田和之を追え!!

"野獣"を追え! 4.8『PRIDE.34』のメインイベントで、『PRIDE』Tシャツを着て入場してきた藤田和之。その後、藤田は試合に出場していない。日本の総合格闘技界が大きなターニングポイントを迎えたいま、どこへ向かおうとしているのか? 『週刊ゴング』元編集長時代から親交の深い金沢"GK"克彦氏が"野獣"の行方に迫る!!

文／金沢"GK"克彦　撮影／乾晋也

6月末からパラオへ飛び、7月半ばからカリフォルニアへ。そして現在は……!?

Kazuyuki Fujita

どうにも『PRIDE』の周辺が騒がしい。いま思えば、その伏線となったのが、9月26日発行の『日刊スポーツ』紙だった。突然〝PRIDE消滅へ〟なる大見出しが踊っていたのだ。しかしながら、よくよく記事を読んでみると、消滅の根拠となる一文はとくに見当たらないし、読み取ることもできない。つまり郷野聡寛がUFCと4試合の出場契約を交わしたという内容だけが事実関係。まあ、円満移籍（?・）というか、ノゲイラ、ショーグンらと同じと考えていいのではないだろうか？　それにしても『PRIDE』の活動休止状態と前後して、選手たちは悲喜こもごも。あのミルコ・クロコップがUFCマットで連敗を喫したり、ヒョードルの勇姿がまったく観られなくなってしまったり、吉田秀彦にしても、具体的なプランは何も語ることができない状態のようだ。

そんな状況下、もっと何も見えてこないのが、あの男である。榊原体制ラスト『PRIDE』となった4・8『PRIDE・34』（さいたまスーパーアリーナ）のメインで大チョンボを犯し（※ジェフ・モンソンに裸絞めで逆転負け）、周囲を凍りつかせてしまった藤田和之である。以来、例によって藤田は音なしの構えを貫いている。ホームページを覗いてみても、まさにその性格まる出しという感じ。パラオでトレーニングしているとか、某国で釣りを楽しんでいるとか、カリフォルニアのスーパーで売っている栄養ドリンクがどうしたとか……、ほぼ一ヵ月に一回程度の更新しかしていない。

では、日本が誇る〝野獣〟藤田はいま、何を考え、どこに目標を定めているのだろうか？　とりあえず、マスコミ側ではもっとも藤田に近い男と言われるのが私だから、少しばかり藤田の近況を探ってみたい。

とにかく6月末から、藤田はパラオに飛んで保養を兼ねてトレーニングを積んでいたことだけは間違いない。7月に帰国したとき、その話を聞いてみると、とにかく釣りが楽しくてしょうがなかったという。小型のボートを出してもらいマグロなどの大型の魚を釣り上げては、その場で調理してもらうのだ。これが絶品のうまさ。また持ち帰るぶんは鮮度を保つために、漁師さんが釣った魚をすぐに締めて血抜きをする。そうすると、海に流れ込んだほんの少量の血の匂いを嗅ぎつけ、いつの間にかサメが寄ってくる。気がつくと、興奮状態で背ビレを立てたサメがボートを囲み、次々とジャンプするのだという。これでさすがの藤田も「もう戻りましょう」となるのだという。

この話を聞いてフッと思いついたのが、藤田和之vsサメだった。これならいい勝負をしそうだし、取材に行けばスクープだろう。だが、藤田は「馬鹿も休み休み言ってくださいよ」と言う。いや、私は全然休んでなんかいない。「いつも休み、休みはキミじゃないか!?」と言うと、「うまい！　座布団二枚」と爆笑していた。

また、最近の藤田はラジコン・カーとラジコン・ヘリコプターにハマっているようで、ヘリを飛ばすには日本は狭すぎるということなのか、7月半ばにはカリフォルニアのセカンドハウスに向かってしまった。もちろん、ヘリを飛ばすためだけではない。マルコ・ファス道場のすぐ近くにセカンドハウスを借りたのには理由がある。気候が温暖だし、いつでもコーチのマルコと練習できるという最高の環境にあるからだ。約2ヵ月、トレーニング&ラジコン漬けの毎日を送っていた藤田は9月中旬に帰国した。

さすがに、そろそろ核心を突かねばと思い、「仕事の予定は？　UFCには出ないの？　K－1（HERO'S）から話は来てないの？」などと聞いてみると、「ダッハッハッハ！　わかんないです。何もないんじゃないですか？　ぜんぶマネージャーさんに任せてますから。とにかくいまはラジコンですよねえ。俺って不器用なのかなぁ？　ホントにまだまだ未熟者だなぁ。プロレスも未熟だったし、格闘技も未熟だし、ラジコンも未熟だし……、人生の未熟者ですよ（笑）」と能天気ぶり全開だった。まったく煮ても焼いても食えないとは藤田のことを言う。

ところで、藤田のフィジカルトレーナーを務める和田良覚氏に先だって某団体の会場でバッタリ会った。和田さんは私の顔を見れば、必ず満面の笑みで藤田情報を教えてくれる。「藤田クンが帰国してから何度か練習を見てますけど、いやぁ凄い。このあいだ、ボクシングのトレーナーもついていたけど、驚いてましたね。パンチのキレ、スピード、破壊力、凄すぎる！　ぶっ飛びましたよ。あれを見ていたら、早く試合をやらせてやりたいなあって思いましたよねぇ」と和田さん。まさに宝の持ち腐れ、とはこのことを言うのだろう。

そんなことを考えている最中の4日、まさに突然嵐のようにPRIDE FC WORLD WIDEの事務所閉鎖および全社員の解雇という衝撃的なニュースが流れた。こうなると、いま一度、藤田サイドに見解を求める必要がある。まず、マネージャー氏は「すいませんが、いまは何も言えません」と丁重なノーコメント。その後、藤田本人に連絡を入れてみると、ひとしきりラジコン・カーの魅力に関して話を聞かされた。

そこで「『PRIDE』の事務所が閉鎖されたという話だけど……」と振ってみると、「ノーコメントですよ。僕にそんな話を振らないでくださいよ」と一言。予想どおりの回答だった。

ここまで沈黙を保つということは、おそらく『PRIDE』となんらかの契約事項が残っているということなのか。あるいは、どこかと契約交渉中という考え方もできる。とにかく藤田という選手は、紆余曲折を経ながらも、00年1月に『PRIDE』デビューして以来、8年弱にもわたり日本の総合格闘技におけるヘビー級戦線で生き残ってきた男。「藤田、日本人最強説」はいまだ健在なのだ。UFCはもとより、『HERO'S』だって、かつての師匠が率いるIGFだって藤田はほしい人材だろう。

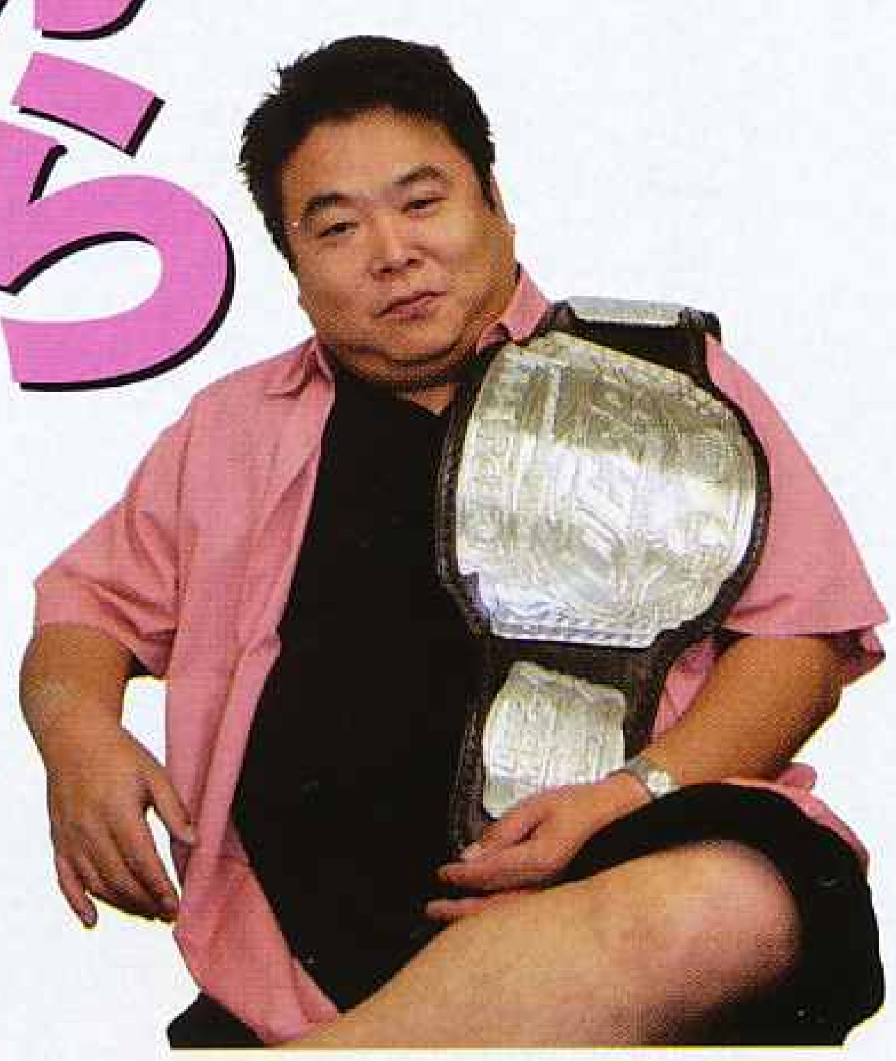
次回、藤田の日本人離れした肉体、風貌を目にできるのは、いつ、どこのリングなのだろうか？　おそらく11月に入れば、その答えは見えてくると思うのだが……。





元PRIDE広報 佐伯繁激白！
〝PRIDE消滅〟後のマット界

「大晦日から来年にかけてのマット界は、いままで以上の暴風雨が吹き荒れるよ！」



やはり、この男にも〝PRIDE消滅〟について聞かなければいけないだろう。DEEP代表として多くの選手を『PRIDE』のリングに送り込むと同時に『PRIDE』広報として鼻息荒く活躍していた佐伯さんに、〝PRIDE消滅〟後のマット界の展望を占ってもらいましたよぉお！ どうなる、マット界!?

聞き手／阿修羅チョロ　会見撮影／平工幸雄

――『PRIDE』が〝消滅〟したということで、いま一番動向が注目されている佐伯さんにお話をうかがいたいと思います！

佐伯 べつに俺は注目されてないだろ。

――そんなことないですよ。まあでも、ぶっちゃけ、ロレンゾ（・フェティータ＝UFC＆『PRIDE』オーナー）とかダナ・ホワイト（UFC代表）、あと榊原（信行＝前DSE代表）さんに話を聞ければ一番いいんですけども。

佐伯 ひっでえなあ（笑）。

――ほかのマスコミもそうだと思うんですけど、立場的に表に出て話せない人が多いので、気軽に話を聞ける佐伯さんの需要が高まっているというか（笑）。

佐伯 ああ、そういうことか。

――というわけで、本題に入りますが、『PRIDE』の日本事務所閉鎖＆スタッフ解雇というのは予想してました？

佐伯 まあ、海外の状況とか経済的なことを考えたら、そういう結論が出るんじゃないかなとうすうすは思ってた。普通に『PRIDE』が再開するよりはそういう可能性が強いんだろうなという気はしてたし。

――あ、そうでしたか。立場的なこともあってか、これまで、今後の『PRIDE』について聞かれると「もうちょっと待って」みたいな発言をされてましたけど。

佐伯 そうだね。その結論が出るまで待つというのが自分のスタンスだったから。

――先日の会見では「『PRIDE』がなくなったなら、これからは動きます」と宣言してましたが、たとえば、青木（真也）選手だったり、（桜井）マッハ選手とか、契約的に今回の件で出場しやすくなったりするんですか？

佐伯 わからん！ 逆に俺が聞きたいよ。解散したはいいけど、結局、UFC側から

俺はUFCとはぜ～ったいにビジネスはできん!!

のコメントがまだ出てないでしょ？

――現時点では、まで出てないですね（※取材の二日後の10月10日に声明文が到着）。

佐伯　そのコメントを見てみないとどうなるかわからん。だって極端な話『ＰＲＩＤＥ』の選手は全部、佐伯さんに任せます」って発表されるかもしれないじゃん（笑）。

――残念ながらそれはないでしょうね（笑）。

佐伯　ないよな。……っていうかね、俺は『ＰＲＩＤＥ ＦＣ ＷＯＲＬＤ ＷＩＤＥ』ってなんだったんだろう？」って思うわけ。ウチとは関係ないっていえば関係ないでしょ、実際。社長にも会ったことないし。

――それは困りましたね（笑）。会見では、吉田（秀彦）さんや五味（隆典）さんクラスはギャラの問題もあって使うのは難しいかもと言ってましたけど、ほかの選手はＤＥＥＰでドンドン使っていこうと？

佐伯　もちろん、使っていきたいっていう気持ちはあるよ。彼らが望むんだったらだけど。ウチに出るだけじゃなくて、ほかに道を作ってあげるのも仕事だと思うし。

――ＤＥＥＰミドル級王者の長南さんもＵＦＣ参戦が決まりましたからね。

佐伯　それについてはいろいろとあったんだけどね（苦笑）。一言でいうと、俺はＵＦＣとはぜ～ったいにビジネスはできん！

――了解しました（笑）。でも『ＰＲＩＤＥ』の常連選手はギャラも高いっていいますけど、大丈夫ですか？

佐伯　そうなんだけどさ、もし「このカードを組みたい」って思ったら俺は動くよ。そうなったら、金集めてくるしかないから。実際、ＤＥＥＰの後楽園で（桜井）マッハだって三崎（和雄）だって上がってるでしょ。

Shigeru Saeki

――超満員でも赤字興行が何度かあったみたいですからね。

佐伯　まあね（苦笑）。でも、ウチはそういうのは関係ない。ただ、金かけてやるからには、ちゃんとストーリーを作って、意味のあるカードを組みたい。

――今後、いわゆる国内のメジャー団体は『ＨＥＲＯ'Ｓ』だけになってしまいますよね。それについてはどう思います？

佐伯　一つだけ言えるのは、この世界っていうか、飲食とかの世界でもそうだけど、対抗馬がいないとダメ。相乗効果もないし。『ＨＥＲＯ'Ｓ』がいいとか悪いとかじゃなくて、ずっと『ＨＥＲＯ'Ｓ』だけってことは１００パーセントありえない！

――１００パーセントありえない？

佐伯　だってそうでしょ。いくら『ＰＲＩＤＥ』の選手が使えるようになっても、全部が全部使えるわけじゃないから。金もかかるし、試合数も増えて、大会数も増えて、ドンドン、ウチみたいになるでしょ（笑）。

――そうなりますよね（笑）。

佐伯　そう考えたら対抗馬が出てくるのは当然の話だと思うし。だから、近々新しい動きが出てくるんじゃない？（他人行儀に）。

――他人事のような言い方ですけど、吉田さんが所属するＪ－ＲＯＣＫであったり、加藤ＤＳＥ元専務だったりに佐伯さんも協力して、新団体というか、新イベントを立ち上げるんじゃないかと、よく噂されてますが。

佐伯　それはわからない。だって、『ＰＲＩＤＥ』の社員が一斉解雇されちゃったわけじゃん。だから、ロレンゾたちがどういうコメントを出すかによって動き方も変わってくるから。それが出ないと動けないじゃない、実際。

――とはいえ、具体的じゃないにせよ、なんかしらの動きはあるわけですよね。

佐伯　いや～、あるんだろうけど、俺は噂で聞くぐらいだもん。それに俺は基本的にあんまり人から「こうするから」って言われたことないんだよね。で、最終的に「あれ？　佐伯さんに言ってなかったっけ？」っていうことが多いから（笑）。

――そうなんですか（笑）。

佐伯　でも、ファンもそうだと思うけど、選手や関係者も『ＷＯＲＬＤ ＷＩＤＥ』がもう一度『ＰＲＩＤＥ』を再開するっていうのを信じて待ってた人が多かったと思うよ。だから、こうなって、ようやく動く踏ん切りがついたって感じじゃない？

――逆に待ってた選手や関係者は、動かざるを得なくなりますよね？

佐伯　そうだね。まあ、これからいろんなことが起きるんじゃない。このまま『ＨＥＲＯ'Ｓ』一つってことはないでしょう。

――まあ、これまでの歴史を見てきても間違いなく何かは起こるでしょうね。

佐伯　大晦日から来年にかけて、いままで以上の暴風雨が吹き荒れると思うよ。

――怖いですねぇ。でも、大晦日にかけて佐伯さんも忙しくなるんじゃないですか？

佐伯　ここ何年かは大晦日は仕事してたからな。でも悪いけどさ、『ＰＲＩＤＥ』休止後の俺のスケジュールは凄いよ！

――水面下で動いている暇はない、と（笑）。

佐伯　ホントだよ。だって、10月は9日、13日、21日、28日って、まだ大会が4つ残ってるんだもん。12月だって2日、9日、12日、22日だよ。ねえ、どうなってんの？

――そんなの知りませんよ！（笑）。

佐伯　（無視して）年が明けて1月14日も大会があるんで、ここ2～3ヵ月で9大会あるわけ。そんなときに新イベントとか関わったら死んじゃうんじゃないか（笑）。

――体調に気をつけて、なんとか今年を乗りきってください（笑）。

【07年10月8日／都内・ＤＥＥＰ事務所にて収録】

このインタビュー収録から3日後の10月11日、（株）ワールドビクトリーロードなるところから10月15日、都内ホテルにて「総合格闘技に関する記者会見」を行なうとのリリースが流れてきた。締め切りの都合上、会見の詳細は別ページを参照してもらいたいが、このリリースについて佐伯さんにコメントを求めると、「ほら、俺が言ったとおりだろ！　この本の発売日にはもっといろんな動きが出てくると思うよ。俺はどう動くか？　そんなもんわからん！」とのこと。いったい今後のマット界はどうなるの!?　しばらくのあいだ、各自調査を怠るな!!

DEEPがついに地上波進出！ 10.22大阪大会に注目!!

『ハッスル』や『マッスル』に続き、なんとDEEPの地上波放送が決定！ 12.22『DEEP』梅田ステラホール大会がテレビ大阪で放送されることが10月10日の会見で発表された。放送日は未定だが、大会後から年末までの深夜1時台から60分枠で放送予定となっている。出場決定選手は前田吉朗、MIKU、村田龍一、池本誠知。大阪の皆さんは要チェックだって！



WOWOWは
を放送するのか!?

ミルコKO負けの『UFC70』で突然の放送打ち切り
～UFC放送中止の真相とは～

聞き手／松下ミワ　写真／黒田史夫、乾晋也、平工幸雄

「UFCが魅力的なソフトだということは充分わかってるんですよ。ただ……」

WOWOW
チーフプロデューサー
大村和幸



おおむら・かずゆき■1960年4月11日、山梨県出身。映像関係の実務経験を生かし、90年、WOWOW立ち上げに参加。現在はスポーツ部のチーフプロデューサーを務め、格闘技の放送ではリングス中継の初頭から関わっている。

UFCがテレビで観られない!

ずいぶん前にアナウンスされているように、02年3月22日『UFC36』以降、約5年にわたってUFCを放送し続けてきたWOWOWが今年4月21日『UFC70』をもって放送を中止した。

06年の中盤以降、『UFC61』で当時『PRIDE』ミドル級王者だったヴァンダレイ・シウバがオクタゴンに登場したり、『UFC67』にはミルコ・クロコップが参戦するなど、UFCと『PRIDE』トップファイターとの接点も増えていた時期であったため、『PRIDE』ファンを取り込むには絶好の時期だったように思われたのだが……。

その後、いま現在もテレビでUFCを観られない状況は変わってはいないが、UFCオーナーであるロレンゾ・フェティータがWOWOWでの放送再開をほのめかす発言をするなど、日本の放送局と接触している節も感じられた。が、はたして実際はどうなのか?

今回はその状況を聞き出すべく、WOWOWスポーツ部チーフプロデューサーの大村氏にインタビューを試みた。ズバリ、UFCはテレビで観られるのか!?

——今日はWOWOWでのUFCの放送中止から、その後のズッファ社との交渉状況など、多岐にわたってお話をうかがいたいと思います。

大村　はい、可能な限りお話しします。

——まず、ちょっとさかのぼりますが、WOWOWが今年4月『UFC70』を最後にUFCの放送を中止した経緯から聞かせていただけますか?

大村　簡単に言いますと、UFC側と諸々の条件が合わなかったということです。私たちとしてはなんとしてでも放送を続けたかったんですが、放送権交渉がまとまらず、やむを得ず断念したというかたちです。視聴者の皆さまには大変申し訳なく思っています。

——UFCはアメリカで大人気ということもあって、けっこうな放映権料を提示されたんですか?

大村　その前段として興行ペースの問題があります。当初UFCは2ヵ月に一回のペースで開催されていましたが、去年2月からほぼ毎月のペースになりました。そのぶん必然的に予算は増えているわけでして、それらも含めて総合的に予算は厳しかったという面は確かにありました。

——今年に入ってからは2回も開催された月もありましたし、確かに予算も追いつきませんよね。

大村　興行が増えること自体はありがたいことなんですけどね……。別な面では、いまアメリカでPPVが凄く好調ですよね。ですから、UFCとしては日本でもいずれPPVで放送したいという意向はあったようです。そこも将来的な展望という点ではネックの一つになったことは確かです。当社ではPPVはできませんからね。

——日本はアメリカに比べるとまだそこまでPPVが浸透しているとは言えませんよね。そんな中で、どうしてUFCはPPVにこだわったんですか?

大村　そもそも、なぜPPVが日本であまり根づいていないかわかりますか?　アメリカには、3大ネットとか4大ネットといわれる大きな放送局がありますよね。ABC、NBC、CBS、それに最近ではFOXが加わって4大ネットといわれています。あれだけ広い土壌なのに全国ネットはこの4つしかないんですよ。

再びUFCを

――それに比べて、日本はこんなに狭い国なのに、NHKを含めると、なんと6局もありますね。

大村　だからこそ、アメリカで多チャンネルのケーブルテレビが発達したんです。逆に、ケーブルテレビが基本になっている状態なんですね。そのぶんPPVという方式もかなり浸透しているんですが、それに対して日本でも最近になってケーブルテレビが浸透してきてはいるけれども、もともとある地上波が強いために多チャンネル化がアメリカほどは浸透してきていない。日本ではそれよりも、モア・クオリティが求められているんです。

――だから、日本の放送はハイビジョンのほうに傾倒していくわけですか。

大村　クオリティで比べると、アメリカのハイビジョンは日本よりも少々遅れていますからね。そこの意識の違いはあると思います。だから、いくらアメリカで最高に売れているPPVがあるといっても、日本で同じように爆発的に数字が伸びるかといえば、そんなことはないんですね。

――じゃあ、UFC側がPPVでの放送を望んでいたということは、アメリカ同様、日本でのPPVに対しても幻想があったということですね。

大村　もともとテレビは無料放送で見る習慣がついていた日本人がお金を払って観るというのは、まだまだ浸透していないし、当社だってデジタル視聴だと月に2415円（消費税込）いただいていますが、せいぜい240万世帯程度です。ところが、アメリカではすでに数千万世帯入っていたりしますから、UFCは日本でもPPVをやればもっと効率的に収入を得られると思っていたとしても、不思議ではないですね。まあ、『PRIDE』は日本のPPVの中では確かにいい数字を取ってはいましたけどね。

――それでもUFCとはあきらかにケタが違いましたよね。

大村　ですので、当社が放送を断念したのは、理由はホントに一つじゃないんですよ。さまざまな条件が合わなかったとしか言いようがないんですね。

――しかし、去年7月の『UFC61』でヴァンダレイが当時ライトヘビー級チャンピオンだったチャック・リデルに対戦要求したり、今年2月の『UFC67』でミルコが初参戦したりと、視聴者がUFCを観たいと思う要素は確実に増えていってたわけじゃないですか。

大村　とくに大きな流れがあったのがミルコですよね。以前もお話ししましたけど、ボクシングを含め格闘技部門はスポーツの中でもトップ水準の視聴があったんですよ。UFCもある水準を下がったり上がったりして、好成績だったんです。そんな中、「ちょっと下降気味かな？」というときにミルコがUFCに出ることが決まって。しかもミルコとUFCは6試合契約したと聞いていたんで、「これはいける！」と思って期待していたんですよね。

――6試合契約なら、2年近くは参戦し続けることになるでしょうからね。

大村　そうなんです。ですから、私たちとしても突然の放送中止は非常に残念ですし、視聴者の皆さまには本当に申し訳なく思っているんです。

――それでいうと、ダナ・ホワイトも『kamipro』のインタビューで「なぜ、こんなにいいソフトを日本の放送局は放送しないんだ」と強気なことを言ってたりするんですよね。

大村　……まあ、当社としても5年前から放送をスタートして、いままでずっと価値を認めてやってきましたからね。2002年にリングスからUFCに放送を切り替えたときに、UFCは日本ではまだ全然知名度はなかったわけですよ。そのときから比べると、いまのUFCは雲泥の差で成長してきていますからね。

――それが無念にも継続できなかった、と。

大村　ですから、何度も言うようですが、私たちは続けたかったんです。ダナが「なんで、こんなにいいソフトを！」という思いも充分わかるんです。そのくらいソフト自身の価値は認めていますし、視聴者の皆さまにも本当に申し訳ないと思っているんです。そもそもキリよく終わるんでしたら、3月で最後にしないとおかしいわけですからね。

――確かに、番組改編期となる3月いっぱいで終わるほうが自然ですよね。

大村　4月に関しては、暫定的に交渉を成立させたんです。ですから、そのあたりからも続けたかったという意志をわかってください。

――なるほど。ところで、3月に六本木ヒルズで行なわれた記者会見で『PRIDE』がUFCと同一資本になることが発表されましたが、その後、ダナも『PRIDE』を再開するにはテレビ局との提携が必至」というようなことを話していたんですよ。その点で、WOWOWにズッファ社からお話が来たことはあったんでしょうか？

大村　ないです。まったくないですね。

――それは、『PRIDE』だけじゃなく、UFCの放送を再開しようという話も？　他誌のインタビューでロレンゾは「WOWOWと話し合っている」と発言していて放送再開をほのめかしているんですよ。

大村　ないです。

――たとえば、WOWOWが提携している

スカパー！はPPVでの放送があるわけですよね。UFCの放送をスカパー！で再開するという話もないでしょうか？

大村　当社とスカパー！さんは確かに提携はしていますが別会社ですので、UFCがスカパー！さんに話を持っていっているのかどうかはまったくわからないです。

――そうなんですか。では、今後、日本の放送局でUFCを放送するにはどんな要素が必要になってくるんでしょうか？

大村　私たちはスポンサーが関係ない立場にありますから一概には言えませんが、スポンサーも一つあるでしょうね。当社は視聴者の意見を参考にしながら、私たちの意志で放送できる部分が大きいじゃないですか。ですから、もともとUFCを放送するときも、グレイシー一族が当初活躍したものだって認識はありましたし、横浜アリーナで開催されたUFC－JAPANも観に行ったぐらいで、非常に興味がありました。それほどメジャーではなかったですけどね。ですが、当社としてはちょうどリングスの放送中止が決まった時期でもあったんで、海外格闘技を扱うという選択肢があったんです。そのときにちょうど、UFCを放送しないかというお話をいただいたということだったんで。

――UFCを放送するきっかけは、もともとWOWOWでボクシングを放送していたことなんですよね。

大村　そうです。今回の『PRIDE』の件でロレンゾ・フェティータ氏が有名になりましたが、彼がネバダ州アスレチック・コミッションのメンバーだったんです。そのアスレチック・コミッションが

もう一つあるとしたら、フジテレビの経緯の余波がまだあるのかもしれない



他誌のインタビューで「08年にはWOWOWでの放送を再開できると自信を持っている」と発言しているロレンゾ。しかし、大村氏によるとズッファ社との接点はまったくないという。う～ん、いったいどっちが本当なんだ!?



ここ半年間、宙ぶらりん状態が続くUFC放送。UFC初参戦となった2月3日『UFC67』を含め、6試合の契約を交わしていたミルコだが、WOWOWとしては、これをフックに視聴者を取り込みたい思いがあっただろう……。

Kazuyuki Omura

管轄しているボクシングを当社で放送していたんですが、「彼が関わっているUFCを放送しませんか？」ということで、当社を含めてボクシングを放送している各国の放送局にそれぞれ声をかけたんだと思います。

――それはUFCの名を世界に広めるいい方法ですね。

大村　当時UFCは放送できるようなソフトにしようと、競技性を重視したスポーツに方向転換させていた時期でしたし、本当にタイミングのいいことに、桜井"マッハ"速人選手のUFC参戦が決まったりしましたから。

――でも、スポンサーが関係する民放局などでは、いくらアメリカで大フィーバーのUFCといえども、日本で放送するのは難しいですか。

大村　基本的にアメリカの格闘技ですからね……。ただ、もう一つ考えられるとしたら、フジテレビが『PRIDE』をあきらめた経緯があったじゃないですか。その余波がもしかしたらまだあるんじゃないでしょうか。

――UFCが『PRIDE』と同じイメージを持たれているということですか。

大村　その『PRIDE』を吸収合併したUFCということで、場合によってはリンクしてしまっているのかもしれません。実際はまったく違うんですけどね。

――ちなみにWOWOWでは、UFCはともかく、何かしらの格闘技興行を放送しようという意向はあったりするんでしょうか？

大村　いまのところは正直、未定ですね。というのは、格闘技イベントの頂点であるUFCの放送を断念したわけじゃないですか。そうすると、それに代わるものとなるとなかなか難しいんですよね。日本に限らずアメリカでも、いろいろな興行が行なわれていることはもちろん知っています。しかし、やっぱりUFCに代わるものとなると、なかなか……。

――視聴者側からすると、UFCが放送されなくなったことによって、代わりの格闘技イベントを放送してほしいという声はないんですか？

大村　根強いファンは当然います。でも一言に格闘技といっても、いま種類がかなり分散されています。当社としては、あれもこれもやるわけにはいきませんので、すぐには難しいですね……。

――ただ、よく言われるのは、UFCってアメリカの土壌でも充分に収益はあるわけじゃないですか。だから、日本はあんまり視野に入ってないのかなという印象も受けるんですけど。

大村　いやいや、そんなことはないでしょう。日本もちゃんとマーケティングの対象国として認知されていますよ。ただ、そこで条件が合わなかったり、もともと文化の違いがあったりと。アメリカで収益があるから、日本でもいいだろうということはないですよ。ただ、繰り返しになりますが、ソフトの価値として否定している人はいないと思いますが、それに対する金額や諸条件との折り合いがつくかどうかということでしょうね。


――確かに、ソフトの価値を認めるのと条件をクリアできるかどうかは別問題ではありますよね。

大村　ですので、私たちとしては、総合格闘技に関してはしばらくは静観という感じですかね。当社でも総合格闘技には興味がある人間が多いし、『kami·pro』買って読んでるヤツもいますんでね、放送したい気持ちはあるんですけど……。

【07年10月9日／WOWOWにて収録】

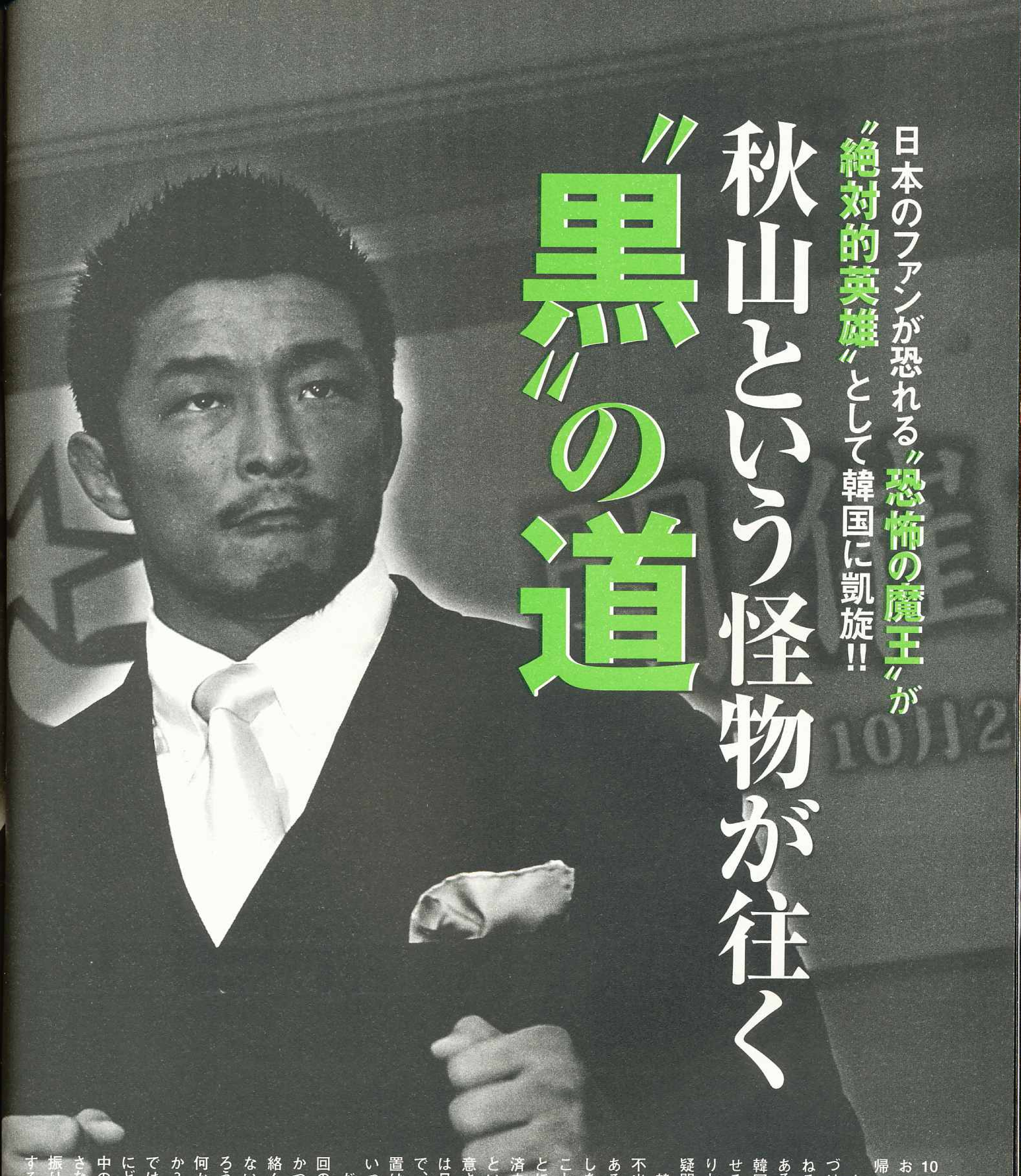
たいへんですよ!!

あの秋山成勲が帰ってきてしまう!!



魔王の帰還

桜庭和志戦での身体へのクリーム塗布という反則行為により、無期限出場停止処分を受けた秋山成勲の復帰が決まった。いまやあの亀田三兄弟と並ぶ“スーパーヒール”の帰還は、『HERO'S』に、そしてマット界に何をもたらすのか？　我々はどう観ればいいのか？　なあ、アッキー？（吉田秀彦調）。



日本のファンが恐れる〝恐怖の魔王〟が
〝絶対的英雄〟として韓国に凱旋!!

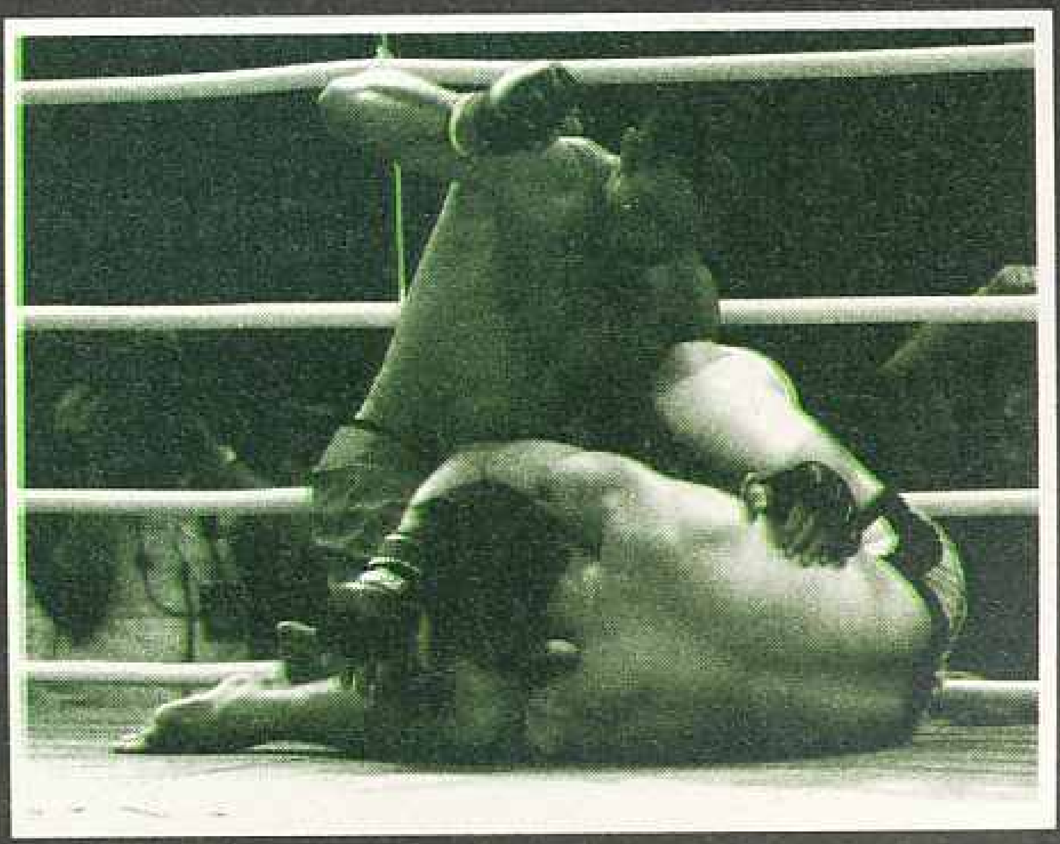
秋山という怪物が往く〝黒〟の道

秋山成勲がいよいよ復帰である。10・28『HERO'S』韓国大会において、彼は10ヵ月ぶりにリングへ帰ってくる。

とはいえ、復帰のタイミングと裏づけに関しては、まだまだ納得しかねるファンが多いこともまた事実であろう。秋山を「悲運の英雄」とし、韓国ファンの後押しに乗じて復活させるという今回のやり方には、やはりというべきか日本国内から続々と疑問の声が挙がっている。

韓国のファンは一貫して「秋山は不当な処罰を受けた」「在日差別である」と主張してきた。彼らの後押しを受けて秋山を復帰させるということは、言い分をそのまま認めることにもつながってくる。「みそぎ」を済ませ、生まれ変わってさあこれからという裸男に「豪華な檜舞台」が用意されるというのもおかしい。これでは日本のファンが憤慨するのも当然で、もはや国内における秋山の立ち位置は「観る価値のない嫌われ者」といったものになりつつあるようだ。

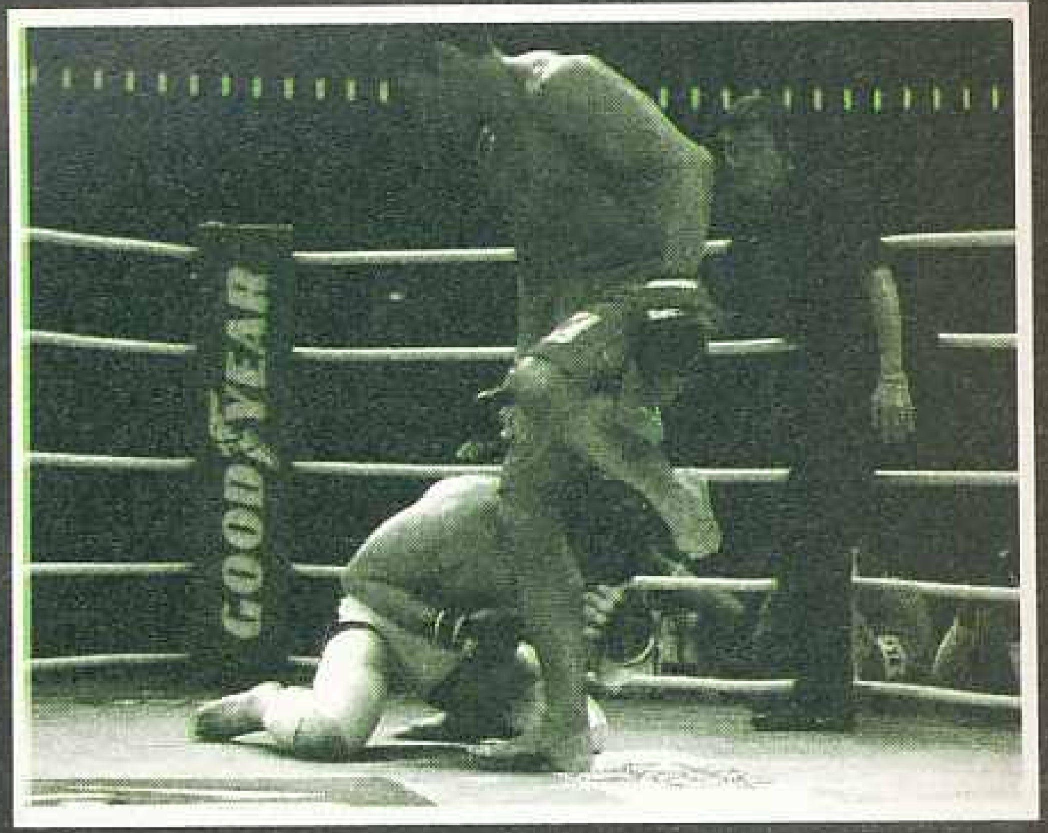
だが、ちょっと待ってほしい。今回のプロデュース自体は確かに強引かつ尚早なものであり、はからずも絡んできた民族問題もまた簡単ではない。しかし秋山自身はどうだったろうか？　このたびの復帰劇に関し、何か問題のある動きをしたであろうか？　殊勝な反省文も出した。会見ではあらためて謝罪もした。感情的にどう受け止めるかはともかく、「渦中の人」としてはまったくもって外さない振る舞いだったように思える。振り返ればこの10ヵ月間、秋山に関する情報といえば「やれFEGが」



サクに何十発も鉄槌を浴びせて勝利を強奪！　当初は反則行為を否定していたが、徹底調査の結果、故意によるクロと断定。無期限停止処分の身に。ファンからは永久追放の声が挙がった。



ヌルヌルしまくる秋山の身体に異変を感じたサクは、タイムポーズで試合中断を要請。レフェリーはサクのアピールを認めず、秋山はそのまま襲いかかった！　目を背けたくなる冷酷さ！



昨年の大晦日『Dynamite!!』で実現した桜庭和志vs秋山成勲戦。秋山は試合前、身体が滑りやすくなるクリームを入念に塗っていたため、サクのタックルがことごとく不発!!　すっごいすべるよ！

“ヌルヌル事件”から約10ヵ月!!
10.28『HERO'S』韓国大会で立ち上る
“黒い人間ドラマ”はどう転がるか!?

「やれ韓国が」といった周辺的なものばかりであり、秋山自身の近況そして心境に立ち入った報道はほとんどなかったと言っていい。我々は周囲の動きに惑わされすぎて、秋山成勲あるいは秋成勲という「人物」について見失なっている部分があるのではないか？　秋山は本当に「観る価値のない嫌われ者」なのだろうか？　それについては、もう少し考えてみる余地があるだろう。

かつて秋山が我々に見せつけてきた「強さ」。それは「寝技がうまい」「打撃が強い」といったスポーツ的な優位性をはるかに超える、極めて怪物的なものであった。いたぶるように鉄槌を落とし続けた凄惨なマイケル・ユーマ戦を持ち出すまでもなく、彼の試合にはいつも「痛み」と「凄み」が漂っていた。そして大晦日のクリーム事件を経て、いまや競技化の一途をたどるMMAというジャンルにおいて、秋山は「恐怖の象徴」としてそこにいた。この男は、格闘技がなかったらどうなってしまうんだろう？　そのような思いにとらわれたファンも少なくなかったはずである。当然ながら好き嫌いの分かれるスタイルとはいえ、その在り方はプロとして完全に合格であった。

秋山の本質がそこにある以上、FEGや韓国がどれだけ彼を「英雄」として後押ししようが無駄なことである。秋山は『HERO'S』の「魔王」となるべき存在なのだ。なみいる勇者たちを怪物的強さで退け「もっと手ごたえのある奴はおらんのか！」と高らかに笑う秋山と、ほくそえむ悪の参謀・谷川プロデューサー。FEGの意図はどうあれ、いまや「黒」のイメージがぬぐえなくなった秋山を活かす道はこれしかないのだ。

そう考えると今回の復帰戦は、秋山にとって非常にリスキーなものであることがわかる。このような大舞台で敗北を喫してしまえば、彼の「怪物性」は一気に薄れ、商品価値は下落する。秋山の没落を観たい日本のファンも、彼が負ければ満足しきってしまう。そのときこそ秋山は「消費」しつくされ、誰からも興味を抱かれない存在となるだろう。しかも、勝ったところで上積みできるものは何もない。ご当地でどれだけ拍手喝采を浴びたとて、日本で秋山を待っているのは「黒の道」だけなのである。

この原稿を書いている10月12日現在、秋山の対戦相手はまだ決まっていない。もしもデニス・カーンやユン・ドンシクといった強豪がマッチメイクされるようであれば、秋山はいよいよ死地に立たされることとなる。よしんばイージーな相手に決まったとしても、なにせ約1年ぶりの実戦である。どうやっても楽な闘いにはならないだろう。

一見して華々しくみえるこの「英雄的凱旋」には、じつのところ秋山のプロ生命がかけられてしまっているのだ。負ければ、死ぬ。秋山に対する好き嫌いはともかくとして、この「崖っぷち一番」には誰もがドラマを感じずにはいられないだろう。

また、秋山はかつて「柔道をするために日本国籍を得た」と発言し、韓国マスコミから大バッシングを受けたことがある。韓国在住時は、在日コリアンとして差別を受けた経験もあるという。そのような背景を鑑みるに、彼が「韓国のみんな、ありがとう―！」といった単純なスタンスで試合に臨むとは考えにくいのだ。いま自分を後押ししている民族感情を、秋山は本当に信用できているのだろうか？　もしも否定的に捉えているならば、彼のモチベーションはいったいどこにあるのか？

その答えはやはり「黒」ということになるだろう。長きにわたって闘いを奪われ、鳴りやまぬバッシングの声に晒され続けた秋山の「黒き感情」は、いまや爆発寸前といったところであろう。だからこそ赦しの声を待たぬまま、すぐそこにあるリスクにも目を向けぬまま、利用できるものはすべて利用しつくして彼は戦地に飛び出した。「みそぎ」も「崖っぷち」もあっさり消し飛ばした秋山の「巨大なる黒」は、いままさにすべてを塗り潰さんとして大きくうねり始めている。それは「憎しみ」や「怒り」や「反骨」といったありふれた感情ではなく、やはり「黒」としか形容できない特異なものなのだ。

いまやファイターとして、あるいは「黒の魔王」としてたぎりにたぎっている秋山から目をそらすことは、MMAファンとしてあまりにも損である。秋山は確かに「黒き存在」かもしれないが、だからといって「つまらない選手」というわけではないのだ。悪には悪の魅力があり、その魅力にもまた「旬」というものがある。MMAに競技性を超えたおもしろさを見出したいのであれば、いま秋山成勲から目を離すべきではない。

（田中太陽）

K-1WGP in ソウル大爆発！ HERO'S』韓国大会での秋山復帰も決定!!

谷川貞治ペーハーのマングカムニダインタビュー

サダハルンバに2年遅れの韓流ブーム到来！



聞き手／ジャン斎藤

※「ペーハー」「マングカムニダ」の意味は本インタビューをお読みください。

昨年の大晦日ヌルヌル事件勃発以降、毎月毎月、谷川さんには〝秋山問題〟について聞いているような気がするが、とうとう〝復帰〟という一つの大きな局面を迎えることになった。なので、今回もやっぱり、登場してもらうしかない！よっ、サダハルンバ！

谷川さんの〝秋山問題〟に関する細かい意見や感想は本誌のバックナンバーを参照していただきたいが、今回は「なぜ復帰の舞台が韓国なのか？」がほんのりわかる内容になっています。ちなみに『PRIDE』事務所閉鎖情報がリリースされる直前のインタビューで、前田日明SVの「ざまあみろ!!」発言はこの翌日のこと。前田SVの発言で謝罪文を書くことになるとは露とも思っていない、我らがサダハルンバの〝これは驚きだ!!〟節をご堪能ください。

——谷川さん、何を頼まれますか？

谷川　ボクはね、パスタセットで！

——じゃあ、ボクも同じものを。

谷川　あとパンも食べたほうがいいよ。ここ（レストラン）のパン、凄くおいしいんだよ。

——じゃあ、ボクも同じものを（笑）。

谷川　ホントにおいしんだよなあ、このパン。いつもたくさん食べすぎちゃって、メインのパスタがお腹に入らないんだよ。

——じゃあ、やめましょう、パンは（笑）。それで谷川さん。ついにあの秋山成勲が10月28日『HERO.S』韓国大会で復帰することが発表されましたね。

谷川　ええ。明日（10月5日）も『HERO.S』の会見を開く予定なんですけど……、まだ秋山選手の対戦相手が決まってないんだよなあ。

——聞くところによると、ムリーロ・ニンジャとやらせたいそうですけど。

谷川さん、ホント好きですよね、ムリーロ・ニンジャ。あとここのパンも（笑）。

谷川　だっておいしいからね〜。でも、ニンジャはいまエリートXCに上がってるから、契約上難しいみたいなんですよ。

——でも、確かFEGはエリートXCとアライアンスを組んでたんじゃなかったですっけ？

谷川　そうなんだけどさあ、エリートXCとは微妙な関係なんだよねえ……。まあ、ニンジャはチャンピオンじゃないから借りられるとは思うんだけど。

——それにしても、秋山選手を日本でなくて韓国で復帰させるというのは、どんな配慮があってのことなんですか？

谷川　いやあ、ホントはもうちょっと早く復帰させたかったんだけど、ズルズルとここまで引っぱっちゃったというのが正直なところなんですけどね。

——じつは、『kamipro』のケータイサイトで秋山復帰のアンケートを実施してるんですけど、多くのユーザーは「逃げた」という印象があるみたいなんですよ。

谷川　ウソ!?

——「これは驚きだ！」って感じですか？（笑）。

谷川　それは秋山選手が？　それともFEGが？

——どっちもですかね。要するに、秋

ボクは「非難を受けても試合をする！」という状況でやらせたかったんだよねぇ

山選手は日本と違って韓国では〃英雄〃として見られてるわけですよね。なので、〃ホームダウン〃で無難に復帰させようとしてるんじゃないか、と。

谷川　なるほどねえ。でも、その点でいうと秋山選手は逃げてないですよ!!

——ほう！

谷川　彼は本当に試合に出たがっていたんです。やっぱり、いろいろ迷惑をかけたから、視聴率とかで自分が役に立つのならという気持ちはあったみたいで。だから7月の『HERO'S』では、秋山選手を含めてトーナメントをやろうと思ってたくらいなんですよ。あと桜庭（和志）選手が『Dynamite!! USA』に出るときにメディカルチェックで落ちそうになったじゃないですか。あのときも、ボクらから声をかけたわけではないんですけど、秋山選手はホイス（・グレイシー）と闘う準備はあったみたいなんですよ。「各方面に迷惑をかけたぶん、何か恩返しをしなきゃいけない」ということで。

——今回の秋山復帰に関して谷川さんにはどんな反響が届いてるんですか？

谷川　非難の声はないですね。

——なし！　じつに大人な方が多いですね（笑）。

谷川　それは本当にない。反対に、ボクは「非難を受けても試合をする」というシチュエーションでやらせたかったくらいなんですけど。

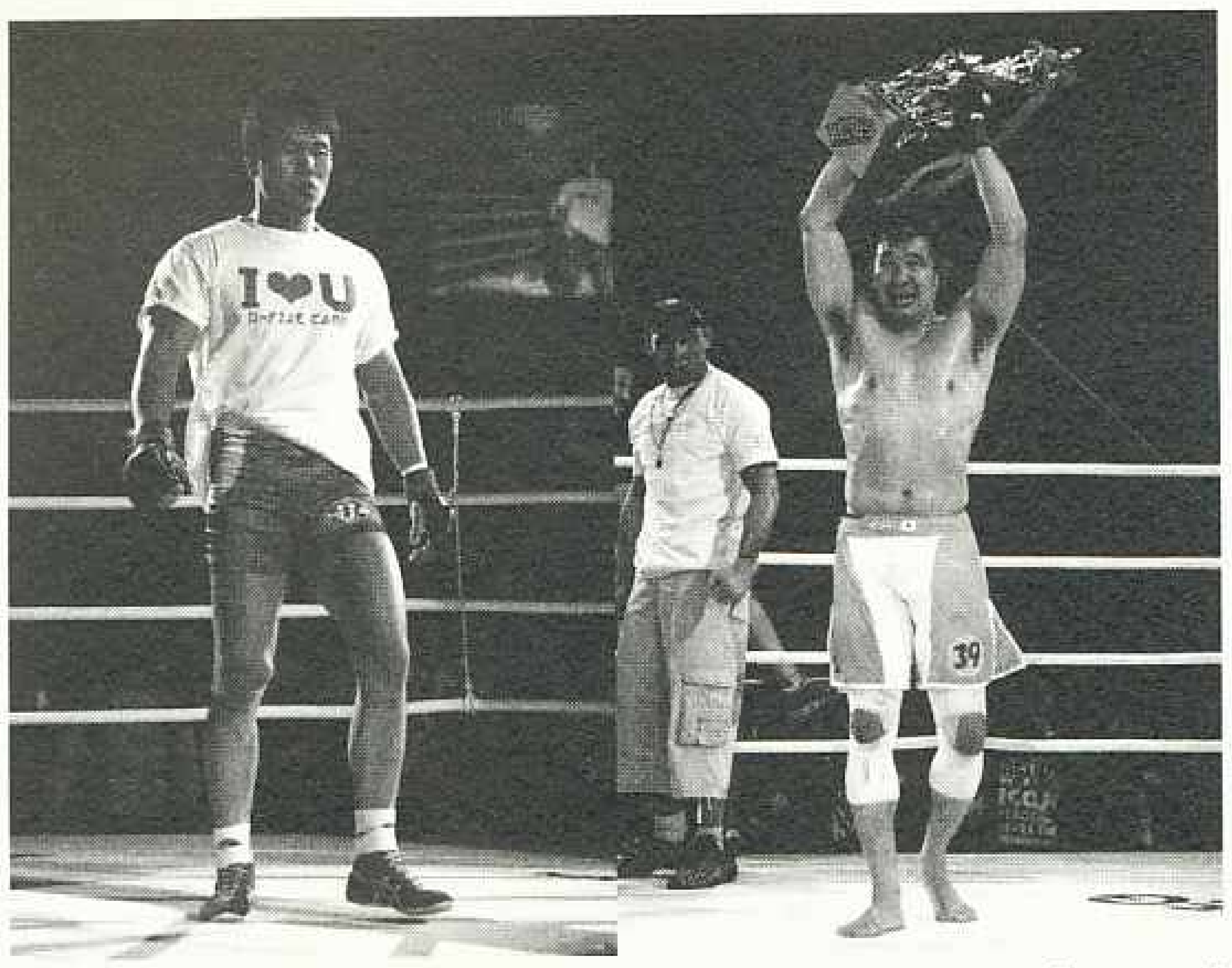
——つまり、波紋を投げかける試合にしたかった、と。

谷川　あと、ボクが最初から気にしているのは一点だけ。つまり「対戦相手を誰にするか」ですよね。

——それはもちろん強い選手じゃなきゃいけないってことですよね。

谷川　そうそう。秋山選手がどう考えてるかわからないですけど、ボクは強い選手じゃないとダメだと思いますね。秋山選手が負ければファンの溜飲は下がるし、逆に勝てば「秋山、強い!!」って思われるわけですから。

——そういう言葉を聞くと、対戦相手の発表が楽しみでしょうがないですね。



「ああ、うまくいかないよお！」と谷川代表を悩ませたのが、田村の『HERO'S』初戦。秋山に最も早く噛みついた田村だったが、金泰泳にあえなく判定負けし、秋山戦での気運が急降下。しかし、谷川代表が言う“『PRIDE』っぽい”興行を目指すのであれば、やっぱり桜庭との再戦が最も“『PRIDE』っぽい”という話もあるのだが……。

谷川　……ちょっと難航してるんだけどなあ。

——いやあ、楽しみだ、楽しみだ（笑）。期待してますよ、谷川さん！

谷川　まあ、ファンの非難や納得も含めて、とにかく対戦相手次第ですよ、本当に。復帰戦で強いヤツとやって、そのあとに田村（潔司）選手とか〃反・秋山派〃とのからみで物語性が生まれていけばいいなって。

——ちなみに、復帰に関して〃被害者〃である桜庭選手はどんな反応ですか？

谷川　ええと、桜庭選手のマネージャーの方に伝えたときは、「了解しました」という感じだけでしたけど。サクちゃんは、この問題自体の解決方法には納得してくれたんですよ。だから、サクちゃんも出たくないアメリカの大会にも出てくれたりしてますし。だけど、じゃあ秋山選手個人に対する感情はというと、本人に直接聞いたわけじゃないですけど、サクちゃんの性格からすると、現時点で許しているとは思わないですね。でも、それは時間が経てば変わるかもしれないし。

——桜庭さんの感情は変わると思いますか？

谷川　それは秋山くんの今後の活躍次第じゃないですか？　たとえば、秋山くんが魔裟斗くんみたいな生き様を見せたら、これはもうサクちゃんとしても納得せざるを得ないじゃないですか。「1回戦でブアカーオとやりたい」とか「ケガしても決勝戦に出る」みたいなね。

——そのためには主催者側の覚悟も問われるわけですね。ヘタに秋山選手をかばったり、守ったりすることはできないというか。

谷川　そうですね。だから対戦相手も問われるんです。一般のファンはピンとこなくても、コアなファンが「なるほど、コイツとぶつけたか！」ってうなるような相手がいいと思うなあ。

——気が早いですけど、秋山選手の大晦日出場は？

谷川　まあ、結果次第ですね。というより、勝ち負けはあんまり関係ないと思ってますけど、いい試合をしたら大晦日も考えられるかなあ、と。

——しかし、大晦日はスペシャルな舞台ですから、それなりの相手が必要じゃないですか。谷川さんとしては誰と闘ったらおもしろいと思いますか？

谷川　あの騒動が起こった時点では、『kamipro』とかいろいろ読んでやっぱり田村選手とやらせたかったんですけど……、まさか金（泰泳）ちゃんに負けるとはなあ。だから、タムちゃんにはもう一回名誉挽回のチャンスを作ろうと思ってたんですけど、9月の『HERO'S』はU-FILEの大会と日程がバッティングしちゃって。

——今回の韓国大会で田村さんを参戦させる計画はなかったんですか？

谷川　できれば出ていただきたいですけど、まあ、基本的に韓国向けのカードが並びますからね。だって、いまの韓国の格闘技熱って本当に凄いんだよ！

——そんなに凄いんですか？

谷川　うん！　もう韓国にずっといたいくらいだよ!!

——ダハハハハ！　目指せ、韓国でのコマーシャルデビュー（笑）。

谷川　ホントに凄いですよ。『HERO'S』もチケットはすぐに完売すると思いますね。2年くらい前は韓国でチケットなんてまだまだ売れなくて、いろいろ努力をしてたんですけど、9月のK-1WGPはまったく招待券も出なかったですから。

——しかも今度の『HERO'S』は、秋山にユン・ドンシク、デニス・カーンと、韓国のトップスターが並びますね。

谷川　凄い大会だなあ～!!

——主催者も感心！（笑）。谷川さんは『kamipro Special 2007 AUTUMN』で「日本のMMA難民を救う」とおっしゃってましたけど、もう、日本の〃MMA難民〃にはかまってられないですかね。

谷川　かまってられないよ!!

——ダハハハハハハハハハハハハハハハハ！

谷川　まあ、それは冗談ですけど。

——いや、まったく冗談に聞こえないですね（笑）。

谷川　いやいや、ボクは日本の格闘技熱を本当に取り戻したいんですよ！　K-1MAXはひさびさにチケットが完売したし、今年はWGPの決勝大会は東京ドームじゃなくて横浜アリーナで開催することにしたんです

けど、チケットの問い合わせが相当あるんですよ。やっぱり開幕戦でいい試合が連発したからね～！

――そこで残念だったのが、チェ・ホンマンvsマイティ・モー戦のレフェリングに〝クエスチョン〟が残ってしまったことなんですよね。

谷川　ああ。でも、あのローブロー問題はミーティングの結果、訂正を出すことになりました。ダウンじゃありません（※ダウンは無効と訂正されたが、総ポイント2―0でホンマン勝利は変わらず）。

――あ、そうなんですか。でも、なんかああいう不透明なジャッジが毎回起こると、どんなにイベントがおもしろくても、不信感がつのってしまいますよね。

谷川　だから、昨日のMAXでもレフェリーやジャッジ陣に言ったんですよ。魔裟斗が負けようが何しようが、K―1がへんに思われるようなレフェリングだけはやめてくれ！　って。やっぱり、熱を高めるには、『Dynamite!!』とかお祭りイベントも大事ですけど、MAXや『HERO'S』とかレギュラーの大会を良くしていくことが課題になってますから。

――ところで、大晦日の『Dynamite!!』はどこで開催する予定なんですか？

谷川　たぶん、また京セラドームですね。本当はさいたまスーパーアリーナでやりたいんですけど、『PRIDE』がまだ予約してるまんまだから。もし空いたらそっちでやりたいんだけど、やっぱり大阪かなあ。

――でも、谷川さんの韓流ブームぶりを見ると、「来年の『Dynamite!!』は韓国でやる！」って言い出しかねないですね（笑）。

谷川　確かに韓国はいいんだよねえ～。いま『朱蒙（チュモン）』ってドラマにハマってるんだけど、あれは絶対に観たほうがいいよ！　斉藤くんもDVDを借りて観てよ!!

――いや～、ボクはああいうシリーズものはいつも途中で飽きちゃうんですよね。

谷川　そんなこと言わずに!!（身を乗り出して）。ボクなんか81話を完遂したんだよ！

――多忙な谷川さんがいつの間に（笑）。

谷川　家に帰って深夜1時くらいから観始めるんだけど、気がつくと朝の5時とかになってて。主人公が毎回ピンチになるから、思わず見続けちゃうんだよ。「ああ、どうなるんだろ～？」って。

――完全にドラマの手のひらの上で転がってますね（笑）。『朱蒙』のどのへんに惹かれてるんですか？

谷川　いろいろあるけど、ドラマの手法が梶原一騎なんだよね。物語が濃厚で、主人公はいじめられていじめられて這い上がる。ピンチから脱すると「やったー!!」と思うもん！

――谷川さん、相当にストレスが溜まってるんじゃないか（笑）。

谷川　そうなのかなあ。あと『冬のソナタ』なんかを観ても、「人を好きになってみたいなあ～」って気持ちになるんだよねえ（うっとり）。

――ダハハハハハハハハ！

谷川　でもね、『朱蒙』にハマってるのはボクだけじゃないんだよ。FEGはみんなハマってる。柳沢（忠之、元『紙のプロレス』発行人）もセリフをマネしてるもんね。

――柳沢さんまで！　ちなみに元・相棒の山口日昇は高級時計収集にハマってます（笑）。

谷川　知ってる？　韓国語で「陛下」のことを「ペーハー」って言うんだけどさ、ユン・ドンシクに「お願いだから、ボクのことは『ペーハー』って呼んでくれない？」って頼んでね。

――何をやってるんですか、いったい（笑）。

谷川　それに、「ありがとうございます」って「カムサハムニダ」って言うじゃない。それを、もっとへりくだった言葉で「誠に恐れ多きことでございます」みたいなことを「マングカムニダ」って言うんだけど、ユン・ドンシクに「ちょっと、マングカムニダ、ペーハーって言ってくれない？」ってお願いしたりね。

――そうですか（笑）。じゃあ、谷川ペーハー、今日はどうもマングカムニダです！

谷川　ああ、気持ちがいいなあ～！

――それはそれはマングカムニダです（笑）。

谷川　ねえ、もうちょっと『朱蒙』の話をしようよ!!

【07年10月4日／都内・某ホテルにて収録】

その後、本誌締切直前の10月12日時点で、秋山成勲の対戦相手を含む10・28『HERO'S』韓国大会のカードはまだ発表されていない。しかし！　谷川ペーハー自ら、秋山には〝「なるほど、コイツとぶつけたか！」ってなるような相手がいいと思う〟と語っているので、これはおおいに期待するしかないが……。



2通の“手紙パワー”が炸裂し、ようやく復帰となった秋山。一発目を闘う韓国ではまさに“英雄”としてもてはやされるであろうが、日本の反応はいまだに冷ややか。しかし、そんな状況でこそ、見応えが倍増する試合だったのだが。

魔裟斗が負けようが、K―1がへんに思われるレフェリングだけはやめてくれ！って。

緊急掲載！

サダハルンバおすすめ韓国ドラマベスト5！

1『宮廷女官チャングムの誓い』

16世紀初頭の朝鮮王朝時代を舞台に、実在の医女チャングムを描いた韓国の時代劇。亡き母の意志を継ぎ、宮廷料理人の頂点を目指すチャングムは、宮廷内の権力争いに巻き込まれながらも、やがて医学を学び、最後には王の主治医を務めるまでになる、という感動的なストーリー。「ボク、こういうのが好きなんだなって自分でわかった！」とサダハルンバを開眼させたドラマでもある。

2『朱蒙（チュモン）』

高句麗の初代王とされる朱蒙を主人公としたストーリー。実父を裏切ったクムワ王という人物のもとで育つという複雑な生い立ちを持つ朱蒙は、実父とは知らずに〝師匠〟と慕う人物に武芸を習い、人間的に成長していく。その過程を、サダハルンバは「ピンチだ！」「やな気分っ」「やったー!!」など、一喜一憂しながら全81話を見届けたそうである。お疲れさまでした！

3『ホジュン』

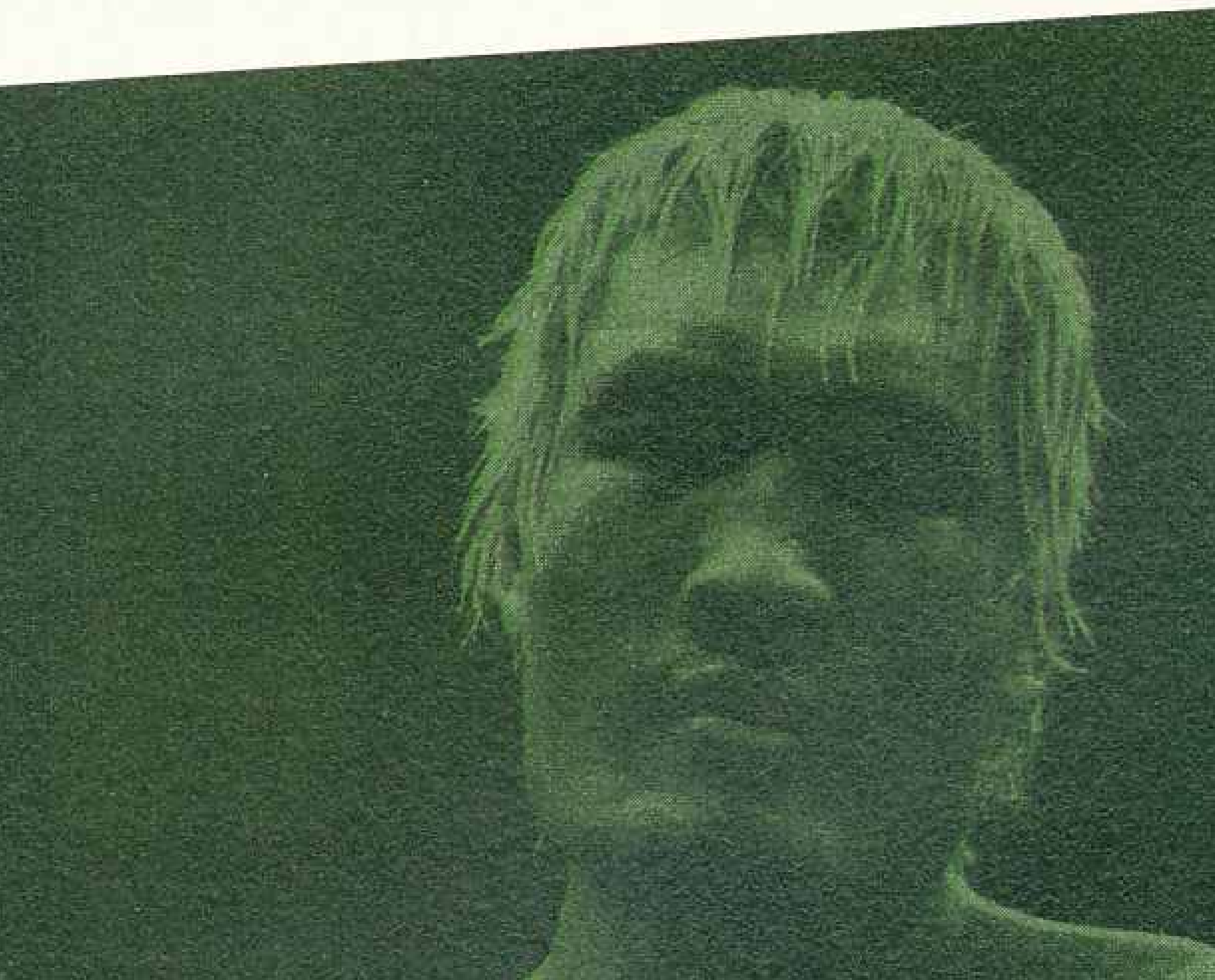
韓国一の名医ともいわれるホジュンの一生を描いたヒューマンドラマ。自らの運命を悲観し、密貿易に手を染めるならず者だったホジュンだが、生涯の師となるユ・ウィテと運命的な出会いをはたし、医学の道に目覚める。これもサダハルンバが「もう、疲れたよお」と深夜に帰宅しながらも、目を血走らせながら完遂した感動ストーリーである。

4『冬のソナタ』

韓流ブームの火つけ役ともいうべき作品であり、サダハルンバを「人を好きになってみたいなあ」と、うっとりさせた名作でもある。ヒロインのユジンは学生時代に恋人だったチュンサン（ヨン様）を交通事故で亡くすが、数年後チュンサンと瓜二つの人物ミニョンと出会い、周囲に妨害されながらも再び恋に落ちる。のちに、じつはチュンサンとミニョンが同一人物であることがわかるという複雑さを極めた物語である。

5『英雄時代』

「これはまだ観てないんだけど、もしかしたら『チャングム』を超えるかもしれない！」と、サダハルンバをすでに興奮させている一作。韓国5代財閥に数えられる「ヒュンダイ」「サムスン」など、実在する企業や人物をモデルに描いた経済人間ドラマで、韓国の経済を牽引した男たちが、英雄として上り詰める道程を描いた、まさに立身出世の物語である。



インサイドコリア

인사이드 코리아

第18回

過熱する韓国のK-1人気!!



9月30日、韓国では初のK−1 GPの開幕戦が開催され、オリンピック第1体育館では1万6652人の観客を集めて大盛り上がりを見せた。だがこの大会は、リング上では反則疑惑、リング外では秋山成勲の復帰会見、そして会場外では市民団体との暴力事件が発生するなど、さまざまな話題をふりまいた大会だった。

■ホンマン勝利の判定には韓国人も不満?

この大会のメインイベントでは、マイティ・モーvsチェ・ホンマンの再戦が行なわれた。2ラウンドにホンマンがモーに放ったローブロー気味のキックがダウンと宣告され、ホンマンが判定勝ちを収めた（試合後の審議でダウンは無効となったが、勝敗は覆らず）。会場では満員の観客が大興奮し、韓国大会で地元の英雄ホンマンが韓国人の宿敵モーを退治してリベンジに成功するという、最高のシナリオで幕を閉じたが、この大会に対する批判が相次いだ。

その主な批判は、"チェ・ホンマンは韓国で過度にアドバンテージが与えられているのではないか"というもの。韓国では一般の新聞メディアもK−1の試合を報道する。大手の『朝鮮日報』などは「どうしてホンマンにこのようなアドバンテージが与えられているのか? それは日本で視聴率や集客力の低下に頭を悩ませるFEGがK−1人気の高い韓国や、格闘技熱の高いアメリカ市場を重視しているからだ」と言いきる。

また、『マイデイリー』というニュースサイトは「この大会はXTMで生中継され、ホンマンvsモーの試合は歴代K−1放送史上3番目に高い記録を残すなど、ファンの関心は高かった。しかし問題点も多く、会場外での暴行事件やメインイベントの判定、最高額で110万ウォン（約15万円相当）に達する高価な入場料、いきすぎた取材制限、韓国と日本の記者との差別待遇など、さまざまなことが話題になった。K−1が韓国で開かれるのは4年目だが、大会を開くたびごとに指摘される問題点はあいかわらず」と手厳しい。

しかし、韓国で高い知名度を誇るスター選手を多数抱えるFEGは、韓国国民から想像以上に高い関心を寄せられており、これらのマスコミの批判は"敵国である日本発の格闘技イベントが韓国に受け入れる現象"への危機感とも受け止められる。それほど韓国現地のK−1人気は凄まじい。

■会場外で大騒動? 市民団体と警備会社のあいだで暴力事件

今回の大会では会場の外で警備会社がK−1の暴力性を批判するデモを行なう市民団体に暴力事件を起こしたことが話題となった。

大会開催当日、10名程度の市民が会場の前で「K−1や格闘技は学校暴力を助長する」というデモを行なっていたが、警備会社の職員がこれを制止する過程で、市民らとそれを撮影するカメラマンに危害を加えるという事件が発生した。この乱闘劇は20分以上にも及ぶ騒動で、結局警察が出動してなんとか事態は鎮静した。警察は威嚇・暴行を働いた警備会社の職員を連行して立件し、被害に遭った市民と取材陣は該当職員を告発したという。あくまでも警備会社の引き起こした問題ではあるが、大会運営側はただちに謝罪の意表明している。

市民だけでなく警備会社も熱いのが韓国。暴力に反対する市民団体に、暴力で抑えようとする警備会社を雇ってしまった大会運営側に同情心すら湧いてくるが、会場の前でデモが行なわれるほど、社会的にも注目された大会だったとも言えるだろう。

■韓国では凱旋帰国? 秋山成勲が復帰会見

FEG側は秋山がソウル大会で復帰する理由について「韓国大会の主催側の要望とファンの復帰を望む声が大きいため」と明らかにしているが、このような発表にも韓国メディアは「それは表面的な理由で、実際は秋山が日本で差別的な批判を受けているため、韓国で復帰するしかないのが現実」と書き立てている。メディアの共通した主張は「桜庭との試合を圧倒的に進めたにもかかわらず、"不運な"クリーム事件によって、秋山の勝利は試合とギャランティをはく奪され、無期限出場停止処分が下された。さらには韓国人の血が流れる秋山に対する差別も広がった」というあいかわらずの内容。日本人が敏感に反応するクリーム事件を"不運な"事故のように報道する韓国においては、秋山を批判するファンはほとんどいないのも当然か。

FEG側はK−1ソウル大会の翌々日（10月2日）に韓国で秋山の復帰戦に向けた謝罪会見を行なったが、会場の雰囲気はまるで復帰戦の抱負を語る会見だった。実際、秋山自身もこの会見で「韓国には、僕のファンクラブがあるのですが、そこから凄い数のメールが来ました。それらはすべて応援のメッセージだったので、とてもありがたかったです」と答えている。

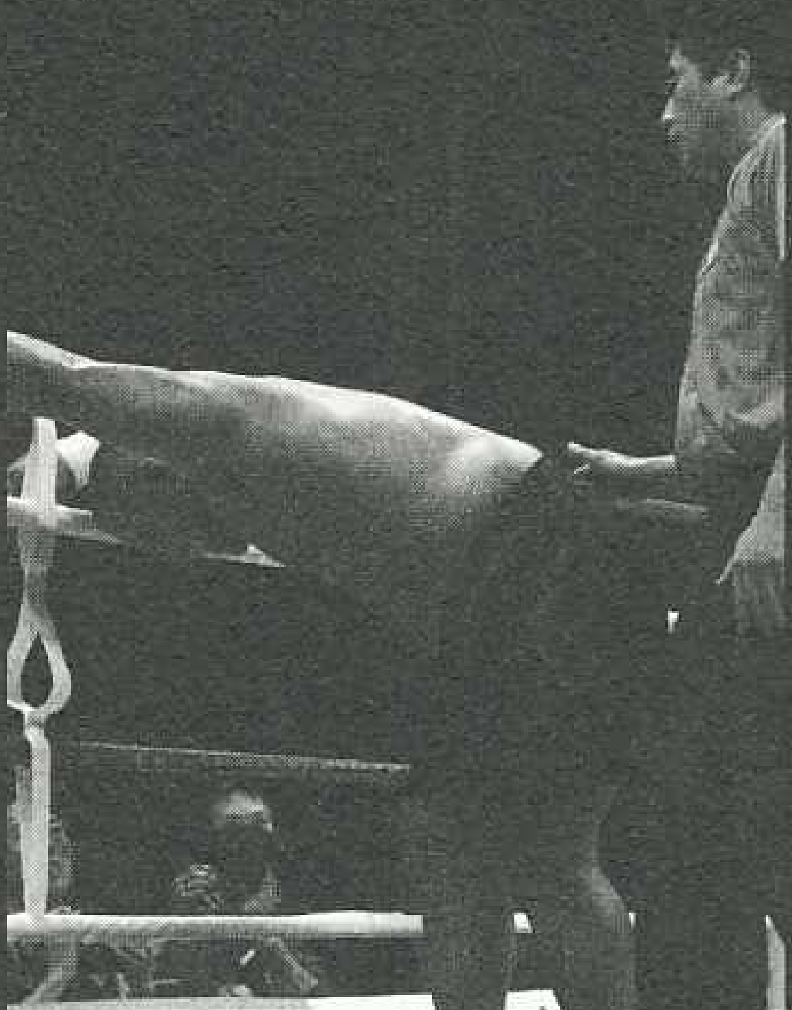
日本と韓国において、あまりにも違う秋山成勲という人物の扱われ方は、両国の文化的な違いを象徴しているようで非常に興味深いものだ。現時点で韓国ファンの応援が秋山を支え、復帰への大きな力になっていることは間違いない。

しかし日本に帰化して、日本で格闘技人生を送ろうとする秋山にとって、こうした二極化された報道や両国での感情の違いは、逆にいつか彼を苦しめることになるのではないかと心配してしまう。それほど韓国と日本における秋山像は異なっているのである。

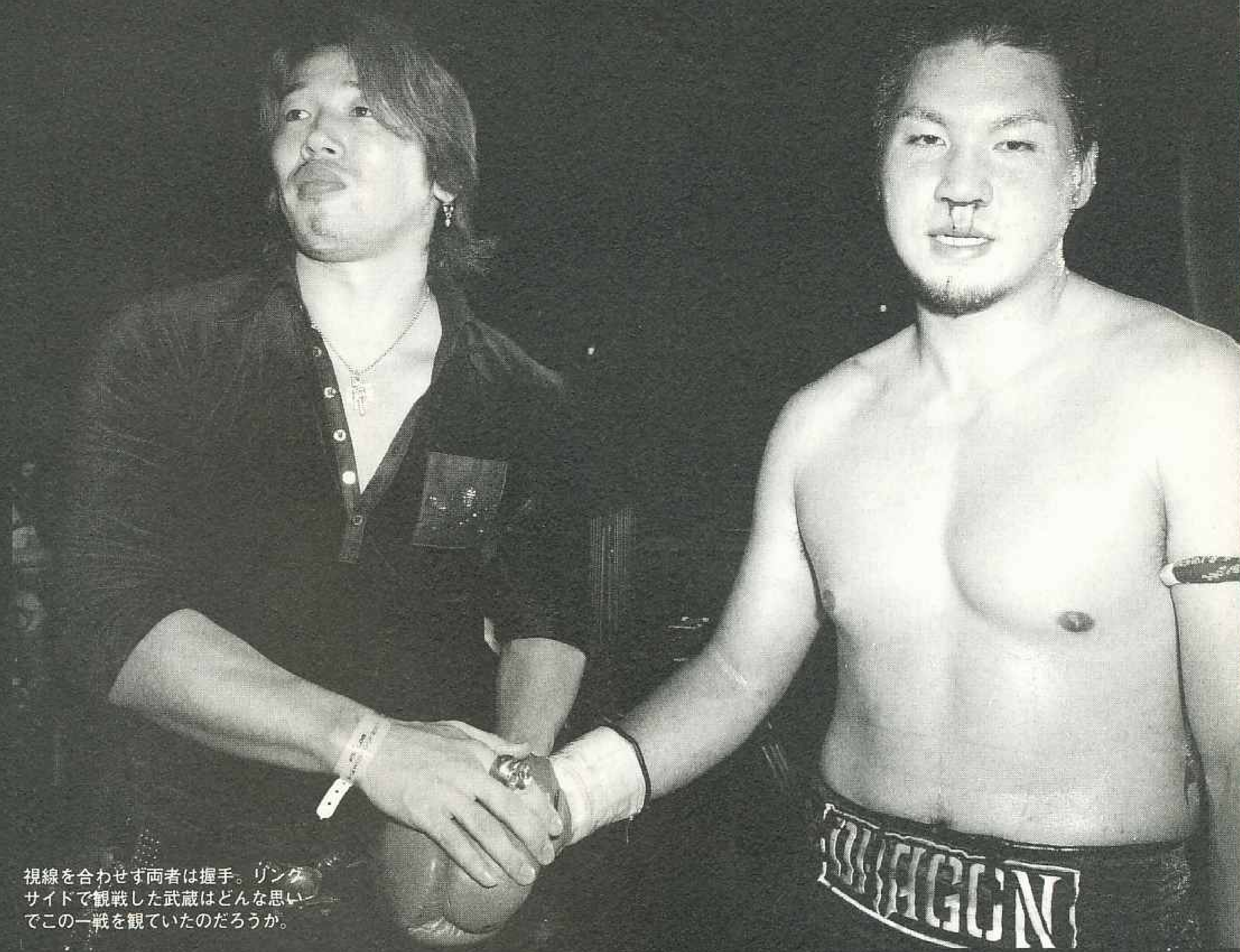
（大川"隊長"義之）



澤屋敷のヒザ蹴りとパンチでダウンを重ねた藤本。日本最強を決めるというテーマで煽られた試合としては低調な内容だった。澤屋敷の決勝大会での活躍に期待したい。



チェ・ホンマンの「腸蹴り」（by谷川P）でマイティ・モーにダウン裁定が下った（後日、撤回された）。FEGでの審判問題が、またも取り沙汰される結果になってしまった……。



視線を合わせず両者は握手。リングサイドで観戦した武蔵はどんな思いでこの一戦を観ていたのだろうか。

“キラー紀香”は「覇気がない!!」と一喝!!

武蔵なきK-1に未来は見えたか!?

9.29 K-1 WORLD GP 2007 IN SEOUL黒魔術的レポート

本誌前号のK―1特集の最後で触れた「武蔵と行く韓国観戦ツアー」は、申し込みが最少催行人数に達しなかったらしく、開催されなかったそうだ。武蔵の現状を物語るようで非常に残念である。

武蔵抜きで開催された『K―1WORLD GP2007開幕戦』は前半からハイレベルな攻防が繰り広げられ、満員のソウル・オリンピック第1体育館は熱狂の渦に包まれた。

そんな中にあって澤屋敷純一vs藤本祐介の“日本人最強決定戦は異様な雰囲気の試合となった。全試合を生中継したCS放送『フジテレビ739』の中継では、試合後にマイクオフ状態と勘違いした放送席の藤原紀香が、思わずこんなことを口走っているのがバッチリと放送されている。

「二人ともホントにもっと強いんだろうけど、あんまり覇気がなかったよね」

キンキンした声で「凄いですねぇ！」と感激しているいつもの藤原紀香ではなく、低い声で突き刺すような鋭い言葉を発する“キラー紀香”の出現である。序盤に鼻骨を骨折した澤屋敷が鼻血を流しながらも藤本をKOするという壮絶な内容だったのだが、確かに心が折れてしまったような藤本のダウンなどを観ていると“キラー紀香”の言うことも「もっともだ」と納得できる。

この違和感の根源は武蔵抜きで日本人最強を争うというテーマに対する疑問であり、さらには現在のK―1には武蔵が足りないということである。携帯サイト『kamipro Hand』で実施したアンケートでは「WORLD GP 決勝大会で期待するカードは？」という質問に、「バダ・ハリvsボンヤスキー」「澤屋敷vsバンナ」に続いて「武蔵がリザーバーに出場するかどうか」が第3位でランクイン！ 武蔵は出場すらしていないのに、澤屋敷のカードと大接戦だった。“永遠の時”を生き続ける武蔵への期待はますます高まっていることがおわかりいただけるだろう。

ちなみに、この大会のメインイベントで行なわれたチェ・ホンマンvsマイティ・モーの試合で、ローブローを主張するモーに対して、レフェリーがダウンを宣告（のちに不可抗力のためダウン取り消しの裁定が下った）。放送席の谷川貞治K―1イベントプロデューサーが「あれは腸蹴りですね」と珍しく技術的な解説をしたものだから、ネット上では大騒ぎに。谷川PはVTR判定の導入も検討すると示唆したが、おなじみとなりつつあるFEGイベントのレフェリング問題にどのようなメスを入れるのかにも注目したい。

ただ、言うまでもなく最大の注目ポイントは、武蔵が12月9日に横浜アリーナで開催される決勝大会のリングに上がってくるのかどうか？ である。視聴率の苦戦が伝えられるいま、谷川Pも「澤屋敷選手より視聴率を持ってる」という武蔵の投入を検討しているのではないか？ K―1最高の大舞台で、谷川黒魔術は発揮されるのか!?

（文／坂井ノブ）

9.29 K-1 WORLD GP 2007 IN SEOUL FINAL16
韓国ソウル・オリンピック第1体育館

［第1試合スーパーファイト］
○キム・ヨンヒョン［3R 判定3-0］柳澤龍志×
［第2試合FINAL16］
○バダ・ハリ［2R 1分23秒 KO］ダグ・ヴィニー×
［第3試合FINAL16］
○セーム・シュルト［1R 2分26秒 KO］ポール・スロウィンスキー×
［第4試合FINAL16］
○レミー・ボンヤスキー［1R 2分50秒 KO］ステファン・“ブリッツ”・レコ×
［第5試合FINAL16］
○グラウベ・フェイトーザ［3R 判定 3-0］ハリッド・“ディ・ファウスト”×
［第6試合FINAL16］
○ジェロム・レ・バンナ［1R 0分54秒 KO］パク・ヨンス×
［第7試合FINAL16］
○澤屋敷純一［3R 1分34秒 KO］藤本祐介×
［第8試合FINAL16］
○ピーター・アーツ［1R 終了時 TKO（タオル投入）］レイ・セフォー×
［第9試合FINAL16］
○チェ・ホンマン［3R 判定 2-0］マイティ・モー×

K-1 WORLD GP 2007 FINAL
12月8日（土）
神奈川・横浜アリーナ／16:00開場　17:00開始

［対戦カード］
- トーナメント準々決勝／K-1ルール3分3R、延長1R
①ジェロム・レ・バンナvsチェ・ホンマン
②セーム・シュルトvsグラウベ・フェイトーザ
③バダ・ハリvsレミー・ボンヤスキー
④ピーター・アーツvs澤屋敷純一
- トーナナメント準決勝
⑤ ①の勝者vs②の勝者／⑥ ③の勝者vs④の勝者
- トーナメント決勝戦
⑤の勝者vs⑥の勝者

［チケット料金］※全席指定・消費税込み
SRS席 35,000円（特典つき）／RS席 22,000円（特典つき）／S席 13,000円／A席 6,000円
［お問い合わせ］FEG宣伝部／TEL.03-3219-8870

現地レポート

拡張するUFC

「MMAワールドシリーズはすでに始まっている」

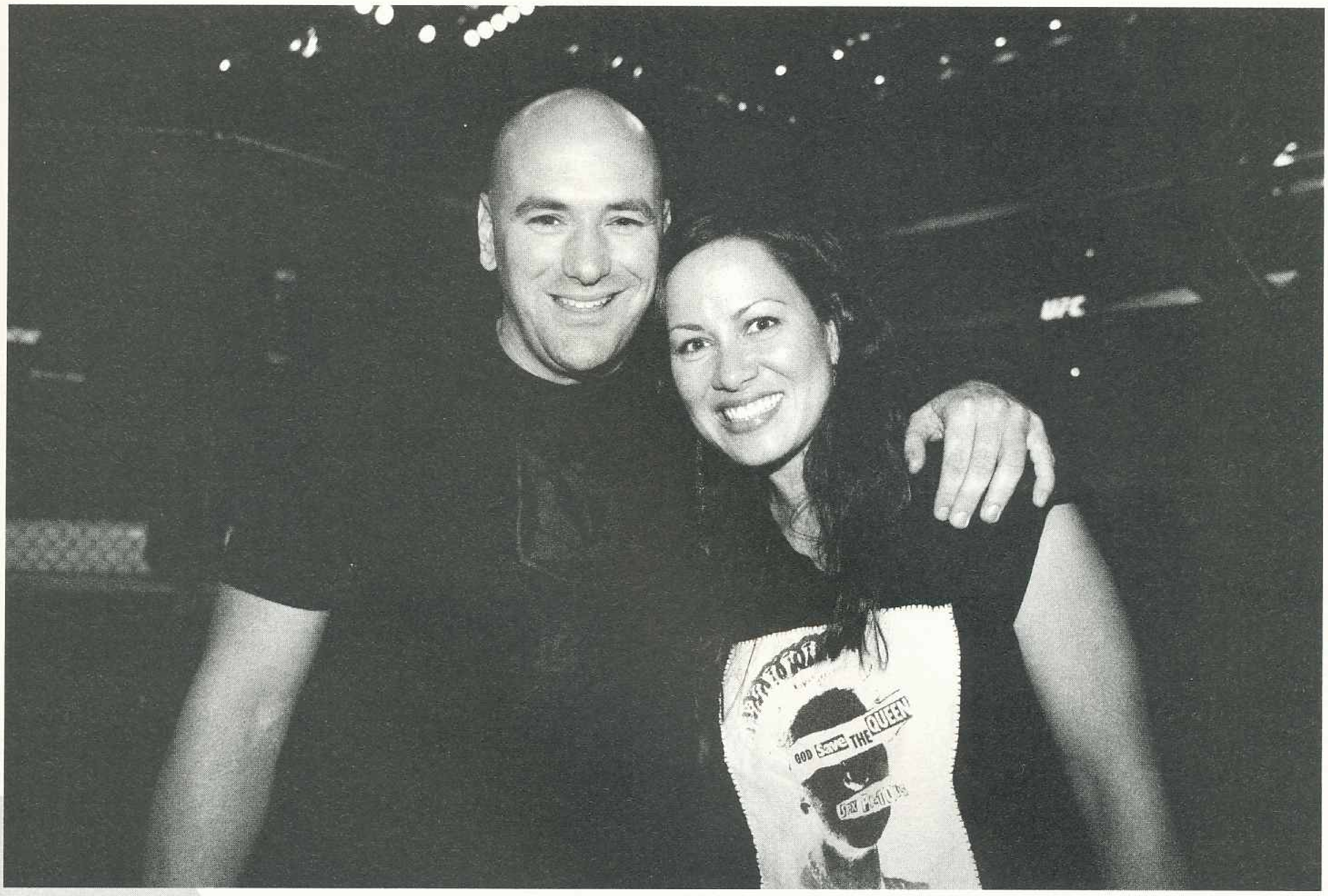
（ダナ・ホワイトUFC代表）



ブルース・リーから『PRIDE』まですべてを飲み込んだ巨大帝国!!

9月21日、『UFC76』の前日に本誌は米国カリフォルニア州アナハイムの「ホンダセンター」でダナ・ホワイトUFC代表の取材に成功した。そこで語られたのは、UFCの驚くべき野望と緻密な戦略だった。世界最大の総合格闘技団体は、これからどのように巨大化していくのか？　PRIDE FC WORLD WIDEの事務所閉鎖前に話を聞いたが、端々から『PRIDE』のクローズはとっくに決まっていたんじゃないかと思わせる発言もあったりする……。帝国の秘密に多角的に迫ってみたい。

文／坂井ノブ　撮影／黒田史夫



ダナと肩を組んでいるのがロックバンドもやっているブルース・リーの娘、シャノン・リー。Tシャツがイカす！「楽しみだわ」と『UFC76』に胸を躍らせていた。

「アメリカではブルース・リーがMMAのルーツであることはあまり知られていない」
（ダナ・ホワイトUFC代表）

UFCは総合格闘技の〝歴史〟を手に入れる!?

『UFC76』が行なわれたカリフォルニア州アナハイムのホンダセンターでダナ・ホワイトUFC代表に話を聞こうと挨拶をすると、いきなり「なぜ『PRIDE』が日本で再開しないかを聞きたいんだろう？」と先制パンチを放ってきた。

そりゃもちろん聞きたいが、どこの雑誌もダナに同じ質問をぶつけ、同じような返答ばかりというのが現状だ。ここでまた同じ質問をするのは、正直あまり気が進まなかった。取材前にもUFCの美人広報ジェニファー女史から「ダナに『PRIDE』のことを質問するのはやめといたほうがいいわよ。彼、そのことを聞かれるのにうんざりしてるみたいだから」という助言をいただいていたばかり。さあ、何を聞こうか？と考えていると、ダナはこちらの事情を察したのか「ブルース・リーは好きか？」といきなり逆質問してきた。答えはもちろん「オフコース！」だ。

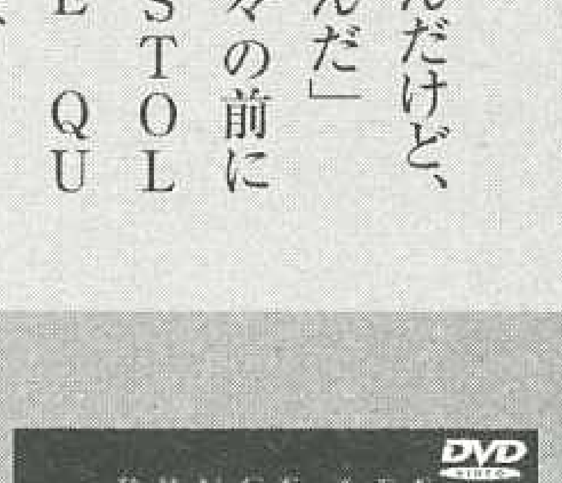
「俺も大好きだ。いま俺は38歳なんだけど、ブルース・リーで育ったようなもんだ」

そして、ダナは一人の女性を我々の前に連れてきてくれた。SEX PISTOLSの「GOD SAVE THE QUEEN」Tシャツを着たその女性は？

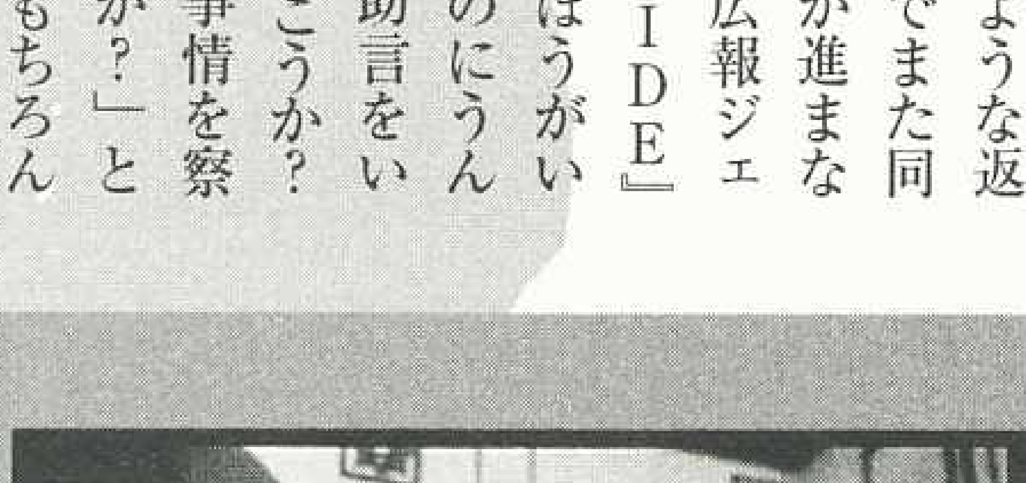
「彼女はシャノン・リー。ブルース・リーの娘さんだよ。UFCの大ファンで会場に来てくれたんだ」

ワオ！　ブルース・リーとUFCというカップリング！　あまりに唐突な話に「なぜ!?」と、こちらの頭の中にハテナマークが浮かぶ。だが、ダナは考えるヒマさえも与えてくれずにまくしたてる！

「いいかい？　アメリカでもブルース・リーは広く認知されていて、凄く人気がある



このジャケを見て胸が熱くなる男は世界中に何億人いるだろうか？



DVD『ディレクターズカット／燃えよドラゴン特別版』
（ワーナー・ホームビデオ）希望小売価格／2,100円（税込）。

んだ。日本でもそうだろう?『燃えよドラゴン』は最高のマーシャルアーツ・ムービーだ」

そりゃそうだ。世界中の格闘技好きでブルース・リーの存在を知らない者はいないだろう。『燃えよドラゴン』によって心の扉を開かれた人は数知れず。いまだにそのカリスマ性は失なわれていない。続けてダナは誇らしげに語る。

「ブルース・リーはさまざまな格闘技をミックスしてオリジナルなものを作り上げた最初の人間なんだ。現在のアメリカではMMAが盛り上がって人気を博しているけど、そのルーツがブルース・リーにあるということはあまり知られていない。我々がリーのファミリーと一緒にやっていくことで、ブルース・リーの功績を新しいファンに紹介したいと思っているんだ」

ダナの言うとおり、総合格闘技の歴史上でブルース・リーの功績はかなり重要な位置を占めている。ブルース・リーを始祖とする格闘技ジークンドーは、中国の伝統功夫である詠春拳をベースにパンチ、キック、投げ、関節技などあらゆる格闘技のエッセンスを取り入れて開発された初の総合格闘技と言える流派。またオープン・フィンガー・グローブを考案したのもブルース・リーだと言われている。実際、佐山聡からシューティングを学んだUSA修斗協会の中村頼永代表は、ダン・イノサント師父からジークンドーを学んでおり(またジークンドーにも修斗の技術が取り入れられた)、ブルース・リーと日本の格闘技界の接点は昔から存在していた。最近のアメリカ総合格闘技シーンではブルース・リーの影響が語られることがあまりなかったが、これからはおおいに注目を集めることになるだろう。また、これからUFCが中国をはじめとする総合格闘技未開のマーケットに進出していくときに、ブルース・リーを「UFCのルーツ」として紹介できるメリットは計り知れないほど大きいはずだ。

〝MMAワールドシリーズ〟はとっくに開幕していた……!?

UFCは〝歴史〟だけでなく〝未来〟も手中に収めようとしている。いや、すでに〝未来〟は、もうオクタゴンの中で始まっているのかもしれない。

今年3月に六本木で会見を行なった際、榊原信行DSE前代表とUFCのオーナーであるロレンゾ・フェティータ氏が明かした『PRIDE』とUFCの団体の垣根を越えた対抗戦「MMAワールドシリーズ構想」を覚えているだろうか? 両団体の王者やスター選手が年に一度の対抗戦でぶつかるという日本の格闘技ファンにとっては、夢のような話だった。たとえ『PRIDE』が買収されたとしても夢は続く……、あの時点でそう信じたファンは多かった。だが、現状はどうだ?

「いま、MMA業界は歴史上、最も活況を呈している。MMAワールドシリーズは、もう始まっているんだよ!」

ダナはそう言って笑った。活況を呈しているのはMMA業界、というよりもUFCだろう。

『UFC76』でもフォレスト・グリフィンvsマウリシオ・ショーグンという一戦が組まれたばかり。日本では無名だがアメリカでは次世代スター候補生のグリフィンが、残り時間15秒で見事に一本勝ちを奪うという劇的な幕切れだった。この結果に一番衝撃を受けたのは日本の『PRIDE』ファンであり、逆に一番大喜びをしたのはダナである。大会後の会見でダナは「UFCファイターが『PRIDE』ファイターより下だというインターネットサイトのランキングはブル●ットだ!」と大炎上した。ダナの頭の中にはUFC vs『PRIDE』というMMAワールドシリーズの対立構図がハッキリと描かれていたのだ。

いよいよヴァンダレイ・シウバも12月の大会に参戦する。ミルコ・クロコップも、ダン・ヘンダーソンも、アントニオ・〝ホドリゴ〟・ノゲイラも、すでにUFC参戦を果たしており、ヘビー級ではジョシュ・バーネットとエメリヤーエンコ・ヒョードルを残すのみ、といった状況だ。

そのヒョードルの獲得についてもダナは「11月のコマンドサンボの試合に、ヒョードルが出場するという話は聞いてるよ。そのあとヒョードルを獲得することも可能なんじゃないかな」と自信を見せた。「ヒョードルとUFCヘビー級王者のランディ・クートゥアーと闘わせたいね。ヘビー級で最高のカードだよ」とカードも内定済みだ。

ちなみに『PRIDE』で活躍していた日本人ファイターが『HERO'S』など国内のプロモーションを選択肢に入れて活動していることについては「まあ、いいんじゃないかな。彼らも家族や友人の前で試合ができるほうがいいだろう」と、ヒョードル獲得に燃やしているほどの執念はないようで、「ゴミ(五味隆典)とも最近はコンタクトをとっていない……。サクライ(桜井〝マッハ〟速人)はシュートボクシングの大会に出るのか?」といった状態である。とはいえ、『UFC76』直後に郷野聡寛の参戦が発表され、長南亮もUFC参戦を宣言するなど、水面下ではさまざまな交渉は続いているようだ。『PRIDE』の日本事務所をクローズさせたことで、いよいよ『PRIDE』再開の雲行きは怪しくなってきた。今後、日本で活躍した選手たちはますますUFCへ流れていくことになるのだろうか。

ボクシング界との太いパイプを獲得!

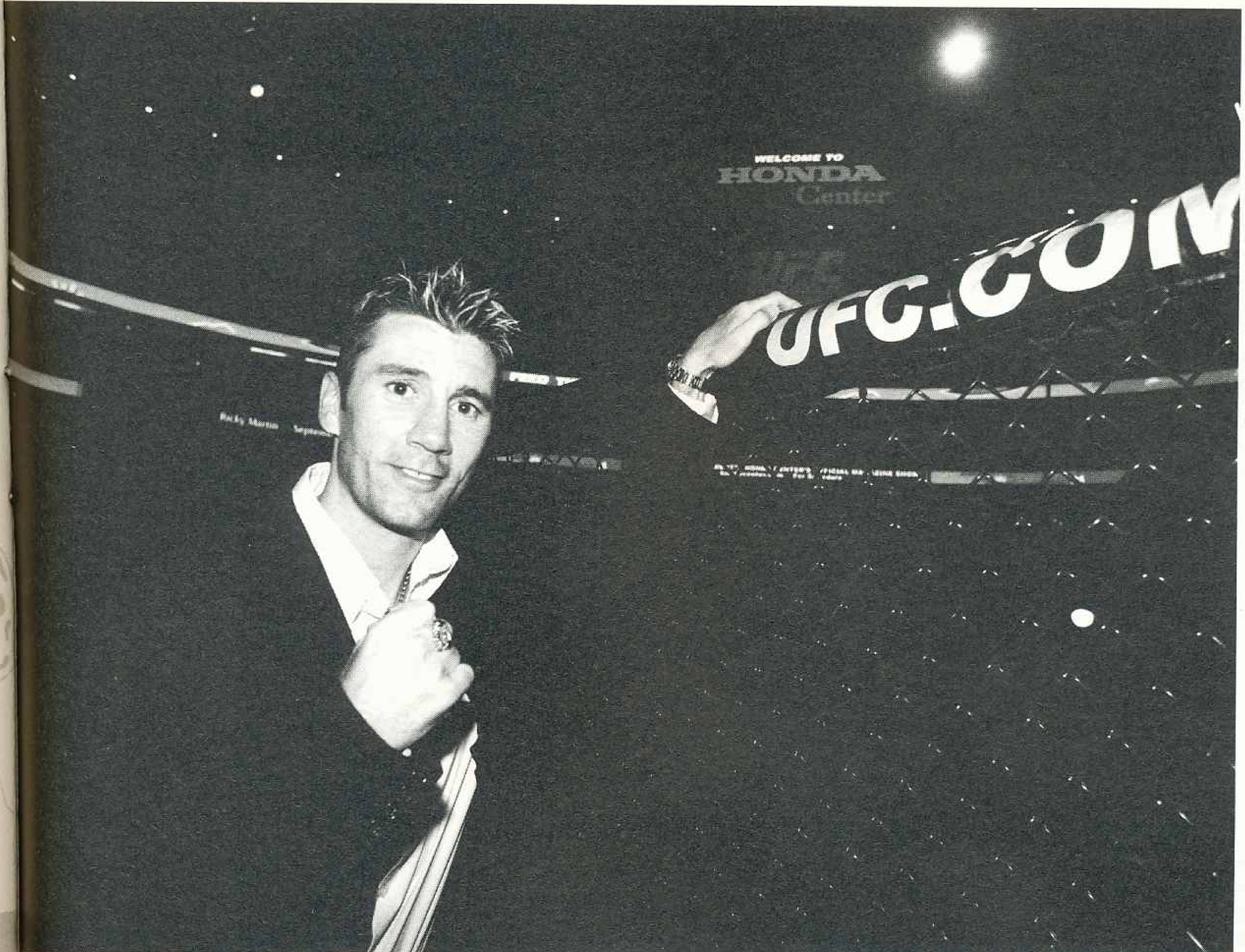
ソフト面での充実を図る一方で、UFCはメディア戦略にも余念がない。我々のような日本のマスコミ陣に対する対応も日本のメジャー団体に負けず劣らずしっかりしている。アメリカにはスポーツ新聞もなければ、定期的に刊行されている総合格闘技雑誌も多くはないし、日本のようなプロレスマスコミも存在しない。そのかわりに、ボクシングメディアが厳然と存在しているのだ。そこでUFCは元プロボクシング世界王者を「Public Relations」つまり「広報」としてボクシングメディアの窓口に起用している。

その元王者の名はウェイン・マッカラー。95年7月、元WBC世界バンタム級王者・薬師寺保栄と激闘を繰り広げ、判定でベルトを勝ち取った選手である。

「ヤクシジとナゴヤで闘った一戦は忘れられないよ。タフな試合だったし、実際スプリット・ディシジョンだった。まさか、あの試合のあとにヤクシジが引退するなんて思ってもみなかった。また闘いたかったね」と遠い目で、日本での思い出を振り返ってくれたマッカラー。UFCとの接点は「ダナと12年前から友人だったんだ。ダナはボクシングも大好きだったからね」とのこと。昨年12月『UFC66』からPRとして働い

ているそうだが、「いまでもオクタゴンに入ると血が騒ぐよ。あと15歳若かったら絶対にこのスポーツをやっていたはずさ。7歳の娘もUFCがお気に入りなんだ」と笑う。

UFCには旗揚げ当初から野蛮性や暴力性を指摘されてきたという苦い歴史がある。ボクシングと密接な関係にあったアスレチック・コミッションから目の敵にされていたのだ。世間的にもボクシングこそが権威であり、MMAは邪道であるという見方が主流だった。だが、ズッファ社がUFCを買収したことで風向きが変わり始める。現在のUFCはアスレチック・コミッションの管轄下で運営されており、世間の見方も当時とは大きく変わった。



WAYNE McCULLOUGH■1970年7月7日、英国北アイルランド・ベルファスト出身。92年バルセロナ五輪で銀メダル獲得。95年WBCバンタム級王座を獲得。プロ通算戦績は27勝6敗18KO。

だが、台頭するUFCに対してアメリカのボクシング業界は冷ややかな対応をしている。中でも象徴的なのは5階級制覇を成し遂げたフロイド・メイウェザーの「UFCファイターなんかとるに足らない」という発言だろう。ボクシング側はUFCを脅威と認識しているようだ。PPVの件数でもしのぎを削り、〝強さ〟の象徴としての地位もUFCが脅かしている状況では、両者の関係が悪化するのも無理はない。

そんな状況でマッカラーはボクシング業界にUFCの魅力を伝えるという作業を行なっている。では、具体的にどんな作業を行なっているのか?

「ボクシングメディアの人と話すことが多いね。この新しいスポーツがどれだけおもしろく、そしてエキサイトさせてくれるのかを話すんだ。実際に自分の目で観ると認識がガラッと変わる人が多いよ」

この日もマッカラーはプレスルームに顔を出すと顔見知りのボクシング記者たちと気軽におしゃべりをしていた。笑顔でその場にいる人たちたちに話しかけていくので人の輪ができていく。こういう自然な会話の中からUFCの魅力が伝えられていくのだろう。DSE体制の『PRIDE』で佐伯繁DEEP代表が「PRIDE広報」としてマスコミ対応を担っていた時期もあったが、プレスルームの中のマッカラーはまさにそんな感じである。もちろん、佐伯氏とは比べものにならないくらいグッドシエイプではあるのだが。



94年12月に辰吉丈一郎と歴史に残る死闘を闘ったWBC世界バンタム級王者・薬師寺と挑戦者・マッカラーは95年7月30日に名古屋レインボーホールで対戦。フルラウンドを闘い判定2-1でマッカラーが勝利した。

「いい選手というのはどれだけ多くても多すぎるということはないからな（笑）」（ダナ・ホワイトUFC代表）

「ボクシング業界の中には否定的な人もいるよ。私に対しても『なんでUFCの肩なんか持つんだ？　裏切り者！』と言ってくる人もいる。でも、そんなの気にしないよ。UFCはまだ若いけど、将来のあるスポーツなんだよ。これから、どんどん大きくなる。ボクシング業界は、もっとMMAに協力してもいいんじゃないかな。まあ、イギリスでフットボール（＝サッカー）とラグビーの仲が悪いという状況があるけど、似たようなものだよね」

マッカラーのようなPRを起用することからも、UFCが「伝えること」に対して非常に高いモチベーションで臨んでいることがわかる。

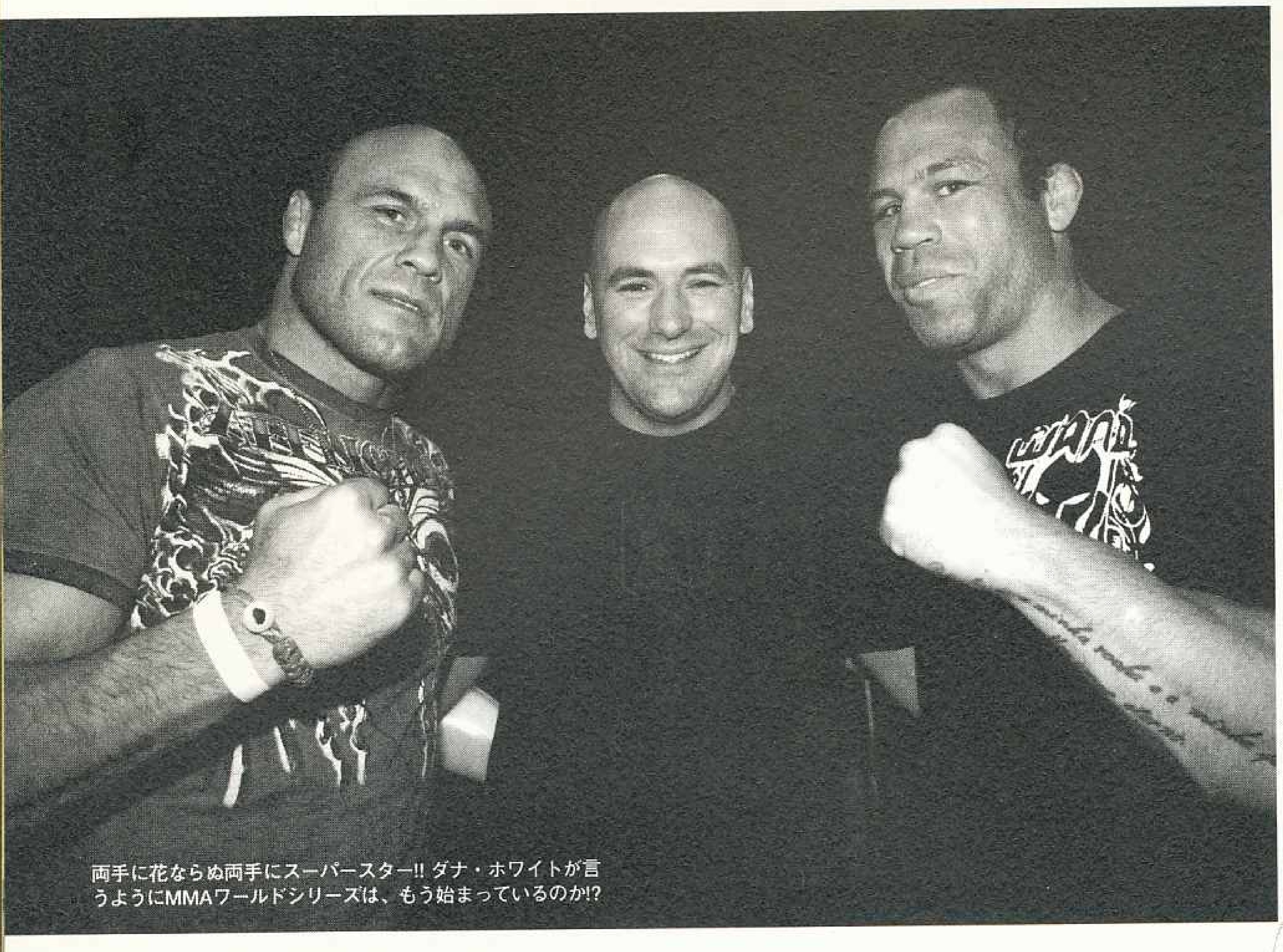
そして、前述したようにブルース・リーという〝歴史〟をリスペクトすることで言葉を超えて伝わるものも凄く大きいはずだ。

レベルの高い選手たちを次々と参戦させて、オクタゴン内のレベルがどんどん高くなっていけば、UFCの持つ魅力や価値も増していく。

インタビューの最後でダナは笑いながら、こう言った。

「いい選手はどれだけ多くいても、多すぎるということはないからな」

その野望はまだまだ止まる気配がない。世界最強のMMA帝国UFCは、いったいどこまで拡張すれば気が済むのだろうか。



両手に花ならぬ両手にスーパースター!! ダナ・ホワイトが言うようにMMAワールドシリーズは、もう始まっているのか!?

WECも勢力拡張中！　日本人も今後多数参戦!?

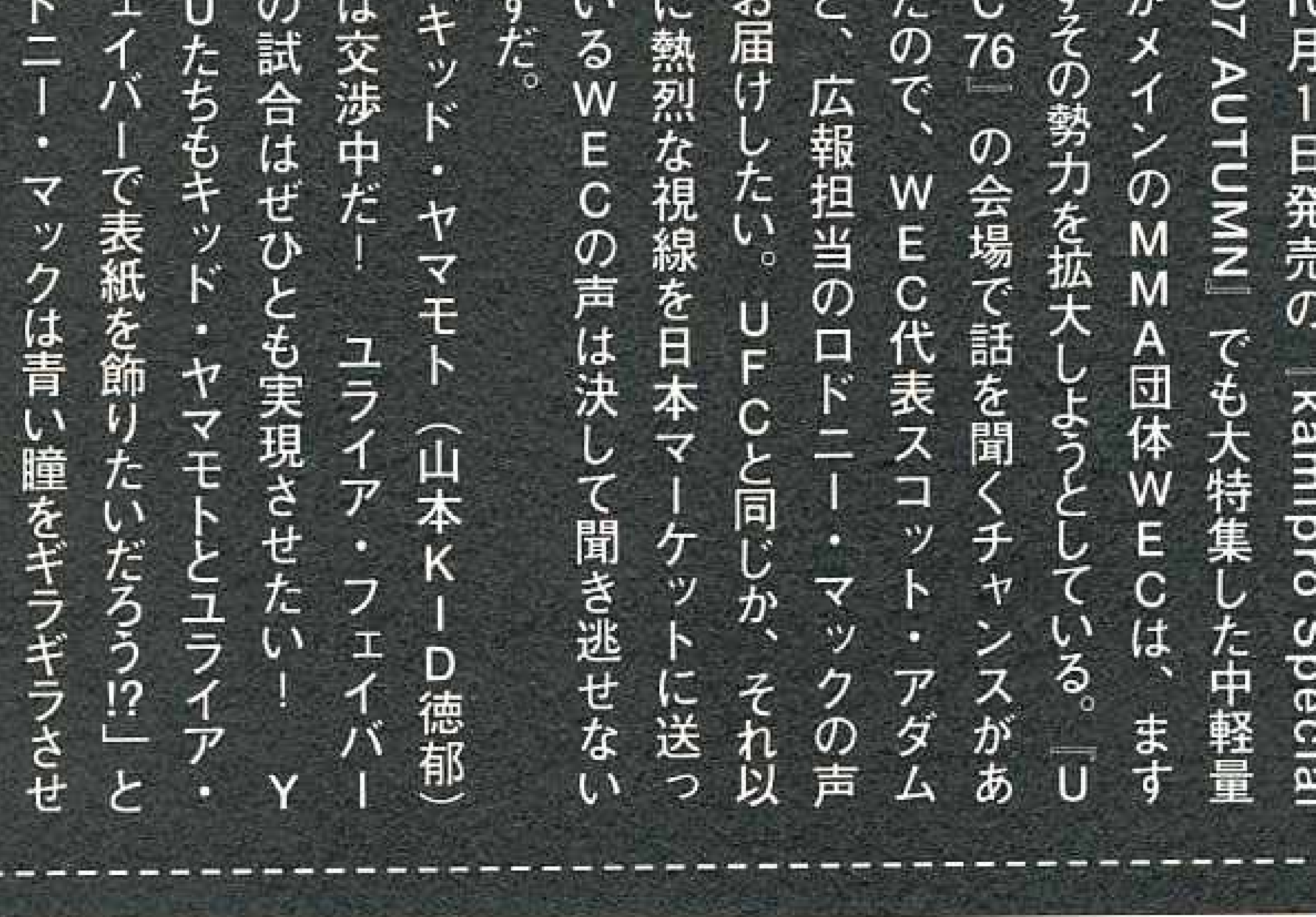
「キッド・ヤマモトとは現在、交渉中だ。ぜひ参戦させたい！」（ロドニー・マック広報）

10月1日発売の『kamipro Special 2007 AUTUMN』でも大特集した中軽量級がメインのMMA団体WECは、ますますその勢力を拡大しようとしている。『UFC76』の会場で話を聞くチャンスがあったので、WEC代表スコット・アダムスと、広報担当のロドニー・マックの声をお届けしたい。UFCと同じか、それ以上に熱烈な視線を日本マーケットに送っているWECの声は決して聞き逃せないはずだ。

「キッド・ヤマモト（山本KID徳郁）とは交渉中だ！　ユライア・フェイバーとの試合はぜひとも実現させたい！　YOUたちもキッド・ヤマモトとユライア・フェイバーで表紙を飾りたいだろう!?」とロドニー・マックは青い瞳をギラギラさせながらまくし立てる。ユライア・フェイバーも「世界中で唯一、ボクが闘いたいと思う相手だよ」と最大級の賛辞を送る。

スコット・アダムス代表は「ほかにも日本のあらゆる階級の選手たちと交渉している最中なんだ。これから日本の選手にもどんどん上がってもらいたいと思っている。ミツヒロ・ミウラ（三浦光広）は、すでにWECで活躍しているが、気持ちが強いし技術もある。凄くいい選手だよ」と、日本のファイターを高く評価している。

現在、WECはアメリカ国内の西南部をマーケットとしているため、日本進出の予定はない。「いずれはUFCのように国際的なプロモーションにしたいと思ってる」（アダムス代表）とのこと。マック広報は「バンタム級には、ハニ・ヤヒーラに勝ったチェイス・ビービーもいる。フェザー級にはユライアもいる。ミドル級には元『PRIDE』ファイターのパウロ・フィリオもいる」と選手層の厚さ、そして彼らの実力には絶対の自信を見せる。山本KID徳郁の首を狙い続ける彼らの動きにも当分、注目が必要だろう。



人のよさそうなスコット・アダムスWEC代表（左）、ホントに強そうな〝カリフォルニア・キッド〟ユライア・フェイバー（中央）、エミネム似で強気なロドニー・マック広報（右）。

UFC はズバリこうやって観ろ!!

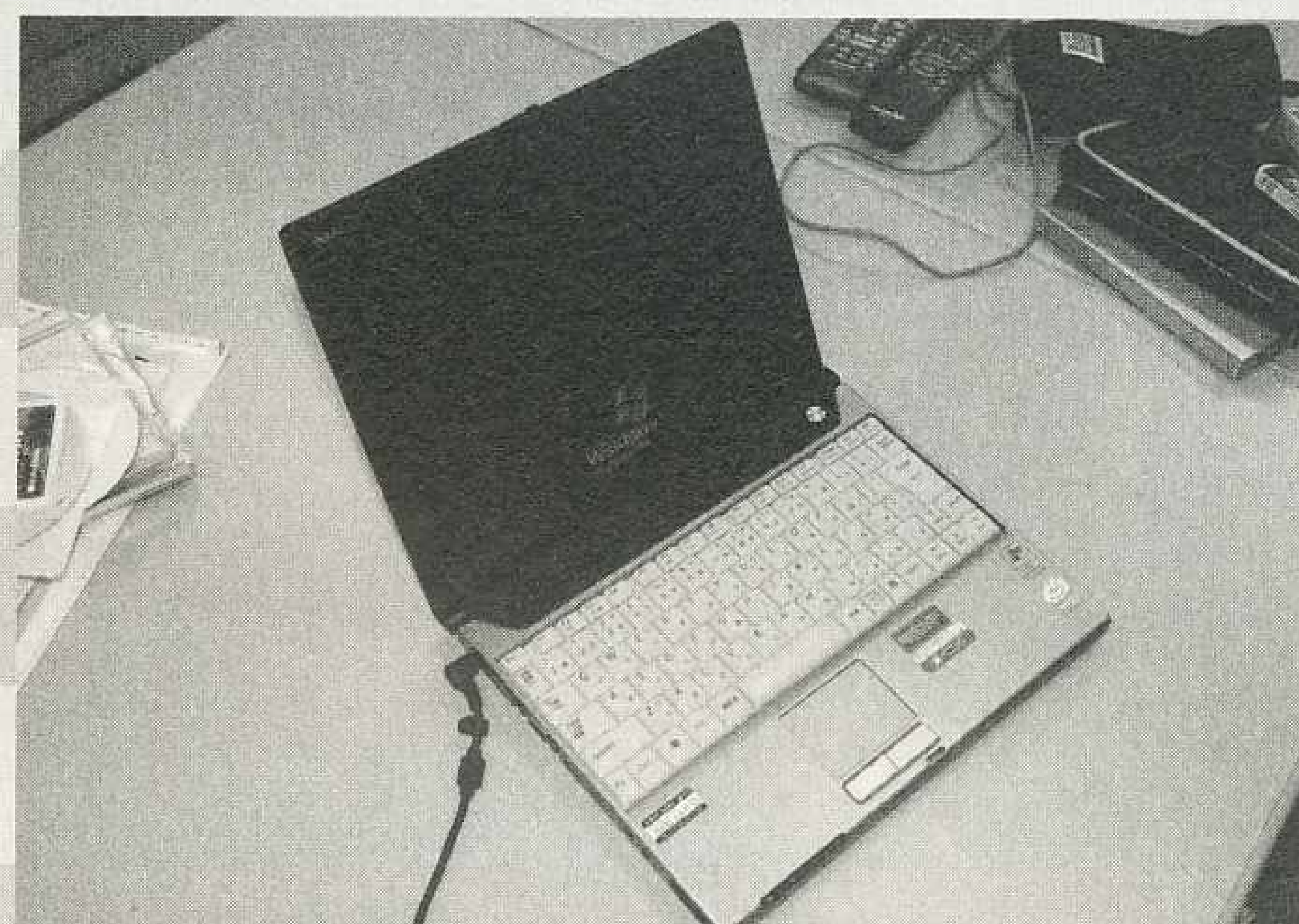
テレビで観られない

UFCを観たいか〜!?　PRIDEファイターが続々と移籍し、かつてない盛り上がりを見せるにも関わらず、テレビで観られなくなってしまったUFC。ネット上では『YouTube』ほか動画サイトが充実しているとはいえ、結果を知ってから小さい画面で観ても、格闘技の醍醐味は味わえない。そこで、日本で唯一、ライブでUFCを観る方法、UFC ON DEMANDの使い方をおおまかに説明します!（細かい設定は各自調査!!）

イラスト／gorilla monsoon



① PPVを観るにはUFC ON DEMANDへ!!



まずWindowsマシンを用意!!　Macの方は残念ながら、ここでいきなり脱落です。



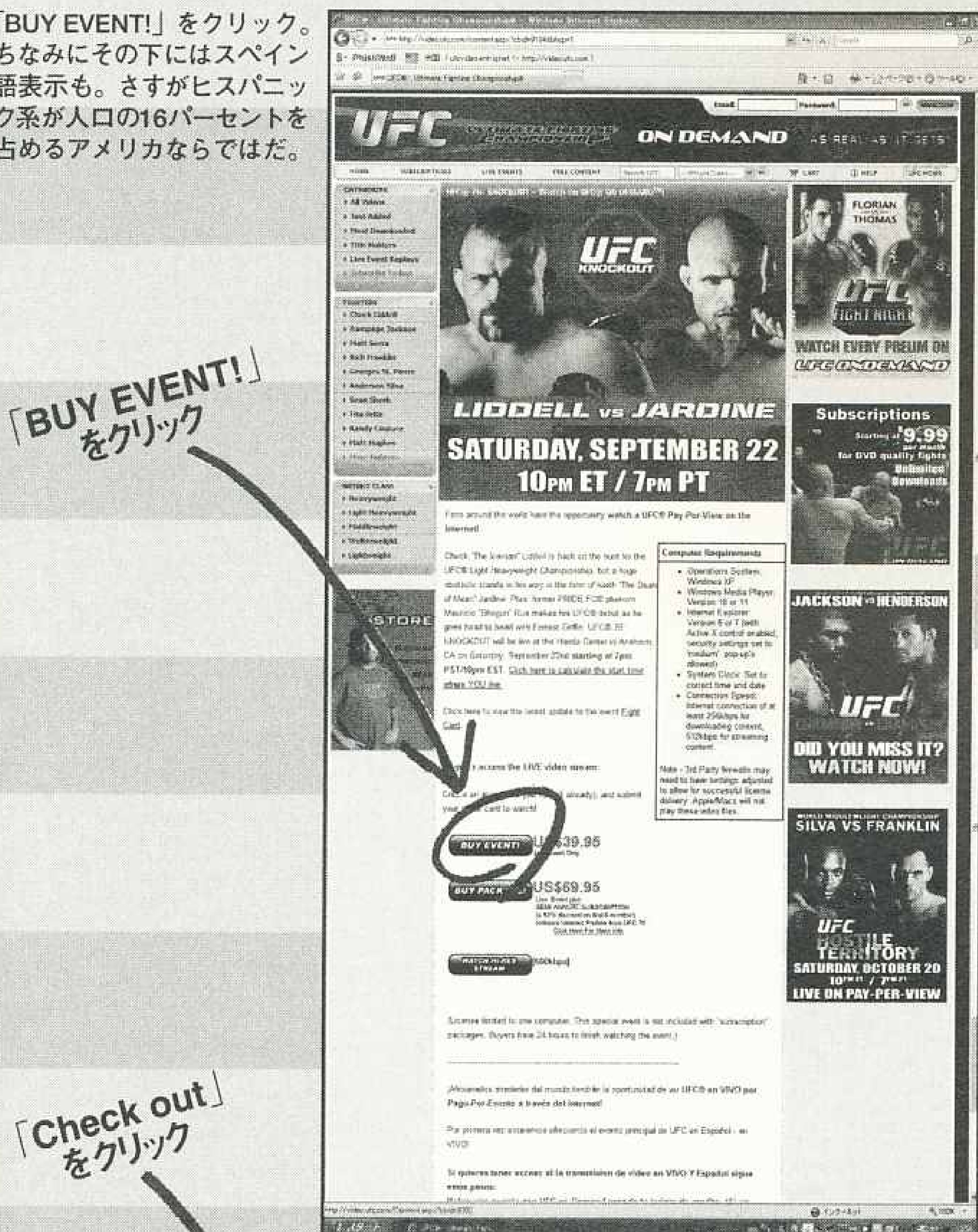
UFC公式サイト(UFC.com)にアクセス!!　PPVを観るには「UFC ON DEMAND」をクリック!

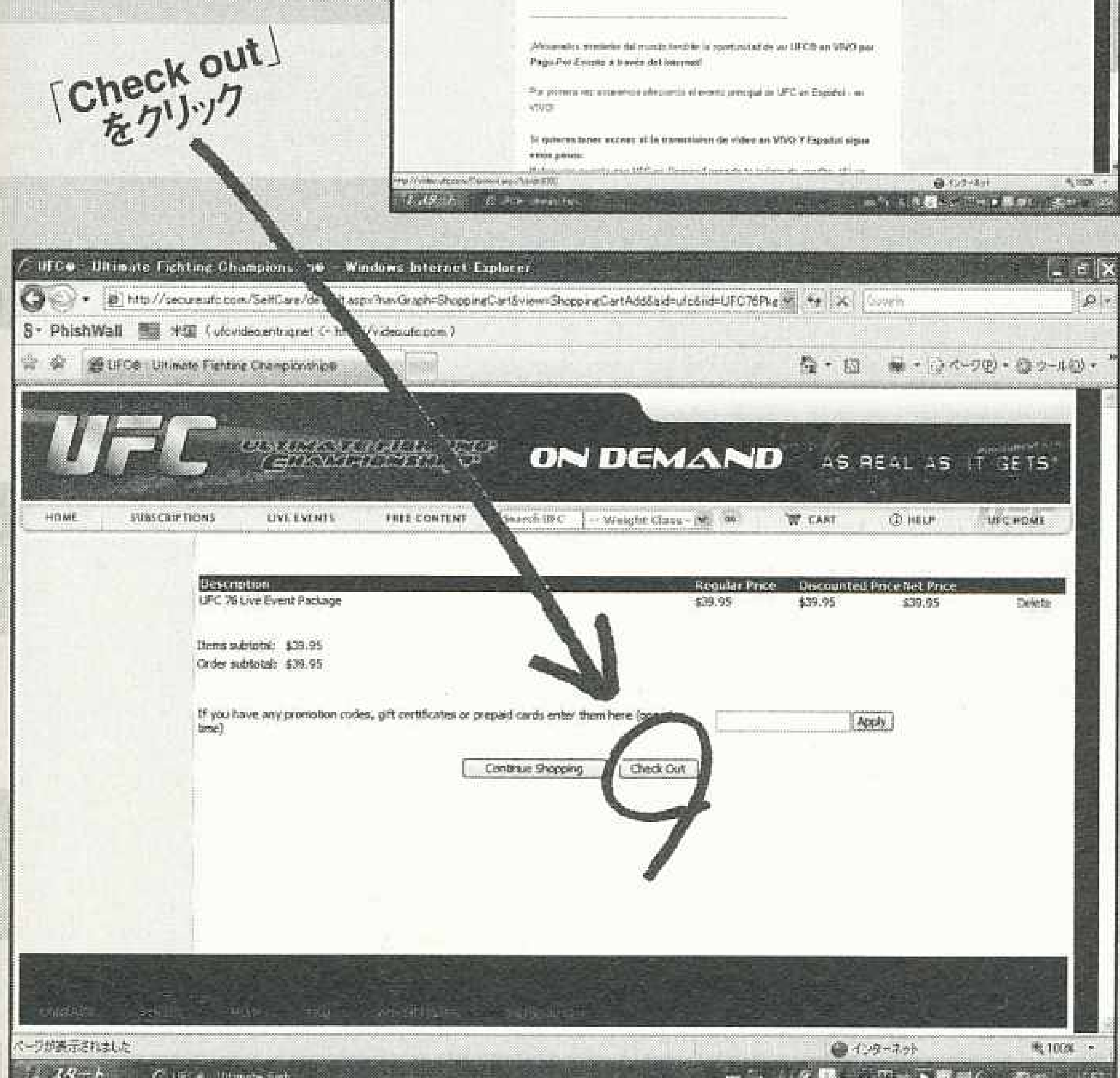


これが「UFC ON DEMAND」のトップ画面。ちなみにメイン画像はチャック・リデルvsキース・ジャーディンがメインの『UFC76』のもの。その画像をクリック！

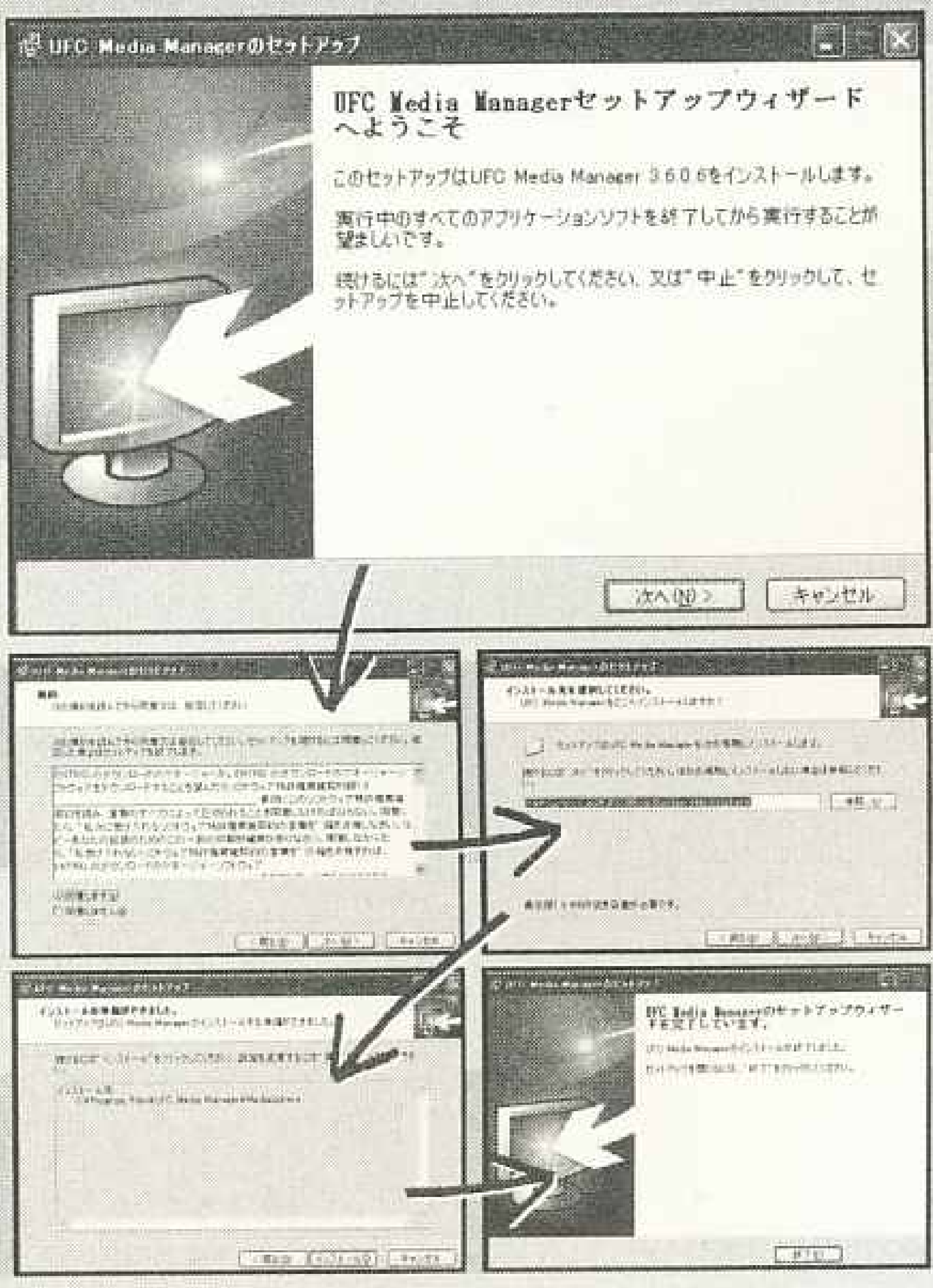
② 英語に負けずにPPVを購入手続きへ!!

「BUY EVENT!」をクリック。ちなみにその下にはスペイン語表示も。さすがヒスパニック系が人口の16パーセントを占めるアメリカならではだ。





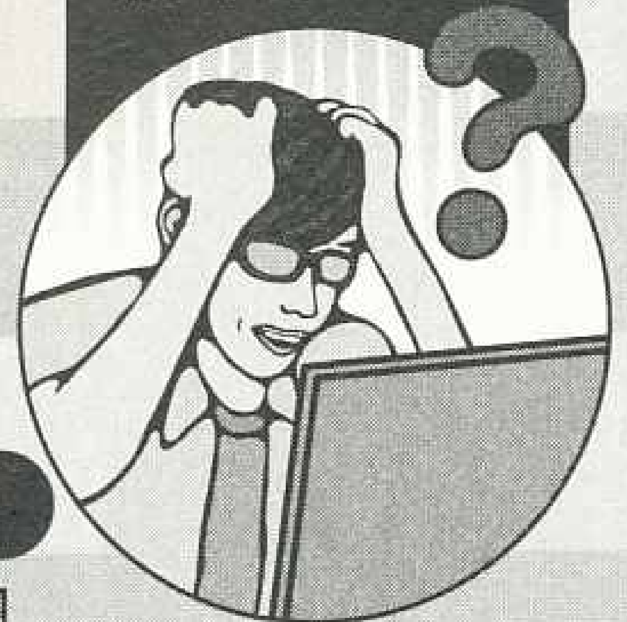
この画面で購入商品を確認。PPVストリーミング放送は39.99ドル(=約4800円)。『PRIDE』のPPVと比べると、ちょっと高い気もするが……、そんなの関係ねぇ!!（ちなみに24時間以内なら何度でも視聴可能）。



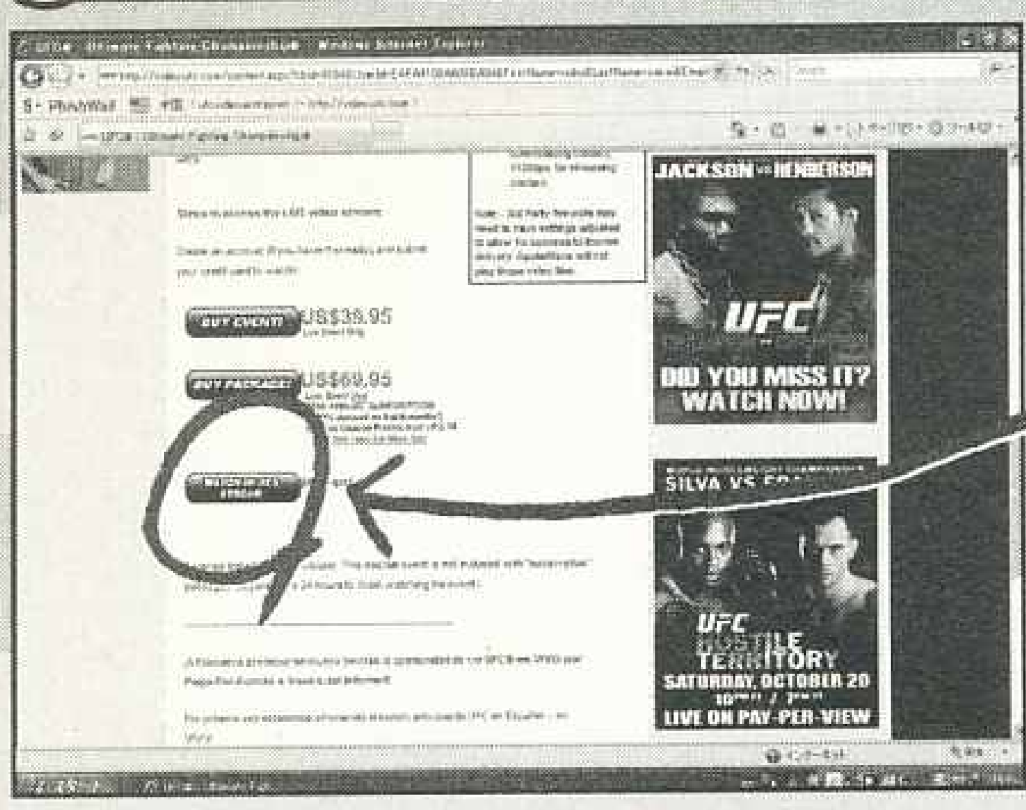
UFC MEDIA MANAGERセットアップウィザード画面に。「次へ」を連打して、インストールしてしまおう。これで、ついに念願のPPVが観られる!!

ワンポイントアドバイス

動画を再生するための技術、アクティブXコントロールが更新されてないとインストール画面が現われるので、「実行する」をクリック！ うまくいかない場合は再起動してみるべし

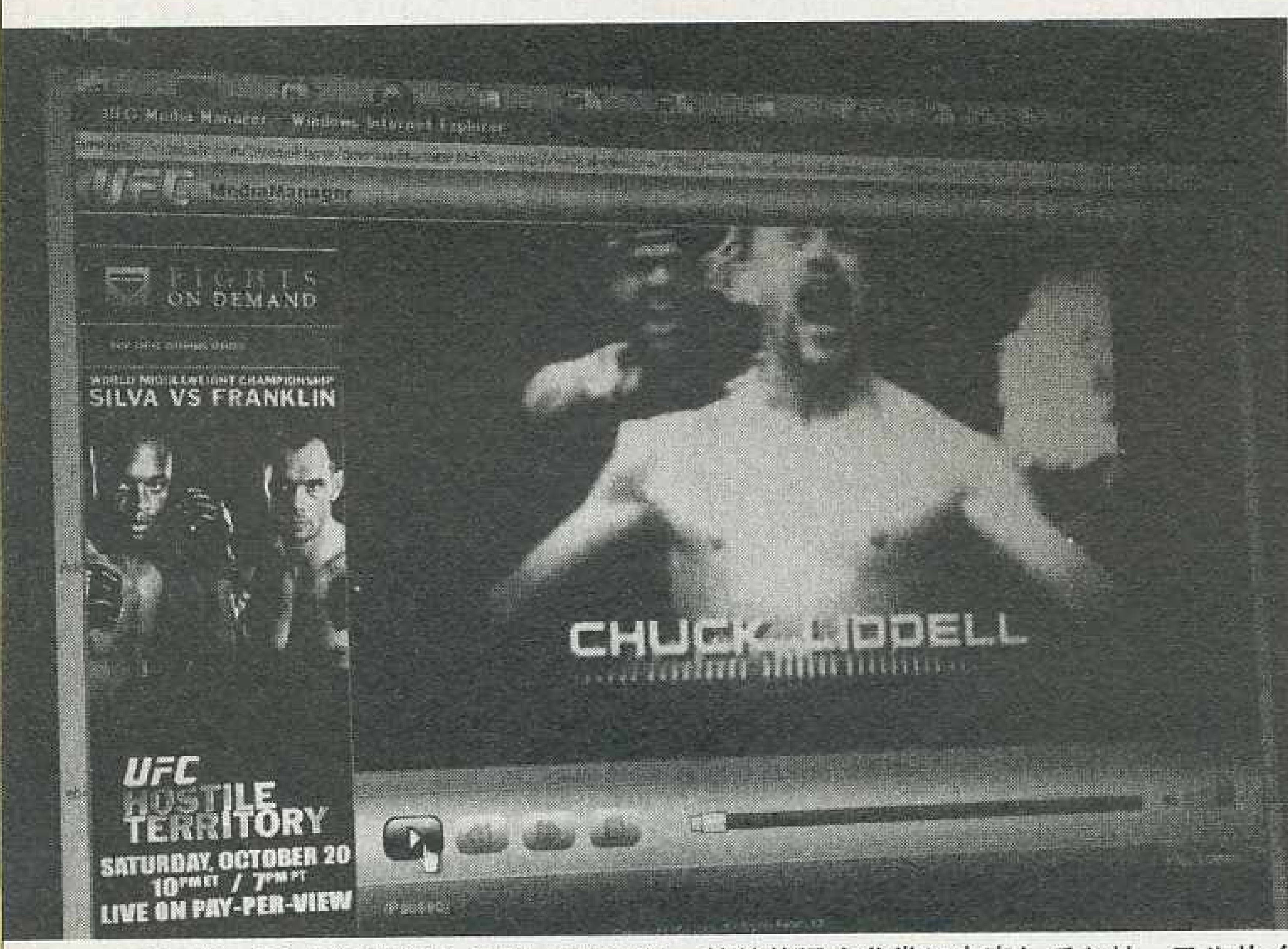


⑤ ついに念願のPPV観戦へ!!



「WATCH HI-RES STREAM」をクリック

準備完了。しかし焦ってはいけない。日本とラスベガスの時差は17時間。試合時間を確認して、開始時間になれば、再び①の「UFC ON DEMAND」の画面へ。「WATCH HI-RES STREAM」をクリック！



これが、テレビでは観られないUFCだ!! 接続状況も非常に安定しており、フルサイズ・スクリーンで表示すれば、テレビを観るように格闘技の醍醐味を味わえるゾ。

UFC PPV 大会スケジュール

郷野がアゲアゲ入場!?
11.17『UFC78』
米国ニュージャージー州ニューアーク　プルデンシャルアリーナ

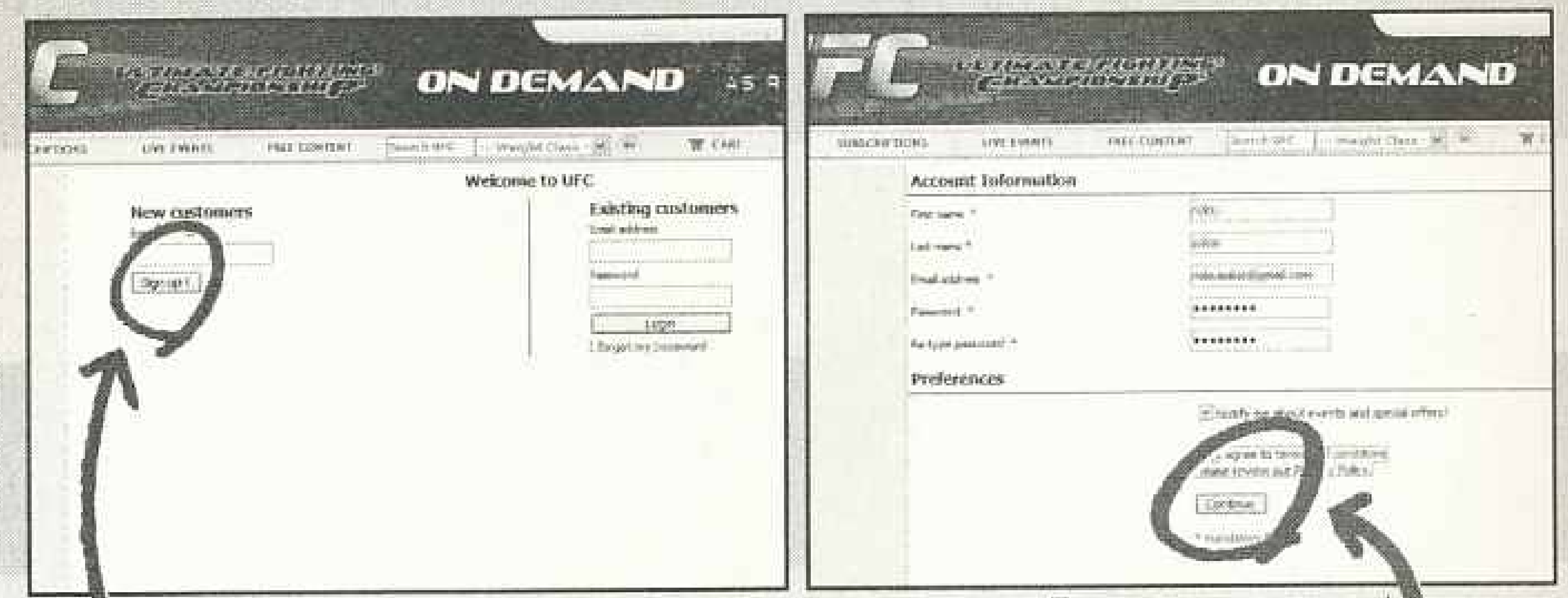
郷野聡寛 vs タムデン・マックローリー
マイケル・ビスピング vs ラシャド・エバンス
ヘクター・ロンバート vs カロ・パリジャン
フランク・エドガー vs スペンサー・フィッシャー

ヴァンダレイ、ついに参戦!?
12.29『UFC79』
米国ネバダ州ラスベガス　マンダレイベイ・イベントセンター

【UFCウェルター級タイトルマッチ】
（王者）マット・セラ vs（挑戦者）マット・ヒューズ

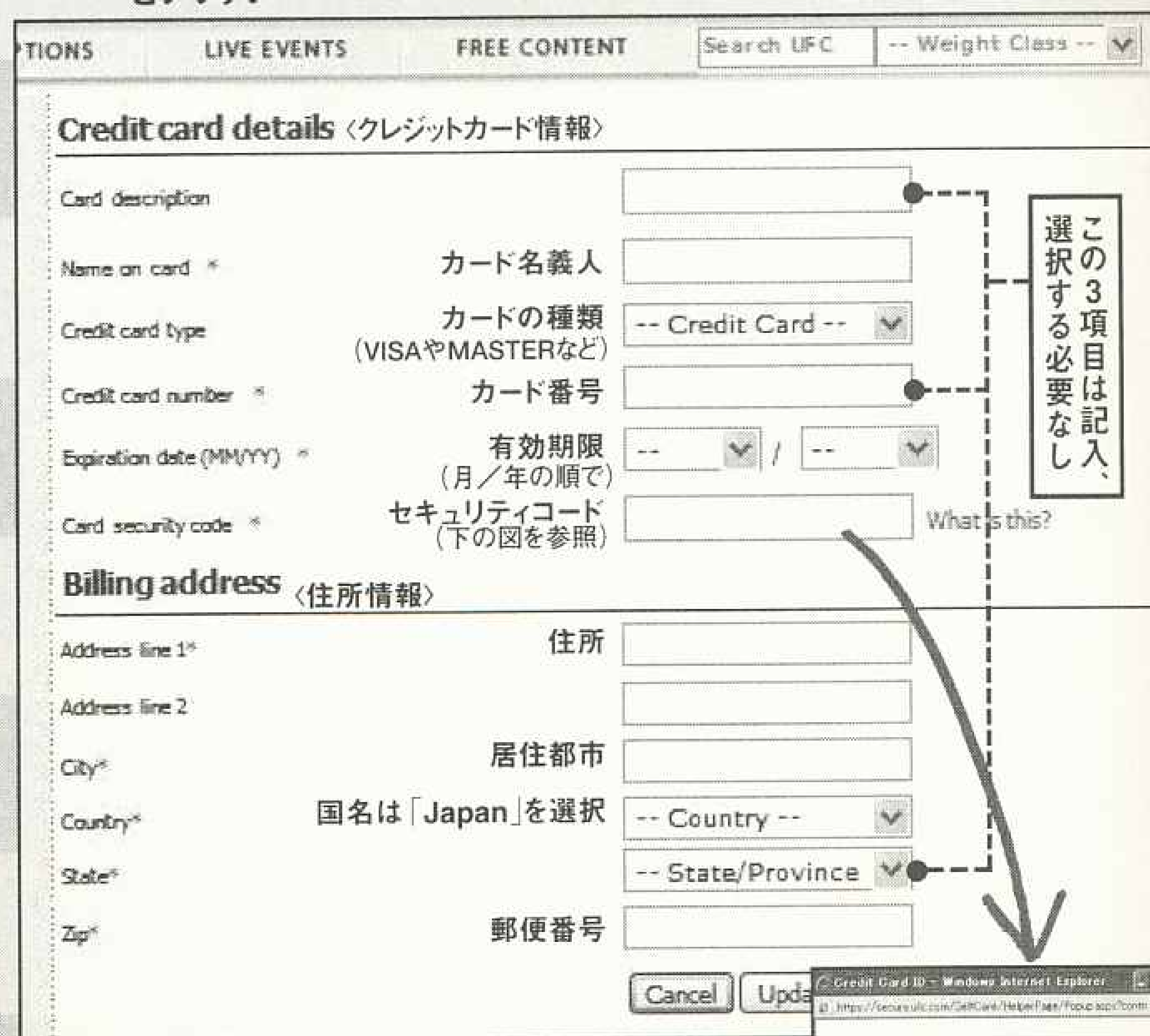
③ UFCへのユーザー登録!!

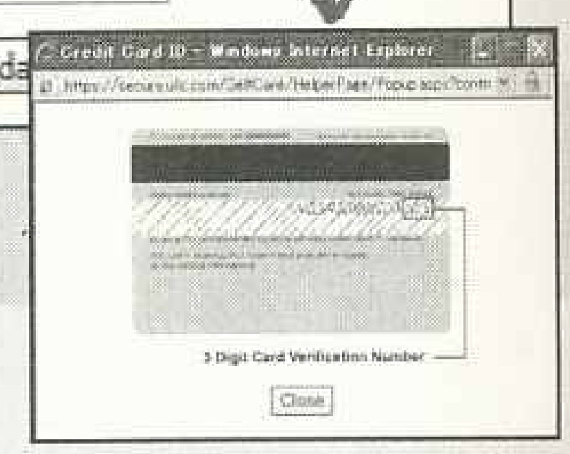
その支払いをするためには、サインアップが必要。Account Informationの各項目を半角英数で記入。上から順に、名、姓、メールアドレス、パスワード、パスワードの再入力。その下のチェック項目は「イベント告知を受ける」と「使用条件に同意する」。それぞれチェックしておこう。



「SIGN UP」をクリック

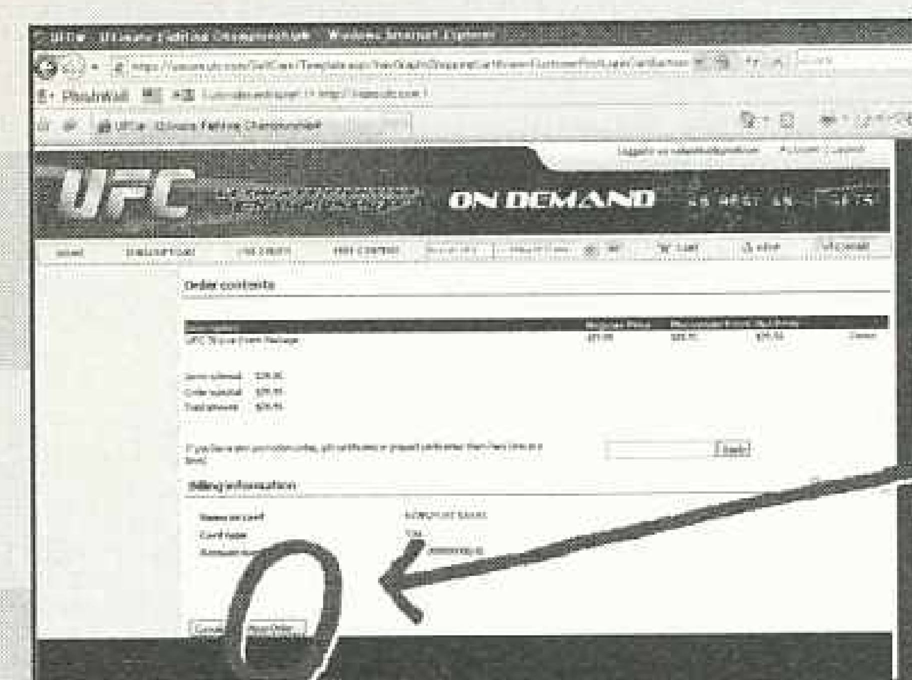
「CONTINUE」をクリック





ここからクレジットカード情報と請求書の宛先を送信。くれぐれも慎重に。日本の郵便番号を入れても無効なので、テキトーに5桁の数字を打っておけばなんとかなる（たぶん）。ちなみに99999は有効。どこの地域の番号だかわかりませんが。

クレジットカード裏面に書かれている数字の末尾3桁が、セキュリティコード。



「PLACE ORDER」をクリック

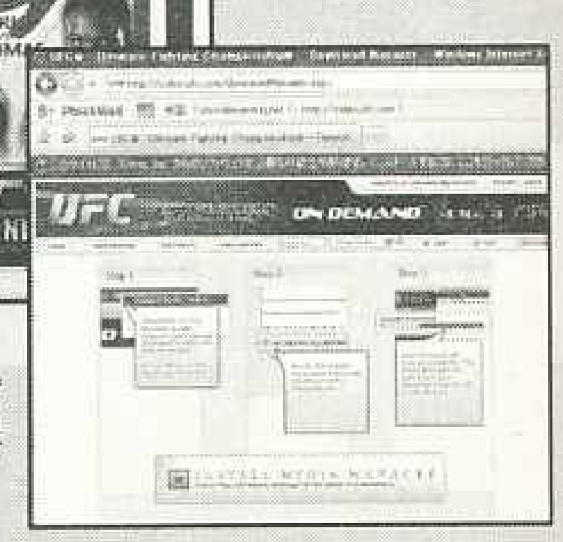
オーダーの確認画面。ここまでくれば、もうすぐだ!?

④ 専用ソフトをインストール!!

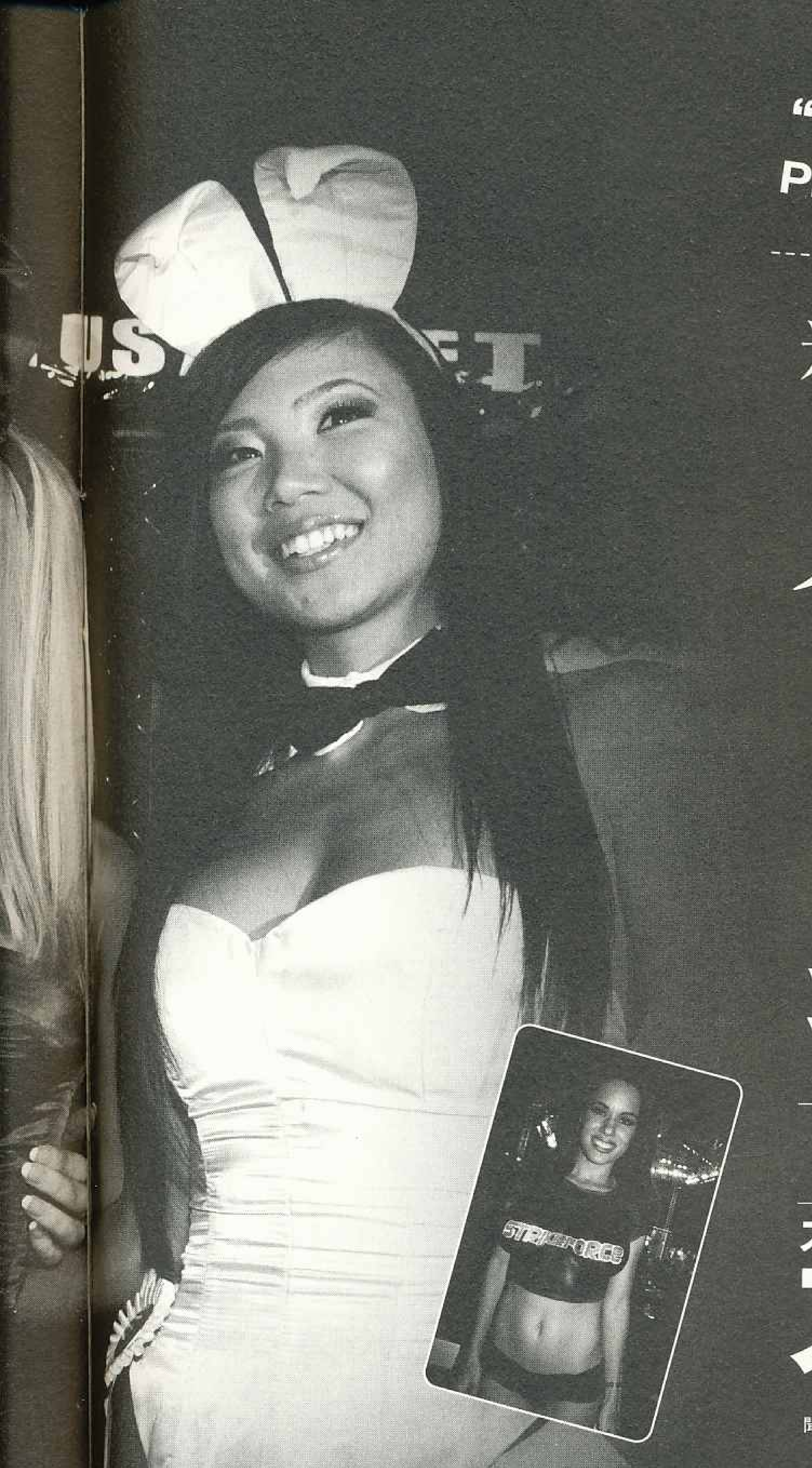


「UFC MEDIA PLAYER」をインストール

UFC MEDIA PLAYERをインストール。このソフトがないと、どうやっても観られないのだ。



ツールバーの下にポップアップされる青いバーをクリック！





“アメリカンカルチャーの象徴”
PLAYBOYマンションでイベント開催!

米国ナンバー2MMAイベント

ストライク・フォースの野望



「我々が“PRIDE”を受け継ぎます」

ストライク・フォース代表
スコット・コーカー
INTERVIEW

聞き手&撮影/石井史彦　構成/堀江ガンツ

カリフォルニア州サンノゼに本拠地を置き、フランク・シャムロック、ギルバート・メレンデスら有力選手を抱えるMMAイベント、ストライク・フォース。エリートXCやIFLの失速もあり、いまや米国ナンバー2のMMAイベントとなったこの団体が、9月29日、ロサンゼルスにあるPLAYBOYマンションでイベントをぶっ放した。

PLAYBOYマンションといえば、『PLAYBOY』誌の創始者ヒュー・ヘフナーの邸宅としても知られる、いわば“アメリカンカルチャーの象徴”。多数のVIPを招き、この大会を成功させたストライク・フォースは、今後のMMAシーンを語る上で、ますます重要度を増していくだろう。

『PRIDE』の“消滅”を受けて、その座を奪うと宣言した代表のスコット・コーカー氏に大会前日、独占インタビューを試みた。

――今回、“アメリカンカルチャーの象徴”、PLAYBOYマンションで初めてMMAイベントを開催するとは、さすが敏腕プロモーターですね!

コーカー　ハハハハ、そんな大げさなものじゃないですよ。今回、ここで大会を開くことになったきっかけについて言えば、このマンションでは、これまでにもボクシングの大会は開かれていたんです。オーナーのヒュー・ヘフナーは大のボクシングファンですからね。

――ファンだからって、ボクシングの大会を自宅で開催してしまうヘフナーは凄いですね(笑)。

コーカー　そして、そのボクシングイベントをコーディネートしている人物が、じつは私の友人で、「ボクシングの代わりにMMAをやれないかな」と提案してきたんです。

――それはいつのことですか?

コーカー　今年の2月ですね。これまで私は主にサンノゼでイベントを開催してきたんですが、ちょうどその頃、ロサンゼルスに進出したいと考えていたんです。そして、どうせやるのならいい場所でやりたいとね。

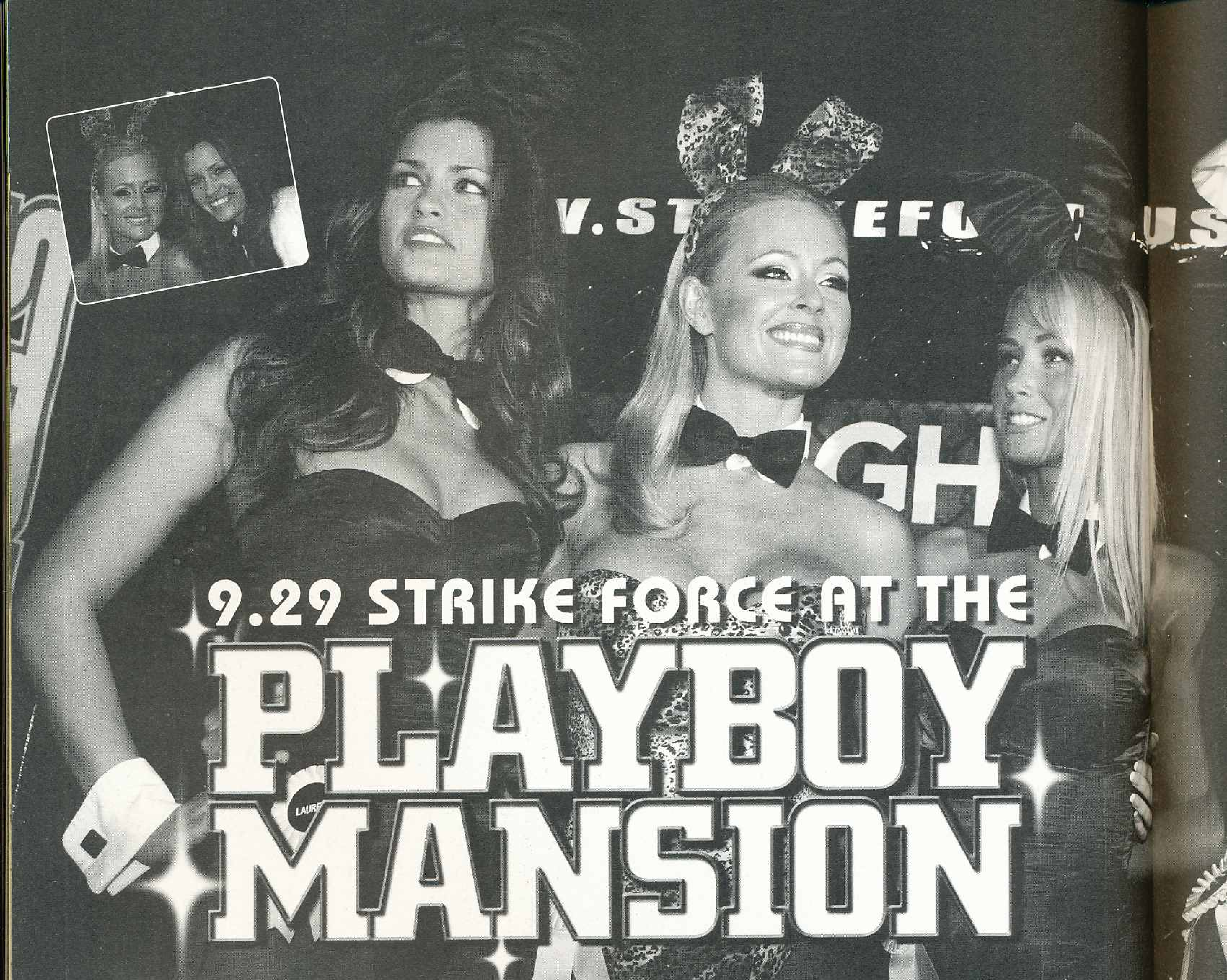
――このマンションのロケーションは最高ですよね。高級住宅地ビバリーヒルズのド真ん中ですし。

コーカー　ええ、ですから私もぜひここでイベントをやりたいと思っていました。そして、このマンションのマネージャーに会うことになったんです。ただ、ヒュー・ヘフナーは、さっきも言ったように、ボクシングファンとしては有名ですけど、MMAのことはまったく知らない。だから、偏見もあって、「MMAはバイオレントだ。キックボクシングならいいけど」と言われて最初は断られてしまったんです。

――UFCが大きくなってMMAのイメージが変わってきたとはいえ、まだまだ、一般的にはそういう意見が多いんですね。

コーカー　そこで、私はMMAがどんなに安全なスポーツかということを科学的に説明したんです。アメリカでは死人も出ていないし、深刻なケガもなかったと事実を並べてね。実際、アメリカンフットボールのほうがケガが多いといったことを“教育”しました。そして、その2ヵ月後には許可をもらうことができたんです。

――なるほど。この立派なマンションで大会を開くには、莫大なコストがかかったと思うのですが、スポンサー



9.29 STRIKE FORCE AT THE PLAYBOY MANSION

など収支の面でも大会を成功させる自信はあったのですか？

コーカー　そうですね。まず、ボードッグとはもともと冠スポンサー契約を結んでいたんです。そして、ボードッグがついたことで、その放送枠を持っているIONテレビもついてくれた。

——ボードッグには以前からスポンサードしてもらっていますよね。

コーカー　広告を出してもらってますね。逆に向こうのイベントには、ストライク・フォースから選手を貸し出してもいるんです。それから、ION テレビ以外にも二つのテレビ局での放映も決まり、アメリカ全土で視聴ができます。またESPNインターナショナルとも契約を結びました。このことで、メキシコでも放映されますし、さらに、ヤフーでの動画配信も決まって、世界中でこのイベントを観ることができるようになりました。

——凄いですね！

コーカー　ストライク・フォースはいま本当に成長しているんですよ。

——実際、CBSなど多くのテレビ局のニュースクルーが取材しているのを見ましたが。

コーカー　この大会にはすべてのメジャーテレビ局を招待しています。PLAYBOYマンションはアメリカンカルチャーのアイコンですからね。大きなパブリシティになると思うんです。それもあって、この場所でやることを決めました。

——チケットは1000ドル（＝約12万円）という高額ですが、売れ行きはどうですか？

コーカー　すでに500枚完売しましたよ（笑）。

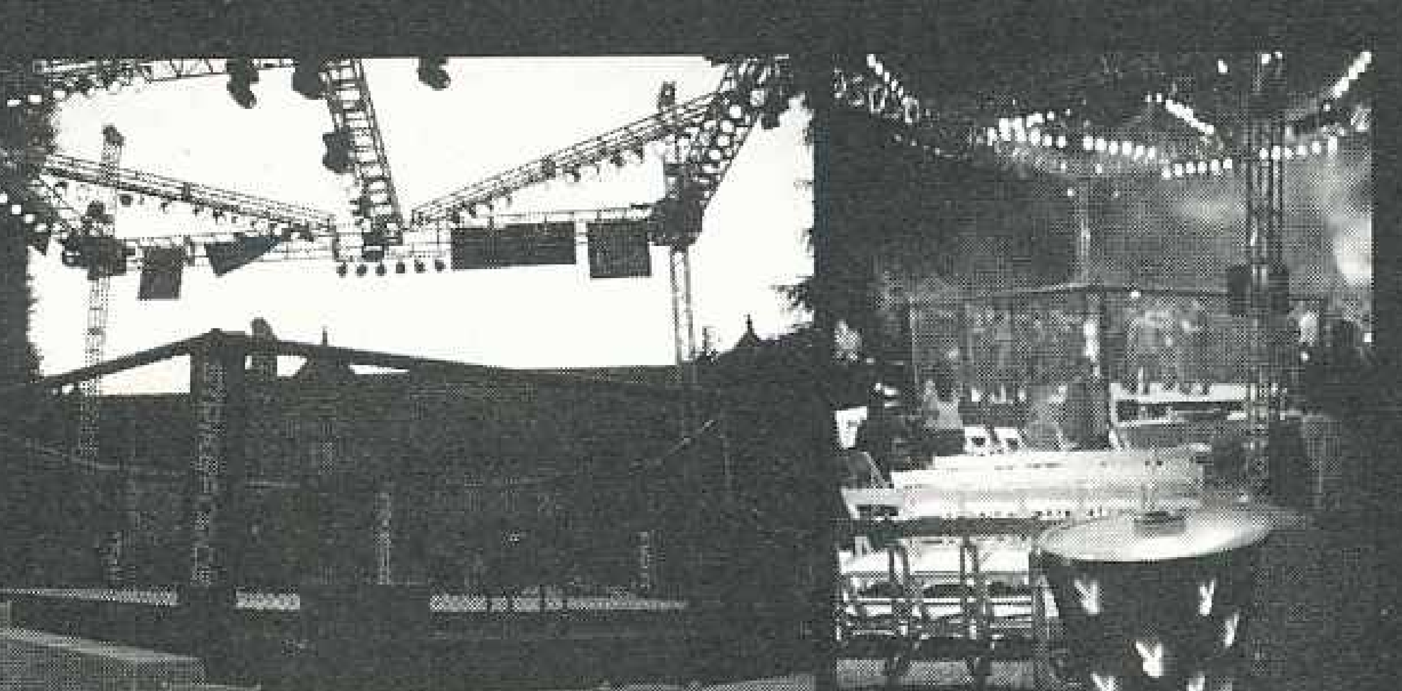
——完売ですか！

コーカー　そしてそれ以外にも、メディアとは別に、700人を招待しているんです。200人がセレブリティで、500人がビジネス関係の人たちです。テレビ局のプロデューサーや広告代理店の関係者ですね。彼らはこれから、MMAをメジャースポーツにするための手助けしてくれると思いますし、せっかくロサンゼルスに進出するからには、こういう人を招待しないとね（笑）。

——では、今大会はゲート収入だけじゃなく、将来の利益が見込まれているわけですね。常設会場である、ホームタウンのHPパビリオンとここでの金銭面での違いはありますか？

コーカー　もちろんゲート収入は（最大2万人収容の）HPパビリオンのほうが、はるかに大きいですけど、コストはこのマンションのほうがいつもよりも多くかかっているんです。

——HPパビリオンでは1万800



ヘキサゴン・ケージのうしろに見えるのがPLAYBOYマンション。ホントにヒュー・ヘフナーの自宅敷地内なのだ。ライティングも有名なPLAYBOYのウサギマークだ。

エド・フィッシュマンは良き友人です でも出資させるつもりはありません

0人集めたことがありましたよね。

コーカー　はい、その数字はいまだ北米最高記録です。

――あれ？　UFCが入場記録を更新しませんでしたっけ？

コーカー　いや、UFCのオハイオ大会が1万9000人以上集めたことになっていますけど、その数には招待券で入った客もカウントしているんです。でもウチの大会は、純粋にチケットを買った人の人数ですからね（少し自慢げに）。

――なるほど。では、5万4000人を集めたはずの『Dynamite!! USA』は？

コーカー　ちょっと待ってください。それこそ純粋にチケットを買った人がどれだけいたのか……（苦笑）。

――わかりました（笑）。

コーカー　ただ、今回は我々も〝決定権〟を持っている人たちを招待したんです。つまり、エンターテインメント業界やテレビ業界で力を持った人ということですね。実際、6エーカーもある、この世界的に有名なマンションで、素晴らしいイベント開くことができたわけですから、MMAにはUFC以上のクオリティを持った大会がある、ということを伝えないといけない。これまでは『PRIDE』がベストイベントでしたけど、もう『PRIDE』はありませんから、その座を狙っていきますよ（笑）。

――では、大会のクオリティでUFCに挑む、という野望があるわけですね。

コーカー　我々のホームタウンであるサンノゼはいいマーケットですし、私たちはそこで成功してきましたが、UFCのゲート収入はストライク・フォースの2倍あります。だけど、大会のクオリティでは負けていないつもりですよ。これからも一年か半年に一度、ここで大会を開きたいと思っています。素晴らし食事とお酒があって、一流のMMAマッチを観ることができて、パーティ、さらにアフター・パーティがあるわけですよ。しかも、この極上のPLAYBOYマンションで。これ以上、何を求めるっていうんですか？（笑）。

――何もありません！

コーカー　今後について言えば、11月にはサンノゼ大会で、〝地元の英雄〟カン・リーが出場しますし、ギルバート・メレンデスとジョシュ・トムソンが闘います。12月には、デンバーでも大会を開く予定です。そして、たぶん、この号が出る頃には、発表しているかもしれないですけど、ライト級トーナメントを開催するつもりなんです。イーブス・エドワーズら強いファイターに声をかけていますし日本やヨーロッパからも選手も呼ぶつもりです。

――日本で中止になったPRIDEライト級GPじゃないですけど、まさしく『PRIDE』の後釜を狙うわけですね。ところで、『PRIDE』といえば、かつて〝アメリカのPRIDEの父〟と呼ばれたエド・フィッシュマンと関係が深くなっているようですが。





（写真・左）『PLAYBOY』誌の創始者であり、このマンションのオーナーであるヒュー・ヘフナーも第一夫人をはじめとした多数の女性と観戦。男の憧れだ！（写真・右）関係者受付などのスタッフは、プレイメイトが担当。取材する側にとっても素晴らしいイベントだ！

コーカー　はい。彼は私のグッドフレンドですよ。ただ、一部で報道されているように彼がストライク・フォースに資本参加しているという事実はありません。ストライク・フォースは100パーセント私の会社ですからね。彼は野心家で、MMAに手を出したがっている。でも、ストライク・フォースに出資させるつもりはないんです。

――介入はさせない、と。

コーカー　ただフィッシュマンが香港でイベントをやるのなら、ジョイントベンチャーを組んでもいいとは思っています。彼は香港で強いコネクションを持っていますから。そうなったら、私がプロデューサーになってもいいですし、アドバイスが必要なら、コンサルティングもするつもりです。ただ、繰り返しますが、いまのところは、あくまでビジネス抜きの〝グッドフレンド〟です（笑）。

――フィッシュマン以外にも、マーク・キューバンら大富豪がMMAビジネスに参入してきていますが、こういった状況をどう思いますか？

コーカー　私が思うに、MMAビジネスはあと10年は成長しますね。だから、多くの人が参入したがるのは無理もない話ですよ。ただ、このビジネスでは、お金を持っていることが直接成功に結びつくものではありませんから。そのことはプロエリートやIFLを見ればわかりますよね。

――株価が大暴落していますよね。

コーカー　彼らは、それぞれ約2000万ドル（＝約24億円）もの大金を失なっているんですよ。だから、キューバンがいきなり巨額の投資をするとは思えません。たぶん、少しずつこの業界に参入してくるんじゃないでしょうか。そもそも彼の目的は、MMAで成功することではなくて、彼が出資するハイビジョン放送HDNetを成功させることですからね。

――あくまで、テレビコンテンツにすぎない、と。

コーカー　じつを言うと、彼はすでにストライク・フォースに対して「コンテンツに参加しないか」とオファーをしてきたんです。だから、もしかすると一緒にビジネスをすることになるかもしれません。私が知る限り、彼はスマートで、野心を持った人間です。だからビジネスパートナーとして組むかどうかは慎重に見極める必要がありますね。ただ、一つだけ彼の投資家に対して思うことは、「このビジネスは特殊なので、ファンはファンのままでいるべきじゃないかな」という

9.29 STRIKE FORCE AT THE PLAYBOY MANSION に来場した“リアル”格闘セレブたち



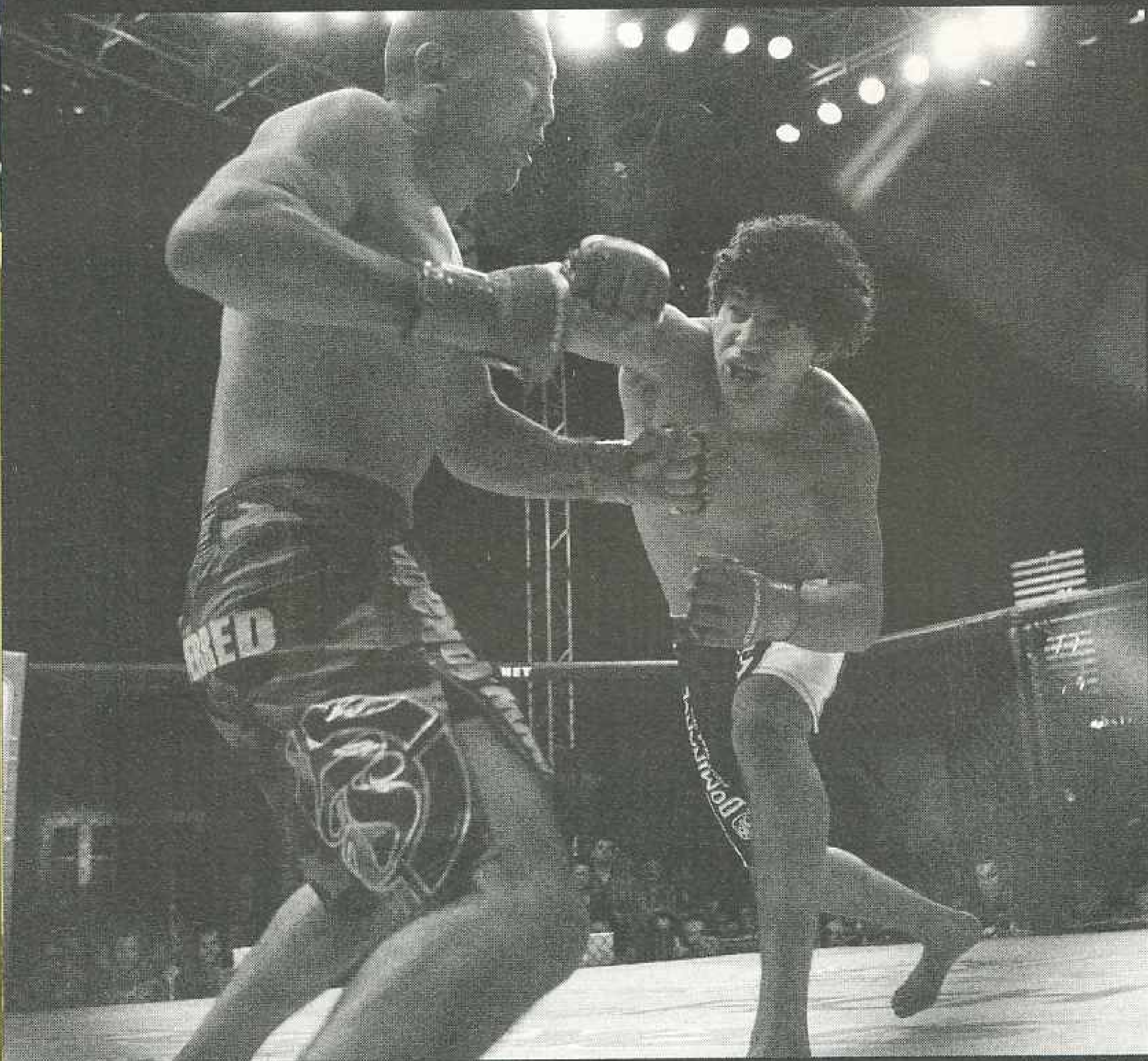
UFCとの契約を解かれ、現在、ジョシュと練習中のレナート〝ババル〟ソブラルも来場。ストライク・フォースとの契約が発表された。



ジョシュ・バーネットと元“アメリカのPRIDEの父”エド・フィッシュマンが仲良く観戦。この組み合わせで、今後なんらかの動きがあるのか？



誰かと思えば、フィル・バローニではないか。6月の試合で筋肉増強剤使用が発覚し（現在係争中）出場停止処分中にずいぶんと太ったようだ。



9.29 PLAYBOYマンション大会では、ストライク・フォースライト級王者ギルバート・メレンデスが加藤鉄史と対戦。自らのハードパンチで拳を痛めながらも3ラウンド判定勝ちを収めた。五味隆典、青木真也との闘いは実現するか？

ことですね（笑）。

——厳しい言葉ですね（笑）。話は変わりますが、業界の盟主となったUFCのダナ・ホワイト代表がストライク・フォースのことを「小さな町のローカル団体として頑張っている」と見下しながら評価した発言をしていますが（笑）。

コーカー　彼がこのビジネスの偉大な成功者であることは間違いないですよ。彼がいなければ、MMAがここまで成功したかどうかもわかりませんからね。彼はMMAで大金を生む方法を発見して、ナンバーワンになった。そういう意味では、私たちは彼らの作った道を歩いているにすぎないとも言えるでしょう。でも、MMAはスポーツなんですから、それを独占させるつもりはありません。いろんな団体があって然るべきですし、それぞれの団体がそれぞれのカラーを持っているのはいいことじゃないですか。

——非常にスマートな考えですね。UFCが『PRIDE』を事実上買収したことで、ビジネスに変化はありましたか？

コーカー　変化はフリーのファイターが増えたことで獲得できる選手が増えたことですね。ジョシュ・バーネットやケビン・ランデルマンがフリーになりました。彼らにはオファーを出していますし、サクライ（桜井"マッハ"速人）やゴミ（五味隆典）にも出てほしいですね。

ヒョードルの米国での知名度は低い ロシアの新団体が彼を獲得するでしょう

——ストライク・フォースは独占契約を結ばないので、UFCのように独占契約で縛られて日本で試合ができなくなることを嫌がっている日本人選手には向いているかもしれませんね。それは、ロシアでのコマンドサンボ大会への出場を希望しているヒョードルについても同じことが言えますよね。

コーカー　私たちもヒョードルにはオファーは出しています。実際、彼のマネージメント会社と、私たちのビジネス構造について話もしました。いま検討してもらっているところですよ。

——獲得できそうですか？

コーカー　その前に一つ言わせていただくと、ヒョードルが世界最強のMMAファイターだということに異論はないのですが、ここアメリカで彼のことを知っている人間は少ないんです。たとえば、チャック・リデルがここビバリーヒルズを歩いていたら、たちまち人だかりができてしまうでしょうけど、ヒョードルが歩いていたとしてもおそらく誰も気にしない。つまり、ヒョードルはオーガナイザーにとって、これから投資しないといけない人間なんです。

——となると、べらぼうな金額は提示できない。

コーカー　だから、彼の知名度の高いロシアの新団体が獲得することになるんじゃないかなと思います。

——ロマン・アブラモヴィッチが出資するというウワサのある団体ですか？

コーカー　そういうふうに聞いています。それに私が聞いたところでは、彼はほかのPRIDEファイターがオクタゴンケージで負けていることを知って、リングでの闘いを希望しているという話もあります。

——では、もう一人の注目選手、ジョシュはどうですか？　彼は今日も来ていましたけど。

コーカー　彼とは、あとはお金の問題ですね（笑）。

——なるほど。あちこちからオファーは来ているようですし、金銭面ではシビアな人だと聞いてますからね（笑）。

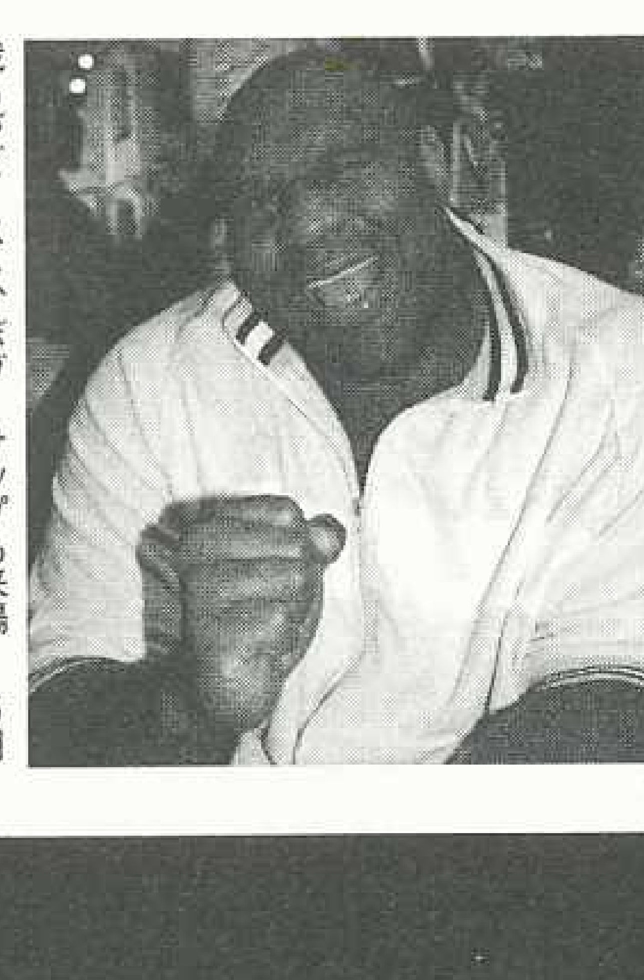
コーカー　ジョシュ・バーネットも獲得したいし、ケビン・ランデルマンも獲得したい。そしてボブ・サップとも契約を結びたいですね。

——サップまで狙いますか！（笑）。

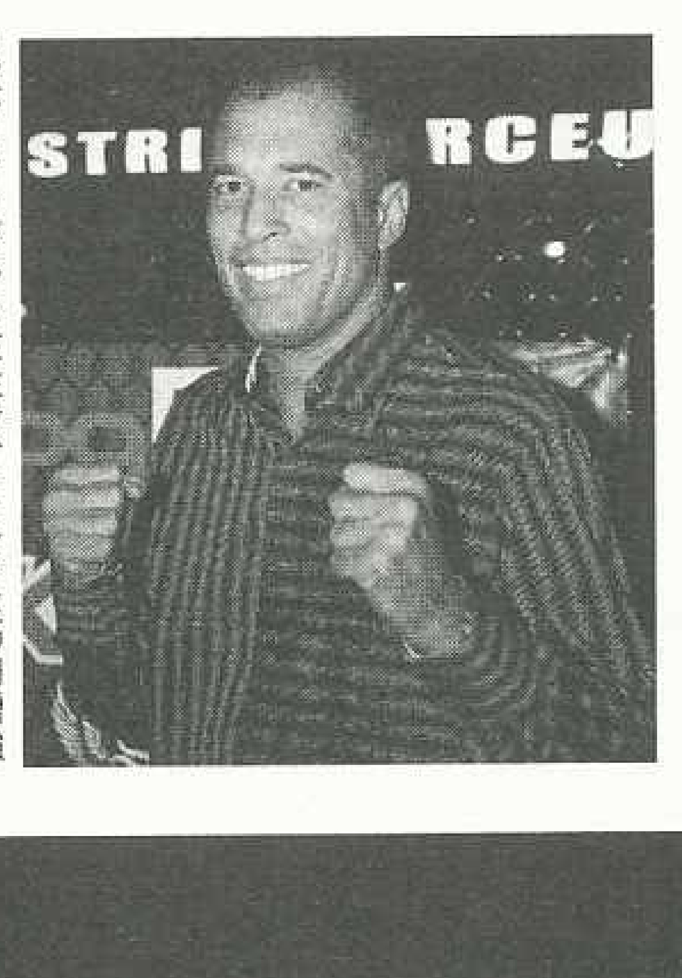
コーカー　いまはUFCのほうが、ストライク・フォースよりも大きい。これはもちろん事実です。でも彼らは14年もこのビジネスをしていて、私はまだ18ヵ月しかやっていないんです。でも、私たちはすでにアメリカでナンバー2の団体になりました。そして、さっきも言いましたけど、MMAはユニークなビジネスなんです。決してお金のある大きな会社が勝つわけじゃない。まあ、見ていてくださいよ。

——わかりました。では、今後のストライク・フォースに期待してます！

【07年9月28日／米国カリフォルニア州ロサンゼルス、PLAYBOYマンションにて収録】



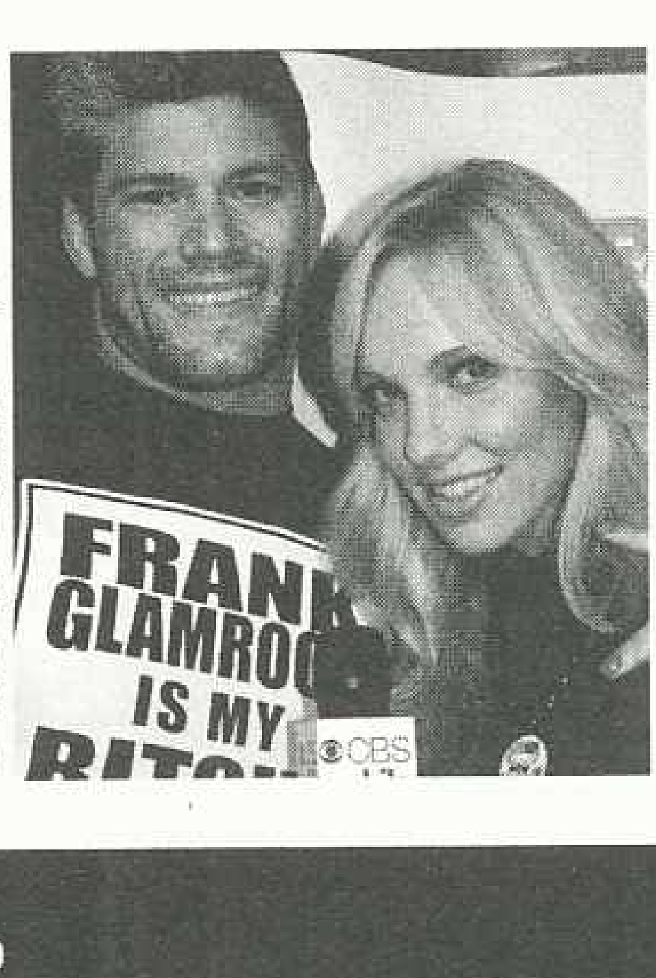
我らがビースト、ボブ・サップも来場！　5月のK-1オランダ大会以来、またしても試合から遠ざかっているが、参戦の可能性もあり？



地元ロサンゼルス在住で、これまた筋肉増強剤使用発覚で出場停止処分中のホイス・グレイシーさんも来場。う〜ん、ダイナマイッ！



WECフェザー級王者、"カリフォルニアKID"ユライヤ・フェイバーも大はしゃぎ。真ん中はジェフ・グローバーだ。

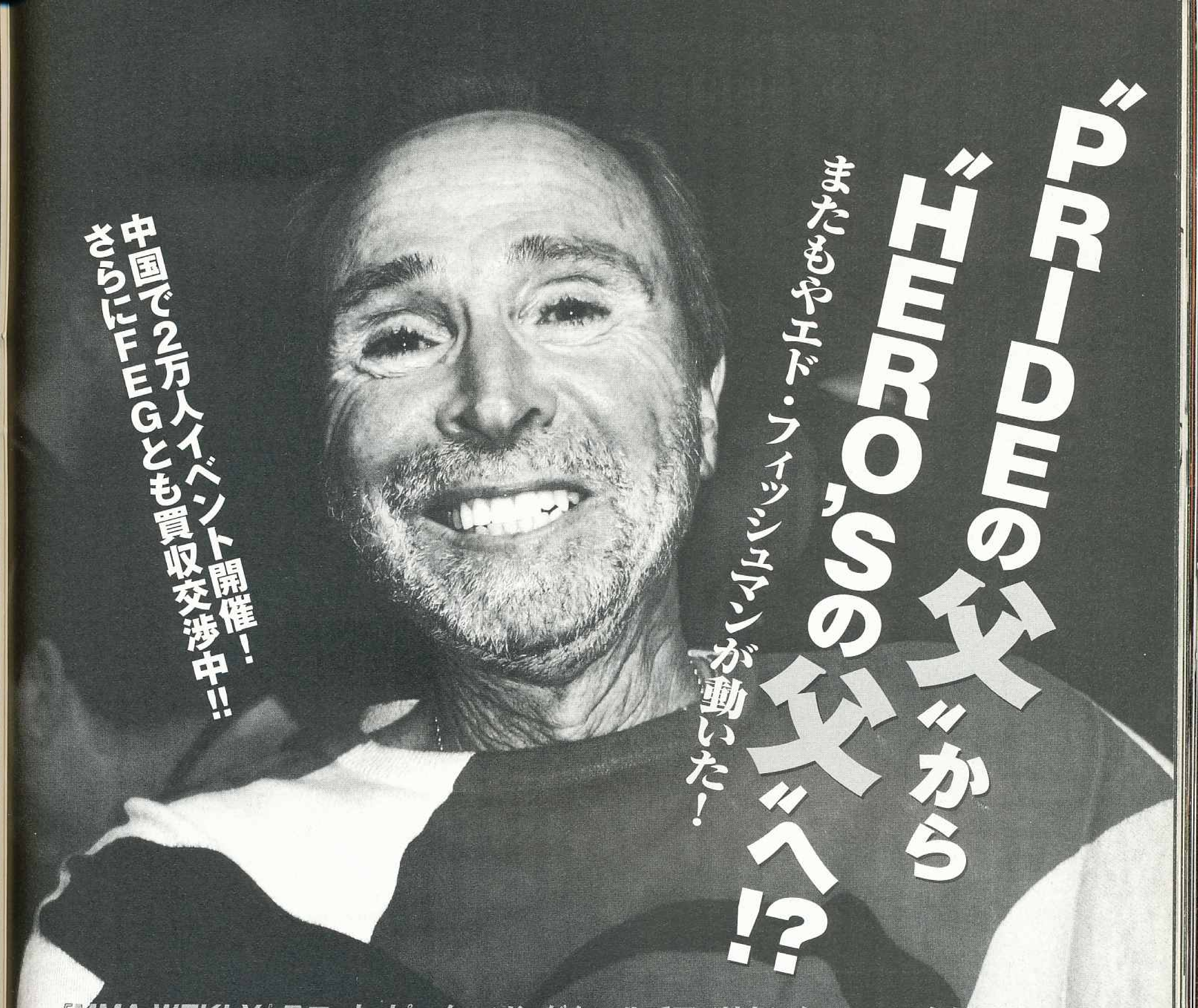


ストライク・フォース軽量級のトップファイター、ジョシュ・トムソンは、CBSの美人リポーターからインタビューを受けていた。

“PRIDEの父”から“HERO'Sの父”へ!?

またもやエド・フィッシュマンが動いた！

中国で2万人イベント開催！ さらにFEGとも買収交渉中!!

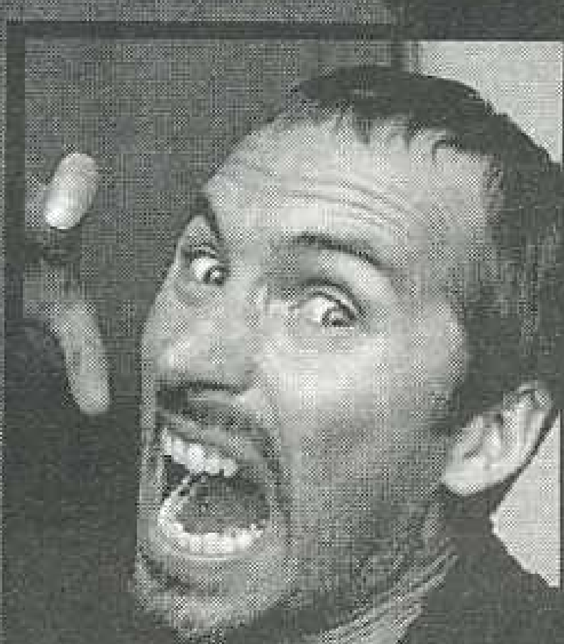


『MMA WEKLY』スコット・ピーターソンがクールでアメリカンなニュースをお届け!

USA COOL 宅急便

元“アメリカのPRIDEの父”こと、エド・フィッシュマンの計画がついに具体化! ラスベガスを抜いて、世界一のカジノシティとなった中国のマカオでビッグイベントを開催するという。さらに日本進出も視野に入れており、パンクラス買収に加えて、『HERO'S』のアメリカ興業買収にも興味を示している。はたして、その野望は実現するのか?

聞き手／デューク東郷　撮影／石井史彦　試合写真／Josh Hedges（UFC）



PROFILE
Scott Petersen
【すこっと・ぴーたーそん】
格闘技情報WEBサイ『MMA WEEKLY』（http://www.mmaweekly.com/）を主宰。日米格闘技事情に精通。ビッグマッチのたびに来日していたが、『PRIDE』の活動停止に伴ない、八王子のアパートを撤去。現在は米国・ユタ州在住。

スコット　いや〜、今回はビックリしたね〜!

——ホントだよ、まさか『PRIDE』の日本事務所が閉鎖されることになるなんてね。

スコット　違うよ！　そんなことじゃなくて『UFC76』アナハイム大会で陽性反応が出たカズ（中村和裕）のマリファナ騒動だよ！

——そっちかよ！

スコット　相撲の格好で出てきたときから、なんか、いつもと違うと思っていたんだよね。

——それは関係ないでしょ！　カズが所属するJ－ROCKは大麻の使用を否定し、再テストを求めているけど。

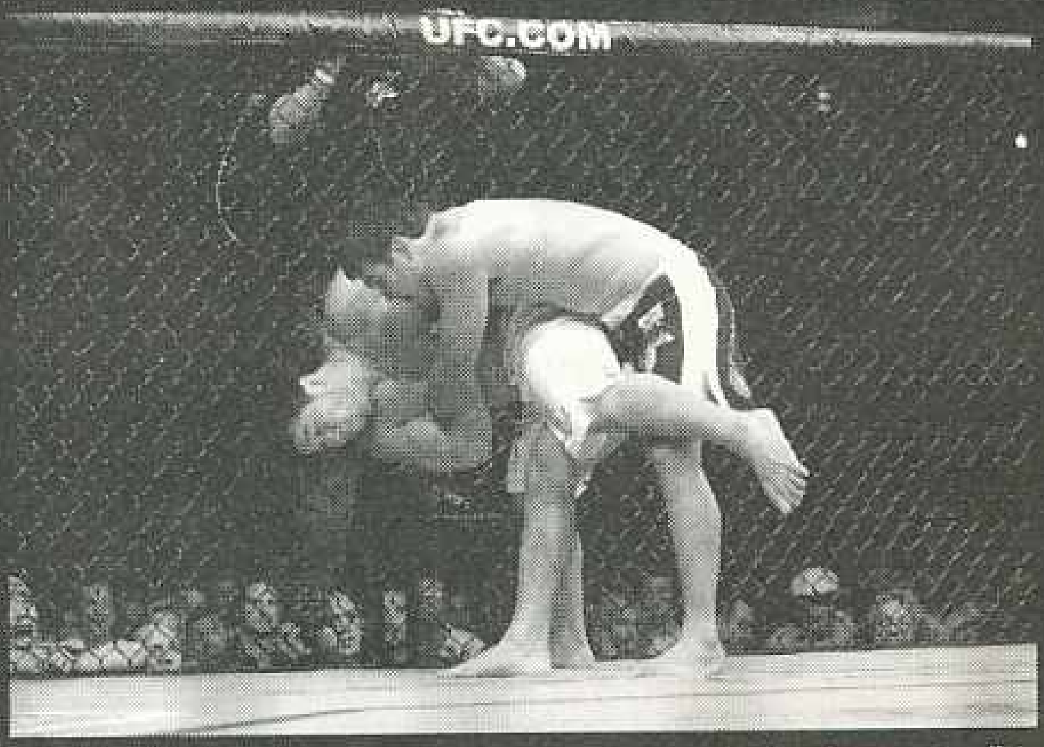
スコット　カリフォルニア州アスレチック・コミッションのアルマンド・ガルシア代表は「もうすでに4回もテストをして、結果はすべて陽性反応だった」と話している。

——じゃあ、「3ヵ月間の出場停止プラス500ドル（＝約6万円）の罰金」というコミッションの処分は覆りそうにない、と。

スコット　過去にドラッグやステロイドなど、メディカルチェックでのコミッションの裁定が覆ったケースはない。しかも今回の場合はペナルティが軽いから、J－ROCK側が大金を使って弁護団を結成してまで争うとは思えないね。

——でもほかの州と比べてカリフォルニア州のコミッションは、6月の『Dynamite!! USA』でチェ・ホンマンが脳腫瘍疑惑で出場で

きなかった件やUFCライト級王者ショーン・シャークのステロイド問題など、揉めたケースが多いけど、彼らの裁定は本当に正しいのかな？
スコット　コミッションはそもそもボクシングの興行を管理するために作られた組織だから、MMAの試合に関しては、経験の少なさから不可解なジャッジで批判を受けることはある。でもメディカルチェックに関しては経験を積んでいるんだ。
――ミスは考えられない、と？
スコット　ただステロイドに関して言えば、そもそも人間の身体から自然に作られるもの。だから基準値よりも検出量が多い人が摘発されるわけだけど、常人よりも分泌量が多い人もいるわけで。
――なるほど。シャークのステロイド疑惑は"白"かもしれない、と。
スコット　ダナ・ホワイトもシャークのために大金を使って弁護団を結成しているし、どうなるか注目だね。あと、実際にカリフォルニア州アスレチック・コミッションが訴えられたケースもある。



初参戦となった『UFC76』で、力士のごとく手刀を切って、"土俵入り"するようにオクタゴンに入場した中村カズ。"マリファナ騒動"については、「摂取してないよ!!」とブログで完全否定。

――どういうこと、それ？
スコット　訴えを起こしたのは、新興団体NEF。団体の発表によると、7月19日に予定していたトライアウト大会の実施直前になってコミッションが中止命令を出したことで、大会収益や映像化権などの機会損失を被ったというもの。そして、その賠償として、なんと5億ドル（＝約600億円!!）もの金額を請求しているんだ。
――5億ドル!!　どんだけ豪華なトライアウトを実施しようとしていたんだ？（笑）。だいたい、その団体には誰が出ているのさ？
スコット　団体の所属選手は、日本ではご無沙汰のキモ。そしてほかのファイターは……、現在募集中だ。
――キモ？　その団体怪しいよ！　だいたい、なんで中止命令が出たの？
スコット　それは、この団体がプロモーター・ライセンスを持っていなかったことが原因らしい。
――論外じゃん！　そんな状態で裁判に勝てるのかよ？
スコット　ロン・コートNEF代表は「これまでコミッションの不当な処分によって傷つけられた団体や選手は多く、そういった人々から応援メッセージをもらっている」と自信を見せている。
――それ裁判には関係ないでしょ！
スコット　もっとも、NEFにとっては、裁判の結果はどうでもいいのかも。正直、この件は売名行為の匂いがするね（笑）。
――なるほど、注目を集めようって算段か！　じゃあ、カズも注目を集めるために、わざとマリファナを吸ったのかな。
スコット　んなわけねーだろ!!　それにカリフォルニア州では医療目的での大麻使用が合法だったりするぐらいだから、この件はアメリカでは大きなニュースにはなってない。パブリシティにはならないね。
――へ～、マサさんもアメリカでは吸っていたらしいけど、アメリカはユルいね。でも日本ではけっこうな問題なんだよ!!
スコット　日本のマスコミがそこまで大騒ぎしているのはわからないな～。あと、大騒ぎといえば、『PRIDE』の日本事務所が閉鎖された件もそう。騒いでいるのは日本のメディアとファンだけ。アメリカや世界のファンは全然、気にしてないよ。だって『PRIDE』は、イベントを開催してなかったじゃん。アメリカ側は「DSEの元役員たちが協力しなかったため、イベントの開催が不可能になった」と声明文を出していたけど、関係者に聞いたところ、日本での地上波の獲得ができなかったことが撤退の大きな原因の一つだと話していた。
――以前からダナもそう語っていたよね。
スコット　アメリカ側からすれば、『PRIDE』を購入したことは、日本市場に進出するためという意味合いが強かった。でもテレビ局との契約がうまくいかず、イベントが開けないのであれば、ムリして日本でオフィスや人員を維持するよりも、いま莫大な利益を生み出しているUFCに経営資源を集中させるほうが効率はいい。だからファンや解雇された社員から見れば、突然の"解散"だったけど、地上波獲得にすでに数ヵ月の時間を費やしていたUFCにとっては、急な判断じゃなかったんじゃないかな。

私が『PRIDE』を買い取っていれば、従業員が解雇されることはなかった

――ズッファ社はヨーロッパ戦略で、今年になって進出したイギリス市場開拓のために莫大な広告費をかけて大きな赤字を出しているらしいけど、それも影響しているのかな？
スコット　直接的な関係はないだろうけど、これ以上、海外での負担を増やしたくなかったのかもね。ちなみに、元"アメリカのPRIDEの父"ことエド・フィッシュマンは、「私が『PRIDE』を買い取っていたなら、こんなことは起きなかった。元の日本人スタッフたちと大会を開催していただろう」と話している。
――でも、フィッシュマンって、いつも「来月、新団体を旗揚げする！」とか大風呂敷を広げているイメージがあるけど、本当にイベントを開催する力はあるの？
スコット　それが今度ばかりは具体的なんだ。エドは来年のチャイニーズ・ニューイヤーにあたる、2月1日にマカオで新イベントを立ち上げようとしている。"アメリカvs中国"の対抗戦を計画していて、すでにメジャーカジノとのスポンサード契約の話をつけているとのことで、その旗揚げ戦のために、2万人規模の会場を押さえているんだ！
――ホント!?　でも"アメリカvs中国"って、中国側からは誰が出場するのさ？
スコット　MMAの歴史が浅い中国では選手が育ってないから、トレーニング・プログラムを与えて、現在育成しているらしい。
――いまから間に合うのかよ！　で、アメリカ側からは誰が出るの？
スコット　エドは「ジョシュ・バーネットやフランク・トリッグらの元PRIDEファイターを出場させる」と話しているね。
――バランス悪いよ、そのマッチメイク（笑）。
スコット　さらにエドは中国でのイベントを成功させたら、日本進出をも考えている。「『PRIDE』の栄光を復活させる」と息巻いているよ。
――パンクラスを買収するという報道もあるけど。
スコット　エドはその可能性を否定していない。さらに最終的にはラスベガスでイベントを開催しようとしているエドは、FEGに接触して『HERO'S』のアメリカ部門買収のオファーをしたことも明かしている。
――それって『Dynamite!! USA』を買いたいってこと!?　なんだか、話が現実的なのかどうかわからなくなってきたなぁ（笑）。とにかく引き続きフィッシュマンの動きには注目だね！

【07年10月10日／国際電話にて収録】

マット界至極のコラム布陣！ kamipro Hand

試合の裏側、事件、バカネタまで完全網羅！

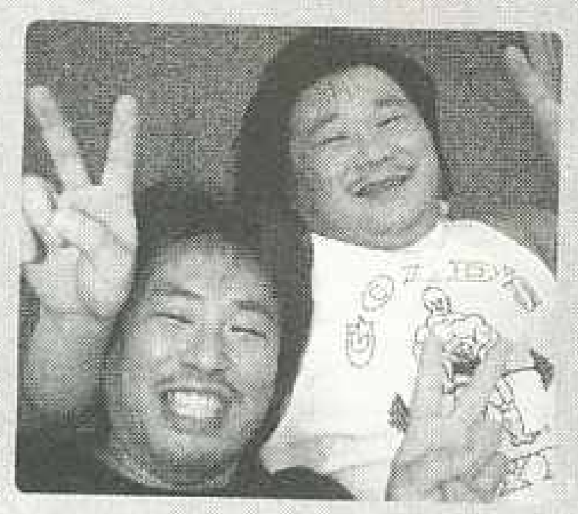
火 金村キンタロー&黒田哲広の「こんな答えで"恐縮です"」

金村&黒田の人生相談、今週は「整形したい？ この額の傷を見ろ!」

［07年10月2日掲載文から一部抜粋］

――絶好調の「こんな答えで"恐縮です"」ですが、今週も先週に引き続きコンプレックスを抱えた若者からの相談事です。
金村　またか？　ホンマにつまらんことで悩む奴が多いのぉ～。
黒田　いままでのはちゃんと解決になってんですかね？（笑）。
――たぶんなってます！　ということで、今週もお願いします！

> 24歳の会社員ですが、自分の顔に自信がなくて悩んでいます。先日は同僚の女性に飲み会の席で『○○くんの笑顔、コワイ』と言われたこともあって、ますます自信がなくなりました。いまさら整形もできないし、そんなお金もありません。こんな自分が金村さんや黒田さんのようにモテるにはどうしたらいいでしょうか？（24歳・会社員・男性）



――この方は自分の顔にコンプレックスを抱いているようですね。
金村　ああん？　コイツはイヤミ言うとんのか！　俺なんかブサイクの典型で、家族ですら俺のことを名前で呼ばへんのや！
――なんと呼ばれてるんですか？
金村　「ブタ」か「白ブタ」ね。ガハハハハ！　……

月 三田佐代子の「あなたの知らない世界」

第34回「やっぱり相撲が最強!」の巻

［07年9月24日掲載文から一部抜粋］



……我々、野次馬衆としてはこの問題をゼヒとも曙関にばっさりと切っていただきたいところでしたが、私が「曙さん、朝青龍関のことなんですが……」と打ち合わせの席で言うか言わないかの瞬間に曙関のマネージャーさんが「あ、その話はNGでお願いします」と秒殺。やっぱりな、とあきらめかけたところ、ヨコヅナはニコニコと笑いながら「本当はこの話だけで1時間はいけるんですけどね」と言うではありませんか。調子に乗ったわたくし、控室でのココバナならよかろうと思い、とりあえず怒られるまで突っ込んでみることに。

――普通ヒデさんとサッカーやったら日本でニュースになるかもしれないって気にしますよね？
曙　朝青龍の場合もう何年も一人でヨコヅナをやってますから、そのあたりを誰も注意してあげられないんですよ。
――ヨコヅナってそんなに特別なものなんですか？
曙　もう完全に特別な、別世界の人間になってしまいます。とくに彼の場合一人ヨコヅナですから、そういう意味では可哀想。本当はマジメな、稽古をちゃんとやるいい子なんですけど、そういう側面を誰も見てあげない。
――曙さんは朝青龍とは長いお付き合いなんですか？
曙　ボクの付き人だったんですから。　……

木 デューク東郷の「USA Cool宅急便モバイル」

ノゲイラUFC離脱!? アスレチック・コミッションが訴えられた!

［07年10月4日掲載文から一部抜粋］

■ノゲイラがUFCを離脱!?
――ノゲイラがUFCを離脱してカナダの新興団体に移籍するんだって!?
ケビン　「『PRIDE』消滅！」って大々的に報道していた某スポーツ新聞のネタね。でもノゲイラはUFCに移籍して1戦しか闘ってないから、契約試合が残っていて移籍できないでしょ。カナダのHCF（ハードコア・ファイティング・チャンピオンシップ）と契約したのは、弟のアントニオ・ホジェリオ・ノゲイラ。カナダでは隣国アメリカのUFCブームが伝わってMMAが盛り上がっていて、HCFは皇帝ヒョードルの弟アレキサンダーとも契約を交わしたり、ビッグネームを集めつつあるんだ。
――ふ～ん、でもその団体、デスマッチ団体みたいな名前だけど大丈夫なのかな？（笑）。

■カリフォルニア州アスレチック・コミッションが訴えられる!!
ケビン　大変だよ！　毎度、強気な態度で団体や選手に臨んでいるカリフォルニア州アスレチック・コミッションが訴えられたんだ！
――どういうこと、それ？
ケビン　訴えを起こしたのは、アメリカの新興団体NEF（ニュー・エラ・ファイティング）。団体の発表によると、　……

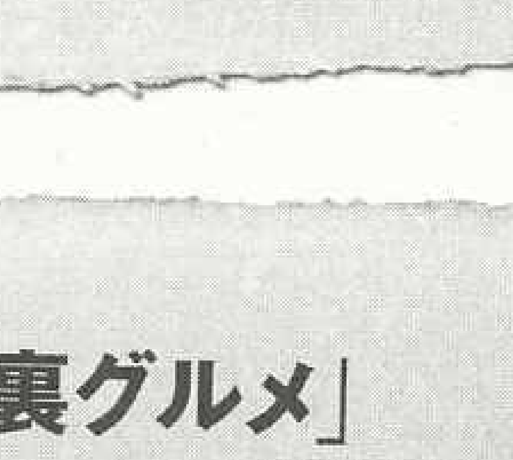
水 橋本宗洋の「格闘裏グルメ」

K-1ソウルで金的問題勃発！ 腸蹴りは"谷川黒魔術"なのか!?

［07年10月3日掲載文から一部抜粋］

……それともう一つ。谷川Pがテレビ解説で言っていた"腸蹴り"についてである。谷川Pはあのダウンシーンを"腸を蹴る前蹴り"ではないかと解説していたのだ。で、筆者の周りにも「腸蹴りなんて技、あるんすか?」と言う人間がいる。まあ、いかにも谷川黒魔術というか、あとづけっぽい感じに聞こえてしまったんだろう。ところが"腸蹴り"って、実際にある技なのである。

一口に前蹴りといっても、足の裏全体で蹴って相手を突き放すもの、足先で蹴ってダメージを与えるもの、顔面を狙うもの、ボディを狙うものとさまざまだ。で、その中にはヘソの下から金的のすぐ上までのあたり、筋肉がつきにくい部分＝腸を狙って蹴る前蹴りもある。筆者が初めてその技のことを知ったのは、正道空手の技術書『勝つ！ ための空手』においてであった。そしてホンマンのトレーナーを務めているのは、正道会館の金泰泳。ホンマンが実際に"腸蹴り"を教わり、それを試合で使っていたとしてもなんらおかしいことはないのだ。この試合、ホンマンはモーをパンチの距離に入れないため、前蹴りを多用していた。



ただ、そうはいってもホンマンの蹴りの技術を見る限り、狙って腸を蹴るのは無理だと思う。あれはやっぱり偶然のローブローであって、ローブローではあるけれどダウンだということだろう。筆者の心に残ったのは、　……

土

kamipro事件簿
「ヒョードルはミルコになれたのか」



日

kamipro日曜劇場
「K-1MAX2007王者 アンディ・サワー」



金

金沢克彦の「プロレス村から愛を込めて」

まさしく人に歴史あり! 健介vs川田の数奇な運命と決着戦

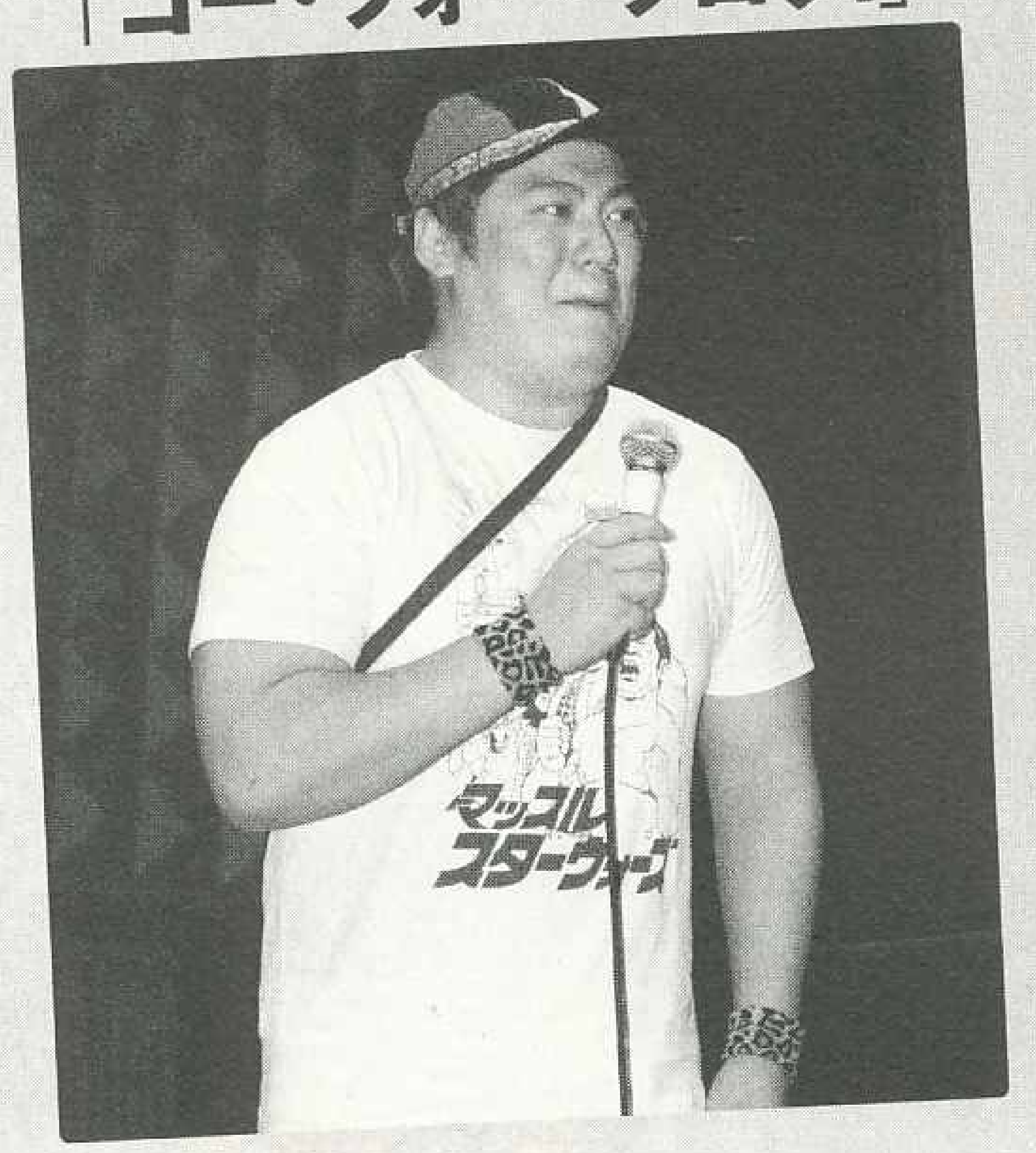
[07年10月4日掲載文から一部抜粋]

……10月18日代々木大会はけだし見ものである。メインは三冠ヘビー級選手権。先の8月26日両国大会で、約1年にもおよぶ鈴木みのるの政権を切り崩した佐々木健介の初防衛戦となる。挑戦者は川田利明。「またしても外様同士の三冠戦かよ!?」という外野の声もチラホラ聞こえてくるのだが、だいたいからして全日本の場合、純粋な所属選手自体がほんの少数なわけだから、そういった度量の狭いことは言いっこなし。いまの時代、所属選手は少なければ少ないほど経営は安定するというのが、業界の道理なのである。そういう話はさておき、今回の健介vs川田戦の歴史をひも解いたうえで、その闘いの意義を連ねてみようかと思う。

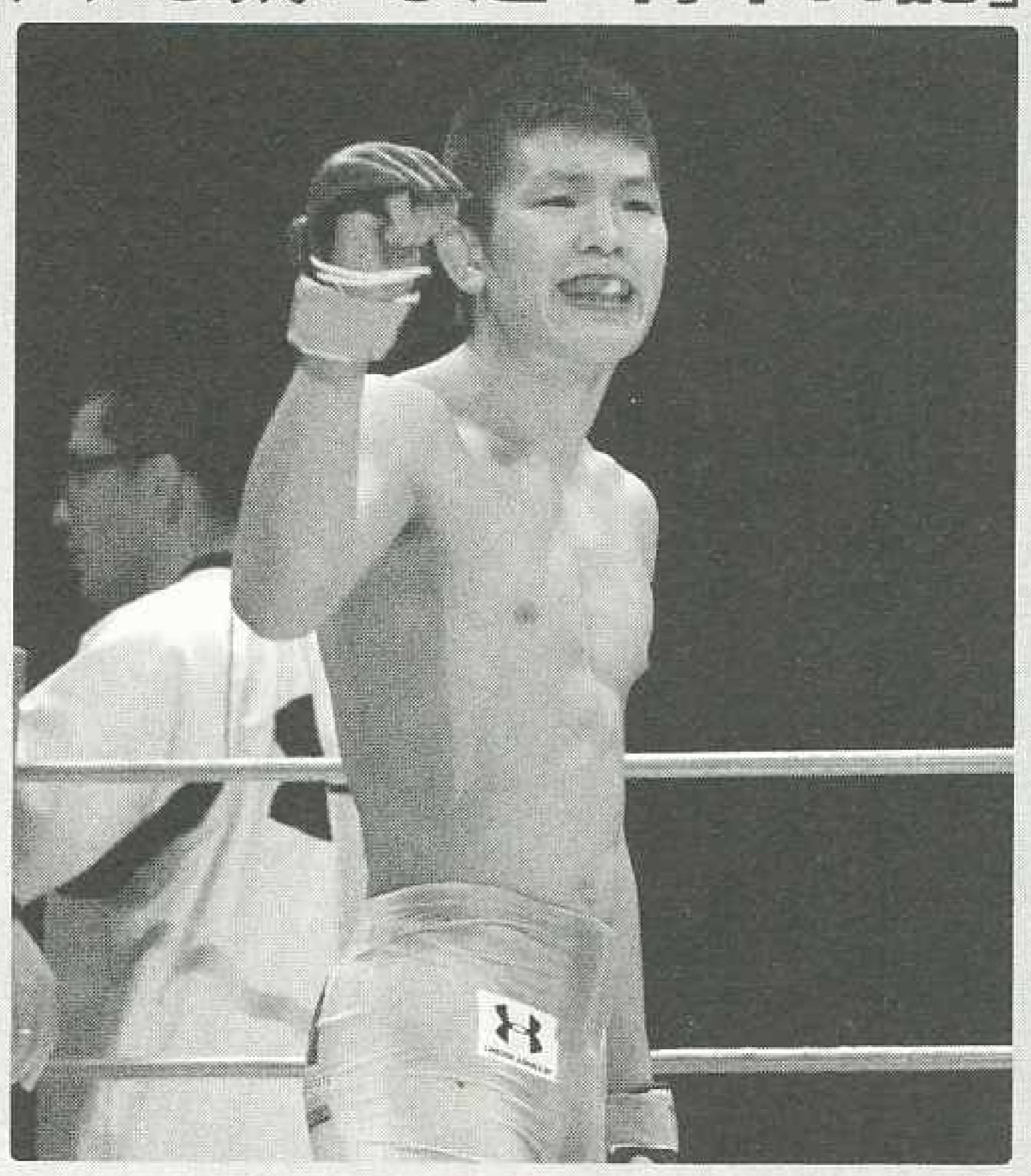
すでにキャリア20年を超える両者であるが、トップ選手としてのシングル初遭遇は、歴史的な一戦となった。2000年の10月9日東京ドーム大会。新日本vs全日本"全面対抗戦"のメインで激突したのだ。当時の業界はまさしく混乱期。全日本から大量の選手&フロントが離脱し、ノアを設立。残留組の主力は川田、渕正信、太陽ケアと数えるほど。ここで、全日本は新日本との交流、対抗戦に活路を見出した。一方、99年の1月4日東京ドーム大会((小川直也戦)以来、新日本マットの主流から外れた橋本真也(故人)は、引退を撤回し、この日の第1試合で藤波と対戦。ただし、独立の噂が絶えなかった時期でもある。当時の健介はIWGP王者であり、橋本に取って代わる新エース道を邁進していた。しかし、なぜかこの一戦はノンタイトル戦で決行されている。そして、もう一人、この対抗戦に物言い(?)をつけた人物がいる。……

毎日更新ブログも大好評連載中!

マッスル坂井の「ゴー・フォー・ブログ!」



青木真也の「やる気! ○起! 青木日記」



そのほか、試合速報、海外ニュース、毎日の事件も続々アップ中!!

自称“ハッスルの神の子”に強力助っ人が登場!!





じつは本誌初単独インタビュー
ドラゴン、ついに神様との日々を語る!!

“神様”
カール・ゴッチ
追悼特集第3弾!!

“ゴッチ教室”滞在最長記録保持者
藤波辰爾



Tatsumi Fujinami

「ドラゴンブームの原点はメキシコとゴッチさん!」

7月に亡くなられた“神様”カール・ゴッチさん邸のゴッチ道場にて最も長くトレーニングを積んだ門下生、それが“我らがドラゴン”藤波辰爾だ。ドラゴンスクリュー、ドラゴンスープレックスなど数々のドラゴン殺法を伝授されたドラゴンが肉体面&精神面から語る“ゴッチイズム”の真髄とは?

聞き手/堀江ガンツ

——藤波さん、『kami-pro』では奥さんの伽織さんとの対談はやらせていただきましたけど、藤波さんのピンのロングインタビューはじつは初めてなんですよ。

藤波　ああ、そう！

——それで今日は、先日亡くなったカール・ゴッチさんのお話を中心にうかがいたいと思います。

藤波　いわゆる〝ゴッチ門下生〟は、ボクのほかにも名前が挙がってくると思うけど、ボクは新日本プロレス旗揚げ当時から教えてもらってますからね、そんな話でよければ（ニッコリ）。

——よろしくお願いします！　藤波さんは新日本プロレスに入門する前からゴッチさんのことはご存知でしたか？

藤波　いや、知らない！（キッパリ）。

——あ、その頃は知らなかった（笑）。

藤波　ゴッチさんのことはプロレス界に入ってから知ったの。本格的に知ったのは実際に新日本の旗揚げ戦で猪木さんとやった試合を観たり、新日本でのゴッチ教室が始まったときだよね。ただ、「怖い人だ」っていう話は聞いてましたから。怖いっていうか、「一切の融通が利かない」っていうイメージね。

——当時の若手選手っていうのは、どういったメンバーですか？

藤波　新日本プロレスの最初の頃にカール・ゴッチにコーチしてもらったのは山本（小鉄）さんでしょ。それに木戸修、藤原喜明、ドン荒川……。

——まさしく黎明期のヤングライオンですね。キラー・カンさんもいたんでしたっけ？

藤波　いや、小沢（正志＝キラー・カン）とか木村（健吾）が坂口さんと新日本プロレスに合流したとき（73年3月）は、もうゴッチ教室は終わってた。74年にカール・ゴッチ杯っていう大会（ヤングライオン杯の前進。藤波は第1回大会で優勝）はやったんだけど。

——ホントに初期じゃないと、新日本のゴッチ教室はなかった。もちろん、練習は相当にキツかったんでしょうね。

藤波　キツイというか、あれこそがホントのレスラーの練習なんだろうね。だからいまの練習っていうのは本来のレスラーのやる練習じゃない！

——いまの練習はレスラーの練習じゃない！

藤波　いまはウエートばっかりでしょ？　もちろんレスラーにはウエートも必要なんだろうけど、ボクがゴッチさんの家に滞在していた頃なんか、ウエートなんかなしで一日の練習が5時間！　熱が入れば8時間だから。

——では、ゴッチさんからは、レスラーとして一から手ほどきを受けたって感じだったんですか？

藤波　そうだね。ボクがレスラーとしてモノになったのは日本プロレスから、新日本プロレスに移ってから。それに「レスリングというものはどういうものか？」っていう部分はゴッチ教室で学んだことが大きかった。道場では誰も教えてくれなかったし、ましてやボクなんてアマレスや柔道の格闘技経験もない、陸上競技しかやったことがなかったんだから（笑）。

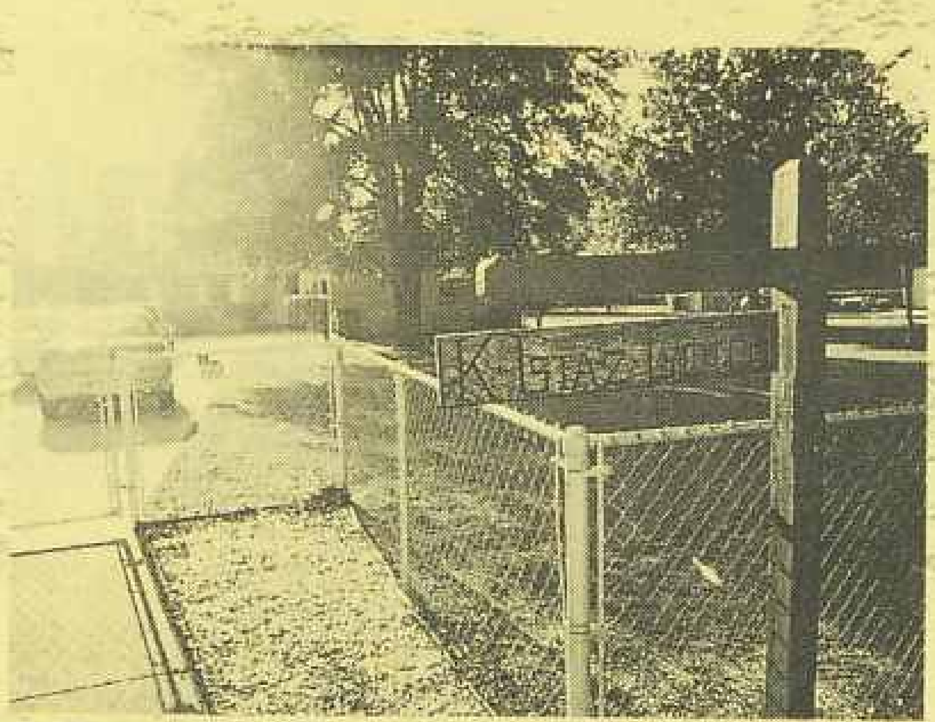
——逆に考えると、よく当時そういうキャリアでプロレス界に入れましたね。

藤波　そうねぇ。だからいまだに小さい頃の自分を知っている人は、みんな言うよ。「よくプロレス界に入れたなぁ」って。だって、もともとボクは〝格闘〟ってことが大嫌い！（キッパリ）。

——プロレスラーなのに格闘そのものがお嫌いでしたか（笑）。

藤波　要は闘うことが怖いんですよ（キッパリ）。だからプライベートでケンカした経験も一切ない！　いまだにリングに上がる前は怖いもんね。

——そんな藤波さんを肉体的にも精神的にも鍛えて、プロレスラーにしたのがゴッチさんだったわけですね。では、入ったところがゴッチさんのいる新日本じゃなかったら、全然違うレスラーになっていたのかもしれない。



藤原喜明、佐山サトル、前田日明らが修行したフロリダのゴッチ邸。ドラゴンは75年に木戸修と訪れるも木戸は3ヵ月で帰国。残ったドラゴンは約半年間、神様がつきっきりの贅沢なトレーニングを受けることになったのだ。

藤波　違うね！　ゴッチさんの教えや、新日本旗揚げ当時の猪木さんのストロングスタイルがなかったら、いまのボクはないでしょう。それに当時の新日本プロレスの若手には、「プロレスっていうのは怖いもんだ」っていう教えが徹底されていたから。

——練習の面でのゴッチイズムを受け継いだ〝鬼軍曹〟小鉄さんもいらっしゃいましたし。

藤波　藤原にしろ、（グラン）浜田にしろ、佐山（サトル）にしろ、前田（日明）にしろね。それから鈴木（みのる）、船木（誠勝）くらいまでギリギリ入るのかな。新日本プロレスが根底に持っている恐怖感がリングの上にも出ていたよね。だから当時の選手は、リングに上がったら身震いしてたもん！

——身震いしましたか。

藤波　なんちゅうかな……震えてるのは、恐怖よりも現場の緊張感だよね。猪木さんだって若くて現役バリバリだし。上の選手の厳しい目も光ってる。ヘタにナマけようもんなら、リングよりも控室のほうが怖いわけだから（笑）。

——ダハハハハ！　お客が観てるリング上のほうがずっとマシ。

藤波　控室で木刀持って待ってるんだから（笑）。でも、試合中だって竹刀を持ってお客さんそっちのけで選手をブン殴ってたりしてたからね。お客さんは「何ごとだ！」って思うよね。

——それが新日本プロレスの〝原風景〟なんですね。その新日本の礎を築いたのがゴッチさんだったわけですが、藤波さんは、海外遠征もヨーロッパに行ったあと、フロリダのゴッチさんのところに行ったんですよね。

藤波　そうね。半年間いたんだけど、そのあいだ、試合はやらせてもらえず、とにかく練習漬けだったよね。

——ホントに練習だけですか？

藤波　そう！　ホントは試合もしたかったんですよ。でもゴッチさんは「試合なんてしなくていい！　練習しろ！」って。半年間は一切やらせてくれなかった。ただ、いま思えばゴッチさんは寂しかったんだろうね……（しみじみと）。アメリカのプロレスを嫌っていたから、「アメリカのプロレスに毒されない選手を育てたい」、それに「誰かしら自分のところに置いておきたい」って気持ちがあったんじゃないかな？

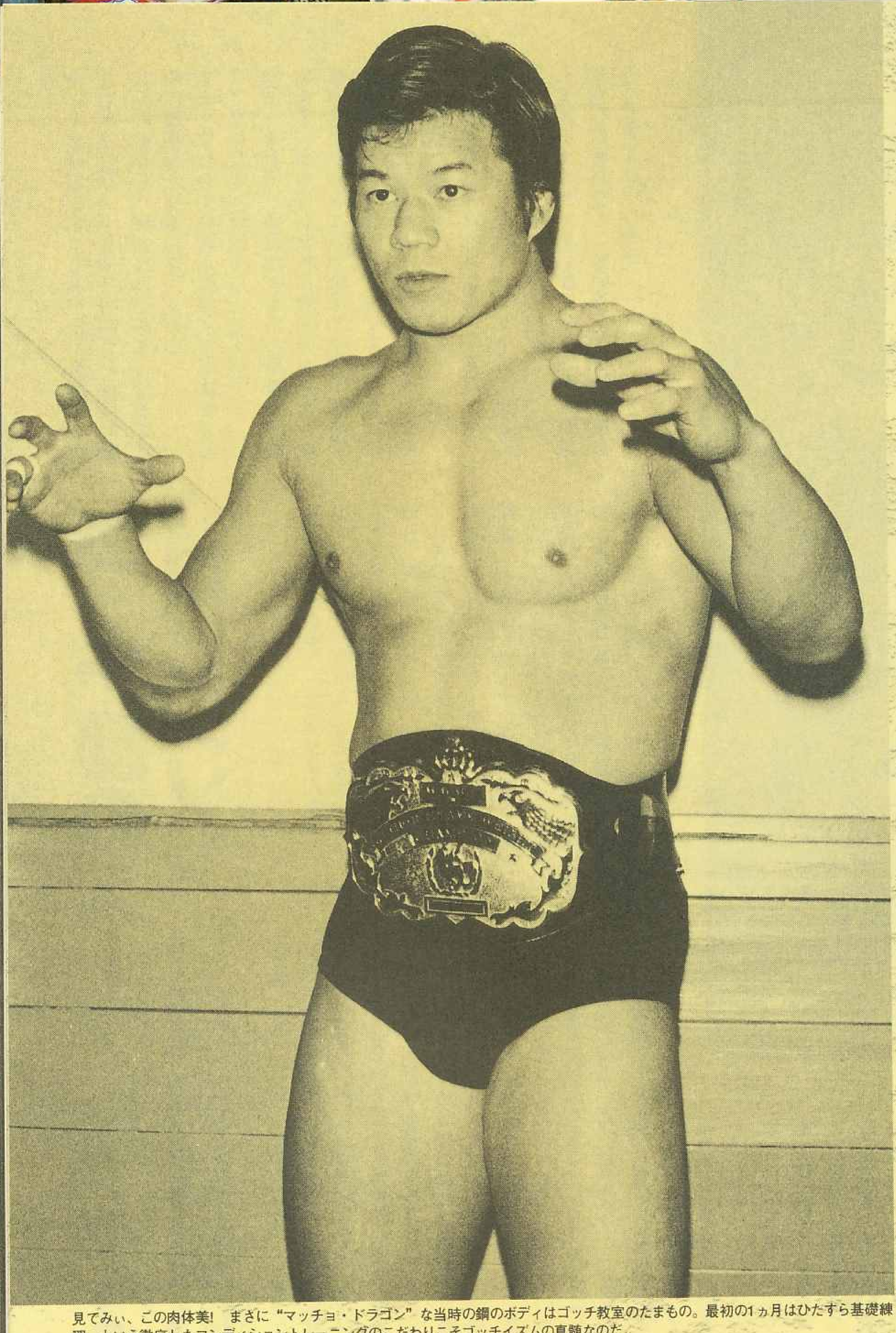
——神様は寂しがりやでしたか。

藤波　もちろん自分もまだ身体が出来てなかったし、この世界のことを何も知らなかったから、「いまのままアメリカのプロレス界に放り込んだら潰される」っていう親心もあったんでしょう。だから試合をするより、練習、練習、練習だよね。じつはゴッチさんのところにいた時期は、ボクが一番長いんですよ。

——よく藤原さんが一番長いって言われますけど、最長記録は藤波さんがお持ちでしたか。

藤波　うん。それに藤原も前田も佐山もアパートから通っていたけど、ボクと木戸さ





見てみぃ、この肉体美！　まさに"マッチョ・ドラゴン"な当時の鋼のボディはゴッチ教室のたまもの。最初の1ヵ月はひたすら基礎練習、という徹底したコンディショントレーニングのこだわりこそゴッチイズムの真髄なのだ。

ゴッチさんは、毎朝5時半起き！軍隊みたいに"行進曲"で起こされたね

んはゴッチさんの自宅に住み込みだったからね。しかも、ホントにゴッチさんの隣の部屋なんだから（笑）。

――ゴッチさんと毎日、同じリズムで生活しなきゃいけないわけですか。

藤波　そうそう、24時間一緒だからね！　日本から送ってくるプロレス雑誌なんかもぜ～んぶ没収だもん。

――なんで没収なんですか？

藤波「こんなものは読む必要ない。ロクなことない！」って。送ってきた雑誌は、一切見ないでゴミ箱行き。荷物だって解きゃあしないんだから（笑）。そこで、仕方なくゴッチさんの本棚にある本や雑誌を読むんだけど、ゴッチさんの家にあるのは古代のパンクラチオンやレスリングの研究本とかばっかり。こっちは英語だって読めないから、古代の騎士がライオンと闘ったりとか、ヘラクレスみたいな戦士が狩りをするところの図を観たりね（笑）。

――また、よくそんな本や雑誌がありましたね（笑）。

藤波　そういう本ばかりを収集していたんだろうね。それにテレビのプロレス中継だって一切観せてくれなかった。やっぱり、ボクらも部屋にテレビがあったら観たくなるでしょ？　でもプロレス中継を観てたらすぐ消される。「こんなもの観るな！」って。

――「こんなもの」って、同じプロレスラーなのに（笑）。

藤波　ホントに徹底してたね。プロレスに関してはまったく融通が利かないし、絶対に妥協しない！　でも私生活は凄くユーモアがあったし、ゴッチさんとの生活自体はおもしろかったよ。

――よくしゃべるし、ジョーク好きだったみたいですね。

藤波　そうそう。ゴッチさんは"いまを楽しもう"っていう主義だから。それに当時は奥さんと二人っきりだったから、凄くアットホームな感じだったね。ボクと木戸さんが滞在していたときは練習が終わってからの食事の時間は3～4時間くらいかけてたからね。

――そんなに長いんですか（笑）

藤波　ゆっくり飲んで食べてしゃべって、興が乗ると夕食なんか日付が変わるくらいまで飲んでいたこともあった。それでも次の日は早く起きるんだから、こっちは大変なんだよ（笑）。

――ゴッチさんは朝も早いんですよね。

藤波　早い！　朝は5時30分ね。それも軍隊みたいに、朝からいきなり行進曲で起こされるんだもん。

――朝っぱらからマーチですか！　完全にノリはカール・ゴッチ・ブートキャンプですね（笑）。

藤波　フフフ。ホントにそうだねぇ。まさしくそのとおり！

――「半年でみるみる強くなる！」って感じで（笑）。

藤波　ゴッチさんの影響で、そのあとボク

もマーチ好きになっちゃった。結婚してからも家でもしょっちゅう聴いてたら、女房に「頼むから、朝だけはやめて！」って真剣に怒られたりね（笑）。

――さすがの伽織さんもマーチにはギブアップでしたか（笑）。

藤波　それで、練習はまず犬の散歩から始まって、帰ってきたら6時30分からもう練習。スクワットにプッシュアップ、腕立てとか鉄棒とかブリッジとか。木を使ったロープ登りとか。それで9時30分くらいからやっと食事ね。

――朝だけで大変なメニューですね。

藤波　ま、これだけやってたら否応なしにコンディションよくなるよ（笑）。

――メチャクチャよくなりそうです（笑）。しかも練習パターンもいろんな種類があるわけですよね。

ゴッチ邸のスープレックス人形の名は〝ロビンソン〟。理由は嫌いだったから

藤波　あるある！　木登りなんか30メートルくらいの木を腕の力だけで登るんだけど、下を見たらゴッチさんが小さく見えたんだから（笑）。

――コンディショントレーニングのほか、技術的な練習はしてたんですか？

藤波　もちろんやってた。ほとんどがスパーリングだったね。それにゴッチさんの家には、リングなんかないからスパーリングのときは芝生の上にシートを敷くんだけど、シートがごわごわしちゃってね。だから最後はシートもどかして芝生の上でブリッジ。ブリッジしている頭が芝生の中にめり込んでるんだから凄いよね（笑）。

――まさにリアル〝虎の穴〟。劇画の世界ですね。

藤波　ホントに劇画の世界だよ（笑）。だから、当時のゴッチさんの門下生っていうのは、藤原にしろ、佐山にしろ、前田にしろ、なんで鼻息が荒いかというと、結局そういった厳しい練習をクリアしてきている自信があるんですよ。それとゴッチさんといると、とにかくレスリング漬けの毎日だから、ある意味でマインドコントロールされちゃう。「自分がホントに強くなった」という気持ちになっちゃうわけ。

――いい意味で〝ゴッチイズム〟に洗脳される、と。

藤波　器具なんかほとんどないし、ベンチプレスなんかする必要はないって感じだったんだけど、バーベルはちょっとだけあったから「何をするのかな？」って思ったら、ブリッジした状態でバーベルをやらせるためだしね。

――ホントにレスリングをするための力をつけるトレーニングだった、と。あと藤波さんの代名詞のドラゴンスープレックスやドラゴンスクリューという必殺技もゴッチさんの考案ですよね。

藤波　そうね。典型的なゴッチさん流の技だね。あの～、いまのドラゴンスクリューっていうのは見てくれ重視じゃない？

――見てくれ重視！　ご自分でそこまで言いますか（笑）。

藤波　まあ、相手をケガさせるわけにいかないからしょうがないんだけど、本来のドラゴンスクリューはあんな技じゃないんですよ！

――あんな技じゃない！　じゃあ、正調ドラゴンスクリューはどんな技なんですか？

藤波　いまのドラゴンスクリューは、片脚をキャッチして相手を大きく回す技なんだけど、本来のドラゴンスクリューは相手にタックルして、脚を取って、その脚を自分の足のあいだにはさんで（脚でヒザ十字固めを極めるように）動けなくして、そこから自分で捻る！（とアクションを交えて）。

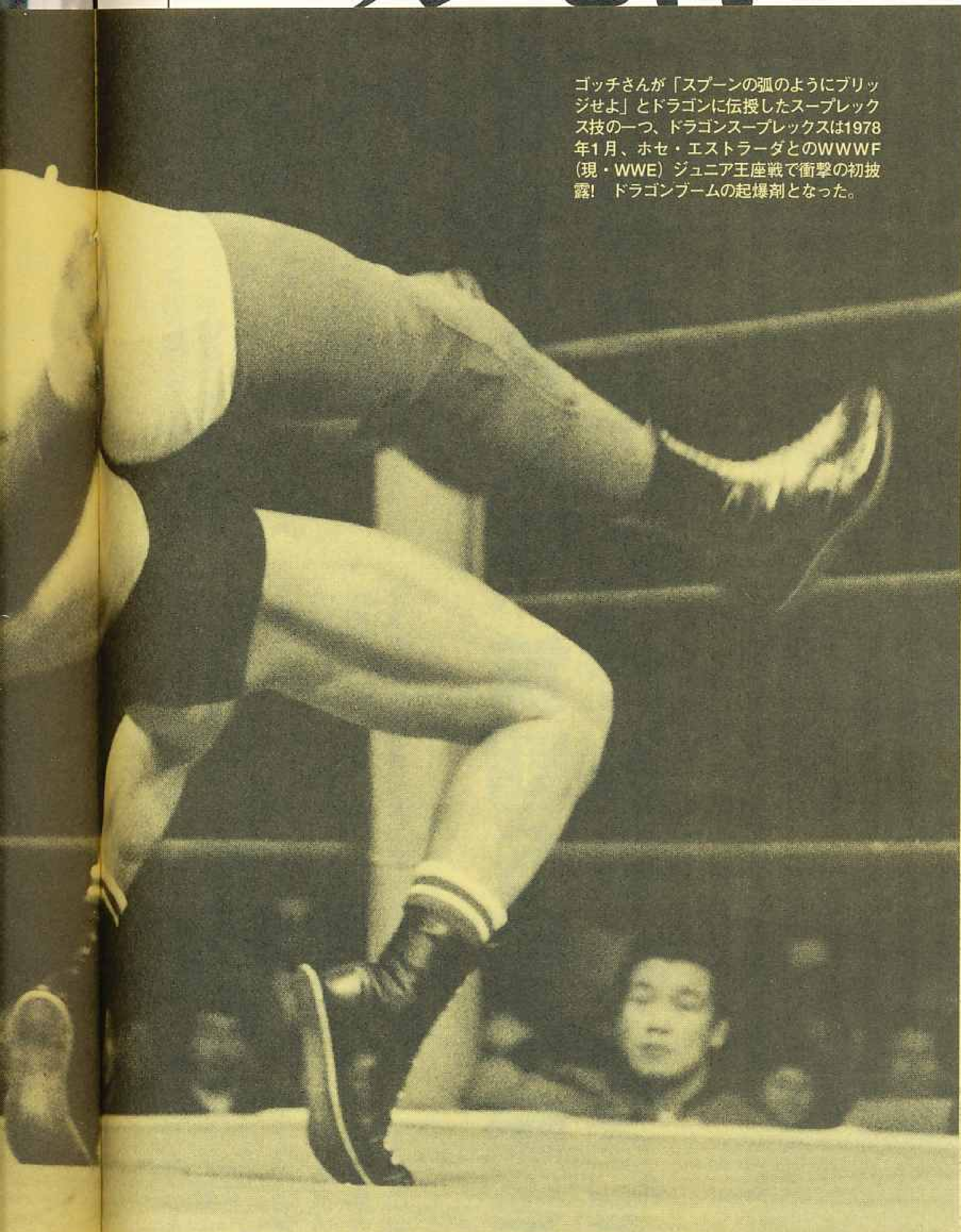
――それは危険そうですねぇ！

藤波　でもそれじゃ動きが地味でしょ（笑）。足を持って大きく投げたほうが派手じゃない？　だからいまのプロレス用のドラゴンスクリューとゴッチさん流の〝シューティング用〟のドラゴンスクリューとはまったく違う。

――ゴッチ式は、ヘタしたら靭帯いっちゃいますね。

藤波　いっちゃうし、こればっかりは相手も防ぎようがない！（キッパリ）。

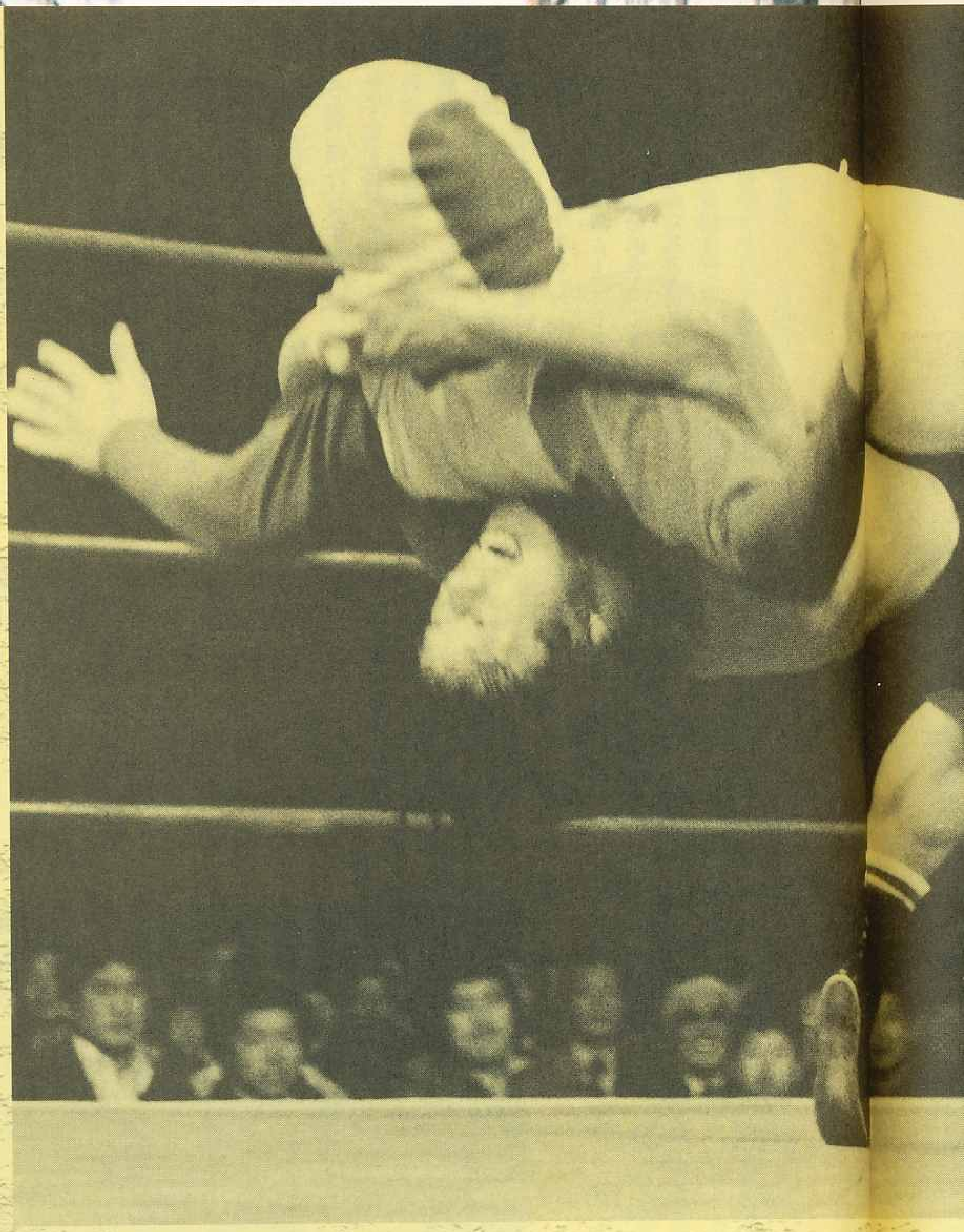
――そこは藤波さんがプロレス用に見栄え



ゴッチさんが「スプーンの弧のようにブリッジせよ」とドラゴンに伝授したスープレックス技の一つ、ドラゴンスープレックスは1978年1月、ホセ・エストラーダとのWWWF（現・WWE）ジュニア王座戦で衝撃の初披露！　ドラゴンブームの起爆剤となった。



自称"ハッスルの神の子"に強力助っ人が登場!!



よく改良したんですか。

藤波　そうだね。もちろん、いまのドラゴンスクリューだって投げるときに相手が踏ん張ってガマンしたら危ない技だけどね。

——あとドラゴンスープレックスはどういうかたちで伝授されたんですか？

藤波　あれも練習したことはないんだよ。ゴッチさんは型だけは教えてくれたの。ゴッチさんのところにスープレックス用の人形があったから、人形相手に投げ技は研究してたんだよね。〝ロビンソン〟っていう人形なんだけど。

——なんでロビンソンなんですか？

藤波　ゴッチさんが、（ビル・）ロビンソンのこと嫌いだったから！（笑）。

——ダハハハ！　だから〝ロビンソン〟を毎日、スープレックスで投げて、頭から叩きつけていましたか（笑）。

藤波　ボクも詳しいいきさつはよく知らないんだけど、ゴッチさんが最初にレスリングを習ったのがイギリスのビリー・ライレージムっていうところなんだよね。

——いわゆる〝蛇の穴〟ですね。

藤波　そこではゴッチさんが先輩で、何年か後輩でロビンソンが入ってくる。それでゴッチさんとしてはロビンソンがビリー・ライレージムの教えの派手な部分、いいとこ取りをしたって思い込みがあったみたいなんだよ。

——その怒りを人形に込めていた（笑）。

藤波　それから、たまに「今日は練習が休みかな？」と思ったら、ゴッチさんに動物園に連れていかれて、どこへ行くかと思えばゴリラの檻の前。そこでゴッチさんは「フジナミ、ゴリラの動きをよく見てろ！」って指さして、「あの百何十キロある身体を、片手で支えて自由自在に動くなんて凄いじゃないか！　人間もそうじゃなきゃいけないんだ」って感心してたりね（笑）。

——「ドラゴンよ、ゴリラになれ！」と（笑）。

藤波　「人間はこういう本来持っている野生の直感とか、頭の力とかが退化しちゃってるんだ」って言ってたよね。あとはゴッチさんの家は池に面してたから、練習が終わったら、その池に飛び込んで泳いだり。それで上がってシャワーを浴びるんだけど、じつはその池にワニがいたの。

——ドラゴンの泳いだ池にワニが！

藤波　あとから聞いて震えあがったよね。フロリダにはどんな池にも必ずワニがいるんですよ。僕たちがジャパーン！　って池に飛び込むと、あちこちでチャポーン！　って音もしていたから（笑）。……でもいまでもそのフロリダの光景は思い出すね。桟橋に手こぎのボートをつないであって。

——フロリダは気候もいいですし。そのへんにある自然がすべてトレーニングって感じで。でも、そういう練習から「逃げたい」と思ったことはないですか？

藤波　ない！（キッパリ）。確かに、毎日ゴッチさんにいつ終わるかわからないような練習をみっちりやらされるんだけど、不思議とそういう気持ちにはならなかった。ボクらのほかに通いの練習生もいたんだけど、次の日にはまた足をひきずりながらゴッチさんの家に集まってくるんだよね。

——そこはゴッチさんに心酔していたんですか。それとも、「強くなりたい」という気持ちが強かったんですか？

藤波　「ここにいたら、強くなれるんじゃないか？」って気持ちはあったよね。でもプロレスってそこまで厳しい道を目指さなくてもサーキットに入って試合をこなしていればお金を稼げるわけ。でもゴッチさんの下にいたら、だんだんお金とかは関係なくなっちゃうんだよ。

——試合、つまり仕事をしてないから、お金は減っていく一方ですよね？

藤波　そう、減っていく一方（笑）。ただ、試合はさせてもらえなかったんだけど、試合をする時期はちゃんと見極めてくれてたよね。あるとき、ゴッチさんのところに呼ばれて、「おまえもそろそろ試合に出るか？」って。

——やっと許しが出た、と。一説では、お金がなくなって困った藤波さんが新日本プロレスを通して「試合をやらせてくれ」って頼んだっていう話もありますけど……。

藤波　それはない！　だって新日本からなんて、とんと連絡もなかったし、電話の一本だってありゃしなかったんだから。やっと新日本から声がかかったのは、ニューヨークのマジソン（・スクエア・ガーデン）のリングに立ってWWF（現・WWE）のジュニアヘビー級のベルトを奪取したときだよね。そのときに、やっと新間（寿）さんから「藤波、帰ってくるんだよ」って言われたけど、それがなかったら、あのまま海外に忘れ去られていたかもしれない（笑）。

——そんなヒドイ扱いだったんですか。

藤波　まぁ、ゴッチさんはそういう金銭的な事情もわかってくれてたんだろうね。でもいざ試合をするとなると、ゴッチさんの対応は早かった。やっぱりカール・ゴッチって名前があって、昔の付き合いのあるプロモーターが全米にいたから、「こういう日本人が行くから試合させてくれ！」と一本

ハッシモト！ ハッシモト!!

kamipro books

電話したら、ノースカロライナのサーキットにアッサリと入れたもんね。

——ようやく試合に出始められた、と。

藤波 そうね。ただ、ボクなんかアメリカに行ったときはまだ90キロあるかないか。でもゴッチさんの練習をこなしたあとは、アメリカの大男に混じって試合をしても恐怖感はまったくなかったし、反対にアメリカの選手からは一目置かれていたくらいだからね。

——「アイツはゴッチの門下生らしい！」と噂される感じで。

藤波 そうそう。「アイツは要注意だ！」って（笑）。そのくらいゴッチさんの名前は全米に浸透していたよね。ゴッチさんはアメリカではプロとしては目立った活躍はないけど、業界内での〝強さ〟の評価は知れ渡っていたから。ただレスラーとして商売する身としては、プラス面とマイナス面があったよね（しみじみと）。

——ハハハハ！ マイナス面もありましたか（笑）。

藤波 あったね（笑）。周囲にそういった恐怖感だけ与えちゃって、プロモーターも最初はあまりいい待遇では使ってくれなかったから。

——そういった状態からだんだん実績を積み重ねていった、と。でもゴッチさんのところで修行したあとに、メキシコにも行かれてますけど、ゴッチさん的にはメキシコ行きは許容範囲だったんですか？

藤波 ゴッチさんもメキシコのスタイルは、確かにピンとこなかったと思うんだけどね（笑）。でも、自分の固いスタイルだけを押しつけるんじゃなくて、「いろいろなものを見ることは大事だよ」って部分もあったんでしょう。自分のやってきたスタイルに自信はあったんだろうけど、時代が変わっていく中で「多様なプロレスも覚えておくべきじゃないか」ということで、行かされたんだと思うよ。

——ゴッチさんも、メキシコ行きの意義を認めて行かせてくれたんですね。

藤波 うん。それとゴッチさんの親友だったハン・リーという選手がいたんだけど、彼は中国系のメキシコ人でゴッチさんの兄弟分みたいな人だったの。その人が当時メキシコでプロモーターもやっていたから、そのつながりでサーキットに入れたんだよね。

——結果的にメキシコのプロレスはゴッチイズムとともに、藤波さんのスタイルの礎の一つになりましたね。

藤波 そうだね。身体がまだ大きくなかったから、軽量級が多いメキシカンとの対戦は身体を最大限に活かせる場所でもあったし、そこにカール・ゴッチのテクニックを加えたことが、日本のドラゴンブームにつながったのかなって。でもね、メキシコではドラゴンロケットなんかやったこともないから。

——あ、やったことなかったんですか。

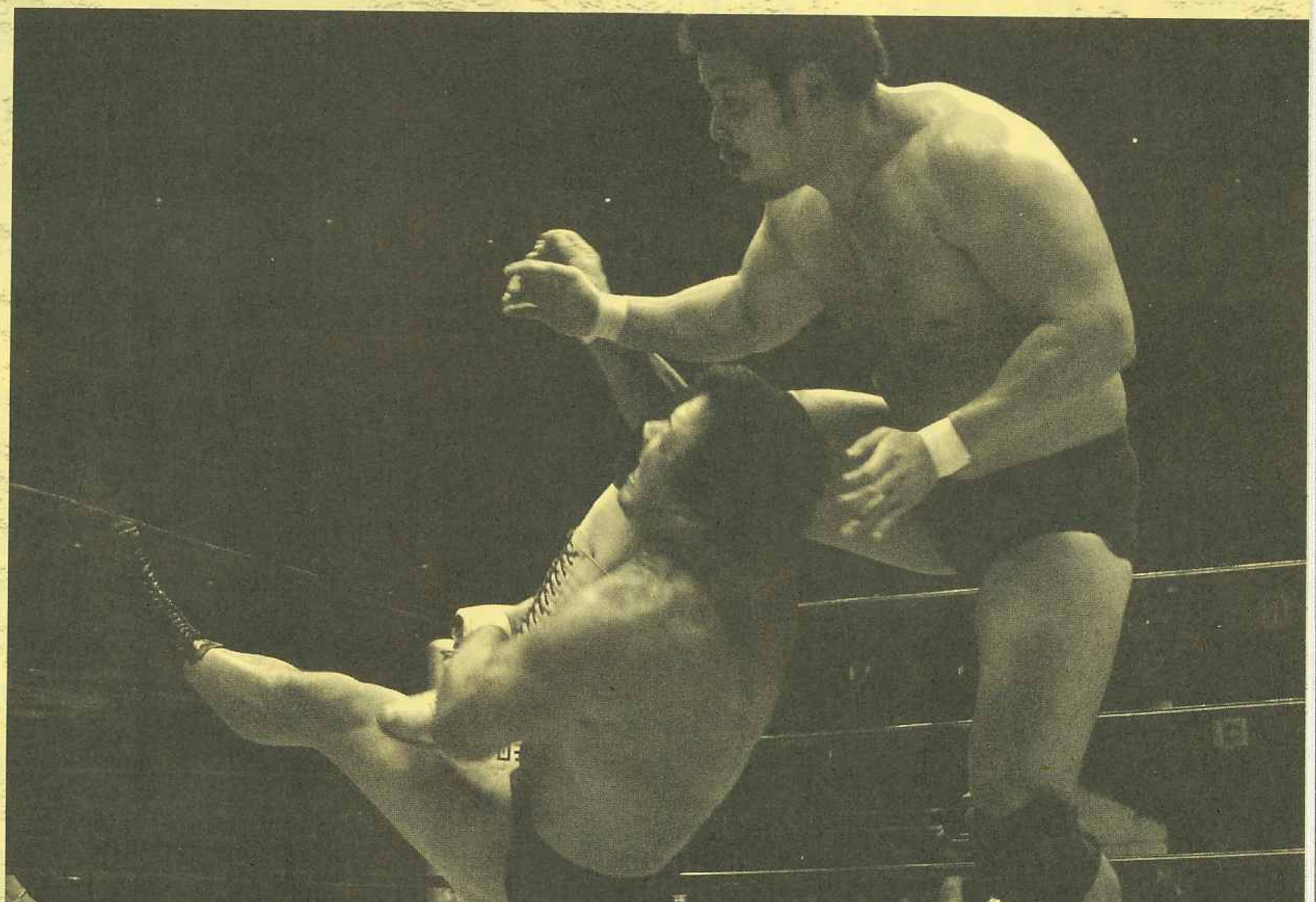
藤波 ない！ メキシコでは、トペとかプランチャなんてやったこともない。でも、練習もやったことなくてもできちゃったんだよね（笑）。

——じゃあ、ほかの人の飛び技を見て覚えたわけですか？

藤波 現地では「よくやるなぁ」って思ってたから（笑）。場外マットなんかなかったし、当時はメキシコでもトペをやる選手なんて数人しかいなかったから。まぁ、怖さを知らなかったからできたんだろうね。だって練習のしようがないもん！

——まあ、コンクリートの床に頭から突っ込んでいくわけですからね。しかも藤波さんのドラゴンロケットはメチャクチャ速いんですよね。

藤波 うん、速い！（キッパリ）。なぜかというとフワ～っと飛ぶ感じのトペは自分はできないんですよ。



9.9ノア日本武道館大会では西村修とのタッグで三沢光晴&潮崎豪組と対戦したドラゴンは、潮崎が挑発するように放ったドラゴンスクリューに激高し、本家ドラゴンスクリューを爆発！ ゴッチ式の〝殺し〟の一発ではなかったものの武道館の観客にドラゴン健在を見せつけた。

自称“ハッスルの神の子”に強力助っ人が登場!!



本来のゴッチ式ドラゴンスクリューはあんなに見てくれ重視の技じゃない!!

――藤波さんは反対側のロープに走ってから、飛ぶまで一直線でしたよね。

藤波　だから昔のドラゴンロケットといまの時代のトペとを比べたら、本来のトペをどう見せるべきか？　って違いがわかると思う。どうせやるんだったら、あそこまでやらなくちゃ！

――藤波さんは40代でも、大一番のときは頭から突っ込んでましたもんね。それで大流血したりしてましたけど（笑）。では、ゴッチさんのところから、メキシコやニューヨークに行ったり、そういった経験が全部合体して、ジュニアでの大活躍につながったんですね。

藤波　でもジュニアのときは派手に見えたみたいだけど、基本はなんら派手なことはやっていないんですよ。ベースはゴッチ式のレスリングをやっていただけ。そこにドラゴンロケットやドラゴンスクリューを入れていったから派手に見えただけ。でもあいう技ってホントは「ここだ」っていうときに出すからインパクトがあるんだよね。

――藤波さんはドロップキックでさえ、「ここぞ」という場面でしか出しませんでしたよね。

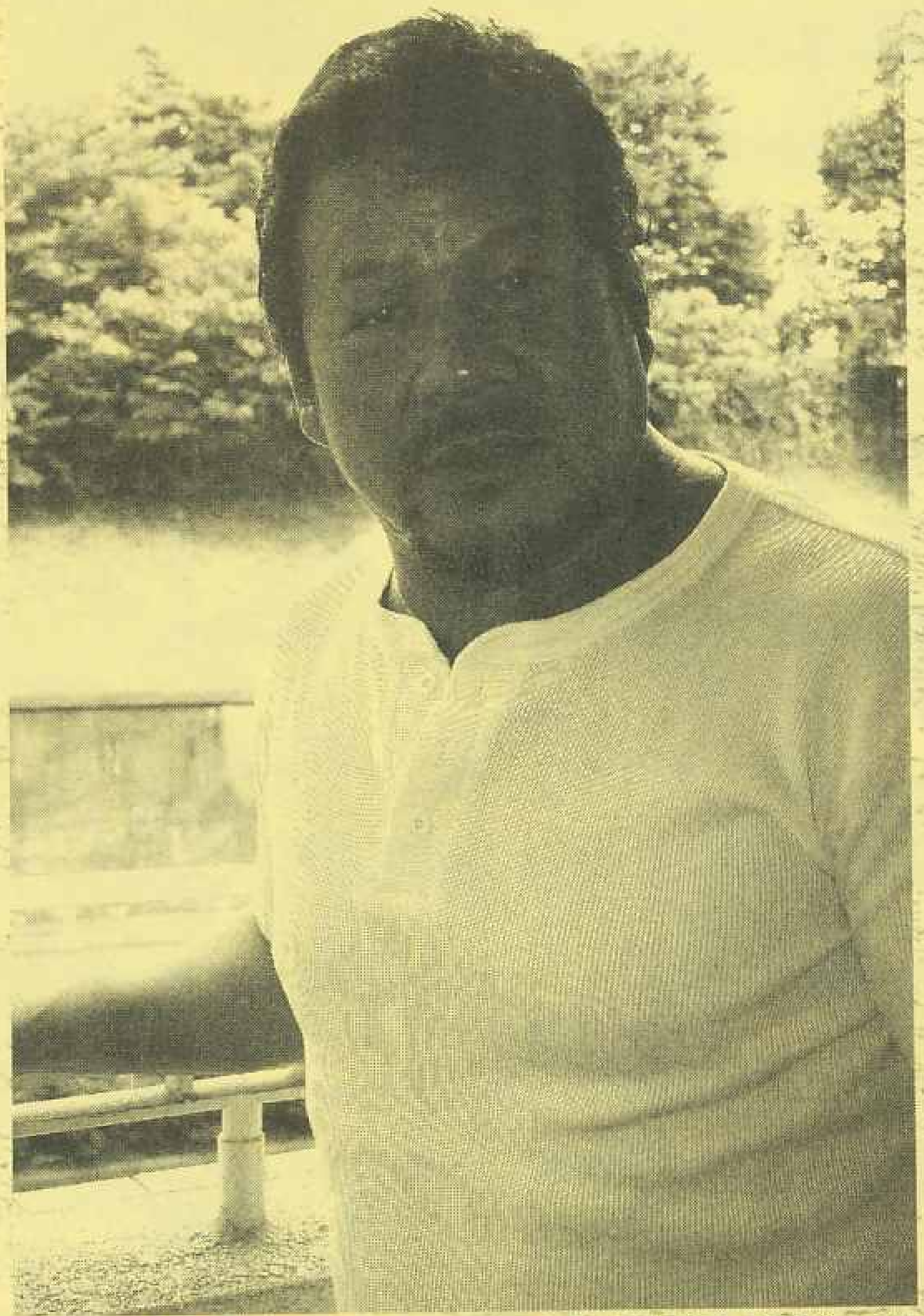
藤波　そうね。いまの若い選手には「ドロップキックやるんだったら、あれぐらいは飛べ！」って言いたいね！

――「俺ぐらい飛んでみろ」と（笑）。

藤波　観ている人が「うわっ！」と声を出すくらいね（笑）。ボクは相手とのあいだが16センチ程度空いていれば、垂直に飛び上がって蹴ったし、（高く飛びすぎて）相手が下に見えたから！

――いわゆるサブミッションだけじゃなく、そういう派手な技もゴッチ流の鍛錬があったからこそ、素晴らしい動きができたんですね。

藤波　そうね。スクワットとかのコンディショントレーニングがあったから、強力なバネが身についていたんだよね。



ふじなみ・たつみ■1953年12月28日、大分県出身。日本プロレス入門後、72年に新日本プロレス旗揚げに参加。78年にWWWFジュニア王座獲得。凱旋帰国で“ドラゴンブーム”を巻き起こす。長州力との名勝負数え唄、飛龍革命など活躍、99年～04年まで新日本社長を務めるが、06年に退団、西村修らと『無我ワールド・プロレスリング』を旗揚げ。183cm、104kg。

――だからスタイルは関係なしで、ゴッチ式のコンディショントレーニングがいかに重要かがわかりますね。

藤波　ホントの意味でのレスラーの練習の真髄を学んだよね。あの頃は僕もホントにコンディションはよかったから。当時は、毎日一時間は闘えるくらいコンディションはありましたよ。

――毎日、60分フルタイム闘える自信があった、と。

藤波　それもゴッチさんのトレーニングのおかげだね。だからメキシコに行っても、アメリカのサーキットのときもホントに2日でも3日でも休みがあったら、すぐにボクはフロリダのゴッチさんのところに帰ってたんですよ。

――あ、そうなんですか。

藤波　それは、いざ離れてみるとゴッチさんが恋しい……という部分より、ゴッチさんの厳しい練習からしばらく離れると、どこか自分で不安になるんだよね。肩の荷がスーッと下りちゃったような人もいるらしいけど（笑）。

――そういうトレーニングを欠かすと、「自分が弱くなっちゃう」という危機感があった、と。

藤波　だから休みがあったら、メキシコからでもアメリカの遠いところからでも車を飛ばして必ずフロリダのゴッチさんの家に帰っていたもんね。

――最初のマインドコントロールがよっぽどよかったんですね（笑）。

藤波　そうかもしれない（笑）。だから日本のスポーツは、技術的なことを教えるコーチはいっぱいいるけど、足りないのはそういう部分。選手の精神面のコーチの人がいないんだよね。

――だからいい結果を残せない、と。

藤波　タイガー・ウッズなんかもそうだけど、アメリカのスポーツには、みんなメンタル面のコーチがいる。「俺は強いんだ、俺は勝てるんだ」というふうな気持ちにさせるゴッチさんみたいなコーチが、これからの日本には絶対に必要だと思う。ボクは自分の経験上、そうハッキリ言えますよ！

――よくわかりました。そういったゴッチさんの教えを伝えていきたい、というお気持ちはありますか？

藤波　そうだね。そういう意味でも、新日本を辞めて立ち上げた無我（ワールド・プロレスリング）では西村（修）を通じてゴッチさんに名誉顧問になってもらっていたんだけどね。

――一部では、ゴッチさん由来の選手を集めた、カール・ゴッチ杯の開催も噂されてますけど。

藤波　そうね。ただ、やっぱり僕らの時代のカール・ゴッチ杯がそうだったように、いろんな団体の若手にチャンスを与える大会がいいんじゃないかって、そんなふうに思ってますけどね。

――なるほど。じゃあこれからも“ゴッチイズム”を胸にまだまだご活躍をお祈りしています。

藤波　そうだね。ボクもまだまだ頑張りますよ！（ニッコリ）。

【07年9月5日／都内・「無我ワールド・プロレスリング」事務所近くの喫茶店にて収録】

Tatsumi Fujinami

ハッシモト！ ハッシモト!!

kamipro books

丸くなったと思いきや……、まだまだ怖いぞ、この男!!

「テメエらの前では絶対にくたばってやんねえからな!!」

生い立ちから現在までの波乱の55年間を振り返る
長州力×GK金沢克彦“最後の”対談集

“長州力という男”を解き明かすキーワード——
吉田光雄／アマレス／専修大学／オリンピック
アントニオ猪木／ゴッチ道場／命名・長州力
マサ斎藤／維新軍結成／名勝負数え唄
ジャパンプロレス／ジャンボ鶴田／天龍源一郎
ジャイアント馬場／前田日明／現場監督
闘魂三銃士／馳＆健介／Uインター／WJ
総合格闘技／『ハッスル』／長州小力
裏切りの世界／リキプロ／マスコミ
暴露本／伊香保温泉／ボーダー

特別収録
GK快挙！ 幻の取材テープ発掘!!
1987年2月、新日本へUターン直前の
長州力を雪の伊香保温泉で単独キャッチ！
20年の時を経て、その一部始終を一挙収録!!



ハイスパートに
売れゆき
絶好調!!


力説
長州力という男
B6変型判 304ページ
予価＝1,890円
（本体1,800円＋税）

全国書店にて「タコ、コラァ!!」の勢いで絶賛発売中！

enterbrain 株式会社エンターブレイン 〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 TEL.0570-060-555（代表）［通信販売のお問い合わせ先］http://www.enterbrain.co.jp/

自称"ハッスルの神の子"に強力助っ人が登場!!



異色のハッスル師弟コンビがガチンコ告白

ぶっちゃけ、いま一番嫌な仕事が
ハッスルなんですヨウ……

シンヤノートンと闘えてうらやましい。
俺はそんな怪物とはやりたくないけど(笑)

ハッスル元GM

全日本キックGM

RG×小林聡

9.22『ハッスル』大阪大会でモンスター・ボノとの一騎討ちを控えたRGの煽り映像で「俺はハッスルの神の子」と調子に乗って勝利宣言するRGのあとに映し出されたのが、今年3月の前田尚紀戦で現役を引退したキックボクサー小林聡。現在、全日本キックのGMを務める小林は「今年の立ち技の中量級はRGを中心に回っていく」と、なぜかRGを高評価。プロレスファンとしても知られる小林GMと、『ハッスル』元GM・RGの新旧GM対談をお届けしますヨゥ!

聞き手/阿修羅チョロ　撮影/山口比佐夫

――9月の『ハッスル26』の煽り映像で、なぜか現在、全日本キックGMの小林さんが出てきまして、RGさんにメッセージを送っていたのを見て、これは絵的におもしろいというのと、"GM"つながりというだけで、とりあえず対談を組んでみました（笑）。よろしくお願いします！

RG　え〜、そんなアバウトな理由なんだ（笑）。

小林　自分はGMって言葉自体、『ハッスル』のRGMで初めて知って。GMってそういうもんなんだと思って。全日本キックは俺にそういうことやらそうとしてるのかなって（笑）。

RG　全然違うと思いますよ。

小林　いろんな人から「おまえ、GMなんてすげえじゃん」とか言われるんですけど、『ハッスル』のイメージだとそんなほめられた感じがしなくて。

RG　でも僕のときだけちょっと特殊でしたから。

小林　でもHIROKO（第3代GM）もけっこう、いじられてませんでした？　試合もしてたし。

RG　HIROKOさんは相当権力ありましたからね。マッチメイクとかもしてましたしね。僕だけ唯一オープニングでワーッてやるだけのGMだったんです。

――そのあとの坂田さん（第5代GM）も好き勝手やってましたからね。

RG　坂田GMもマッチメイクとかしてましたから。だからGMはホントは偉い役職なんですよ。ゼネラルマネージャーですからね。

小林　そうらしいですね（笑）。RGさんのイメージしかなかったんで、あんなにイジメられるの嫌だなって。



RGMの名刺は超レアですよ！ いまはなきDSE時代のモノなんで。

――GMの話を持ってきたのは興行部長の宮田（充）さんですか？

小林　そうです。だからナントカ部長とか、そういうカッコいい名前かなと思ってたら、いきなり渡された紙に「GM」って書いてあって。やっぱり俺にこういうことやらそうとしてるのかって（笑）。

RG　僕が特殊なだけで、普通の企業でGMって相当、上ですよ。

小林　あ、そうですか。でも"マネージャー"ってつくじゃないですか、あれがなんか……。

RG　いやいや、ゼネラルマネージャーですから。マネージャーって単語が引っかかるんだったら、ビンス・マクマホンみたいにCEOにします？　チーフ・エグゼクティブ・オフィサー。

小林　まあ、もう変えられないんで。なんか記者発表みたいのがあったとき、次の日に宮田さんに電話して「やっぱりRGさんのイメージがあるからGMっていうのは……」って言ったら「いや、もう発表しちゃったからダメだよ」って（笑）。

RG　僕のイメージそんなに大きかったですか。でも初めてお会いしたときは『GONKAKU』の方に紹介していただいて、宮崎料理屋に一緒に行きましたよね。

小林　はい、新宿の。

RG　そのときたぶんRGMの名刺をお渡ししたと思うんですが。

小林　ああ、持ってます。ちゃんと名刺入れに入れてます。

RG　あれ、いまレアですよ。

小林　あ、そうですよね。いまはGMじゃないですもんね。

RG　GMじゃないですし、あのときドリームステージエンターテインメントだったんで。

小林　ああ……いまはなき（笑）。

RG　超レアですよ！

――いろんなお笑い界の伝説として、RGさんが通りすぎたあとはいろんな奇跡的な不幸の数々が起こるっていうのも耳にしてますが。

小林　あ、そうなんですか！

RG　そういうふうになってるんですけど……。

――今回のPRIDE事務所、突然の閉鎖とかっていうのも、一部ではRGさんのせいじゃないかっていう。

RG　そ、そうか……、そのニュースの翌日、青木（真也）さんと『どハッスル!!』の収録でスパーリングみたいな感じでやってましたからね。小林さんと木戸（修）さんにも来ていただいたんですけど。

小林　そういえばそうでしたね（笑）。

RG　あれも『PRIDE』関係の仕事っちゃあ、仕事ですね。でも、当日ではないですから。

――アメリカからの発表なんで時差があったんじゃないですかね（笑）。

RG　やっぱり俺なのかぁ（頭を抱える）。ホントそういうのが多くて。

小林　死神みたいですね（笑）。全日本キックも20周年を前にして……。

RG　いやいやいやいや、大丈夫です、大丈夫です。たぶん（苦笑）。

小林　第二の倒産とかはないですかね。全日本キック、一度倒産してるんですよ。

RG　あ、マジですか？

小林　はい。しかもそれ、自分が復帰した4日後なんです。

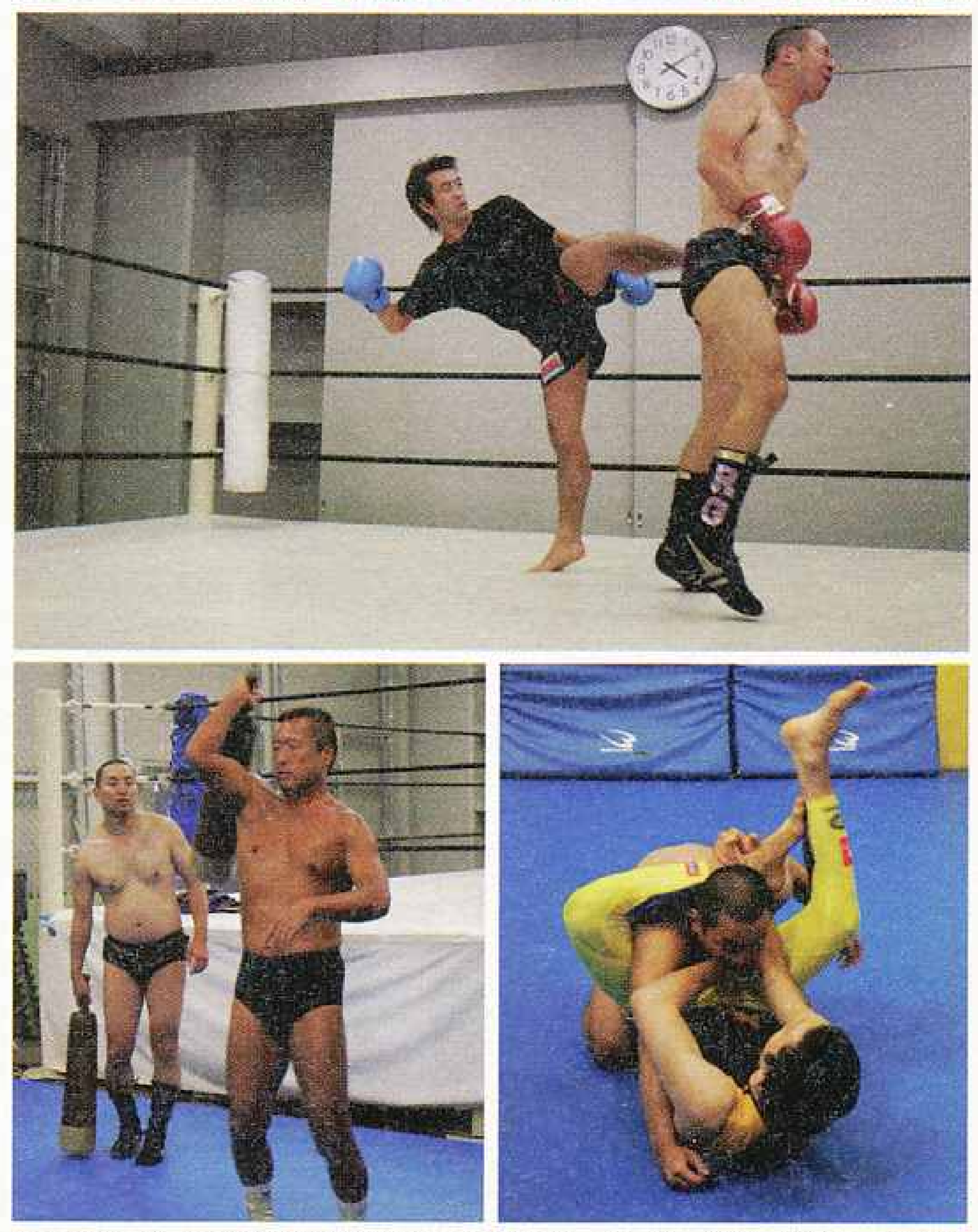
RG　GMもなかなかの運をお持ちのようで（笑）。

――実際、GMになってみて、イメージしてたものとは違いました？

小林　違いますし、そんなのできないし（笑）。アメリカとか外国行くと、GMってけっこうなイメージなんですよね。カッコいいぐらいの。なので俺が頑張って『ハッスル』のRGMのイメージを消してかないと（笑）。

RG　（無視して）たぶん、東国原知

『どハッスル!!』で驚ガクのスパーリング3連発!!



テレビ東京にて好評放映中の『ハッスル』のレギュラー番組『どハッスル!!』。すでにご覧になった方も多いと思うが、第3回放送分ではメインパーソナリティのケンドーコバヤシからRGの特訓相手として、小林聡、木戸修、青木真也というキック、プロレス、総合の豪華コーチ陣が投入された。スゲェ！

事的なことですよ、やらなきゃいけないことは。

小林　ああ、"どげんかせんと"（笑）。

RG　そうです！　全日本キックを"どげんかせんと"キャンペーンみたいな。キャッチフレーズも決めていろんなとこに出ていくってことだと思うんです、GMのやることは。

小林　その一環がこの対談なんですよ（笑）。

RG　一緒に頑張りましょう！

小林　GMになった直後の『キックリターン』って大会の記者会見で、僕、13日の金曜日に記者会見やったんで、ジェイソンで出て、ジェイソンとフレディの乱闘劇をやったら、やっぱりGMってこんなもんかって（笑）。

――それはご自身のプロデュースで？

小林　たまたまやりたいと思ったんです……結局自分からやってんじゃないかって（笑）。

RG　僕のGM時代は、会見に出てってレスラーに殴られることしかしてないんで（笑）。アイデアをすぐやらせてくれるっていう全日本キックのいまの風通しのいい状態がうらやましいですね。

小林　全日本キック自体、宮田さんぐらいしかいなかったですからね。ストーリー作りからマッチメイクを考えるのは。

RG　じゃあ、スターをこれからドンドン育てていかなきゃいけないじゃないですか。

小林　スターですか……でもやっぱり自分が一番目立ちたいんで（笑）。

RG　現役じゃないのに（笑）。

小林　裏方だったらダメですね。

――プロレス界でも、引退後も目立ちまくってる人も多いですけどね。

小林　そうですよね。前田（日明）さんだってリングスで選手辞めても存在感が凄かったじゃないですか。

RG　一番目立ってましたからね。

小林　ですよね。そんな感じでやってやろうかな、と。

RG　『PRIDE』に対する喧嘩腰トークとかも凄かったですよね。

――「ざまあみろ」発言ですね（笑）。

小林　ああ、言ったらしいですね（笑）。

RG　やっぱりいまだに影響力ありますからね。そういうGMになっていただきたいですね。だから、前田さんみたいに選手発掘とかもいろいろしないといけないですね、GMは。

小林　そうッスね。来年あたり、自分のプロデュース興行もやろうと思ってるんですよ。

RG　いいじゃないですか。

小林　でも、あんまりキック界に友だちいないから（笑）。連れてこられないんですよね、自分のプロデュースっていっても。

RG　凄い慕われてそうなイメージがありますけど。

小林　いや、キックボクサーの友だちは少ないですね。群れるの嫌いだから。裏方でも仲いい人とかいないんですよね（笑）。よく専門誌とかで選手とか関係者を集めて座談会とかやるじゃないですか？

――なんとか委員会とか、いろいろありますからね（笑）。

小林　ああいうのも全部断ってますし。嫌なんですよね、なんか。「べつにこいつらと話しても意見合わないだろうな」って。腹立つと思うんですよ、そいつらの技術観が。

RG　そうなんですか。こないだはスパーリングさせていただきましたけども、そういうのは？

小林　ああいうのは凄い楽しいんですけど（笑）。

――今後も何かありましたらよろしくお願いします（笑）。でもRGさん的には小林さんをはじめ、青木さんや木戸さんと練習ができて『ハッスル・マニア2007』に向けて、かなり自信になったんじゃないですか？

RG　自信ですか……。せっかくスパーリングまでさせてもらって言いづらいんですけど、僕、いま一番嫌な仕事は試合なんですよ。

小林　そうなんですか？　試合とか観てると、すっげえ楽しそうですよ。

RG　ホントに痛いし、怖いんですよ。死ぬかもしれないし。ホンットに怖い（真顔で）。だから試合の一週間前ぐらいからずっと胃が痛いんですけど。楽しそうに見えますか？

小林　いや、楽しそうですよ。

RG　違うんです、ホンットに試合は嫌で嫌で。とくにシングルとかになったとき、セコンドに中村カントクがいるといないとでは全然違うんです。的確な指示とかじゃなくて、いてくれるだけで安心できて。

小林　わかります、わかります。キックもそうですよ。そんなに一緒に練習してない人でもいるだけで心強いっていうのはあって。「べつに指示出さなくていいよ」みたいな。いるだけで勇気をもらえるっていうか。

――中村カントクのユニフォーム姿が心の支えに（笑）。

RG　カントクがいて、「大丈夫！」て言ってくれるだけでいいんです。具体的なアドバイスはいらないんです。

小林　へぇ～っ、それは意外だった。でも、最近の『ハッスル』では主役なんじゃないですか？

RG　いや、でも……。

小林　トップに立つ者の恍惚と不安があるんじゃないですか（笑）。

RG　あ、そこまでの恍惚と不安だったのか（笑）。僕がいま試合で、みんながウケてると感じるかもしれないですけど、僕、『ハッスル』に来てから、いままでやってることって全然変わってなくて。控室で同じことやられてるんですよ。それをリングでやってるっていうか、自然にそうなってるっていうか……。

小林　控室でもひどい目に？（笑）。

RG　はい。『ハッスル』は凄く好きですし、プロレスも大好きなんですけど、初期GM時代から一番嫌な仕事は『ハッスル』に行くことだったんです。控室に行くのがとにかく嫌で。いま、かわいがりが問題になってますけど……。

小林　なってますよね。

RG　レスラーの皆さんは僕のことを、いい意味でかわいがってくれて



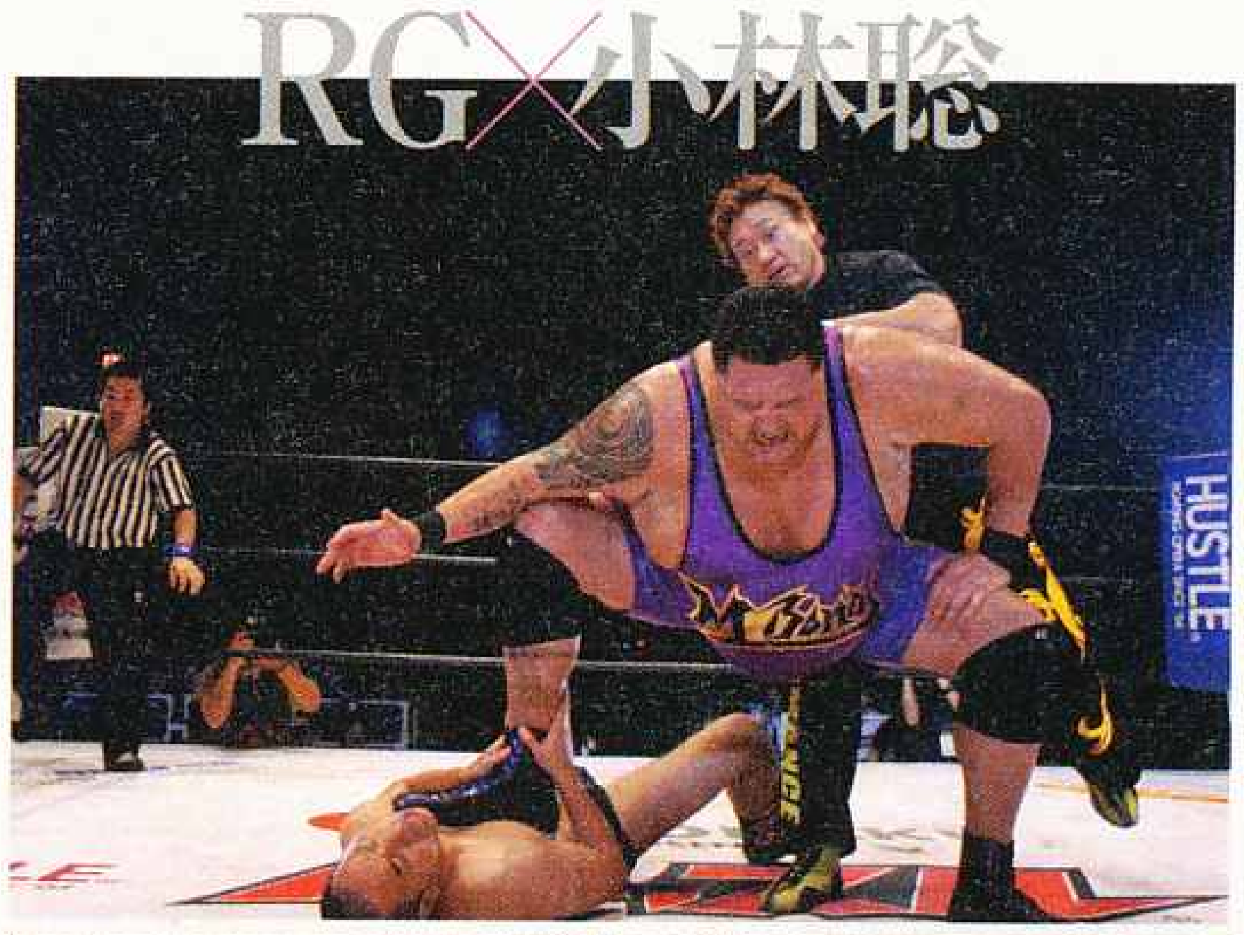
今年3月9日、後楽園で藤原ジムの後輩、前田尚紀相手と引退試合ではなく3分1ラウンドの"ファイナルマッチ"を行なった小林。激しい打ち合いを見せた両者が試合後、抱き合って健闘をたたえ合うと、場内は万雷の拍手で包まれた。

俺が頑張って『ハッスル』のRGMのイメージを消していかないと（笑）

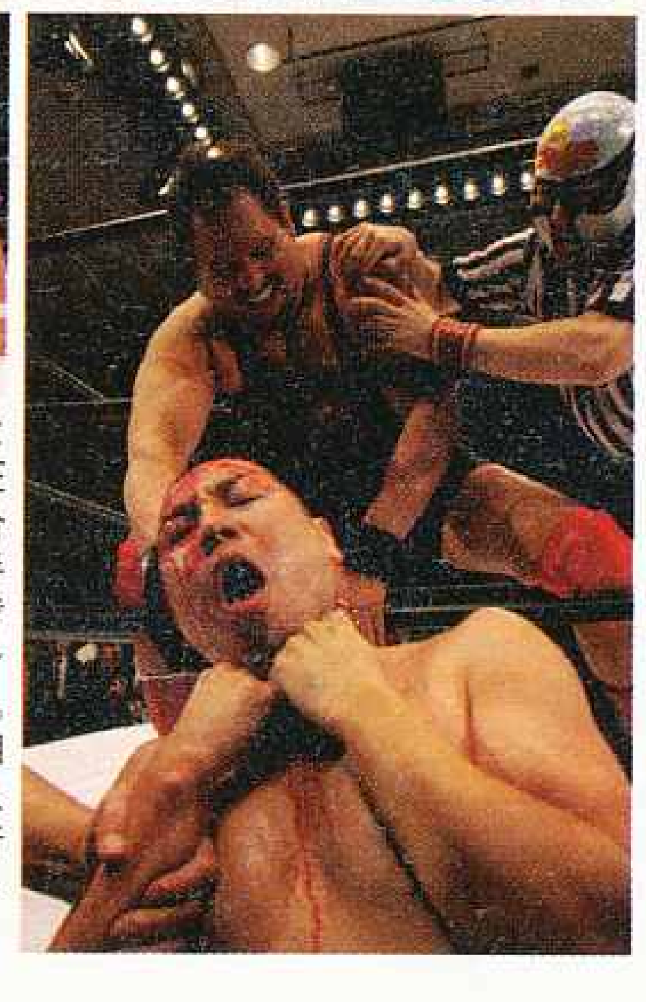


RG×小

るんだと思うんですけど、やっぱり一発一発が重いんですよ！　試合もないのにチョップの跡だとか、コスチューム隠されたりだとか……。
小林　ハハハハハ！
RG　あと、「今日は何もなかったな」って思って、次の日コンビニでなんか買おうと思ったら、お札に落書きがビッシリとか。
――お金取られるんじゃなくて（笑）。それ犯人はKさんですかね？
RG　そうです。あとOさんとか。Kさんもネチネチはしてなくて、みんなを笑わそうと思って僕を使ってる感じで。そこは僕も控室の雰囲気を盛り上げなきゃって、その使命感でやってたんですけど、Kさんは「俺だって邪道・外道に凄いやられた」みたいなこと言うんですよ。
――すっかり同業者扱いですね（笑）。
RG　ある意味そうです。だからホントにいい試合だったときは、ちゃんとほめてくれますし。そこはいいんですけど、でもやっぱり、やってることは変わってないっていうか。オープニングでスベってた時代のほうがまだ気楽でしたね（笑）。
小林　それは知らなかった（笑）。
――小林さんも会場に行くのが嫌だとか思ったことはありました？
小林　僕の場合は減量があったんで、試合の前の日はそればっかりでしたね。早く飯食いたいって。でも前日計量が終わって飯食ったあとでもやっぱり……まあ、怖いっていうより、明日どんな現実が待ってるんだろうなって思って。それを受け止められるのかな、とか。勝ち負けですべてが変わるんで、内容とかよりも。
RG　キックとかはそうですよね。
小林　だから勝ったら反省できるっていうか、勝ったら内容語れるけど、どんなにいい試合しても負けたら……ずっと練習してきたことを否定されたような感じですよね。だから……やっぱり緊張するのは会場入ってウォーミングアップ始めたときからですね。「これからやらなきゃいけないんだな」っていうのを思うと。それまでは全然リラックスしてて。音楽がバーンと鳴ったら、「やるしかないんだな。ここから逃げられないんだな、この試合を終わらすまでは」って。そうなってましたね。だからメンタル的にいろんなことやりましたね。自分に手紙書いたりとか。
RG　えっ？　遺言みたいな感じ？
小林　遺言は他人に見せるものじゃないですか。自分に手紙書いて「おまえ、こうやったんだから負けられねえだろ」とか、自分に語るんですよ。それを試合直前、洋式のトイレに座って読むんですよ。で、「よし、わかった！」ってバーンと捨てて。
RG　トイレに流すんですか？
小林　たぶん流れないと思うんで、誰にも見られないようにビリビリ八つ裂きにして汚物入れに。
RG　それは知らなかった！
小林　やっぱり自分をコントロールしなきゃいけないので。そういった意味では須田トレーナーって人がずっといてくれたんですけど、他人をあてにしてばっかりじゃあれだと思って。あと試合前ってお酒も一切飲まないから、気持ちも昂ぶっちゃって寝れないんですよね。だから本を何冊も読むんですよ。字を読んでると寝れるじゃないですか。そういった中で自分の気持ちが昂ぶったり、使命感を出すような本をいっぱい読んで、いい言葉は全部線を引いて、それもバッグに詰めて試合場に行って、トイレで何回も読んで。で、最後は自分への手紙を読んで。そうこうしてやっとリングに上がってくんです。







9.22大阪大会でモンスター・ボノと激突したRG。予想どおり、最後は圧殺されてしまったRGだったが試合後、天龍が救出。『ハッスル』下半期の大一番『ハッスル・マニア』では天龍とのタッグ"WARG"でインリン様＆ボノとの対戦が決定した。右はRGがいままでで一番怖かった相手というシン戦。左下は小林が永久保存版として全日本キック宮田興行部長にプレゼントしたというノートンとのタッグマッチだYO!!

現役中はメンタル的にいろいろやりました。自分に手紙書いたり（小林）

RG　ほ～う（大きくうなずく）。
小林　それで負けでもしたら、やっぱり悔しいし、否定されたみたいな感じになるんで、その悔しさって凄い力要るんですよ。「この野郎！」って。で、また頑張らなきゃいけないから。で、負けたあとなんかとくに、次は絶対勝たなきゃダメだし。そういう悔しがるのに疲れちゃって引退したっていうのはあって。
RG　相当追い込んでましたね、それは。俺も手紙書こうかな。「今日はこんなイジメられ方をしたから、このことをリングで言おう」みたいな。
――でも、そこまでしてリングに上がる理由は何になるんですかね？　よく「リングは麻薬だ」って言われますけど。
小林　麻薬ですよね、やっぱり。
RG　僕の場合は、リングに上がるのは嫌なんですけど、そのあとの自分の試合とか記事を見るのは大好き！
――そのためにリングに上がっていると？
RG　そのためだけです、僕は！
小林　確かに、そのために上がってるみたいなところは多少ありますね。
――それは、批判的に書かれたとしてもですか？
小林　まあ、評価されるにこしたことはないですけど、ボロクソ言われても、何も言われないよりは。ただ、愛のない記者ってあきらかにいるんですよ。そういうのを見ると、この人には俺の試合書いてほしくないなって。だから末期の頃は記者の人、選んでましたから。
RG　へぇ～。
小林　とくに格闘技しか書けない人はやめてもらって。人間を書けない人っていうか。
RG　ほら、やっぱり。そういうのが見てて伝わってるんですよ。
小林　格闘技しか書けない人が無理して人間書こうとしてもダメなんですよね。「この人は所詮格闘技の記者だな」っていうね。どんなちっちゃな記事でも、自分の作品として残るものだから、いくら大きく取り上げてもらっても書いてほしくないっていうのは引退間際はありましたね。
――RGさんも気持ちはわかります？
RG　僕は大きく取り上げてくれたら無条件で喜びますけど（笑）。
――やっぱり、本業のお笑いで自分がテレビに出たりするのを見るのも好きなんですか？
RG　……最近あんまりテレビ出てないですけど。
――また自虐的な（笑）。
RG　でも、テレビとか舞台に出たりっていうのは日常的な感じがするんですよ。プロレスは……なんていうんだろう？
小林　まあ、いきなりデカいステージ用意されましたもんね。普通ありえないですよ、いきなりシンとかブッチャーとかレジェンドと闘えて。ホントうらやましいですよ。

『ハッスル』に干されるのが一番怖いです。なにしろ大事な収入源なんで（RGM）

RG うらやましくないでしょ?

小林 うらやましいけど、僕はそんな怪物とはやりたくない（笑）。

RG テリー伊藤さんとかも言ってたと思うんですけど、結局、人の嫌がることがおもしろい、みたいな。「あぁ、いま俺それやられてるんだろうな」って思って。

小林 選手が嫌がるマッチメイクがいいとかいいますからね。

RG 結局、無条件に僕はそれをやらされてるんだろうなと思います（笑）。

小林 本人が楽しんでるから客も楽しいんだろうなと思ってたけど。

RG いや、もうホントに嫌なんですよ。嫌なことやらされてるのを観てみんな笑ってるんだなという気はしてるんですけどね。

小林 でもみんなの笑いとか期待感があるとやっちゃいますよね、怖くても。

RG ……そうですね。結局、漫才する人でも、スポーツ選手でもなんでもそうなんですけど、嫌だっていうぐらい練習するじゃないですか。僕は普段のそれがないんで（笑）。結局、人をワッと思わせようと思ったら、なんかしら嫌なことをしなきゃいけないんですよ。トレーニングが嫌だとかあるじゃないですか。僕は試合が嫌っていうだけで。どれだけ自分に苦行を課すかってことでしょうね。

小林 おもしろいなあ（笑）。いままで一番嫌だった試合ってなんですか?

RG 一番緊張感がデカかったのはタイガー・ジェット・シン戦です。周りがシン本人も怖かったですけど、凄く言うんですよ、「シンはホントにヤバいから」って。

小林 自分も『ハッスル・ハウス』でシンの場外乱闘に巻き込まれてスネが切れて血が出たことありましたからね。

──小林聡がシンに流血させられてましたか（笑）。

小林 はい（笑）。でも、やっぱり何するかわかんないっていう怖さは、スコット・ノートンとかよりも……。

RG ノートンさんのほうがまだ理性はあるんじゃないかって。まだね。

小林 ハハハハハ!

RG いまさらですけど、やっぱりプロレスは観るもんだなって気はしますね。ファンが一番。

──ホントにいまさらです（笑）。

RG 終わったあとの自分の記事だけが楽しみで。あとは毎回試合が早く終わってほしいっていうだけで。だって興行が終わったあともイタズラが続くときありますからね。

小林 試合後もあるんだ（笑）。

RG 控室に戻って「お疲れさまでした」ってみんなが帰りながら僕の足を踏んで帰ったり。帰ったら僕のコスチューム一式がゴミ箱に捨てられてたり。気が抜けないんです。そういう意味では、メンタル面は鍛えられますよね。

小林 そうかもしれない（笑）。でも、試合観るたびに思いますけど、受けの美学はほかのプロレスラーよりも凄いですよ。

RG 違うんですよ、痛いんですよ! ホントに痛いだけです。

小林 いや〜、ホントに痛かったらあんな飛べないですよ。

RG 違う、違う! あの飛び方もホント偶然身体が動いたって感じで。脊髄反射みたいなもんですよ。

──脊髄反射（笑）。『ハッスル・マニア2007』では天龍さんとタッグを組んでの"WARG"としてボノ&インリン様組と対戦するみたいですけど、やっぱり憂鬱なんですか?

RG う〜ん、まあ、今回は天龍さんとのタッグということで、いつもよりは出番が少なくて済むんじゃないかという気はしてるんですけどね。

小林 ボノはどうですか? もちろん威圧感はあるんでしょうけど。

RG やっぱ、あのデカさは普通じゃないですよ。昔、藤波さんがアンドレに乗っかられて返せなかった、みたいな感じで。でも、おしゃぶりが取れてガーッと来るときの怒りの表情のリアルさとか、ホント凄いレスラーだと思いますよ

小林 初めからプロレスやってりゃよかったですね（笑）。

RG ホントですよね。WWEとかのデカい人たちとは違う凄味みたいな、やっぱ横綱ってブランドみたいなものもありますし……って、なんで敵をほめてるのかわかんないですけど（笑）。

──インリン様はまた違う意味でやりづらかったりしません?

小林 あの人も、『ハッスル』で、えらい活き活きしてますよね。

RG そうですね。ただですね、インリン様はやっぱりガチで僕のことを嫌ってる感があるんですよ。

小林 ハハハハハハハハハ!

RG 生理的に嫌いみたいなのを感じるんですよね、凄く。逆にそれがモチベーションになるんで、いつかは好きにさせたいですけどね。

──それが大舞台の『ハッスル・マニア2007』なら文句ないですね。

RG そうですね。でも『マニア』は天龍さんに任せておきっぱなしでカッコいいシーンとかないと思うんで、いつかはですね、いつか。

小林 いや〜、でもいままで、ずっと楽しんでやってるのかと思ったら……今日は本音が聞けてよかったです。これからもっと『ハッスル』が集中して観られますよ、「いろんな意味で頑張ってるんだな」って（笑）。

RG 誌面でもちゃんと伝えといてください、試合が一番嫌だって。

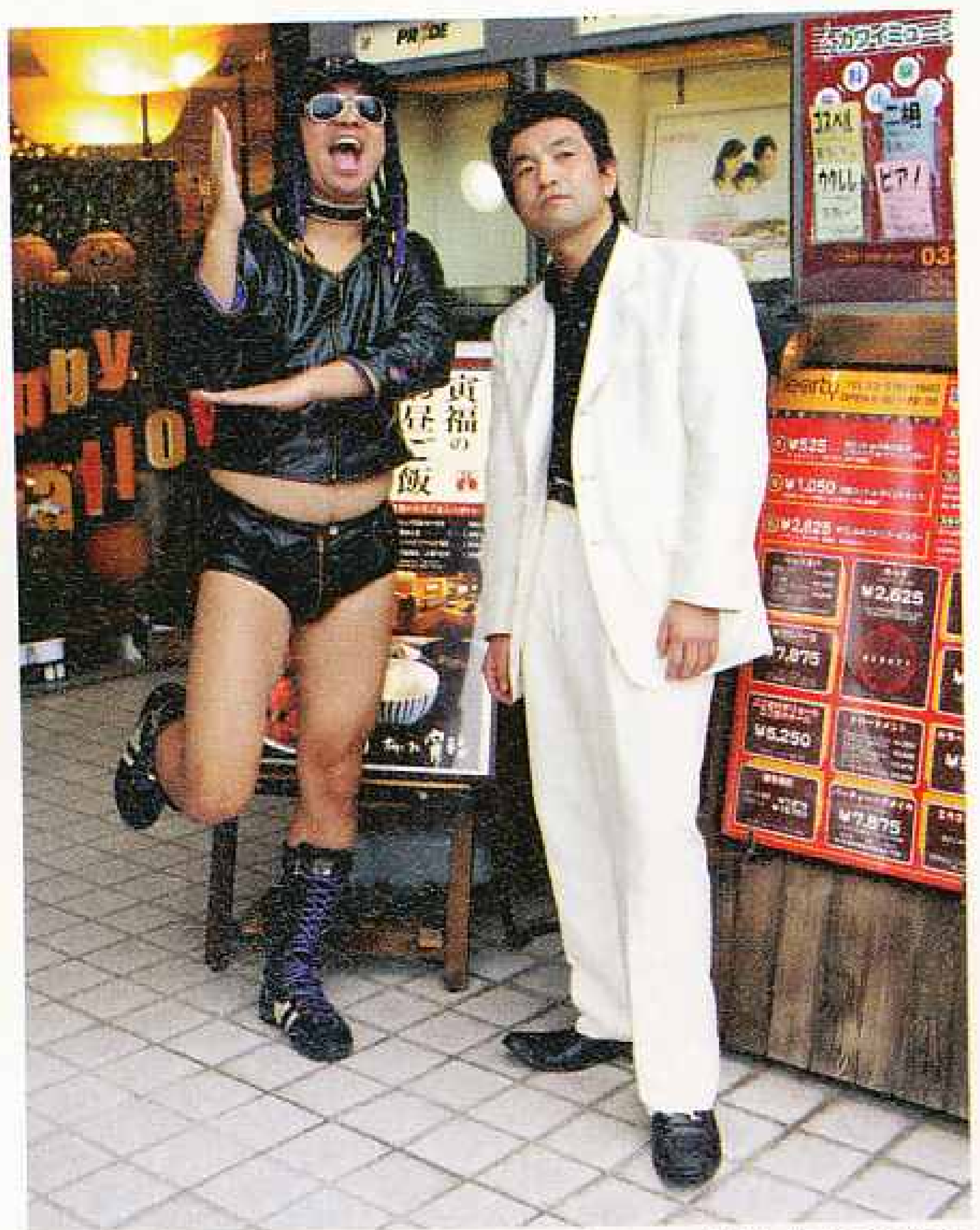
──了解しました（笑）。

RG ……ただ、それで『ハッスル』側が「RGは試合したくないんだ」って干されるのが一番怖いんですけど。なにしろ大事な収入源なんで。

──責任は持ちませんが（笑）、お二方の今後の活躍を期待しています!

RG いやいや、僕のほうは、あまり期待しないでください!

［07年10月9日／都内・ハッスルエンターテインメント事務所にて収録］



あーるじー■本名・出渕誠。1974年6月8日、熊本県出身。立命館大学時代は学生プロレス（立命館プロレス同好会・RWF）にて"チン先真性"のリングネームで活躍。HGこと住谷正樹とは学プロ時代に出会い、その後、二人でお笑いコンビ・レイザーラモンを結成。『ハッスル』では、その凄まじいまでの受けっぷりで評価はうなぎ登り。177cm、74kg。

こばやし・さとし■1972年3月16日、長野県出身。01年9月、タイのラジャダムナン・スタジアムライト級王者テーパリットにKO勝ちするなど、数々の名勝負を繰り広げるも、昨年11月のジャルンチャイ戦後に突然の引退宣言。今年3月の前田尚紀とのファイナルマッチで現役生活に終止符。現在は全日本キックGM、さらには役者としても活躍中。170cm、68kg。



RGの〝やられ芸〟の次にブレイクするのは、この〝やられ姫〟だ！

「わたし、じつはドMなんです」

実録『ハッスル』ドキュメンタリー

島田二等兵のイジメに涙目で耐える受難のアイドル

海川ひとみ

某アイドルというか女優が記者会見で「別に……」「とくにありません」と不遜な態度で言葉を発しただけで大騒動になる芸能界。そこは、いかにして他人と差別化を図りながら人気を獲得するかという厳しい生存競争の世界。そんな芸能界から、これまた厳しい生存競争の世界であるファイティング・オペラ『ハッスル』にやってきたのが、グラビアアイドル海川ひとみである。参戦したと思ったら次々と消えていく芸能人ハッスラーの中でも、彼女だけはひときわ厳しい課題が課せられている。なぜそこまでしてアイドルが『ハッスル』で闘い続けるのか!?　という我々の疑問に、彼女は非常に単純明快な答えを出してくれた。

文／佐藤譲　撮影／梅木麗子　試合写真／山口比佐夫、平工幸雄
写真提供／ハッスルエンターテインメント

『ハッスル』に出られなかった時期は凄い寂しくて なんとか仲間に入りたいと思ってました!!

劇場型エンターテインメント、『ハッスル』。

その舞台は、時として演者の本性をまるで鏡のように映し出し、あるいは舞台を囲むオーディエンスというリトマス試験紙を通して、残酷なまでに厳しいジャッジを課してくる。

レスラーは言うに及ばず、知名度によって鳴りもの入りで参戦してきた歴代の芸能人でさえ、その志や芸の力が評価されぬ者は次々とふるいにかけられていく。それは『ハッスル』を一度でも観たことのある諸兄ならば、ご存知のことだろう。だからこそ、

「**『ハッスル』の実況席で解説してたから、『ハッスル』って楽しいな、わたしも出たいなっていう気持ちになったんですよね**」（以下、括弧内の発言はすべて海川ひとみ本人）

というグラビアアイドル海川ひとみの極めてふわっとした安易な動機によるハッスラー転身宣言に釈然としないオーディエンスは多かったし、事実、鼻骨を折るというグラビアアイドルの範疇を超えた決死の闘いを繰り広げたにもかかわらず、評価よりも批判が上回ったのは、観客の彼女に対する冷静なジャッジが働いたからにほかならない。『ハッスル』処女航海を彼女は次のように振り返っている。

「**試合中はほとんど意識がなかったんですけど、あらためてVTRを観たら『こんなにわたしって受け入れられてないんだ!』って（苦笑）。確かに観に来てくださった皆さんは『ハッスル』を愛してる方で、『ヒョっと出のアイドルが簡単に出れるとこじゃねえよ!』って思ってると思います。でも自分もみんなと同じように『ハッスル』が凄い好きだから、なんとかして仲間に入れてもらいたいなって思うようになって、入れてもらうためには努力しないといけないんだなってそのときに思いました**」

ちなみに「ヒョっと出」ではなく「ポッと出」である。

それはさておき、しかし、ケガから立ち直り、努力をあらためて心に誓った彼女に与えられたのは「努力」や「ひたむきな姿勢」とは遠くかけ離れた「鉄仮面」と「妙にエラそうなキャラ」だった。

「**鉄仮面のときは、バボさんがわたしの大事なチエさんやクッシー（KUSHIDA）をイジメてるのが悔しくて、仕返ししてやりたいと思って。それで3人で力を合わせてやっつけてやろうって部分が強かったんですね。でも、反応は『ハッスル・マニア』のときとなんにも変わってなかった気がします……、非難轟々みたいな**」



島田二等兵に「『ハッスル・マニア』に出させてください!!」と哀願する海川は、島田好みの衣装で登場させられ、肉体的・精神的に追い込まれていく。海川のけなげで哀れで必死な姿に、観客はいままでのキャラクター以上の何かを感じ取っている。

そんな彼女の自覚を裏づけるように、ここから海川ひとみは『ハッスル』本編にはまったく絡めない期間を過ごすことになる。そのあいだ、地道なトレーニングを積みながら彼女は孤独に苛まれていたという。

「**もともと『ハッスル』が大好きだったから凄い寂しくて。なんとか関わりたいなって思いながらも、もの凄い一人ぼっちでした。皆さんとどんどん離れていっちゃうんですよ。チエさんもクッシーも、どんどん鍛えて体格もよくなって、カッコよく闘ってるじゃないですか。それを指くわえて観てるだけで、凄い寂しくてわたしも仲間に入りたい。その期間が長ければ長いほど、どうにかしないとって思ってましたね**」

そんな中「寂しい」を連発する彼女に再びチャンスが与えられる。それが現在、『ハッスル』の休憩時間の名物となりつつある島田二等兵とのやりとりだ。内容は『ハッスル・マニア2007』参戦を求める彼女に、島田二等兵が参戦をエサに無理難題をふっかけるというもので、これまでの内容は次のようになっている。

●海川ひとみのブログで島田二等兵のことをステキとほめる。
●水着&グラビアポーズ強要。
●島田&アン・ジョーのTシャツを休憩時間内に完売。
●メイド服着用を強要。
●島田二等兵のブロマイド（うち1枚は海川）を休憩時間内に完売。
●体操着&ブルマーを強要。
●リング~ステージ間の通路を50往復ダッシュ。
●縄跳び1500回。スクワット100回。

しかし、この無理難題に嫌々ながら応じる海川の頑張りはなかなかに魅力的だ。レスラーのようにレスリングの技術があるわけではない、インリン様のようなセクシーな魅力と大会場を巻き込む認知度や芸能パワーがあるわけでもない。そんな彼女が自分のできる範囲で精一杯取り組む姿。そのひたむきな姿勢は徐々に観客に受け入れられつつあるように見える。

「**でも、う~ん……、お客さんに受け入れられてるかどうかはまだわからないですね。ただTシャツやブロマイドを買ってくれたり、協力してくださる方もいるんだなと思って。それで、アイドルもそうだと思うんですけど、やっぱり応援してくれる方にもっ**



もちろん試合に出ればプロレスラーとの実力差は歴然としている。泣き叫びながら骨を折られながらもギブアップはしない。根性がなければアイドルは務まらないのだ。

じつはネットの掲示板を見るのが好きで 機転の利いた悪口を書かれるのが好きなんです

と感謝しないといけないなっていうのがありましたね。あの、わたし、『ハッスル』がきっかけで人生すべて謙虚になったんですよ」

そして、もう一つ、海川ひとみを輝かせているのが、島田二等兵とのやりとりから徐々に漂い始めてきている彼女の〝M体質〟ではないだろうか。正直筆者はゾクゾクしながら観ている。あらためてそこのところを問い詰め、確かめてみると、彼女の口から衝撃の答えが返ってきた。

「いまの島田さんとのやりとりは……きっと素のまんまのわたしが出ててもああなりますね。（SかMと言われると？ という問いに）ドMって言われます（笑）。大阪で島田さんに水かけられたのとか、あとでVTRを観て、あの……、じつはちょっと興奮してましたし……（笑）」

そして、一旦白日のもとにさらされてしまった驚くべき彼女の「素顔」。その告白はとどまるところを知らない。

「じつはわたし、ネットの掲示板を見るのが好きで、機転の利いた悪口を書かれるのが好きなんですよ。9月の大阪大会もほめられたあとに『やっぱ海川よりブルマーだよね』とかストーンと落とされるとキュンときちゃって。『服なの!?』って（笑）。それとこの前、あるバラエティ番組に出たんですけど、そこで挨拶するときにわたしだけ紹介をスルーされて『わたし、空気じゃん！』って。あと、携帯が普及し始める前に友だちと待ち合わせをしてて、友だちが2時間経っても来ないから電話したんですよ。そしたら『いま起きた』って言われて。そのときも『わたしって凄い！』ってドキドキしましたね」

そういえば、バラエティのお約束を逆手に取る『くりぃむナントカ』（テレビ朝日）でリアクションのよさを競い合う「ナント

受難のアイドル 海川ひとみ 激闘史!!

キミはまだ本当の海川を知らない!?



鉄仮面編

2006.12.25　後楽園ホール



ケーキ片手に乱入して遺恨のあるバボに「あなたのうしろに死神が見えます。私がこの鉄仮面を脱いだとき、それがあなたの命日です」となぜか強気な海川。

デビュー戦

2006.11.23　横浜アリーナ



一緒にトレーニングに励んだKUSHIDA、＼(^o^)／チエとともにジャイアント・バボに挑むが鼻骨を折られて返り討ちに。試合後は号泣。

デビュー前

2006.11.9　都内ホテル



「アイドルとして伸び悩んでいる自分を変えたい」といきなりの参戦表明。事務所の先輩、眞鍋かをりと浜田翔子もこれには仰天！

カガールオーディション」で、彼女は芸能界に入るきっかけとなった憧れの先輩、眞鍋かをりからリアクションについて番組中で激しく突っ込まれていた。だとするとあれも……？

「そうです、そうです。もっと眞鍋さんに『あんたなんてまだだダメよ！』とかビシビシされたいですね。わたし、『凄い良かったよ！』って言われるのが苦手で鳥肌立っちゃうんですよ。それよりも『おまえは全然ダメだね』って言われたほうが『やっぱそうだよね！』って嬉しくなっちゃう。わたし、プライベートは自信がなくて不安だし、いつも探り探りで、『ファンの人もホントに応援してくれるのかな？』って考えちゃう。心配性なんですよね」

そんな根っからのM気質は、どうやら幼少期からの自己犠牲の精神によって育まれてきたと彼女は語る。

「わたし、親とか友だちとかファンの皆さんとか、凄い大事な人たちが喜んでくれることをしたいんです。3歳の頃にお兄ちゃんによく髪を引っぱられてたんですけど、それでお兄ちゃんが喜ぶなら黙ってようって。誰かが喜ぶなら『じゃあ、わたし、とことんやります』ってなっちゃう。ま、ときには気づいてほしいですけど（笑）」

アイドルではガチガチに作り込んだキャラクターで売り出すケースと素のキャラクターを活かすケースがあるが、観る側の目が肥え、嗜好が細分化してしまったことにくわえ、『YouTube』などの映像ネットワークの発達で、演出のアラやキャラの矛盾がすぐに確認できるようになった現在、前者のケースを成立させるのは年々ハードルが高くなっているように感じられる。事実、いわゆる典型的な「アイドル」はすっかりレアな存在になってしまった。またブログなどでプライベートも公表するようになっている以上、素のキャラでい続けるのもなかなかにタフな作業だと言えるだろう。

いずれにせよ、アイドルはいま最も難儀な商売の一つだ。

「いまはネット社会になっちゃって、たとえば同級生が書き込んだりとかするから。イヤでもプライベートが知られちゃう。普通だったら知らなくてもいいこともネットですぐにわかる。で、自分が意図してなくてもバレちゃうなら、じゃあ出しちゃえって、わたしは思ったんですよ。すっごい寂しがり屋だから、逆にみんなに問いかけたいんですよ、『どう？』って。たとえば友だちに見せられないアニメの話ならファンのほうが合うんです。触れ合いたいですよね。かまってほしいんですよ」

いまの『ハッスル』と海川ひとみのなかなかにいい関係。それはネット世代のアイドルのあり方、楽しみ方、その性質を理解し、『ハッスル』が彼女のいま置かれているタレントとしてのポジションに近づけた演出をすることによって、彼女の素に近い魅力と、ハングリーさ、ひたむきなアクションを『ハッスル』の舞台にうまく着地させることに成功したということなのだろう。それはある意味メタ・プロレス的な構造を持つ『ハッスル』らしい切り方とも言えるのではないだろうか。

今後は島田二等兵にどんな目に遭いたいのか？　そんな問いに対し、彼女は**『エースをねらえ！』みたいにテニスボールとかぶつけられたい（笑）**」と答えた。さあ、賽は投げられた。見逃すな、劇場の中で展開される彼女の発言、表情、アクションのすべてを！　その中に潜む彼女の真の姿を諸兄に見られることを彼女は強く望んでいるのだ。

【07年10月3日／都内・ハッスルエンターテインメント事務所にて収録】



かいかわ・ひとみ■1984年8月25日、愛知県出身。眞鍋かをりに憧れて同じ事務所へ。同じくグラビアアイドルで、PPV『ハッスル』中継で解説を務める浜田翔子とは大の仲よし。11月23日『ハッスル・マニア2006』でデビューするも、鼻骨を折られながら大奮闘。10月シリーズで、ようやく『ハッスル・マニア2007』の出場が決まったものの険しい道のりは続く。162cm、B83・W57・H82。

わたし、凄い大事な人たちが喜んでくれることをしたいんです！

第2戦

2007.3.18　愛知県体育館



地元・愛知県体育館に凱旋するが惜敗。アン・ジョーに「次はヘア（髪）を賭けなサ～イ!!」と挑発され、怒りにまかせて受諾してしまう。

イジメ編1

2007.8.18　愛知県体育館



島田二等兵に「『ハッスル・マニア』に出たいなら売れ」と強要されデザイン最悪のアン＆島田Tシャツ（なんと4000円!!）40枚を完売！

イジメ編2

2007.9.13　後楽園ホール



島田二等兵のブロマイド（に1枚だけ海川の写真入り500円）を販売。大会後、会場周辺に島田ブロマイドが大量に捨てられていたとの噂も。

イジメ編3

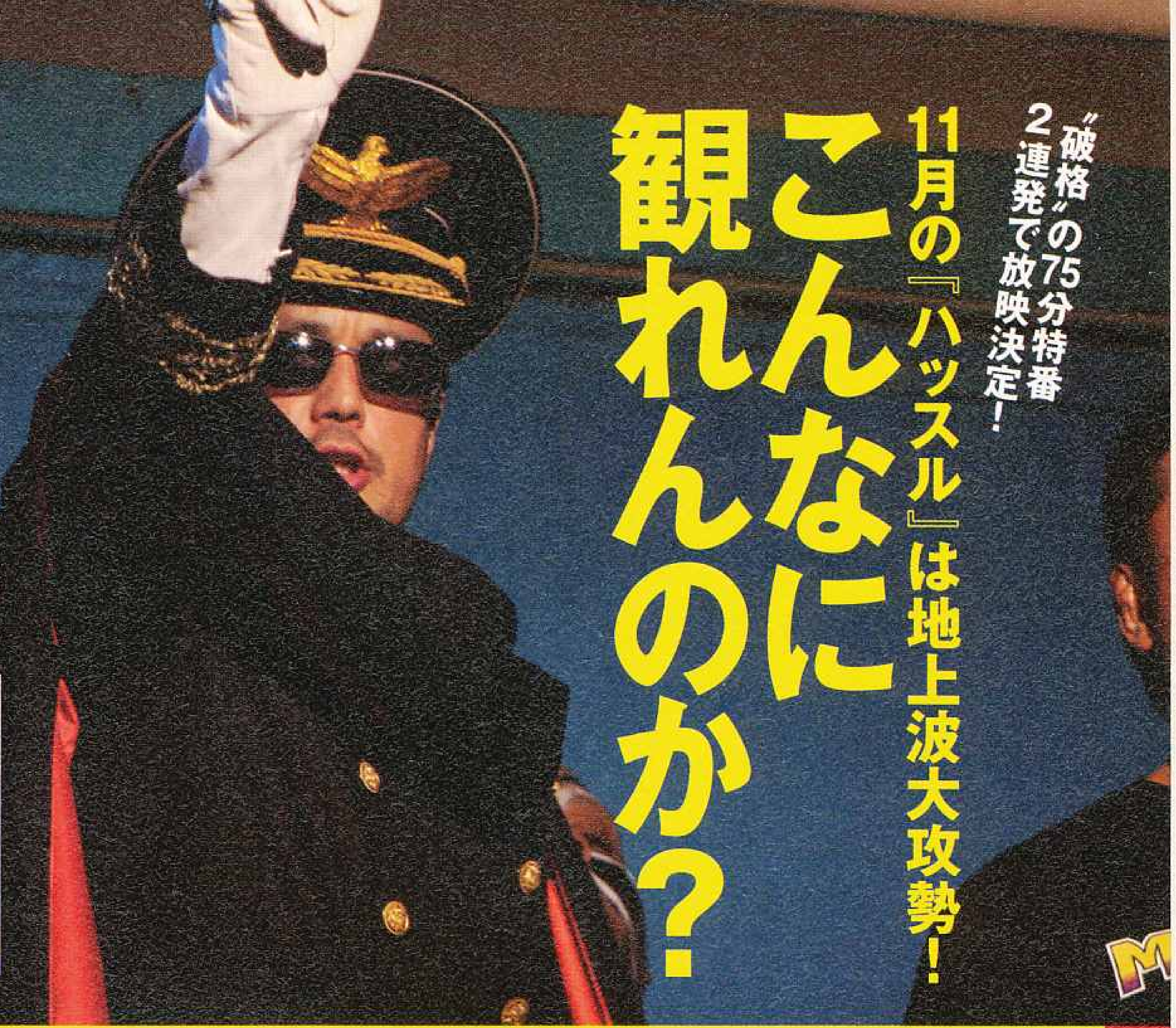
2007.9.22　大阪府立体育会館



島田の個人的な趣味により体操着姿で登場させられた海川。「マニアに出たいだろ？」と花道ダッシュ50往復に、ローキック＆水ぶっかけの刑。ひどい！

“破格”の75分特番2連発で放映決定!

11月の『ハッスル』は地上波大攻勢! こんなに観れんのか?





やると思っていたけど、やっぱりやった！「……とくにないです」「べつに……」と沢尻エリカの記者会見スタイルを総統劇場で完コピ。抜け目のない髙田総統だった。

『ハッスル』怒濤の地上波スケジュール!

『ハッスル』9月、10月シリーズをまとめて放送!
11月4日(日)
『ハッスルSP』(仮)
16時00分～17時15分
(テレビ東京系列・全国6局ネットにて放送)

11.25『ハッスル・マニア2007』大会直前特番!
11月17日(土)
『ハッスルSP』(仮)
16時00分～17時15分
(テレビ東京系列にて放送)

さらに12月には
11.25『ハッスル・マニア2007』中継スペシャルを予定!
日時未定
『ハッスルSP』(仮)

レギュラー放送も絶好調!
『どハッスル!!』
毎週土曜日
26時50分～27時20分
司会／ケンドーコバヤシ
(テレビ東京系列にて放送)

「どんどんやりたまえ！」（高田総統調）

地上波レギュラー放送『どハッスル!!』（テレビ東京系）もまだスタートしたばかりなのに、なんと11月に『ハッスル』の地上派放送が続々決定！ しかもいずれも“75分”という特番枠での放送が連続決定したのだ。

これは10月10日の『ハッスル・ハウスvol・29』の高田総統劇場の中で明らかにされたもので、まず11月4日（日）の『ハッスルSP（仮）』（16時～17時15分）では、9月、10月の『ハッスル』シリーズの模様をまとめて放送。こちらは全国6局ネットで放送される。

さらにハッスル下半期の天王山『ハッスル・マニア2007』に備えた直前特番も決定！ こちらは11月17日（土）に『ハッスルSP（仮）』（16時～17時15分）。

そして日時は未決定だが、12月には『ハッスル・マニア2007』の中継特番も放送が予定されているという。

まさに現在のプロレス業界の状況下では考えられない攻めの姿勢を崩さない『ハッスル』。『ハッスル』というコンテンツへのテレビ東京の期待度もうかがえる。今後もテレ東と『ハッスル』のコラボの行方に要注目だ。

今後の『ハッスル』スケジュール

ハッスル・ハウスvol.31

東京・後楽園ホール
11月22日(木)
19:00開演(18:00開場)

[チケット料金]
※全席指定、消費税込み
ハッスルVIP ¥10,000／スタンドS ¥7,000
スタンドA ¥5,000／スタンドB ¥3,000

ハッスル・マニア2007

神奈川・横浜アリーナ
11月25日(日)
17:00開演(15:30開場)

[チケット料金]
※全席指定、消費税込み
ハッスルVIP ¥20,000【特典＝ハッスルグッズ付き】／
RSS ¥10,000／
花道シート ¥10,000(※1 限定発売)／
S ¥5,000(※2 こども料金あり)／
ケロロ軍曹応援シート ¥4,000【スペシャルグッズ付き】
／A ¥3,000

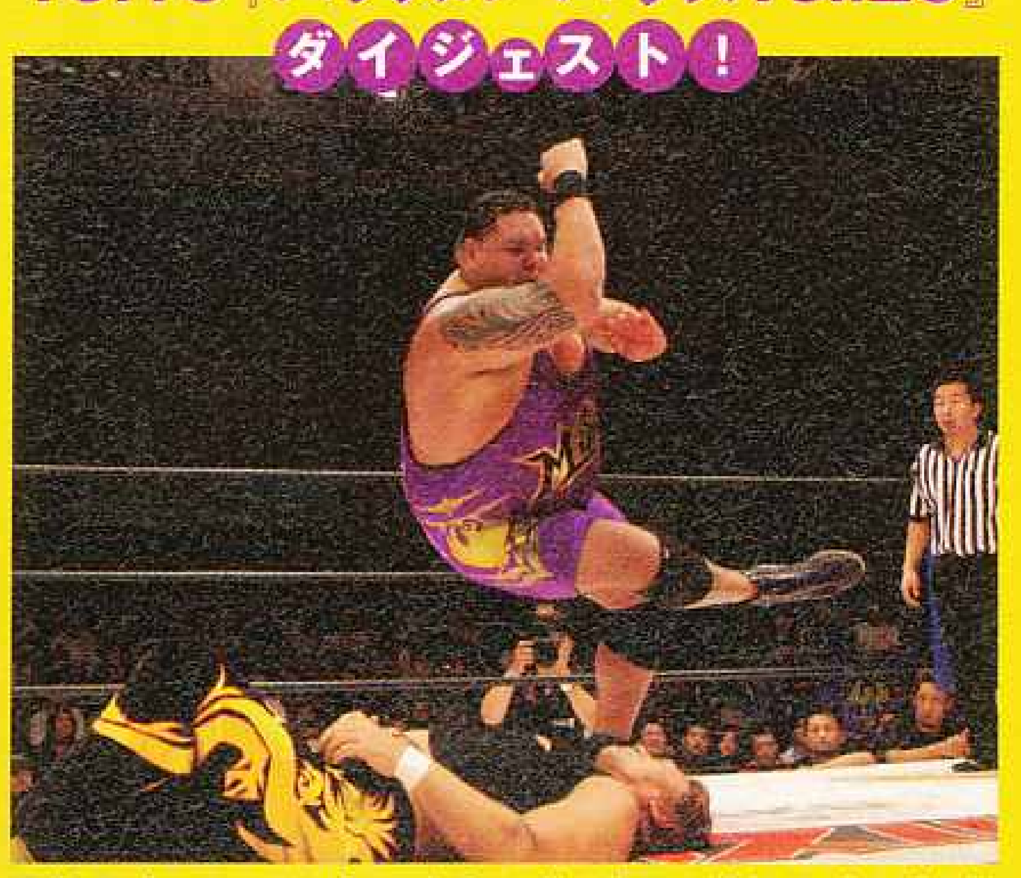
※1) 花道シートは、ハッスルエンターテインメントとハッスルオフィシャルサイト、ハッスル携帯端末オフィシャルサイトでの限定販売
※2) Sのみ小学生以下は¥2,500。ハッスルエンターテインメントにて受付

[問い合わせ]
ハッスルエンターテインメント
TEL.03-5464-1731
http://www.hustlehustle.com/

ハッスル・ハウス クリスマス スペシャル(仮)

東京・後楽園ホール
12月25日(火)
19:00開演(18:00開場)

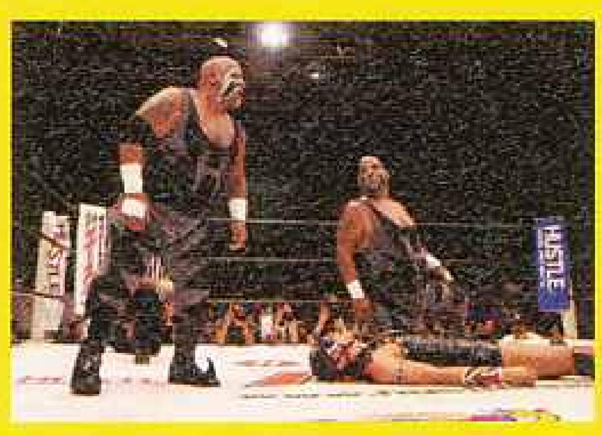
10.10『ハッスル・ハウスvol.29』ダイジェスト!



天龍の“かわいがり”にも負けず、満面の笑顔でパチパチ拍手という新ムーブを披露したボノ。最後は“ジミー・スヌーカ好き”を裏づけるような、“スーパーフライ”なエルボードロップを天龍にズバリと決め、まさかのピンフォール勝利。



この日は“フンコロガシ”ことRGに「死ィネェエ！」と絶叫マイクしたボノ。そのRGが「真剣に嫌われてるかもしれない」と危惧する“ママ”インリン様もこの毒舌ぶりには上機嫌。



“ミスター・デンジャー”松永曰く「00年に糖尿病で体調を崩していた」ザ・ヘッドハンターズはムーンサルトも不発のまま試合終了。故V・キニョネスふうのセコンド島田だけがヤル気マンマンだった。



この日のシンの狂乱ぶりは尋常じゃなかった！ 場内はもちろんスポンサー席にもなだれ込み、実況の平塚雅人氏も巻き添えに。モノを投げつけた客にはツバで返答、とシンらしさ大爆発！



“狂える虎”が大会後にはなんとグッズ売り場のサイン会に登場。数枚サインを書いては突然立ち上がってキレまくり！ 周囲を威嚇し続ける異常なシンスタイルを貫いた。



ブログでも「髪の長い威圧感むき出しの男とだけとは会いたくない」と書くなど長州嫌いだけはガチ！ なニシム・ラマは“ド真ん中な刺客”長州か&長州がに無抵抗主義で対抗！



オープニングのお楽しみ“川田劇場”をこっぱみじんに破壊したのがケロロ軍曹。何をするんだよ!!（怒）。観客置きざり状態で川田vsカエルというシュールな絡みが展開した。



恒例の海川劇場に我らがザ・グレート・サスケが突如乱入。海川に「ひとみさん！」と昼ドラ調で呼びかけた。これまで『ハッスル』との食い合わせはイマイチだったが、今回は？



快挙！ アンディ・サワー、K-1 MAX制覇の陰にプロレス探検隊の存在が!!



プロレス界にも多大なる影響！

シュートボクシングこそが立ち技最強なのか!?

今回の探検隊の行く先は10月28日に両国国技館にてビッグマッチを敢行するシーザー武志会長率いるシュートボクシング（以下・SB）だ。これまで“プロレス”探検隊として、さまざまな秘境を探検してきたGK隊長と小松隊員だが“格闘技”系は今回が初めて。はたして、SBとプロレスのあいだには、いかなる接点があるというのか!? そして先頃、K-1 MAX 2007トーナメントを制覇したばかりのアンディ・サワーと探検隊との関係とはいったい……!?

本文構成／小松伸太郎 撮影／平工幸雄 試合写真／乾晋也



GK隊長

かなざわ・かつひこ■元『週刊ゴング』編集長。現『Gリング』統括プロデューサー。テレビ朝日『ワールドプロレスリング』の解説も務める。プロレスマスコミの重鎮として幅広い取材活動を行なう一方、探検隊を結成し体当たりで取材に挑んでいる。

小松隊員

こまつ・しんたろう■元『SRS・DX』編集部。以前からGKと親交があり、『週刊ゴング』で座談会も担当していた。元相撲部でもあり非常にグッドルッキンなボディを持つ。“受け”の美学は今回も全開だ!! 通称「モグラ」。



GKスペシャル プロレス探検隊



しーざー・たけし■1955年8月17日、山口県出身。17歳から始めたキックボクシングで日本キック協会ウェルター級王座を獲得。その後、ともに新たな格闘技を模索していた佐山サトルや、故カール・ゴッチのアドバイスを受け、85年に立ち技総合格闘技・シュートボクシングを創設。88年には世界ホーク級の初代王者に。会長となった現在も、その人柄に惹かれ、さまざまな選手が指導を受けに来ている。

シュートボクシングの一番えらい人

シーザー武志

シュートボクシング（以下・SB）を探検するにあたり、最初に調査しなければいけないのはSB協会会長のシーザー武志で間違いない。佐山サトルや故カール・ゴッチ、さらには前田日明や高田延彦といったUWF勢とも深いつながりを持つシーザー会長に突撃取材を敢行！　SB誕生秘話から、プロレス界との意外な接点まで明らかに!!

寝技は臭いし、おもしろくない！男なら立って殴り合え!!

GK　さて、これまでインリン様だ、武富士ダンサーズだ、ファッションだ、プチシルマ体操だ、などと浮かれてお
った小松隊員！

小松　え？　毎度、鼻の下を伸ばされていたのは隊長のほうでは……？

GK　黙れ！　そんなキミの浮かれ気分を引き締めようと、今回は硬派に〝立ち技総合格闘技〟シュートボクシング（以下、SB）の探検を企画した！　このSBのシーザー会長はこの金沢が非常にお世話になった方であり、プロレス界とも、じつに縁の深いお方であ～る。この会長からお話をうかがい、SBとプロレスの接点を探るのが今回の探検の目的だ！　どうだ、ケツの穴がキュッと引き締まりそうだろ？

小松　はい！　キュンと引き締まりました!?（身悶えながら）。

GK　では、ヴァモス！　シーザー会長、おひさしぶりです！

シーザー　金沢さん、なんなのその格好は？（笑）。

GK　あ、よいところに気がつかれました！　これが我が探検隊の制服です！　会長もいかがですか？

シーザー　ワッハハハハ！　まあ、遠慮しておきますよ（笑）。

GK　フフフ、さすが会長、慎み深い。では、さっそくお聞きしますが、会長は先頃亡くなられたカール・ゴッチさんと交流があったんですよね？

小松　あ、あのプロレスの神様と!?

GK　黙って、話を聞くんだ！　いつ頃からのお付き合いなんですか？

シーザー　僕がUWFに蹴りとかを教えてたときだから、初めて会ったのはいまから23～24年前になるかな？

GK　ほほう、そんなに昔から。有名な話として、ゴッチさんの言葉から〝シュートボクシング〟という名称がひらめいたということを聞いたことがあるんですが？

小松　た、隊長！　それは本当でありますか!?

GK　落ち着くんだ、小松隊員！　さあ、会長、お願いします。

シーザー　まあ、俺はキックボクシングをずっとやってたから、頭の中で格闘技っていったら、キック、あとはムエタイぐらいだと思っていたんですよ。そうしたらゴッチさんが、「世界にはもっといろんなものがあるんだよ」って言ってくれてね。それで、「俺、キックのことやんなくていいや」なんて思うようになったんだよね。

GK　キックから別の新たな格闘技を作ろうと思われたんですね？

シーザー　そう。だから、俺が考える格闘技の基本、「打つ、蹴る、投げる」で勝負してみたいなって思ったの。そんなときに佐山（サトル）もシューティングを作ってて、「シーザーさんも一緒に新しいことをやってくれませんかね？」なんて言われてね。でも、アイツのはグラウンドもあるでしょう?:

小松　佐山さんの創られた修斗は打・投・極ですもんね！

シーザー　それそれ！　でも、俺は寝技が嫌いだったから、それは佐山がやればいい、と。それで、「俺はボクシングだよな。シューティングボクシングじゃおかしいかな？」って聞いたら、「INGが二つあったらおかしいんじゃないですか？」って佐山に言われて、「それじゃあ、シュートボクシングにしようか」っていうことになったの。

小松（興奮しながら）た、隊長！　これはまたもや新事実発見ですね！

GK（小声で）結論を焦るな、小松隊員。まだ先は長い。でも、会長は「寝技が嫌い」っておっしゃいましたけど、確か柔道もやられてませんでした？

シーザー　やってたよ。でも、寝技は臭いんだよね。

小松　く、臭い!?

シーザー　男同士で引っつくと汗臭いじゃない？　あれで柔道やめたんだよな、俺（笑）。

GK　ワッハハハハ！　確かに柔道衣は臭いですよ（笑）。

シーザー　それに寝るのは女だけでいいんじゃねえかって、ワッハハハハ！

GK　まったく同感です（真顔で）。

小松　隊長ぅ……。

GK（無視して）じゃあ、寝技嫌いなら当然、立ち技にいきますよね。

シーザー　うん。それに、俺にとって、勝負ってのはぶっ飛ばしたほうが勝ち！　寝てまでしつこくやるもんじゃないし、寝ているヤツをブン殴っちゃいけない。昔の侍だって倒れたヤツを刺しにはいかなかったでしょ？　で、倒されたヤツはその場で腹を切る。やっぱり、そこにこだわりたいなと思ってね。

GK　会長のお言葉にある「侍は立って闘う」ということですね！

シーザー　そう！　日本人はやっぱり立ち技ですよ。

GK　でも、ゴッチさんは理解してくれたんですか？

シーザー　みんなに言われましたよ、「ゴッチさんは蹴りの練習を嫌うんですよ」って。だから、「蹴りは嫌いですか？」って聞いたんですよ。そうしたら、「私はプロレスラーが中途半端な蹴りをやっているのが一番嫌なんだ。本当はムエタイとかは好きなんだよ」って。だから、俺のこと嫌いかなって思ったけど、そうじゃなかったみたいだね。

GK　ホンモノならばいい、と！　あぁ、ゴッチさんらしい話だなあ……（しみじみ）。

シーザー　いい親父でしたよ。あ！　今日持ってくればよかったな、ゴッチさんからもらったピンバッチ。

GK　ピンバッヂをもらったんですか？

シーザー　うん。いろいろと食事とかをご馳走したりしたから、「おまえにあげるものは何もないけど、これは私

からの本当の気持ちだ」って、金のグローブのかたちをしたピンバッヂをティッシュにくるんでくれたんですよ。品物じゃなくて、気持ちを感じたね。この人は苦労して、いろんな思いをしてきたんだなって思いましたね。

GK それはきっと、ゴッチさんの心がこもってますよ。

小松 か、感動的な話ですね、隊長！

GK キミの心にも響いてくれたか……。ところで、会長はUWFと関わるまでは、プロレスに対して偏見はありました？

シーザー 僕は力道山とかよく観てたけど、自分で格闘技をやるようになって、否定し始めましたね。でも、UWFの連中と一緒に練習することで、逆にプロレスラーも弱くはないなっていうのがわかって、プロレスを理解できましたよね。なんと言っても、彼らは一生懸命でしたよ。

昔はプロレスに偏見があったけど、いまはプロレスラーに感謝してます

GK じゃあ、会長のプロレスへの偏見をなくしてくれたのがある意味UWFだった、と？

シーザー まったく考え方が変わったし、いい意味で学ばせてもらいましたよね。それにレスラーに教えることでプロレスファンにSBが広がったじゃないですか？　本当にいまはレスラーに感謝していますよ。

GK やっぱり、「UWFの陰にシーザー武志あり！」っていうことで、幻想がドンドン膨らんでいきましたからね。それでSBには過去を見ても、総合系の試合も含めて、かなりのプロレスラーが出ていますよね？　これは会長からすると、バラエティに富んだものを見せようということなんですかね？

シーザー そうそう。いろんなものをお客さんに見せてあげたほうがいいかな、と。

GK SBのリングで桜庭（和志）とキモもやってるんですよね！

小松 同じUインター出身の中野龍雄（現・巽耀）も巨漢アマ力士のエマニュエル・ヤーブローと試合をやってるし、女子プロレスラーの井上京子とオカマのキックボクサー、パリンヤーの試合なんてのもありましたね。

シーザー おもしろいでしょ？　オカマと向こうはオナベみたいな感じで（笑）。これはシャレでやったんだけど。

GK 立ち技だけに、どっちが「タチ」なんだというね、フフフ。

小松 なんとお下劣な……。しかし、こうやって振り返ってみると、本当にSBはプロレスと縁が深いですねぇ。

GK だろ？　ほかにも新日本プロレスの稔や無我ワールド・プロレスリングの長井満也、それにプロレスリング華☆激のアステカと、アマチュアでSBを経験しているプロレスラーはたくさんいるんだよ。

小松 あ、風間ルミもそうだ！

GK フフ、よくぞ気がついた。それに痴漢逮捕で名を挙げた風香も現在、SBで練習しているしね。これでキミもSBとプロレスの関わりが深いという事実が理解できたろう？

小松 はい！　隊長、今回は有意義な探検でした！

GK うむ。私もひさびさにまともな探検ができて満足しているよ。ということで、会長、次の10・28『GROUND ZERO』両国国技館大会も楽しみなカードが揃ってますね。この大会で会長が見せたいものはなんですか？

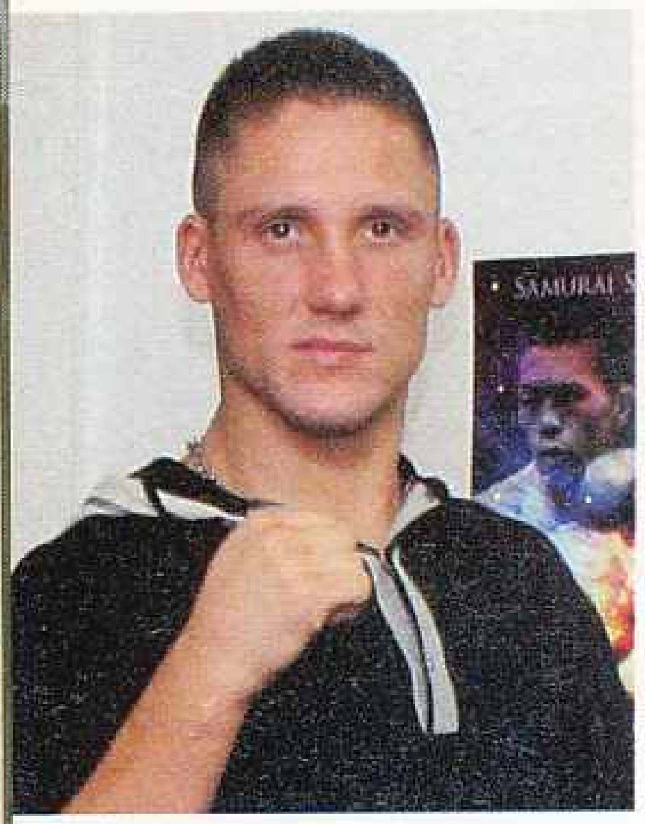
シーザー 俺は喧嘩っぽいのが見たいんだよね。みんなもそうでしょ？　だから、やっぱり立ち技にこだわって、立ち技の中ですべてを出せるルールでやっていきたいね！

GK わかりました！　では両国大会、楽しみにしています！



隊長は過去に何度かシーザー会長を調査していたこともあり、なごやかな雰囲気で取材は終了した……かに見えたが、シーザー会長からは「シュートボクシングについて、もっと知りたかったら下のジムに行くといいよ。ラウンドガールも来てるみたいだし」とのお言葉が。ニヤニヤしながらジムに向かった二人を待ちかまえていたのは……!?

衝撃！ K-1 MAX2007世界王者がプロレス探検隊入りを志願!?



K-1 MAX2007世界王者
アンディ・サワー

10.3 K-1 WORLD MAX日本武道館大会決勝戦で魔裟斗を下し、自身2度目となる世界王者に輝いたアンディ・サワーを大会翌日に直撃！　じつはGK隊長と小松隊員は大会前日に、たまたまジムに姿を見せたサワーを激励していたのだ。ひょっとして、トーナメント制覇の陰には探検隊の存在が……!?

——優勝おめでとうございます！

サワー アリガトウ（ニッコリ）。

——大会から一夜明けただけとはいえ、目の周りの傷はかなりイタそうですねぇ。

サワー まあ、ちょっと気になるけど……、デモ、ソンナノカンケ～ネエ！

——ワハハハ！　昨日のコメントでも、そのセリフは大サービスしてましたね！（笑）。しかし、昨日は参戦選手を見ても、かなり厳しいトーナメントだったと思いますが、そんな中、『kamipro』はサワー選手が優勝するんじゃないかと踏んで、じつは事前に激励にうかがっていたんですよ。

サワー ん？　キミたちがかい!?

——今日はその証拠写真をお持ちしました。これです！（と言って、写真を差し出す。83ページの写真参照）。

サワー おっ、これは!?　この怪しい人間たちは、キミたちのマガジンだったんだね。

——ええ。じつはそうなんですよ。大事な試合前にすいませんでした（笑）。

サワー いや～、日本にはいろんな格闘技雑誌があるんだなって視野が広がったよ（笑）。

——彼らは「マット界の謎に迫る」というコンセプトのもとに活動しているプロレス探検隊というユニットなんですけど、影の正体は、日本を代表する立ち技マスコミ集団でして。

サワー え……？　そうなの？　そんなふうにはとても見えなかったけど。

——彼らが目をつけた選手は必ずK—1や立ち技で活躍するっていうジンクスがあるんですよ！（適当）。

サワー そうだったのか!?　じゃあ、ボクが優勝したのも、彼らのおかげだったのかもしれないな。……よくわからないけど（困惑）。

——その探検隊なんですが、いま続々とメンバーが増えてる状態なんです。プロレス団体のトップ（上井二三彦駅長）だったり、体操のお姉さんだったり。

サワー へえ～。そうなのか？　それだったらボクもぜひ入りたいな（真剣な表情で）。

——あ、K—1MAX王者がまさかの探検隊入り！　来日した際にはぜひ一緒に！

サワー もちろんだ！　一緒に探検できるなんて、こんなに光栄なことはないじゃないか。何か入隊の条件はあるのかな？

——入隊の条件？　「わかったかね、サワー隊員？」と言われたら、「ラジャーです!!」と即答するくらいですね（笑）。

サワー ああ、そんなことでいいのかい。

——「わかったか、サワー隊員？」

サワー ラジャーです!!（笑）。

——素晴らしい（笑）。ちなみにサワー選手から見てシーザー会長はどんな方ですか？

サワー それはもう素晴らしい人だよ。試合があるときはいつも気にかけてくれるし、対戦相手が決まったら、会長自ら対戦相手を研究してくれたりするんだ。普通、ある程度の地位の人になると、偉そうにしたりしてしまうものだと思うけど、シーザー会長はそういうことは全然なくて、ボクらと話をするときもとても腰が低いんだよね。

——なるほど。では、連戦になりますが、10月28日のオロゴン戦、頑張ってください！

サワー アリガトウ。そのあとも11月にオランダで試合があるし、大晦日の『Dynamite!!』もチャンスがあれば出ようと思ってるし。あと、一緒に探検もしなきゃいけないね（笑）。

——じゃあ、つなぎを用意しておきますので、よろしくお願いします！

サワー ラジャーです！（笑）。

【07年10月4日／都内・某ホテルにて収録】



10・3K—1MAX武道館大会ではドラゴを強烈なクロスカウンターでノックアウトし、準決勝ではクラウス相手に判定勝ちで決勝へ進出したサワー。対戦相手はブアカーオに勝利し、準決勝ではキシェンコをKOした魔裟斗。ダメージの残る魔裟斗が1ラウンドから勝負に出るも、これを冷静にかわしたサワーが2度目の世界王者に輝いた。

MMAファンにも一目瞭然 これがシュートボクシングだ!!

小松隊員に史上最大の危機！ そのとき、金沢隊長は……!?

シーザー会長のお言葉を受け、シーザージムに足を踏み入れたGK隊長と小松隊員。その言葉どおり、ジムにはセクシーなコスチュームのラウンドガールがズラリ。しかし、ガッツポーズを決める二人の前に現われたのは、SB日本ウェルター級王者の宍戸大樹だった……。



「シュートボクシングのことを知りたいなら俺が教えてやる！」と小松隊員を指さした宍戸。立ち技といってもSBではご覧のとおり、スタンディングでの関節技も認められているのだ！



「ウギャー！」と悲鳴をあげまくる小松隊員に宍戸は豪快な投げ技で追い打ち。そう、立ち技といってもSBでは投げもありなんです。その迫力にラウンドガールも「ワ〜オ！」とビックリ！



すでに涙目の小松隊員だが宍戸の攻撃は終わらない。次なる技はヒザ蹴り。小松隊員の身体が浮き上がるほどの強烈な一撃にもかかわらず、GK隊長は寝そべって眺めるのみ。ひどいよぉ！



すでにフラフラの小松隊員に情け容赦ない宍戸の右ストレートが炸裂！ 思わず小松隊員のメガネもずり落ちるほどの威力にもかかわらず、GK隊長は助けるどころか、どことなく嬉しそう。



小松隊員がグローブつきの闘魂棒（？）で攻撃される中、ラウンドガールと話しまくるGK隊長。「隊長、助けて〜」との悲痛な叫びもむなしく、闘魂棒ボディが炸裂！ SBはやっぱりスゲェ！



白い灰になりかけた小松隊員に5キロはあろうかというメディシンボールを楽しそうに落下させるラウンドガール。「ひ、ひどいよぉ〜」と言いながらも、どことなく嬉しげな小松隊員。合掌。



10.28両国大会からSBのラウンドガールを務めるのは以下の10名だ。後列右端が辻井彩ちゃん、後列中央が高橋聡美ちゃん、前列左が高橋千咲姫ちゃん、後列右から2番目が吉田裕香ちゃん、前列右が今泉奈津美ちゃん、中列右が広瀬美佳ちゃん、中列左が酒本みちちゃん。後列左の笑みちゃんは大会イメージガールとして登場、後列左から2番目の吉川舞ちゃんは昨年に引き続きラウンドガールとして登場、シーザー会長の左隣の加藤綾ちゃんは両国大会の歌姫"DIVA"として会場を盛り上げるぞ！



「みんなで一緒に記念撮影しましょう!」とのラウンドガールからの一声で、奇跡的に復活を遂げた小松隊員。シーザー会長もまじえてSBポーズでキメッ。この日は4名のラウンドガールが登場。右から順に、吉川舞ちゃん、今泉奈津美ちゃん、シーザー会長をはさみ、吉田裕香ちゃん、高橋千咲姫ちゃんだ。大会当日は彼女たちにも声援を送ろう!!



クラウスとは殴り合って喧嘩で勝ちます!!

10.28両国大会のメインはこの男!!

緒形健一

今回のプロレス探検隊、最後のターゲットはシュートボクシング界のエースにして10.28両国大会のメインイベントでアルバート・クラウスとの対戦が決定している緒形健一だ。先日のK－1 MAX武道館大会では敗れはしたもののトーナメント覇者のサワーと好勝負を展開したクラウスとの対戦を前に、緒形の意気込みを徹底調査！

GK さて、小松隊員！　今回の探検の締めくくりに、次の10・28『GROUND ZERO』両国大会のメインイベントで、アルバート・クラウスと対戦する、緒形健一選手に意気込みを聞こうと思う。

小松 隊長、一つよろしいですか！

GK 発言を許す！　なんだ？

小松 先ほど、宍戸選手に落とされて、首が痛いであります！

GK シャ～ラップ！　この金沢、泣き言なんぞに聞く耳持たん！　いくぞ！

小松 ラ、ラジャーです(涙)。

GK 緒形さん、どうもぉ！　さっそくですけど、風香のスカートの丈は長くなりましたか？

小松 た、隊長！　クラウス戦となんの関係が……？

GK 黙らんかい！　緒形さんは風香の師匠なんだぞ！

緒形 まだ短いですね。夜にあの格好は無防備ですよ(笑)。

GK ったく、変態が氾濫する世の中だっていうのに……。まあ、それはさておいて、クラウスとの対戦は望むところですか？

緒形 そうですね。ファイターなんで、打ち合えるというか、プロ的におもしろい試合ができる選手だと思うし、勝負師としても闘ってみたいなって思っていたんですよね。

GK 確かに周囲は打ち合いを期待していますよ！

緒形 そうですね。また、そういう闘いができる選手だと思うんで、楽しみにしてます。だから、今回はシーザー会長にも言ったんですよ、「好きにやらせてください」って。

小松 と、いいますと？

緒形 「"SB vs K－1"っていうのもあるかもしれないけども、男と男の喧嘩をさせてください」って。それだったら、僕も納得がいくというか、これまでへんに背負いすぎたときに、いい試合をできないことが多かったんで(笑)。

小松 う～ん、男と男の喧嘩かぁ！　男らしい言葉ですね、隊長！

GK (目をつむりながら)フフフ、まるで私の若い頃にそっくりだ。

緒形 (無視して)9月30日の後楽園大会でも言ったんですよ。「最高の試合と最高のケンカをしたい」と。それは本当にそのままですね。だから、今回はテクニカルとかフィジカルな部分じゃなくて、初心に返るじゃないですけど、最初に格闘技を始めた頃の「この野郎！」っていう気持ちを思い出して、ハートの部分を高めて試合に臨みたいですね。

GK なるほどね。いつもの練習の中で気持ちを高めて、大会当日に自分の一番どう猛な部分が出るようにってことですかね？

緒形 それが見せられれば、お客さんにも届くと思うし、プロとしてはありかなと思っています。もちろん、勝つことを前提にしてますけどね。

GK ところで、クラウス自体がK－1 MAXのチャンピオンになった頃に比べて、落ちてきているとは思いませんか？

緒形 一時期、落ちてきているって思ったんですけど、今年に入って、モチベーション的なものが上がっているように感じたんですよ。実際に6月28日のK－1 MAXでやった、(ヴァージル・)カラコダとの試合も凄く上がってきているなって感じましたからね。その後、韓国でもKO勝ちしているし、いま乗っているなって感じなんで、一番いいタイミングでいい試合ができるんじゃないかと思ってます。

GK まさに「時は来た！」ですね！

緒形 はい(笑)。破壊王イズムで、とにかくおもいっきり打ち合いますよ！

GK う～む、頼もしい！　いや、この金沢も緒形さんの勝利を確信しましたぞ！

小松 ということは隊長、今回の探検も大成功ですね？

GK も～う、完全に勝利宣言してもいいな！　勝った、俺はクラウスに勝ったんだよぉぉぉ！　(なぜかターザン調で)。

小松 んあ～。

マッハが初のSBルールで参戦！
ギルバート・アイブルも登場だ!!

Que Sera Japan presents
SHOOT BOXING BATTLE SUMMIT GROUND ZERO TOKYO 2007

—国連支援児童福祉・ガン難民救済チャリティーイベント—

東京・両国国技館　10月28日(日)
開場14:00／開始15:00

【主要対戦カード】

［メインイベント］
緒形健一(日本/シーザージム)
vs アルバート・クラウス (オランダ/Teamスーパープロ)

アンディ・サワー (オランダ/Team Souwer)
vs アンディ・オロゴン (ナイジェリア/チーム・オロゴン)

石川剛司 (日本/シーザージム)
vs 村浜武洋 (日本/大阪ファイティングファクトリー)

宍戸大樹 (日本/シーザージム)
vs ビックベン・ケーサージム (タイ/ケーサージム)

桜井"マッハ"速人 (日本/マッハ道場)
vs X

ギルバート・アイブル (オランダ/ボスジム)
vs X

■お問い合わせ／シュートボクシング協会 TEL.03-3843-1212



金沢"GK"克彦隊長の探検レポート

うるさいんだよ！　小松隊員は。プロレス業界ナンバーワンの"SB通"を自負する私が新ラウンドガールたちを真剣に取材している最中、ギャーギャー悲鳴を上げて邪魔するしぃ～。せっかくMAMIサン(武富士ダンサーズ)に続くお気に入り、高橋千咲姫ちゃんと話が弾んできたっつうのによぉ！(怒)。だから、侍は立って闘うんだって。何度言わせるんだ。シーザー会長、緒形選手、私は"男"の喧嘩を見せてもらいに両国へ行きますぜぇ!!



小松伸太郎隊員の探検レポート

シーザー会長のご名刺には驚いた。なんでも名前を興福寺の偉いお坊さまに書いてもらったそうで、しかも裏面には興福寺に展示されてある阿修羅像まで印刷されてあるのだ。これをニヤリとしながら受け取ったのが、偶然にも"阿修羅チョロ"の別名を持つ『kamipro』有名編集者M氏（notワカパイとのハメ撮り映像を売り込んだ有名格闘家M）だった。先日はミノワマンの打球を脇腹に受けたりと、その引きの強さにはいつも驚かされます。

PANCRASE
HYBRID WRESTLING

いまだ正体不明。

ホントかウソかわからない「DJ」のリングネーム。強気か弱気か不明なインタビュー。おもしろいのかハズしてるのか微妙なパフォーマンス。だけど、強いのか弱いのかハッキリしない時期は過ぎた。DJ.taikiを殴って倒す。試合は明快だ。



PANCRASE 2007 RISING TOUR

11.28(水)後楽園ホール

NOW ON SALE　OPEN／18:00　START／18:30

SS･¥12,000　A･¥8,000　B･¥6,500　C･¥5,000　D･¥4,000
※当日券は一律500円増しとなります。

ミドル級キング・オブ・パンクラス タイトルマッチ
(フリー／第6代王者) **中西裕一** [3R] **竹内出** (SKアブソリュート／1位)

フェザー級戦
(フリー／1位) **DJ.taiki** [3R] **マルロン・サンドロ** (ノヴァ・ウニオン／初参戦)

ライト級戦
(TEAM坂口道場／4位) **松田恵理也** [3R] **ジョゼ・アルド** (ノヴァ・ウニオン／bodog)

ヘビー級戦
(U-FILE CAMP登戸／2位) **水野竜也** [2R] **河野真幸** (NEW JAPAN FACTORY)

ライト級戦
(KILLER BEE) **小路伸亮** [2R] **高橋渉** (チーム桜畑／初参戦)

ウェルター級戦
(スタンド) **梁正基** [2R] **オリバー・ジョーンズ** (フリー／初参戦)

●マルロン・サンドロ(Marlon Sandro)：1977年3月8日生　身長172cm　ブラジル出身
修斗米大陸ランキング1位　戦績：9戦9勝(2KO)

12.22(土)ディファ有明(ism主催興行)

NOW ON SALE　OPEN／15:00　START／16:00

SS･¥12,000　A･¥8,000　B･¥6,000　C･¥4,500 ※当日券は一律500円増しとなります。

ライト級戦
(パンクラスism／3位) **伊藤崇文** [3R] **昇侍** (K.I.B.A.)

ライト級戦
(骨法烏合会) **矢野卓見** [2R] **五十里祐一** (パンクラスP'sLAB東京)

2008年のツアータイトル募集!

パンクラスでは、来年、2008年のツアータイトルを広く皆さまより募集します。

2008年のツアータイトルと、その簡単な説明をお書き添えの上、下記のいずれかの方法にてご応募下さい。
例) RISING:今後更なる上昇・成長を目指す、という意味。

応募方法
❶ FAX:03-5792-7080
❷ ハガキ:〒106-0047 東京都港区南麻布4-2-25 株式会社ワールドパンクラスクリエイト
❸ Eメール:info@pancrase.co.jp
※お一人さま何案でも、また、言語は問いません。
※ご応募いただいたタイトル案が採用された方には、そのツアータイトルの入ったTシャツと、1万円分のパンクラスオリジナルグッズをプレゼント致します。
※お電話でのご応募はご遠慮下さい。
※FAX・ハガキの宛名、Eメールのタイトルには、「2008年ツアータイトル係」と明記して下さい。また、お名前、ご住所、お電話番号も合わせて明記して下さい。
※ご応募の締め切りは12月12日(水)消印有効とさせていただきます。

パンクラス アマチュアジム「ピーズ・ラボ」東京／横浜／大阪で会員募集中! お問い合わせ:(03)5792-7079

●主催:(株)ワールドパンクラスクリエイト ●後援:インデックス、スカイ・A、ドン・キホーテ、STC GROUP ●お問い合せ:パンクラス　03-5792-0815 http://www.pancrase.co.jp/

パンクラス、テレビ観戦は スカイ・A sports+で! 全大会をどこよりも早く!

New **07.10.14 ディファ有明大会**

11月1日(木)18:00～20:00／11月13日(火)24:20～26:20(再)

11月16日(金)23:50～25:50 ▶ 03.06.07 ディファ有明大会
11月23日(金)24:50～26:50 ▶ 03.06.22 梅田ステラホール大会
11月30日(金)23:50～25:50 ▶ 03.07.27 後楽園ホール大会(昼)

※都合により、放送日時は変更となる場合があります。

スカイ・A sports+をご覧いただくには

お近くのケーブルテレビ

e2 byスカパー!

スカパー! スカパー! えらべる15
「よくばりパック」(3500円)から15ch選べる「えらべる15」(2800円)がお得です!

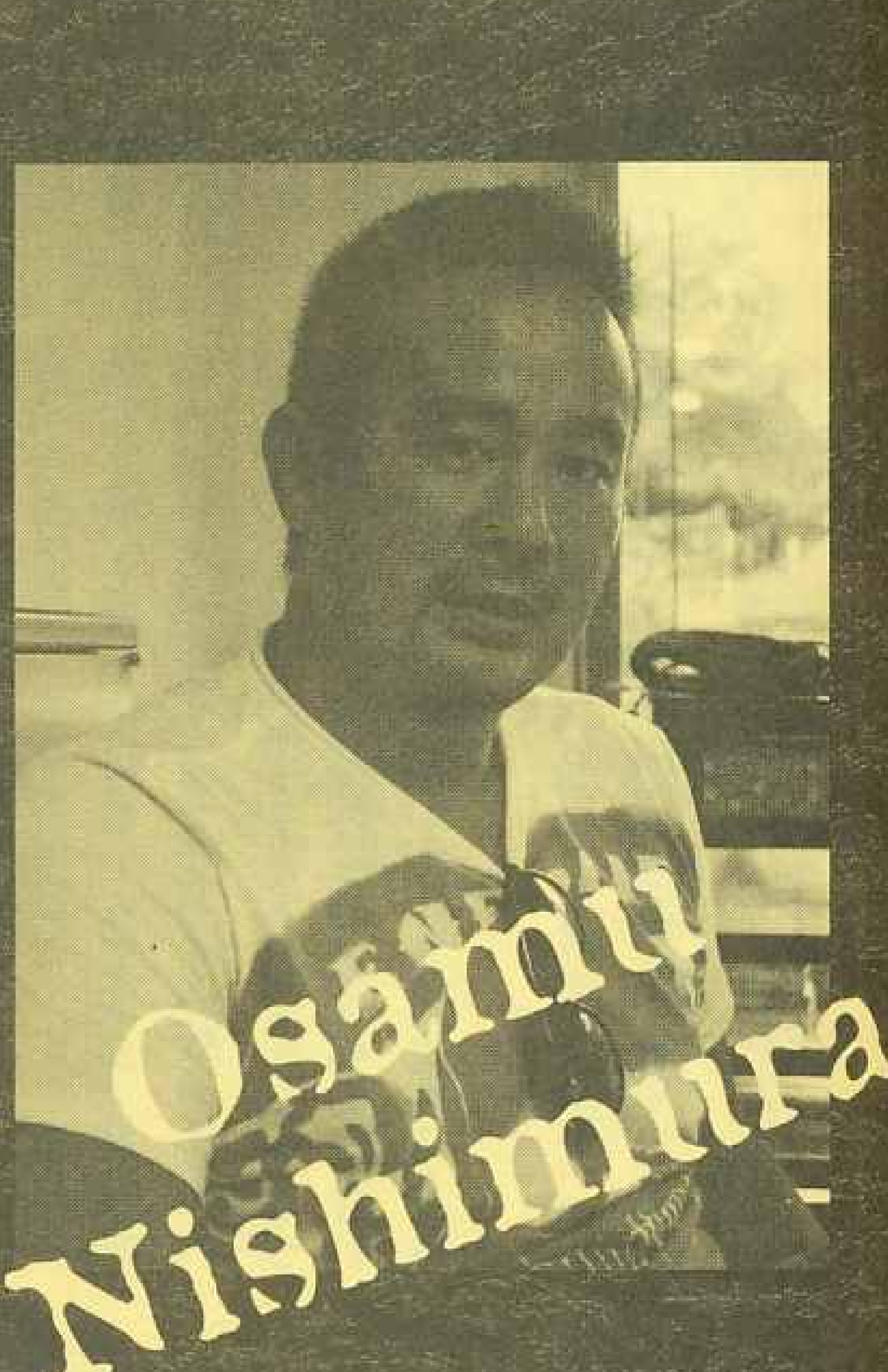
A+ sky・A sports+
最新情報は www.sky-a.co.jp



“神様”
カール・ゴッチ
追悼特集第3弾!!

“晩年”のゴッチを最も知る男が語った
“神様”との最期の日々……

西村 修



「ビジネスの話はゼロ!!　交流できただけで“財産”です」

晩年のゴッチさんを最も知る日本人、それが西村修だ。日本とフロリダを往復する西村は01年から約6年間、月に一度はゴッチさんを訪問し、練習したり、レストランで食事を楽しんだりする親しい友人だった。今回は、ゴッチさんとの最期の日々から、散骨の真相、神様の本音までを告白!

聞き手／真下義之　本文構成／山本宗忠（THE PEHLWANS）　写真提供／西村修

意識がなくなって、延命装置を外したあと、12時間も生き続けたそうです

――今回は晩年のゴッチさんと最も親しかった日本人レスラーである、西村さんにお話をうかがいに来ました。

西村　よろしくお願いします。ゴッチさんとの思い出はたくさんありますから。

――さっそくですが西村さんは亡くなる前から、ゴッチさんの体調がおかしいとは聞いていたんですか？

西村　そういうことはまったく耳にしてなかったです。今年の6月にお会いしたときも、変わりはなかったですし。

――では、西村さんにとっても突然の出来事だったんですね。

西村　本当に突然！　ゴッチさんと私は一週間に一回くらいの割合で、電話で連絡をとっていたんです。「一週間に一回は『セイ、ハロー』だけでもいいから連絡してこい」という約束をゴッチさんとしてましたから。だけど、その連絡が7月からとれなくなった。ゴッチさんが外出するのは庭のベンチに葉巻を吸いに行くか、血液検査で病院に行くか、買い物に行くかくらい。基本的には家にいる人ですから。

――連絡がとれずに「おかしい」とは思っていた？

西村　でも、「たまたま外に出ているだけだろう」と思っていたから、病気で入院してるなんて思いもしませんでした。

――最後に会ったときもお元気だったわけですもんね。

西村　もちろん。レストランでバカバカ食べて飲んでいましたし、あの歳で私より食べて飲もうとしたりするんですから。もう、絶対にギブアップしない！

――そんなに負けず嫌いでしたか（笑）。西村さんは逝去の報をどういうかたちで聞かれましたか？

西村　私の場合、無我（ワールド・プロレスリング）の大阪大会の試合前にたまたま携帯を見たら、もの凄い数のマスコミからの着信履歴があったんです。留守電を聞いたら、どれも「ゴッチさんが亡くなったのは本当ですか!?」という事実確認だった。そこで、一週間くらいタンパの自宅の留守電を聞いてなかったことに気づいて確認したら、その留守電にゴッチさんの面倒をみていたジョー・マレンコ（元プロレスラー）から「ゴッチさんが入院したから、大至急連絡をくれ！」と入ってて。もっと早く聞けばよかったんですけど……（とうつむいて）。

――その大阪大会では急遽、ゴッチさんの追悼セレモニーもやられてます。

西村　10カウントゴングのあと、みんなで記念撮影をしたんですけど、涙が込み上げてきて、私だけ途中で控室に戻りました。まぁ、一年に一回とかの付き合いだったら別なんでしょうけど、私は晩年の6年間、一週間に一回は必ずゴッチさんに連絡をとっていましたから……。

――ゴッチさんの死因は大動脈瘤（だいどうみゃくりゅう、大動脈の一部が〝こぶ〟のように膨らんでしまう病気）破壊ということでしたけど。

西村　大動脈瘤は、胸部か腹部に起こるんですが、ゴッチさんは腹部で破裂しちゃったんです。ただ日本のお医者さんによると大動脈瘤は、2、3日で膨張して破裂することはないらしいんです。

――長い時間をかけて膨張していく。

西村　医者の見解では「おそらく本人は（大動脈瘤ということを）知らなかったんだろう」と。

――ゴッチさんにとっても突然のことだったんですね。

西村　もの凄くガマン強い人ですから、ゴッチさんはただの腰痛とか背中の痛みだと思ってたんでしょう。破裂してもずっと我慢していたみたいです。しかも容態が悪くなったときにかぎって、週末でゴッチさんの主治医と連絡がとれなかったんです。

――タイミングも悪かったんですね。

西村　そのあと10日間くらい入院して亡くなったわけですけど、手術したあとにガクッと体調が落ちて、「カール!!」って周りが励まして目を開けるような状態で。最後は呼んでもわからなくなっちゃった……。

――意識がなくなってしまったんですね。

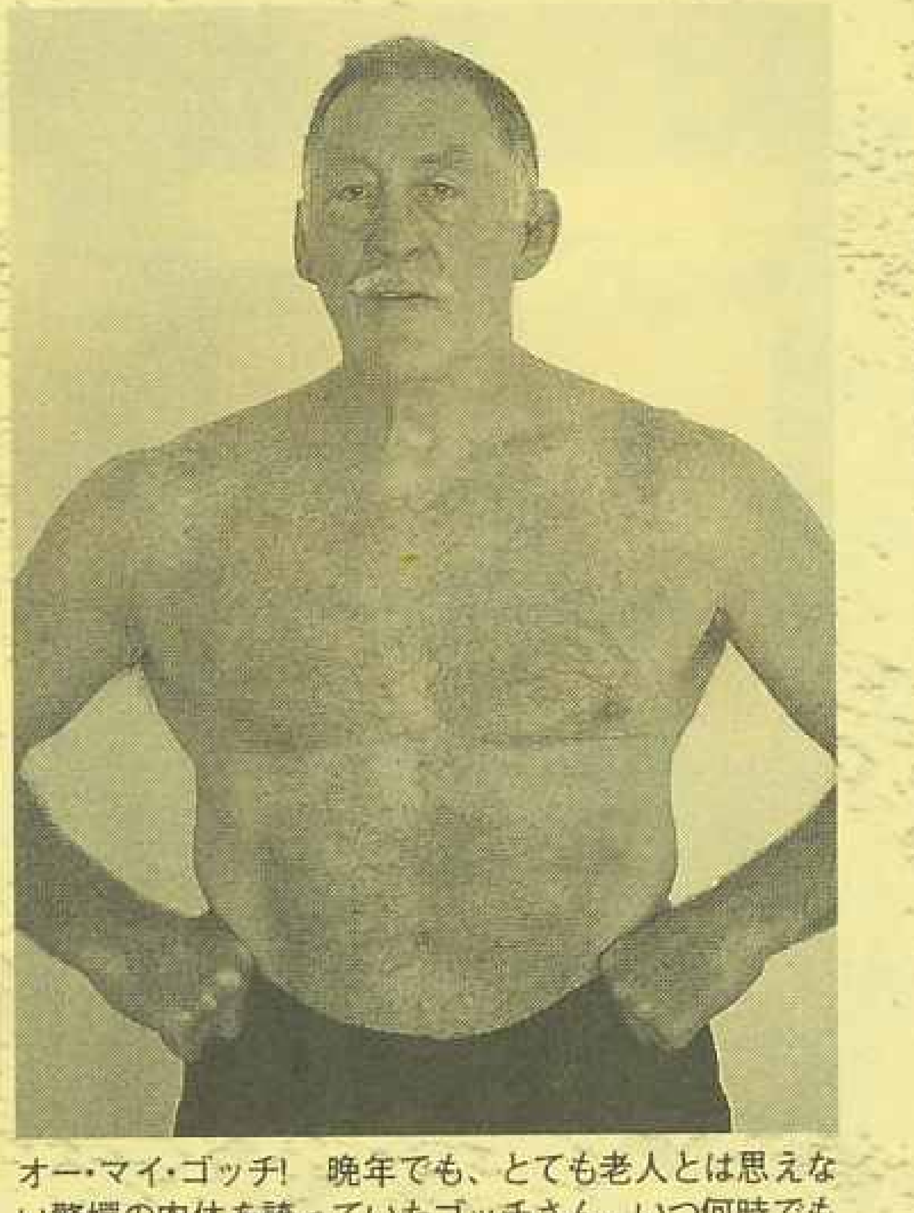
西村　医者は、「延命処置で命を保つことはできる」と言ったそうなんですけど。「ゴッチさんはそれを望んでいないだろう」ということで医者と、ジョー・マレンコと、ゴッチさんと親しかったテリーという人の3人で、『（管や点滴を）外そう』と決めたんです。でも外してからも12時間も生き続けたそうですから。

――12時間も！

西村　そんなおじいさん、どこにいます？　しかも大動脈瘤が破裂しても、何日間もガマンできる人なんて。

――とても82歳の老人とは思えないですね。ところで西村さんが最初にゴッチさんにお会いしたのはいつ頃なんですか？

西村　最初に会ったのは、94年3月。ゴッチさんの親友だったラリー・マレンコのお葬式のときに藤波さんと一緒にゴッチさんの家に行ったんですよ。まだ引っ越す前の邸宅でゴッチさんの奥さんもお元気でした。ただ、当時、私は（ヒロ・）マツダさん派だったんですよ。



オー・マイ・ゴッチ！　晩年でも、とても老人とは思えない驚愕の肉体を誇っていたゴッチさん。いつ何時でもコンディショントレーニングを欠かすことはなかっただけに、入院後も信じられない体力で病魔と闘い続けた。

――マツダさん派？　確かにマツダさんは西村さんの海外修業時代の師匠ですけど。

西村　じつはフロリダってレスラー同士の派閥が凄いんです。マツダ派とマレンコ派はあまりいい関係じゃなかったから、同じフロリダに住んでいても、ゴッチさんとはあまり関係がなかったです。親しくなったのは、99年にマツダさんが亡くなられたあとです。じつは01年の夏にテレビ朝日のスペシャル番組で、木戸（修）さんがゴッチさんを訪ねるという企画があったんですけど、それを私がコーディネートしたんです。

――それがきっかけだったんですか。

西村　ええ。それからフロリダに帰るたびに親しくさせてもらっていました。私がフロリダに帰るのは月に一回くらいですけど、そのたびにゴッチさんと食事してましたから。

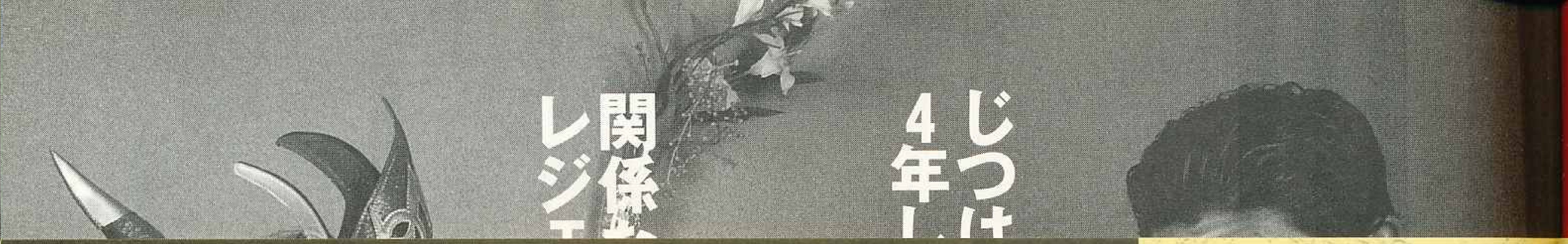
――ゴッチさんは、食べ物では何がお好みなんですか？

西村　肉も嫌いではないんですが、基本的に肉よりも魚です。日本食も大好きですし、ヨーロッパ人ですからパンとワインとサラダの食事も好き。基本的に嫌いなものはないんですけど、唯一嫌いだったのはマッシュポテト！

――神様はマッシュポテトが苦手（笑）。

西村　「吐いた汚物みたいで絶対にイヤだ！」って（笑）。

――想像力が豊かすぎますよ（笑）。

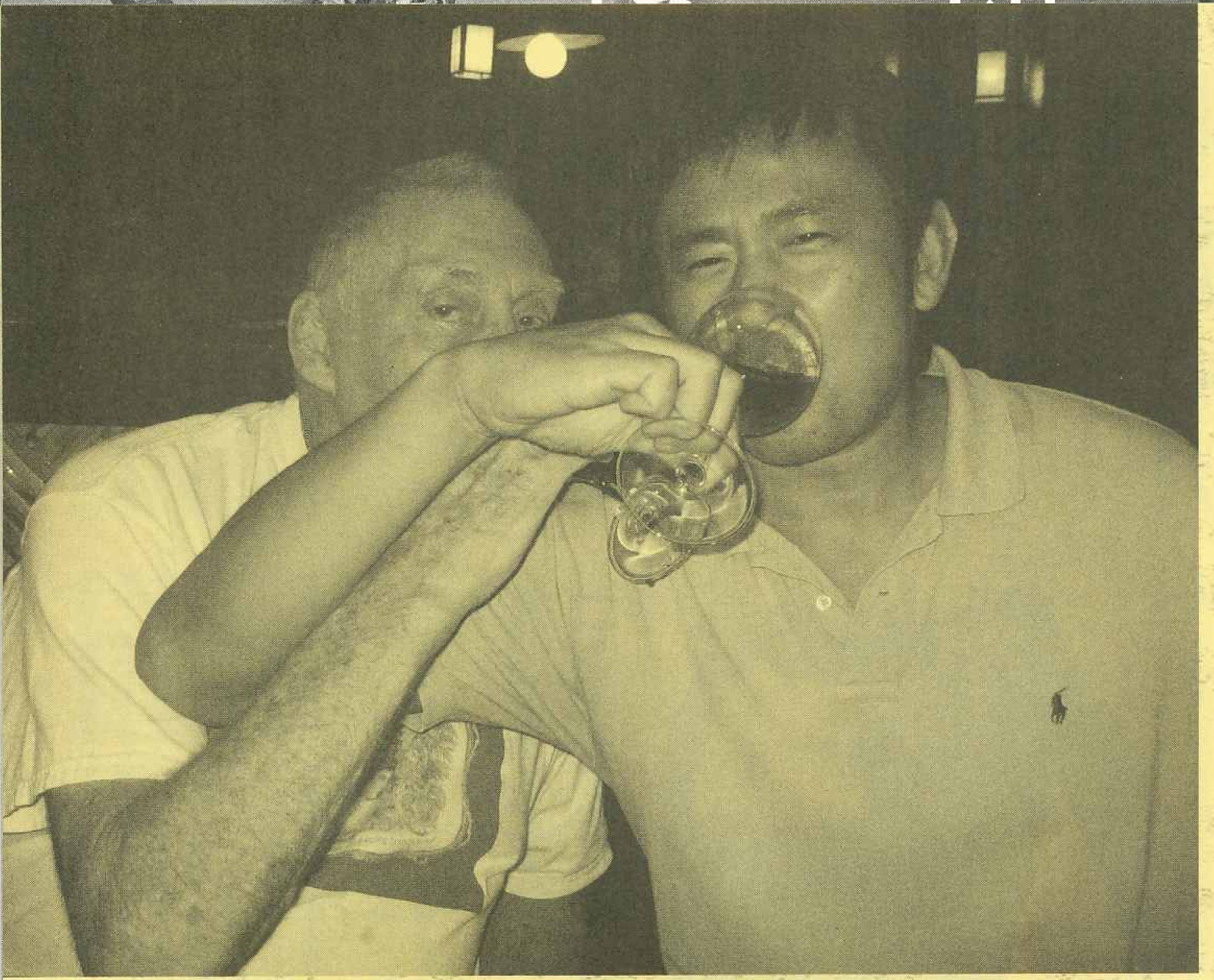


西村　一番好きだったのはウナギ。納豆も梅干しも、玄米とか麦ごはん。それに刺身とか焼魚、煮魚まで、なんでも食べましたから。

――なるほど。ゴッチさんとは練習もされていたということですが、晩年の練習はどんな感じだったんでしょう？

西村　コンディショントレーニングや、技の指導をしてもらいましたね。足のつけ根の手術をしていたので歩くのは遅いんですけど、練習するたびにグイグイといろんな部分を極められたり。レストランのテーブルでもレスラーの心構えや、歴史を教えていただきました。

――いわゆる"神様の説法"ですね。ただゴッチさんが最後に住んでいたアパートは、昔の邸宅に比べるとスペースがあるわけではないですね？



どうだい、この仲むつまじさ！　西村とゴッチさんがいかに親しかったかが瞬時に理解できるこの貴重な写真は西村本人からの提供によるもの。師弟関係にあった二人だが、月に一回は焼肉屋やイタリアン、ワインバーや寿司屋など、さまざまな場所で会食を重ねる歳の離れた親しき"友人"でもあったのだ。

娘のジェニンさんに"同居を拒否"された ゴッチさんは親子の縁を切ってしまった

西村　ホント〜に小さなところです。日本でいう1DKくらい。前に住んでいた邸宅は奥さんが亡くなられていろんな思い出が詰まってるし、「そんなに広い家はいらない！」と引き払ったんです。で、ゴッチさんはそのとき娘のジェニンさんに同居の相談をしたんです。「レント（家賃）を払うから、私に一部屋譲ってくれないか？」と。

――娘のジェニンさんは、（旧ＵＷＦのレフエリーであり、第二次ＵＷＦや藤原組のブッカーでもあった故・）ミスター空中さんの奥さんだった人ですよね？

西村　そうです。ところがジェニンは「ＮＯ！」と言ったんですよ。

――父親との同居を拒否!!

西村　それからは一切、親子断絶。ゴッチさんはパッタリと親子の縁を切っちゃったんです。完全にね。

――どうして、縁を切るまでに至ったのでしょう？

西村　要はジェニンは完全にアメリカ人だから考え方がまったく合わなかったんです。でもゴッチさんはガチガチのドイツ生まれだから、基本的にアメリカ人のことが大嫌いなんです。クレイジーで怠け者で礼儀もないから。

――まさに正反対ですね。

西村　典型的なドイツの頑固ジジイですから（笑）。ゴッチさんも最初は娘に厳しいしつけをしていたみたいだけど、ジェニンは成長過程でアメリカ人の友だちと過ごすことで、感性がどんどんアメリカンになっていくわけですよ。

――普通はそうなりますよね。

西村　でもゴッチさんはそれをイヤがっていたんです。それで一度ゴッチさんは「ドイツの教育を受けさせなくてはいけない」と危機感を持って、無理矢理ジェニンをドイツの親戚の家に送ったこともあったそうです。

――いきなり異文化の中に放り込んだんですか（笑）。

西村　その頃、たまたまヒロ・マツダさんとマツダさんの奥さんが試合でヨーロッパにいるとき、ジェニンのところに立ち寄ったら、「ジェニンは毎日泣きながら生活していて、アンハッピーな様子だった」とマツダさんの奥さんから聞いたこともあります。

――娘を持つ人なら、ゴッチさんの気持ちもわかるとは思うんですけど、ちょっと強引ですねぇ。

西村　（真剣な表情で）ただね。娘だったからいいですけど、もし息子だったら……。ゴッチさんに歯向かったりすれば殺されてると思いますよ！（キッパリ）。

――凄いなぁ。しかし自分の子どもにそれぐらい厳しかったら、弟子にも厳しかったんでしょうね。

西村　（即座に）厳しい！　時間にも練習にも厳しいです。とにかくゴッチさんは怠け者が大嫌い。

――西村さんはゴッチさんに怒られたことはあるんですか？

西村　だから、礼儀にはホントに気をつけていました。待ち合わせだって1分でさえ遅刻は許されませんしウソも大嫌い。とくにできもしないのに口だけ調子のいい人間っているじゃないですか？

――つまりゴッチさんを利用しようとする人間とか？

西村　そう！　だから初対面の人は「なんで俺に近寄ってくるんだ？」って警戒心が強かった。私だって最初は例外じゃなかっ

PANC… WRESTLING

い…
正…

ホントかウ…
リングネー…
インタビュ…
してるのか…
だけど、強…
しない時期…
殴って倒す…

たですから。

――そこで西村さんが親しくなれた要因はなんだったんでしょう？

西村　う〜ん……。結局、言ってみれば、ゴッチさんは新日本プロレスの核を作った張本人じゃないですか？

――日本のストロングスタイルの源流となった人ですね。

西村　でも昭和40年代後半から、新日本がだんだん色モノに目移りしたり、興行会社として大規模化していく中、ゴッチイズムが失なわれていった。ゴッチさんは新日本の方向性に納得がいかなかったんです。だからもの凄く被害妄想的な部分もありましたよ。「俺は（新日本に）利用されるだけ、利用されたんだ」とも言ってましたから。

――同じように、ゴッチイズムを継承したはずのUWF系の方も次々とゴッチさんの前に現われては離れて、みたいな感じになりましたよね。

西村　そう！　みんなそうでしょ？　もちろん、個人的にゴッチさんが認めていた人はいますけど……。だから、私はゴッチさんと親しくなるときに決して大きいことは言わず、できること以外は口にしなかった。「長いお付き合いをしたい」という思いだけ。もうビジネスの話もゼロ！

――本当にピュアな部分でお付き合いされてきた、と。

西村　ええ。僕がゴッチさんに何か貢献したとしたら、雑誌の取材や『週刊プロレス』のツアーやテレビ番組のセッティングをしたくらいでしょう。

――しかし、お話をうかがっていると、ゴッチさんってどこに地雷があるかわからないですね（笑）。

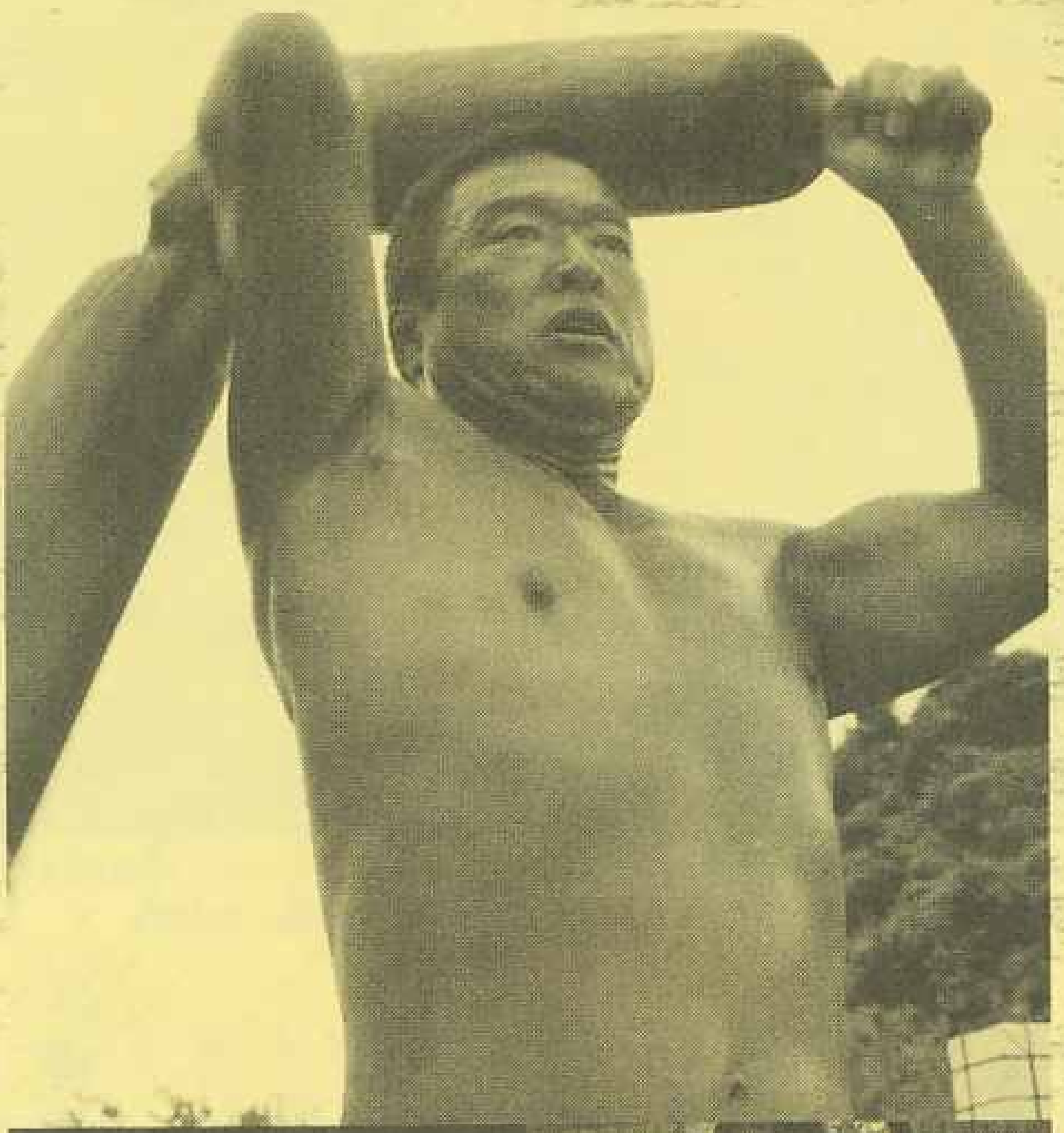
西村　ええ。ゴッチさんはクリスマスカードとか手紙も大嫌いなんですよ。ゴッチさんの中では「手紙は（自宅に）来ることでもなく、顔を出すでもなく、1分の電話ですらない。一方的に言葉を送りつけるだけ。そんな無責任なことはあるか？」って（苦笑）。ゴッチさんの機嫌の悪いときは、手紙を送り返しちゃうときもあるんですから。

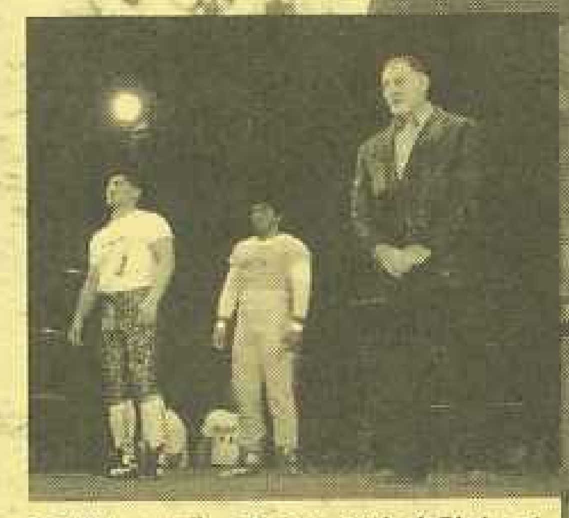
――でもこの前、藤原（喜明）さんにお会いしたら、ゴッチさんからのクリスマスカードがたくさんありましたけど……。

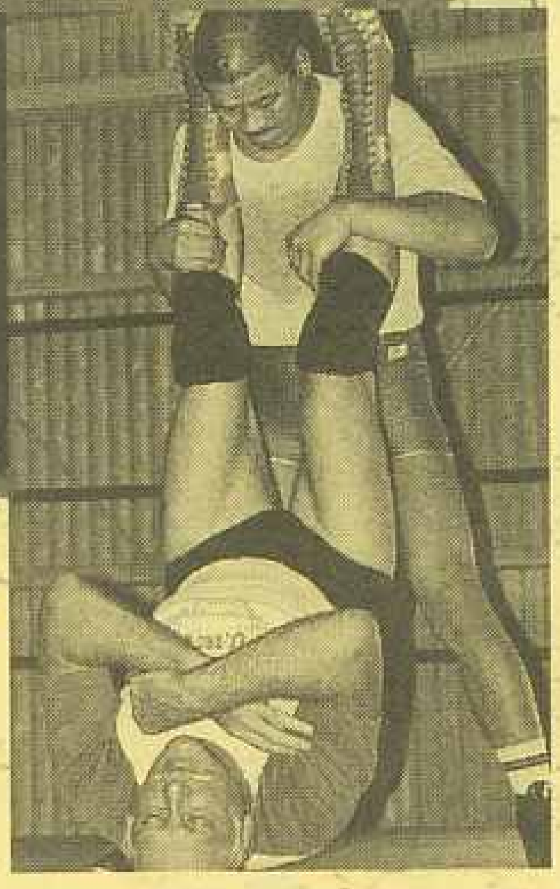
西村　いやいや、藤原さんと鈴木みのるさんは特別です！

――ああ、その二人は別格なんですね（笑）。

藤原さん、木戸さん、鈴木さんの3人はゴッチさんにとって〝特別な存在〟でした







気難しいゴッチさんが心を許していた〝特別な3人〟が木戸修、藤原喜明、鈴木みのる。木戸と藤原は本誌前号（No.115）でもゴッチさんへの想いを告白しているが、鈴木はこの件に関して一切のコメントを控えていることからも、そのショックの大きさがうかがえる。

西村　とくに藤原さん！　一番ほめていたのは藤原さんでしたね。あっ、もちろん木戸（修）さんも。

――神様の〝マイ・サン〟を忘れてはいけません。

西村　木戸さんを含めたその3人は、ゴッチさんと交流があったし、特別な存在だったみたいです。そういえばテレビ朝日の番組で木戸さんのご家族をゴッチさんのところに連れていったとき、木戸さんの奥さんが大感激していたんです。「西村さん、私やっとわかったの！　主人が整理整頓や、時間にうるさくて、食事にもうるさくて、細かい性格の理由がわかった。全部、ゴッチさんの影響だったのね！」って（笑）。

――木戸さんは骨の髄まで〝ゴッチイズム〟を継承していた、と（笑）。取材というと『GONKAKU』誌でゴッチさんとジョシュ・バーネットとの対談がありましたけど、あれも西村さんがセッティングされたんですか？

西村　私は同席しなかったんですが、私からゴッチさんに連絡はしたんですよ。「今度、こういう人が来ますから」と。

――ゴッチさんは、ジョシュのことをわかっていたんですか？

西村　あまりわかってなかったでしょうね（笑）。それに、その取材のあとすぐにゴッチさんに会ったら……あまりいいことを言っていなかったんですよ（言いづらそうに）。

――ええっ!?　どういうことですか？

西村　まず「アイツは、間違いなくウエートトレーニングをやっているだろう！」ってところから始まって、「ちょっとエクササイズを試させてみたら、すぐに息が上がりやがって！」とか。

――ハハハハ！　神様がジョシュにダメ出し（笑）。

西村　ええ。それにジョシュって自慢話が好きなところがあるじゃないですか？　でもゴッチさんの前で自慢話を始めたら、お話にならない！

――やっぱりゴッチさんに自慢話はNGなんですね（笑）。

西村　だから、雑誌の編集者さんにはさんざん言っておいたんですよ、「自分から会話をコントロールしようとしてはダメです。ゴッチさんに任せなさい。一度ヘソを曲げたら大変なことになります！」って。でも、案の定、ジョシュはベラベラと自分の話を始めちゃったみたいで（笑）。そういえば昔、私がハルク・ホーガンファミリーのブライアン・ブレアーとの対談をセッティングしたこともあったんです。

――ブライアン・ブレアーといえば、一時期はゴールドジムのオーナーもしていたマッチョ系のレスラーですね。

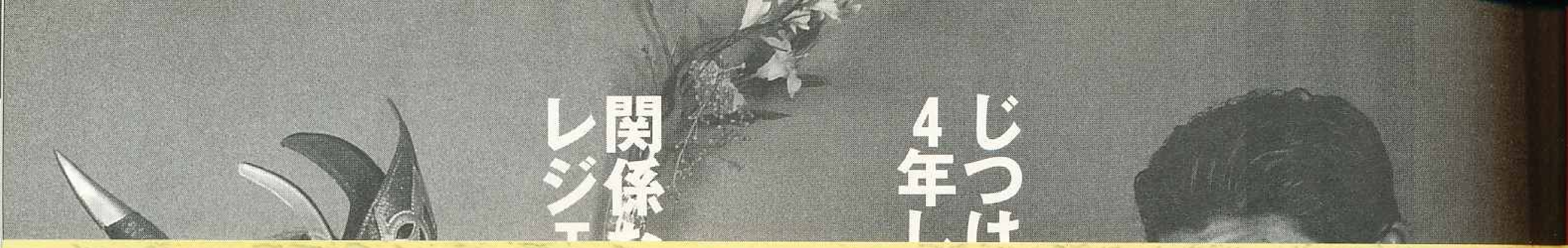
西村　ええ。でもゴールドジムのオーナーと天下のカール・ゴッチが話なんか合うわけないでしょ？　片や自然食指向。片やプロテイン&サプリメントにどっぷりなんですからね。

――完全に水と油（笑）。どうしてそんな対談が実現したんですか？

西村　ブライアン・ブレアーは私が海外修行中にお世話になった恩人なんですよ。で、ブライアンからゴッチさんに「会いたい」と言ってきたんです。でも実際に会わせたら、最後は口ゲンカになっちゃって大変！　ゴッチさんも「二度と会いたくない」って言っていました。

――まあ、そうでしょうね（笑）。

Osamu Nishimura



西村　プロレスラーで友人になれたのは、息子のように接していたジョー・マレンコやジャック・ブリスコくらいですね。基本的にはほとんどのレスラーや関係者と仲が悪いから、友だちが全然いない。自分でもわかっていたみたいで、よく「もし私が神で神が人間を作ったのだったら、こんな頑固で、こんな偏屈で、こんなに気が短い人間は作らない！」って言ってましたから。

——そんな自覚もあったんですか（笑）。本当に人付き合いは得意じゃなかったんですね。

西村　そうですね。……ただ、話はズレますけど、そんなゴッチさんが「フランク・シナトラと飲んだことがある」なんて話をしてくれたこともありましたね。

——あの『マイ・ウェイ』の大スター、フランク・シナトラとゴッチさんが！

西村　現役時代、ニューヨークでの試合の帰りにブロンクスのバーに行って、一人でワインを飲みながら葉巻を吸っていたらしいんです。たまたまそのとき同じバーにいたレスラーのビリー・グラハムが酔っぱらってチンピラとケンカをし始めて、騒ぎだしたらしいんです。

——ハルク・ホーガンタイプの筋肉レスラーの元祖と言われる〝スーパースター〟ビリー・グラハムとチンピラがケンカですか？

西村　ええ。そしたらゴッチさんは「いい気分なのにジャマしやがって！」とグラハムの胸ぐらをつかんで、ブン殴って外に放り出したらしいんです。で、その様子をコーナーの奥で見ていたのがフランク・シナトラとディーン・マーチンだった、と。

——往年の名シンガー、ディーン・マーチンまで！

西村　そこでゴッチさんはシナトラの席に呼ばれて、同席して飲んだみたいですけど、ゴッチさんの行動に感心したシナトラから「よくぞやってくださいました。お礼に今晩はあなたの好きな女性、好きなお酒、すべて持っていってください！」と言われたら

しいんです。

——凄い！　じゃあ、その晩はさすがの〝堅物〟ゴッチさんも夢のような一夜を過ごしたんですか？

西村　いや、ゴッチさんは結婚前に彼女はいなかったし、浮気も一回もしたことなかったみたいで（笑）。奥さんが最初で最後の女性らしいですから。

——やっぱり奥さん一筋でしたか。

西村「あれほどいい女はいない！」ってよく言っていました。とくに料理の腕は「パーフェクト！」だと。誰からも評判がよかったんですよ。

——確かにゴッチ邸でトレーニングをした人はみんな「奥さんの食事はうまかった」って話をしますね。

西村　ええ。奥さんが生きているときはほとんど外食をしなかったくらいですから。でも奥さんが亡くなったあとも、無駄遣いやゼイタクはまったくしなかったですね。医療費と最低限の食事代、あとアパート代くらいですかね。

——まさに質素倹約という感じで。

西村　それから、じつは無我（ワールド・プロレスリング）からも生活に必要な金額を支給していましたから。

——ゴッチさんは無我の名誉顧問でしたから、その顧問料というかたちで？

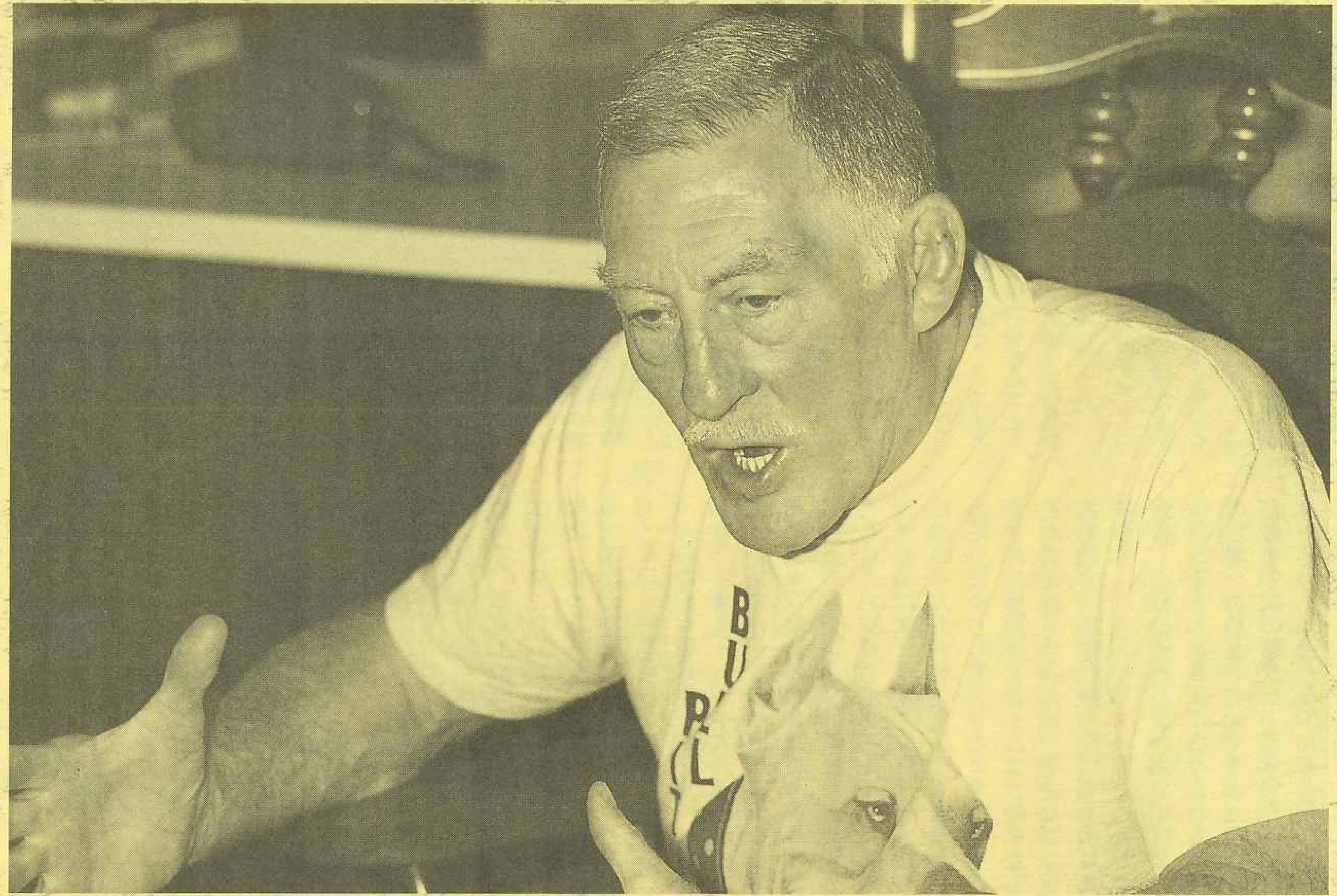
西村　そう。正しい進路をアドバイスしてもらうためのご意見番としてね。

——ホントはそういうことをやらなければいけない団体がほかにもあると思うんですけども……。

西村　ええ。でも、結局はどこもやってなかったでしょう？　ただゴッチさんもよく言っていたんですけど、経験や歴史は自分が体験せずして身につくものではないから、我々はキャリアを積んだ方や年長者の話をよく聞かなくてはいけないんです。

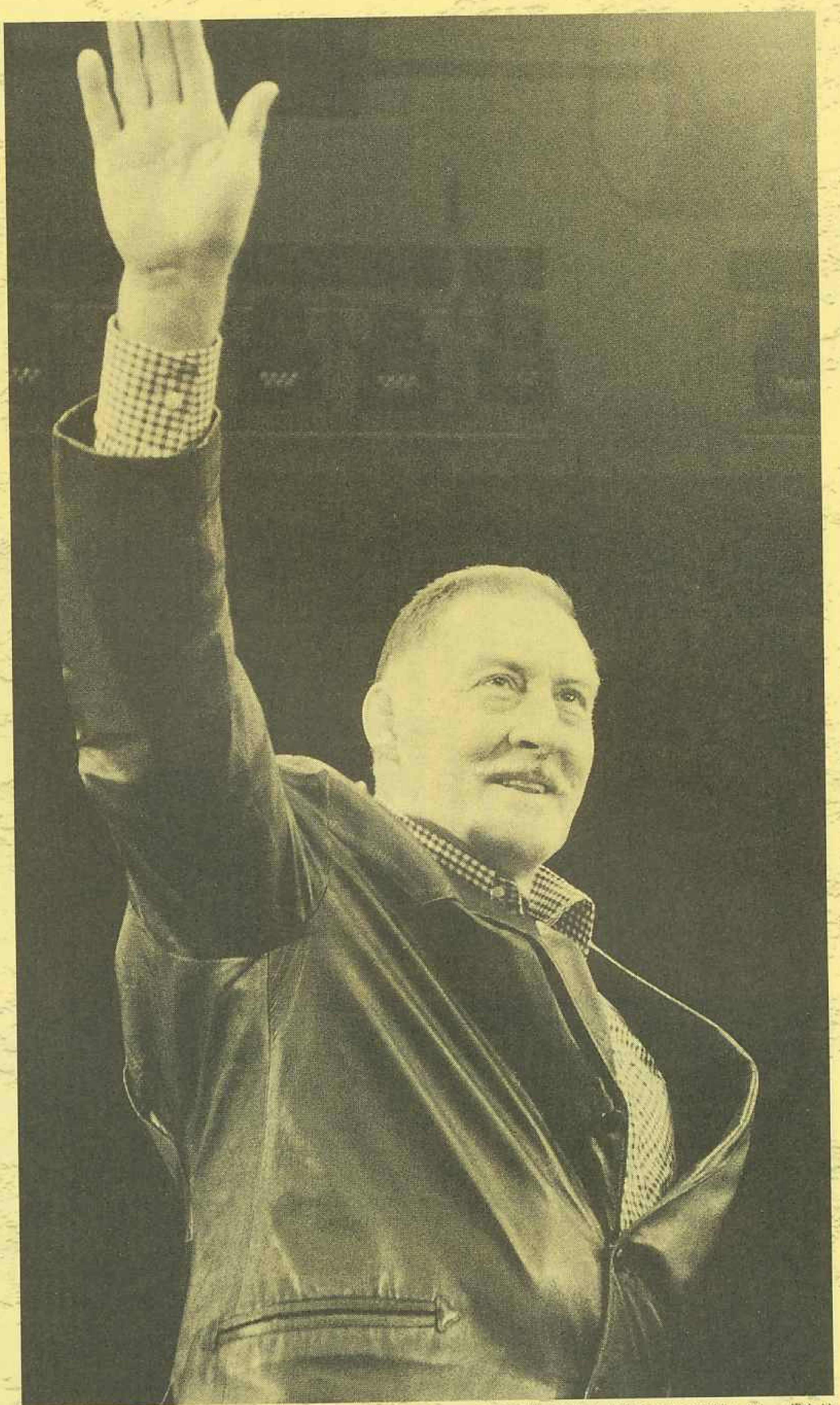
——そのゴッチさんは91年に藤原組の旗揚げ時に来日して以降、日本にはいらっしゃ

ジョシュと対談したゴッチさんは、あまりいいことは言ってませんでしたね



本誌No.3におけるフロリダ・ゴッチ邸での取材では、なんと延々8時間のロングトークを展開するなど、赤ワインと同じくらいおしゃべりも大好きだったゴッチさん。やはり、神様のありがたい説法は聞き役に徹するべき！　なのだが、同じくおしゃべり好きのジョシュには無理な相談だったのか？

木戸さんの引退式に、新日本は破格の条件でゴッチさんを呼ぼうとしてました



"神様"最後の来日となったのが91年3月の藤原組旗揚げ戦。この旗揚げ戦ではなんと選手による挨拶はなし、代わりに"最高顧問"ゴッチさんが英語で挨拶を務めるなど、"ゴッチイズム"が全面に出た大会だった。

ってないですよね。

西村　じつは木戸さんの引退式のとき（01年11月2日、新日本プロレス、横浜文化体育館大会）にゴッチさんを呼ぼうとしたんです。新日本からは、「どんなかたちでもいいから呼んでくれ！　ファーストクラスだろうとなんだろうとかまわない」という破格の条件が出て。

——そこで西村さんに指令が下ったわけですね。

西村　ええ。だから私も「世界一周のついでに日本まで連れてこようかな？」とかいろいろ考えたんです。

——世界一周！

西村　晩年のゴッチさんは、かつて修行したイギリスのビリー・ライレージムとか「行きたいところが何カ所かある」と言っていたので、「そういうところをグルッと回って日本に行きましょう」と誘ったり。ゴッチさんの体調を気遣って、「長時間のフライトが大変なら何カ所か経由しながら、ゆっくり日本に行きましょう」とかね。

——あの手、この手で尽力された、と。

西村　それでも最終的には「NO!」。ダメでしたね。……じつはゴッチさんは足が衰えてきて、衰えた姿を見せるのがイヤだったんですよ。そんな姿を日本のファンに見せることはプライドが許さなかったんです。

——体調云々ではなく、いまの姿を見せるのがイヤだった、と。

西村　ファンをガッカリさせるのがイヤだったんでしょう。その代わり、と言ってはなんですけど、いろんな人をゴッチさんのところに連れていったりしたんです。

——そうやってゴッチさんと日常的に親しくされていた人は、西村さんのほかに何人かいらっしゃったんですか？

西村　最期を看とったジョー・マレンコにテリー。それにトムという人がいるんですけど、彼と私を含めて4人くらい。

——晩年のゴッチさんを知る"四銃士"ですね。

西村　私は一ヵ月に一、二回ですけど、一週間に一回掃除に行く人がいたり、買い物に行く人がいたり。とくにジョーはちっちゃな頃からの付き合いですから。

——ジョー・マレンコは家族ぐるみの付き合いだったようですね。

西村　昔は一つの家に一階にゴッチさんが住んで、二階にラリー・マレンコの家族が同居していたそうなんです。ゴッチさんは朝起きると庭から「ジョー！　ジョー！」って呼んで、まだ小さい頃のジョーと一緒にスクワットやって腕立てやってブリッジやって、毎朝1時間トレーニング。ジョーはそれをこなしたあと、朝ごはんを食べて学校に行ったらしいですよ。

——ほほえましいですね（笑）。では、ジョー・マレンコにとってゴッチさんはおじいちゃんみたいな存在だった、と。

西村　一番長くゴッチさんと携わったのはジョーですから……。おこがましいですけど、我々、無我としてはゴッチさんが持っていたトレーニング器具とかを保管させてもらいたい気持ちもあるんです。でも、ゴッチさんにはそうやって何十年も親しくされている人たちがいるわけですから、我々は優先順位としてずっと下なんです。

——神様愛用のトレーニング器具なら、歴史的文化財ですもんね。そんなゴッチさんとの話で、印象に残っているものはありますか？

西村　これはたまたまなんですけど、じつはゴッチさんと最後に会ったときに"死後の世界"の話をしたんですよ。肉体が死んだあとの魂の話から、遺骨の方法まで。

——えっ！　亡くなったあとの話を？

西村　たまたまそんな話になったんです。「人間は海から誕生したんだから、死ぬときはまた海に帰してやるのが自然の法則だ」とか「宗教や霊や魂とか言うけど、私は自分自身で見たもの、肌で感じたもの以外は

じつはゴッチさんの本当の散骨には、私は立ち会えなかったんですよ

信じない！」とか。フロリダのタンパのハイドパークという町にあるイタリアンレストランでそんな話を聞きました。

――しかし、葬儀の方法まで聞かれていたとは驚きですね。

西村　ゴッチさんは奥さんの遺骨を保管してましたから。「一緒に飛行機から散骨したい」って。ただアメリカって灰になるまで燃やしちゃうんですよ。

――日本は骨を残しますけどパウダー状になるまで火葬してしまう、と。

西村　亡くなったときの処置も日本ではお通夜はいつ、葬式はいつ、斎場も日にちを決めてから火葬するじゃないですか？　でも向こうは亡くなった人を安置室に連れて死亡報告書を書いたら、自動的に焼かれちゃう。

――日本だったら、最後の対面の機会をもうけますけどね。

西村　私は8月3日に日本を発ったんですけど、その日に遺体は焼かれてしまってたんです。しかもその日はゴッチさんの誕生日だったんですよ。

――それも凄い偶然ですね。

西村　それから、すぐに散骨する予定だったんですけど、私が日本を発つ前に連絡を入れて「すぐに行くから待っててくれ」と無理を言って待ってもらったんです。

――そうだったんですか。『週刊プロレス』誌には散骨する湖で手を合わせる西村さんの記事が載っていましたけど。

西村　いや、『週プロ』に載ったのは、散骨されるであろう湖で手を合わせたときの写真です。実際に散骨された日は8月19日。結局、私は立ち会えなかったんですよ。

――えっ！　西村さんは最終的には立ち会っていないんですか？

西村　ええ。8月19日の散骨にはジョー・マレンコとテリーと、先ほども話したオハイオ州に住んでいるトムが立ち会ったんです。じつはゴッチさんはトムに何年も前から、死んだあとの手続きとお金をすべて託していたんです。結局、私は8月3日から8月9日までフロリダにいたんですけど、私がフロリダに到着する前に、今度はトムが急な仕事でオハイオに戻ってしまった。

――トムが戻らないから、散骨はできなくなってしまった？

西村　ええ。それでトムをずっと待っていたんですけど……私も日本に帰らなくてはいけなかった。最終的にトムがやっとフロリダに戻ってきたのが8月19日。その日の朝10時に散骨を行なったそうです。

――ちなみに散骨には娘さんのジェニンさんは？

西村　出席しなかったようですね。

――……。

西村　ゴッチさんが入院してすぐにジョーがジェニンに電話したらしいんですけど、「つらいから会いに行きたくない」と断ったそうです。ジョーは「最後かもしれないんだぞ！」って怒ったらしいんですけど。

――最後までジェニンさんとは和解せず、神様は永遠の眠りについてしまった、と。ゴッチさんの言葉の中で、一番思い出に残っている言葉はありますか？

西村　そうですね。「人間であり男だったら、プライドを持ちなさい」とか。「Goes arouund,comes round」、要は、「自分の行ないは必ず自分に返ってくる」という言葉だったりね。

――あと「ベストホールドとはベストコンディションだ」ともよくおっしゃっていたそうですね。

西村　そう！　ゴッチさんのところに行くと、みんな必ず「最強の技を教えてほしい」と聞くんですよ。すると必ず「もの凄くゴージャスな外装と内装で凄い馬力のエンジンを持つロールスロイスでも、きちんと整備されていなかったら役にも立たない。それならきちんとコンディションを整えているビートルのほうがよっぽどいい！」という話をするんですよ（笑）。

――まさにゴッチイズムそのものですね。

西村　そういえば、じつはこれも偶然なんですけど、私のフロリダの家の留守電にゴッチさんからの留守電が残ってたんですよ。聞いてみます？

――いいんですか？　ぜひ！

西村　これは去年のクリスマスのときのメッセージですね。クリスマスにフロリダには帰れなかったんですよ。

――（西村の携帯を受け取って、耳を澄まして）……ああ、思ったより凄くソフトな声なんですね（と感激しながら）。

西村　優しい声でしょ？　「メリークリスマス＆ハッピーニューイヤー。調子はどうだい？　みんな元気か？　日本のみんなにもよろしく伝えてくれ」と言っています。もう絶対に消せない留守電になっちゃいましたね（しみじみと）。

――最後に、西村さんにとってゴッチさんとはどんな存在だったんでしょう？

西村　〝巨匠〟ですかね。ホントにいろんなことを教えてもらいましたし、ゴッチさんと話していると、いまだに自分が海外修行しているような感覚でしたから。

――西村さんもお話好きですから、ゴッチさんとはウマがあったんでしょうね。

西村　ええ。それにフロリダのタンパって誰でも簡単に行ける場所ではないじゃないですか？　だから、ゴッチさんと一緒にいるときは「この時間は何にも代えられない財産だ」って意識がありました。とくに私は昔からプロレスが好きで好きでたまらなくて、高校を卒業して新日本に入門した人間ですよ。それがゴッチさんと毎月サシでお会いできていたわけですから……。

――夢のような時間だったんでしょうね。

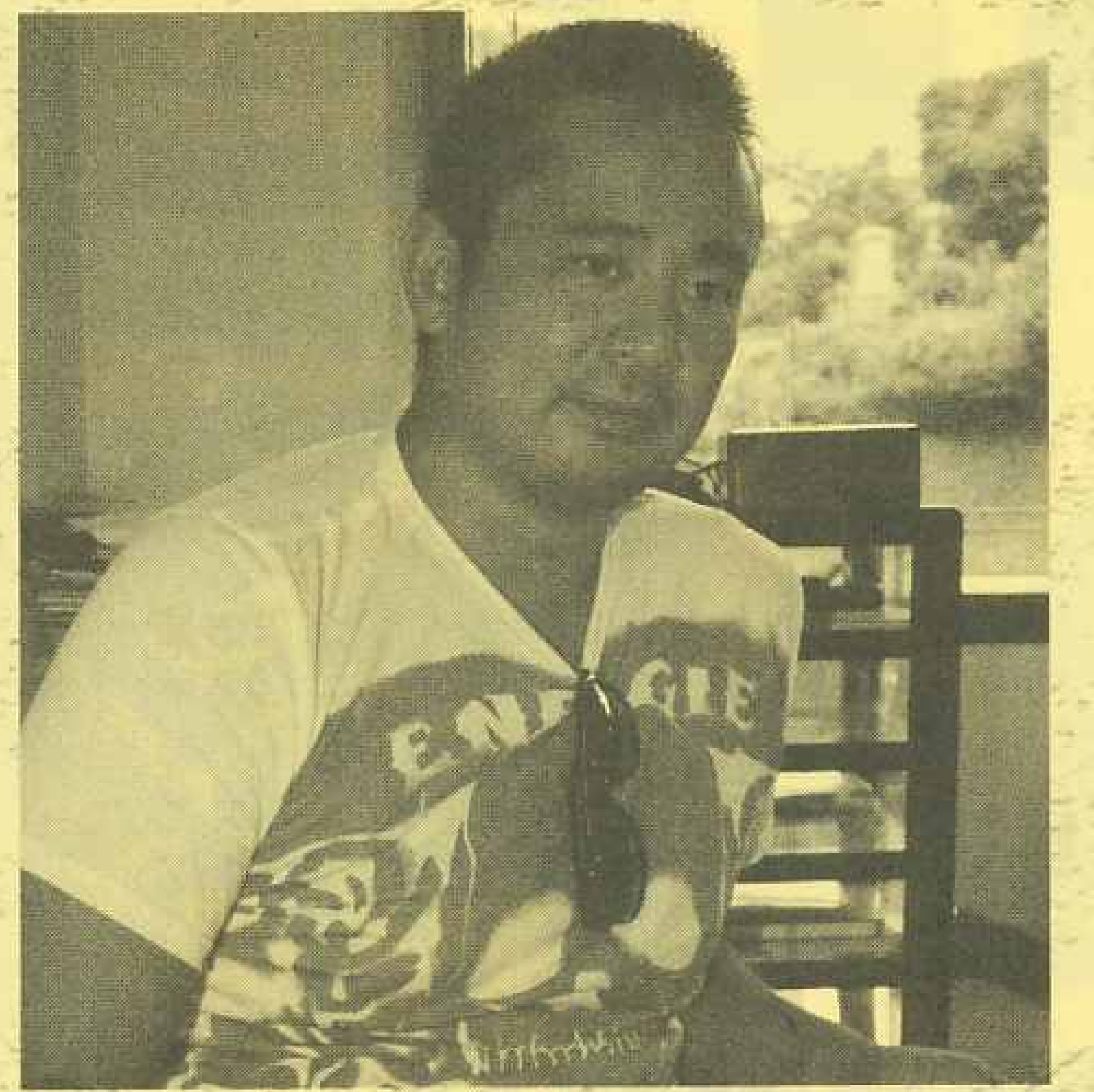
西村　砂漠が水を吸収するように、ゴッチさんの言っていることを1分でも多く聞いていたかったし、いろんなことをたくさん学びましたから。

――そういった部分をこれからも無我やリング上で表現されていく、と。

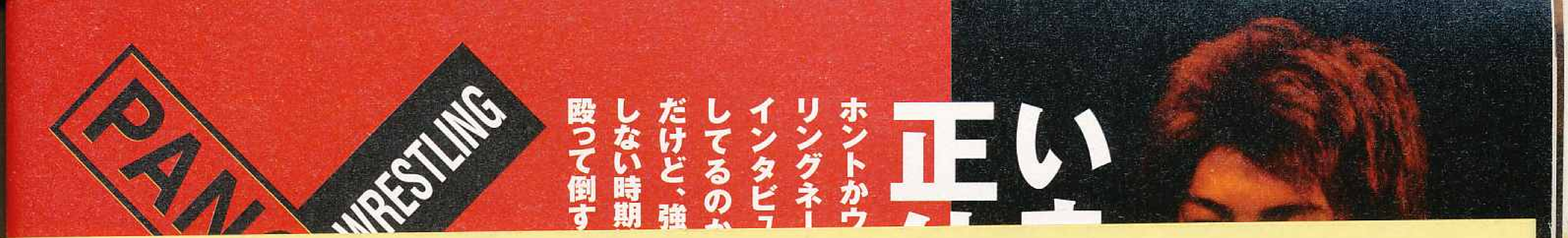
西村　ええ。ゴッチ教室で学んだことを後進に伝えたり、リングで表現していけたらいいですね。

――今日は、本当に素晴らしいお話をありがとうございました。

【07年9月6日／都内・「無我ワールド・プロレスリング」事務所にて収録】



にしむら・おさむ■1971年9月23日、東京都文京区出身。90年に新日本プロレスに入団。91年、飯塚孝之（現・高史）戦でデビュー。海外修行からの凱旋帰国後、後腹膜腫瘍の宣告を受けて長期欠場。手術後、食事療法や精神修行で病気を克服。06年に新日本プロレスを退団。同年に藤波らと無我ワールド・プロレスリングを旗揚げ。『ハッスル』で活躍中の“ムガール帝国の賢人”ニシム・ラマとは別人。186cm、105kg。



kamipro books

驚ガク！ 衝ゲキ!!
kamipro booksシリーズ！
死闘インタビューの
歴史的目撃者になれ!!



吉田豪セメント
インタビュー11連発!!
プロレスインタビュー本の
最濃傑作！

★ストロング小林★田代まさし★猪木快守★イーデス・ハンソン★阿修羅原★鶴見五郎★サムソン・クツワダ★康芳夫★倉持隆夫★田中健一★小川宏

プロインタビュアーの吉田豪が『紙のプロレスRADICAL』誌上で聞き手を務めたロングインタビュー――数十本に及ぶその一部を完全徹底再録!! これは"下調べの鬼"が挑む、時間無制限オールセメントマッチだ！

B6変型判　344ページ
定価＝1,890円（本体1,800＋税）



夕焼けがよく似合う
人生のガチンコ勝負!!
プロレス狂がシビれる
凄玉たちの
壮絶インタビュー集！

★ジェラルド・ゴルドー★後藤達俊★小畑千代★ザ・グレート・サスケ×韮澤潤一郎★中島らも★大槻ケンヂ★シーザー武志★ダニー・ホッジ★高山善廣×金原弘光★真樹日佐夫×三池崇史

プロレス狂の胸躍る詩が聞こえてくる――!! プロレスラーや格闘家はもちろん文化人、著名人まで、『kamipro』誌上にて掲載されてきた、濃厚インタビューから特別厳選収録！

B6変型判　304ページ
定価＝1,890円（本体1,800＋税）



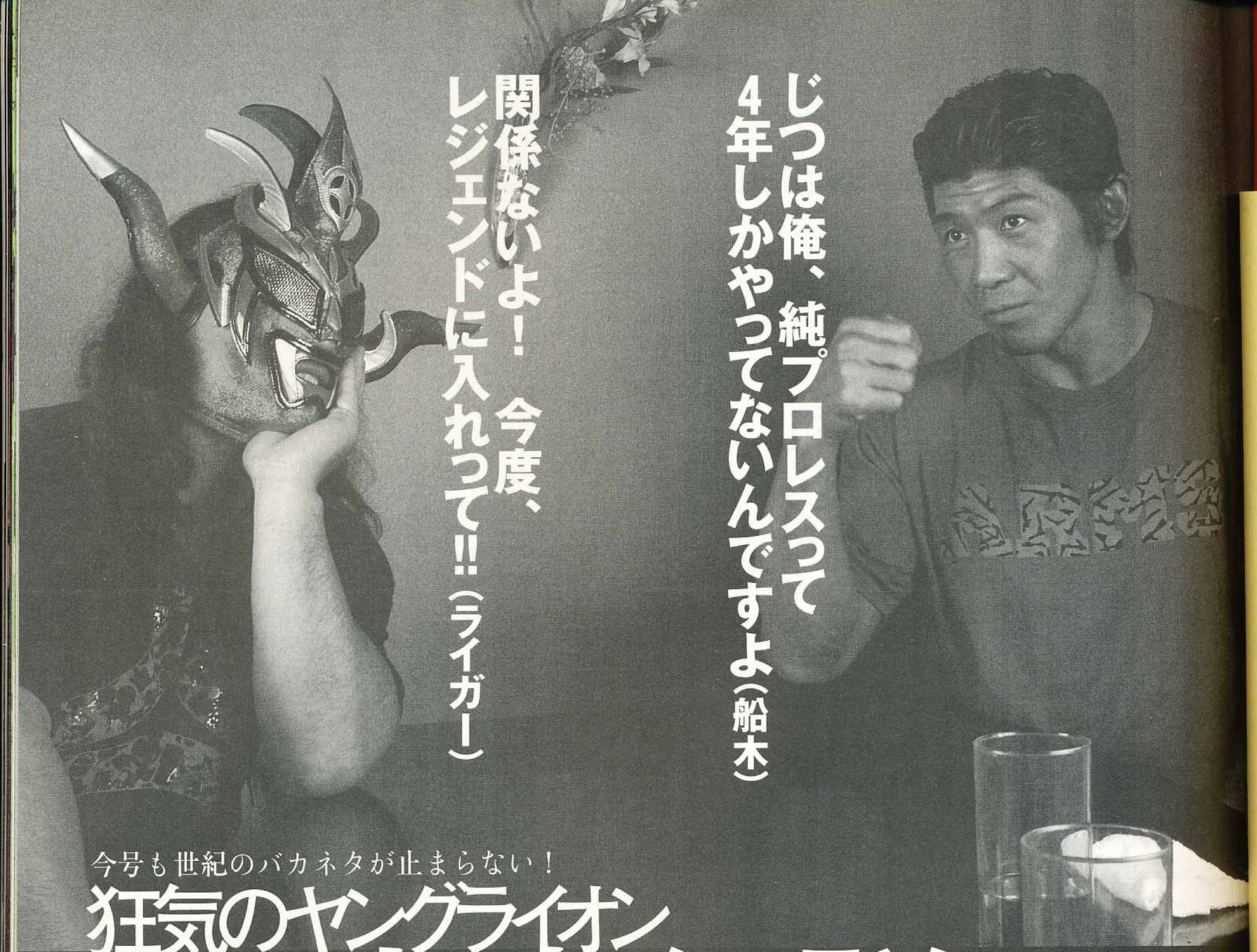
"殺し"文句が
プロレス心を熱く打つ！
"活字プロレスの哲人"
井上義啓 追悼本!!

★喫茶店トーク傑作選★井上小説傑作選★殺しのI語録★アントニオ猪木★水道橋博士★金沢克彦★井上義啓・姪★モンターニャ・シウバ

多くの"プロレス者"に影響を与えた"I編集長"こと井上義啓氏の追悼本!! 幻の喫茶店トークから、涙なくしては読めない病床のエピソードまで……。プロレスという"底が丸見えの底なし沼"に浸かり続いた男の凄味を感じろ!!

B6変型判　304ページ
定価＝1,680円（本体1,600円＋税）

enterbrain 株式会社エンターブレイン 〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 TEL.0570-060-555（代表）［通信販売のお問い合わせ先］http://www.enterbrain.co.jp/



じつは俺、純プロレスって4年しかやってないんですよ（船木）

関係ないよ！　今度、レジェンドに入れって!!（ライガー）

今号も世紀のバカネタが止まらない！

狂気のヤングライオン青春伝説【後編】

獣神サンダー・ライガー×船木誠勝

JUSHIN THUNDER LIGER
MASAKATSU FUNAKI

お待たせしました！　前号で大好評いただいた獣神サンダー・ライガー×船木誠勝の対談、いよいよ後編〜ッ。新日本プロレスの若手時代をともに過ごした二人からは、今回も当時の“危険な”思い出が続出！　初っぱなから大暴走の対談を読め!!

聞き手／井上崇宏　撮影／福島俊彦
構成／松下ミワ

狂気の対談、再び!!

前号では、80年代、新日本プロレス激動の時代をともに過ごした獣神サンダー・ライガー&船木誠勝のトンデモ話が次から次へと展開されたのだが、中でも、会社の上層部のコネで入門した新弟子への特訓は圧巻！　落として風呂に沈めたり、日常的に下剤を飲ませたりと、いまだと各方面から本気で怒られるような〝いたずら〟を繰り広げていたのだが……（その後、その新弟子は●●を●●れたことが引き金となり、退団）。不思議なことに、その新弟子といまだに深い交流を持つというライガー。船木が、その〝人望の厚さ〟に感心するところから、対談の続きが始まるのだが……、またしても話は衝撃の内容に!!

――でも、ライガー先輩が当時そんな調子だったから、船木さんも「この人の言うことさえ聞いていればデビューできる」と思ってたんですよね？（笑）。

船木　そうです。

ライガー　いやいや、俺にそんな権限ねえよ!!（笑）。

船木　あれ？　鈴木（みのる）がライガーさんにブン殴られたのって、後藤（達俊）さんの家で、でしたっけ？

ライガー　そう！

――思い出が溢れ出ますねぇ（笑）。

船木　「ライガーさんが凱旋帰国をしてきたから宴会だ」って、後藤さんちで飲み会をやったんですけど、そこに入門したばかりの鈴木とか浅井（嘉浩＝現ウルティモ・ドラゴン）とかもいて。で、鈴木が酔っぱらって松田（納＝現エル・サムライ）だか飯塚（高史）だかに「俺がデビューしたら、おまえらみんなブチのめす！」みたいなことを言ったんですよ。そうしたらライガーさんが「先輩に向かってなんだ、その口のきき方は！」って言ってブン殴ったんですよ。そしたらポテトチップスの上に鼻血がダラ～って。

――タコスチップになっちゃいましたか（笑）。

船木　そっからもう鈴木は「飲め！」って言われてワーって飲んじゃって。で、潰れてワケわかんなくなっちゃったんで、ライガーさんが「裸にしろ！」って言って全裸にして、そのまま4人ぐらいで外まで運んでクルマに乗っけて帰りましたね。

ライガー　で、後藤さんちがマンションの3階だったんだよな？　それでエレベータがないんですよ。でも鈴木がグデングデンの状態で手足を持ったら、なんか撃たれた熊みたいでさ。

船木　アッハッハッハ！

ライガー　グテ～ってしてて。そんな状態で階段を降りるもんだから、一段ごとに頭をガンガンってぶつけちゃってさ！（笑）。

――ムチャクチャ危ないじゃないですか!!

船木　しかも全裸ですよ？（笑）。

ライガー　よく死ななかったよなぁ、アイツ（笑）。

――そんな楽しそうに……（笑）。

船木　で、クルマに乗せて道場に帰ったんですけど、鈴木がゲロまみれで汚いから道場のベランダに連れていって、ホースでバーって水かけて。

ライガー　そのあと毛布でくるめたんじゃなかったっけ？

船木　いや、テーピングで道場のリングに貼りつけたんですよ（笑）。でも、翌朝起きて「どうなってるかなあ？」と思って見に行ったら、いなくなってましたね。

ライガー　そうだっけ？

船木　ええ。日曜だったんで、朝から地元の横浜に遊びに行ってたんですよ（笑）。

ライガー　鈴木、アイツ、タフだなあ！　鈴木、タフだわぁ！

――人間って凄いですねぇ（笑）。

ライガー　いやあ、人間って素晴らしい!!　今日は生命の神秘について学ぶわぁ。

船木　ホント、そんなことばっかでしたよね。新日本の合宿所って凄かったですよ。俺は毎日その餌食にならないように必死でしたよ。

ライガー　〝殺るか、殺られるか〟だから（笑）。

船木　弱肉強食ですからね（笑）。

ライガー　だけど、これが記事になるの？　大丈夫？

――いえ、新日本プロレスの凄みがよく伝わる好企画だと思います（笑）。

船木　そうですね。楽しかったですからね。つらい中にも笑いがあるというか。でも俺も一回、佐野（直喜＝現・巧真）さんと笹崎さんにやられましたね。

あのとき、若いほうのヤ●ザはピストルを持ってたらしいですよ！（船木）

ライガー　どんな？

船木　佐野さんと笹崎さんって同室だったんですけど、「ちょっと来て」って言われて行ったら、笹崎さんにおもいっきりヘッドロックされたんですよ。「何するんだよ？」って思ったら、頭にコールドスプレーを延々シューっとかけられて。

――「頭を冷やせ！」ってことなんですかね（笑）。

船木　だから暴れて「やめてくださいよ!!」って言って、ドアをバーンと蹴って反抗しちゃったんですよ。そしたら「本気になるなよぉ」ってなだめられましたね。

――あんまりかわいがりに慣れてない！（笑）。

船木　俺の反応も悪かったんでしょうね。そういう反応は俺、全然ないですからね。

ライガー　でも考えてみたらさ、船木は中学出てすぐじゃん？　それが俺たちと一緒になってワイワイやってたんだから凄いよ、おまえは。

――中学出たてですぐ、あの数々の伝説を持つ後藤（達俊）さんと相部屋だったんですよね（笑）。

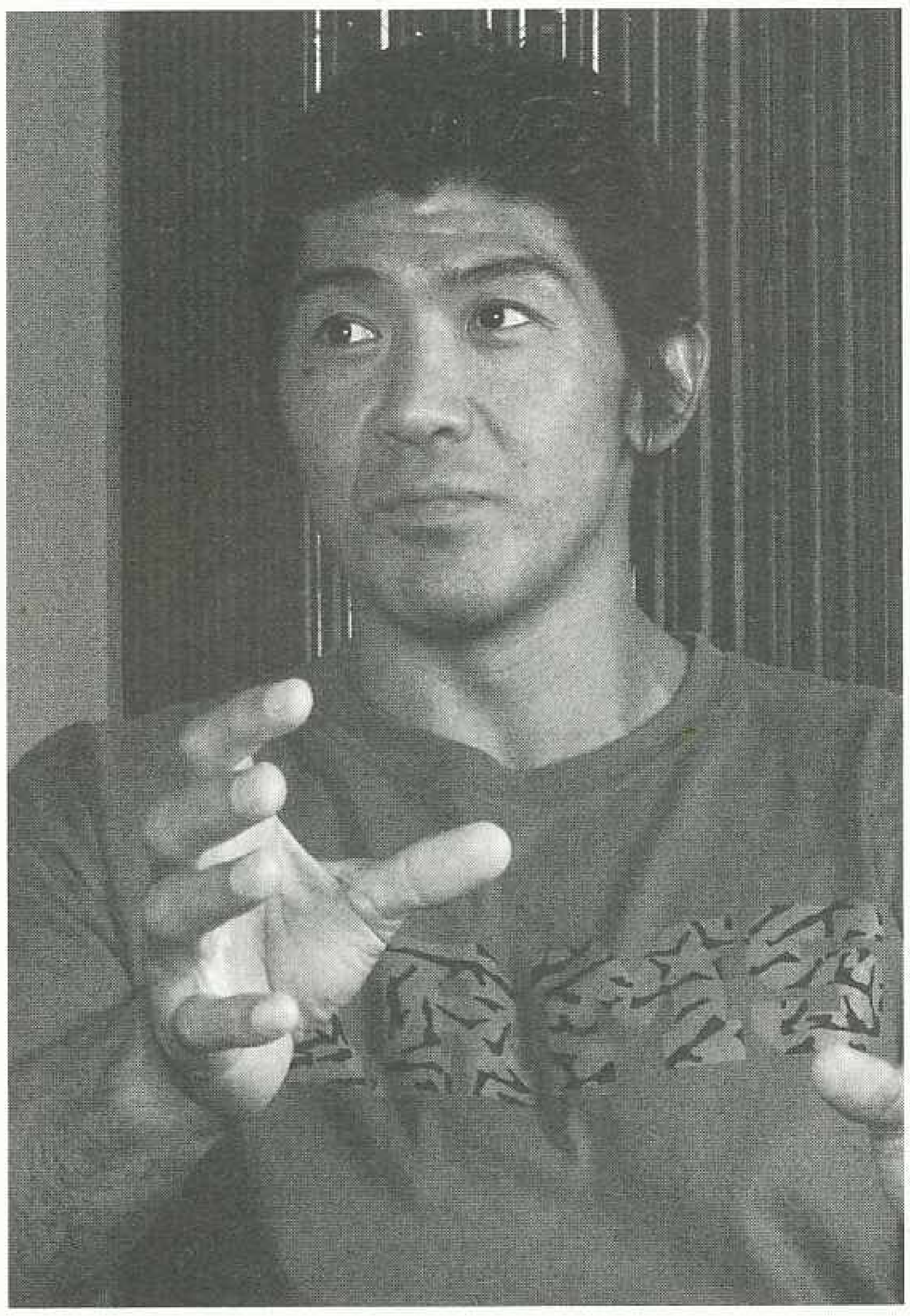
船木　ホント、怖かったですね。ホントに！　毎日がホントに怖かったですよ。全部、冗談なのか本気なのかわかんないじゃないですか？　たいがいは辞めますよね（真顔で）。

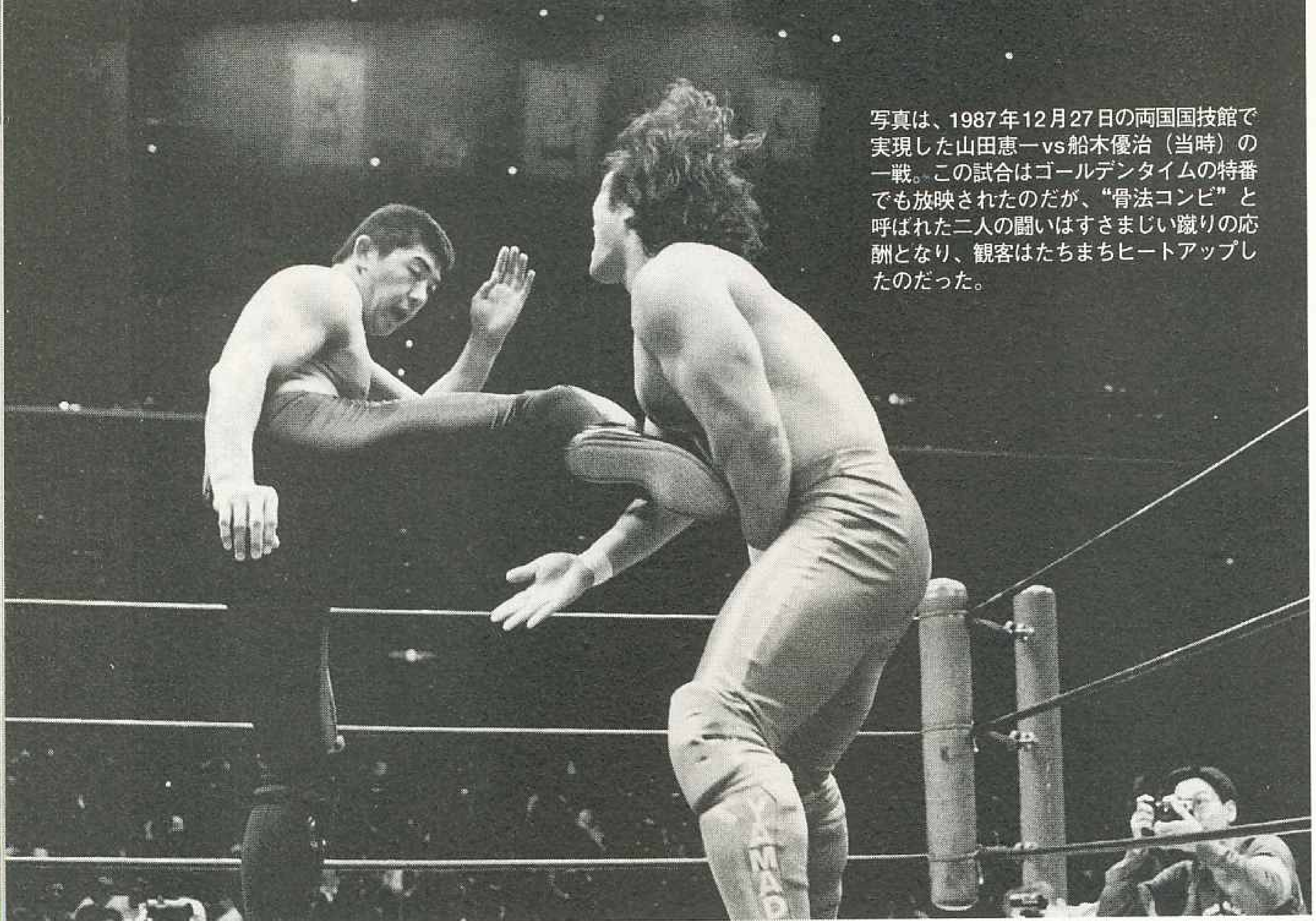
ライガー　ガハハハハ！　おまえ、めっちゃ冷静に言うなよ!!（笑）。何、冷静に言ってんだよ！

船木　残る確率がホント少ないですもん。しかも、練習でもボロボロじゃないですか。

――練習以外でこれだけつらいんですもんねぇ（笑）。

船木　練習でボロボロ、私生活でもボロボロですからね。もう行き場がない、話す人もいないっていう。でも、これ





写真は、1987年12月27日の両国国技館で実現した山田恵一vs船木優治（当時）の一戦。この試合はゴールデンタイムの特番でも放映されたのだが、"骨法コンビ"と呼ばれた二人の闘いはすさまじい蹴りの応酬となり、観客はたちまちヒートアップしたのだった。

ダメじゃん！　俺、裸になったら‼ いま、ゾッとしたわ‼（ライガー）

に耐えて残ってるヤツは凄いですよ。

ライガー　ワハハハ！　だから、それでみんな何かしら自分の時代を作ってんじゃん（笑）。

船木　ホント、そうですね（笑）。でもライガーさんは若手の頃、汚い野次とか飛ばすファンを会場から追い出すのも凄かったですよねぇ。

ライガー　俺は職務に真っ当に対応してただけ！

船木　一度、相手がヤ●ザの親分ですよ。野次だったかなんだったかわかんないですけど、ライガーさんがつまみ出そうとしてまたやってるんですよ。一応口ゲンカなんで、警察も手を出すまでは介入できないから「まあまあまあ」って感じで止めてたんですけど、ライガーさんがいきなり裸になって「やるんなら来いよ‼」って言って。それでその親分も「なにぃ！」とか言ってるんですけど、けっこう脚とかガクガクに震えてんですよ。そしたらライガーさんが「ほら、震えてんじゃねえか！」って言って。そしたらその親分、「これは武者震いだぁ‼」だって（笑）。

ライガー　ガハハハハ‼（と、手を叩く）。

船木　そのやりとりがおっかしくて！

——ライガーさん、この名場面は覚えてます？

ライガー　昔は地方に行くと、けっこうそんなのがいたんですよ。

船木　でも、あのとき、若いヤツがピストルを持ってたらしいですよ？

ライガー　ダメじゃん！　俺、裸になったら‼

船木　だから、それをあとで聞いて、俺ゾッとしましたよね。

ライガー　俺、いまゾッとしたわ‼　それ、はよ言えよ、おまえ！　いや、でも昔は地方に行けば行くほどいたよねぇ。

船木　やっぱレスラーは引かないし、ヤ●ザも引かないじゃないですか？「どうなるんだろう？」と思って見てましたよ（笑）。あ、こんなこともありましたよ。こないだ亡くなったブライアン・アダムスが、やっぱり会場でヤ●ザの人をやっちゃったんですよ。それでなんか向こうが「あとでホテルに殺りに行くからな！」とか言ってるんですね。俺、その日ブライアン・アダムスと同じ部屋だったんスよ（笑）。

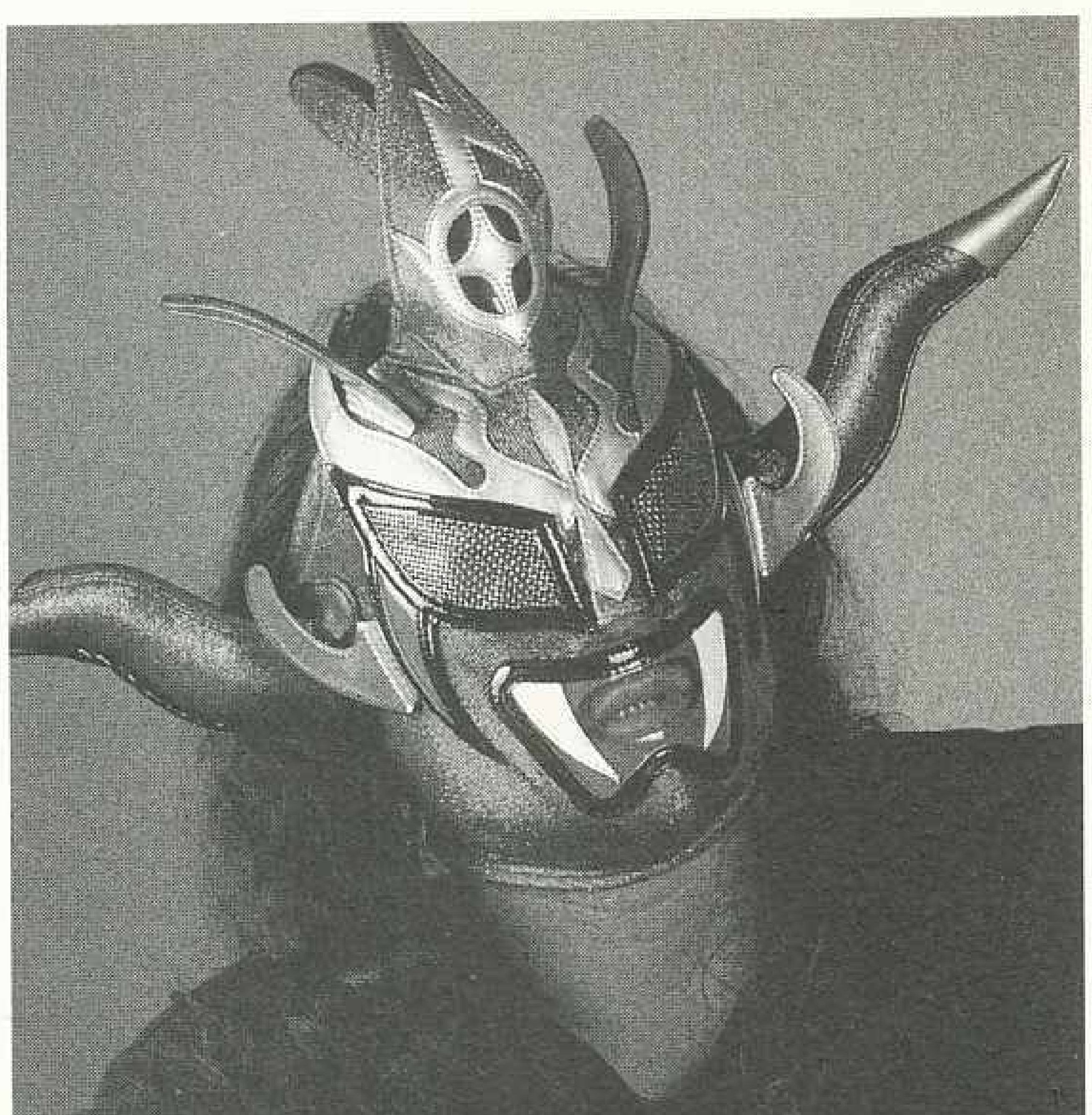
ライガー　ガハハハハ‼

船木　さすがに「ホントに来たらどうしよう……」って思ってましたね（笑）。

——合宿所でも巡業先でも常に安眠できないんですね（笑）。

船木　ブライアン・アダムスは日本語がわからないじゃないですか？　で、一応それを説明するんですけど、「そんなことねえよ」って言って寝るんですよ。怖かったっスよ。いまは若手がヤ●ザとケンカなんてないんじゃないですか？

ライガー　ないほうがいいだろがっ‼（笑）。昔はさ、プロレス会場もちょっと夏祭りふうなとこもあったよね。野外のオープンがあってさ、屋台みたいなのが出てたりしてて。虫が集まってくるから殺虫剤をシューって吹いてやっつけたりな。ディック・マードックなんか、リングに蛾が入ってくるから蛾にエルボードロップやってたもん（笑）。しっかし、こうやって話をしてると俺たち、若かったよなあ……。



船木　ええ（笑）。

ライガー　でも、そのときにしかできないことっていっぱいあると思うしな！　だから逆にいまの若いヤツらが、たとえば試合なんかでクサってるときなんかは自分の経験に照らし合わせてさ、「あ、それわかるよ。でも、こうしたほうがいいんじゃねえか」って言うことができるから。そういう経験はしててよかったなって思うよね。何も経験してなかったら、そういう場面にボンとぶつかったときに対処できないじゃない？「俺のときはこうだった」っていうものがないと。

船木　そうですね。

ライガー　だから、ここまでの話でいい悪いは別にしてね（笑）、そういういろんな経験があったし、ゴタゴタもあったし。あの柴田（勝頼）がさ、ウチを辞める辞めないってなったときね、アイツ覚えてるかどうかわかんないけど「おじさんの言うことも聞いたほうがいいよ。おじさん、いろいろ経験してるからね。もっと考えて行動したほうがいいよ」って言ったの。で、柴田は「わかりました」みたいに言ってたけど、結果辞めたんでね。それは

それで彼が選んだ道だからいいんだけど。いっちょ前だけど、そういうアドバイスができるんだよね。経験してるぶんだけ強いですよ。

船木　柴田の場合は、俺が言っても聞くことは聞くし、聞かないことは聞かないですね。

──あっ、そうなんですか？

船木　ええ。だからホントに自分があるんだなと思いますね（笑）。

──いや、船木さんと柴田さんってタイプが似てますよね？

ライガー　似てる似てる似てる!!　アイツもいいヤツだよ。

船木　だから総合をやるってなったときも「プロレスも捨てないほうがいいよ」って言ったんですけど、「いまはもう考えられないです。自分は二足のわらじというのはイヤなんで。そういうことでプロレスにぶら下がっていたくはないです」っていうふうに言ってましたね。

──それではそろそろ船木さんが大晦日に復帰することに関して、先輩から一言いただけますか？

ライガー　復帰？　いや、俺からはもう「プロレスやりぃよ」って！　それしかないもん！　ねえ、プロレスやりぃよ!?　新日本に帰ってこいよ！

船木　そうきましたかぁ（笑）。

ライガー　いまレジェンドやってるから、おまえ今度レジェンドに入れって！

──あ、船木さんはレジェンド入りですか（笑）。

ライガー　そうだよ！　レジェンドってさあ、べつにオジさんチームだからレジェンドじゃなくて、なんていうか、練習しても身につかないものってあるんですよ。持って生まれたものっていうのが。船木はさ、ちゃんと持って生まれたものがあるんだから、来な？　それでもう俺からはオシマイ！　大晦日はそれはそれで凄いことだと思うけどね、プロレスにはプロレスの魅力があってさ、俺はず～っとプロレスが好きでプロレスをやってて「ああ、いいなあ」って思ってるんで。

船木　わかります。

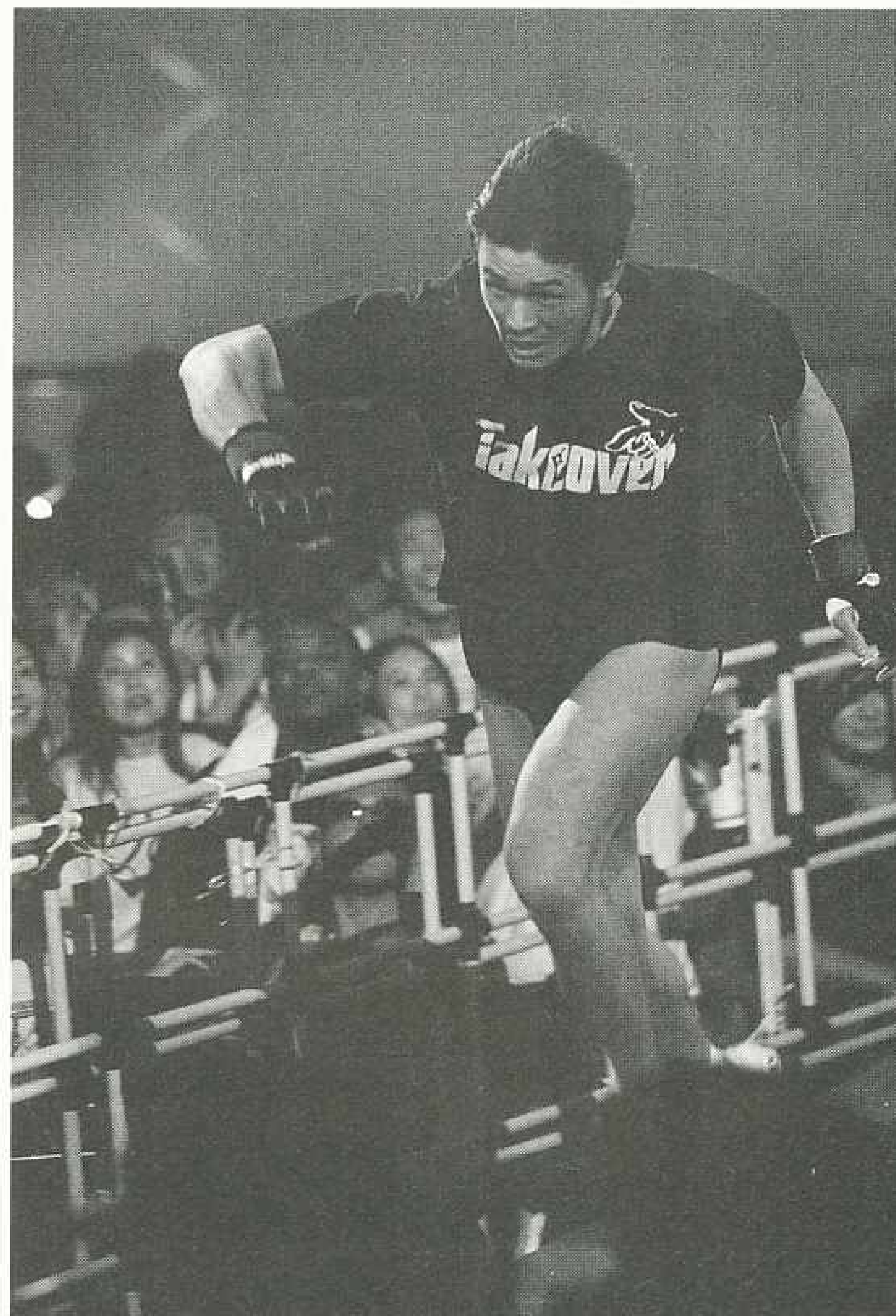
ライガー　じゃあプロレス界にも復帰しちゃえって！　それに対してファンの中で「いや、船木やめといたほうがいいよ」っていう人、俺一人もいないと思うんだよね。

──あ、その意見には賛成ですね。

ライガー　絶対、拍手喝采だと思うからさぁ……、おいで？　レジェンドにさ。

船木　いやあ、すぐには無理ですよ（笑）。

ライガー　すぐには無理かもしんないけど……（大声で）あー！　あー！　すぐじゃなけりゃ来るんだな!?　おう！　じゃあおまえ、絶対来いよぉ!?　お



──ラ、ライガーさん、ちょっと声が大きいですよ（笑）。

ライガー　（無視して）大晦日で復帰だろう!?　じゃあ来年来いよ!!

船木　いやいや（笑）。

ライガー　なんでぇ!?　思ったら、動きゃあいいじゃん！

船木　いや、思ったら動きますよ（笑）。

ライガー　ほらぁ！　動けよ！　レジェンド入れや！

船木　いや、だからまだ思って……、こないだ武藤さんにも「全日本に来てよ」って言われたんですよ（笑）。

ライガー　いや!!　ウチのほうがいいよぉ！

──具体的に新日本のどこが全日本よりいいですか？

ライガー　へ？　ただ単に俺がほしいから!!　いや、盛り上がると思うよぉ？　船木が来たら、おまえ……レジェンド大変だよぉ？　そりゃウチの長州力だって（長州の声マネで）「おまえ、船木、ホントか？　おい、ホントか？」って言うよぉ。

──あ、思いのほか似てない!!（笑）。

ライガー　えっ、長州さんのマネ似てない!?　これでも評判いいんだぞ！　いやでもホントに、おまえはある意味伝説じゃんかよぉ！

船木　いや、じつは昨日考えたんですけど俺、純プロレスって4年しかやってないんですよ。

ライガー　いいじゃん！

船木　いや、たった4年ですよ？

ライガー　関係ないよ！　10年やったってダメなヤツはダメなんだから！　でしょ？　俺、おまえの奥さんに話をしようか？

船木　いや、しなくていいですよ（笑）。

ライガー　俺から言うことはそれしかない！　いま38（歳）でしょ？　まだまだいけんじゃん！

船木　レジェンドだと最年少になっちゃいますね。格闘技界では最年長なんですけど（笑）。

ライガー　いや、なんでもいいから、来いって！



本インタビューで、ひそかに“格闘技一筋宣言”をしていたことが発覚した柴田だが、9.17『HERO'S』桜庭和志戦では、無念にも1ラウンド一本負け。これを受けて、『Dynamite!!』での桜庭vs船木戦が濃厚になったわけだが……。FEGとしては“見事に”点から線へつなげられた闘いとなったようだ！

船木　雑誌の対談内では答えを出すのは難しいですね。でも、その気持ちは一応受け取りましたんで。

ライガー　マジぃ!?　ありがとう!!　道場の電話番号知ってるよな？　俺、ツアーが始まったらずっと道場にいるからさ！　また連絡くれよ！

船木　新日本の道場の番号っていまだに忘れないですね。あと坂口（征二）さんちの電話番号も覚えてますよ。それは語呂がいいからですけど（笑）。

ライガー　いや、とにかく来たほうがいいってぇ！

船木　（冷静に）もう……わかりましたから。

──あっ、冷たい（笑）。

ライガー　（大声で）もう言うなってか!?　そりゃどうもすいませんっ!!

船木　いえいえ……（笑）。

──アハハハハ！　でも船木さんはいまも毎週欠かさず新日本のテレビ中継はご覧になってるんですよね。

船木　観てます。毎週観てますよ。

ライガー　あ、ホントにぃ！　じゃあ、いいじゃん！　来なよ！

船木　アハハハハハ。

ライガー　流れもメンバーも把握してんだったら話早いじゃん。

船木　でも柴田は観てないんですよね。だから俺が教えるんですよ。「新日本はいま、こうこうこうなってる」って。こないだ後藤（洋央紀）選手が帰ってきたんですよね？

ライガー　（無視して）いやぁ、来年の新日本プロレスはおもしろくなりそうだなぁ！

──ライガーさん、大盛り上がりですねぇ（笑）。

ライガー　盛り上がるさぁ！　プロレ

大きさでいえば"新・日本海"が一番大きいよお！いいぞお、太平洋って感じよ！(ライガー)

確かに海は好きですけどね(笑)。雑誌の対談内では答えは出せませんね(船木)



ふなき・まさかつ■1969年3月13日、青森県出身。84年、新日本プロレスに入門。第二次UWF、藤原組を経て、93年にパンクラスを旗揚げする。第4、6代「キング・オブ・パンクラシスト」に輝くも、2000年5月、ヒクソン・グレイシーに敗れ、現役を引退。その後『Dr.コトー診療所』に出演するなど俳優として活躍していたが、今年7月の『HERO'S』で現役復帰を宣言。9月17日『HERO'S』では対戦要求していた桜庭和志から逆指名され、いよいよ『Dynamite!!』での対戦が現実味を帯びてきている。182cm、85kg。

じゅうしんさんだー・らいがー■1989年4月24日、小林邦昭戦でデビュー。翌年5月には馳浩を破りIWGPジュニア・ヘビー級王座を獲得。その後、ジュニア界の中心人物として活躍し、91年12月にはアメリカへ渡り、WCW世界ライト・ヘビー級王座に君臨。また、04年にジュニア・ヘビー級のヒール軍団「C.T.U」を結成、その後は蝶野正洋の率いる「BNJ（ブラックニュージャパン）」に合流し、現在は蝶野の呼びかけにより結成されたレジェンドに所属している。170cm、95kg。

ス界だって盛り上がるさ！　あのね、猪木さんっていつもへんなことを言うし、間違ったことも言うけど、一回なんかみんながバラバラになったときに「川は何本にも分かれるけど、結局は海に流れ着くんだ」って言ったのよ。

船木　海ですか。

――船木さん、海が似合いますしね(笑)。

ライガー　いいねえ！　うん、海が似合う！　イヨッ、若大将っ!!

船木　確かに海は好きですけどね(笑)。

ライガー　ほらぁ！　あ……、"新・日本海"ってのはどう!?

――うまいですねえ！(笑)。

船木　いや、でも"全・日本海"ってのもありますけど(笑)。

ライガー　大きさでいえば新・日本海が一番大きいよぉ！　太平洋って感じよ！　"新・日本海"はいいぞぉ？　よく荒れるしね!!

――大時化ですか(笑)。

ライガー　ここで船旅をするのはおもしろいよ。いろんなことあるから！　波はあるし、かと思えばピーカンでポカ～っとしてるときもあるしねぇ。もちろん荒れ狂うときもあるし。"新・日本海"はおもしろいよ！　だけど船木が戻ってきたら……、道場生は何人辞めんだろうねぇ？(笑)。

船木　いやいや、合宿所にはもう入りませんよ(笑)。

ライガー　いやぁ、今日は会ってよかったよ！　船木誠勝、大晦日に復帰戦をやって、来年1月4日にはプロレスにも復帰!!　プロレスファン、プロレス界にとっての最高のお年玉ですよ。……ドーム大会があったらだけど(笑)。

船木　アハハハハ！

ライガー　とにかく海に出るなら、"新・日本海"！　以上！

――ライガーさん、最高です(笑)。それでは船木さんのほうからも熱烈なラブコールを送っていただいたライガーさんにメッセージをいただけますか？

船木　はい。ライガーさん、怪我ないですか？

ライガー　け、毛がないぃ!?

船木　いえ、怪我です(笑)。

ライガー　あ、怪我か！　怪我はね、そりゃこんだけやってるからやっぱりヒザとか腰とか首はもうやっぱくるけど、大きな怪我はないよ。だってテーピングなんか一切しないで試合してるもん。

船木　それは良かったです。怪我だけが心配ですね。大きな怪我さえしなければ、ずっとやっていけると思いますから。

ライガー　ううぅ……。船木にそんなこと言われて嬉しいよ、俺!!（と、むせび泣くしぐさ）。俺、プロレス大好きだからね。でも船木も絶対にプロレス好きだと思うんだよなぁ。

船木　好きです。だからやっぱ毎週テレビで観るんですよね。

ライガー　だろぉ!?　(またしても大声で) 好きならしようよぉ！　好きならしよっ！　ねっ、しよっ、しよっ！　お願い、してっ!!

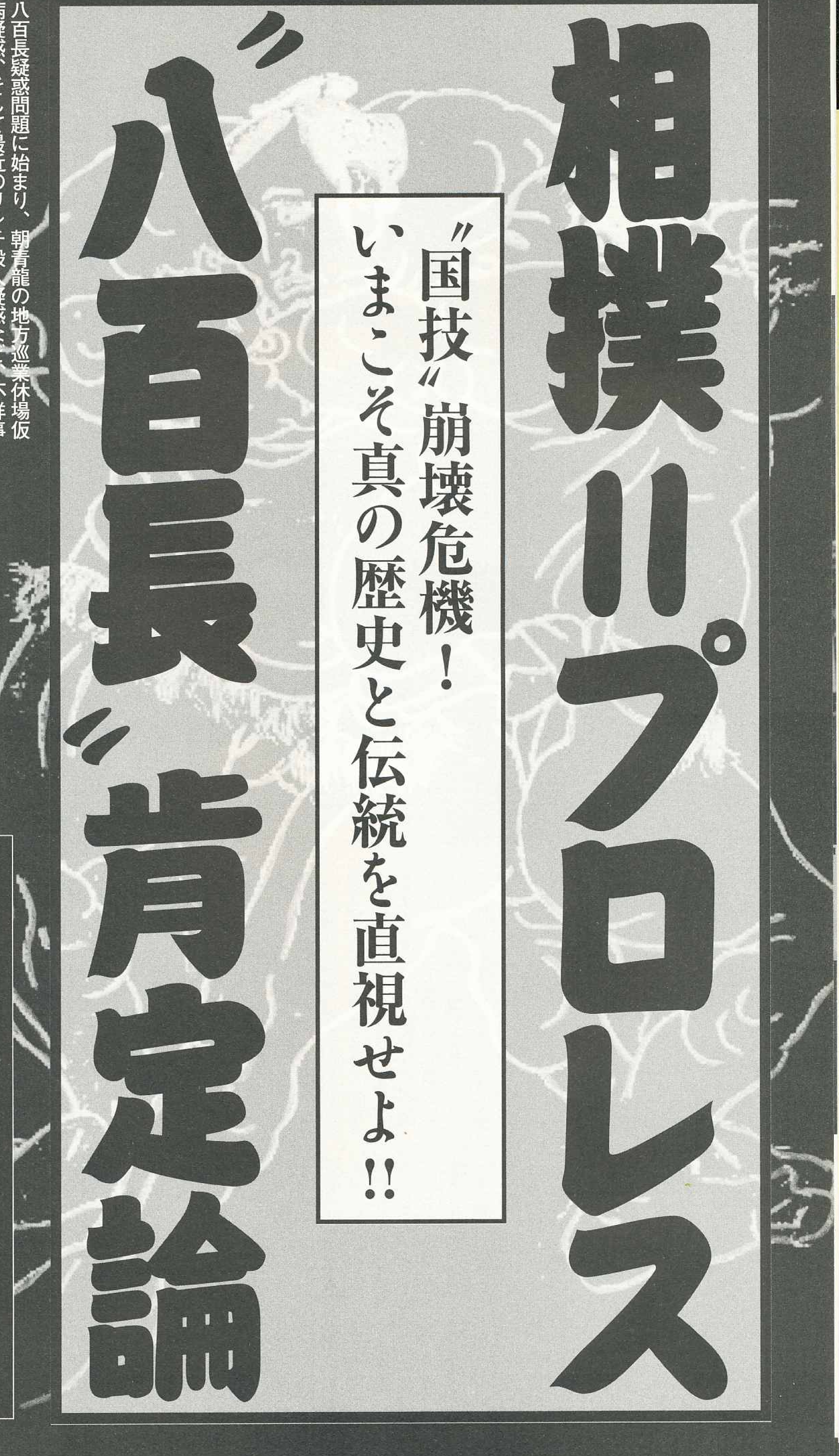
――ライガーさん、声が大きすぎますって……(笑)。

ライガー　えっ？

船木　そんな調子だから変質者と間違えられるんですよ(真顔で)。

【07年9月8日／都内・二子玉川にて収録】

相撲＝プロレス　“八百長”肯定論



“国技”崩壊危機！いまこそ真の歴史と伝統を直視せよ!!

日本武道傳骨法創始師範

堀辺正史

八百長疑惑問題に始まり、朝青龍の地方巡業休場仮病疑惑、そして最近のリンチ殺人疑惑など、不祥事続きの相撲界。“伝統ある国技崩壊の危機”が叫ばれているが、そもそも相撲の伝統とは、そして国技とはいったいなんなのか？　前号の朝青龍特集に続く本誌の相撲企画第二弾として、おなじみ骨法・堀辺師範に語ってもらった。

聞き手／堀江ガンツ

――先生！　今回『PRIDE』が大変な時期を迎えたわけですが……。

堀辺　聞いています。日本オフィスの社員が全員解雇されたらしいですね。今日はその話ですか？

――いや、『PRIDE』の話もうかがいたいのですが、今日はもっと大変な時期を迎えている相撲について、なぜかうかがっていこうと思います(笑)。

堀辺　そっちですか（笑）。相撲も大変ですからねぇ。八百長問題から始まり、朝青龍の地方巡業休場仮病疑惑、それからリンチがあったりね。

――伝統ある国技の崩壊なんて言われていますけど、相撲にはそもそも、どんな歴史と伝統があるのかをお話ししていただきたいんですよ。

堀辺　わかりました。まずね、相撲というのは、一言に「伝統」「歴史」と言いますけど、その歴史の始まりというのは江戸時代どころじゃないんです。おそらく日本に農耕、稲作なんかが始まった頃からあったものなんですよね。だから、最近の国技館で行なわれてる大相撲だけを観て、「これが相撲だ」思ってしまうと偏った見方が生まれてしまう。相撲は長い歴史を持っていて、さまざまな要素があったっていうことをみんな知らないために、相撲を一面的な捉え方をしてるっていうことが、まず前提としてあるということを押さえてたほうがいいですね。

――いまの大相撲のかたちがずっと昔から続いていたわけではない、と。

堀辺　そうです。いまのかたちになるまでに、相撲が大きく変遷していった時期というのが何回もあるんですけど、最近の〝八百長問題〟とかに一番関連があるのは、日本が開国した時期ですね。

開国するまでは相撲をスポーツだなんて誰も思ってなかったんです

――幕末から明治にかけてですか。

堀辺　開国して、西洋の各国とお付き合いをし始めた時期、ここで相撲が大きく変わったんですよ。なぜかというと、「スポーツ」という概念が西洋から入ってきたのが、そもそもこの時期だから。

――なるほど。では、それまで相撲は「スポーツ」じゃなかった、と。

堀辺　そう！　明文化されたルールに則って、正々堂々、勝敗を競うスポーツだ、なんて誰も思ってなかったんですよォォ！

――それは大きな違いですね（笑）。

堀辺　そういった話をする前に、なぜスポーツになっていったのかという話をしていきたいと思うんですけど、幕末にペリーが黒船に乗ってやってきましたよね。そして日本は開国するわけですけど、そのときアメリカ人に対して、日本人の力を見せなきゃいけないっていうことで、力自慢の相撲取りを集めて、黒船に米や食料を積み上げる作業をやらせたんですよ。米俵を両手に軽々しく持たせて、「おまえたちアメリカ人にこれができるか？　俺たちはこんなに力があるんだぞ」というね。

――相撲取りを使って、日本人の強さを暗にアピールしたわけですね。

堀辺　そういった記述が黒船の乗組員の日記やスケッチに残っているんだけど、どうも向こうの人たちから見ると、「なんだ、あんな裸でケツ丸出しのパンツ一丁で。あんなのは未開の国の野蛮人じゃないか」って、そういう感想しかなかったんです。

――つまり逆効果だったわけですか(笑)。

堀辺　逆効果だったわけ。この外国人に「未開の国の野蛮人」と思われたことが、相撲に変革をもたらす大きな原因になった。なぜかというと、開国したとき幕府が諸外国と条約を結びましたけど、これは関税自主権がなかったり、領事裁判権が相手国側にあったりという、不平等条約だったわけですよ。

――日米修好通商条約をはじめとするものですね。

堀辺　それに対して日本は、たとえば鹿鳴館で舞踏会を開いて、日本の婦人たちが西洋の人たちと同じようなドレスを着て、日本の男たちも燕尾服みたいな礼装をして踊って、「我々日本人はこういうことができるんだよ」「これだけ西洋化した、アジアの中ではとても進んだ国だよ」ということを認めさせて、その不平等条約をいち早く解消しようと図ったわけです。

――いわゆる欧化主義ですね。

堀辺　その欧化主義というのは鹿鳴館だけじゃなくて、あらゆるところで起こったんですよ。その反動で、逆に諸外国からバカにされる日本の古いしきたりや文化は、どんどん姿を消していった。だから開国して明治になると、政府から相撲廃止論というのが持ち上がったんです。

――相撲廃止論！

堀辺　つまり、ケツを出して異様な体型の人間が取っ組み合いをする相撲というのは、諸外国にバカにされている。日本の蛮風を廃止するべしっていう声が、政治家だけじゃなく、実業界や一般のいろんな人たちからも上がってきて、明治2～3年頃から相撲廃止論が起きるわけですよ。

――相撲など恥でしかない過去の遺物である、と。

堀辺　あんなものは廃止してしまえっていうね。それで鹿鳴館時代にはホントに法律で禁止されかねないぐらいの相撲の危機があったんです。これはもう『PRIDE』の危機どころじゃないよ！

――ガハハハハ！　確かに『PRIDE』は政府に禁止されてはいませんからね（笑）。

堀辺　相撲は政府が介入してぶっ潰そうっていうんだからね。それぐらい相撲は危機に陥ってたんです。

――それがどうやって、〝国技〟と言われるところまで復権したんですか？

堀辺　相撲廃止論が叫ばれる中でも、やっぱり一部の人たちからは「それはないんじゃない？」って反対意見も当然あったんですよ。あまりにも極端な欧化主義で日本人が日本人らしくなくなってきているんじゃないか、それは反省すべきだという声もあって。そして日清戦争や日露戦争に勝って、ちょっと日本人に自信が出てきた頃、日本古来のものを見直そうじゃないかっていう世相が出てきて。それで「先進国には各国それぞれ誇るべきナショナルスポーツがある。日本にもナショナルスポーツがあって然るべきじゃないか」っていう論が起きたわけです。

――ナショナルスポーツを持つことも、また、先進国の証である、と。

堀辺　だから、たとえば国旗なんかも先進国に追随するかたちで制定したんですよ。

――え!?　それまでは日の丸の国旗というのはなかったんですか？

堀辺　江戸時代は藩に分かれていたから、各藩の旗印はありましたけど、日本国そのものを代表するような国旗っていうものはなかったんです。それを明治になって西洋を意識して、幕末の頃に使いだした日の丸を国旗に定めたんです。西洋と対等になるためには国旗というものがないとおかしい、ということでね。

――なるほど。

堀辺　国歌もそうですよ。「どうやら西洋には国を代表する歌もある」ということで、平安時代からある詠み人知らずの「君が代」という詩に、雅楽的な曲をつけて国歌ってものが生まれたわけですね。だからナショナルスポーツ、つまり国技もそういったものと連動して生まれていったんですよ。

――では、相撲というのは西洋を意識して、明治時代にようやく〝国技〟になったわけですか。

堀辺　だから国技＝相撲というのは、じつは相撲の長い歴史の中から比べるとかなり短いんですよ。そして相撲が国技になって、何が変わったかというと、西洋の〝ナショナルスポーツ〟っていうのは、ちゃんとしたルールに則って勝負を競っていたわけですけど、それまでの相撲ってルールがちゃんとしてなかったんですよ。

――ルールすらちゃんとしてない(笑)。

堀辺　だから、いまの国技館でやってるようなルールがある相撲を、江戸時

代から300年近くもやってたなんて思ったら、それは大間違いですよ。明治時代になって、西洋人に笑われないようにルールをちゃんとして、勝敗を競うようになったのがいまの大相撲なんです。

――西洋かぶれの相撲なんですね（笑）。

堀辺　そう、ハッキリ言って西洋かぶれの相撲なんです。じゃあ、国技っていう名前がつく前の相撲ってどうだったかっていうと、遥か昔、平安時代の初期の頃なんかは農耕儀礼、神事だったんです。だから、たとえば相撲によって田んぼの神様、水の神様に占いを立てるというようなことが行なわれていて、勝敗も田んぼで相撲を取って、泥んこがいっぱい身体にくっついているほうが勝ち、とかね。

――バラエティ番組みたいな取組ですね（笑）。

堀辺　でも、神事ですから、大真面目なわけですよ。それから、ある神社の神事としていまも残ってるのはね、境内で相撲を取るんだけれども、相手がいないの。

――相手がいない？

堀辺　取組の相手がいない。では、誰と相撲を取ってるかっていうと、田の神の精霊と相撲を取ってるんですね。それで闘う演技をするわけです。

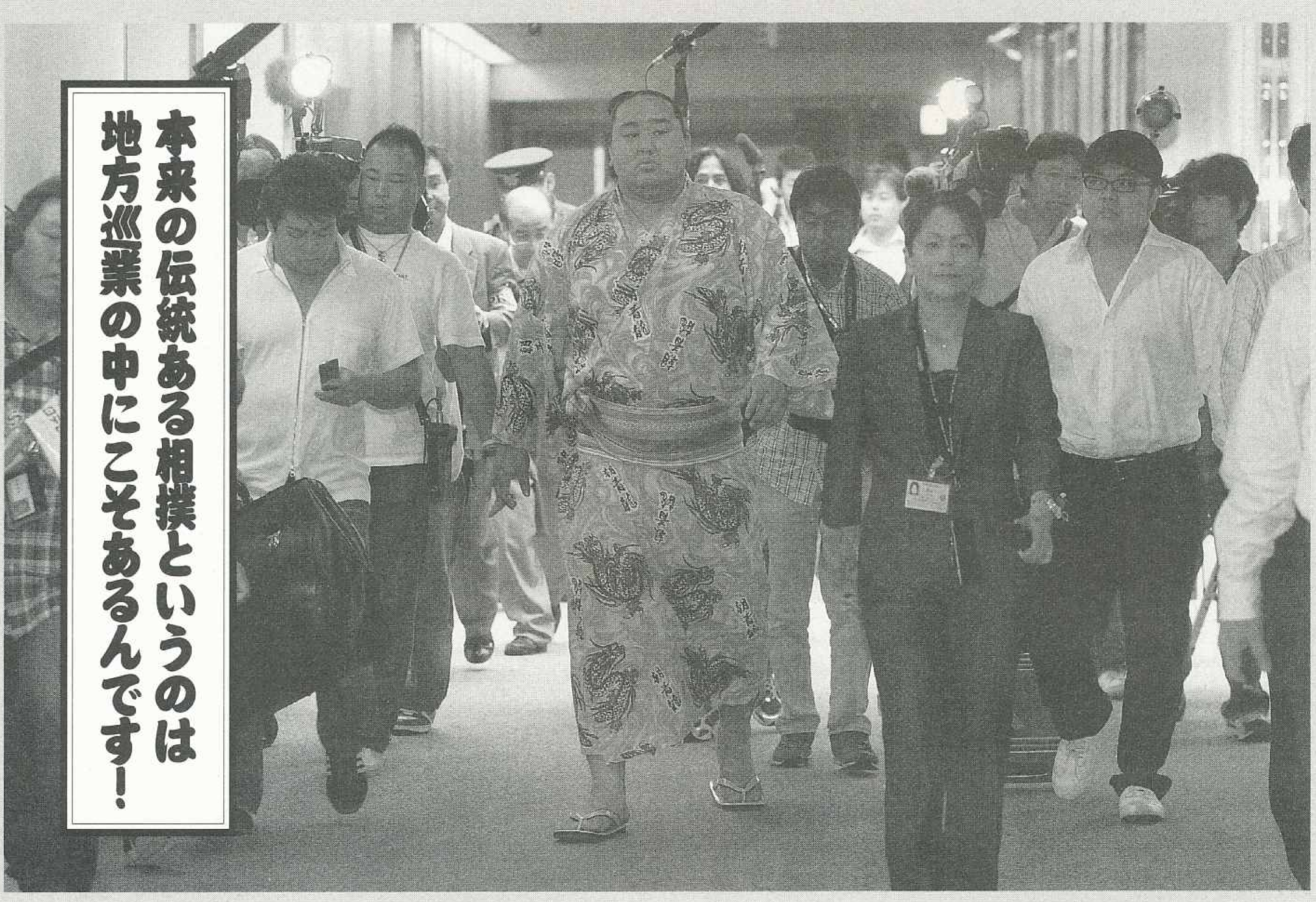
――つまり、透明人間と相撲をやってるみたいな感じなわけですか（笑）。

堀辺　そう、相手もいないのに上手投げで投げられたりね（笑）。で、ある神社で行なわれてる一人相撲は、必ず一勝一敗で終わるっていうのもあるんですよ。

――それは暗黙の了解というか。

堀辺　やっぱり神様に全部勝っちゃうと、田の神様の恨みを買って、豊作にならないかもしれないと考えた人たちが、あいだをとって「俺たちも勝つけど神様も勝つ」と。それで一勝一敗で終わるという儀式もあるわけです。またある地方では必ず人間が勝って、「勝ったから俺たちの願いを聞いてくれる」という考え方もある。だから同じ神事としての一人相撲も、さまざまなバリエーションがあったんですね。それともう一つは村と村との対抗戦的の形式の神事相撲っていうのもあった。

本来の伝統ある相撲というのは地方巡業の中にこそあるんです！



――それは燃えそうですねぇ。

堀辺　ほかの村から代表者を呼んで、村の代表同士が闘う。で、自分の村でやるときは、だいたい自分の村の人間が勝つようになってるんですよ（笑）。

――まぁ、そうなるでしょうね（笑）。

堀辺　だって、神事でやってるわけですから、負けちゃったらその村は豊作にならないってことになっちゃうわけですから。ヘタにほかの村の代表が勝ったりしたら、袋叩きにされるかもしれない（笑）。

――勝ったら生きては帰さん、と（笑）。

堀辺　となるとね、村の平和のためにも、なんとなくわかり合っていて、呼んだほうが勝つっていうのが慣習になってる相撲もあったんですよ。

――それは非常に……プロレス的ですね（笑）。

堀辺　だからプロレスは最近生まれたわけじゃなくて、遥か昔から相撲自体がプロレスを内包していたんですよね。だからね、大和朝廷の時代になると、朝廷が地方の強い人間たちを集めて七夕の日に相撲を取らせる相撲節というものがあって、約400年続いていたんです。それは、いまのモンゴル相撲のような形式で行なわれていたようなんですけれども、やはり神事とも結びついていましたから、その相撲節で勝った地方は豊作になる、という考えがあったんですね。

――力士たちは、地元の農業を背負って相撲を取っていたわけですか。

堀辺　ただ、たとえばある地方が去年干ばつにあって、米があんまりとれなかったとしたら、次の年もまた干ばつになったら困るでしょ？　そうするとね、朝廷の儀式の中で行なう相撲であっても、相撲取りはその地方から来る力士にわざと負けてやったりするんですよ。

――ダハハハハ！　天下泰平のためには片八百長も辞さない、と（笑）。

堀辺　そう、天下泰平のためにはそれは悪じゃないんですよ。相撲節というのは、一つの儀式であり神事であり、マジカルなものだから。そこで相撲を取って勝てば、地方に帰ったらそこの国は五穀豊穣、天下泰平になるっていうことをホントに信じてるから。もっとも厳格な国家行事として行なわれていた相撲節の中でも、そういったことがすでにあったんですね。

――星を譲ることも、大和朝廷の時代から続く一種の伝統だということです

本来の相撲は演劇的要素があった ある意味プロレスの先輩なんです

ね（笑）。

堀辺　で、だんだん朝廷の力が衰えてきて、武家が天下を取るようになると、今度は相撲が格闘技として応用されるんです。相撲を取ることが武士にとってどんな得があるかというと、戦場で矢がなくなって、刀でも殺せないときに、相手に組みついて押さえて首を刈るというときに相撲の技術が役に立つんです。

——白兵戦の技術だったわけですか。

堀辺　だから武家の時代になると、初めていまでいう柔術の元祖みたいな相撲が源平合戦の頃から生まれてくるわけ。その頃は鎧兜の防御率が発達して、だんだん刀とか弓矢とかでは死ななくなったんですよ。そうすると、押さえ込んで身動きできなくして、刀で首を切り落すというのが、源平合戦の頃のもっとも確実な殺し方だったんです。

——要はバックマウントを取ってチョークスリーパーみたいなことですか（笑）。

堀辺　そうそう、だから当時の武士は、普段から武家相撲っていう寝技があった相撲をやってたの。

——相撲に寝技があったんですか!?

堀辺　これは島津藩って西郷（隆盛）さんが出た藩で盛んで、幕末の明治近くになるまで鹿児島のほうの侍たちは寝技ありの相撲をやってたんですよ。

——じゃあ、グレイシー柔術の元祖は日本の柔術だって言われますけど、本当はさらにさかのぼって相撲なんですね。

堀辺　そう、相撲なんです。だからいろんな要素が相撲の中にはあるんですよ。江戸時代になってくると、今度は勧進相撲といって、木戸銭を取って見せるっていう専門家の相撲が誕生します。

——興行としての〝プロ相撲〟ですか。

堀辺　そう。そして武家の戦場での実戦格闘技というものから離れて、木戸銭を取って見せるってなったら、武家相撲で失なったような娯楽性ってものがまた復活したわけです。たとえばね、相撲取りの中でも美男子もいればブ男だっているわけです。そして美男子の相撲取りがいれば、江戸の女も見にくるわけですよ。でも、いくら美男子で人気があっても、負けてばかりいたらお客が来なくなりますよね。そうすると人気がある選手にお客を呼ばせるために勝たせるわけですよ（笑）。

——勝たせますか（笑）。

堀辺　江戸時代には厳格なスポーツって概念がないから、べつにそれをもって八百長だとか、ルール違反だなんて意識は、やってるほうも観てるほうもないわけ。もともと農耕儀礼の神事の中ですらそれがあったわけだから、「これはみんなが喜んでる。じゃあそうしよう」ということなんですよ。

——違反どころか、民のための〝善行〟ですらあった、と。

堀辺　もともと日本には、自分の村に豊作をもたらすためにわざと負けたりする伝統があるから、江戸時代の相撲っていうのは、勝負だけにこだわるのではなく、おもしろい相撲を見せるっていう意識が強かったんです。だから、取組の前に多少は打ち合わせしたりしたと思うんですよ。で、わざと転げそうになるんだけども転げないとか、笑いが出るような。いま地方巡業でもそういうのやってるんじゃないかな？　そういったおもしろい相撲をやってたんですよ。

——ドン荒川のプロレスのような花相撲をやっていたわけですね。

堀辺　だから国技館でやってる相撲だけが相撲だと思ったら、とんでもないんですよ。むしろ地方巡業のほうが、江戸時代から伝わる伝統の相撲に近いかもしれない。

——本来の伝統的な相撲は、地方巡業の中にこそある、と。

堀辺　いまでも相撲の地方巡業に行くと、お客さんが相撲取りの身体を触ったり、子どもを抱いてもらったりして、そういった交流がありますよね。それは日本人が昔から、身体の大きな人を稀人と呼んで、何か特別な力を持っていると信じていた信仰に基づいたものなんです。稀人に子どもを抱いてもらうと、そのパワーが子どもに乗り移って病気をしないとか、家庭が厄除けになるとか、そういう考えのもと行なわれてきた。だから地方を回って、おもしろい相撲で人々を楽しませたり、土地の人と触れ合ったりすることって、公益法人である大相撲にとって、とても大事なことなんですよね。その大事な地方巡業を横綱でありながら〝仮病〟でズル休みしたんじゃないか、という疑惑があるからこそ、朝青龍は批判されたんです。

——なるほど。「本場所で強いんだから、たまに巡業を休むぐらいいいじゃないか」という意見もありますけど、公益法人として本当に大事なのは、地方巡業のほうだ、ということですね。

堀辺　そうなんです。そして、朝青龍にそういった地方巡業の意味を理解させてないとしたら、親方や相撲協会の怠慢です！　それから、よく横綱には品格が必要だと言われますよね？　これはなぜかと言うと、江戸時代における横綱というのは、文字どおり特権階級だったんですよ。

——どういうことですか？

堀辺　江戸時代の特権階級というと、武士ですよね。だから武士以外は刀を差して歩くことは禁じられていましたけど、横綱だったら帯刀が許されていたんですよ。

——そうだったんですか。

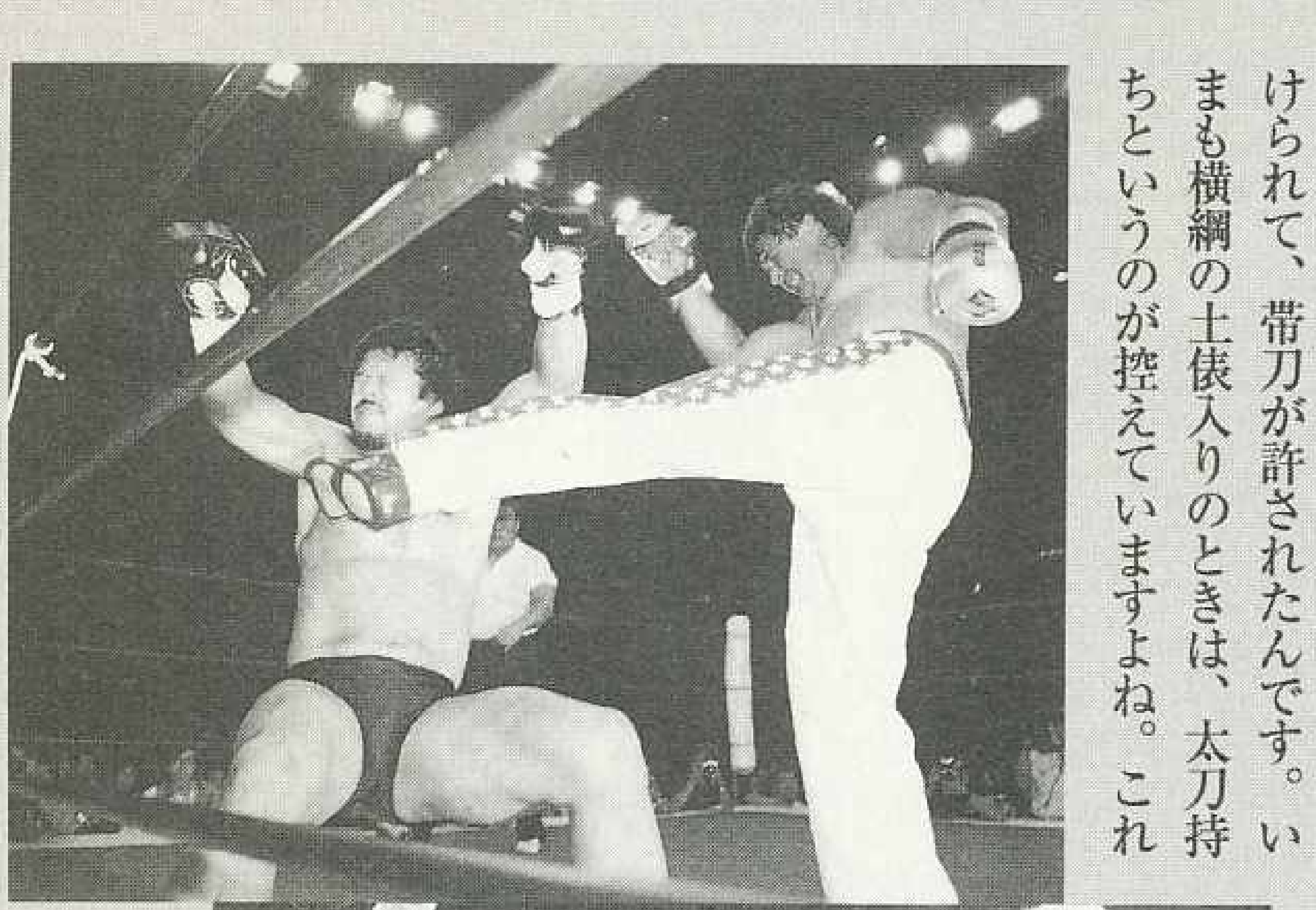
堀辺　なぜかというと、相撲は武芸でもありましたから、横綱ぐらいまでになったら、武士と同じ精神状態である、と。そういったことで横綱には刀が授けられて、帯刀が許されたんです。いまも横綱の土俵入りのときは、太刀持ちというのが控えていますよね。これは横綱が帯刀を許されていたことの名残なんです。

——へえ、おもしろいですねえ。

堀辺　だから横綱というのは、稀人でもあり、特権階級の人でもありましたから、武士に「士道」が求められたように、横綱にも規律と人格が求められたんです。そういうふうに相撲っていうのは単なるルールに基づいた勝負事じゃなくて、日本のさまざまな要素を全部濃縮して取り入れてる。ある意味では西洋からきたプロレスリングよりももっと早い時期に、じつは相撲のほうが見せる要素っていうのが長かったんじゃないかと思うんですよね。

——なるほど。よく言われるのがルールに基づいたレスリングがもともと西洋にあって、そこから商業レスリング、プロレスになったっていうことですけど、逆なんですね。

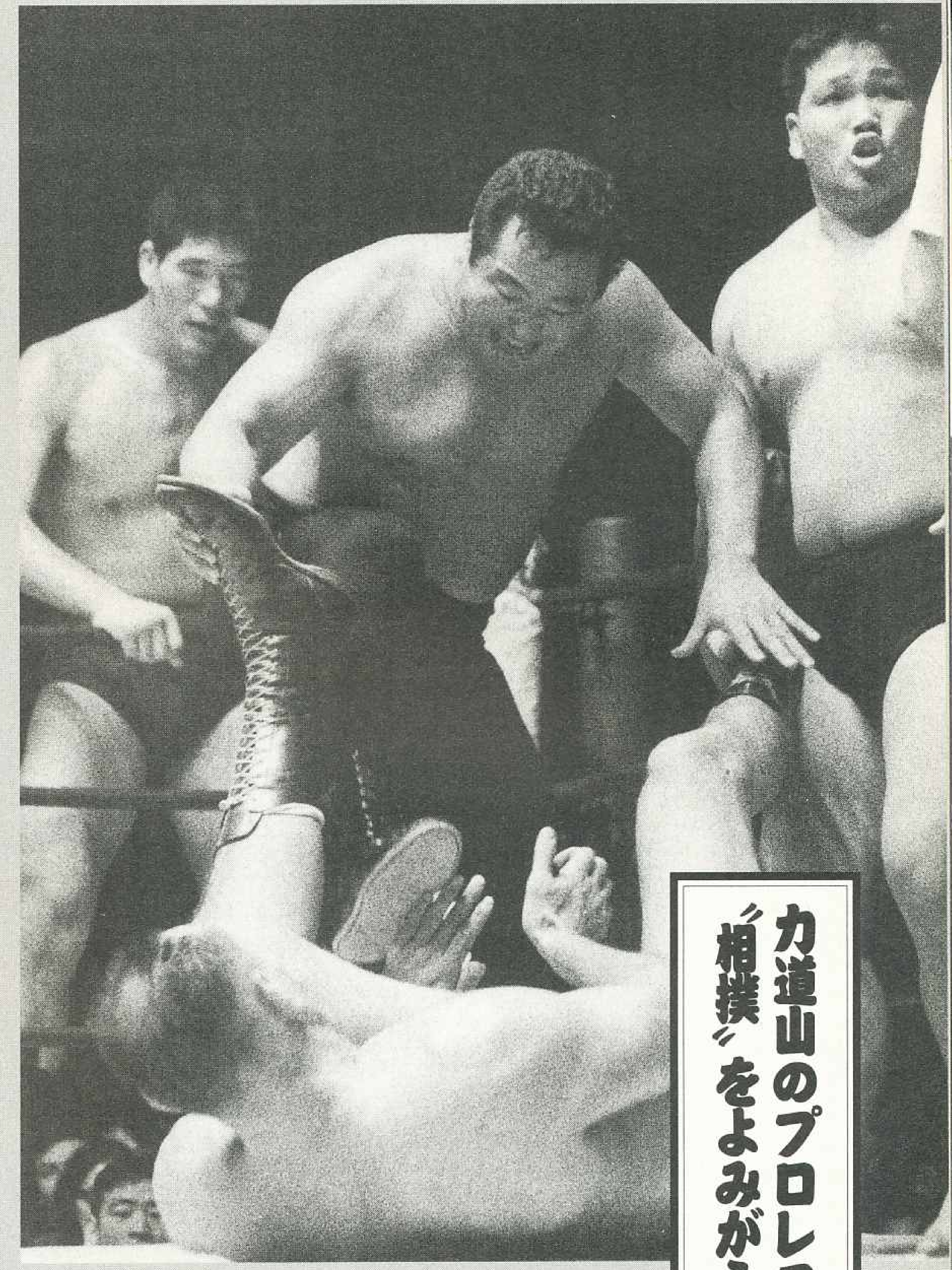
堀辺　相撲にはスポーツっていう厳格なルールに基づいた勝負事っていう以





多くのプロレスファンに勇気を与えた異種格闘技戦。プロレスのリングに格闘家を呼んで行なってプロレスラーが勝つこれらの試合も、村同士の神事としての相撲が現代によみがえったと言える。

力道山のプロレスは神事としての〝相撲〟をよみがえらせたんです！



外に、神事から発展した演劇要素というのがあった。いろんな人が幸せになるために演劇的相撲っていうのを展開したわけです。だから日本の相撲っていうのはプロレスよりもそういう部分では進んでいたとも言える。

――大先輩なんですね。

堀辺　大先輩かもしれない。日本プロレス界の父といえば力道山ですけど、力道山は皆さん知ってるように相撲取りから転向してプロレスラーになったわけですよね。でね、これを考えてほしいんですよ。力道山によってあの当時、どれだけ多くの日本人が勇気づけられたか。力道山のプロレスというのは、確かに厳格な勝敗を競うスポーツではなかったでしょう。でも、あのとき力道山がシャープ兄弟をはじめとした外国人レスラーたちに、とことんやられていたらね、日本人はあの敗戦を味わった中で「やっぱり俺たちは白人には勝てないんだ」って元気がなくなって、現在のような経済復興を成し遂げる原動力なんか生まれてませんよ。あれはまさにマジカルパワーが現代という社会の中で実現したんです。力道山が日本に〝豊作〟をもたらせたんですよ！

――なるほど。力道山のプロレスは、神事であった〝相撲〟を近代によみがえらせた、と。

堀辺　そう！　力道山がアメリカ人レスラーを空手チョップでバシャーッ、バシャーッとなぎ倒して最後に勝つでしょ。あれで日本の大人たちは溜飲が下がって「俺たちは戦争では負けたけれども、一人一人の力ではあんなアメ公どもに負けないものを秘めてるんだぞ」っていう勇気を得たんですよ。この力道山が与えた演劇とマジカルパワー、そしてそれを受け取った側の民衆という図式は、まさに古代の神事がかたちを変えて行なわれてた。私はそういう意味で力道山のプロレスっていうのは肯定できる！

――まさに〝八百長〟が悪ではなく、〝善行〟であったということですよね。

堀辺　力道山のプロレスは、国家を元気にしてくれた。戦後の日本の経済発展を促す一つの精神的な要因として、まさにマジカルとしか言えないようなパワーを力道山が国民に与えたわけですよ。それを善悪で語れるのか、と！

――スポーツの狭い概念だけで語るんじゃない、と。

堀辺　スポーツ？　それがどうした！　スポーツはスポーツでそれは素晴らしいですよ。でも、だからといって力道山が国民に与えたあのマジカルパワーを否定するのかと言いたい。そういう意味での相撲が持ってる豊かな価値観、それがプロレスには受け継がれてる。だからプロレスラーがルールに基づいたしっかりした勝負をしてないっていうことに対して、卑下だけになるっていうことは、これはハッキリ言って完全な西洋かぶれだね。

――逆に言ったら日本古来の伝統を守り続けてるわけですからね。

堀辺　そう、だからプロレスは、ある意味で相撲の先祖返りをしていたっていうことが見えるわけです。同じように、現在の相撲についても、それをただのルールに基づく勝負という狭い概念で考えていいのかどうか。相撲協会の人たちも、そういう狭い枠組に押し込められてしまって、それだけが唯一正当な相撲であるのはいかがなものか、と。伝統伝統というわりには、長い歴史の伝統っていうものを切り捨ててるんじゃないか、相撲協会は。相撲っていうのはこういう要素があったんですよっていうことを言っても、何も恥ずかしくない。西洋白人が考えた価値観だけがなんで正しいと言えるのかって言いたいですよ。そういう意味では力道山のプロレスというのは非常にいい〝相撲〟だったと言えるんですよね。あれはまさに昔の神事をやって、ホントに日本国民を勇気づけて、日本を豊作にしてくれたわけですよ。

――みんながその気になっちゃったわけですからね。

堀辺　だから誰もそれを否定することはできない。大相撲も「伝統」だとか「歴史」だとかって言うわりには、脳の髄まで西洋化しちゃってて、いつの間にか、その尺度でしかやってないって気がするんですね。国技っていう権威を与えてしまったことによって、逆に伝統がなくなってきてしまっているる。プロレスみたいにいろんな相撲があったっていいんですよ。もともと曖昧なものだったんだから！

――プロレスも相撲も〝スポーツ〟ではないことに、もっと誇りを持っていいわけですね。今日はありがとうございました！

【07年10月5日／東中野・骨法武術館にて収録】



ほりべ・せいし■1941年茨城県水戸市出身。50年に渡る命懸けの求道の末、喧嘩芸骨法、さらに全局面打撃制koppoを創始。格闘技・武道評論の第一人者として本誌や「わしズム」などでも活躍している。

PRIDEの"10年"は kamiproの"10年"!

10YEARSの"歩み"と"重み"はRADICALで読み解け!!

注 NO.92以降の「Kamipro」はこちらでは取扱いがありません。http://www.enterbrain.co.jpでお買い求めください。

バックナンバーは電話で注文できます!

03-5368-1797

販売元 (株)ダブルクロス 平日 13:00~19:00



no.5 "世紀の一戦"! 髙田vsヒクソン戦直前号

no.27 "伝説の死闘"90分! 桜庭、ホイスに完勝!

no.44 桜庭、再びヴァンダレイの前に撃沈!

no.55 髙田、引退試合で"運命の男"田村と激突!

no.62 ミルコ初表紙! PRIDE新体制で"REBORN"!

no.75 『PRIDE GP』に小川、吉田、桜庭が集結!

no.86 『PRIDE』の"本場所"、ミドル級GP開戦!

no.87 吉田、ヴァンダレイに敗戦も初表紙をゲッツ!

元祖! 紙のプロレス BACK NUMBERはすべて50%OFF

特集 神秘とは何か?
no.14 780yen⇒390yen
佐山聡・大槻ケンヂ・プロボディガード清水白鳳・鈴木みのるたち格闘神秘を膨らます!/遠藤幸吉インタビュー

特集 インディペンデントの逆襲
no.15 780yen⇒390yen
あんた誰? 山口日昇試練のインディ・レスラー10番勝負!/K-1とは何か? 石井館長・ターザン山本・サダハルンバ

特集 実況パワフル北朝鮮
no.17 780yen⇒390yen
あの北朝鮮での「平和の祭典」を語りまくる! アントニオ猪木&永島勝司・村松維親・破壊王・ブル中野

パンクラス公式読本「矛」「盾」
各1260yen⇒630yen
97年当時のパンクラシストが勢揃い!! ゴッチさん、佐山聡、なぜか馬場さんも登場するパンクラス公式読本二部作!!

紙のプロレス RADICAL no.16~87

格闘ノストラダムス!
no.16 780yen '99.03
[表紙:エンセン井上] アントニオ猪木、環境問題を『紙プロ』で語る!/引退後初! 前田日明インタビュー/石川孝司

"新"プロレスとは何か?
no.32 840yen '00.10
[表紙:小川直也] 田村潔司に快勝! A・ホドリゴ・ノゲイラ/ドラゴンの大爆笑10 藤波語録/ラッシャー木村

『猪木祭り』いよいよ開幕ーッ!
no.34 840yen '01.01
[表紙:小川直也] 田村潔司に快勝! ノゲイラインタビュー/ドラゴンの大爆笑10 藤波語録/ボブ&オバチャンチン

純プロレスを徹底検証!
no.35 840yen '01.02
[表紙:サクマシン(イラスト)] ZERO-ONE本格始動 橋本真也/プロレススーパースター列伝 ジョー樋口/杉浦貴

燃えよ、闘魂の火種!!
no.36 840yen '01.02
[表紙:橋本真也(イラスト)] ノアから独立! 高山善廣を確認せよ!!/ヴォルク・ハン——ノゲイラに狼の伝言

小川直也は是か非か?
no.38 840yen '01.05
[表紙:髙田延彦(イラスト)] 忘れ物の正体は。髙田延彦/ヴォルク・ハンの最強の遺伝子E・ヒョードル

前田日明は是か非か?
no.39 840yen '01.06
[表紙:前田日明] 前田道場新エース・金原弘光/怪物か!? それとも…… 藤田和之座談会/壮絶なる格闘人生・藤原敏男

地上最強のプロレスとは?
no.40 880yen '01.07
[表紙:アントニオ猪木] 蘇れ! Uインター&キングダム伝説! 高山善廣×金原弘光/熱いこの叫びを聞け! 大谷晋二郎

"最後の黒船"WWF来襲!!
no.41 880yen '01.08
[表紙:ビンス・マクマホン・ジュニア] リングス10周年! ヴォルク・ハンが振り返る/真樹日佐夫×三池崇史

アントンパワー大爆発!!
no.42 880yen '01.09
[表紙:アントニオ猪木] ドン荒川×橋本真也のトンパチ伝承対談/"ヒャッホーの真実"辻よしなり/高山×宮戸×金原

聖戦『PRIDE.17』迫る!!
no.43 880yen '01.10
[表紙:桜庭和志] ブラジリアン・トップチーム 3大柱インタビュー/金原弘光×サスケの新日本プロレス学校同窓会

サク連敗と『PRIDE』の未来
no.44 880yen '01.11
[表紙:桜庭和志、ヴァンダレイ・シウバ] その修羅場の数々! シーザー武志/怪物伝承対談! 高山善廣&杉浦貴

一寸先はハプニング!!
no.45 880yen '01.12
[表紙:アントニオ猪木(ホームレス姿)] 悪魔の書、現る! ミスター高橋/ジェラルド・ゴルドー人生相談

田村潔司、『PRIDE』討ち入り!
no.46 880yen '02.01
[表紙:田村潔司] さらばリングス! 金原×和田、浅草キッド/ならず者DEEPで勝利! エル・カネック/キラー・カーン

WWE日本侵攻、5秒前!
no.47 880yen '02.02
[表紙:ビンス・マクマホン・ジュニア] "天才"武藤敬司が『紙プロ』驚愕の初登場!/噂の馳浩がミスター高橋本を語る!

桜庭、満開の日は近い!
no.48 880yen '02.03
[表紙:桜庭和志] 奇跡のメガトン対談! 小川直也vsノゲイラ&スペーヒー/和田最強伝説が遂に現実に! 金原弘光

究極の格闘技大戦争勃発!
no.49 880yen '02.04
[表紙:ミルコ、ヒクソン、小川、桜庭] 和田さん快勝記念鼎談! 高山&金原&和田/菊田早苗とは何者か!?

50号記念企画てんこ盛り号
no.50 880yen '02.05
[表紙:桜庭和志] 「地方発世界」開始! 小川&橋本/リングスロシア軍団の軌跡/パンクラス取材解禁!

揺るぎなきプロレスの確立
no.51 880yen '02.06
[表紙:橋本真也] 両国国技館だよ、全員集合! 橋本真也/『PRIDE』の魅力をマン開! 小池栄子/武藤敬司人生相談

戦慄の『LEGEND』前夜!!
no.52 880yen '02.07
[表紙:橋本真也、小川直也] 全身プロレスラー・高山善廣/USAの渡世人ドン・フライ/ロシアン・トップチーム

『Dynamite』ド直前号!
no.53 880yen '02.08
[表紙:桜庭和志] ノーフィアー×無謀美・対談!! 高山善廣×美濃輪育久/独占肉弾スクープ! マット・ガファリ

『Dynamite!』を大総括!
no.54 880yen '02.08
[表紙:アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ] "首の皮一枚" ホイス&エリオグレイシー/ジョシュ・バーネット

髙田vs田村、夢限大の真剣勝負!
no.55 880yen '02.10
[表紙:髙田延彦] 「真剣勝負」発言から7年、田村潔司が激白!/金原が『PRIDE』参戦!/メガトン級の男、ボブ・サップ!

驚ガクの6周年記念号
no.57 840yen '02.11
[表紙:高山善廣] サップとタイマン勝負!! 高山善廣/新たなる"U"が始動!! 田村/ミスター高橋×大槻ケンヂ

夢の対談、大連発号!
no.58 880yen '03.01
[表紙:武藤敬司&船木誠勝] 夢幻のファンタジー対談 武藤×船木/Uスタイル対談 田村×髙阪/宮戸×安生×鈴木健

最後の皇帝、『PRIDE』上陸
no.59 880yen '03.02
[表紙:エメリヤーエンコ・ヒョードル] いざノゲイラ戦!! E・ヒョードル/アメリカン・ドリーム ダスティ・ローデス

『PRIDE』は変貌&再生する!
no.60 880yen '03.03
[表紙:エメリヤーエンコ・ヒョードル] ノゲイラ撃破!! E・ヒョードル/驚愕の格闘芸術対談!! 武藤敬司×須藤元気

ゼロワンvs新日5.2戦争!
no.61 880yen '03.04
[表紙:橋本真也&小川直也] 裏番組をブッ飛ばせ! 橋本真也×小川直也/1年間の沈黙を破った!! ヴォルク・ハン

ミルコの首をカッ斬ってみろ!
no.62 880yen '03.05
[表紙:ミルコ・クロコップ] ヴァーと登場! 佐々木健介/現役復帰? 船木誠勝/ヒョードルが藤田を一刀両断!

マット界、超絶リボーン!!
no.63 880yen '03.06
[表紙:橋本真也&小川直也(イラスト)] 「お前は男だ」劇場炸裂! 髙田延彦/『PRIDE』REBORNを大総括!!

PRIDEミドル級GP直前!!
no.64 900yen '03.07
[表紙:桜庭和志] "異次元格闘技戦戦" 田村潔司×吉田秀彦を大展望!!/『PRIDEミドル級GP』出場全選手インタビュー

皇帝vsミルコ闘争本能決定戦!
no.65 880yen '03.08
[表紙:ミルコ・クロコップ] 最後の皇帝大炎上! ヒョードル/ミルコついに皇帝戦へ/闘魂ストーカー、イズマイウ

ミルコ『武士道』電撃出陣!
no.66 880yen '03.09
[表紙:ミルコ・クロコップ] ミルコ緊急インタビュー/マッハを破った男、長南亮登場!/『東スポとは何か?』

ミルコvsノゲイラ、迫る!!
no.67 880yen '03.10
[表紙:ヴァンダレイ・シウバ] ノゲイラ戦緊急インタビュー! ミルコ/『PRIDEミドル級GP』決勝戦インタビュー

大晦日・格闘技大戦決定!!
no.68 880yen '03.11
[表紙:髙田延彦PRIDE統括本部長] 大晦日三つ巴決戦に出撃宣言! 髙田延彦/曙とは何者か!?/桜庭和志

『ハッスル1』開催ド直前!
no.69 900yen '03.12
[表紙:橋本&小川] 出てこい! 泣き虫! 橋本&小川/『泣き虫』著者、金子達仁登場!/田村潔司/美濃輪育久

04年末の格闘戦争を大総括!
no.70 880yen '04.01
[表紙:ミルコ・クロコップ] シウバに近藤有己が宣戦布告!/健介&北斗WJの真実を語る!/紙プロ大賞&語録発表

『ハッスル2』で大フィーバー!
no.71 880yen '04.02
[表紙:ハッスルイラスト] 『PRIDE GP』優勝宣言! ミルコ&ノゲイラ/川田利明初登場!/猪木vsアミン戦の真実

『PRIDE』に格闘ロマンを見よ!
no.72 840yen '04.03
[表紙:ヒョードル、ミルコ、ノゲイラ] GPの大本命をオランダでキャッチ!! エメリヤーエンコ・ヒョードル/山本KID徳郁

最も過酷な道を行く男!!
no.73 880yen '04.04
[表紙:小川直也] GP出場決定、緊急インタビュー! 小川直也/PRIDE・GP出場全選手 パーフェクトガイド

感じろ、ハッスル魂!!
no.74 880yen '04.05
[表紙:小川直也] PRIDE・GPでハッスル成功! 小川直也/リベンジロード発進!! 桜庭和志/ミック・フォーリー

英雄誕生の気運高まる!!
no.75 880yen '04.06
[表紙:小川直也、桜庭和志、吉田秀彦] シルバ戦直前に大ハッスル宣言! 小川直也/奇蹟の独占インタビュー! 髙田総統

プロレス爆発へ最後の挑戦!
no.76 880yen '04.07
[表紙:桜庭和志] 小川の"盟友"と"宿敵"が奇蹟の対談!! 破壊王×ノゲイラ/厳しくも、飄々と戦路を進む! 桜庭和志

小川vsヒョードル決定!!
no.77 880yen '04.08
[表紙:小川直也] 「相手がヒョードルだろうと俺はハッスルする!!」小川直也/狙うは皇帝の首ひとつ! ミルコ

PRIDE GP徹底総括号
no.78 840yen '04.09
[表紙:小川直也] 衝撃の敗戦直後、独占インタビュー! 小川直也/小川の敗戦をどう見る!? 髙田延彦/谷川貞治

髙田総統がビターンと降臨
no.79 840yen '04.09
[表紙:髙田総統] キャプテンに休息無し! 小川直也/特別付録・髙田総統ポスター/谷川さんも推薦『曙は是か否か?』

守護神ミルコが外敵狩り!
no.80 880yen '04.10
[表紙:ミルコ・クロコップ] ミルコ独占インタビュー/ハッスルお家騒動、小川直也/「袋とじ企画」グリズリー岩本

究極のSADAME、迫る!!
no.81 880yen '04.10
[表紙:桜庭和志] ヒョードルの弱点を発見!? ノゲイラ&ノゲイラママ/新日本でハッスル成功! 小川直也/草野仁

男たちの祭りは激化する!!
no.82 890yen '04.12
[表紙:桜庭和志] "道場破り"の全てを激白! 安生洋二/WJの秘密を大暴露! 永島勝司×ターザン山本!×吉田豪

ミルコ激白! 打倒皇帝!
no.83 880yen '05.01
[表紙:ミルコ・クロコップ] 04年『PRIDE男祭り』を大総括/05年ハッスル大進撃発表! 小川直也/橋本×船木対談

RTTが皇帝に宣戦布告!!
no.84 880yen '05.02
[表紙:セルゲイ・ハリトーノフ] "殺人落下傘"が3強越え宣言!! セルゲイ・ハリトーノフ/田村潔司がPRIDE GPを語る

『PRIDE』vs『HERO'S』開戦!
no.85 860yen '05.04
[表紙:前田日明&髙田総統] PRIDE GP2005特集 桜庭、田村、髙田/パンクラス2大王者対談 高坂剛×近藤有己

PRIDE GP直前大解剖号
no.86 860yen '05.04
[表紙:ヴァンダレイ・シウバ] 大物再会! 超U級対談が実現!! 船木誠勝×田村潔司/ダンプ松本が全女解散を語る!!

PRIDE GP開幕&大総括!
no.87 860yen '05.05
[表紙:吉田秀彦] 敗れてなお咲く花あり! 吉田秀彦/船木誠勝×宇野薫/金原弘光×池田大輔

通販方法 ▼No.91までのバックナンバーは書店で扱っておりません。下記の通信販売をご利用ください。
①『kamipro Hand』で注文 ②電話注文 03-5368-1797 ③メール注文 kapra@kamipro.com

※通販方法はすべて代引きとなります。手数料は315円です(代引き金額によって異なります)。 ※送料は一律500円(何冊でも可。離島山間部は除く)となります。 ※郵便振替は現在受け付けておりません。ご了承ください。

新 卓球少女(似)松下ミワの ハガキ愛ランド

誰に何を聞かれても「別に……」と答えたくなる今日この頃ですが、そんな反抗期はいますぐやめてください!!　そんなことをしていると、電信柱の陰で見ているさゆりちゃんが泣いてしまいますよ。それでは、今号も秋晴れのようにさわやかにスタートしましょう!　3、2、1、腕組み、腕組み、う〜、謝罪文!!(達筆)。

kami-pro115号へのお便り紹介

ミルコ・クロコップ引退危機の記事がおもしろかった。ヒョードルの言葉どおり、これで終わってしまうにはもったいない。ガンバレ、逆襲のターミネーター!!

【石川県・浅井清治さん・会社員・35歳】

⬇ゴンザガ戦でのKO負けの〝後遺症〟が、チーク・コンゴ戦の敗因につながったと全権代理人の今井氏は語っていましたが、今後はどんな復活劇を繰り広げてくれるのでしょうか?



曙インタビューがおもしろかった。なんだかんだいろんな人に言われても、曙も本当に頑張っていることが感じ取れたので、よかったと思いました。

【広島県・岡部怜央さん・学生・16歳】

⬇本当にヨコヅナの精神力は、あらゆる意味で半端ないと思いました。カメラを見下げるド迫力の写真撮影には、「オレ、キャラ変わってない?」と言いつつも、ノリノリで応じてくれました〜。どすこい!

獣神サンダー・ライガーと船木誠勝の対談には感心した。世間が時津風部屋の問題で揺れている昨今、二人の新人教育は何か考えさせるものがありました。それにしてもマッドネスだ。

【神奈川県・廣木和宣さん・会社員・42歳】

⬇ライガー×船木の対談は大好評でしたが、同様のご意見多数!　でも、あれだけ〝しごき〟を受けても、なおライガーを慕う後輩は、本当に人としての器が大きいと思います。

古今東西　ステロイド番付の記事がおもしろかった。80年代に活躍したスーパースターたちの名前にショックを受けたと同時に、なぜか納得……。○○番付は今後の『kami-pro』でもシリーズ化してほしい。

【大阪府・太田明広さん・公務員・38歳】

⬇筋肉好きの人間としては、ステロイドを全否定する気持ちにはあまりなれませんが、本当に皆さん、死なないでほしいと思います。



武蔵を優勝させる会結成!! の記事が最高だった。私も入会したいですね。決勝トーナメントにリザーバー戦から参戦して優勝すれば、まさに「谷川マジック、ここにあり」を証明できそうです。そのためにも韓国ツアーのホスト役の絵は必要なんでしょう。

【兵庫県・春名義行さん・会社員・40歳】

⬇韓国ツアーどころか、来年1月には、「武蔵、TOMO、安廣と楽しむボルネオ島ツアー」まで計画されています。〝武蔵を優勝させる会〟入会への第一歩として、『kami-pro』読者の方々も応募してみてはいかがでしょう〜。

口伝カール・ゴッチの記事がよかった。MMAとカール・ゴッチがもしも同時代に対峙していたら……という幻想にかられました。「全員、皆殺し」発言といい、ドイツのことわざといい、恐るべし!

【栃木県・稲葉修さん・会社員・35歳】

⬇〝プロレスの神様〟として多くの人に慕われているカール・ゴッチも、ちゃんと自分で洗濯するんですねえ。そういう部分も含めて、なんだかステキです!

ゴング分裂騒動の真実特集がおもしろかった。2冊とも買いましたが、私はGリング派です。Gスピリッツは本が重すぎて、長時間読めない!　あと、なぜかターザン本がほしくなった……。

【兵庫県・重岡政範さん・会社員・31歳】

⬇ターザン本がほしい方は、文字の大きい『「週刊ゴング、ファイト」を殺したのは誰だ!』を買って読んでみてはいかがでしょうか?

ロレンゾ・フェティータの記事があったので驚いた。日本での『PRIDE』はロレンゾ氏から「再開したら選手はそろえる!　今年中、または来年」と言っていたので、オーナー自身の言葉を信じたいと思います。

【福島県・紺野春樹さん・会社員・27歳】

⬇信じるものは、救われない!?　これまでまったく音沙汰がなかった『PRIDE』ですが、10周年目前でまさかの日本事務所閉鎖。これにはいろんな意見があるようですが、「ざまあみろ!」とかは、思っていても口にしないように〜。

プロレス探検隊、NO・1ダンスはどっちだ!? の記事がよかったです。理由は、長州小力が好きだからです。

【神奈川県・福士裕悟さん・フリーター・24歳】

⬇GK隊長、小松隊員の二人に加え、上井駅長、ともちゃんもプロレス探検隊に加入!　しかも、今号では、なんと!!　あのK—1MAX王者、アンディ・サワーが率先して入隊したいとおっしゃっております!　凄いぞ、探検隊!!

やっぱり今回もマサ斎藤がよかった。まさに、マサワールド!　60〜70年代のアメリカンロックが聞こえてくる感じがして最高です。

【東京都・宮村龍一郎さん・会社員・48歳】

⬇前々号に引き続き、前号でもマサ斎藤インタビューは大評判!　おかげさまで、『kami-pro』通販のマサ斎藤Tシャツも売れ行き好調です。マサファンの皆さま、売り切れる前に、ぜひ買ってくださいね〜。

115号・おもしろかった記事ランキング

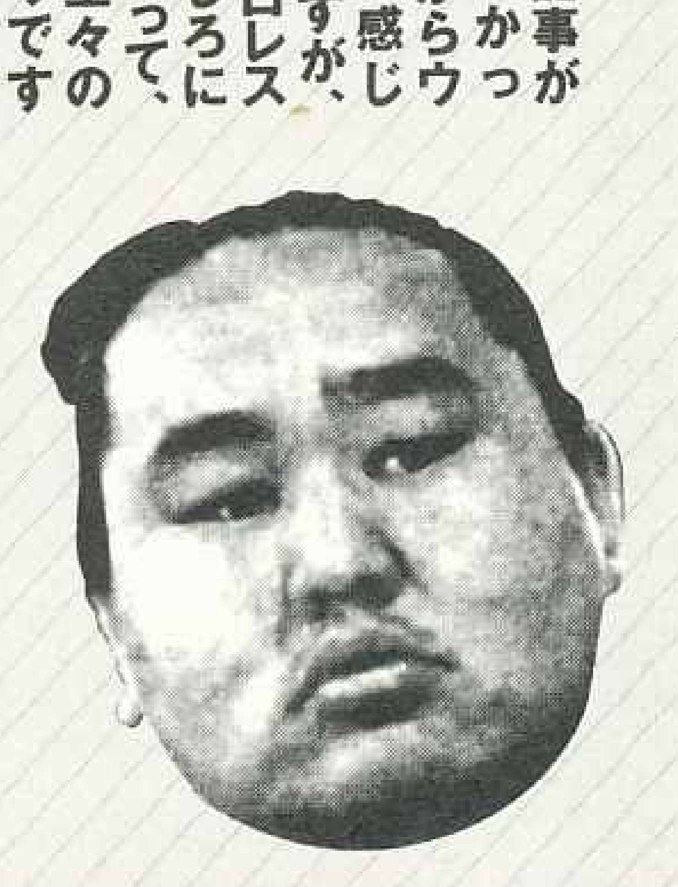
順位	記事
1位	マサ斎藤
2位	カール・ゴッチ特集
3位	獣神サンダー・ライガー×船木誠勝
4位	ゴング分裂の真相
5位	朝青龍騒動

前編でも2位に入ったマサ斎藤さんが、後編で堂々のトップに!　マサイズムに憧れる男性票の支持をかなり得たようです。3位のライガー×船木の対談は、今号でもぶっちゃけトーク炸裂!!　4位のゴング分裂の真相特集にもかなりの注目度がありました。5位の朝青龍騒動は若干時期外れになりましたが、あいかわらず角界は大わらわ!　今号では堀辺師範も相撲を語っていますよ。

朝青龍の記事がおもしろかった!　目からウロコという感じでした。さすが、モンゴルプロレス協会がうしろにいるだけあって、朝青龍は堂々のヒールぶりですね!　この記事を読んで以来、高砂親方がキュートに見えてしかたがありません!

【宮城県・壽柴さん・無職スレスレ・36歳】

⬇先月のワイドショーは朝青龍一色でしたが、〝かわいがり〟問題で、もはやそれどころではありません!　でも、「朝青龍、腰&ヒジ、完治!」のニュースには、やっぱりしびれてしまいましたが。



UFCは広さ、形状、金属とロープの違いだけで、これほど闘いの様相が変わるとは思わなかった。素人には見えなかったところなのだろう。ミルコだけでなく、ノゲイラもナーバスに見えた、と聞いている。ミルコはいままでで最もキツいだろうが、ギリギリまであがいてよみがえってほしい。克服するのはたいへんだと思うが……。

【東京都・佐藤望さん・会社員・46歳】

⬇ブレイクとストップ・ドント・ムーブがほとんどないUFCは、慣れない選手にとっては息つく間がなくしんどいのでしょうか?　そんな中でも、やっぱり勝ってしまうノゲイラなんかは本当に凄いファイターなんだなあと思ってしまいますね。ヴァンダレイは大丈夫かな?

今回はIGFのページがちゃんと作ってあってよかったです。それにしても、田村のキックを受けても微動だにしないモンターニャって……。恐るべし!!

【kami-proHand投稿】

⬇結果的に、田村に負けてしまったモンタは、後日IGF宛に「あれは誤審だ!」と手紙を送付!　それにしても、なぜIGFにはこんなに頻繁に〝手紙〟が届くのでしょうか?

ゴッチい散歩の地図を見て驚きました。これ、ボクの家の近所でした!　もしかしたら、ゴッチさんと会っていたかも知れない。

【kami-proHand投稿】

⬇ちなみに、ゴッチい散歩はテレビ朝日の『ちい散歩』を参考に構成しております。皆さま、気づきましたでしょうか?

おもしろくなかった記事=GKスペシャル・プロレス探検隊。理由=迷走している(夏目ナナのときはよかった)。

【山形県・佐藤真英さん・会社員・31歳】

⬇たいへん厳しいご意見、ありがとうございます。



埼玉県・蘇蟹さん
➡今回、蘇蟹さんからは23枚ものハガキが届きました！　しかも、ほとんど『kamipro』と縁遠いイラストばかり……。謎の森嶋ブーム（本誌読者コーナー内）の震源地はココか!?

スクープ! ザ・目撃!!

●僕の最寄り駅、武蔵小杉ではエル・サムライ選手（素顔）をよく見かけることができます。パチンコとガストが好きなようです。先日もボストンバッグを片手にハンバーグを召し上がってました。すれちがうたびにサインをもらおうか悩みます。
【kamipro Hand投稿】

●10月10日、『ハッスル』を観に後楽園ホールに行きました。すると、チケット売場のところで高見盛関を発見したのですが、なんと！　当日券を買って会場に入っていくではありませんか!!　イベントが始まってからもボクは高見盛関の動向を目で追っていたのですが、モンスター・ボノが登場すると、手を叩いて応援していました。なんていい人！
【kamipro Hand投稿】

●もう、ずいぶん前ですが、ボクが務める会社付近で全日本プロレスの平井伸和選手を発見しました。平井選手があまりに町に溶け込みすぎて、最初はかなり近くにいたのに気がつきませんでした！　あとで「がんばってください」と言えばよかったなと後悔しました。
【kamipro Hand投稿】



●六本木でまたまたマーク・コールマンに会いました。英語が苦手な私にも、ゆっくりと話しかけてくれました。とっても紳士です！
【神奈川県・大内和彦さん・会社員・33歳】

●先日、ボクが務めるプロレス＆格闘技雑誌の事務所の1Fで、あの土屋アンナさんがインタビューを受けているところを目撃してしまいました。編集部の人間に伝えたら、若干、編集部内がソワソワしていました。
【東京都・阿修羅チョロさん】



埼玉県・中川“画伯”雅博さん・イラストレーター・29歳
➡ひさびさに“画伯”からイラストが届きました。ありがとうございます！「辻結花選手はやっぱりステキ！」というラブコール入りでした〜。



長野県・市川学さん
➡前号の表紙になったお二人ですが、イラストにコピーまで乗せていただいて、ありがとうございます。……よくわからないけど。



さあ、明るい未来への列車に乗ろう! 上井駅長の人生相談

さあ、今号も人生のすべてを知りつくした上井駅長にお悩みを解決していただきましょう！　さて、今回は、恋のお悩みのようです。上井駅長、ズバリと解決してやってください!!

女性のフリ方を教えてください

お悩みごと

■恋愛に関する相談
（埼玉県・タケシさん・18歳・♂）

いつも楽しく読ませていただいてます。じつは、先日、ある女の人から告白されてしまいました。しかし、たいへん贅沢な悩みなのですが、ボクはほかに好きな人がいるので、彼女からの申し入れは断ろうと思っています。ただ、人に告白されたのは初めてなので、どうやって断ったらいいのかがボクにはわかりません。そこで上井さんに相談です。どんな方法で返事をするのが一番彼女を傷つけなくてすむでしょうか？　平和的解決法を教えてください！

上井駅長

「告白されたの!?　凄いじゃない!!　いや、でもねえ、断ることは傷つけるよ、絶対。気を使うことはいいことだけどね。あのー、女も一緒ですよ。それに、女の子が告白したってことはたいへんな勇気がいることだったと思うのよ。そこを評価してあげないといけない。うん。だから、できるだけって言うのはおかしいけど、いまの現状を正直に『二股をかけることはボクはできません！』ってハッキリ言うか、オブラートに包んでね、『ボクは恋愛ごとはいまは考えられない』とか言うか、どっちかだろうねえ。でも、どんな断り方しても傷つくよ。断られた時点で全身の力が抜けるのよ。失恋ってそんなものだから。だって、自分じゃ淡い期待を持ってるんだから。告白するってことは、ひょっとしたら『まずお友だちからお付き合いができるんじゃないかな』とか、ドキドキしながら言ってるんだよ！　心臓が破裂するくらいにね！　18歳ってそう!!（語気を強めて）。え？　ボク!?　まあボクだったら……、面と向かって『気持ちは嬉しいですけど……』って言うかなあ。『切羽詰まった気持ちをボクに言ってくれてありがとうございました！』ってね。それが、面識がある人で自分の生活圏内にいる人だったら絶対に会って言ったほうがいいよ！　会ってさわやかに断るほうがいい。それは勧める！　うん、会うこと！　いずれにしたって『うん』って言わない限りは心のしこりは残るって。だから、次会ったときに『こんにちは』ってさわやかに挨拶できるような関係にしておくべきだよね！　うんっ!!」

タケシさん、おわかりになりましたでしょうか？　ここはぜひ勇気を振り絞って直接お断りを入れてみてください
※人生相談ドシドシ送ってください！　宛先は左記までお願いします!!

おハガキ募集!!

どんどんおハガキください！ケータイからでもOK!!

ご意見、ご感想、苦情、抗議、お悩み、ダメだし、ほめ殺しなど、どんなことでもけっこう！お便り、お待ちしています！

こんな情報お待ちしています！

●ザ・目撃!!
●おもしろ写真投稿
●選手に対するご意見、試合の感想
●その他、世の中に訴えたいことがあればなんでも!!

以上、すべてのお便り・イラストの宛て先＆メールアドレスは
radical@kamipro.com
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6 パレ・ジュノ2F
（株）ダブルクロス　kamipro編集部
「母激怒!!」係まで。
携帯サイト『kamipro Hand』からの投稿もできます。



マット界の日程、そして情報をツープラトンで一網打尽!!

kamipro よろず情報局

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

Calender & Information

Fight & Event October 10

4 SUN.
◆DRAGON GATE／三重・四日市オーストラリア記念館(18:00)
◆大日本／青森・問屋町ビッグサイト(13:00)
◆El Dorado／青森・問屋町ビッグサイト(17:00)
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ(14:00)
◆R.I.S.E.／北海道・セントラルウェルネスクラブ札幌(未定)
◆NEO／東京・後楽園ホール(12:00)

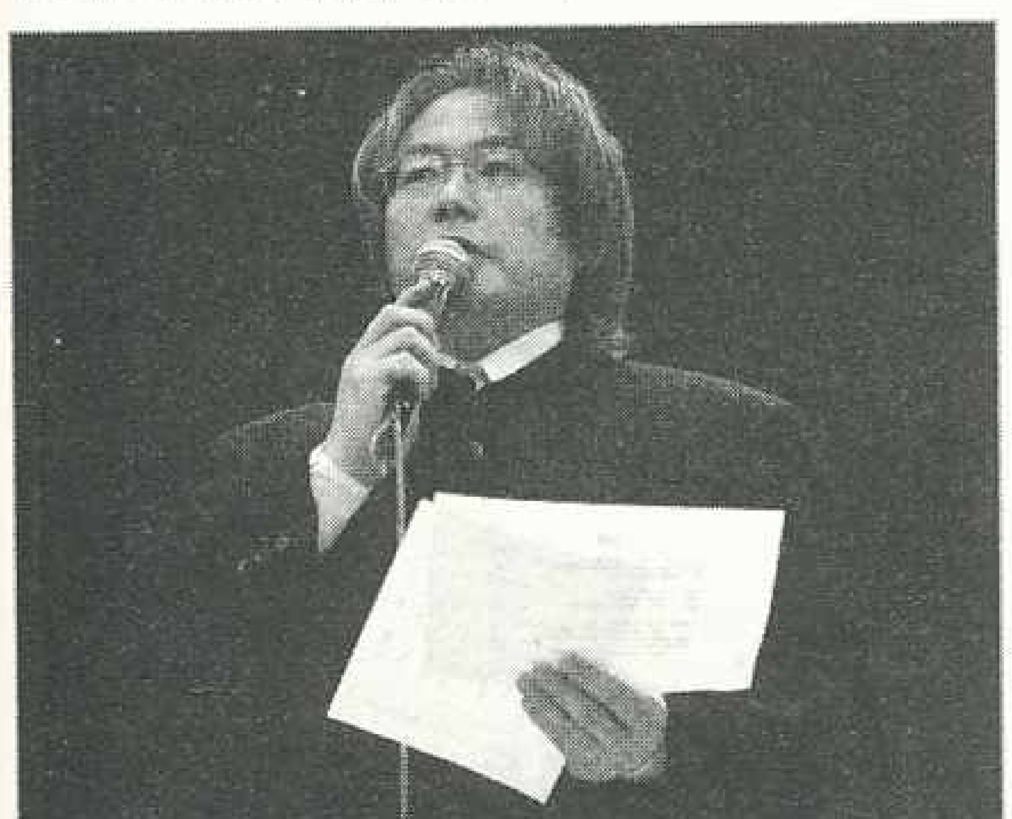
5 MON.
◆ZERO1・MAX／山口・周南市総合スポーツセンター(19:00)
◆K-DOJO／東京・後楽園ホール(18:30)

6 TUE.
◆ZERO1・MAX／福岡・小倉北体育館(18:30)
◆DRAGON GATE／宇都宮・栃木県総合文化センター(18:30)
◆WAVE／東京・新木場1stRING(19:00)

7 WED.
◆DRAGON GATE／東京・後楽園ホール(18:30)

8 THU.
◆ZERO1・MAX／鳥取・鳥取産業体育館(18:30)
◆修斗／東京・国立代々木競技場第2体育館(16:00&19:00)

9 FRI.
大物レスラーたちが続々集結!!
ケロちゃんが長野でプロデュース興行開催!



『ケロプロデュース興行 信州プロレス祭り〜長野元気!!〜』
長野・長野運動公園総合体育館(19:00)

長野最強戦士決定戦参加選手
大鷲透、アブドーラ小林、征矢学、＼(^o^)／チエ、野崎渚

出場予定選手
高山善廣、鈴木みのる、西村修、獣神サンダー・ライガー、後藤達俊、ミツヤーマン、竹村豪氏、青柳政司、グラン浜田、TAKAみちのく、小原道由、浜田文子 ほか

出場予定選手
秋山成勲、ミノワマン、デニス・カーン、ユン・ドンシク、ベルナール・アッカ、大山峻護、キム・デウォン、金泰泳、キム・ミンス ほか
◎問=『HERO'S』実行委員会 03-5775-5065

◆新日本／兵庫・神戸ワールド記念ホール(16:00)
◆DRAGON GATE／岡山・岡山県卸センターオレンジホール(15:00)
◆DDT／北海道・札幌テイセンホール(12:00)
◆K-DOJO／北海道・札幌テイセンホール(15:30)
◆大日本／北海道・札幌テイセンホール(19:00)
◆バトラーツ／埼玉・Bクラブ(13:00)
◆ターザン後藤一派／東京・浅草インディーズアリーナ(17:00)
◆DEEP／宮城・Zepp Sendai(未定)
◆シュートボクシング／東京・両国国技館(15:00)
◆R.I.S.E.／東京・新宿FACE(17:20)
◆OZアカデミー／新潟・ディスポート南魚沼(13:00)
◆WAVE／東京・新木場1stRING(19:00)

30 TUE.
◆ZERO1・MAX／島根・松江くにびきメッセ(19:00)

31 WED.
◆DDT／東京・新木場1stRING(19:30)

23 TUE.
◆新日本／宮崎・都城市体育館(18:30)
◆WAVE／東京・新木場1stRING(19:00)

24 WED.
◆新日本／福岡・小倉北体育館(19:00)
◆NOAH／静岡・キラメッセぬまづ(18:30)
◆ZERO1・MAX／新潟・新潟フェイズ(18:30)

25 THU.
◆NOAH／神奈川・横浜赤レンガ倉庫(18:30)
◆ユニオン／東京・市谷アイスボックス(19:30)
◆El Dorado／東京・新木場1stRING(19:30)
◆全日本キック／東京・国立代々木競技場第2体育館(18:00)

26 FRI.
◆新日本／愛媛・松山市総合コミュニティセンター(18:30)
◆ZERO1・MAX／東京・後楽園ホール(19:00)
◆DRAGON GATE／広島・広島グリーンアリーナ(18:30)
◆WMF／東京・新木場1stRING(19:30)
◆VKF／大阪・アゼリア大正(19:00)

27 SAT.
◆新日本／鳥取・鳥取産業体育館(18:00)
◆NOAH／東京・日本武道館(18:00)
◆みちのく／東京・新宿FACE(19:00)
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
◆STYLE-E／東京・西調布格闘技アリーナ(19:00)
◆NEO／長野・すぱーく小諸(18:00)

28 SUN.
秋山が韓国でついに復活!!
はたしてファンの反応やいかに!?



『HERO'S KOREA 2007』
韓国・ソウル、奨忠体育館

Fight & Event November 11

1 THU.
◆ZERO1・MAX／熊本・興南会館(19:00)
◆DRAGON GATE／滋賀・竜王町ドラゴンハット(18:30)

2 FRI.
◆新日本／東京・後楽園ホール(18:30)
◆ZERO1・MAX／宮崎・都城市体育館(19:00)
◆JWP／東京・板橋グリーンホール(19:00)

3 SAT.
◆無我ワールド／埼玉・ウイングハット春日部(15:00)
◆DRAGON GATE／愛知・豊橋市総合体育館(18:30)
◆DDT／大阪・IMPホール(19:00)
◆大日本／秋田・大館市民体育館(13:00)
◆El Dorado／秋田・大館市民体育館(17:00)
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ(14:00)
◆びっくりプロ／大阪・IMPホール(13:00)

◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ（18:00）
◆WMF／東京・新木場1stRING（未定）

25 SUN.

ハッスル・マニア3年連続開催!!
エスペランサーは現われるのか!?



『ハッスル・マニア2007』
神奈川・横浜アリーナ（17:00）

チケット料金
ハッスルVIP=20,000円、RRS=10,000円、花道シート10,000円、S=5,000円、ケロロ軍曹応援シート=4,000円、A=3,000円
◎問=ハッスルエンターテインメント 03-5464-1731

◆NOAH／北海道・札幌STVスピカ（16:00）
◆新日本／京都・京都市体育館（16:00）
◆DRAGON GATE／大阪・大阪府立体育会館（16:00）
◆みちのく／新潟・新潟フェイズ（15:00）
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ（14:00）
◆K-DOJO／千葉・BlueField（13:30&15:00）
◆ソウルコネクション／東京・新宿FACE（19:00）
◆フーテンプロ／神奈川・ラゾーナ川崎（17:00）
◆HEAT／愛知・名古屋国際会議所イベントホール（未定）
◆JWP／東京・東京キネマ倶楽部（13:00）
◆NEO／東京・東京キネマ倶楽部（17:00）
◆WAVE／東京・新木場1stRING（18:00）

26 MON.

◆全日本／山形・鶴岡市藤島体育館（18:30）
◆大日本／東京・後楽園ホール（19:00）

27 TUE.

◆全日本／新潟・長岡厚生会館（18:30）
◆DDT／東京・後楽園ホール（19:00）

28 WED.

◆全日本／富山・富山産業展示館テクノホール（18:30）
◆NOAH／宮城・Zepp Sendai（19:00）
◆パンクラス／東京・後楽園ホール（18:30）

29 THU.

◆ミスター雁之助自主興行／東京・新木場1stRING（19:30）
◆VKF／大阪・アゼリア大正（19:00）

30 FRI.

◆全日本／千葉・千葉公園体育館（18:30）
◆NOAH／山形・山形市総合スポーツセンター（18:30）
◆シュートボクシング／東京・後楽園ホール（未定）

※主催者側の都合により、時間等変更する場合があります。あらかじめご了承ください。また、興行日程を一部割愛しております。詳細は各団体のホームページ等をご参照ください。

◆NOAH／神奈川・相模原市立総合体育館（18:00）
◆大日本／新潟・新潟フェイズ（18:30）
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ（18:00）
◆K-DOJO／千葉・BlueField（17:30&19:00）
◆宮本和志自主興行／新木場1stRING（18:30）
◆JWP／東京・板橋区立赤塚公会堂（19:00）

18 SUN.

◆DDT／愛知・Zepp Nagoya（13:30）
◆大日本／富山・小杉町民体育館（15:00）
◆El Dorado／大阪・デルフィンアリーナ（18:00）
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ（13:00）
◆全日本キック／東京・後楽園ホール（未定）
◆新日本キック／東京・ディファ有明（未定）
◆仙台女子／宮城・Zepp Sendai（15:00）

19 MON.

◆NOAH／新潟・新潟市体育館（18:30）
◆DRAGON GATE／熊本・興南会館（18:30）
◆大日本／金沢・もてなしドーム（18:30）

20 TUE.

◆DRAGON GATE／鹿児島・鹿児島市民体育館（18:30）
◆WAVE／東京・新木場1stRING（19:00）

21 WED.

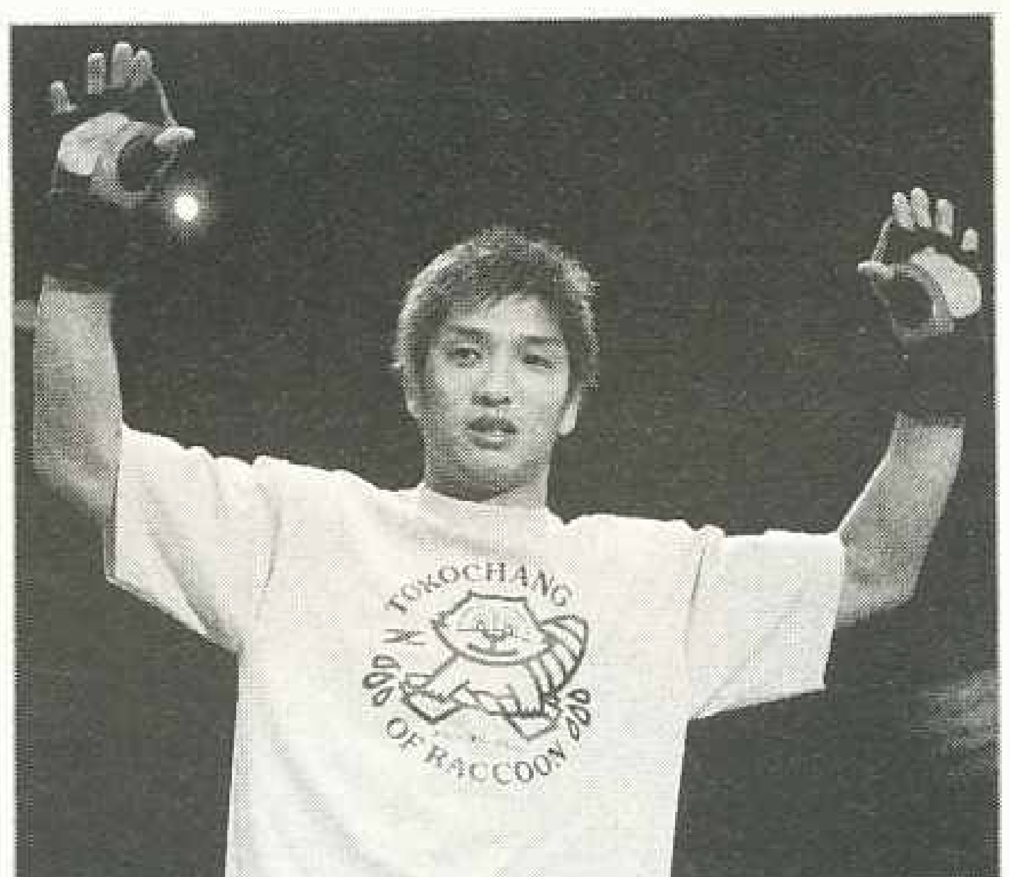
◆DRAGON GATE／宮城・延岡市民体育館（18:30）

22 THU.

◆ハッスル／東京・後楽園ホール（19:00）
◆ソウルコネクション／東京・新宿FACE（19:00）

23 FRI.

ZST5周年記念大会開催！ メインを務めるのは"小さなヴォルク・ハン"所英男!?



『ZST15 旗揚げ5周年記念大会』
東京・ディファ有明（17:30）

出場予定選手
所英男 ほか
チケット料金
VIP=15,000円、SRS=8,000円、S=6,000円、A=4,000円
※当日は各500円アップ
◎問=ZST事務局 03-5388-0808

◆新日本／越谷・桂スタジオ（16:00）
◆全日本／東京・後楽園ホール（12:00）
◆NOAH／北海道・浜頓別町多目的アリーナ（16:00）
◆みちのく／岩手・矢巾町民総合体育館（15:00）
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ（14:00）
◆IWAジャパン／東京・新宿FACE（18:30）
◆OZアカデミー／東京・新宿FACE（12:30）

24 SAT.

◆LOCK UP／東京・後楽園ホール（18:30）
◆全日本／神奈川・相模原市立総合体育館（18:00）
◆NOAH／北海道・札幌STVスピカ（17:00）
◆みちのく／宮城・仙台港ビジネスサポートセンターアクセル（18:30）

チケット料金
アリーナSS=7,000円、アリーナA= 5,000円、2F自由席=3,000円、2F高校生自由席=1,000円
◎問=MKMエージェント 06-6882-0730

◆ZERO1・MAX／岡山・新見市民体育館（19:00）
◆DRAGON GATE／東京・新宿FACE（18:30）
◆みちのく／山形・山形市総合スポーツセンター（18:30）

10 SAT.

◆ZERO1・MAX／大阪・大阪府立体育会館第2競技場（18:00）
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ（18:00）
◆K-DOJO／千葉・BlueField（17:30&19:00）

11 SUN.

◆新日本／東京・両国国技館（17:00）
◆無我ワールド／栃木・宇都宮市明保野体育館（14:30）
◆DRAGON GATE／石川・石川県産業展示館（18:00）
◆大日本／埼玉・桂スタジオ（17:00）
◆El Dorado／埼玉・桂スタジオ（13:00）
◆大阪プロ／兵庫・神戸サンボーホール（15:00）
◆覆面マニア／東京・新木場1stRING（18:30）
◆CAGE FORCE／東京・ディファ有明（16:00）
◆息吹／東京・新木場1stRING（12:30）

13 TUE.

◆ZERO1・MAX／東京・後楽園ホール（19:00）
◆WAVE／東京・新木場1stRING（19:00）

14 WED.

◆DDT／東京・新木場1stRING（19:30）

15 THU.

◆NOAH／東京・後楽園ホール（18:30）
◆DRAGON GATE／兵庫・SITE KOBE（19:00）
◆SUN／東京・新木場1stRING（19:30）

16 FRI.

◆NOAH／埼玉・所沢市民体育館（18:30）
◆DRAGON GATE／福岡・北九州市立小倉体育館（18:30）
◆El Dorado／東京・新宿FACE（19:00）
◆SUN／東京・新木場1stRING（19:30）

17 SAT.

郷野聡寛がUFC参戦！
アメリカでもGOZMAでアゲアゲ!?



『UFC78 VALIDATION』
米国・ニュージャージー州ニューアーク、プルデンシャルアリーナ

決定対戦カード
郷野聡寛 vs タムデン・マックローリー
マイケル・ビスピング vs ラシャド・エバンス
ヘクター・ロンバート vs カロ・パリジャン
フランク・エドガー vs スペンサー・フィッシャー ほか

団体INDEX（50音順及びアルファベット順）

■アパッチプロレス軍
03-5610-2609
〒130-0013 東京都墨田区錦糸2-6-11第2赤木ビル303
http://www.apache-pro.com

■大阪プロレス
06-6636-6672
〒556-0002 大阪府浪速区恵美須東3-4-36 フェスティバルゲート2F
http://www.osaka-prowres.com

■上井オフィス
03-5766-0079
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-18-10 5F
http://blog.livedoor.jp/uwaistation/

■キングダム・エルガイツ
042-376-1639
〒206-8585 東京都多摩市関戸4-8-18 TOHO聖蹟桜ヶ丘ビル
http://homepage3.nifty.com/z-zone-kingdom/

■健介オフィス
048-982-0960
〒342-0041 埼玉県吉川市保1-4-12

■新日本プロレス
03-6407-3111
〒153-0042 東京都目黒区青葉台4丁目4番5号 渋谷スリーサムビルヂング8F
http://www.njpw.co.jp

■シュートボクシング(SB)協会
03-3843-1212
〒111-0033 東京都台東区花川戸2-2-8 ワコー花川戸ハイツ
http://www.shootboxing.org

■掣圏真陰流 興義館
050-3599-7872
〒113-0033 東京都文京区本郷3-6-13 太平ビル2F
http://homepage2.nifty.com/seikendo/

■仙台ガールズ・プロレスリング
みちのくプロレスと同じ
http://plaza.rakuten.co.jp/sendaigirls

■全日本プロレス
03-3288-0610
〒102-0073 東京都千代田区九段北1-5-10 岳南九段ビル6F
http://all-japan.co.jp

■大日本プロレス
045-321-1598
〒220-0073 神奈川県横浜市西区岡野1-13-5横浜西口サンエースビル7F
http://www.bjw.co.jp

■高田道場
03-5749-5030
〒142-0062 東京都品川区小山3丁目6-6 ワールドパレス武蔵小山1F&B1
http://www.takada-dojo.com

■日本修斗協会
03-5984-3209
〒176-0012 東京都練馬区豊玉北1-6-13 カエサル江古田B1-101
http://www.alles.or.jp/'shooto/

■ハッスルエンターテインメント
03-5464-1731
〒107-0061 東京都港区北青山3-12-7 カプリース青山3F
http://www.hustlehustle.com/

■バトラーツ
048-963-0005
〒343-0046 埼玉県越谷市弥生町9-8
http://www.bat-com8000v.jp

■パンクラス
03-5792-0815
〒106-0047 東京都港区南麻布4-2-25
http://www.pancrase.co.jp

■ビッグマウス・ラウド
03-3888-3375
〒120-0024 東京都足立区千住関屋町20-16-703
http://www.bigmouthloud.com

■プロレスリングSUN
ZERO1-MAXと同じ

■プロレスリング・ノア
03-3527-5311
〒135-0063 東京都江東区有明1-3-25
http://www.noah.co.jp

■みちのくプロレス
022-785-7755
〒984-0065 宮城県仙台市若林区土樋236愛宕橋マンションファラオ E-08
http://www.michipro.jp

■無我ワールド・プロレスリング
03-3402-2474
〒107-0062 東京都港区南青山4-2-4 シャトー青山第3-204号室
http://www.muga-world.jp/

■ユニオンプロレス
042-724-9242
〒194-0022 東京都町田市森野6-319マルイシコーポ202
http://union.ne07.jp

■DDT
03-5360-6653
〒160-0022東京都新宿区新宿1-12-3 藤田ビル1F
http://www.ddtpro.com

■DEEP事務局
052-339-0303
〒460-0071 愛知県名古屋市中区松原1-2-23 第3栄ビル3F
http://www.deep2001.com

■DRAGON GATE
078-333-9797
〒650-0012 兵庫県神戸市中央区北最狭通7-1-4 サンクチュアリビル
http://www.gaora.co.jp/dragongate

■El Dorado
03-5683-5022
〒136-0074 東京都江東区東砂6-13-2
http://sports.livedoor.com/battle/eldorado

■FEG（K-1事務局）
03-3796-2977
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2-18-22 S&T神宮前ビル3F
http://www.so-net.ne.jp/ feg/

■GCM COMUNICATION
03-3538-5801
〒104-0061 東京都中央区銀座1-14-10 松楠ビル9F
http://www.g-c-m.net

■IGF
03-5159-3380
〒104-0061 東京都中央区銀座1-15-2 銀座スイムビル3F
http://www.igf.jp/

■IWAジャパン
03-3352-3366
〒160-0022 東京都新宿区新宿2-15-13 第2中江ビル402
http://www.iwajapan.jp

■JDスター 03-5524-2339
〒104-0061 東京都中央区銀座1-8-21 第21中央ビル9F
http://www.jdstar.co.jp

■JWP
03-5849-2341
〒121-0052 東京都足立区六木3-6-4
http://www.jwp-produce.com

■KAIENTAI DOJO
043-214-6960
〒260-0001 千葉県千葉市中央区都町3-4-17
http://www.k-dojo.co.jp

■LLPW
03-5228-4331
〒112-0014 東京都文京区関口1-7-5メゾン文京関口204

■MARS
03-3368-3355
〒169-0073 東京都新宿区百人町1-18-10 太陽堂ビル5F
http://www.mars-k.com

■NEO
044-422-8344
〒222-0002 神奈川県横浜市港北区師岡町879
http://www.neoladies.com

■PRIDE FC WORLDWIDE
03-5464-1531
〒107-0061 東京都港区北青山3-12-9 花茂ビル3F
http://www.prideofficial.com/

■RIKIPRO
03-3754-6340
〒146-0085 東京都大田区久が原3-31-1（RIKIPRO道場内）
http://www.rikipro.com

■SMACK GIRL実行委員会
03-3331-7426
〒167-0053 東京都杉並区西荻南3-7-7 西荻日伸ハイツ403
http://www.smackgirl.com

■U-FILE CAMP
044-932-0282
〒214-0014 神奈川県川崎市多摩区登戸1568
http://www.u-filecamp.com

■U.K.R
044-833-4130
http://www.hiromitsu-kanehara.com/

■U.W.F.スネークピットジャパン
03-3337-1889
〒166-0002 東京都杉並区高円寺北2-15-1-2F
http://www.uwf-snakepit.com

■ZERO1-MAX
03-5730-3966
〒105-0014 東京都港区芝2-8-13-2F（株）ファーストオン ステージ
http://www.zero-one-max.com/

■ZST
03-5388-0808
〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-23-1 ニューステイトメナー833号室
http://www.zst.jp

Tour
新年は武蔵と一緒! やれんのか?
武蔵らと行く ボルネオ島ツアー実施!



武蔵の12.8『K-1 WORLD GP』へのリザーブマッチ出場（と優勝）を信じる本誌も一押しのツアーが決定。来年1月10～14日に『武蔵・TOMO・安廣と楽しむ ボルネオ島ツアー』が実施。武蔵がホストを務める前回の『K-1韓国大会観戦ツアー』は定員割れで開催されなかった模様だが、今回は「人生最高の楽しい思い出を作っちゃいますよー!(照)」と武蔵もヤル気充分のコメントを発表。詳細はK-1ホームページ（http://www.k-1.co.jp/）でチェック!

★問／エイチ・アイ・エス 03-5360-4745

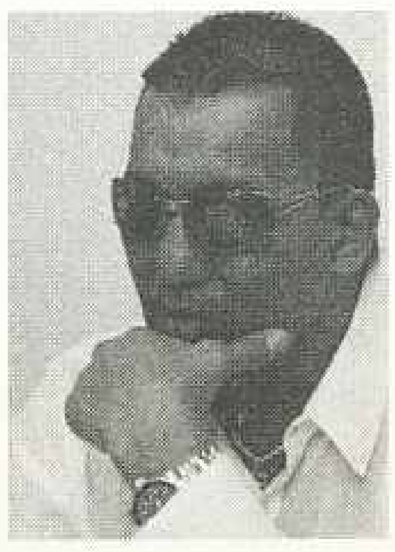
Gym
"不死身のエレキマン"巣鴨に進出!
マッハが都内にも 道場をオープン!



あの桜井"マッハ"速人が地元・茨城に続き『総合格闘技マッハ道場 巣鴨支部』をオープン! 9月30日には選手や関係者を集めて道場開きを行なった。JRの巣鴨駅から1分、という好立地なこの道場では、現在道場生を大募集中。初心者用からキッズコース、プロを視界に入れた総合格闘技コースと充実の内容。マッハの直接指導を受けたいなら、巣鴨道場にアクセス!

★問／総合格闘技マッハ道場 巣鴨支部 03-6427-8955

Event
これだけかけてりゃいいんだ! エー!
蝶野モデルのサングラス 発売記念イベント開催!



オレだけ見てりゃいいんだ、オラ! でおなじみ"黒のカリスマ"蝶野正洋が展開する自身のファッションブランド、ARISTRISTがこのたび蝶野モデルのオリジナルサングラスを発売。その記念イベントを11月4日（日）東京・さくらや新宿西口駅前店（11時～）、神奈川・さくらや川崎店（17時～）で開催する。参加条件としてサングラス購入が必要となり、購入者にサイン色紙をプレゼント、握手会にも参加可能となる。各店ともに先着100名限定なのでお早めに!

★問／さくらや新宿西口駅前店 03-3402-2474 さくらや川崎店 044-223-3636

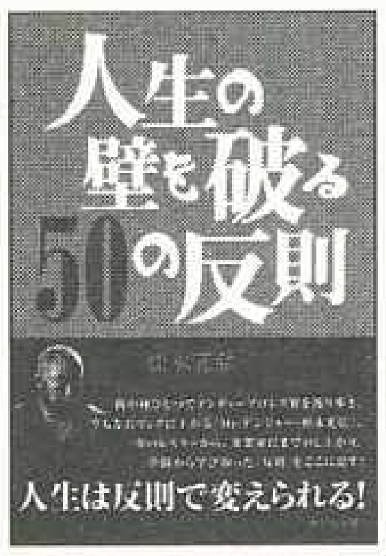
Event
来ないと、絶対に許さん!
"我らがドラゴン"が カフェでトークショー!



エ～、ホントなの!? "我らがドラゴン"こと藤波辰爾が11月6日（火）20時から青山で人気のカフェダイナー『rietanero』にて「来年への重大決意」を告白する(?)トークショーを開催する。こちらは3,500円のチケットが必要で、40名限定となっているので注意。また隣接のギャラリーでは一週間にわたってドラゴンの貴重な写真やコスチューム、トロフィーを無料で公開。いずれにしろ、ドラゴンマニアは見逃せないイベントになりそうだ。

★問／無我ワールド・プロレスリング 03-3402-2474

Book
あのデンジャーがここまで明かした!
松永光弘、待望の新刊は ステーキ屋裏話も満載!



前著の『ミスター・デンジャー プロレス危険地帯』（長崎出版）がプロレス本史上に残る名著として高い評価を受けた松永光弘が今度はプロレスラーとして、もう一つの顔である"実業家"としていかにステーキハウスを成功させたのか? 自身が苦難を乗り越えた"反則"のヒントを記した『人生の壁を破る50の反則』（オークラ出版刊）を発売! BSEショックの大打撃やチェーン店展開の失敗など、飲食業の驚くべき裏事情も赤裸々に告白!

★『人生の壁を破る50の反則』（オークラ出版刊） 1,500円（税込）

Book
WE ARE ALL ONE!
須藤元気の『幸福論』 文庫版も発売!!



元格闘家の須藤元気が、05年に自分の足で四国88カ所（お遍路）を巡り、その道中で記した『幸福論』が、文庫版で発売! この本で四国での風景、仏像、人との触れ合いなどを撮り下ろしたのは"刺青カメラマン"として本誌でもおなじみの菊池茂夫氏だが、文庫化にあたって元気自らがセレクトした写真も掲載。さらに、いままで語られなかった"引退を決意した理由"の告白もあり見逃せない内容になっている。

★『幸福論』須藤元気（ランダムハウス講談社刊） 798円（税込）

News
悩んでいるアナタに朗報!!
あのグレート小鹿が 人生相談室オープン!



大日本プロレスの代表取締役社長・グレート小鹿が、なんといままでの波瀾万丈な人生経験をもとに、『オーラの泉』の江原啓之氏ばりに悩める人の相談に答える相談室『小鹿の泉』をオープン! 開催日時は毎週土曜日と日曜日の12時～20時。場所は大日本プロレス事務所内の特設相談室で行なわれ、一人約30分からの受付となる。人生に迷ったり絶望したりしている人は、ズバリ小鹿社長にドーンと相談してみよう!

★問／大日本プロレス 045-314-5977

Dvd
IGF Tシャツ付きですよ、ムフ!
IGF、いきなり DVD BOX発売ダーッ!!

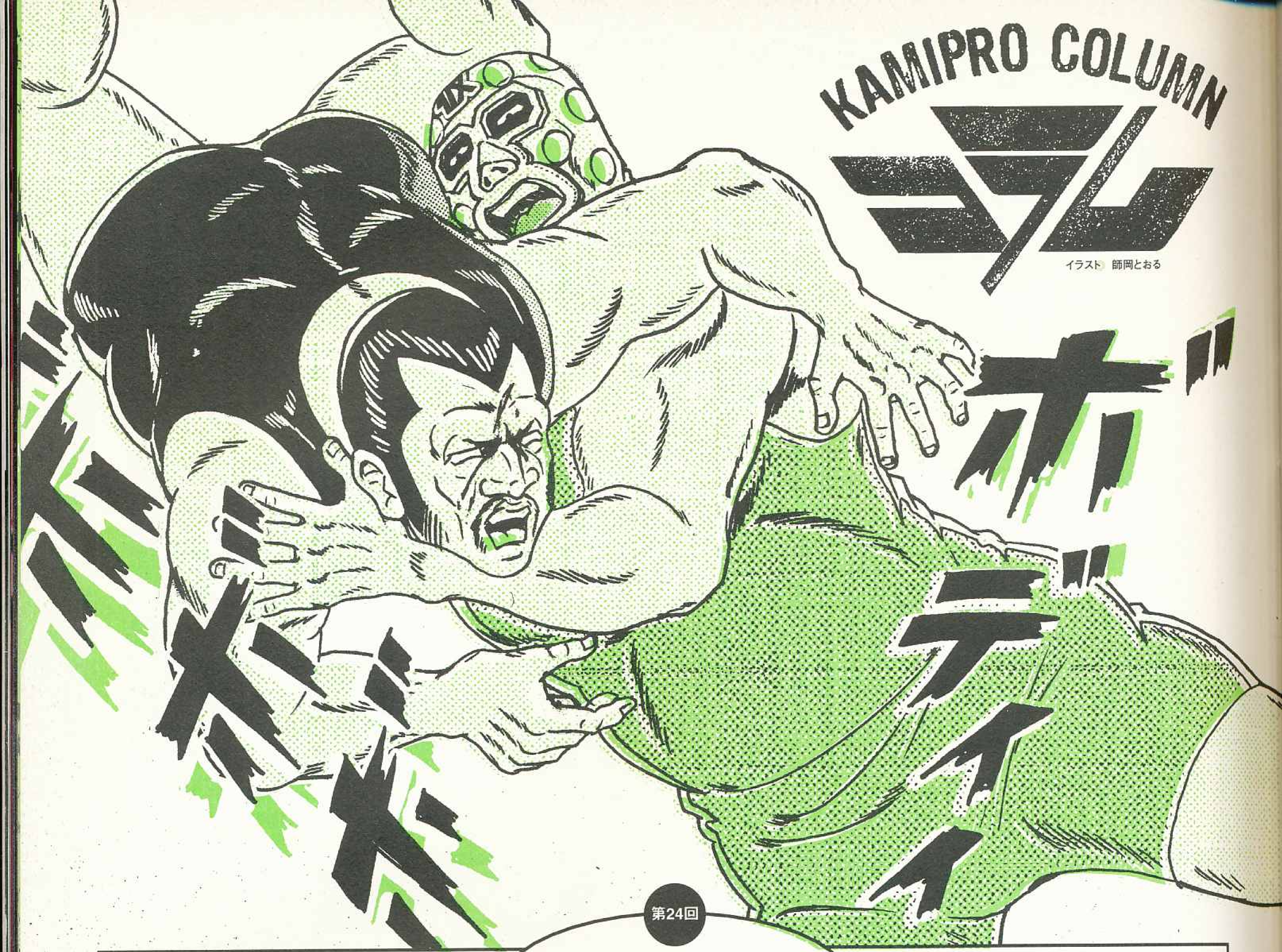


一寸先はハプニング! アントン総帥が旗揚げしたIGF初のDVDが発売決定ッ! いきなり限定2,000セットのDVD BOXが販売されるというから驚きだ。6.29『闘今BOM-BA-YE』両国国技館大会に、9.8『GENOME』名古屋大会も収録。さらにドキュメント映像やIGF Tシャツも付くというからゲノムマニアにはたまらないDVDになる!

★『イノキゲノム 旗揚シリーズ DVD BOX』（PC VPN）
14,280円（税込） 11月21日発売

KAMIPRO COLUMN コラム

イラスト 師岡とおる



第24回

ガッシアを適正体重でおねがいします

花くまゆうさく リングの汁

これの締め切り直前に観た『ZST14』。目当ては、ヤノタク組vs超高校生コンビのグラップリングタッグマッチ。超高校級と言われる横山くんの試合は、前に何試合か観てるけど、足首極めるのがうまくてのびのび闘っている姿が印象的。

もし試合したら、「あっさり足首やヒール取られ壊されそうで怖いなぁ」「試合では当たりたくないな」と思っていました。そんな恐るべき高校生・横山（大輔）選手が、寝技の日本トップクラスにいる矢野さんと当たるのだから大注目で観に行った。すると試合早々、いぶし銀の代官山（剣Z）選手にもう一人の高校生・山田（哲也）くんが見事に跳びつき腕十字を極める！

高校生コンビは二人とも凄かった。何も恐れず、のびのびと思いっきしいく若さがいい方向へ向かっている。そのあとに急遽組まれたシングルでは、横山選手が矢野さんに迷いなく、真っ向から足関を取りにいく。凄いよ！

組んだらスペース作り、そこへ足を絡めて足関、首が空いてればチョークや首関節とうまい横山選手。この手の選手には一度ガッツリ抑え込んで、スペースなくしたまましっくりと腕を極めるか、上四方チョークか、バック取ってチョークなどしか手はないかな？ それか〝極め合い上等〟な選手。

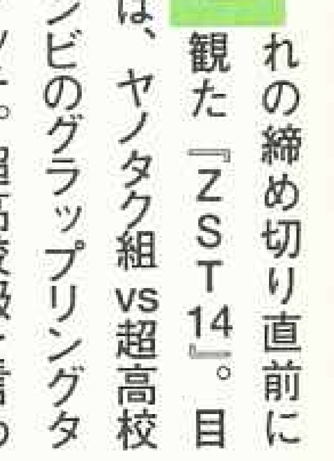
今後もこの横山選手と寝技のトップどころでグラップリングマッチをシリーズ化したらおもしろそう。〝試練の十番勝負〟みたいに一年ぐらいかけて。〝極め合い上等〟な戸井田選手、所選手、チョークうまい門脇選手、徹肌ィ郎選手など観たい相手はたくさんいる。

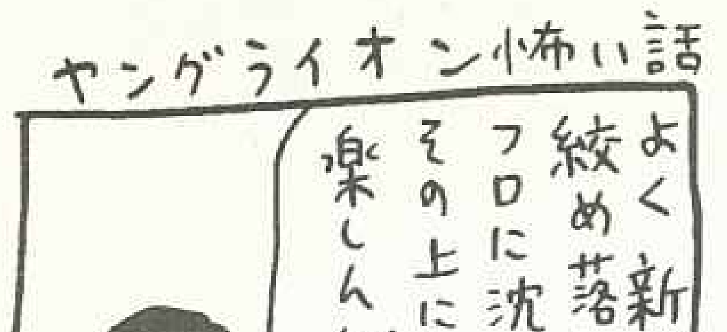
ダイヤモンドの原石を持ったZSTだが、よく磨いた頃に谷川P＆TBSが笑顔で持っていってしまうかも。そのときはちゃんと適正体重で扱ってほしい（それにしても、マルセロ・ガッシアをどういう体重で扱うのか心配でたまりません）。

ほかには9月の修斗後楽園大会も観ました。この日はメインじゃなくて、やっぱルミナvs門脇戦でしょう。何か信念を感じる門脇選手のスタンドにまずしびれる。グランドでも迷いなく信念を感じる強さ。

後手に回ったルミナ選手はなす術なくピンチ。かつぎのプレッシャーで四つんばいにさせて、門脇スペシャルでフィニッシュ。まさに完勝。男子が男泣きするようなグッとくる試合でした。

ほかは、徹肌ィ郎選手の宇宙人ゴレンジャー入場。いままでのネタの中で、今回がベスト1だと思う。入場といえば、サムライで観た修斗北海道大会で本間選手が、映画『デス・プルーフin グラインドハウス』のオープニング曲を使っていたのがよかったなあ。『デス・プルーフ』といえば、昔ラジオで「一番好きな映画は『バニシングポイント』」と言ってた前田日明は観たのかしら。





Hanakuma Yusaku
◎KIDを追い詰めたビビアーノにしびれました。

リング上からプライベートまで！
“なんでもあり”の質問コーナー

第9回
所英男のトコロ天国



本コーナーは、読者が抱くさまざまなお悩み、質問に、所選手がすべて答えてくれるという天国のようなコーナーです（こじつけ）。

聞き手／松下ミワ

――さあ、今回もトコロ天国の時間がやってまいりました！

所　よろしくお願いします！

――今日はですね、なんと「職場」に関するお悩みが続々と届いております！

所　あっ、職場ですか。ボク、あんまり会社とかに長く務めたことないんですけど……、大丈夫ですかね？

――いやいや、いつものように独自の視点で解決していただければ問題ありません！それではさっそく始めましょう～。

上司に関する質問

鹿児島県・坂上司さん・23歳・プログラマー
就職して10ヵ月、ボクの会社にはイヤな上司がいます。その上司は非常に嫌味たらしな人で、まったく尊敬できない人物なのですが、そんな人でも上司である限り、「ハイハイ」と言って、なんでも従わなければならないのでしょうか？　ボクの人間ができていないだけでしょうか？　所さん、どう思います!?



以前、上司の言うことを「はいはい」と聞いて、とんでもない目に遭いそうになったという所。この木魚の写真の意味は……!?

――会社にイヤな上司がいるということですけども、いかがでしょう？

所　まあ、就職してしまったんで、しょうがないんじゃないんですか？（アッサリ）。

――また、あきらめが早いですね（笑）。じゃあ、所さんだったら「はいはい」と従うってことですか。

所　はいっ！　……でも上司ってことで言うと、ボク、一度先輩からへんな勧誘を受けたことがあるんですよねえ。なんか、怪しいマルチ商法系の……。

――マルチ商法!?　いまだと、“使ってもお金がなくならない”と、夢のような文句を謳う「円天」みたいな感じのヤツですか？

所　でも、ギリギリセーフだったんです。その一、ハンコを押すか押さないかのところで踏みとどまったんですよね。

――おもいっきり危ないじゃないですか！

所　話がどんどん脱線して、うまいこと言いくるめられて、「あ、じゃあ」って。

――それはマズイですねえ。

所　あと、クリーニング学校時代の知り合いにもそういう誘われ方をして、一度、一緒にお経を読みに行ったことがありましたね！（得意気に）。

――全然自慢することじゃありませんよ！

所　でも、この場合はしょうがないんじゃないんですか？　よっぽどのこと以外は。

――まあ、怪しいお経を読まされるよりは全然マシなんですかねえ。

所　あとは、プログラマーだったら、実力で上司を抜いて、言いたいこと言う！

――職場なら、仕事で勝負しろ、と。

所　そう！　なので、とりあえずもうちょっと頑張ってみたらいいと思います。

――という温かいお言葉をいただきましたので、ぜひご参考にしてください！

踏ん切りに関する質問

東京都・マキさん・30歳・事務職
上京して7年になります。いまの職場は楽しいのですが、そろそろ両親も歳だし、田舎に帰るべきなのかと悩んでいたところ、自分一人では答えが出ないので、一つの意見として占い師にでも見てもらおうかなと思い、占ってもらいました。そしたら、なんと、悩んでいることもズバリ当てられ、しかも田舎に帰るべきだとハッキリ言われてしまったのです！　正直、ここまで言われたのはショックだったのですが、この占いって信じるべきだと思いますか？

所　あー、どうなんでしょうねえ。でも、ボクも兄弟がいなかったら実家に帰ったほうがいいのかなあって悩みますしねえ（深刻な表情で）。

――ワハハハハ！　所さん、日々そんなことを考えてるんですねえ。

所　ボクの親もけっこう歳は歳なんで。

――そういえば、この方も所さんと同じ30歳ですからねえ。

所　でも、占いってどうなんですか？　ボクは全然信じないんですけど。

――路上とかでよくやってる占い師の人とかに見てもらったことはないんですか？

所　全然ないですよ。雑誌に載ってる占いもまったく見ないですし。まあ、信じないっていうか、いいことだったら信じたいとは思いますけど。女性は気にする人も多いみたいですけど、男は信じる人も少ないんじゃないですか？

――そういうもんなんですねえ。

所　あ！　でも、動物占いが流行ったときは、ボクもさすがに見ましたけどね！

――ちなみに所さんはなんの動物だったんですか？

所　確かチーターだったはずです！

――ほう！　チーターというと、どういう性格の人なんでしょう。

所　全然わからないです！（キッパリ）。

――それじゃあ、占った意味がないじゃないですか！

所　（開き直って）占いなんて、所詮そんなもんですよ。だから、占いでは決めないほうがいいと思うんです、ボクは！

――むむっ！　なんだかよくわからない理屈ですが……、とりあえず占いは気にする、と。

所　はい。なので、もうちょっと自分自身で考えてみたほうがいいと思います！

――えー、なんだかんだで、最後はふりだしに戻ってしまいました（笑）。

ライバルに関する質問

神奈川県・寿退社さん・24歳・事務職
会社に沢尻エリカ似の凄くかわいい娘がいます。その娘と私は同期で、いつも上司や先輩に比べられてばかりいるのですが、私とその娘が同じミスをすると、私はこっぴどく怒られるのに、同期の娘は「次は気をつけてね」と言われる程度でまったく怒られません。その娘のことはまったく嫌いではないのですが、上司や先輩方がそういう態度だと、私も気分がよくないし、正直、最近はちょっと嫌いになりかけています。こんな私は心が狭いのでしょうか？　男の人はビジュアルで「怒る、怒らない」を決める人種なのですか!?　教えてください！



話の矛先は自然と沢尻エリカの話題に。しかし、所には沢尻エリカよりも、もっと気になる人物が。

所　ま、しょうがないんじゃないですか（アッサリ）。

――しょうがないですか！（笑）。

所　だって、実際こういうことって本当にあるみたいですよ。

――所さんの周りでもあるんですか!?

所　ボクの先輩の勤務先に女の子の後輩がいるらしいんですけど、その子がけっこうかわいいらしいんですよ。で、その子が仕事でミスすると、なぜか上司がすぐに助けに来るらしいです。

――うわ～、なんだか悲しい光景ですねえ。ちなみに、所さん自身は？

所　ボクは男だらけの職場だったんで、たまに女の子が来ると……、その日一日が楽しかったりします！

――ワハハハ！　正直に言いすぎです（笑）。

所　それに、この人は沢尻エリカ似なんですよね。それじゃあ、ますますしょうがない！

――なるほど（笑）。ちなみに、所さんは沢尻エリカについては……？

所　ああ。ボク、「別に……」って言ってる会見は見てないんですよねえ。そのあとに泣いて謝ってた写真は見たんですけど。でも、ボクはやっぱり沢尻エリカというより、長澤まさみ派なんですよ！（真剣に）。

――そうなんですか（笑）。

所　今度、TBSで『ハタチの恋人』ってドラマがあるじゃないですか!?　その番宣を明石家さんまさんと一緒にやってたんですけど、かわいいなあって！（俄然、興奮して）。

――そんなかわいい子が同期なら、それはもうあきらめるしかないですか？

所　う～ん、そうですねえ。っていうか、仕事を頑張るほうがいいんじゃないですかね！（うわのそらで）。

――えー、そういうわけで、今回は「あきらめろ！」ということみたいです。残念ですが、相談者の方は仕事に燃えてください！

Hideo Tokoro◎ところ・ひでお【所英男オフィシャルブログ】http://blog.livedoor.jp/zst_tokoro/【ZSTのHP】http://www.zst.jp/

※所選手に解決してほしいお悩みや質問は〒151-0051　東京都渋谷区千駄ケ谷5-16-6 パレ・ジュノ2F『kamipro編集部　トコロ天国』係まで

Booker K◎本名、川崎浩市。シュートボクセをはじめ世界各地の強豪外人を招致する敏腕ブッカー。

ブッカーKの ぶっかけ! 格闘裏情報

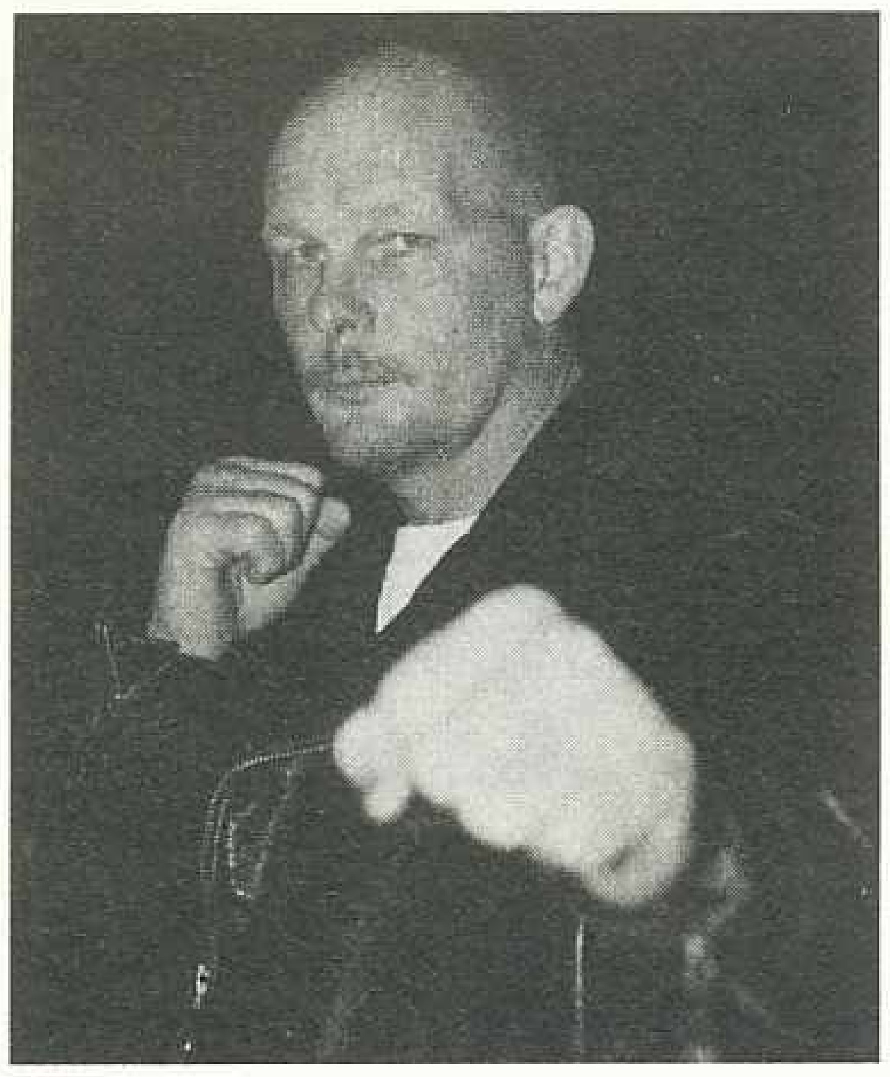
第19回

私だけが体験した ジェラルド・ゴルドー 殺人未遂事件

皆さんは格闘家に殺されかけた経験はありますか？　めったにないことどころか、あったら大変な経験で警察沙汰ものですが、私は数回あります！　そのうちの二回はあの〝死神〟ジュラルド・ゴルドー先生です……。想像しただけで生きた心地はしない読者の方もいらっしゃるのでないでしょうか。いや、〝被害者〟の私は本当に大変でした（笑）。

一回目の〝殺人未遂〟は、いまや伝説となっているプロ格イベント『真撃』が開催されたときのこと。故・橋本真也さんが率いるZERO-ONEが中心となって開催されたこのプロ格イベントに、私は元リングス・オランダのディック・フライ招聘に協力。じつは、これがきっかけでゴルドーに殺されかけるとは思いもしませんでした。あとから知ったことですが、ゴルドーは〝ZERO-ONEヨーロッパ〟の責任者という肩書きを持っており、要するに「オランダはもちろんのこと、ヨーロッパは俺のテリトリー。カワサキは何を勝手なことをやってるんだ！」ということだったのですが……。

私にも言い分があります。



そもそも『真撃』とZERO-ONEは別イベントであり、主催はステージアという会社で、主催者からの要請を受けてにZERO-ONEさんに協力して動いたまで。もっと言えば、解決すべきはゴルドーと主催者&ZERO-ONEさんのあいだの意思疎通です。

しかし、ゴルドーからすれば、イベントの違いや細かい理由なんぞは関係ありません。「これはZERO-ONEだ!!」と。フライを迎えに成田空港へ訪れた私の姿は見つけたゴルドーは、いきなり詰め寄り、私の胸元に正拳突きをお見舞い！　本気で私に詰め寄るゴルドーの姿を激写した『東スポ』は、「橋本と闘わせろとZERO-ONE関係者に詰め寄るゴルドー」という見出しで報じたのでした。結局、ZERO-ONE道場での話し合いを経て、誤解は解消しましたが……。

二度目の〝殺人未遂〟もゴルドーの勘違いというか誤解というか……（いずれにせよ、たまりません！）。

「川崎さん、逃げてください!!　ゴルドーが殺すと言ってます！」

スマックガールの会場で試合後、ゴルドー先生へ近づこうとした瞬間、当時のゴルドー・ジャパンの方から制止されたのでした。この業界はいくら娑婆じゃないとはいえ……信じらないことばかりです！

こ の原稿書いてる時点（10月12日）では、対戦相手が発表されてないけど、秋山成勲の復帰戦が10月28日の『HERO'S』韓国大会に決まったみたいだね。

秋山が韓国で復帰するって話を聞いてから、もしかしたら俺に秋山戦の話が来るかもしれないと思って一生懸命練習してたんだけど、どうやら俺の試合はないみたいでさ、ガックリきたよ〜。

でもさ、秋山を韓国でひっそりと復帰させるのってもったいないよね。罵声を浴びても、ブーイングを浴びてもいいから、ちゃんと日本で復帰戦やれば、ボクシングの内藤vs亀田大毅みたいに盛り上がったのに。秋山だったら亀田級のヒールになれるんじゃない？　でも秋山はどうせ韓国で「ヒーロー」として復帰するんでしょ？　それじゃ全然、みそぎにならないと思うけどね。

まぁ、ボヤいてもしょうがないんだけど、こうやって練習ばっかりやってても金は出ていく一方だから、このあいだ、和田（良覚）さんに相談したんだよ。何か仕事ない？って。そしたらゴールドジムを紹介してくれてさ、「総合格闘技の道場やりましょう」って話になったんだよね。

それで10月28日から週2回、中野にあるゴールドジムウエスト東京で総合格闘技を教えることになったんだよ。最初は原宿のゴールドジムがウチから通いやすいからさ、原宿でやりたかったんだけど、原宿はもうクラスがいっぱいらしくて、中野しか空いてないっていうのよ。ホントは遠くて嫌だったんだけど、背に腹は代えられないからさ（笑）、中野でやることにしたんだよね。

それでゴールドジムの人に「道場の名前どうしますか？」って聞かれてさ、最初は『U-COSMOS』にしたかったんだよ。『U-COSMOS』って第二次UWFの東京ドーム大会のタイトルなんだけど、俺が上京して最初にドームに観に行った大会が『U-COSMOS』で、思い入れがあるんだよね。だから、自分の道場の名前に入れたかったんだけど、いろんな人に話を聞いたら「『リングス』っていう名前を入れたらどうですか？」言う人がけっこういたのよ。でも、勝手に使うわけにはいかないから、前田（日明）さんに連絡とって。あーだこーだ言われるのを覚悟してたんだけど、「金原は最後までリングスにいてくれたんだから、好きに使ってええよ」って、けっこうアッサリ言ってくれたんで、『リングス金原道場』っていう名前にすることにしたんだよね。

ただ さぁ、『リングス』っていう名前をつけた直後に、前田さんの「『PRIDE』ざまあみろ」発言があったじゃん。これは「リングス」って名前を使うのはまずいんじゃないかって、かなり悩んだよね。『PRIDE』のファンにも来てほしいのに、来てくれなくなっちゃうじゃん（笑）。俺はリングスファンもPRIDEファンも、ほかの団体のファンも分け隔てなく教えていきたいからさ。

まぁ、前田さんはある意味、純粋すぎるんだよね。みんな腹の中じゃいろいろ思っていても、普通口に出さないし、それが大人になるってことじゃん。それを50歳近い一児の父が、思ったことをそのまま素直に口に出しちゃうんだから。俺は逆に「もしかしたら、この人は凄く純粋な人なんじゃないか」って思ったよね（笑）。

まぁ、そんなわけで、リングス金原道場では広く道場生を募集してます。名前に「リングス」とついていますが、かつての前田道場みたいにスクワット3000回とかやらせたりしませんから、ご安心ください（笑）。俺がこれまで培ってきたいろんなテクニックを、どんどん教えていこうと思ってますので、皆さんの入会をお待ちしております！



金ちゃんのどこまでやるの？　第17回　リングス金原道場の巻

イラスト◎中川画伯

Hiromitsu Kanehara
◎本音炸裂コラムほぼ毎日更新中!
金原弘光オフィシャルHP
http://www.hiromitsu-kanehara.com/

Kamipro Hand連載コラム

橋本宗洋の格闘裏グルメ 出張版

今年最も"プロレス的"な試合、内藤vs亀田戦について

内藤大助vs亀田大毅のＷＢＣ世界フライ級タイトルマッチは、全ジャンルを通して今年最も"プロレス的"な試合だったんじゃないか。いや、筆者としてはドラマ性のある試合を"プロレス的"と表現するのはあまり好きじゃないんだけども。それでも、この試合の徹底したわかりやすさは、やはり"プロレス的"と表現するのがふさわしいと思う。

世界王者は33歳のベテラン。学生時代はいじめられっ子で、社会人になってから「ケンカに強くなりたい」とボクシングを始めた。「自分にはボクシングセンスがない」と言い、ＷＯＷＯＷで観た世界のトップファイターをお手本に技術を磨いた努力の人。世界初挑戦は1ラウンド34秒でＫＯ負けし、2度目の挑戦も負傷判定負け。それでもあきらめずに3度目の挑戦で世界の頂点に。しかも相手は17連続防衛を誇るスーパーチャンプ、ポンサクレック・ウォンジョンカムである。

対する挑戦者、亀田大毅は18歳。幼い頃からメディアに取り上げられ、プロデビューから2年足らずで積み上げたファイト・レコードは10戦10勝。ただし相手は無名の外国人ばかりで、"一線級と闘っていない""日本人相手の潰し合いを経験していない"と批判も浴びていた。新人王、日本王座、東洋太平洋王座と取れる勲章はすべて獲って（段階を踏んで）世界王者となった内藤とは、あまりにも対照的だ。

試合が決まってからの舌戦でも、内藤と大毅は対照的だった。大毅はひたすら吠えまくった。内藤を「ゴキブリ」呼ばわりした父にならって「ゴキブリ、覚悟しとけ！」と罵倒し、「負けたら恥ずかしくて街を歩けん。負けたら切腹したる」。語尾に「エー、オラ！」とつけたりはしなかったが、それこそプロレス的な挑発である。

一方の内藤は冷静そのものだった。ハラワタが煮えたぎるような思いを、王者の誇りで覆い隠す。記者会見で大毅の印象を問われると「度胸がありますよね。大観衆の前でカラオケを歌うなんて、僕にはできないんで」。大毅からの「オレとやれるように、しっかり準備しとけ」というメッセージには「それ、チャンピオンの発言でしょ。その勘違いが一番怖いですね」と切り返す。「亀田に勝つことは国民の期待」だとも言った。

おもしろいのは、内藤が大毅の実力に関しては「わからない」と言い続けたことである。要は、大毅のこれまでの10戦が実力を測定されるようなマトモな試合じゃなかったということなのだろうが、直接的な表現は避けた。大事なのはナメないこと。「亀田を過大評価して試合に臨む」とも言った。「負けるわけがない」という周囲のムードが、最大の敵だったわけだ。

苦労の末に世界タイトルを獲得した実力派のベテラン王者と、メディアの力でスターになった、ビッグマウスで生意気な若者。あまりにも対照的でわかりやすいベビーフェイス対ヒールの闘いは、ゴングが鳴ってもわかりやすいままだった。



内藤vs亀田戦翌日のスポーツ新聞の一面は、ほとんどが亀田の反則攻撃の投げの場面。試合後、TBSには「切腹はどうした?」との抗議電話が殺到したという。今後の亀田親子の動向も気になるところです。

的確に距離を取り、変則的なスタイルから上下左右にパンチを散らしてポイントを奪っていく王者。挑戦者はガードを高く固めてひたすら突進、時おり左フックを振るうのだが、王者を脅かすことはできない。そういう戦法なんだから仕方がないといえば仕方がないのだが、固いガードゆえに手数が少なすぎた。王者の経験と技巧に、挑戦者の若さと勢いが完全に封じられる。そういう典型のような試合だった。

ＷＢＣルールでは4ラウンドと8ラウンドの終了後に採点の途中経過が公開される。ジャッジ3者とも、内藤の大量リード。だが、筆者は試合が進むにつれて大毅の姿にクギづけになってしまった。誰の目にも明らかな劣勢なのに、それでもガードを固めるばかりで手が出ない。突進し、組みつき、押し倒す。試合後の内藤によれば、出血はバッティングによるもの。クリンチの際にはサミングや下半身を殴る反則行為もあったという。

もしかして、大毅には勝つ気がないんじゃないか。そんなふうにさえ筆者には思えた。とにかくガードを固めて、無様にＫＯされることだけは避けたい。そういう闘い方にしか見えなかったのである（厳密に言えば闘ってないわけだが）。ちょっとＫ−１ ＭＡＸのあの人を連想したりもした。

大毅はまともに攻めさせてもらえないイラ立ちを反則で晴らすしかなかったということなんだろう。そして最終ラウンド、この若いヒールはＫＯ負けするかわりに、ＫＯ負け以上の決定的な壊れ方をした。倒れた相手への攻撃で減点1。続けざまの投げで減点2。判定負けが告げられると、大毅サイドは王者と握手を交わすこともせずにリングを降りた。ベテランのベビーフェイスが実力を見せつけ、若いヒールが反則で崩壊する。最後の最後まで、試合の構図はわかりやすいものだった。

そういうわかりやすさを、おもいっきり切り捨てたのがＴＢＳだった。亀田兄弟をバックアップし続けてきたこの放送局は、典型的なヒールである大毅を"夢追い人"として美しく取り上げたのである。メディアとしての公平性を重んじたのか、それとも誰がなんと言おうと亀田家を悪役にはできなかったのか。結局、そのことで大毅のヒールとしての天分をスポイルすることにもなってしまったのだが。

実況アナウンサーは、圧倒的な内藤コールを「内藤コールと亀田コールが交錯」と表現し、内藤が減点されると、ここぞとばかりに絶叫した。解説の鬼塚勝也は、大毅劣勢の終盤、「キャリア10戦でここまでやれるのは凄い。普通に考えたら無謀なマッチメイクですからね」と唐突にフォローしてみせた。大毅の反則に対するブーイングも、「亀田はポンサクレックに比べたら全然、弱かった」という内藤の勝利者インタビューへの大喝采も、彼らには聞こえていないようだった。今年、最もプロレス的なおもしろさを体現したこの試合だが、ＴＢＳだけは"悪役人気"というプロレス的テイストを最後まで理解できなかったようだ。

椎名基樹のサムライ三昧

第19回

日本に伝わる密かなゴッチイズム

『サムライ三昧』というタイトルは、担当チョロ氏が付けてくれたのであるが、ご承知のとおり、サムライTVとサムライ・シローとのダブルミーニングである。

せき詩郎のほうがもちろん、越中の意。筆者のほうがサムライTVの意ということらしい。

しかし、最近のサムライTVは観るものがない！　サムライTVにチャンネルを回しても、数十秒観ただけで、ザッピングの流れの中に消えていってしまう。

プロレス低迷が叫ばれてひさしいが、サムライTVはそれと逆行するように、格闘技の番組がなくなり、プロレス番組ばかりになりつつある。さらに、昔はもう少し企画物が多かった気がするのだが、いまはほとんどがプロレスの興行の録画放送である。

サムライTVの受信料は高価である。確か1500円ぐらいするのではないか。昔は3000円だったような気もする。ほとんど観ないチャンネルに毎月お金を払うのはキツイ。受信を続ける唯一のモチベーションがこのコラムなのだが、その動機もすでに希薄である。サムライがおもしろければ、夜中観るテレビがないときの最後の保証としてとても便利なのだが、どーにかならぬものか。

そんなサムライで今月観た一番といえば、9・22の修斗後楽園大会。佐藤ルミナが門脇英基のWARスペシャル、もとい、カドワキスペシャルで一本取られる衝撃の結末。カリスマとして修斗を引っぱってきたルミナ選手であるが、さすがに選手としての最終盤が見えた気がした。

とはいえ佐藤ルミナは、日本の総合格闘技が生んだ、一番最初のスター。ヒカルド・リッキー・ボテーリョを破ったときの『格通』のグラビアは衝撃で、何度も何度も眺め、格闘技の新しい流れを感じたものだった。「初めまして、修斗の佐藤ルミナです」みたいな見出しが付いていたと記憶するが、金髪で爛々と輝く目に、これから始まるムーブメントのおおいなる可能性をビンビンに感じた。そして同時にルミナは、初期修斗を知る最後の現役選手。いつの間にか選手生活もずいぶん長くなったものだ。

さて、初期修斗の話題が出たところで、今月の観戦記はこれくらいにして、話題を変えて「日本に伝わる密かなゴッチイズム」という話をしてみたい。

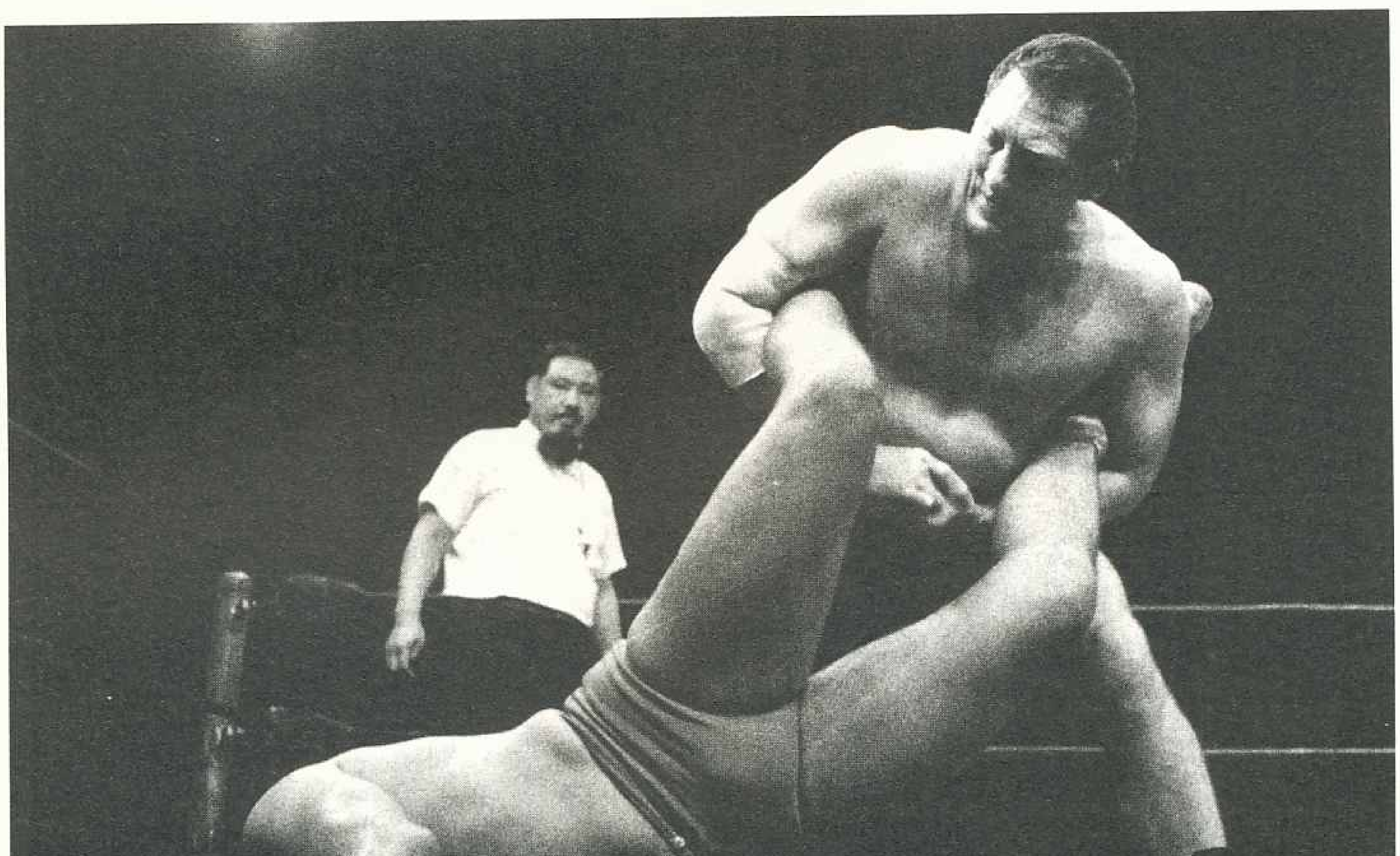
ゴッチは弟子に酷いあだ名を付けることで知られている。バトラーツの石川雄規はトーイ。〝おもちゃ野郎〟みたいな感じだろうか。有名なのは宮戸優光のあだ名。体臭から名付けたらしいが、随分酷いあだ名であった。

そんなゴッチイズムは、佐山サトルの初期修斗にも受け継がれている。佐山は初期シューターたちに、あだ名を付けて呼んでいたようだ。〝すなかけ〟、〝JR〟などなど。朝日昇というおもしろいリングンームもその名残だと思う。そして、あだ名を付けるゴッチイズムは、初代シューターに受け継がれ、彼らが道場主になると、その弟子たちもまた、あだ名で呼ばれることになる。

その代表が桜井速人の〝マッハ〟であろう。このあだ名はたぶん、当時木口道場所属の大河内衛さんが付けたと思われる。名前の由来は、もちろんプロレスラーのマッハ隼人である。第一次UWFに参加したマスクマンで、慣れないシュートスタイルに果敢に挑戦し、そこでファン、選手に温かく見守られて引退し、第一次UWF唯一の美談を残したプロレスラー。

そんな選手の名前がパッと浮かぶところが、佐山サトルの最初の弟子たちの、起源を知るようでおもしろい。

またプロレスのことなど何も知らない、桜井速人がマッハとあだ名され、世界にその名を知られ、自分の道場にその名を付けているのも何かとても良い。知らぬうちにゴッチイズムは浸透し、あらぬところに花を咲かせている。


今年7月28日、フロリダ州タンパで82歳の天寿を全うしたカール・ゴッチ。アントン、ロビンソン、山本小鉄、ジョシュ、藤原組長、木戸修、石川雄規、そして今号の藤波辰爾、西村修、そしてシーザー武志と『kamipro』では3号連続でゴッチさん追悼特集を組んでいるが、まだまだ、そのエピソードは尽きない。神様フォーエバー！

サンボやブラジリアン柔術として根付いた柔道・柔術や、極真空手を起源として、メジロジムを筆頭にオランダ格闘界ができたように、見知らぬ土地に、いつの間にか根付くのが、格闘技の最大の魅力である。

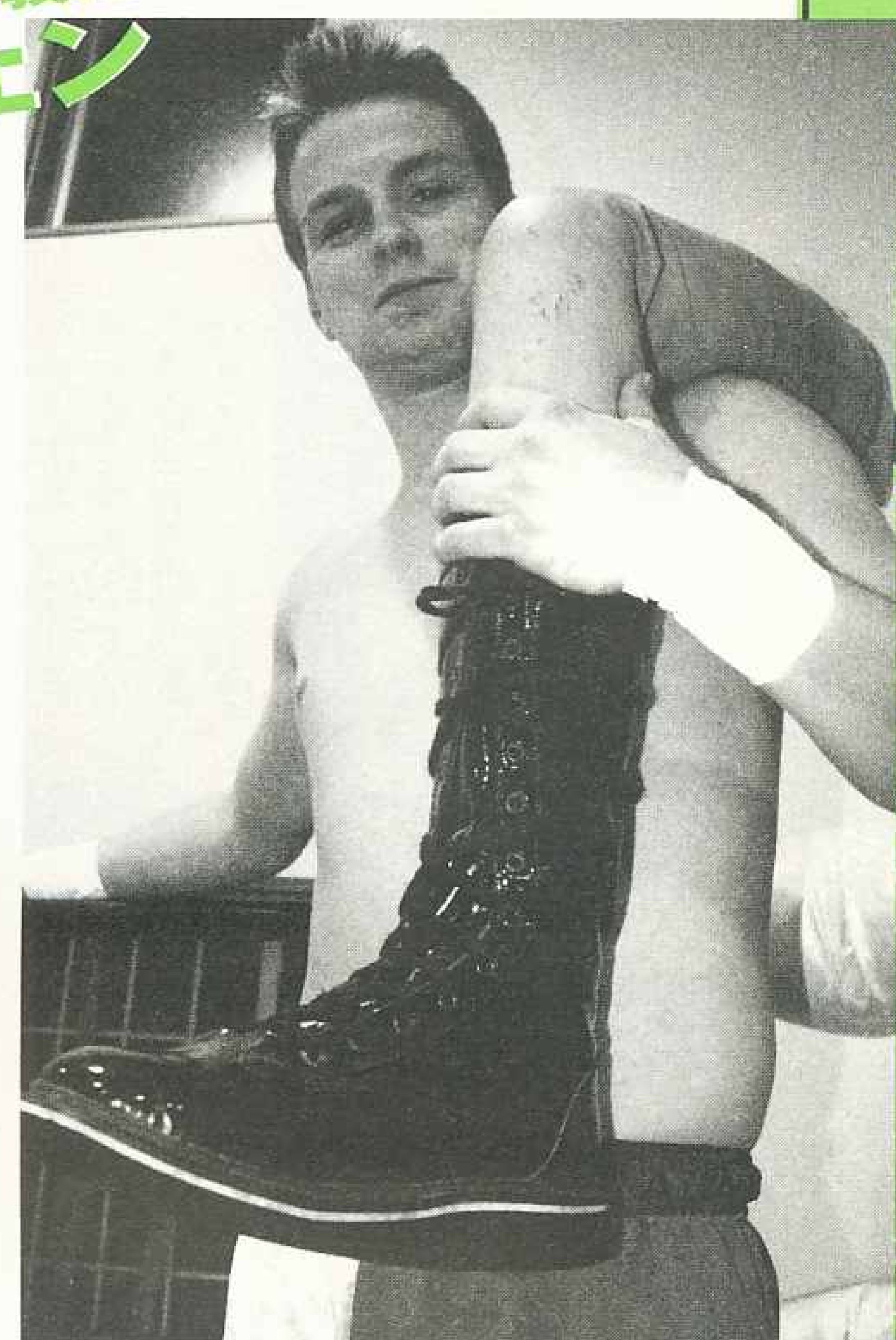
あだ名を付ける、ゴッチイズムが日本に根付いているだけでも、何だかとても嬉しいことのように感じる。ゴッチは死んだが、ゴッチイズムは（へんな形で）生きている。

あっ、でもこんなことを書いていたら、筆者が桜田直樹さんに、クルックヘッドシザースをかけられたことを思い出した。筆者が弱いことをいいことに、桜田さんが余裕をぶっこいてかけたのだと思うが、あれは見事であった。中学生の時、UWFでこの技を知って以来、どーゆーふうにかけるか、ずっと謎であったが、そのとき、いっぺんに謎が解けた。ヒザの内側のでっぱりを、相手の眼窩にハメてかけるのがポイントだと、やられて感じた。ド素人の筆者相手とはいえ、あれは間違いなく実戦でギブアップを奪える技だ。桜田さんにはぜひこの技を弟子に伝えてほしいなあ。

イナズマKの
ハードコア ドージョー Special

“一本足”でもプロレスできる!!

生き方が“ハードコア”な義足レスラー! ザック・ゴーウェン



ZACH GOWEN■1983年3月30日、米国ミシガン州生まれ。8歳のときに骨肉腫にかかり左脚を切断するも、プロレスラーになる夢を捨てれず、17歳で義足レスラーとしてデビュー。03年にWWEに出場し全米から注目される。そのあとアメリカ各地のインディー団体で活動、04年には大日本プロレスに初来日。今回は全日本プロレスに初参戦、武藤とのタッグで連日メインに出場する大活躍ぶり。180cm、70kg。

かつてＷＷＥで活躍し、その存在を世界中に知らしめた″義足のプロレスラー″ザック・ゴーウェン。8歳のときに左脚を失なうも持ち前のガッツでプロレスラーになった″生き方がハードコア″な彼に今回は話を聞こう。

ハードコア列伝1 ザックも″Jカップ世代″!?

「スポーツ好きの活発な子どもだったから、8歳で骨肉腫になって左脚を切ることになったときは悲しかったね……。でも僕は2歳から熱狂的プロレスファンだったから大きな選手に体格差でハンディのあるショーン・マイケルズやジュニアの選手が闘っているのを思い出して″僕はハンディキャップを背負ってもプロレスができる唯一の人間かもしれない″って思ったんだ」と語ってくれたザック。

彼は輸入ビデオで日本のプロレスをよく観ていたようで「90年代のオールジャパンは最高。とくにミサワ（三沢光晴）にコバシ（小橋建太）、スティーブ・ウィリアムスやスタン・ハンセンがお気に入りさ。でも、ニュージャパンのジュニアスタイルはさらに衝撃だった。（ザ・グレート）サスケに（獣神サンダー・）ライガーにハヤブサ……。彼らのハイフライでハイスパートなムーヴを観て″自分でもやりたい！″と感銘を受けたんだ」そう、片脚ながらムーンサルトまでキメるザックは″スーパーJカップ世代″の申し子だったのだ。

ハードコア列伝2 母親の目の前で大流血試合!!

ザックは00年にプロレスデビューし、03年にはＷＷＥのリングに突如登場、片脚で闘う姿は全米に衝撃を与えた。「当時は19歳。まだ20〜30試合しかしてないグリーンボーイなのにいきなり（ハルク・）ホーガンや（ロディ・）パイパーと試合をするんだから、どうしていいかわからなかった。でも毎日が新鮮だったね」と語る。

だがＷＷＥのリングでは、かなりヒドイ目に遭っていたのも事実。とくにブロック・レスナーとの試合では、じつの母親の目の前で大流血する凄惨な試合となった。「あれは地元のデトロイト。パワーボムが3回、Ｆ5で2回も鉄柱にぶつけられて、病院直行。ママには″絶対に辞めろ！″と言われたよ（笑）」。

だがザックは、「ハンディキャップを持つ僕にそういうキャラが求められているのはわかってた」とこの頃すでにプロ意識を持っていた。ザックに過酷な試合を用意した″ＷＷＥの総帥″ビンス・マクマホンも「キャラとは違ってとても優しい人。ビンスのことはいまも尊敬してるんだ」と敬意を表わしている。

だがザックは04年2月にＷＷＥを解雇される。ネット上の噂では″素行不良″や″友人にストーリーを話した″などが原因とされているが……。「ストーリーを人に話したって？　それは絶対にないよ！　ただ当時の僕はとても若くて緊張していたし、たとえば″ロッカールームに入って、まず誰に挨拶するか？″といった″バックステージマナー″をわかってなかった。そういう部分で反感を買ったのかもね」と社会人としての未熟さも告白。

「最大の理由は、1ストーリーだけの契約だったということ。凄く悲しくて、しばらくリングから離れていたんだ」。だが彼の真のプロレスラー道は、そこからスタートだったのかもしれない。

そのあと「アメリカやプエルトリコの小さな団体で試合していた」ザックは、「今回、憧れのオールジャパンに来ることができた。ＷＷＥは突然舞い込んだラッキーだったけど、ハードワークで汗をかいて涙を流して、自分の力で日本に来れたんだから、いまは凄くハッピーさ」と笑顔を見せる。

ハードコア列伝3 地方で″ドン引き″現象も!?

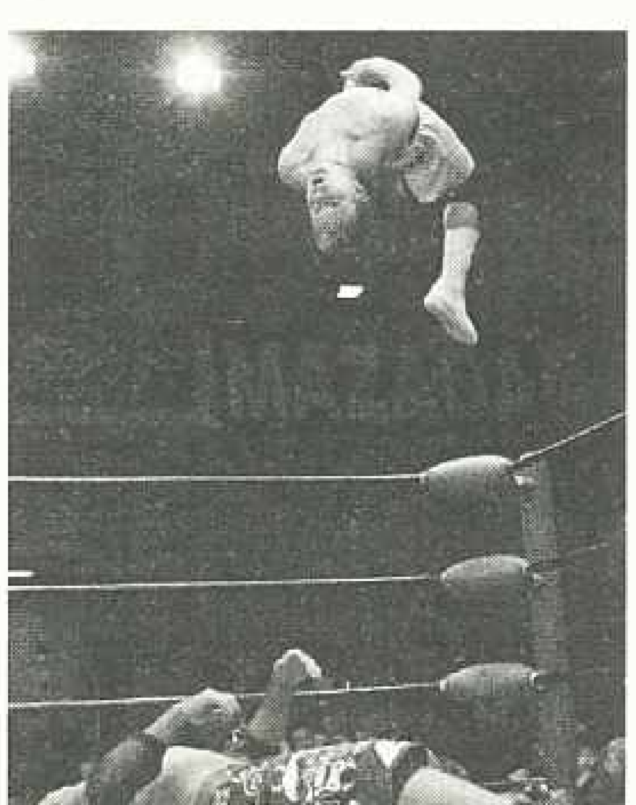
そんなザック素顔は24歳の若者。音楽の趣味を聞いてみると、「トレーニング中はほとんどの人は、メタリカとか激しい曲を聞くと思うけど僕の好みはラブソング。とくにハートブレイクソングが燃えるんだ（笑）」と意外な答え。

日本のカルチャーも好きな彼は「アイ・ラブ・アニメ！『ガンダム』や『ドラゴンボールZ』も大好き。あとこのあいだテレビで観たバンド、ＲＩＺＥも凄くクールだし、オレンジレンジの『サヨナラ』もグッド。この前はカラオケで″♪クレイジ〜・ゴナ・クレイジ〜♪″ってｔｒｆの曲を日本の女の子とデュエットしたよ（笑）」と明るく前向きな彼と話していると、ハンディキャップを忘れてしまうほどだが、ここで日本の障害者プロレス団体″ドッグレッグス″の話を伝えると、「彼らにはリスペクトの気持ちしかない。精神や肉体に障害があっても、夢を持って生きていくのは素晴らしいことさ」と真摯に返答。

もちろん片脚で闘うザックもファンにパワーを与える存在だが全日本プロレスの地方巡業ではザックが痛めつけられる姿を観たお客さんがどう反応していいかわからず″ドン引き″してしまうこともある模様。

「（そういう状況は）僕は意外と好きなんだ（笑）。僕が反撃に転じて勝利すると、最後は大ハッピーエンドになるからね」とニッコリ。「僕と同じ境遇の人にたとえ一本足だろうが野球でもプロレスでもできる！って思ってほしいんだ」とコメント。

最後に彼のこれからの夢を聞いてみよう。「僕の夢はプロレスを長く長く続けること。将来は自分の家族をサポートしていきたい。プロレスは自分が表現できる唯一の仕事だからね。アイ・ラブ・プロレスリング！」。



9・16後楽園大会で全日本マット初登場をはたしたザックにブードゥーマーダーズは放送禁止用語を連発するなど極悪ぶりを全開！　肉体、精神的にザックを苦しめたが最後はザックがＹＡＳＳＨＩに一本足ムーンサルト爆発！　10・18全日本35周年大会では武藤社長とタッグも結成など、その実力を最大限に評価された格好だ。



イラスト ゴローちゃん

水魚のポーズとダブルブリッジをゴッチャにして覚える女子プロあらし☆こと掟ポルシェの、俺だけが楽しいコーナー『萌え萌え女々苑』。今回はNEOの新時代を担う超カワユス王者・松尾永遠が登場！ 心頭滅却すれば火もまた涼しと、萌えのビッグファイヤーに身を焼きます！

掟　田村欣子選手からのシングル二冠王座奪取、おめでとうございます！ 正直な話、プロレスラーになる前はチャンピオンになれると思ってました？

松尾　思ってないです、全然！

掟　もともとお笑い好きで、お笑い芸人にはプロレス好きが多いから、そこから興味を持ったんですよね？ 好きな有名人で名前を挙げていたジャリズムの渡辺さんとかプロレスネタやってましたっけ？

松尾　渡辺さんはしてないですね。でも、バッファロー吾郎とか、ケンドーコバヤシとか、よくしてたんで。

掟　何がきっかけでプロレスに興味を持つかわからない時代ですね。お笑いから入るって。最初はJd'でデビューですよね。

松尾　家から行ける距離にJd'の道場があったんですよ。高校生の頃だったんですけど、練習しに行かせてもらってました。高校卒業してから専門学校に行くか悩んだんですけどけっこうお金もかかるし、だったらプロレスラーになろうって。

掟　当時のJdは吉本興業と提携してましたけど、お笑い好きとしては、そこもポイントだったわけですか？

松尾　いや、それは全然たまたまです。毎月大阪のNGKで試合があったんですけど、楽屋が新喜劇に出てる人たちの近くで、いっぱい見れました。ただ通りがかるだけですけど嬉しかったです（笑）。

掟　そういえば、松尾選手はあまりグラビアとか出てないですよね？

松尾　ちょうどその時期『週刊現代』とか『週刊プレイボーイ』とかの女子プログラビアの企画があって、べつにやりたくなかったんですけど、やったんですよ。



まつお・はるか■1982年2月13日、神奈川県横浜市出身。2001年6月24日、Jd'ディファ有明大会での西千明戦でデビューするも翌年2月に退団。その半年後、宮崎有妃に誘われNEOに入団。ケガで低迷が続くも、05年、アメコンとのタッグで初代NEOタッグ王者に。今年9月の後楽園大会で田村欣子を下し、第18代二冠王者に。163cm、55kg。

掟　そしたら衣装がセクシー系で？

松尾　水着とか、あとモロに下着みたいなヤツとか。そしたら、お母さんが……本屋さんでたまたま見かけて、「アンタ、何あれ！」って、ショックで熱出したんですよ。

掟　親が寝込むほどセクシー！

松尾　私も嫌だし、親が熱出すぐらいなら、お互いのためにもやめておこうって。ほかにも何度かそういうことがあって、断り続けてたら来なくなっちゃいました（笑）。

掟　かといって、着物だったらいいかっていったら『赤い糸』みたいになる可能性もありますからね（笑）。

松尾　『赤い糸』ってなんですか？

掟　キューティー鈴木さんと尾崎魔弓さんが二人で着物を着て絡み合うマニア垂涎の写真集です！ いまだに高額で取り引きされてます！ ていうか俺も買いました！

松尾　………。

掟　ち、ちなみに好きな男性のタイプは？

松尾　顔は、韓国の歌手のピっていう人の顔が好きです。わかりますか？

掟　韓国人と聞いても、チョー・ヨンピルの顔しか思い出せません（泣）。

松尾　その人の顔がホントに理想です。日本人だと、細川茂樹とか瑛太とか。

掟　ちょっと薄い顔が好きなんですね？

松尾　はい！ 自分が濃いんで、薄い方がいいです。

掟　じゃあマサ斎藤は無理？

松尾　ちょっと……違いますね（笑）。

掟　健康的でいいですよ！ 俺が女なら迷わずマサさんと付き合うな！ 顔以外には、どんなタイプが好きなんですか？

松尾　ガッチリしてる方がいいですね。

掟　じゃあマサ斎藤でいいじゃないですか！

松尾　そこまでじゃなくても（笑）。ある程度、スポーツ歴があるぐらいでいいです。

掟　ところで入場曲は気に入ってます？

松尾　チャンピオンになってからは『ギャラクシーエキスプレス』を使ってるんですけど、まだ2回しか使ってないんで。

掟　NWA王者のテーマとして有名ですよね。まだなじまないですか？

松尾　そうですね。でも、以前使ってたシャンプーの曲はチャンピオンには軽い感じだって言われて。タイトル獲る前から「変えたら？」って言われてたんですけど。

掟　王者には王者にふさわしい曲がありますからね。小川直也もNWA王者時代は『ギャラクシーエキスプレス』で上がってましたし。けっこう、音楽は聴くんですか？

松尾　はい。でも昔のCDばっかり聞いてます。小沢健二とか。

掟　オシャレですね！ 似合いますよ！

松尾　ホントですか!?（嬉しそうに）。でも、周りに小沢健二を好きな人が全然いないんですよ。

掟　小沢健二で入場でもいいじゃないですか？『カローラⅡにのって』で、後楽園ホールの花道をドライブしながら出てくるとか（笑）。

松尾　でも、プロレスっぽくないんで合わない気がして。

掟　確かにチャンピオンがオザケンで入場してきたらズッコケそうですけど（笑）。

松尾　闘う気になれないですね、聴いてて。

掟　でもね、小沢健二で入場するプロレスラーが一人ぐらいいたほうがおもしろいですよ！ 凄い試合をしてれば、どんな曲でもしっくりくるようになるし。北斗晶の『オロ・デ・レイ』だってね、最初聴いたときはなんてのんきな曲だろうと思いましたしね。だから、松尾さんが凄い試合をすれば、「あ〜、やっぱり小沢健二の曲ってプロレスに合うよな」みたいな話になると思いますよ。小沢健二を高めるのも松尾さんの今後次第です！

松尾　え〜、自信ないです（苦笑）。

掟　では、チャンピオンを防衛していくためには何が必要でしょう？

松尾　……フフフ。マジメに答えればいいんですか？ 気持ちです！

掟　アントニオ猪木だってそうですよ。勝ちたい気持ちって勝率につながるもんです。やっぱり、ハートですね！

松尾　いままで、「どうしても勝つ！」ってあんまりなかったんですよ。ケガしなきゃいいや、みたいな（笑）。でもチャンピオンになったら、それじゃダメだなって。

掟　小沢健二の曲名で言うと『強い気持ち・強い愛』って感じで！

松尾　そうです！ その曲がよかったんですよ！ 小沢健二の曲の中でも明るい感じじゃないですか？

掟　NEOでは後楽園でキン肉マンのテーマを歌ってる串田アキラさんも生歌を歌ってますから、今度は小沢健二の生歌で入場しましょう！ プロレスと小沢健二両方を背負って頑張ってください！

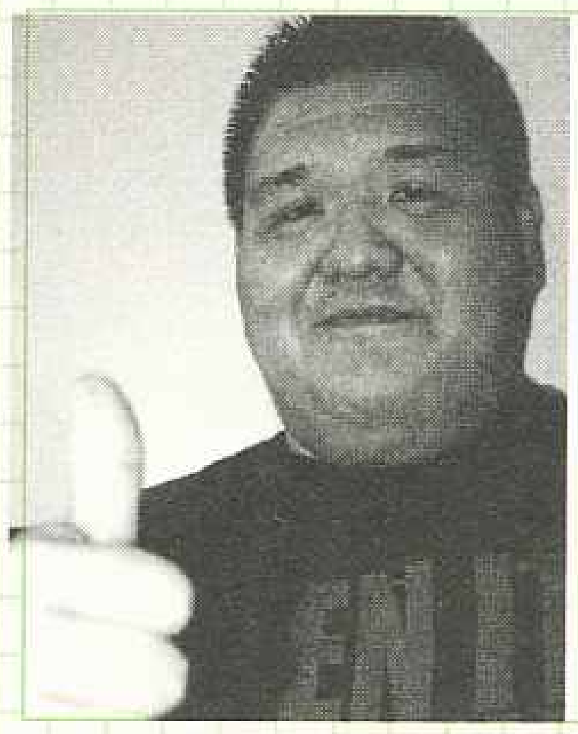

9.17後楽園大会でNEOの絶対王者として約1年9カ月も王座に君臨していたタムラ様をオリジナル技のマックで下した松尾。次回挑戦者は誰になる？ 甲田社長のブログも必見！
NEO HPアドレス→ http://neopro.ne07.jp/

Okite Porsche◎掟ポルシェのバンド『ロマンポルシェ。』が結成10周年！ 11・7（水・ド平日）東京・新宿ロフト（TEL．03−5272−0382）で『ロマンポルシェ。10年記念隊コンサート「もう少しまじめにやっておくべきだった」』を開催！ ゲストに怒髪天（増子直純＆上原子友康）、吉田豪＆大西祥平、そしてもしかしたらビッグなあの人たちも来ちゃうかも（ビッグといってもキラー・カンとかそういうことじゃなくて）！ チケットはローソン、ぴあ、ロフト店頭でウンザリするほど絶賛発売中！ 当日券（¥3300）も出ますが、前売りチケット（¥2800）が売れるのが大好きでーす！ 買え！ 詳細は掟ポルシェブログを参照。【http://blog.excite.co.jp/porsche】

ファイター関係者がこだわりの選出!

“俺だけの”なんでもランキング

若翔洋の
僕が好きなロックバンド、ベスト5



わかしょうよう■1976年3月8日、東京都中野区出身。二子山部屋の元大相撲力士。格闘家に転身後はチェ・ホンマンやピーター・アーツらと対戦。9月にIGFでプロレスデビュー。180センチ、147キロ。

俺だけの、俺だけによる、俺だけのためのランキングを選出! 第10回目の今回は、『HERO'S』からIGFまでさまざまな団体で活動し、常にハードロックをガンガンかけて入場するじつは“ロックな男”若翔洋に直撃した。ドスコイ!

1



クイーン

※写真は『グレイテスト・ヒッツ』クイーン

2



エアロスミス

※写真は控室でのスティーブン・タイラー(左)、ジョー・ペリー(右)とのスリーショット

3



ボン・ジョヴィ

※写真はジョン・ボン・ジョヴィと若翔洋の指相撲の証拠写真

4



ガンズ・アンド・ローゼズ

※写真は『アペタイト・フォー・ディストラクション』ガンズ・アンド・ローゼズ

5



デフ・レパード

※写真は控室でジョー・エリオットと相撲ポーズでハシャぐ若翔洋

初コンサートはクイーン!! 席はなんとステージの真裏!

最近はそんなに熱中しているわけじゃないけど、ロックは大好きですね。洋楽を聴き始めたのは小学校5、6年くらい。『ぎんざNOW!』(TBS系)っていう番組で洋楽ベスト10をやってて、そこで好きになったのがクイーンの『伝説のチャンピオン』ですね。

ボーカルのフレディ・マーキュリーのタイツを穿いたルックスが奇抜で、声量も凄かった。いままで聴いたことのない音楽っていう感じでした。

それで中2で初めて行ったコンサートもクイーンです。たぶん最後の来日のときだと思います。勢いで日本武道館のチケットを獲ったけど、当時で7000円くらいで、かなり高価だったのに席がステージの真裏(笑)。

だからずっと機材やバンドの背中を観てたんですけど、フレディはこっちにも向いて歌ってくれて感激しましたね。

中学を卒業して15歳で相撲界(二子山部屋)に入るんですけど、上下関係も厳しいし、雑用も言いつけられるんで音楽を聴いてるヒマはなくて、しばらく離れてしまうんです。寝ているときだけが生活の楽しみって感じでしたから。

ロック熱が再燃したのは18歳。じつは二子山部屋のそばによく行くレコード屋があって、そこの店員さんが新譜をガンガン薦めてくれたんです。そこで洋楽やロックの情報を仕入れてた。その頃は下に新弟子も入ってきて余裕ができてましたしね(笑)。

関取になってからは音楽系の知り合いもできて、チケットも獲れやすくなったので、ロック中心にちょくちょくライブに行って、そのつてで楽屋にも入れてもらったりしました(笑)。

若乃花と観たボビー・ブラウン ボン・ジョヴィと指相撲!?

エアロスミスのときは凄く緊張しながら、ボーカルのスティーブン・タイラーに会ったんですけど彼は和菓子が大好きで、控室にはズラッと和菓子が並んでて「食べなさい」って勧めてくれた(笑)。エアロスミスは『ニュースステーション』(テレビ朝日系)にゲスト出演したときも、わざわざスタジオに入れてもらったりしました。しかもいまだから言えますけど、(相撲の)場所中だった。まぁ、気分転換というか(笑)。

相撲界ではロック友だちはいなかったけど、一度、なぜか若乃花(現・花田勝)とボビー・ブラウンを観に行きましたね(笑)。そのときも楽屋に行ったんですけど、僕はそんなに好きじゃなかったから、ボディガードのデカさだけが印象に残ってます。

それで好きなバンドの1位はやっぱりクイーン! いまだにちょこちょこ聴いてます。数年前にブームになったときは、ひさびさにスポットが当たって嬉しかったです。もう、ああいうボーカルは出ないでしょうねぇ(しみじみと)。

2位はエアロスミス。どちらかというとバラード系の曲が好きで、アルバムとしては3枚目の『闇夜のヘヴィ・ロック』とか4枚目の『ロックス』あたりが好き。最近も車に乗っているときに、ベストアルバムをガンガン聴いてますよ。

3位はボン・ジョヴィ。彼らはもう名曲が多すぎてどれを挙げたらいいかわからないですね(笑)。ボン・ジョヴィのライブもリハーサルからずっと観させてもらったりしたし、それから、ボーカルのジョン・ボン・ジョヴィにも会わせてもらったんだけど、なぜか「指相撲やろう!」と言われて、指相撲をやったんです。

結局、ズルをされて負けちゃったんだけどメチャクチャいい人でした。とても「六本木で人を殴る」なんて武勇伝を持ってる人には思えない(笑)

4位は、ガンズ(・アンド・ローゼズ)。ガンズはさすがに控室には行ってないんですけど、ライブに行ったときオープニングでボーカルのアクセル(・ローズ)が通訳と一緒に出てきて「契約がどうのこうの」とか「話が違う!」とかいきなりツアーの文句を言い始めて僕も含めて観客は「何が起こってるんだ?」ってビックリしてましたね

5位のデフ・レパードも楽屋に行かせてもらったんですけど、その日がスタッフの誕生日だったみたいでバースデーパーティをしてたんです。「ユーも一緒にやってくれ」って言われて、なぜかハッピーバースデーを一緒に歌いました(笑)。

入場曲にこだわりアリ!! “アレンジ”できる人も募集!!

このあいだのIGFでは、イギリスのプログレッシブ・ロックのエイジアで入場しましたけど、僕は入場テーマを毎回変えてるんです。それはいまだに「コレ!」という決め手がないからなんですよ。

僕が入場曲を選曲するときはイントロから聴いて、「ここから入れれば格好いいな」ってタイミングを想定してますね。

あと、みんな曲をミックスしたりアレンジしたりしてるでしょ。「あれ、いいなぁ!」っていつも思ってるんです。僕はアレンジなんてできないし、やってくれる人も知らないから凄くうらやましい! 効果音を入れたりバラードから転調するとか、ああいうので入場してみたい! そういう作業が得意な人がいたら、ぜひ紹介してほしいです(笑)。

今後は僕はプロレスも好きだし、もしもプロレスをやれるなら天龍(源一郎)さんと絡んでいきたいですね。じつは面識はないんですけど。天龍さんは二所ノ関部屋で、僕の二子山部屋とは同じ一門ですから、二人でチーム“二所ノ関一門”でやりたいな、と(笑)。いまなら『ハッスル』に出れたらいいんですけど……無理ですかね?

ただ、いままでの総合の戦績も全然よくないんで、もう一回くらい大きな舞台でやりたいんです。そのときはアレンジが入った格好いいテーマで入場できたら、最高ですね。



PRIDE BEST 100

編集部が独断と偏見で選ぶ
PRIDE名勝負100

“PRIDE消滅”騒動という余震が続く中、総合格闘技界に『PRIDE』という“奇跡”が存在していたこの10年間をいまこそプレイバック！　数々の名勝負をBEST100のランキング形式で振り返る。また本誌でおなじみ“あの4人”による『PRIDE』変態座談会も同時収録！　こちらはDVDの副音声的にお楽しみください！

構成／堀江ガンツ、真下義之、松下ミワ
文／山本宗忠（THE PEHLWANS）、佐々木亜希



1

2000.5.1『PRIDE GP 2000 決勝戦』東京ドーム、PRIDE GP 2000 2回戦

○桜庭和志
[延長6R終了 TKO]
×ホイス・グレイシー

格闘技史に残る“伝説の90分”！トーナメント内の試合にも関わらず、「1ラウンド15分の無制限ラウンド」「レフェリー（ドクター）ストップなし」などホイス側の要求をすべて受け入れ、そして勝利した桜庭が名実ともに“世界のサク”となった名勝負の中の名勝負。桜庭はグレイシートレインに対抗して、サクマシンマスクで増殖して入場。試合でもモンゴリアンチョップやまんぐり返しなど、総合では実現不可能と思われていたムーブを次々と披露。6ラウンドを闘った末、ホイス側にタオルを投入させた瞬間、東京ドーム中が興奮のるつぼと化した。

『PRIDE』名勝負ベスト100の付属企画として、いまは亡き『PRIDE』の美しき10年間の思い出をわいわい語り合う座談会を開催！　メンバーはすっかりおなじみになった、UWF系に変態的なこだわりを持つ、いつもの4人。〝U〟の進化系である『PRIDE』を変態たちはどう観ていたのか？　ダメな大人たちの副音声的ヨタ話を今回もお届けします！

髙田vsヒクソン再戦の前に神社にお参りに行きました！

タコ　『PRIDE』が10周年を迎えたということで、今日は『PRIDE』をテーマに〝変態〟の皆さんにお集まりいただきました！

ガンツ　いやぁ、じつにめでたいですねぇ（笑）。

タコ　めでたいことあるかい！　今朝方、力尽きたわ！（※この日、『PRIDE』日本オフィスの閉鎖、全社員解雇が発表された）。

椎名　この座談会も凄いタイミングだよね（笑）。でもなんで日本はさ、第二次UWFもそうだけど、『PRIDE』も一番ピークのときになくなっちゃうの？　不思議でしょうがないというか。そういう社会的な構造なのかというか、何かがあるんだなって思う。出る杭は打っちゃうっていうか。ね。

タコ　もったいないよなぁ。なくなるともう戻らないってことに気づきますよね。

ガンツ　まぁ、今日のところは、在りし日の『PRIDE』を偲んで、みんなで美しい思い出を語っていきましょうよ。

タコ　そやなぁ。じゃあ、まずは髙田延彦vsヒクソン・グレイシー戦から語っていこうと思いますけど、ガンツは『PRIDE・1』のときは、まだ『kamipro』に入ってないんやったっけ？

ガンツ　はい。まだ一ファンで、異常に気合い入れて応援に行ったのをよく覚えていますよ。あの試合でボクは初めて髙田のことが好きだって気づかされたというか、自分の中に〝髙田の血〟が流れてるって気づかされましたね。

タコ　ちなみに当時、ボクと井上くんは『格闘ゲリラマガジン』という雑誌の創刊号を作っておりました（笑）。

ガンツ　そんな素晴らしい雑誌を作ってましたか（笑）。

PROFILE

椎名基樹
本誌の好評長寿連載コラム『サムライ』三昧でもおなじみのフリーライター。放送作家。構成作家。UWF、真剣勝負、にあくなきこだわりを持つ。

井上崇宏
携帯サイト『スカパー！バトルLIFE!!』制作に携わっていたペールワンズの総帥。髙田延彦にあくなきこだわりを持ち、船木とはメル友。

堀江ガンツ
本誌編集部。ちっちゃな頃から変態的プロレスファン＆UWF信者として鳴らし、『kamipro』編集部に入ってからもUWF研究家を自称する。

原タコヤキ君
元・小さい版型の頃の『紙のプロレス』編集者。現・カリスマ司会者。ジャイ子へのセクハラで憂さを晴らす37歳。

3



2003.11.9『PRIDE GP 2003決勝戦』東京ドーム、ヘビー級暫定王者決定戦

○A・ホドリゴ・ノゲイラ [2R 1分45秒 腕ひしぎ十字固め] ミルコ・クロコップ×

『PRIDE.26 REBORN』より破竹の3連続KO勝利中のミルコと前ヘビー級王者ノゲイラが、ヘビー級暫定王座を懸けて激突。ミルコにタックルを見切られ、スタンドの打撃でKO寸前にまで追い込まれたノゲイラだったが、2ラウンドついにテイクダウンに成功すると腕十字で一本勝ち。まさかの大逆転でドームのファンは総立ちとなり、"ストップ・ザ・ミルコ"をはたしたノゲイラをたたえた。一方、初のタップアウト負けを喫したものの、試合そのものは終始ミルコが圧倒。"負けてなお強し"の印象を強く残した。

4

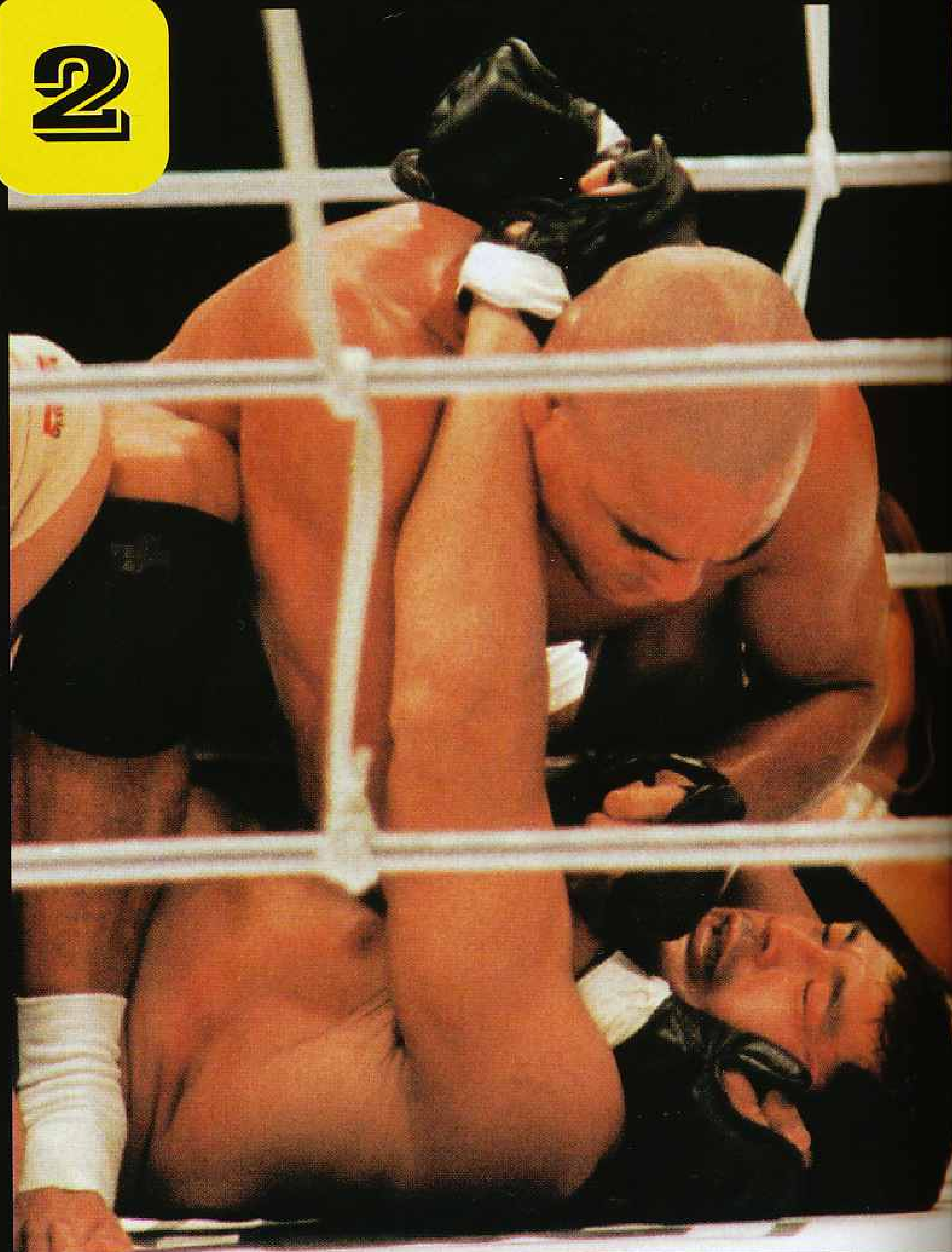


2005.9.25『PRIDE武士道 -其の九-』有明コロシアム、ライト級GP 1回戦

○五味隆典 [1R 7分42秒 裸絞め] 川尻達也×

互いの"誇り"がぶつかり合った究極の日本人対決。『武士道』の"絶対王者"五味と修斗ウェルター級王者の川尻が、ライト級GPの1回戦でいきなり激突。両者は序盤から真っ向勝負の打ち合いを展開。一打必倒のパンチが飛び交う攻防に、場内は異様にヒートアップ。試合は五味が川尻のパンチを見切り、カウンターでジワジワとスタミナを奪うと、最後はバックを奪い一本。高田統括本部長も「10年に一度の決戦」と鳥肌立たせたこの一戦は、中・軽量級のゴールドラッシュを到来させる名勝負となった。

2



1997.10.11『PRIDE.1』東京ドーム

○ヒクソン・グレイシー [1R 4分47秒 腕ひしぎ十字固め] 髙田延彦×

すべてはここから始まった——。新日本プロレス、UWF、Uインターを舞台に名勝負を繰り広げた"最強"髙田と、"グレイシー一族最強の男""400戦無敗"ヒクソンが一騎打ち。プロレスの看板を背負ってこの一戦に臨んだ髙田だったが、死刑執行台に向かうがごとくヒクソンの待つリングへ向かうと、そこに待っていたのは、「ヒクソン圧勝」という"圧倒的現実"だった。髙田の無念のタップにプロレスファンの悲痛な叫び声がドーム内に響き渡り、10年間にわたる壮大な格闘大河ドラマ、『PRIDE』が激しく胎動し始めた。

椎名 それ、どんな雑誌だったんですか？

タコ 谷川（貞治）さんが編集長で、要は『SRS・DX』の前身みたいなもんやったんですけど、典型的な〝3号雑誌〟でしたね。

椎名 3号で休刊だったんだ（笑）。

井上 やっぱり早くからバーリ・トゥードに興味があった椎名さんからすると、高田vsヒクソンが決まった時点で「なんだそれ？ 高田が勝てるわけねえじゃん」って感じだったんですか？

椎名 いやいやいや、全然。本気で応援しましたよ！

井上 高田を？

椎名 うん、俺もUWFの血が流れてるんで。でも、その頃のバーリ・トゥードって、あまりにもプロレスラーが負け続けてるし、俺ら素人が観ても「セオリーがゼロ」って感じだから、そんなに難しいものなのか確かめるために、木口道場に通っちゃったんですよ。

井上 U系のレスラーに代わって、総合のセオリーを学びに行っちゃったわけですか（笑）。

椎名 でも、やってみると「なんでこれがわからないの？」みたいな感じだったんですよ。じゃあ、実際の試合になるとどんな気持ちになるんだろうと思って、一回、アマチュア修斗の大宮フリーファイトに出るまでやって。

一同 ガハハハハ！

椎名 アキレス腱固めでやられちゃったんですけどね（笑）。

タコ そこもUWFの血が！ 素晴らしい！

ガンツ ボクは、技術は学びに行きませんでしたけど、高田vsヒクソン戦の前に神社にお参りに行ってきましたね。

一同 ガハハハハ！

井上 必勝祈願に!? ウソでしょ？

ガンツ いや、ホントです！ ちゃんと毎年初詣に行ってる地元の神社まで行って、必勝祈願してきたんですよ。そういうファンってけっこういたんじゃないですかね？ とにかく高田vsヒクソン戦の入場シーンは凄まじい空気でしたから。

タコ 凄かったよなぁ。

井上 でも、あれ会場で観てても、「このあとホントにメインで高田vsヒクソンやるのかな？」っていう空気がなかった？「ホントにあの二人がここに出てきて闘うのかな？」っていう。

ガンツ ホントにやっちゃっていいのか？ っていうふうには思いましたね。なんか〝最終回〟になっちゃう気がして。

井上 実際、高田が負けたあとの喪失感は凄かったよね。

タコ 巨大やったねえ。あれだけ入れあげて観られるような試合っていうのは、今後はもうないんちゃうかなぁ。

ガンツ ボクなんか試合後、もう号泣ですよ。

タコ やっぱり泣いたか（笑）。

ガンツ 試合が終わった直後はなんともなかったんですけど、ドームを出る途中に友だちに会ったら、なぜか涙が溢れてきて……。

井上 強がってた自分が解放されたんだ（笑）。

6



2005.8.28『PRIDE GP 2005 決勝戦』さいたまSA、ヘビー級タイトルマッチ

○E・ヒョードル [3R 判定3−0] ミルコ・クロコップ×

『PRIDE.26 REBORN』以降、『PRIDE』を牽引してきたミルコがようやくたどり着いた“頂”。ミルコの、そしてPRIDEファンの念願であったヒョードルvsミルコがついに実現。ヘビー級とは思えない高度でハイスピードな攻防にファンは大熱狂。だが試合は、ミルコのプレッシャーに屈せずに前に出続けたヒョードルが、テイクダウンからのパウンドで優位に進めて判定勝利。2年以上にわたった因縁対決は“皇帝”ヒョードルが制覇。世界中のMMAファンが“世界最高峰の闘い”を目撃した瞬間だった。

5



2004.10.31『PRIDE.28』さいたまSA、ミドル級タイトルマッチ

○ヴァンダレイ・シウバ [2R 3分26秒 KO] Q“ランペイジ”・ジャクソン×

シウバvsランペイジの二度目の対戦は、ミドル級チャンピオンシップとして実現。同年6月にミドル級の実力者、アローナを失神KOで下した挑戦者ランペイジに対して、シウバは序盤、防戦一方。1ラウンド終了間際にはパウンドの嵐を浴びゴングに救われる危険なシーンも目立ったが、2ラウンドからはシウバが底力を発揮。一瞬のスキからカウンターの右ストレートをヒットさせると、怒涛のラッシュからヒザ蹴り5連打で逆転KO！ 3度目の防衛に成功したシウバ、チャンスをものにする決定力が際立った一戦だった。

8



2002.11.24『PRIDE.23』東京ドーム

○田村潔司 [2R 1分00秒 KO] 髙田延彦×

「髙田さん、ボクと“真剣勝負”してください！」。田村の叫びが実を結んだのは、7年後、髙田の引退試合だった。恩讐を乗り越え実現したこの一戦に田村は丸坊主で登場。最後はカウンターの右フックで髙田を失神KO。“介錯人”となった田村が、両ヒザをつき泣き崩れるやいなや、終了のゴング……。試合後、「ご迷惑をかけてすみませんでした」という田村に、髙田は「おまえは男だ。ありがとう！」とズバリ。髙田が22年間の現役生活にピリオドを打ち、同時に『PRIDE』第1章が終幕を迎えた一戦だった。

7



2002.6.23『PRIDE.21』さいたまSA

○ドン・フライ [1R 6分10秒 TKO] 高山善廣×

『PRIDE』史にさんぜんと輝く屈指のド突き合い！ 第1試合を除き、セミまで判定決着が続く“ぬるい”空気を、二人のプロレスラーが破壊した。ゴング前の視殺戦のあと、両者は互いの首根っこをつかむと、顔面に狙いを定めパンチを連打連打連打!! リングサイドに陣取ったファイターが唖然とする中、異様な盛り上がりを見せる場内。高山は無惨に顔を腫らしながらも殴るのを止めず、“男塾塾長”フライも呼応。世界中のどの格闘技イベントとも一線を画す、『PRIDE』のオリジナリティを証明する試合となった。

ガンツ　「さよなら、俺の青春」みたいな（笑）。もうそこから朝まで涙酒ですよ。

タコ　あの直後に『PRIDE・2』開催が発表されたけど、あれだけの喪失感のあとに行く気がしないよなぁ。

井上　しない。髙田がヒクソンに負けたのに、いったい何をやるんだって話だったよ（笑）。

タコ　で、メインがマーク・ケアーvsブランコ・シカティックか。

椎名　あれは最低でしたよ。試合中もゴタゴタで揉めて、ルールもまだ決めてねえのかみたいな感じで、凄い野次りましたもん！

ガンツ　ホントはケアーvsホイスだったのが、ホイスが腰の骨がねじれたかなんかって理由で試合キャンセルしたんですよね（笑）。

タコ　腰がねじれて欠場って、どんな理由や（笑）。

井上　あの日は長丁場でしたよね。佐野（なおき）vsホイラー戦が33分やって、菊田vsヘンゾ戦が1時間近くやって。

椎名　だけど、当時は真剣勝負のバーリ・トゥードってそういうもんだって、受け入れて観てましたよね。

タコ　1時間近く膠着しっぱなしって、ガス灯時代のプロレスやないんやから（笑）。

ガンツ　2時間以上、ヘッドロックで絞め続けたエド・ストラングラー・ルイスvsジョー・ステッカーの世界ですよね（笑）。

タコ　ありえへんよな。

椎名　でも、次の『PRIDE・3』では、桜庭とカーロス・ニュートンが凄い試合して、あれがバーリ・トゥードでもおもしろい試合ができるっていうことを証明したよね。

タコ　ある種、バーリ・トゥードがエンターテインメントになりうるということを見せた革命的な試合ですよね。

ガンツ　当時の格闘技ファン、修斗ファンのあいだでは、ニュートンが勝つに決まってると思われていたのを桜庭がおもいきり覆したということでも、プロレスファンとしてはおおいに溜飲が下がりましたよ。

椎名　俺、カーロス・ニュートンがデビューのときから修斗を観に行ってたけど、凄い衝撃だったからね。ニュートンって、ホントに素晴らしい！って感じで。

ガンツ　その動きをさらに桜庭が上回ったのには驚きましたね。

椎名　あれでUWFインター出身者を色眼鏡で見ていた感があった格闘技雑誌とかも、これはただのインチキじゃねえぞ、みたいな感じになったよね。

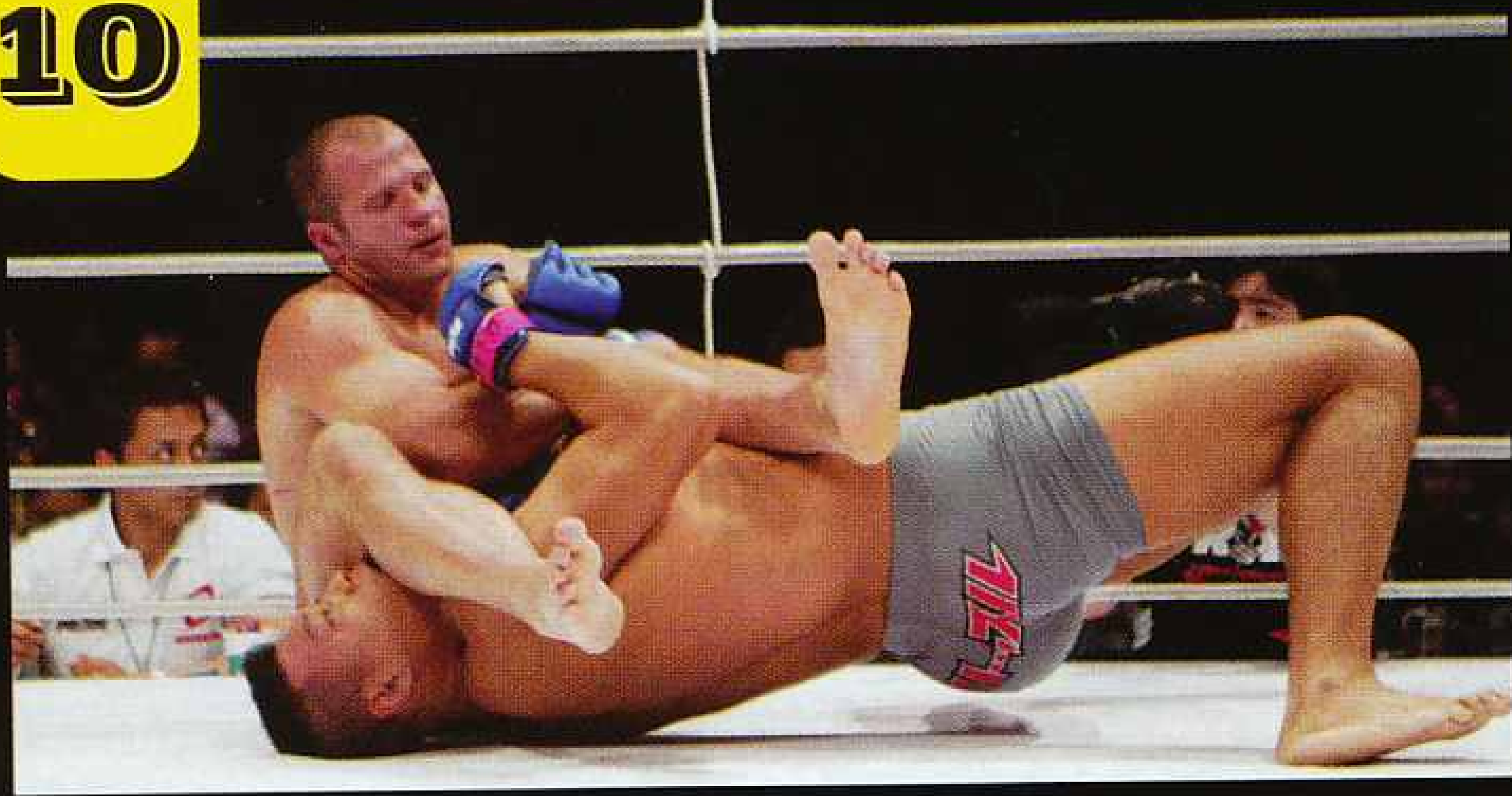
タコ　まぁ、『PRIDE』自体、ナンバーシリーズの一桁ぐらいのときは、常に「この試合はガチか？」ってよう言われてましたからね。

ガンツ　そうやって毎大会、疑りながら熱狂するというのも〝変態〟にとっては一つの楽しみではありましたよね（笑）。

髙田vsヒクソン再戦とともに「ノブ・フルーツ」も発表！

タコ　髙田vsヒクソンの再戦が発表されたのっていつやったっけ？

10





2004.8.15
『PRIDE GP 2004 決勝戦』
さいたまSA、PRIDE GP 2004準決勝

○E・ヒョードル
［1R 0分54秒 腕ひしぎ十字固め］
×小川直也

この年にスタートした「『ハッスル』を広めるため」という大義を持ってヘビー級GPにエントリーした小川が、レコ、ジャイシルを下して迎えた準決勝の相手は“皇帝”ヒョードル。小川は試合開始早々に左ストレートで攻め込むが、“氷の拳”をアゴとテンプルに被弾。続いてテイクダウンを奪われアッサリとマウントを許すと、腕十字でまさかの“54秒殺”。完敗を喫し、超満員の観客の前に情けない姿をさらけだしてしまった小川だが、試合後「カッコ悪いけど、ハッスルさせてください！」とマイク。あまりにも素っ裸でむき出しの小川劇場が繰り広げられ、ファンの共感を呼んだ。

9



2006.9.10『PRIDE 無差別級GP 2006 決勝戦』さいたまSA、無差別級GP 準決勝

○ジョシュ・バーネット［2R 判定2―1］A・ホドリゴ・ノゲイラ×

“柔術vsキャッチ・レスリング”！ 世界最高峰のグラウンド技術を持つ両者の一戦は、無差別級GP準決勝で実現。戦前の期待をはるかに上回る至高の寝技合戦となった。両者の気迫とテクニックが生み出す一進一退、攻守が目まぐるしく入れ替わる攻防に、観客はただただ感嘆。ノゲイラが腕十字に捕らえれば、ジョシュはフロントチョークで絞め上げ、ともに「あわや！」の場面が続出。「あっ！」という間に過ぎていった20分間の結末は、スプリット判定でジョシュに軍配。ジョシュが決勝戦にコマを進めた。

ガンツ　確か、年が明けて2月ぐらいだったと思います。

井上　あ、そうだそうだ。あれもすっげえビックリしたんだよな。

タコ　めっちゃビックリしたねえ。ホンマに再戦するんやって。

井上　いきなり「重大発表があります」って、記者会見場に髙田とヒクソンが入ってきて「去年と同じ10月11日に再戦」って発表されてビックリしたあとに、「このあと髙田個人の会見がありますので」って別の部屋に移されて、行ったら「髙田道場設立します」って、桜庭たちと一緒に発表されたんですよね。そして、その髙田道場設立と同時に、新ブランド「ノブ・フルーツ」の発表もあったんですよ！

タコ　なんや、それ（笑）。

井上　スポーツマンが着る、機能性の高いTシャツとか短パンとかの髙田ブランドですよ！「ノブ・フルーツ」のロゴと一緒に果物の絵が入ってて。

椎名　凄いセンスしてんね（笑）。

井上　だって、確か『kamipro』の坂井ノブも当時「坂井ノブ・フルーツ」っていう名前にされてたじゃん！

一同　ダハハハハ！

タコ　アホや（笑）。一度目の髙田vsヒクソン戦のあと涙を流したガンツは、再戦が発表されたときどう思ったん？

ガンツ　ボクはかなり残念でしたね。あのときってリングスが前田vsヒクソン戦へ動いてたじゃないですか。それがもの凄く観たかったんで。もし前田vsヒクソン戦が実現したら、たとえ30万円でもリングサイドVIP席を買おうって、同じ前田ファンの友だち二人と約束してたぐらいですから。

タコ　30万って、それは言いすぎやろ。

ガンツ　たかが自転車に100万円かけてるタコ兄さんに言われたくないですね（笑）。だって前田vsヒクソンがブラジルでやったとしても、ボクらは必ず観に行きますから、それを考えたら30万も決して惜しくなかったですね。

椎名　俺もそれぐらいだったら出してたな。

ガンツ　ボクは実際にチケット買うときのシミュレーションまでしてましたからね。発売日にチケットぴあの窓口に並んで、「前田vsヒクソン、リングサイドVIP席3枚ください」「はい。90万円です」って言ってもらって、それを聞いた周りの人たちが驚くっていうのをやりたかったんですよ（笑）。

タコ　アホなこと考えとるなぁ～。井上くんは髙田vsヒクソンの再戦が発表されて、『PRIDE・4』に至るまでの期待感ってどうやった？

井上　そりゃあ、もちろん「次はイケる！」って感じですよ！

タコ　そう言い聞かせてたよね、みんな。

ガンツ　でも、マスコミの髙田に対する報道はひどかったですよね。『FRIDAY』なんて、髙田がロサンゼルスで柔術特訓中に道場生に極められたら、「弱いぞ髙田」とか書いたり。

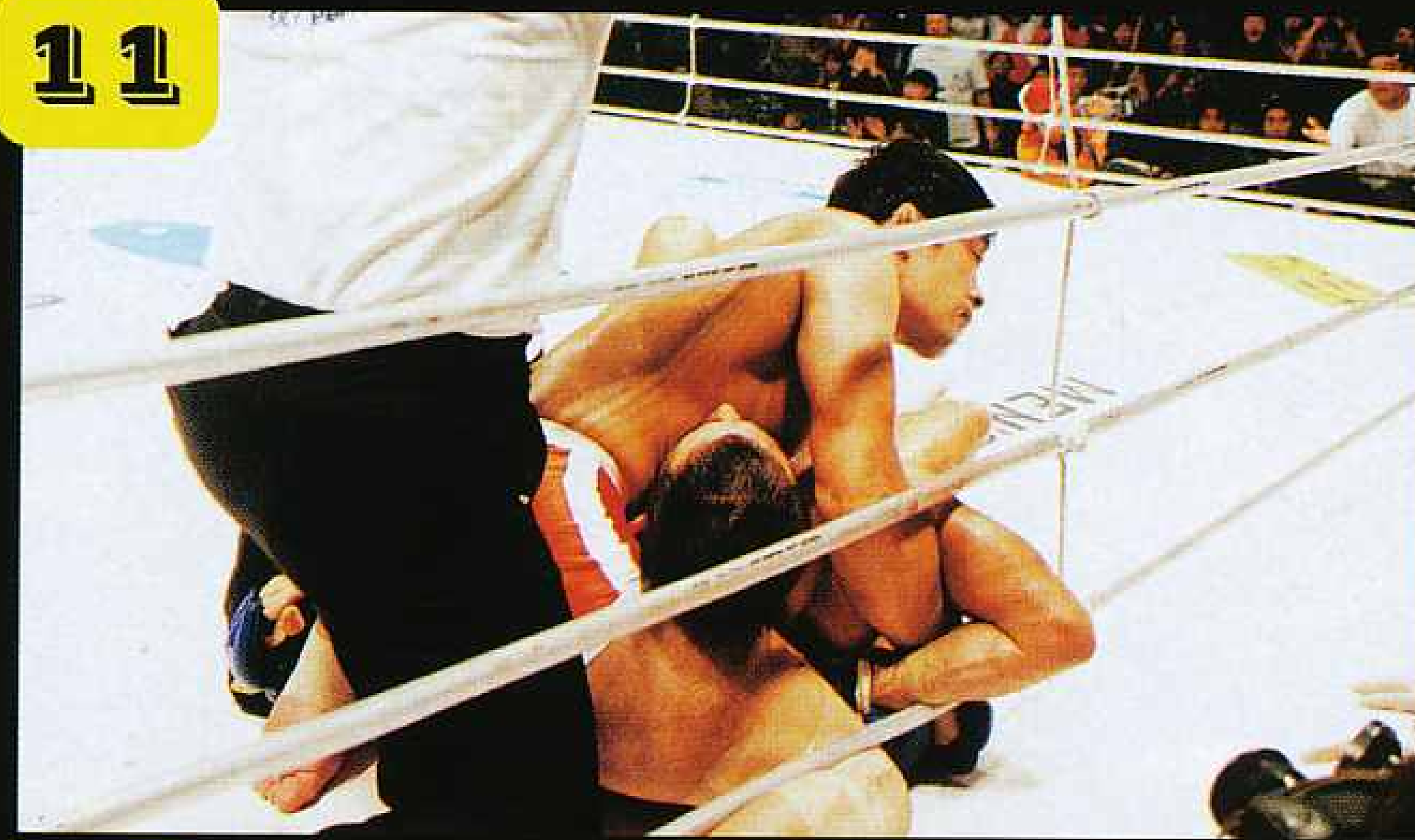
タコ　『ファイト』でも「A級戦犯」って書かれとったもんな。

12



[1998.10.11『PRIDE.4』東京ドーム]
○アレクサンダー大塚 [2R終了 TKO] **マルコ・ファス×**
当時、無名に近い存在だったアレクが、ヒクソンも対戦を避けるといわれた"路上の王"ファスをパウンドで戦意喪失に追い込みTKO勝利。下馬評を覆し、『PRIDE』史に残る大アップセットを演じた。

11



1999.11.21『PRIDE.8』有明コロシアム
○桜庭和志
[2R 13分16秒 TKO]
×ホイラー・グレイシー
当時、『PRIDE』無敗だった桜庭が大ブレイクする起点となった試合。グレイシー姓の選手と初対戦した桜庭は打撃で圧倒してキムラロックをズバリ。日本格闘界の悲願だったグレイシー越えを達成した。

17



2003.8.10『PRIDE GP 2003 開幕戦』さいたまSA、ミドル級GP 1回戦
○吉田秀彦 [1R 5分06秒 袖車絞め] **田村潔司×**
衝撃の異次元格闘技戦"Uvs柔道"がミドル級GP1回戦で実現！ 戦前から舌戦を繰り広げた両者は田村が意地の左フックを炸裂させれば、吉田は負けん気全開でヘッドロック！ 白熱の一戦となった。

14



2000.5.1『PRIDE GP 2000 決勝戦』東京ドーム、PRIDE GP 200 2回戦
○藤田和之 [1R 判定3-0] **M・ケアー×**
総合2戦目となる藤田が、当時、怪物的な強さを誇った"霊長類ヒト科最強"ケアーと激突。序盤こそ主導権を握られたものの、1ラウンド中盤以降はペースを握りケアーを圧倒。ケアーに総合初黒星を与えた。

13



2005.12.31『PRIDE男祭り 2005 頂-ITADAKI-』さいたまSA
○吉田秀彦 [1R 6分04秒 TKO] **小川直也×**
確執がささやかれた禁断の対決が実現。戦前、入場順やコーナーで揉めるなど、ただならぬ緊張感の中、吉田の腕十字に小川は意地を見せタップせず、レフェリーストップ決着で吉田に軍配が上がった。

16



2001.3.25『PRIDE.13』さいたまSA
○ヴァンダレイ・シウバ [1R 1分38秒 TKO] **桜庭和志×**
桜庭とシウバが初対峙！ この大会より「4点ポジションでの頭部攻撃」を認める新ルールにより、シウバが桜庭の頭部にヒザ、キックをぶち込む衝撃的な内容。血だるまとなった桜庭は『PRIDE』初黒星。

15



2006.5.5『PRIDE 無差別級GP 開幕戦』大阪ドーム、無差別級GP 1回戦
○M・ハント [2R 4分15秒 TKO] **髙阪剛×**
"世界のTK"髙阪が引退を懸けて臨んだ一戦では、体重差をものともせず、『PRIDE』屈指のハードパンチャー、ハントと真っ向勝負。何度倒されても前に出るTKの姿に、会場は感動の嵐に包まれた。

井上　猪木さんの「よりによって一番弱いヤツが出ていった」っていう発言もありましたしね。

椎名　ジャイアント馬場が「高田とかいう"芸能人になりたいヤツ"がヒクソンとやるのは感心しない」とか言ったりね（笑）。

井上　あと、グレート・サスケの「高田さんは闘った時点で僕らに勝った」っていう、妙な援護射撃もありました（笑）。

タコ　凄いな、みんな名コピーライターや。あのときは「ジャンルを背負う」みたいな言い方が生々しかったからね。

ガンツ　猪木さんも馬場さんも、高田みたいなトップレスラーが、リアルファイトで負けたときのプロレス界への影響を皮膚感覚でわかってたんでしょうね。

井上　でも、サクは『PRIDE.1』でのヒクソンを観て「あれならタックル取れそうですね」って言ってたんだよね。

ガンツ　当時のサクだったり、あとはTK（高阪剛）や金原（弘光）といった、当時のU系の若き実力者たちって、グレイシーを冷静に分析して「これは勝てる」って思ってたんですよね。

井上　それまでのプロレスラーって、グレイシーの闘い方がわからなくて負けてたけど、あのへんの選手たちはグレイシーが何をやって勝っていくのかをちゃんと把握してたってことだよね。

椎名　実際、桜庭は高田がヒクソンに負けた直後に、UFC-J柔術家のマーカス・コナンに勝ったわけだからね。

タコ　それから二度目の高田vsヒクソンと同じ日に、アレク（サンダー大塚）が、当時はヒクソンに次ぐ大物だったマルコ・ファスに勝ったじゃないですか。そこに希望が見えましたよね。

椎名　あれは感動したよね。

タコ　俺は長いあいだ、アレクvsマルコ・ファス戦はかなり心の名勝負やったけどね。ちょっといまは本人がショボくなってきてるから、その印象で損してるけど。試合だけで言うたら、めっちゃ感動したよ。

ガンツ　ボクは、日の丸広げて応援してましたからね。

タコ　キミはそんなことまで……。

椎名　ホントに!?

ガンツ　デカい日の丸に「髙田延彦」って書いてあるヤツが売ってたんですよ。ボクはそれを持って浅草キッドと一緒に撮った写真が当時の『kamipro』に載りましたからね（笑）。

井上　俺もその旗ほしかったんだけど、あの頃会社から給料出てなくて買えなかったんだよ（笑）。

タコ　髙田vsヒクソンやアレクvsマルコ・ファスは、変態たちのナショナリズムまで刺激したんやなぁ。

桜庭の試合はみんな最高！ 髙田もやっぱり"最強"だった

ガンツ　DSE体制に変わった『PRIDE.5』以降のサクの快進撃は痛快でしたよね。

椎名　あそこからの桜庭は最高！ 俺、名古屋まで桜庭vsビクトー・べ

19



2002.4.28『PRIDE.20』横浜アリーナ
△ヴァンダレイ・シウバ
[5Rドロー]
△ミルコ・クロコップ

“『PRIDE』vsK-1”の第一弾として行なわれたこの一戦は、両雄の凄味がヒシヒシと伝わる展開に。試合は両者が決め手を欠いたまま時間切れドローに終わったものの、ジャンルを背負った者同士にしか作り出せない極上の緊張感に、横アリに集った観客は酔いしれた。

18



2005.12.31『PRIDE男祭り 2005 頂-ITADAKI-』さいたまSA、ライト級GP 決勝
○五味隆典 [1R 3分56秒 KO] 桜井“マッハ”速人×

木口道場の先輩・後輩であり、元修斗ミドル級王者とウェルター級王者がライト級GP決勝で激突。両者が情を捨てて臨んだ一戦はパンチ連打で五味が激勝し、初代ライト級王座を戴冠した。

22



2003.11.9『PRIDE GP 2003決勝戦』東京ドーム、ミドル級GP 準決勝
○ヴァンダレイ・シウバ [2R 判定3−0] 吉田秀彦×

シウバの狂拳が吉田に襲いかかるスリリングな展開にドーム激震! 吉田は鼻血を出しながら打撃戦に応じ、剥き出しの闘争本能を披露。敗れたものの、惜しみない声援が道衣を赤く染めた吉田に贈られた。

21



2006.7.1『PRIDE 無差別級GP 2nd ROUND』さいたまSA、無差別級GP 2回戦
○ヴァンダレイ・シウバ [1R 9分21秒 TKO] 藤田和之×

DSEの行なったアンケートで実現した“野獣対決”は身を削るような死闘に発展。シウバの打撃に果敢に立ち向かう藤田。闘争本能剥き出しの決闘は、タオル投入により、シウバに凱歌が上がった。

20



2003.6.8『PRIDE.26』横浜アリーナ
○E・ヒョードル [1R 4分17秒 裸絞め] 藤田和之×

ヘビー級新王者のヒョードルに、2年ぶりの参戦となった藤田が挑戦。藤田はカウンターの右フックでヒョードルをグラつかせる「あわや」の場面も生み出し、“世界最強”の男が最も苦戦した試合となった。

25



2004.6.20『PRIDE GP 2004 2nd ROUND』さいたまSA、ヘビー級GP 2回戦
○S・ハリトーノフ [1R 9分19秒 TKO] S・シュルト×

ロシア軍人が、現K-1王者のシュルトを虐殺!　ハリトーノフは、右ヒザでシュルトの左腕を固定した状態から冷酷なパウンドを連打! シュルトの顔面を真っ赤に染め、リングを血生臭い戦場に変えた。

24



2006.12.31『PRIDE 男祭り 2006 −FUMETSU−』さいたまSA
○青木真也 [1R 2分04秒 トライアングルチョーク] ヨアキム・ハンセン×

初参戦以降、2戦連続で一本勝ちの“バカ・サバイバー”青木が実力者ハンセンと激突。青木がわずか2分でハンセンをフットチョーク葬。「ライト級戦線に青木アリ」を強烈に印象づけた。

23



2006.12.31『PRIDE男祭り 2006 −FUMETU−』さいたまSA
○五味隆典 [1R 1分14秒 KO] 石田光洋×

KO勝利がなく、この年はやや弱火だった“火の玉ボーイ”が大晦日にブチキレ!「勝てない相手じゃない」と言い放った石田に、“ワル五味”モードで左ストレート一閃! わずか74秒で石田を葬った。

ウフォートは観に行ったんだけど、衝撃的でしたね。桜庭はここまで強いのかって。

ガンツ　UFC王者にもなった柔術界の超新星が翻弄されまくって、ローリングソバットまで食らっちゃうんですからね。

タコ　そのあと『PRIDE・6』では、ブラガに完勝。

椎名　パンクラスで船木をボコボコにしたエベンゼール・フォンテス・ブラガに一本勝ちしちゃうんだもんね。

ガンツ　桜庭の場合はブラガをホントに見切ってましたよね（笑）。

タコ　続いて『PRIDE・7』はアンソニー・マシアス戦。

井上　この大会でヴァンダレイ・シウバが初来日したんだけど、桜庭vsマシアス戦を観て怒ったんだよね。サクがダブルアーム・スープレックス狙ったり、炎のコマやったりしてたから、「あんなふざけたファイターはいない、あいつとやらせろ!」って言いだして。

タコ　そんな因縁があったんや。そこから3度の死闘があって、その後は盟友になるんやから、凄い物語やなぁ。そして次の『PRIDE・8』がサクvsホイラー・グレイシー。

椎名　この試合は最高だよね!

井上　椎名さん、さっきから「最高」がやたら続いてませんか?（笑）。

椎名　いや、この頃の桜庭の試合はみんな最高なんだけど、中でもホイラー戦は一番でしょう!

タコ　非常に陳腐な言い方ですけど、神懸かってましたよね、この時期のサクっていうのは。

井上　毎試合、神が降りてきてましたよ。

タコ　そして、次はいよいよ伝説のホイス戦が実現する『PRIDE・GP2000』ですけど。

ガンツ　サクの1回戦、ガイ・メッツアー戦は消化不良でしたけど、GP開幕戦は興行自体がひどかったですよね。

PRIDE BEST 5 スペシャルゲスト編

大物アーティストから“刺された男”まで豪華ゲスト続出ッ!

最近では、亀田大毅の勝利後の熱唱や『Dynamite!!』での矢沢永吉ライブなど、歌とは切っても切り離せない（?）格闘技界だが、『PRIDE』も初っぱなの大会から、藤谷美和子率いるヘビメタバンド「格闘バンドwithMIWAKO」が登場したり、小室哲哉プロデュースのRingのライブがあったりと、じつは『PRIDE』は先陣を切っている興行である。大物、桑田佳祐も小川直也が茅ヶ崎ライブに出たお礼にと、『PRIDEの唄～茅ヶ崎はありがとう～』を熱唱しているが……、これにまつわる複雑な事情は座談会をお読みください。また、“刺された”直後の棚橋や、政界からのゲスト小池環境大臣（当時）のリングインはいま見ても、じつに異色である。



藤谷美和子



プリンセス天功



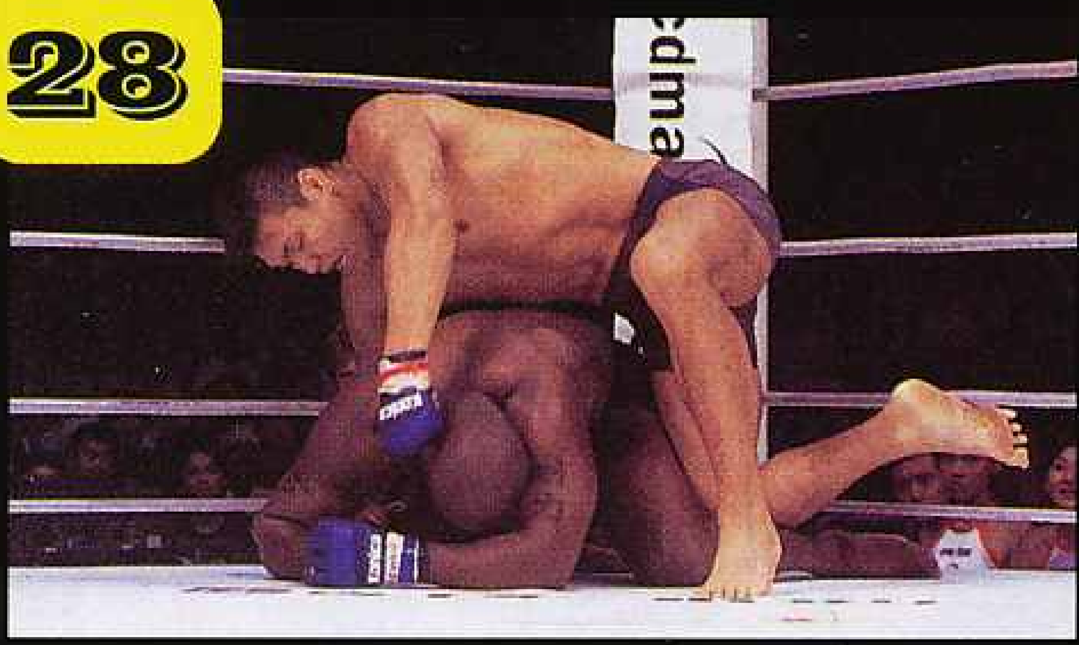
桑田佳祐



棚橋弘至



小池百合子環境大臣（当時）



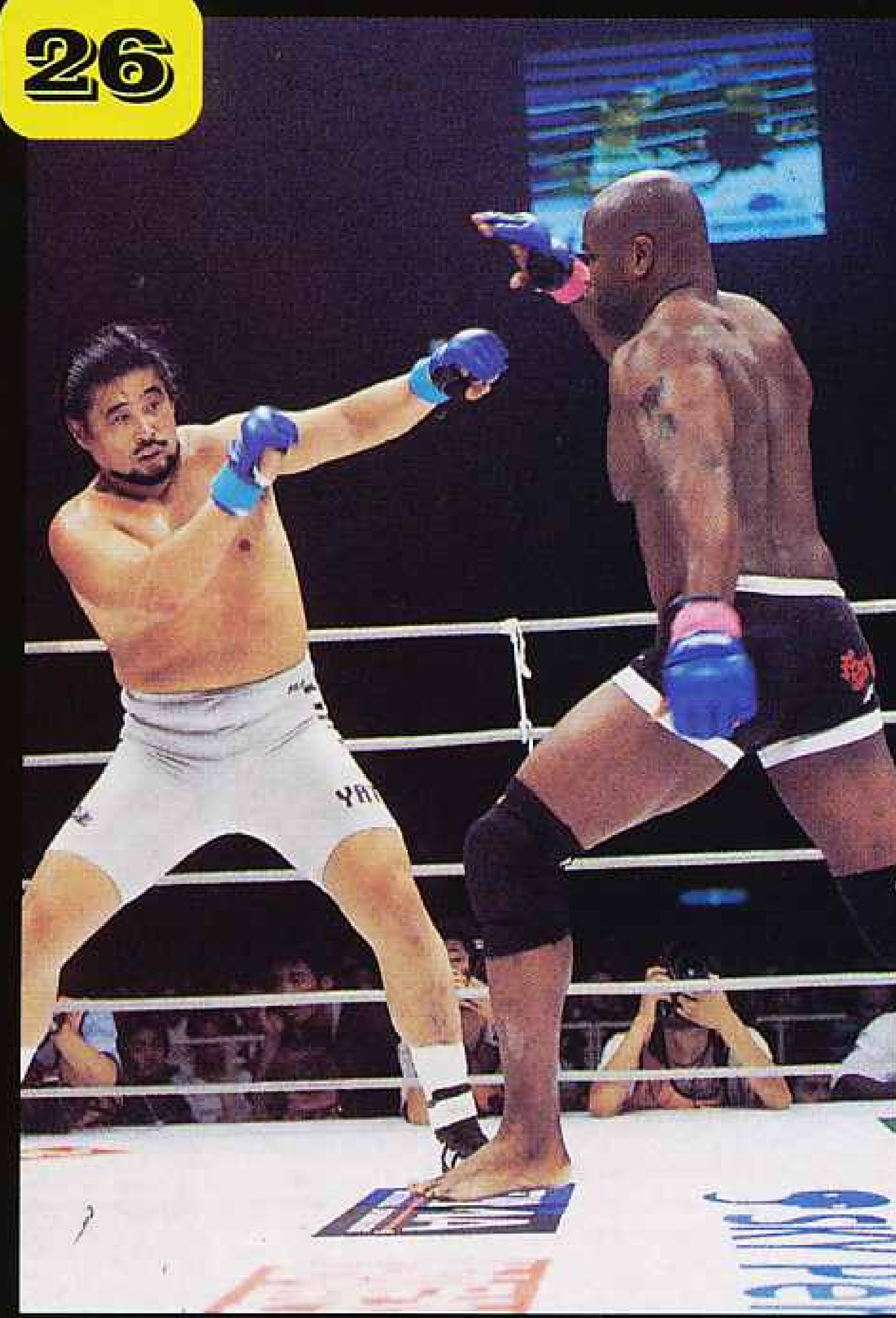
28

1999.7.4『PRIDE.6』横浜アリーナ
○小川直也［2R 0分36秒 V1アームロック］G・グッドリッジ×
あの“1・4事変”から半年、小川直也が『PRIDE』初参戦！“番人”グッドリッジの豪腕パンチの嵐をかいくぐるとグラウンドで追いつめ、最後はV1アームロックで快勝。小川最強幻想を抱かせた。



27

2007.2.25『PRIDE.33』トーマス&マックセンター、ミドル級タイトルマッチ
○ダン・ヘンダーソン［3R 2分08秒 TKO］ヴァンダレイ・シウバ×
4点での蹴り＆踏みつけ禁止というネバダ州ルールで行なわれたこの試合は、ダンヘンが動きに精彩の欠いた“絶対王者”シウバを左フックでKO！ダンヘンがミドル＆ウェルターの2階級王者となった。



26

2000.10.31『PRIDE.11』大阪城ホール
○G・グッドリッジ［1R 8分58秒 TKO］谷津嘉章×
かつてアントンに「一番強いヤツ」と言わしめた“幻のメダリスト”谷津が、齢44でまさかの『PRIDE』参戦。グッドリッジのパンチを何十発くらっても異常なまでに突進し、ファンに感動を与えた。



30

2003.3.16『PRIDE.25』横浜アリーナ、ヘビー級タイトルマッチ
○E・ヒョードル［3R 判定3−0］A・ホドリゴ・ノゲイラ×
無敗のヘビー級王者ノゲイラが王座陥落！グラウンドで常に下となったノゲイラはアームロックやオモプラッタの打開策も凌がれ“氷の拳”の餌食に。皇帝時代の到来を告げる一戦となった。



29

1998.6.24『PRIDE.3』日本武道館
○桜庭和志［2R 5分19秒 ヒザ十字固め］カーロス・ニュートン×
「真剣勝負はおもしろくなくて当然」という風潮をくつがえした革命的な一戦。頭と身体をフル稼働し、終始動きの止まらない両雄の攻防に、当時この試合をベストバウトに上げるファン＆関係者は多かった。



32

2004.4.25『PRIDE GP 2004 開幕戦』さいたまSA、ヘビー級GP 1回戦
○ケビン・ランデルマン［1R 1分57秒 KO］×ミルコ・クロコップ
“優勝候補”ミルコがまさかのヘビー級GP1回戦敗退！伏兵ランデルマンの左フックで腰を落とすと、鉄槌の連打を浴びて失神KO！　あまりにもショッキングな“圧倒的現実”の前に会場は騒然となった。



31

2007.8.27『PRIDE.10』西武ドーム
○桜庭和志［2R 9分43秒 TKO］ヘンゾ・グレイシー×
メインイベンター桜庭が時間切れ寸前で底力を発揮。ヘンゾの左腕を取ると一気に絞め上げ、左ヒジを破壊！ホイラー、ホイスにヘンゾも破り“グレイシーハンター”の異名を決定づける一戦となった。

井上　ひどかった。あの頃待望のエンセン井上vsマーク・ケアーが1回戦で実現したんだけど膠着試合になっちゃってさ。

ガンツ　それに輪をかけて膠着してたのが、メインの高田vsホイスでしたけどね（笑）。

井上　高田が試合中「（ホイスの）道衣、臭えよ！」って叫んだあの試合ね（笑）。

ガンツ　そしてなんといっても、世界最強の男を決める『PRIDE』初のGP第一試合に登場したのが大刀光だったっていうのがふざけてますよね（笑）。

井上　大刀光が『PRIDE』に出たのって、『kami-pro』のインタビューで相撲幻想が高まるような大刀光インタビューやったのがきっかけだよね？

ガンツ　そうです。あの相撲甚句で入場するのもスモーノブの案ですから。単なるインタビューでGP出場が決まるって、いまじゃ考えられませんけどね。

タコ　ロレンゾ・フェティータなんか、絶対に許さんやろ（笑）。

椎名　大刀光ってそのあとまたバーリ・トゥードに出なかったっけ？

ガンツ　DEEPでエル・カネックとやってますね。

椎名　カネックか！（笑）。

ガンツ　カネックのバーリ・トゥードが観られるなんて、奇跡以外の何物でもないですよね。あのとき大刀光がスリーパーやったら、カネックが「レフェリー、チョーク！」ってアピールしてたんですよ。総合はチョークありだって！（笑）。

一同　ダハハハハ！

タコ　いいなぁ、カネック（笑）。まぁ、そんなことはええとして、サクvsホイスはいかがでしたか？

椎名　俺はホイラー戦のほうが好きなんだけど、ホイス戦もやっぱり最高だよね！

井上　やっぱり最高ですか（笑）。マシンのマスクで入場したのが良かったですよね。

タコ　シビれたなぁ。

ガンツ　あの試合は、まんま映画にできますよね。すべてが名場面ですけど、とくにホリオンがタオルを投入するときがいい。

タコ　エリオ爺さんの顔をカメラがちゃんとアップで抜いてたよなぁ。

ガンツ　あのなんとも言えない表情がよかったですよね。ホイスの顔もホリオンの顔もよかった。もちろん桜庭の笑顔も。

井上　あの日は藤田和之vsマーク・ケアー戦もよかったですよね。

タコ　よかったよ。俺は会長（山口日昇）と一緒に観てたんやけど、藤田が勝った瞬間、会長がなぜか俺の手を高々と挙げたんや。

ガンツ　なぜだ（笑）。

タコ　「観てるおまえも勝者や！」っていう意味なんかなぁ。

ガンツ　全然、意味はわかりませんけど、確かにそんな気持ちにさせてくれましたよね。

椎名　でも、その日は結局、コールマンが地味に優勝しちゃったんだよね。

ガンツ　本人以外は誰も喜んでない優勝（笑）。

椎名　『PRIDE・GP』に優勝したコールマンに勝った高田は、やっ



34

1999.4.29 PRIDE.5 名古屋レインボーホール
◯桜庭和志
[2R 判定]
×ビクトー・ベウフォート

桜庭が"超新星"ビクトーを迎撃。桜庭は序盤こそビクトーのパンチに劣勢だったものの、これを凌ぐとソバットやフットスタンプなどやりたい放題。桜庭のキャラが完全に確立された試合となった。



33

2000.10.31 PRIDE.11 大阪城ホール
◯小川直也[2R 2分01秒 裸絞め]**佐竹雅昭×**

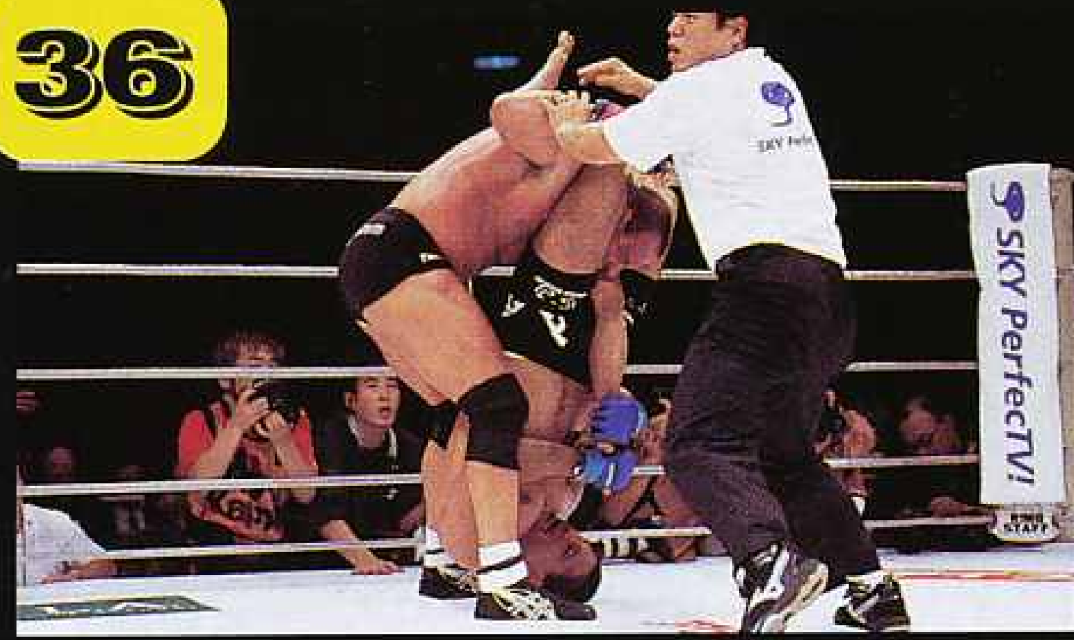
"柔道王vs空手王"究極の異種格闘技戦実現。小川がいかに寝技に持ち込むかが注目されるも、序盤、小川は打撃戦に応じ、高い打撃スキルを披露。2ラウンドはあっさりテイクダウンを奪いチョークで完勝劇。



37

2003.11.9 PRIDE GP 2003決勝戦 東京ドーム、ミドル級GP 決勝
◯ヴァンダレイ・シウバ[1R 6分28秒 TKO]**Q"ランペイジ"ジャクソン×**

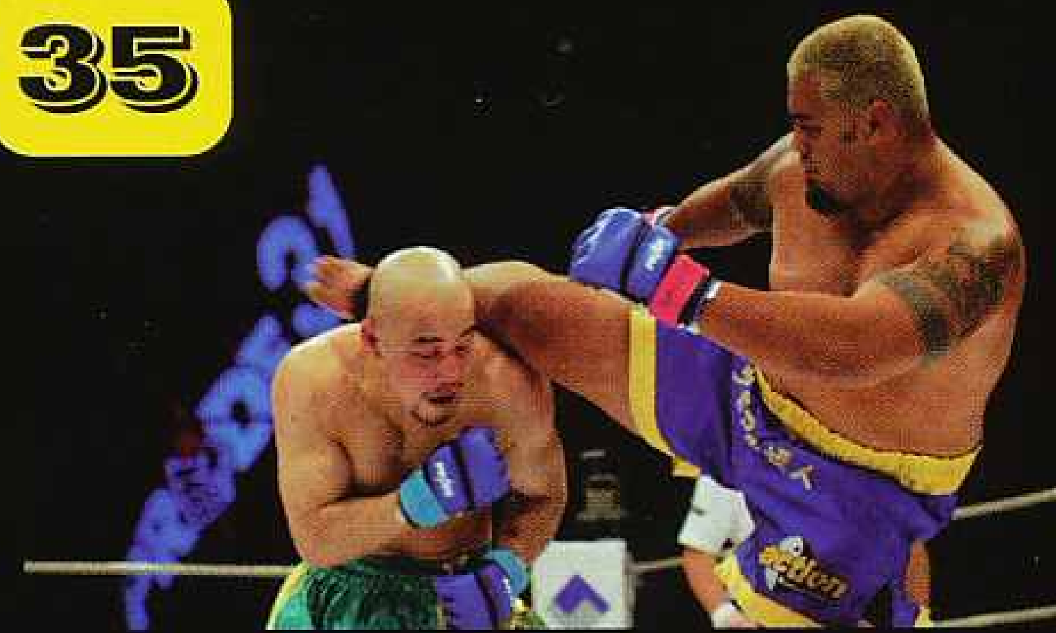
『PRIDE.25』での乱闘以降、因縁浅からぬ両者がミドル級GP決勝で激突。ランペイジはスタンドでシウバの首相撲に捕まると、15発ものヒザをもらい轟沈。シウバはGPとミドル級王座の二冠を達成した。



36

2001.9.24 PRIDE.16 大阪城ホール
◯A・ホドリゴ・ノゲイラ[1R 6分10 秒 腕ひしぎ三角固め]**M・コールマン×**

『PRIDE.15』で初参戦をはたしたノゲイラが、2戦目にしてPRIDE GP覇者のコールマンと激突。互角の勝負が予想されたが試合はノゲイラが終始圧倒。最後は三角絞めと腕十字の複合技で勝利！



35

2006.2.26 PRIDE.31 さいたまSA
◯M・ハント[3R 1分18秒 TKO]**西島洋介×**

元WBF世界クルーザー級チャンピオンの西島洋介が『PRIDE』デビュー戦でハントと壮絶すぎるド突き合いを展開。最後はハントの右ストレートに散ったものの、初の総合格闘技戦で大善戦した西島だった。



40

2006.12.31 PRIDE男祭り 2006 ーFUMETSUー さいたまSA
◯G・メレンデス[2R 判定 3-0]**川尻達也×**

ライト級トップコンテンダー同士の激突は、真っ向からの殴り合いを展開し、軽量級とは思えないド迫力の死闘に。判定フルマークでメレンデスに軍配が上がったが、内容的には僅差で川尻も評価を上げた。



39

1999.7.4 PRIDE.6 横浜アリーナ
◯桜庭和志[1R 9分23秒 腕ひしぎ十字固め]**E・フォンテス・ブラガ×**

『PRIDE.5』の試合後、「強い相手とやりたい」とアピールした桜庭の相手は、3ヵ月前に船木誠勝をボコボコにしたルタの強豪ブラガ。桜庭は寝技に持ち込むと実力差を見せつけ、最後は変型腕十字で一本。



38

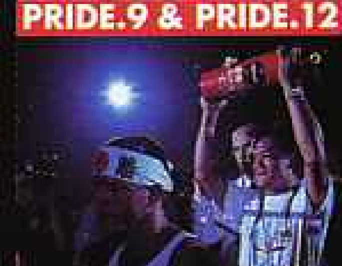
2001.11.3 PRIDE.17 東京ドーム
◯ヴァンダレイ・シウバ[1R終了 ドクターストップ]**桜庭和志×**

『PRIDE.13』での秒殺TKO劇から7ヵ月、桜庭とシウバの世紀の再戦がミドル級王座決定戦として実現。桜庭はシウバにパワースラムのように叩き落とされ左肩を脱臼。雪辱を遂げることはできなかった。

PRIDE BEST 5 衝撃の入場シーン編

思わぬゲストも登場 脳裏に焼きつくあの迷場面をもう一度

桜庭和志や美濃輪育久（ミノワマン）など、『PRIDE』でも数々の入場シーンはあれど、やっぱり取り上げたいのはこの5つ。まず、『PRIDE.9』にて偶発的が事故により入場時に大火傷を負ったオリベイラは、次に出場した『PRIDE.12』で消化器を持って"火の用心"をアピール。リングネームもジョイユ・デ・"ファイア"・オリベイラと改めたのだった。また、ニュートンが宮本武蔵をイメージして剣道着でリングインする謎の光景が繰り広げられたり、ニンジャが忍者の格好で現われるという直球のダジャレが許された大会も懐かしい。"フジショック"直後のドンペン君登場や、DJ.GOZMAの"悩ましい"入場あたりは、まだ記憶に新しいところである。

PRIDE.9 & PRIDE.12

ジョイユ・デ・オリベイラ

PRIDE.19

カーロス・ニュートン

PRIDE.20

ムリーロ・ニンジャ

PRIDE GP 無差別級 2006 2ndROUND

ドンペン君

PRIDE 武士道 其の十三

DJ.GOZMA

ぱり最強だったって、凄い結論だよね（笑）。

タコ 神のいたずらってことで（笑）。

小川の桑田佳祐に対抗して佐竹が長渕剛を呼ぼうとした！

タコ 次は『PRIDE・10』、西武ドーム大会の感想いきましょうか。

井上 暑かった！

タコ それだけかい！（笑）。でも、あの日はホンマそれが一番の感想やもんなぁ。

ガンツ あの暑い西武ドームにI編集長（故・井上義啓氏）が来たんですよね。

タコ ああ、そやったなぁ。しかも時間間違えたんやなかったっけ？

ガンツ そうですそうです。

椎名 俺も誌面で見た！「遠い言うてんねん！」とか言ってましたね（笑）。

ガンツ 「東京ドームじゃないとダメですよ！」って怒ってて。「あの西武池袋線っちゅうのはなぁ！」って（笑）。

タコ それも"真夏の野外ライブ"の思い出の一つやなぁ。

井上 マジメに言うと、石澤常光vsハイアン戦がありましたね。

タコ これはもう素晴らしい負けっぷりやったね。

ガンツ 辻アナの実況も良かったですよね（笑）。

井上 で、アントニオ猪木がエグゼクティブ・プロデューサーとして初登場ですね。

椎名 ここで初登場なんだ。一時期の『PRIDE』はなんだか猪木の興行みたいなところがあったよね。猪木のコーナーが一番盛り上がる、みたいな。

タコ 猪木さんのマイクから「ダーッ！」の芸が完成したのって『PRIDE』ですもんね。

井上 あとは佐竹雅昭が村上和成相手に『PRIDE』初勝利を挙げてます。

41位〜100位

イッキに鳥肌！



41

2004.12.31『PRIDE 男祭り 2004 -SADAME-』さいたまSA
○M・ハント［3R 判定2−1］**ヴァンダレイ・シウバ×**
シウバとの“4度目の正直”に挑むハズだった桜庭が肋骨骨折。急遽シウバの相手としてハントが参戦。シウバは判定で敗れたものの、32キロの体重差をものともせず壮絶な殴り合いでおおいに沸かせた。



42

2001.5.27『PRIDE.14』横浜アリーナ
○藤田和之［2R 2分18秒 TKO］**高山善廣×**
『PRIDE』初参戦の高山が藤田とド迫力のヘビー級プロレスラー対決。藤田がグラウンドのパンチとヒザで流血させ、それでも立ち上がる高山を肩固め。タップしない高山を見てレフェリーストップとなった。



43

2007.2.24『PRIDE.33』トーマス&マックセンター
○ソクジュ［1R 0分23秒 TKO］**A・ホジェリオ・ノゲイラ×**
アフリカ出身の“ジャングル大帝”ソクジュ、衝撃のデビュー戦。そのバックボーンとルックスから誰もが出オチ覚悟で試合を見守る中、KO負けなしだったノゲイラ弟を奇跡の一打で秒殺し、一躍大ブレイク！



44

2001.11.3『PRIDE.17』東京ドーム
○A・ホドリゴ・ノゲイラ［3R 判定3−0］**ヒース・ヒーリング×**
ケアーを粉砕したヒーリングと元リングスKOK王者ノゲイラのヘビー級王座決定戦。グラウンドに引き込んだノゲイラが究極の寝技テクの引き出しを存分に開けて勝利。見事に初代王者となった。



45

2000.5.1『PRIDE GP 2000 決勝戦』東京ドーム、PRIDE GP 2000 準決勝
○I・ボブチャンチン［1R終了 TKO］**桜庭和志×**
ホイスとの90分にわたる激戦後、準決勝棄権はやむなしと思われたが、なんと桜庭はきっちり出場し、ヘビー級のボブチャンチンと堂々渡り合った。1ラウンド終了後にタオルが投入されたが、会場は大拍手。



46

2004.4.25『PRIDE GP 2004 開幕戦』さいたまSA、ヘビー級GP 1回戦
○小川直也［1R 1分34秒 肩固め］**ステファン・レコ×**
「ハッスルするならいましかねぇ！」と小川直也がヘビー級GPにまさかの電撃参戦！　K-1戦士レコと打ち合い、マウントパンチから横四方、最後は柔道技で圧勝！　ここからハッスル小川人気が大爆発した。



47

2007.8.27『PRIDE.10』西武ドーム
○ハイアン・グレイシー［1R 2分16秒 TKO］**石澤常光×**
新日本道場最強といわれた“ケンドー・カシン”こと石澤が緊急参戦！　だが“喧嘩屋”ハイアンは狂気の目をギラつかせ、パンチの猛攻で石澤をサンドバック状態に。プロレス界に巨大なショックが走った。



48

2005.6.26『PRIDE GP 2005 2nd ROUND』さいたまSA
○M・ショーグン［3R 判定3−0］**A・ホジェリオ・ノゲイラ×**
トップチームとシュートボクセの“若き実力者対決”がミドル級GP2回戦で実現。終始極めを狙うホジェリオと、あらゆる打撃のレパートリーで対抗するショーグンの闘いは、ミドル級新時代を感じさせるものだった。



49

2005.5.22『PRIDE武士道 -其の七-』有明コロシアム
○五味隆典［1R 3分46秒 KO］**ルイス・アゼレード×**
『武士道』連勝中だった五味がシュートボクセの刺客アゼレードと対戦。アゼレードの鋭い打撃に苦戦した五味だが、最後は劇的な左右のフックで逆転KO! 五味はここから“絶対王者”の道を登っていく。



50

2007.2.24『PRIDE.33』トーマス&マックセンター
○ニック・ディアス［2R 1分46秒 フットチョーク］**五味隆典×**
“喧嘩番長”五味がラスベガス初上陸！　勝利で世界進出をアピールしたい一戦だが、鋭い打撃でディアスを大流血させるも、中盤から大苦戦。最後はフットチョークで完敗する大波乱となった。



51

1998.10.11『PRIDE.4』東京ドーム
○ヒクソン・グレイシー［1R 9分30秒 腕ひしぎ十字固め］**髙田延彦×**
世紀の一戦からちょうど1年後のリベンジ戦。結果は前回と同じ腕十字での一本負けだったが、スタンドでの差し合いで優位に立ち、ヒクソンに初めてガードポジションを取らせた髙田の確かな成長の跡が見られた。



52

2006.5.5『PRIDE 無差別級GP 2006 開幕戦』大阪ドーム、無差別級GP 1回戦
○藤田和之［1R 8分25秒 KO］**ジェームス・トンプソン×**
“野獣”藤田和之が3年ぶりに『PRIDE』出撃。しかし、ブランクが響いたか、パンチでダメージを重ね、タックルを潰され大苦戦。しかし、最後は根性のド突き合いで大逆転KO。野獣の雄叫びにドームが揺れた。



53

1999.11.21『PRIDE.8』有明コロシアム
○ヘンゾ・グレイシー［2R 判定5−0］**アレクサンダー大塚×**
マルコ・ファス戦で大金星をあげたアレクが“グレイシー狩り”へ。アレクは減量に苦しみながらもヘンゾから何度もテイクダウンを奪い、寝技をもことごとく凌ぎ大善戦。判定で敗れるもまたしても株を上げた。



54

2006.10.21『PRIDE.32』トーマス&マックセンター
○E・ヒョードル［2R 1分15秒 腕ひしぎ十字固め］**M・コールマン×**
地元開催の『PRIDE』のメインに愛娘を連れてヤル気マンマンのコールマン。人生を懸けた大一番に気迫で挑むも、ヒョードルは残酷なまでの強さを披露して腕十字葬。敗れたオヤジは愛娘を強く抱きしめた。

ガンツ　あの頃、谷川さんが「佐竹のマウントパンチは、空手の試割りと同じだから、瓦が16枚割れる威力。頭蓋骨が折れるかもしれない」とか言ってましたよね（笑）。

井上　「みんな死んじゃうぜ？」って言ってました（笑）。

タコ　谷川さんもよう言うわ（笑）。そして続く『PRIDE・11』の大阪城ホール大会で佐竹は小川直也と闘うんですよね。試合前には桑田佳祐も登場して。

椎名　桑田佳祐登場？　なんだっけ、それ？

ガンツ　この年の夏にオーちゃんが、サザンオールスターズの茅ヶ崎球場ライブにゲスト出演して、そのお礼として桑田佳祐が小川vs佐竹戦の前に「PRIDEの唄」っていうオリジナルソングを歌ったんですよ。

タコ　でも、オーちゃんのために桑田さんが歌うって知った佐竹が激怒したんや。

椎名　なんで？

タコ　オーちゃんだけおいしいじゃないですか。それで佐竹が「それならこっちは長渕剛を呼ぶ」って本気で言うて。

椎名　ああ、確かに桑田と長渕がガチでケンカしてた時期ってあったよね（笑）。

タコ　ほんで、しょうがないから桑田さんが歌詞の中に「佐竹よ〜」っていうフレーズを入れたんですよ。

ガンツ　そしたら小川がまたヒートして「佐竹だけは絶対に殺す！」って（笑）。

椎名　おもいっきり子どものケンカだね（笑）。

ガンツ　あの日は、それ以外にも谷津vsグッドリッジという試合もありましたよね。

井上　あれも『kamipro』のインタビューがきっかけだよね。谷津が「グレイシーよりレスリングのほうが強い」とか「目ェつぶって30秒」とか吠えまくって（笑）。

タコ　初期の『PRIDE』って、そんなんばっかりかい（笑）。

高田が因縁の田村戦で引退 60億分の1最強路線に移行

タコ　『PRIDE・13』でサクvsヴァンダレイの初対決。サクが衝撃のTKO負けを喫しますね。

ガンツ　ここで幸せな時代が終わりましたね。

タコ　終わったな〜、ここから残酷なものをずっと見せられ続けるわけやな。

椎名　でも、ここから『PRIDE』はさらにおもしろくなったよね。4点ポジションのヒザが解禁されて、グラップラーもただタックルに行けばいいっていうんじゃなくなって、凄い緊張感が増した。

ガンツ　ここから時代が変わったというか、『PRIDE』が次のステージに行きましたよね。

タコ　じゃあ、このへんからはザッと行きますけど、『PRIDE・19』で田村潔司が初参戦して、いきなりヴアンダレイとミドル級タイトルマッチで激突。

ガンツ　このカードに髙田が怒ったんですよね。

タコ　「桜庭がシウバ銀行に預けた金

63



1998.10.11『PRIDE.4』東京ドーム
○小路晃［2R 1分26秒 TKO］W・イズマイウ×
いまでこそ"闘魂ストーカー"としてギャグの対象であるイズマイウだが、当時はブラジリアン柔術の強豪中の強豪。そんなイズを相手に小路は寝技を粘り強く凌ぎ、パンチでTKO勝ち。大きく名を上げた。

64



2006.9.10『PRIDE 無差別級GP 決勝戦』さいたまSA、無差別級GP 決勝
○ミルコ・クロコップ［1R 7分32秒 KO］J・バーネット×
ノゲイラとの激戦を判定で終え、ジョシュとシウバをKOで倒したミルコ。天下獲りの執念に燃えるミルコが、強烈なパンチでねじ伏せてとどめの右！"無冠の帝王"ミルコが初戴冠に歓喜の涙を流した。

65



2005.8.28『PRIDE GP 2005 決勝戦』さいたまSA、ミドル級GP決勝
○M・ショーグン［1R 2分53秒 KO］ヒカルド・アローナ×
トップチームとシュートボクセによる因縁のミドル級GP決勝は、ショーグンがいきなり跳び蹴り爆発！ アローナはテイクダウンを狙うも、ショーグンは顔面への打撃から最後は鉄槌を下して初優勝を飾った。

66



2004.5.23『PRIDE武士道 -其の参-』横浜アリーナ
○五味隆典［1R 0分06秒 KO］ハウフ・グレイシー×
五味の『武士道』2戦目の相手は、グレイシーの強豪ハウフ。ゴングと同時にタックルを仕掛けたハウフへ、五味はカウンターのヒザ！ 容赦なくヒザ連打を叩き込み、最短KO記録を樹立した。

67



1999.9.12『PRIDE.7』横浜アリーナ
－M・ケアー［無効試合］I・ボブチャンチン－
"霊長類ヒト科最強"の名をほしいままにしていたケアー。しかし、ボブチャンチンはタックルを潰して頭部へヒザを放ちケアーをKO。当時のルールでは反則を取られたが、ケアーを失神させたインパクトは絶大。

68



2006.12.31『PRIDE 男祭り 2006 -FUMETSU-』さいたまSA、ヘビー級タイトルマッチ
○E・ヒョードル［1R 8分16秒 チキンウイングアームロック］M・ハント×
王者ヒョードル3度目の防衛戦は、ハントがサイドポジションからまさかの腕十字！ あわや極めかけて場内を揺るがすも、最後はヒョードルが逆にハントの腕を絞り上げ、タップを奪って薄氷勝利。

69



2004.12.31『PRIDE 男祭り 2004 -SADAME-』さいたまSA
○五味隆典［1R 6分21秒 KO］ジェンス・パルヴァー×
『武士道』4連勝中の五味が満を持して『男祭り』参戦。修斗出身のパルヴァーに対し、凄まじいアッパーからパウンド連打で1ラウンド勝利。「判定？ ダメだよ、KOじゃなきゃ！」と名マイクも披露。

70



2002.4.28『PRIDE.20』横浜アリーナ
○菊田早苗［3R 判定3−0］アレクサンダー大塚×
試合前に会見で罵り合い、試合では金的蹴りが繰り出され、試合後はマイクを通して再び罵り合うという、『PRIDE』史上最も醜い一戦。菊田はじつに気の毒だが、前田日明ふうに言えば「因果応報」か。

55



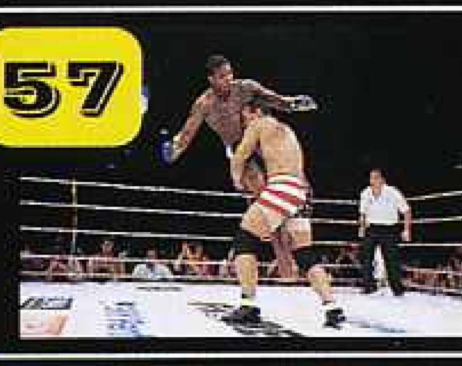
2004.8.15『PRIDE GP 2004 決勝戦』さいたまSA、ヘビー級GP 準決勝
○A・ホドリゴ・ノゲイラ［2R 判定3−0］S・ハリトーノフ×
ヘビー級GP準決勝に進んだハリトーノフ。得意のボクシングテクを披露するも、ヒョードルへのリベンジに燃えるノゲイラがマウントを奪ってパンチをヒットさせ、僅差の判定勝利で決勝へのキップを手にした。

56



2000.8.27『PRIDE.10』西武ドーム
○I・ボブチャンチン［1R終了 ドクターストップ］エンセン井上×
この当時、世界最強のMMAストライカーだったボブチャンチンにエンセンが真っ向勝負を挑む。ドクターストップで敗れたものの、その壮絶極まりない捨て身の殴り合いで、"大和魂"をおおいに見せつけた。

57



2001.9.24『PRIDE.16』大阪城ホール
○D・フライ［1R 7分27秒 反則］G・アイブル×
D・フライ、待望の『PRIDE』初参戦。試合はサミングなど反則三昧のアイブルに対し、真っ向勝負で受けて立つフライの闘いぶりにベビーフェイス人気が爆発！"男塾塾長"の原点となる試合となった。

58



2003.12.31『男祭り2003』さいたまSA
○A・ホジェリオ・ノゲイラ［3R 判定3−0］桜庭和志×
前代未聞の3大格闘技戦争が行なわれたこの年の大晦日、『男祭り』のメインを託されたのは桜庭。試合直前まで相手が決まらない中、桜庭は敗れたものの、対格差があるホジェリオとフルタイムの熱戦を演じた。

59



2004.6.20『PRIDE GP 2004 2nd ROUND』さいたまSA、ヘビー級GP 2回戦
○E・ヒョードル［1R 1分33秒 アームロック］ケビン・ランデルマン×
ミルコから大金星を奪ったランデルマンは、ヒョードルをジャーマン気味に脳天から叩きつけ、またしても大金星かと思われたが、ヒョードルはアッサリ体勢を立て直し、アームロック葬。驚異的な底力を見せつけた。

60



2001.11.3『PRIDE.17』東京ドーム
△高田延彦［延長2R 引き分け］ミルコ・クロコップ△
藤田を葬って"プロレスラー・ハンター"と化したミルコへ、プロレスの威信を懸けて高田が挑戦。試合中、足首を負傷し終始、猪木アリ状態。これに罵声が飛んだが、ミルコ相手にフルラウンドを闘い抜いた。

61



2001.7.29『PRIDE.15』さいたまSA
○桜庭和志［1R 5分41秒 裸絞め］Q・"ランペイジ"・ジャクソン×
シウバに敗れた桜庭の復帰戦。"格闘ホームレス"というキャラから"噛ませ犬"と思われたランペイジだが、強烈なパワーボムを連発し桜庭を追い込む。しかし最後は冷静に絞め落とし、サク健在を証明した。

62



2003.6.8『PRIDE.26』横浜アリーナ
○ミルコ・クロコップ［1R 3分17秒 TKO］ヒース・ヒーリング×
ミルコが『PRIDE』本格参戦。じつはこの試合が初の純『PRIDE』ルールでの試合だったが、ミルコは左ハイに左ミドル、グラウンドパンチで完全KO！ 試合後は「K-1と『PRIDE』両方の王者になる」と宣言した。

を、キャッシュカードを拾って勝手に引き出そうとしてる」って言うたんやったな（笑）。

井上　「順番がおかしい。まずは（ムリーロ・）ニンジャとやってから」とかね。

ガンツ　一番イヤな相手じゃないですか（笑）。

タコ　でも、『PRIDE・23』では、高田がその田村を引退試合の相手に指名したんやもんなぁ。

椎名　何カ月か前に「クレジットカード拾ったヤツ」って批判してた因縁浅からぬかつての後輩を引退試合の相手に選ぶって、ちょっと考えられないよね。

ガンツ　言うなれば、自分の最後の星を田村に与えることを覚悟したってことですからね。

井上　でも、相手は吉田秀彦じゃなくてよかったなと思いましたけどね。あの一カ月後の『猪木祭り』で吉田は佐竹引退試合の相手を務めたんだけど、1分で極めちゃいましたから（笑）。

椎名　引退試合なのに一切容赦なし（笑）。

タコ　それやったら相手はサクでいいはずなのに、あえて田村を選んだのは凄いセンスですよ。そしてあの負けっぷり！　そのあとのマイクで「おまえ、男だ！」って言って、それがのちの高田劇場につながるわけやもんな。

椎名　それでフンドシまでいっちゃうんですね（笑）。

タコ　あそこまでいったのは凄いよ。本部長になったばかりの頃の高田って、タイトルマッチで認定書読むときに会社名間違ったりしてたじゃないですか。

井上　ああ、ドリーム・ステージ・エンタープライズ（笑）。

ガンツ　それが"総統"にまでなってしまうんだから、凄いことですよ。

タコ　だから、あの「男だ！」ってマイクから『男祭り』にもつながってくし。敗戦が次につながるという、プロレスラーの引退としては最高やと思うわ。

ガンツ　そして高田の引退を境に、『PRIDE』はUWF系の延長から、本格的な世界最強路線に移行していきますよね。

井上　だから、ここでボクの中の『PRIDE』熱はいったんクールダウンするんですよ。

タコ　それはわかるね。それまでは、やれ高田だ桜庭だって観てたけど、ここからは純粋な『PRIDE』の世界観ができていって、異種格闘技戦の匂いもなくなっていったよね。

ガンツ　そして翌年、ヒョードル、ノゲイラ、ミルコのヘビー級3強時代が幕を開けるわけですよ。ここまでくると、もうU系プロレスラーの出る幕じゃないですよね（笑）。

タコ　K-1との協力体制もこのちょっと前に終わったんやったよな。

ガンツ　終わりましたね。片やヘビー級3強の人類60億分の1最強路線、片やモンスター路線と大きく分かれていきます（笑）。

井上　PRIDEミドル級GPをやってる裏で、K-1はTOAが消化器まき散らしたり、サップがフランソワ・ボタにペットボトルぶん投げたりしてたよね。

タコ　そら別れるのも当然やわ（笑）。

78

2007.4.8『PRIDE.34』さいたまSA
○瀧本誠［1R 5分40秒 アームロック］**Z“弁慶”ガレシック×**
厳しい評価が続いた瀧本だが『PRIDE』ラスト大会で大奮起。ゼルグの猛攻に押されるも見違えるような動きを見せ、大逆転の一本勝利！瀧本は「絶対にいい試合をしようと思っていました」と涙のマイク。

79

2004.5.23『PRIDE 武士道 -其の参-』横浜アリーナ
○ミルコ・クロコップ［2R 判定3−0］**金原弘光×**
GP初戦でランデルマンに敗れ、再起に燃えるミルコは敗戦からわずか4週間後の『武士道』に参戦。このチャンスに燃えた金ちゃんは、ミルコの強烈な打撃を寸前で受け流し、判定に持ち込む奮闘を見せた。

80

2004.8.15『PRIDE GP 2004 決勝戦』さいたまSA、ヘビー級GP 決勝
−E・ヒョードル［1R 3分52秒 無効試合］**A・ホドリゴ・ノゲイラ−**
“60億分の1”を争うヘビー級GP決勝はヒョードル vsノゲイラ。静粛なムードで世紀の大一番が開始するも、バッティングで大流血したヒョードルにノーコンテスト裁定、驚愕の結末が待ち受けていた。

81

2005.9.25『PRIDE武士道 -其の九-』有明コロシアム、ライト級GP 準決勝
○桜井“マッハ”速人［2R 判定3−0］**ヨアキム・ハンセン×**
ライト級GP準決勝に進んだマッハは、鋭いヒザで急襲するハンセンに対し、グラウンドで腕十字と終始攻勢に出て判定勝ち。日本人で初めてハンセンを下し、『男祭り』での“後輩”五味との決勝進出を決めた。

82

2005.6.26『PRIDE GP 2005 2nd ROUND』さいたまSA、ミドル級GP2回戦
○ヒカルド・アローナ［2R ドクターストップ］**桜庭和志×**
無差別級GP 2 回戦、桜庭はアローナの容赦ないヒザ地獄に捕まる。血だらけでボコボコに腫れ上がった顔がビジョンに大写しされると会場からは悲鳴が！ タオル投入で桜庭はGPから姿を消した。

83

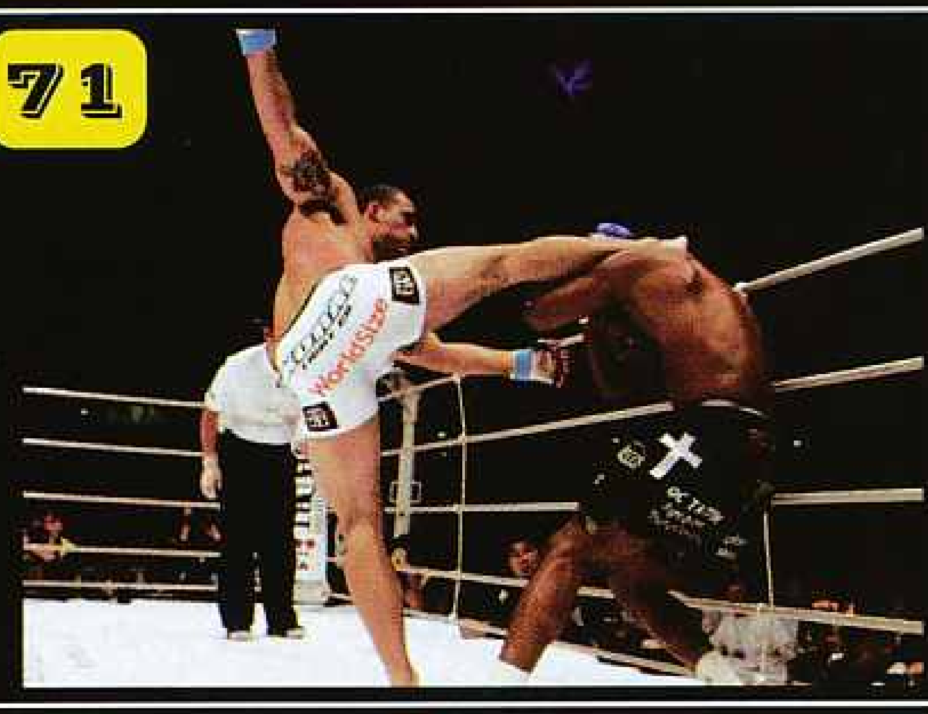
2002.2.24『PRIDE.19』さいたまSA、ミドル級タイトルマッチ
○ヴァンダレイ・シウバ［2R 2分28秒 KO］**田村潔司×**
リングスを退団した田村が衝撃の『PRIDE』参戦。初戦は桜庭を倒したばかりの絶好調シウバ。どこにもスキのないシウバ相手に粘った田村だが、最後はクロスカウンター気味の右ストレートの前に散った。

84

1999.4.29『PRIDE.5』名古屋レインボーホール
○髙田延彦［2R 1分44秒 ヒールホールド］**M・コールマン×**
ヒクソン連敗後の髙田延彦の再起戦の相手は元UFC王者コールマン。高田はこの強豪の猛攻を凌ぎ、スタミナ切れを待ってヒールホールド葬。アイ・アム・プロレスラー！の意地で、最強ぶりを見せつけた。

85

2003.8.10『PRIDE GP 2003 開幕戦』さいたまSA、ミドル級GP 1回戦
○ヴァンダレイ・シウバ［1R 5分01秒 KO］**桜庭和志×**
シウバへのリベンジを期する桜庭は、ミドル級GPの1回戦で再々戦。桜庭のタックルを警戒するシウバとスタンドの緊張感ある攻防となったが、ローキックに右フックを合わせられ失神KO。3度目の正直ならず！

71

2005.4.23『PRIDE GP 2005 開幕戦』大阪ドーム
○M・ショーグン
［1R 4分47秒 TKO］
×Q“ランペイジ”ジャクソン
ミドル級GP1回戦で、兄のニンジャを下したランペイジと“仇討ち”を宣言したショーグンが激突。ショーグンは序盤から打撃で攻め続け、ヒザ蹴りでランペイジのアバラをへし折って激勝。

72

2003.11.9『PRIDE GP 2003決勝戦』東京ドーム
○桜庭和志［3R 2分36秒 腕ひしぎ十字固め］**ケビン・ランデルマン×**
シウバに3度目の敗北を喫した桜庭の復帰戦。“ドンキーコング”ランデルマンに対し、桜庭はマリオ姿で入場。パワーで押し込み、背後を取ったランデルマンに桜庭が流れるような腕十字で一本勝利。

73

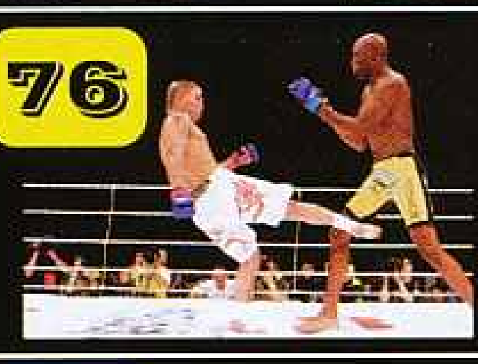
2005.4.3『PRIDE武士道 -其の六-』横浜アリーナ
○E・ヒョードル［1R終了 ドクターストップ］**高阪剛×**
リングス時代にカットがらみながら、ヒョードルに土をつけさせたTKが『PRIDE』初登場し、因縁の再戦が実現。「ヒョードルには穴がある」と語ったTKだったが、“氷の拳”により大出血の末にドクターストップ負け。

74

2005.8.28『PRIDE GP 2005 決勝戦』さいたまSA、ミドル級GP準決勝
○ヒカルド・アローナ［2R 判定3−0］**ヴァンダレイ・シウバ×**
シウバへ再三対戦要求していたアローナがミドル級GP準決勝で激突！シウバはサクベルトとタイガース帽子で入場。ハイレベルな攻防の中、上を取ったアローナが判定勝利し、シウバの連勝記録がついにストップ。

75

2003.8.10『PRIDE GP 2003 開幕戦』さいたまSA
○ミルコ・クロコップ［1R 1分29秒 KO］**I・ボブチャンチン×**
この頃、“PRIDEの外敵”ミルコへの刺客は、肉体改造に成功したボブチャンチン。ミルコは戦慄の左ハイでKO。ミルコ＝左ハイの神話が生まれ、同時にヒョードルのヘビー級王座挑戦資格を決定的とした。

76

2004.12.31『PRIDE 男祭り 2004 -SADAME-』さいたまSA
○長南亮［3R 3分08秒 ヒールホールド］**アンデウソン・シウバ×**
ニュートンを破り、大晦日への切符を手に入れた長南。打撃戦となった試合後半、カニ挟みでアンデウソンを倒して電光石火のヒールホールド！ 華麗なフィニッシュで一本勝ちをつかんだ。

77

2005.8.26『PRIDE武士道 -其の八-』名古屋レインボーホール
○ヨアキム・ハンセン［1R 2分34秒 KO］**今成正和×**
当時、対日本人負けなしのハンセンに、今成は自慢の足関節技で真っ向勝負。しかし、足を取りにいったところにヒザを合わせられ、KO負け。その後、ハンセンの煽りVで繰り返し流されるほどの衝撃KOだった。

ある意味すべてが名勝負！ “魔性の男”ヤマヨシ伝説

タコ そろそろ誌面も残り少なくなってきましたけど、最後は何の話題にしましょうか？ フジテレビの放送中止以降の話はネガティブなりそうやしなぁ……。

井上 じゃあ、ヤマヨシ（山本宜久）の話でもしましょうか。

タコ なんでヤマヨシの話で締めなアカンのや（笑）。

井上 魔性のDDTですよ！

ガンツ でも、確かにヤマヨシだったら暗い話にはなりませんよね。ある意味、すべての試合が〝名勝負〟だった人ですから（笑）。

井上 ヤマヨシはPRIDEデビュー戦から凄かったよね。

タコ どんな試合やったっけ？

ガンツ 前田日明のテーマ曲『キャプチュード』で入場してきて、アスエリオ・シウバにわずか11秒でKO負け（笑）。

椎名 あの『キャプチュード』は腹立たしかったよね（笑）。

井上 小川がIGFで『爆勝宣言』で入場してきたとき同様、「使うか、それ」みたいな。

椎名 ちょっと前にさ、ヤマヨシが新日本に乱入して、永田（裕志）を挑発したときあったじゃん。そのときマイクで永田に「おまえミルコに21秒、ヒョードルに60秒で負けて、何がやりたいんや！」って言ってたけど、自分はアスエリオ・シウバに11秒で負けてるのにそれを言うって凄いよね（笑）。

タコ ある意味、肝が据わってるよなぁ（笑）。

ガンツ そして次が『PRIDE・18』でのノルキヤ戦ですね。

井上 有名なイッキシンテン事件ですね（笑）。

ガンツ 腕十字で勝った後、マイクで「心機一転、頑張ります」って言うのを「イッキシンテン、頑張りま

PRIDE BEST 5

山本宜久編

あまたある熱戦もこの男だけは単独で振り返りたい！

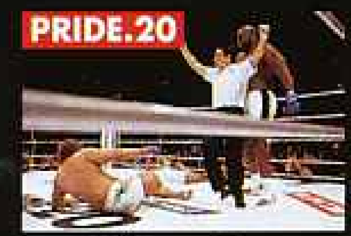
この男だけはどうしても別枠で取り上げなければ！ と、座談会でもさんざんしゃべっているのに、なぜか別スペースを設けることになったヤマヨシ。『PRIDE』初参戦のアスエリオ戦では、勝手に前田日明の入場曲『キャプチュード』で入場したが、開始わずか11秒で敗戦という当時の最短記録を更新。ノルキヤ戦、ケアー戦では、それぞれ「イッキシンテン」「プロレスラーなのでDDTが出てしまった」など歴史に残る名言を連発。またサップ戦、ミルコ戦は、試合中、無意味な挑発を繰り返したがために、最終的にボコボコにされるという無念の結末を迎えることとなったが、勝っても負けてもファンの心に残るヤマヨシは、やはり別枠を設けるにふさわしい男なのであった！

PRIDE.16

vs アスエリオ・シウバ

PRIDE.18

vsヤン・ザ・ジャイアント・ノルキヤ

PRIDE.20

vsボブ・サップ

PRIDE.27

vsマーク・ケアー

PRIDE 武士道-其の弐-

vsミルコ・クロコップ

94



1999.7.4『PRIDE.6』横浜アリーナ
◯M・ケアー［1R 3分04秒 チキンウィングアームロック］**髙田延彦✕**
当時"霊長類ヒト科最強"の名をほしいままにした全盛期のマーク・ケアーに髙田が挑んだ一戦。あまりにも無謀と言われる中、髙田はローキックで勝負！ 結果は完敗ながらケアーの肉体に爪痕だけは残した。

95



1999.11.21『PRIDE.8』有明コロシアム
◯I・ボブチャンチン［1R 1分23秒 KO］**フランシスコ・ブエノ✕**
ブラジリアン柔術の強豪であるブエノだったが、連勝続きで絶好調のボブチャンチンのロシアンフック連打で壮絶KO負け。神懸かり的な秒殺劇によって、ボブチャンチンの強さがファンに浸透していく。

96



2000.6.4『PRIDE.9』名古屋レインボーホール
◯カーロス・ニュートン［1R 0分40秒 腕ひしぎ十字固め］**佐野なおき✕**
現ノアの佐野が3度目の『PRIDE』参戦。「極めっこだったらホイラーに負けるわけがない」と豪語するほど寝技には自信を持つ佐野だが、ニュートンには「寝技で隙だらけで罠かと思った」と言われてしまった。

97



2004.6.20『PRIDE GP 2004 2nd ROUND』さいたまSA、ヘビー級GP 2回戦
◯小川直也［1R 3分29秒 TKO］**ジャイアント・シルバ✕**
GP初戦でレコを破った小川の2回戦はジャイシル。ブラジルで柔道特訓したジャイシルだったが、小川のマウントパンチでアッサリ敗北。ノリノリの小川は髙田本部長も巻き込んでハッスルポーズ爆発！

98



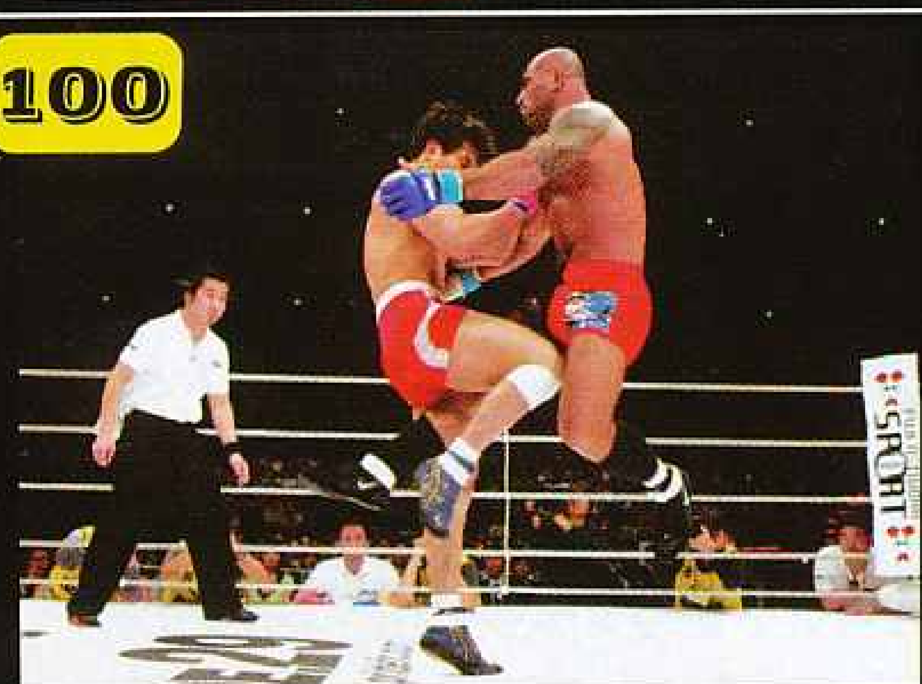
2006.11.5『PRIDE武士道 -其の十三-』横浜アリーナ、ウェルター級GP 準決勝
◯パウロ・フィリオ［1R 9分43秒 腕ひしぎ十字固め］**三崎和雄✕**
ダンヘンに勝った勢いで、フィリオに挑んだ三崎だが、腕十字で無念の完敗。しかし、フィリオが足のケガで決勝を棄権すると、「フィリオに試合で負けましたが、ケンカで勝ちました」と衝撃発言。

99



2006.11.5『PRIDE武士道 -其の十三-』横浜アリーナ、ウェルター級GP 準決勝
◯デニス・カーン［2R 判定3－0］**郷野聡寛✕**
入場ゲートに郷野扮するDJ GOZMAとホンモノのDJ OZMA！ ダンサーを引き連れアゲ♂アゲ♂なダンスを披露。だが試合では一転、郷野に対して終始アグレッシブに攻めたカーンが判定勝利を飾った。

100



2005.2.20『PRIDE.29』さいたまSA
◯田村潔司
［1R 5分06秒 TKO］
✕A・マックモド
"FILAが送り込む強豪"との触れ込みのマックモドは、ぴょんぴょん飛び跳ねるドンキーコング殺法で田村を幻覚させるが、飛んだ瞬間、左ミドルが股間に入り悶絶。戦意喪失負けで観客を唖然とさせた。

86



2003.6.8『PRIDE.26』横浜アリーナ
◯高瀬大樹［1R 8分33秒 三角絞め］**アンデウソン・シウバ✕**
"寝技の裏番長"高瀬が約5年ぶりに参戦。桜庭チックなコスチュームでアンデウソンに挑み、見事に電光石火の三角絞めで一本勝ち！ その後に期待を持たせたが、いまはなぜか上井駅で活躍中。

87



2001.3.25『PRIDE.13』さいたまSA
◯ダン・ヘンダーソン［1R 1分40秒 KO］**ヘンゾ・グレイシー✕**
ダンヘンとヘンゾのテクニシャン同士の一戦は、高度な寝技の攻防が期待されたものの、タックルを押し潰したダンヘンがグラウンドからの強烈なフックで失神KO勝利。衝撃の100秒決着となった。

88



2004.12.31『PRIDE 男祭り 2004 -SADAME-』さいたまSA
◯ハイアン・グレイシー［1R 8分33秒 腕ひしぎ十字固め］**安生洋二✕**
グレイシー"道場破り"事件から10年。返り討ちとなった重責を感じ続けていた安生が、人生を懸けた猛トレーニングを積み『PRIDE』出場。髙田が実況席で見守るも、喧嘩屋ハイアンの腕十字に散った。

89



2006.10.21『PRIDE.32』トーマス&マックセンター
◯M・ショーグン［1R 2分35秒 ヒザ十字固め］**ケビン・ランデルマン✕**
ラスベガスルールで"踏みつけ"を禁じられたショーグンに挑むは、地元開催で気合い充分のランデルマン。タックルの直後にすばやく足をキャッチされ絶叫！ こらえるも最後は悔しいタップアウト負け。

90



2006.4.2『PRIDE武士道 -其の拾-』有明コロシアム
◯マーカス・アウレリオ［1R 4分34秒 肩固め］**五味隆典✕**
ライト級の"絶対王者"五味が『武士道』で初敗北。ガードポジションをエビで返そうとした瞬間、すばやく動いたアウレリオが肩固め！ GP制覇で燃え尽き症候群が噂される中、連勝ストップとなった。

91



2005.6.26『PRIDE GP 2005 2nd ROUND』さいたまSA、ミドル級GP 2回戦
◯ヴァンダレイ・シウバ［1R 5分24秒 TKO］**中村和裕✕**
日本人総崩れの中、シウバ狩りに挑んだカズは特製の半袖道衣で堂々打ち合うも、道衣を脱ぎ捨てた瞬間にシウバの右が炸裂しKO負け！ 好勝負が一転、『PRIDE』屈指の珍プレーに早変わりしてしまった。

92



2002.9.29『PRIDE.22』名古屋レインボーホール
◯ハイアン・グレイシー［1R 1分37秒 腕ひしぎ十字固め］**大山峻護✕**
『PRIDE.21』で兄・ヘンゾを破った大山にハイアンが挑戦状。突進したハイアンは大山を持ち上げて叩きつけ、腕をへし折る非情勝利でリベンジ。さらに苦しむ大山を挑発して大喜びと、狂気性全開。

93



2002.6.23『PRIDE.21』さいたまSA
◯ボブ・サップ［1R 0分11秒 TKO］**田村潔司✕**
田村の『PRIDE』2戦目の相手は"野獣"で売り出し中だったボブ・サップ！ 体重差80キロの安全面が危惧される中、セントーン禁止という不思議なルールで行なわれた一戦は、サップがわずか11秒でKO勝ち！

す」って言っちゃったという（笑）。

椎名　天才的な言い間違えだね（笑）。

ガンツ　『PRIDE・24』のアレクとのグダグダの試合もある意味、おもしろかったですよね。

井上　あれ、フィニッシュはなんだっけ？

ガンツ　アレクが試合中、ケガしちゃったんですよ。足が折れたかなんかで、それでドクターストップ。

井上　思い出した！　で、試合後にリング上でヤマヨシがアレクに声かけてて。あとでアレクに「あのときヤマヨシになんて言われたの？」って聞いたら「『アレク、おまえは男だ』って言われた」って（笑）。

一同　ガハハハハ！

タコ　そんなところでパクッとったんか。

ガンツ　試合後のコメントもよかったんですよ。「やっぱりね、彼の心が折れたってことでしょうね」って。折れたのは心じゃなくて足であって、しかも単なるアクシデントなのに（笑）。

タコ　すでに"魔性"の片鱗が見えるな（笑）。

ガンツ　基本的に構造は一緒ですからね。ケアーがタックルにいったら、勢い余ってマットに頭打ちつけて失神したのに、「俺もね、プロレスラーだからね、自然とDDTが出ちゃうんですよ」とか言って（笑）。

井上　確かヤマヨシvsケアーって、ヘビー級GP出場査定試合だったんだよね。だからホントは勝ったヤマヨシがGP出場権獲得するはずなんだけど、"DDT"発言がファンの反感を買って、DSEに抗議の電話が殺到して、逆に制裁マッチ的なミルコ戦が組まれるんだよね。

椎名　くだらねえ（笑）。

井上　「ミルコにも勝ったら、GP出場を認める」って、査定の壁が急に高くなっちゃって（笑）。

タコ　高すぎやろ（笑）。

ガンツ　やっぱりヤマヨシはおもしろいですよね。ヒース・ヒーリング戦の前かなんかに新技を編み出して、縦四方固めみたいな技なんですけど、山本宜久の固め技でヨシロックってつけたら、周りの記者に「その名前、もうありますよ」って聞いて「ヤバいな、じゃあヨロシクでもいいよ」って、技の名前が「ヨロシク」になっちゃったという（笑）。

井上　バカだなあ。

ガンツ　で、試合でもあきらかにヨロシクばっかり狙ってるんですよ。十字が取れそうなポジションになっても、無理やり縦四方に行こうとしたり（笑）。

タコ　伝説には事欠かないなぁ。じゃあ、そろそろ締めましょうか。

ガンツ　ホントにヤマヨシで締めですか（笑）。

タコ　これ以上話すと、どうしても話題が「中止」とか「解散」とかになるから、もういいやろ。

ガンツ　わかりました。まぁ、変態座談会的にはそれぐらいのほうが、ふさわしいかもしれませんね。では、状況は厳しいですけど、イッキシンテン頑張っていきましょう！

井上　じゃあ、全員20分以内に退散！（笑）。

【07年10月5日／都内・レモンスカッシュがおいしいリビングバーにて収録】

その時、何が起こったのか？



1997-2007 PRIDE 10年間の裏側

高田vsヒクソン戦に始まり、10年の歴史を積み重ねてきた『PRIDE』。その間、数々の名勝負、そして禁断のビッグマッチを実現させてきたが、そこに至るまでにリング外ではいったい何が起こっていたのか？『PRIDE』10年間の裏側をひもといていこう。



〝禁断の大一番〟はなぜ

1997.10.11 PRIDE.1 東京ドーム
髙田vsヒクソン PRIDE誕生の舞台裏

“最強”髙田延彦vs“400戦無敗”ヒクソン・グレイシー。
プロレスとグレイシー柔術の頂上対決という、
空前のインパクトを持ったカードとともに『PRIDE』は生まれた。
結果いかんによっては、一つのジャンルを破壊しかねない
劇薬的なこの一戦は、なぜ実現することができたのか。
当時を知るスタッフの証言を交えて、『PRIDE』誕生の舞台裏を探る。

文／布施鋼治　構成／堀江ガンツ

その時、何が起こったのか?

実現したのか

一歩間違えば『PRIDE・1』は〝猪木ボンバイエ〟になっていたかもしれない



〝禁断の大一番〟はなぜ実現したのか

格闘技興行のノウハウを持っていなかったKRS

映画『ロッキー』のテーマ曲「トレーニング・モンタージュ」に乗ってフード付きのガウンを身にまとった髙田延彦が入場ゲートに姿を現わしたとき、当時運営に携わっていたある大会スタッフは胸をなで下ろした。

「ああ、本当にやるんだ」

冗談ではない。正真正銘の実話である。1997年10月11日、東京ドーム。『PRIDE・1』のメインイベント——髙田延彦vsヒクソン・グレイシーがまさに始まろうとしているとき、舞台裏はとんでもないことになっていた。

再び大会スタッフの証言。

「本当に髙田さんは出てこないんじゃないかと疑っていましたから（笑）。それくらい直前までゴタゴタがありましたからね。さすがに会場内で罵り合いがあったわけじゃないですけど、直前まで髙田さん自身、もの凄くナーバスになっていたと聞いています」

傍らから見ていても、『PRIDE・1』はハチャメチャなイベントに映った。主催はKRS（格闘技レボリューション・スピリッツ）実行委員会。同年7月22日、初めてこの委員会が記者会見を行なったとき、DスポーツのM記者から「責任者を出せ！」という怒声が飛んだ。仕方あるまい。KRSの組織図はいったい誰が責任者で、どんな組織なのか皆目見当もつかないほどアバウトだったからだ。

この世界にスーパーバイザー、代表幹事といった一つの組織の中でどの程度の権力を持っているのか皆目見当もつかない肩書きを持ち込んだのは、紛れもなく『PRIDE』だった。自虐的に前述の大会スタッフは述懐する。

「あれは歴史に残る会見でしたね（苦笑）。『PRIDE』の出自はあそこから始まったんだと思います。自分もMさんの立場だったら、同じことを思ったでしょう。実際あの記者会見も直前まで誰が座るのか決まっていなかった。『PRIDE』には直接関係ない人を無理やり連れてきて出席を頼んでいるような感じだった」

そもそも『PRIDE・1』は開催日時も二転三転。当初6月開催の案が出たかと思ったら、次に8月15日という日程が出た。最終的には10月11日に落ち着いたものの、そのつど体調を整えていた出場選手、とくに人生を左右する大一番を控えた髙田にとってはたまったものではないだろう。再三の日程変更は不信感しか芽生えさせない。

いったいなぜそんなことになってしまったのか？　理由は一つ。それはKRS側が格闘技イベントを仕切るノウハウをまったく持っていなかったことに尽きる。修斗、パンクラスといった既存の総合格闘技組織や団体がノウハウを提供してくれたならば問題はなかっただろう。しかし『PRIDE』が立ち上がった当初、修斗やパンクラスが『PRIDE』に救いの手を差し延べることはなかった。むしろ敵対するイベントとして捉えていた。

毎日何もかも勉強。スタッフがそんな感じだったから記者会見で鋭い質問が飛ぶと、KRS側がしどろもどろになる一幕も。会見のマニュアルなど一切なかったから、議事進行がスムーズでないのはしごく当然だった。ルールも最後の最後まで揉めた。そもそも『PRIDE・1』は玉石混淆。さまざまなルールの試合が組まれていた。それは各試合の試合時間を比較してみれば、一目瞭然だった。

髙田vsヒクソンは5分12ラウンド、小路晃vsヘンゾ・グレイシーは10分3ラウンド、キモvsダニエル・スバーンは30分1本勝負、ブランコ・シカティックvsラルフ・ホワイトは3分5ラウンド。ほかに現在のMMAで主流を占める5分3ラウンドの試合もあった。

全試合の試合時間やラウンド間のインターバル時間をすべて把握した者がいたかどうかも怪しい。ある試合に至っては箇条書きレベルでしかまとまっていなかったルールを試合当日に慌てて文章化して取材陣に配ったというエピソードも聞いた。

なぜそんなことになったかといえば、選手との交渉に慣れていなかったからだろう。交渉がうまくいっていれば、3カ月後の『PRIDE・2』で組まれたホイラー・グレイシーvs佐野なおきの一戦が30分無制限ラウンド（！）という、いまだったら考えられない試合時間に設定されるわけがない。当時はそんな試合時間になった理由としてグレイシー側の「譲らぬ主張」と見なされていたが、裏から見れば決してそれだけではなかったのである。

一歩間違えば、『PRIDE・1』は『猪木ボンバイエ』と同じ道を辿っていたのかもしれない。それでも多くの大会スタッフが大会そのものが正しい道を歩んでいるのか、それともそうではないのかを最後まで把握することはできなかった。前例やフォーマットがなかったから、何もかも試行錯誤しながら突き進むしかなかったのだ。『PRIDE・1』はまさに「迷わず行けよ。行けばわかるさ」の世界だったのである。

この時代、所属選手を持たない興行会社による総合格闘技のイベントは怪しさの権化として捉えられていた。96年4月にスタートしたUVFは2回で、同年11月に開催されたU―JAPANに至っては一回限りでフェードアウト。いずれも業界の周辺とは広告料金の未払いなど、けっこうなトラブルがあったと聞く。だからこそプロレス&マスコミ界には「総合のイベントは信用するな」という不文律ができつつあった。その矢先に産声を上げた『PRIDE』が同じ色眼鏡で見られるのは当然の流れだろう。

偶然の積み重ねで生まれた髙田vsヒクソンの再戦

そんな舞台裏とは裏腹に髙田vsヒクソンは「本当にやっちゃっていいの？」と思えるほど豪華な組み合わせだった。少なくとも格闘技&プロレスファンにとってはそうだった。「この闘いを見終わったら、20世紀はもう終わっていい」という大会コピーは決しておおげさには聞こえなかった。髙田はプロレスを、ヒクソンは柔術を背負う存在だったからだ。

いまでこそ立場は逆転しているものの、世間一般の目から見て当時のプロレスは完全に格闘技の上位概念に置かれているジャンルだった。力道山時代から刷り込まれた「プロレスラーは真剣に闘ったら強い」という考えはプロレス最強幻想を一層膨らませていた。実際プロレス〝内〟異種格闘技戦におけるプロレスラーは強かったから、プロレスに強さを求めたファンは溜飲を下げた。

おまけに90年代前半、髙田は〝最強〟の名をほしいままにしていたプロレスラーだった。新日本プロレスとの対抗戦でそのカラーは多少弱まったものの、本人が望

その時、何が起こったのか?
高田vsヒクソン PRIDE誕生の舞台裏



プロレス界の威信を背負って、ヒクソン・グレイシーに挑んだ高田延彦だったが、わずか1ラウンド4分47秒で一本負け。ここから格闘技、プロレスの歴史が大きく変わった。

む望まないにかかわらずその背中に〝最強〟の二文字を背負わされていたことは否定できない。

当然、プロレス最強の方程式は『PRIDE』にも当てはめられた。純・格闘サイドからは「なぜ格闘家として実績のない高田がヒクソンと対戦するのか?」という疑問の声が噴出したが、KRS実行委員会が高田を担ぎ出したのはしごく当然のことだった。当時の高田は一般大衆の目を向かせるだけのネームバリューを持ち合わせていたからだ。純・格闘技サイドにいる顔ぶれをみても、高田以上のネームバリューと観客動員力を持っていそうな選手は皆無だった。

その一方で高田は大きな代償も背負わされた。〝最強〟という看板を背負っている以上、もしヒクソンに負けでもしたら、それまで築き上げたステータスが一気に崩壊する。それに伴なってプロレスというジャンルそのものにも大きな傷がつく。

果たして高田はヒクソンを相手にほとんどいいところを見せられぬまま完敗。高田だけではなく、最強幻想をビジネスとしていたプロレス界は大きなダメージを被った。振り返ってみれば、この高田の敗北こそプロレスと格闘技の立場逆転という歴史的転換のきっかけになったような気がしてならない。

では『PRIDE』が出現していなかったら、プロレスの凋落はなかったのか? いや、そんなことはあるまい。仮に『PRIDE』が世の中に産声を上げなかったとしても、それに代わるイベントが立ち上がり、もの凄い勢いで世の中にMMAを普及させていたであろう。『PRIDE・1』にはとてつもないオチもある。多くのスタッフは一回限りで終わると思っていたのだ。中には大会が終わって事務所で見直したPPVを見て、初めて『PRIDE・2』開催を知った者もいた。

1年後、『PRIDE・4』で開催された高田vsヒクソン戦は偶然の積み重ねの末に生まれた再戦だった。高田の「再戦したい」という気持ちを受けて、KRS実行委員会がヒクソンサイドに打診しようとしたところ、ちょうどその前にリングスが交渉していたのだ。

もし、この時、ヒクソンがリングスとの交渉で出場にOKを出していたならば、高田との再戦はなかった。その後PRIDEシリーズが続いていたかどうかも定かではない。もっといえば、『PRIDE・1』で高田vsヒクソンが実現していなければ、PRIDEシリーズそのものが存続することはなかっただろう。

まずはイベントありきではなく、マッチメイクありき。それが『PRIDE』だったのである。それにしても大きなリスクがあるにもかかわらず、しかも試合開始のゴング直前まで大小さまざまなトラブルに巻き込まれながらも、なぜ高田はヒクソン戦を了承したのだろうか。

ある関係者は証言する。

「高田さんとの交渉に打算がなかったからでしょう。いまだったら、AとBを対戦させるんだったら、アイツとアイツをうまく絡めてといったことをみんな考える。そういう場慣れしたノウハウではなく、純粋にヒクソンと闘ったらどうなるのか。交渉するほうに純粋な情熱しかなかったから実現したんですよ」

あれから10年、設立時から『PRIDE』に携わったスタッフにとって、いまだ『PRIDE・1』を超える格闘技イベントはない。



に

闘い


——なぜヒクソンは桜庭戦を受けなかったのか

桜庭“最強の一族”に全勝
されど“真打”ヒクソン戦、待望されるも実現せず!

『PRIDE』の名シーンを語る上で、桜庭和志vsグレイシー一族の攻防は外すことはできない。当時、総合格闘技あるいはグレイシー一族の到来によりプロレスラーの幻想が崩れつつある中で、桜庭は次々と彼らを撃破し、ファンを高揚させた。しかし、桜庭vsグレイシー戦では、リング上のみならず、リング外でも“激しい闘い”が繰り広げられていたことは周知の事実。今回はその“知られざる”舞台裏を追った。

文／橋本宗洋　撮影／松下ミワ

桜庭vs
グレイシーに
潜んでいた
もう一つの



桜庭vsグレイシーに潜んでいたもう一つの闘い



00年3月13日、『PRIDE GP』ルール変更記者会見で、ホイスのマネージャーであるホリオンは、時間無制限の要求がいかに理にかなったものであるかを延々と説明。いまとなっては、その執念こそが桜庭vsグレイシー戦のドラマ性をより引き立てたと感じさせるのだが。

『PRIDE』の躍進とプロレスラー桜庭和志の存在

10年にわたる『PRIDE』の歴史において、イベントが最も躍進をはたした時期は1999年から2000年にかけてだろう。出場メンバーの全体的なレベルや試合のクオリティに関しては2003年の〝REBORN〟後に譲るとしても、大会ごとにファンが増え、熱を増していく〝加速感〟のようなものは、この時期に分があるはずだ。

その原動力となったのは、桜庭和志によるグレイシー撃破である。99年11月21日のホイラー・グレイシー戦に始まり00年5月1日のホイス戦、8月27日のヘンゾ戦、そして12月23日のハイアン戦。わずか1年あまりの期間に桜庭が成し遂げた〝対グレイシー4連破〟によって、『PRIDE』はメガ・イベントとして飛躍的に発展したといっていい。日本におけるバーリ・トゥードの歴史は（とりわけプロレスラーが）グレイシーに敗れ去ってきた敗北の歴史ともいえた。そんな、空を厚く覆う雲のような存在だったグレイシーを桜庭というプロレスラーが倒すことで、総合格闘技の世界に明るい日の光が差し込んだのである。訪れたのは〝打倒グレイシー〟にこだわりすぎる必要のない、広くて自由な世界だった。

もちろん、グレイシーの天下がつまらなかったというわけではない。グレイシーという明確な上位概念があったからこそ『PRIDE』はスタートし、発展してきたのだ。桜庭とグレイシーの闘いには常にトラブルがつきまとっていたが、それもファンが感情移入するための極上のスパイスだった。

相次ぐルール変更——そこに潜むグレイシーの思惑

ではなぜ、グレイシーの闘いにはトラブルがついて回ったのか？　彼らは試合を〝決闘〟として捉え、ルールの規定によって敗者となることを拒んだ。さらには格闘技界において辺境にすぎなかったブラジルから世界の表舞台へのし上がってきたプライドと、それを守ろうとする執念。彼らは、自分たちの価値を落とさないためにあらゆる手段を使ったのだ。

たとえば桜庭vsホイラー戦。セコンドのヒクソンは、ホイラーの体重が桜庭より15キロも軽いことを理由に、15分2ラウンド（通常は10分2ラウンド）、判定なしへのルール変更を申し出た。桜庭が頭突き・ヒジ打ちありを逆要求すると、今度は〝決着がつかなかった場合は体重が軽いほうの勝利〟を提案。桜庭がアームロックを極めレフェリーストップが告げられると、ヒクソンはリング上で「Why?」を連発。ホイラーはレフェリーにツバを吐きかけた。「ギブアップしてないのに、なぜ負けになるんだ⁉」というわけだ。

続く桜庭vsホイス戦。当時ホイスのマネージャーを務めていたホリオンは、ヒクソン以上に〝一族の誇り＝負けないこと〟への執念をむき出しにした。彼が要求したのは15分無制限ラウンド、判定決着およびレフェリーストップなど第三者の介入を排した完全決着ルールである。そして、このルールが受け入れられなければ出場しないと、彼らは主張した。ホリオンいわく、「サクラバはレフェリーやジャッジのうしろに隠れてないで、この要求を呑んで出てきてほしい。もし路上でストリートファイトが始まったら、レフェリ

その時、何が起こったのか？

"真打"ヒクソン戦、実現せず！

ーなんていないじゃないか」。

3月13日に行なわれたルール改正要求の記者会見は、ほとんどホリオンの独り舞台だった。ホイスは「しゃべる代わりにリングで見せる」と語ったのみ。ホリオンこそがグレイシー一族のスポークスマンであり"盾"になっていたのである。じつは、ホリオンが自らの望むルールを要求したのはこのときが初めてではなかった。グレイシーが世に出るきっかけとなったUFCにおいても、ルールが大きなポイントになっていた。

"グレイシーの頭脳" ホリオン暗躍の実態とは

93年のUFC発足時、ホリオンは主催者側に身を置いていた。採用されたルールは時間無制限一本勝負。すなわち"決闘"であり、身体の小さなホイスが時間をかけて相手を仕留めるために必要なルールでもあった。だが、大会が進むにつれ試合がPPVの放送時間枠に収まらないなどの問題も浮上。運営会社SEGはラウンド制などスポーツとしてのルール整備を目指したが、ホリオンはこれを不服として袂を分かっている。イベントよりも決闘。整備されたルールでスポーツとして普及させるよりも、グレイシー一族の不敗神話を重視する。それがホリオンという男の譲りがたい信念だったのだろう。

当時、雑誌『SRS・DX』の編集長で、『PRIDE』の運営にも協力していた谷川貞治氏（現K―1プロデューサー）は、大会を運営する上でのグレイシーの"厄介さ"をこう語る。

「『PRIDE』では、ボクはグレイシー担当じゃなかったんですよ。だから、なんであんなにモメたのか、よくわかんないんだよね。だって、いまグレイシーの人たちと交渉しても、なんにも難しいことないんだもん。ホイスだって『Dynamite!! USA』で5分3ラウンドのルールでやったしね。当時といまの違いが何かっていったら……、やっぱりホリオンがいるかいないか、かなぁ」

ホリオンの"暗躍"にもかかわらず、桜庭はホイスに勝利。さらにヘンゾ、ハイアンにも勝って"グレイシー・ハンター"の名を不動のものとした。となれば当然、次の相手はグレイシーの"ラスボス"であるヒクソンだと思われた。桜庭自身もそれを望んでおり、ホイラーに勝った時点でセコンドのヒクソンに「お兄さん、今度はボクと闘ってください！」とアピールしている。

だが、ヒクソンが選んだ相手は船木誠勝。2000年5月26日に開催された『コロシアム2000』である。船木の失神という壮絶な決着、突然の引退表明というインパクトもあって歴史に残る一戦となったヒクソンvs船木戦だが、"ヒクソンが闘うべきは桜庭ではないか"というムードがあったのも事実だ。

桜庭vsヒクソン戦はなぜ実現しなかったのか？

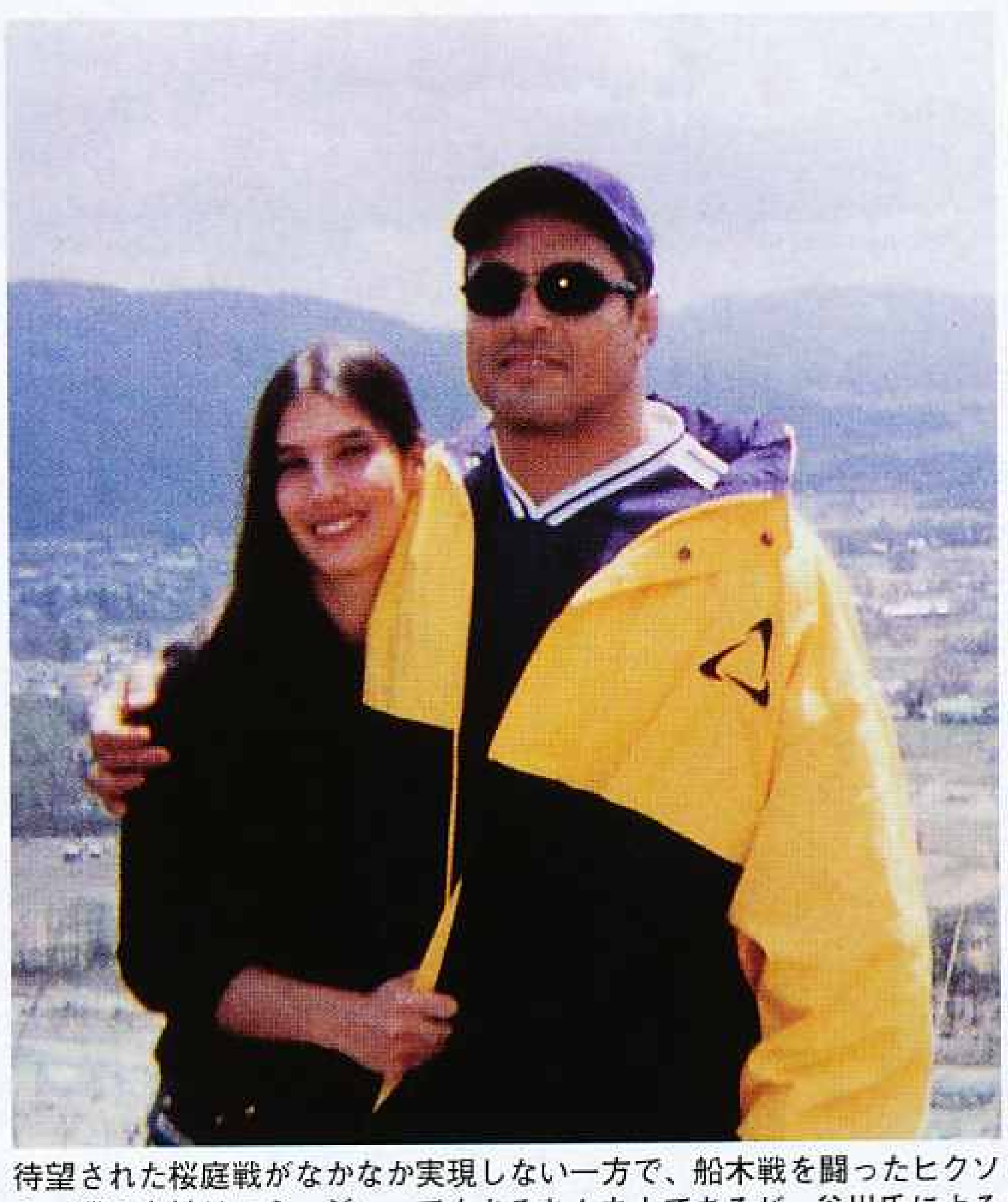
「サクちゃんとヒクソンの試合が観たいっていう雰囲気は確かに強かったよねぇ。ターザン山本さんなんか、『SRS・DX』の表紙に〈ヒクソンに告ぐ！ なぜ桜庭じゃなく、船木なのか？〉って失礼なコピーをつけたりしてたよなぁ（笑）」

谷川プロデューサーもそう語るのだが、ではなぜ、桜庭vsヒクソン戦は実現しなかったのだろうか。

「ボクは直接、グレイシーにタッチしてなかったからわかんないけどねぇ。考えられる理由は一つじゃないの？」

それってやっぱり……3億とか5億とか言われるアレですか？

「それしかないでしょう。高田vsヒクソン戦と前田（日明）vsヒクソン戦が競合してたときは高田戦のほうが額が上で、桜庭戦と船木戦だったら船木戦のほうが高かった、と。桜庭戦は噂されてたときのDSEの社長、森下（直人）さんは、堅実な経営をする人だったからね。膨大な赤字を背負ってまでやろうってことじゃなかったんだと思うよ。これがバラさん（榊原信行・前DSE代表）の頃だったらわかんないけどね」



待望された桜庭戦がなかなか実現しない一方で、船木戦を闘ったヒクソン。隣の女性はマネージャーでもあるキム夫人であるが、谷川氏によると、桜庭戦が実現しなかった理由は、ただ一つだったようである。

ということは、ヒクソンは結局、金で動いてしまったということか……。

「でも、いまボクがグレイシーと交渉してると、なんにも難しいことはないんだけどね。ヒクソンもがめついとかそういうことじゃなくて、金額で交渉相手の誠意を計ってるってこと。相手に誠意が感じられればいいんだよね。あとはメリットの問題でしょ。アメリカでマイク・タイソンとやるっていう話なら、ヒクソンは安くてもやっただろうし」

船木戦後、ヒクソンは7年間も試合から遠ざかっている。2001年に溺愛していた長男・ハクソンを事故で亡くしたことも、その大きな要因だった。

もし、『PRIDE』が『コロシアム2000』よりも高額のファイトマネーを提示していたら。もし、ハクソンが事故死することなく、ヒクソンが積極的に試合をしていたら。いや、それ以前にヒクソンのファイトマネーがこれほど高騰せず、彼がより多くの試合をこなしていたら。格闘技の歴史は、どんなものになっていたのだろうか。

最後に、谷川氏が語ってくれた、ヒクソンのファイトマネーが高額なものになった一因とされる噂話を紹介したい。

『PRIDE』スタート以前、ヒクソン獲得に動いた某プロレス団体が彼と交渉した際のこと。ファイトマネーを訊かれたヒクソンは、指を一本立ててみせた。おそらくそれは"1000万"だったのだが、プロレス団体の幹部は"1億"と勝手に勘違いし、交渉から撤退したという。試合で負けるだけでなく、こういう部分でもプロレス界はグレイシーの"幻想"拡大に一役買ってしまったわけである。

猪木軍に〝徴兵〟された新日本プロレスの苦悩と葛藤とは？

藤田和之の潜在能力が大爆発!
猪木軍がPRIDEに参戦 新日に地殻変動が発生!

アントニオ猪木がエグゼクティブ・プロデューサーに就任して、リング上で「1、2、3、ダーッ!」を連発していた頃の『PRIDE』には藤田和之、石澤常光、安田忠夫らプロレスラーが参戦しておおいに注目を集めていた。一方で、その代償は新日本プロレスに暗い影を落とすことにもなった。

文／金沢"GK"克彦　撮影／乾晋也





〝野獣〟藤田の覚醒で地獄の扉が開いた!?

ヒクソン戦を熱望した異端児がPRIDEへ

10年前の97年10月11日、東京ドームで産声をあげた『PRIDE・1』のメインは髙田延彦vsヒクソン・グレイシー。つまり、プロレスラーvsグレイシー柔術（総合格闘家）であった。はじめにプロレスとプロレスラーありき。こればかりは曲げようのない歴史的事実なのである。また、当時のプロレス界、とくに新日本プロレスには自信も勢いもあった。その証拠に、98年の春先からヒクソンの新日本マット引っぱり出しに向けて真剣に動いていたのだ。ヒクソン戦の第一候補に指名された男は、獣神サンダー・ライガーだった。

しかし、一年後の同日、東京ドーム（『PRIDE・4』）で実現したのは、髙田vsヒクソンの再戦。それでも、新日本はあきらめることなく、98年暮れから再び

その時、何が起こったのか?

ヒクソン側と交渉に入り、99年4月の東京ドーム大会へのヒクソン参戦を計画していた。対戦候補の筆頭は中西学だった。一方、それを知った藤田和之が自らヒクソン戦を直訴したのも有名な話。だが、このプランも壊れた。結局、新日本とヒクソン、新日本と『PRIDE』との接点はこれをもって消滅したかと思われた。

　ところが、業界の常識など通用しない異端児が現われた。藤田だ。早く金を稼ぎたい、順番待ちは御免の〝飛び級〟志向が藤田を衝き動かした。99年暮れにはリングスへの移籍が決まりかけていたものの、それを覆したのが、藤田の潜在能力を買っていたアントニオ猪木。「俺に任せておけ」とばかりに、年明け早々に藤田を『PRIDE』へ斡旋した。のちに、自らもエグゼクティブ・プロデューサーに収まり、ますます『PRIDE』との親密度を深めていくことになる。ただし、それが可能となったのも、すべては藤田という男が規格外の〝凄玉〟であったから。

　初陣となった1・30東京ドーム『PRIDE　GP2000』トーナメント一回戦でハンス・ナイマンに完勝。同年の5・1東京ドームでの二回戦では当時、MMA最強と目されていたマーク・ケアーに激勝。この瞬間、新日本プロレスもプロレスファンも快哉を叫んだ。

　新日本マットでプロデビューしてから、わずかに3年半の男が〝霊長類ヒト科最強の男〟を食ってしまったからだ。その後も藤田は、ケン・シャムロック、ギルバート・アイブル、高山善廣と3連破。これで、藤田が総合の世界だけで活躍していれば、なんの問題もなかったろう。

　ところが、猪木の仕掛けが始まった。その仕掛けは、90年代に新日本が築き上げてきた世界観を根底から覆すものだった。90年代、新日本という組織を束ねていたのは、坂口征二社長＆長州力現場監督の二枚看板だった。現場は長州が仕切り、トップ決裁は坂口社長。これによって、事実上のオーナーである猪木が介入する隙はまったくなかったのである。実際に、98年度の新日本は年商45億円という数字を弾き出す優良企業であったのだ。

　ところが、99年7月に藤波辰爾が新社長に就任。まさに猪木にとっては好都合の人事。藤波社長がオーナー命令に逆らうことはあり得ないからだ。まずは藤田を新日本のリングに逆輸入するかたちで、あっという間にIWGP王者に仕立て上げてしまった。仕立て上げたといったら語弊があるだろうか? プロレスのリングでも藤田の強さは際立っていたし、その説得力に異を唱えることは誰もできなかった。

　もう一つの仕掛けは、第二の藤田を『PRIDE』に送り込むこと。最初に白羽の矢を立てられたのは、若手時代からシュート志向が強く、93年、実際に『藤原組』のリングで、藤原喜明と打撃なしルールのシュートマッチ（結果は30分時間切れドロー）で闘った経験もあるケンドー・カシンこと石澤常光だった。元アマレス全日本王者にして、藤田のプロ入りまでは道場最強といわれていた猛者である。

　ところが、あまりに準備期間が少なかった。そればかりか、石澤は8・27西武ドーム大会（『PRIDE・10』）の2週間前まで、試合出場を義務づけられた。新日本サイドが出場に難色を示したのだ。猪木事務所と新日本の対立構造に翻弄されたかたちの石澤は、グレイシー一族の狂犬、ハイアンにわずか2分でKOされた。この衝撃は大。野毛道場の伝説の一角が崩されたのだ。その一年後、石澤はリベンジに成功しているが、初戦のインパクトはあまりに強烈すぎた。

強国・新日本プロレスが猪木の介入で大混乱へ

　その前後から猪木オーナーと長州現場監督の衝突は徐々にあからさまとなってくる。UFC旗揚げ当初から「ウチの選手にアルティメットはやらせない!」と断言していた長州と、「プロレスも総合も闘いは同じ。分けることはないだろ!」と言いきった猪木。水と油の主張がぶつかり合う中、新日本フロント陣の一枚岩は崩れ始め、現場も二極化していく。

　石澤に続いたのは、まさに人生の崖っぷち男であった安田忠夫。『PRIDE』出場の目的と理由は、単純明快。多額の借金返済であった。しかも、自ら猪木に直訴しての参戦である。01年の3・25『PRIDE・13』で佐竹雅昭と対した安田は、3ラウンドを闘い抜いて、判定勝ち。追い詰められた男の執念は、伊達ではなかった。また、同年の大晦日決戦では、K－1のジェロム・レ・バンナから感動の大勝利を奪い、その二ヵ月後に安田もIWGPヘビーのベルトを巻いている。

　ここで絶対に外すことのできない闘いが、01年の8・19『K－1ジャパンGP』（さいたまスーパーアリーナ）で決行された「K－1軍vs猪木軍3対3対抗戦」だろう。『PRIDE』vs新日本の図式が、K－1まで巻き込むかたちとなったわけだ。大将戦は藤田vsミルコ・クロコップ。本来、大将はレ・バンナであって、当時のミルコは噛ませ犬もいいところ。おそらく、石井和義館長（当時）でさえ、藤田の完勝を予想していたはず。

　ところが、藤田のタックルをミルコはカウンターのヒザ蹴りで迎撃。この一発で藤田の顔面から血が噴き出し、TKO負け。この勝利をキッカケに、ミルコはスーパースターへの階段を一気に駆け上がっていくことになる。

　藤田の不覚を受けて、打倒ミルコに立ち上がった男は永田裕志だった。これは「真のトップに立つために武藤さんにはできないことをやるしかない」という自らの選択だった。しかし、01年の大晦日、ミルコと対した永田はハイキック一発によって惨敗。タイムは21秒。同年の『G1王者』である永田の秒殺負けは、強国・新日本に大ダメージを与えてしまった。

　そして、02年の年明け早々、猪木が推進する格闘技路線に反発した武藤敬司が小島聡とフロント数名を率いて新日本を退団。同時に、格闘技志向と思われていたカシンも、馳浩の勧誘を受け退団を決意。退団組は全日本に新天地を求めた。

　磐石の新日本に藤田が風穴を開けたのを契機に、猪木が新日本の理想を『PRIDE』のリングに見てしまったことが一つ。そして、01年暮れに発売されたミスター高橋による暴露本（?）の影響。この3つの要素が揃ったとき、新日本に鳴り響く非常ベルはマックスに達した。当時のツケはいろいろな意味で、いまも新日本とその周辺に負債として残っているのだ。





e!』の下を甘んじて受けたのか?



PRIDEがK-1の"属国"だった時代

2002.12.31 INOKI-BOM-BA-YE 2002
大晦日にK-1vs猪木軍vsPRIDE実現

『PRIDE』とK-1といえば、ここ数年、熾烈抗争を続けてきたライバル同士というイメージが強いが、数年前までは蜜月時代もあったのだ。蜜月といっても対等ではない、K-1が主導権を握り、『PRIDE』は"属国"のような関係であった時代があったのだ。K-1との蜜月時代とは『PRIDE』にとってなんだったのか? 検証してみよう。

文／布施鋼治　構成／堀江ガンツ

したたかだった『PRIDE』"制作会社"としてノウハウ吸収

いまでこそK-1ファイターがMMAに挑戦することは当たりまえ。中には時と場合に応じてK-1とMMAを行ったり来たりする器用な選手もいる。セーム・シュルトも、以前はMMAファイターだった。しかしK-1ファイター（キックボクサー）はMMAでは通用しない。そう言われていた時代があった。少なくとも01年8月19日、ミルコ・クロコップが藤田和之を流血TKOで下すまでは。

ミルコvs藤田はK-1vs猪木軍の対抗戦の一つとして組まれていた。試合前には「不透明な試合になるに違いない」「プロレス"内"異種格闘技戦になるのでは」といった憶測が飛んだ。しかし、先鋒戦

その時、何が起こったのか？

なぜ『PRIDE』は『猪木祭り』、『Dynamite!』の 格下



でレネ・ローゼが左ハイキック一発で安田忠夫を失神KOしたとき、すべては杞憂に終わる。試合が100パーセント真剣勝負であることがわかったからだ。

注目のミルコvs藤田もインパクト大。ミルコにとっては、この一戦はMMAデビュー戦。1Rが5分ではなく、3分に設定されるなど多少のプロテクトは受けていたものの、戦前は「藤田有利」を唱える者が圧倒的に多かった。少なくとも筆者も「寝かされたら、ミルコは終わり」という青写真を描いていた。ところがミルコはタックルに合わせたカウンターのヒザ蹴りで藤田の額をカット。ドクターストップ勝ちを呼び込んだ。この時、MMAの世界では「タックルに合わせたヒザ蹴りは不可能」といわれていただけに、余計それを実践したミルコの株は高騰した。藤田戦の2カ月前に行なわれたK−1ワールドGPの予選でまさかの一回戦敗退。

「藤田に勝ったら、推薦枠で決勝大会進出」というニンジンをぶら下げられたミルコは見事に高いハードルをクリアしたわけだが、そのニンジン以上にMMAは歯ごたえがあったのだろう。そして、この一戦をきっかけにミルコはMMAへとシフトチェンジしていく。

ミルコのKO勝ちをきっかけに、K−1vs猪木軍のムーブメントは翌02年の『Dynamite!』へとつながっていく。いまでこそ『Dynamite!!』は大晦日に行なわれるFEG系のメガイベントとして定着したが、国立代々木競技場で行なわれた第1回大会の一番大きな意味はK−1と『PRIDE』の〝合体〟にあった。格闘技界の二大イベントがジョイントしたからこそ、ミルコvs桜庭和志、ノゲイラ兄vsボブ・サップ、吉田秀彦vsホイス・グレイシーといった夢の対決が続出したのだ。その言葉どおり、『Dynamite!』はまさに格闘技界の起爆剤となり、K−1と『PRIDE』をより一般大衆に広める役割を果たした。大会に携わったある関係者は述懐する。

「あの時がK−1と『PRIDE』の最高の蜜月であり、飽和点でしたね。だからイベントとして大成功を収めたんですよ。でも、この世界って、大会が成功しても、いい思いができた人とそうでない人が出てくる。結局そのあたりの人間関係が二転三転して2年後の大晦日三つ巴戦争という形になったんじゃないですかね」

もっとも三つ巴戦争になるまでの大晦日は『INOKI BOM−BA−YE』という形でK−1と『PRIDE』は合体していた。ただ、この大会に大物を投入せざるを得ない状況になったがゆえに、『PRIDE』はワリを食っている。奇しくも01年、02年とも12月23日に福岡大会を開催していたため、どうしても本体のほうのマッチメイクが手薄になってしまったのだ。「『PRIDE』は『Dynamite!』の下」という見方をする関係者がいたことも、蜜月時代に別れを告げるきっかけになった。もう一つ気になることがある。合体イベントの時、表舞台に立っていたのはK−1側であることが多く、『PRIDE』側はどちらかといえば下請けのような存在に映った。

その見方は間違っていない。

再び大会関係者の証言。

「あえてそうしていたんですよ。K−1の属国といえば、属国ですね。おかげでかなりK−1の影響を受けていたと思うけど、振り返ってみてもあれはいいやり方だったと思います。僕らは制作という立場に立って、一歩引いて活動していましたからね。とどのつまり何が良かったかといえば、制作はお金のとりっぱぐれがない（笑）。それに年末の『BOM−BA−YE』を制作した時のノウハウはそのまま男祭りに活かせましたからね」

したたかでなければ、生きていけない。『BOM−BA−YE』の時もさいたまスーパーアリーナを押さえていたのは、制作を請け負ったDSEだったという。その流れが『PRIDE男祭り』に受け継がれ、PRIDE FC WORLDWIDE日本オフィスが閉鎖され、事実上『PRIDE』が〝消滅〟したいまも、その〝大晦日のさいたまSA〟が、〝夢の続き〟に活かされるかもしれないのだ。

K−1の属国時代というのは、その後の『PRIDE』大ブレイクに必要な期間だったのである。



田村潔司 決断の構造

“Show”大谷泰顕が語る 常人には理解不能（？）な頑固者のこだわりの正体

2002.11.23 PRIDE.19

髙田延彦引退試合で“因縁”の愛弟子田村潔司にKO負け

『PRIDE』10年の歴史の中で、ときには輝き、ときには翻弄してきた、田村潔司の“決断”。悩み抜いた末に髙田延彦の引退試合の相手を引き受けたかと思えば、桜庭和志戦については頑なに首を縦に振らず、それでいて突然ノゲイラ兄と闘ったりする、この男の決断の構造はどうなっているのか？　田村の自叙伝『孤高の選択』の監修者であり、田村と腹を割って話せる数少ない人物である“Show”大谷氏に、田村のこだわりの正体を語ってもらった。

聞き手／堀江ガンツ

その時、何が起こったのか?

田村を考えるキーワードは "潰し合い"より"活かし合い"

——今回は『PRIDE』10年の歴史の中でも随所で重要な意味を持った、「田村潔司の"決断"の裏には何があったのか?」ということをテーマに、田村さんの自叙伝『孤高の選択』の監修者であり、田村さんと本音の話ができた数少ない人物の一人である"Show"大谷さんにお話しいただきたいんですよ。

大谷 なるほど。俺はたまたまタムちゃんとは単行本を書くという縁があったんだけど、俺の基本的な興味っていうのは"全体論"なんだよね。

——全体論?

大谷 うん。本質論っていうかさ。たとえばこの試合が実現したら、マット界全体に大きな影響を与えるようなこと。髙田さんがこの業界を背負ってヒクソンと闘ったり、その流れにあった桜庭和志vsグレイシー一族だったり、藤田和之がK—1にケンカを売ったとか。そういうマット界全体を巻き込める話が俺は好きなの。だから自然と猪木さんや石井元館長や谷川（貞治）さん、そしてバラさん（榊原信行代表）に思い入れちゃう。その大前提にたまたまタムちゃんがリンクしたことで、興味を持ったんだよね。

——逆に言うと、マット界全体を考えたとき、田村潔司が必要なときが何回もあったということですよね。

大谷 そうそう。だからタムちゃんが『PRIDE』に来て、ヴァンダレイ・シウバに完敗したり、ボブ・サップに秒殺されたりしてる頃は、『PRIDE』って田村潔司にとって必要なのかなって感じだったの。でも、そのあと、田村潔司がどうしても必要なタイミングが来たじゃない。

——ああ、髙田延彦引退試合ですね。

大谷 そうそうそう。

——田村潔司が「出る・出ない」という"孤高の選択"をする上で、一番悩んだのはやっぱり髙田戦なんですよね?

大谷 そうだろうね。頭の中に「?・」が100個は浮かんだっていうから（笑）。髙田戦のときは、試合の直前にも個人的に会ったり、取材で話を聞いたりしてるんだけど、試合を受けるべきか悩んでるタムちゃんに、髙田さんから手紙が届いたんだよね。

——髙田延彦が田村潔司に手紙を書いたわけですか。

大谷 タムちゃんは手紙をもらったはいいけど、どうしても封を解けないわけよ。でも、2～3日経って、恐る恐る封筒を切って手紙を読んでみたら、内容に関しては教えてくれなかったけど、率直に「とにかく田村と最後に試合がしたい」みたいなことが書かれてあったんじゃないかな。だから「これは逃げられないのかな」って思ったらしいよ。このへんの話は『孤高の選択』にもっと詳しく書いてあるから、興味のある方は書店へどうぞ（笑）。

——田村潔司を決断させたのは、髙田延彦だけだったわけですね。

大谷 で、これはいろんな人の話を総合して、ほぼ間違いない話だと思ってるんだけど、通常だと試合の契約書って試合前に交わすのに、髙田戦の契約を交わしたのって、おそらく試合後だね（笑）。

——なんで試合後なんですか!?

大谷 要は契約書によって「やらざるを得ない」状態には最後までしなかったってことなんじゃないかな。それとこれは限りなく間違いない憶測だけど、髙田戦のファイトマネー自体は、絶対にそれなりの金額だったと思うんだよ。普通はその金額をちゃんと取りっぱぐれないように、選手側としたら契約を結ぶわけでしょう。でも、タムちゃんは最後まで契約は結ばなかったみたいだもんね。その部分でいえば、髙田戦っていうのは、ホントの意味で「金じゃない」ってことだったんじゃないかな。

——なるほど。では、その髙田戦以降、田村さんはいろんな試合をやって、その都度、悩んだり悩まなかったりしたと思いますけど、田村潔司がオファーを受ける・受けないというときの一番の基準ってなんだと思いますか?

大谷 それは対戦相手によって全然違うと思うんだよね。へんな話だけど、金を理由に実現させる試合のほうが、選手にだって楽な場合もあるでしょう。「これだけもらえるから仕事しようか」みたいな。その中の一例で言うと、サク（桜庭和志）といまだにやってないでしょ? なぜやらないのかって、2005年末だったかな、何度目かの桜庭戦のオファーを断った直後に、じっくり話を聞いたことがあったの。そのときに俺が感じたのは、タムちゃんはサクと「潰し合いはやりたくない」っていう気持ちだったんじゃないかと思うんだよ。

——ど、どういうことですか?

大谷 要はガチンコにも活かし合うものと潰し合うものの、二種類があってさ。試合後に相手を落としてしまうような潰し合う試合じゃなくて、お互いにリスペクトを持って活かし合う試合にしたかったんじゃないかって。たとえば最近でいうと、去年の大晦日にやった田村vs美濃輪戦だったり、『HERO'S』でやった桜庭vs柴田戦とかね。お互いにプロレスラーだから、相手を活かすっていうのは本能的な部分で持ってるから、ああいう試合になると思うんだよ



"Show"大谷泰顕
しょう・おおた[illegible]数々のプロレス・格闘技書籍の監修を務める「闘想家（車田正美先生命名）」。田村潔司自叙伝『孤高の選択』（東方出版）監修者でもあり、数少ない田村潔司と腹を割って話せる人間でもある。

ね。でも、『PRIDE』で桜庭vs田村戦が取りざたされてた頃って、サクはタムちゃんに対して、完全に潰し合いをするつもりだったと思うんだよな。

――そうでしょうね。昔は「日本人と殴り合いはしたくないけど、田村さんだったらグローブなしでもいい」とか言ってたぐらいですから（笑）。

大谷　そこでタムちゃんが「活かし合いの試合をしたい」と思ったところで、そうはならないじゃん。それに、タムちゃんとサクって年齢的には同級生だけど、プロの世界では田村が5年先輩でしょう。

――桜庭選手がUインターに入門したとき、田村さんはすでにメインイベンターの一角でしたよね。

大谷　そうなると、タムちゃんにとってサクは、いつまで経っても後輩っていうか、「鼻タレ小僧の桜庭」って見えちゃうんだろうし。そう考えると、正面からムキになって潰し合いをする気持ちにはなれなかったんだと思うよ。

――後輩に歯向かわれているようで、おもしろくないでしょうしね。

大谷　そういう意味では、どうしても負けられない相手でもあるだろうしね。ただ、誤解してほしくないのは、タムちゃんは潰し合いのおもしろさも知ってるんだよ。だから、シウバや吉田秀彦とはもう一度やって借りを返したいと思ってるしね。だから、桜庭戦を受けなかったことについて言うと、一番の理由はそこだったと俺は思う。だってへんな話だけど、桜庭vs田村戦を実現させるために、バラさんは何度も何度も交渉してさ、実際に最後は凄い額を提示してでも、ファンの夢を実現させたかったと思うんだよね。それでも受けなかったんだから、逆に田村潔司は凄いと思うよ。





（写真・右）02年2月『PRIDE』に初参戦した田村は、いきなりヴァンダレイ・シウバと激突。完敗を喫する。（写真・左）同年11月には、かつての師・高田延彦の引退試合の相手を務め、KO勝ち。涙で介錯人の役目をはたした。

田村潔司

――その感覚って、プロレスを通過してない、純粋な格闘家や格闘技ファンにはわからない部分でしょうね。

大谷　そうそう。だから、バリバリのガチンコ派の方々からすると、「活かす活かさないは結果的な話で、試合中は相手を殺すぐらいの気持ちじゃなきゃ」って考えだと思うんだよ。でも、よくも悪くもプロレスを通過してる人間からしたら、試合ってのはお互いを活かし合うものだって意識があるんだろうね。

――そう考えると、06年2月に田村潔司vsアントニオ・ホドリゴ・ノゲイラという謎の試合がありましたけど、なぜ田村さんがノゲイラと闘いたがったのかも、なんとなくわかりますね。おそらくノゲイラとだったら、勝ち負けはともかく、凄くスイングしたいい試合ができると思ったんでしょう。

大谷　そうだろうね。タムちゃんはヴォルク・ハンとの試合を生涯の自分のベストバウトと思ってるところがあるから。そのハンとやったような試合が再現できるかもって考えたんだろうね。

――ところがノゲイラは活かし合おうなんてもちろん思ってるわけもなく（笑）、田村さんが思っていた以上に実力差もあって、たいした展開もなく終わってしまったんですよね。

大谷　そうそう。いきなり勝負をかけられちゃったよね。だから、そのやるせない思いをぶつけるように、試合後に控室でミット打ちをバンバンやってたんじゃないかな（笑）。周りの外国人選手は「何やってんだ？」って思うよな、「あれ？　これから試合あんの？」みたいなさ。

――では、田村潔司を考える一つのキーワードは「活かし合い」ってことですね。

大谷　そうだね。でも、活かし合うってのは、自分の価値を守るってことだけじゃなく、全体のことを考えてるっていう部分ももちろんあるからさ。だから高田戦も受けたし、サクとも最後の最後で一緒にリング上で挨拶して握手したわけじゃん。今年の『Dynamite!! USA』にしてもサクが出られないかもしれないってときに、代打としてわざわざロスまで行ってスタンバイしたりさ。『HERO'S』に出たのだって、『PRIDE』が開店休業中で、これ以上マット界を冷え込ませたくないって思ったからでしょう。だからそういうときには、決断する男なんだと思うよ。

――ホントに自分が必要とされるときは、やる男だ、と。

大谷　必要とされてるような空気を感じるかどうかなんだよね。

田村潔司が桜庭戦を受けない本当の理由とは？

――だから、田村さんも桜庭戦を大晦日にやらなかったのは、「ここで田村vs桜庭戦がどうしても必要なわけじゃないだろう」っていうのはあったでしょうね。

大谷　あったね。とくに小川直也vs吉田秀彦戦をやった年はその思いが強かった。あの年は『男祭り』より『Dynamite!!』のほうがラインナップ的に弱かったじゃん。だから、あのときは、どちらかと言えばタムちゃんは『Dynamite!!』に出たかったと思う。出たらいろいろ問題があるから出なかったけどね。

――実際、『Dynamite!!』からオファーもあったんですよね？

大谷　あったらしいね。そのときは、いま話題の●●●●が相手だったって。本来、俺が好きなのは、そこで『Dynamite!!』に出る田村潔司なんだよね。だって、

逆に田村潔司は凄いと思うよ。

格闘技界全体のことを考えたら、そこで『Dynamite!!』に出たほうが絶対にインパクトがあったし、全体的にもっと盛り上がったでしょう。

——だから、田村さんが〝PRIDE所属〟みたいなかたちで出た試合はおもしろくないんですよね。

大谷　そう！（笑）。

——アリエフ・マックモド戦とか（笑）。

大谷　あれはさ、最近のIGF旗上げ戦でやった、U−STYLE披露試合級の「あらま!?」だったよね（笑）。

——「なんでその試合やるの？」っていうことですよね。

大谷　やっぱりさ、現役選手は誰もがそうだと思うけど、自分の名前を上げたい、お金もほしいって野心がある。でもタムちゃんの場合は、それプラス、自分が理想とする〝U〟というものを知らしめたいって思いが強いんだよね。そこなんだよな、ポイントは。だから、たとえば田村が『HERO'S』に出ることによって、オープニングファイトでU−FILEの若い選手の試合が組まれたりとか、もしくはIGFに出ることによって、中村大介vs大久保一樹の試合が組めたりとか。それは田村が出るから組んでもらったのかどうかは知らないけど、田村が出ることで団体サイドも「それやったほうがいいなら、やります」みたいな雰囲気は当然あるんだろうから。

——U−STYLE Axisとかは、その最たるものでしょうけどね（笑）。

大谷　おそらく田村潔司の選択の基準ってのは、3つあると思うんだよ。一番目はマット界全体での見え方。二番目はU−STYLEの見え方。そして三番目は、自分のファイターとしての見え方。だから交渉する側からしたら、対戦相手によって、そのうちのどの部分から攻めていくのかってことじゃないかな。



その時、何が起こったのか？



（写真・右）06年2月、ホドリゴ・ノゲイラとリングス以来5年ぶりの再戦。〝回転体〟とはならず一本負け。（写真・左）そして今年4月『PRIDE・34』のリング上で桜庭和志と運命の再会。しかし、いまだこの一戦は実現してない。

田村潔司 決断の構造

——『PRIDE・34』の前っていうのはどういう感じだったんですか？

大谷　あのときは、ぶっちゃけ、サクが『PRIDE・34』に上がるかもしれないっていう噂はあったんでしょう？

——確かに業界内部ではささやかれてましたよね。

大谷　あのとき、バラさんはリング上で桜庭と田村が揃うだけじゃなくて、桜庭vs田村戦をここで組みたいって思ってたんだよね。だからそこに向けて奔走したけど、結局、タムちゃんはそれを引き受けなかった。サクと並んで挨拶することに対しては、決してうしろ向きじゃなかったけど。あのときだって、かなり俺はタムちゃんに煙たがられたよ。

——なんでですか？

大谷　こっちは田村潔司個人っていうよりも全体論で行くから、決してタムちゃん個人に対して、耳触りのいいことばっかり言うわけじゃないからさ。だから、よくタムちゃんに対して一方的にギャンギャン言う場面があって、あとで凄く反省するもんな（苦笑）。

——でも、4月8日は惜しいタイミングでしたね。このときって、田村さんの決断基準である「桜庭vs田村がどうしても必要な大会」であり、その闘いが自分たちの因縁がどうのじゃなくて、マット界のため、『PRIDE』のため、勇退する榊原代表のためっていう、大義名分があった。まあ、だからこそ桜庭さんと挨拶をするっていうことに対して前向きだったんでしょうけど。

大谷　そう。だから、あの『PRIDE・34』に登場したことに対するギャラっていうのは、これもいろんな人の話を総合して、ほぼ間違いない憶測として言うと、タムちゃんはもらってないんじゃないかな。試合をしてないんだから当然だって思う人もいるかもしれないけど、観客に感動を与えた度合いや、そういう意味での〝仕事〟として考えたら、あれはギャラをもらってもいいはずじゃん。

——当然、出演料が発生してしかるべきですよね。

大谷　でしょ？　だけどあの日はノーギャラだったみたいだからね。へんな話、マックモド戦でギャラが発生するぐらいだったら……（笑）。

——ダハハハ！　そうですよ。マックモド戦やロニー・セフォー戦よりはるかにギャラをもらってもいいはずですよ（笑）。

大谷　だよね（笑）。実際、タムちゃんはあくまでプロとして、ファイトマネーも自分への評価の基準として考える男でもあるんだろうけど、それは基準の一つであって、絶対的な基準でもない。だからお金にこだわる男じゃないんじゃないの？　だって桜庭vs田村戦にしても、いくら莫大なファイトマネーを提示されても受けなかったわけでしょ？　そして『PRIDE・34』でもお金を受け取らなかった。だから桜庭戦についても、田村潔司にとっては金じゃないんだよ。で、今後もし桜庭戦が実現する機会があるとしたら、お金じゃなく、タムちゃん自身が「ここでやるべきだ」と思ったときだろうね。そのときにサクが「やりましょう！」って思うかどうかはわからないけどさ（笑）。


——わかりました。いずれにしても、今後も田村潔司の動向は、見逃せなさそうですね。今日はありがとうございました！

大谷　あいよ〜。

【07年10月8日／世田谷区・デニーズにて収録】

大谷　そうだね。でも、活かし合うっての

!!』に出る田村潔司なんだよね。だって、



〃世紀のズンドコ興行〃がもたらした最大の後遺症

PRIDEの〃余命〃はあの日に決まってしまった――!?

2003.12.31 INOKI BOM-BA-YE
『猪木祭り』の全容とPRIDE王者ヒョードル参戦の傷跡

『PRIDE』の運命は2003年大晦日に決まった!? 2003年といえば、『PRIDE男祭り』『Dynamite!!』、そしてそして、あの『猪木祭り』が開催されたとんでもない年末を迎えた年。中でも、ある意味『PRIDE』の行方を決めてしまったともいえる『猪木祭り』のズンドコぶりといったら、マット界の歴史の中でも類を見ない！ ここでは、そのデタラメさをもう一度振り返ってみる。

文／高崎計三　構成／松下ミワ

その時、何が起こったのか？

格闘三つ巴戦争大勃発！ そこに仕掛けられた罠とは

結果的に、日本ではラス前イベントとなった2006年大晦日の『PRIDE男祭り』。恒例となっていた感もある大晦日の『男祭り』だが、じつは初開催は2003年で、意外と歴史は浅い。そしてその2003年大晦日というのは「民放主導の格闘技興行が3つも行なわれた日」として日本格闘技の歴史に刻まれている。

3興行のうち『PRIDE男祭り』、『Dynamite!!』はその後も継続開催され恒例行事となっていったが、やはりファンや関係者の胸にいまも刻み込まれているのは、この年単発に終わった"世紀のズンドコ興行"こと『INOKI BOM-BA-YA 2003～馬鹿になれ夢をもて～』（以下『猪木祭り』）だろう（01年、02年にも『猪木祭り』は開催されているが、DSEが協力したこの2年はまともなイベントだった）。

『PRIDE』の歴史を振り返るとき、なぜかついて回るこのイベントがいかにデタラメだったかをあらためて見てみよう。

当日までカード決まらず！ 備品の用意でもトラブル発生

まず、開催前からあり得ないほどゴタゴタまみれだった。当初、目玉だったはずのミルコ・クロコップは早々に欠場を発表し、『PRIDE』現役王者エメリヤーエンコ・ヒョードルも出場→欠場→やっぱり出場と発表が二転三転。こちらは結局は出場したが、最終的に出場が確定したのは開催前日！ いくらIWGP王者・永田裕志との対戦が実現したといったって、直前すぎるって！ ほかの参戦選手やカードもゴタゴタし、最終的に全カードが判明したのはほぼ当日という凄まじさ。ま、最近はIGFがほとんど同じパターンのため、慣れっこになりつつあって怖かったりするが……。

当日、開催前も油断ならない。なんと開始直前になって、主催者の発注漏れでゴングがないことが判明！ 三島☆ド根性ノ助率いる「総合格闘技道場コブラ会」のジムから急きょ、バイク便を手配するという離れ業でなんとか急場を凌いだ。開場・開演も担当者不在、段取り不明でメロメロ、さらに当日販売されたパンフレットも『男祭り』に出場する小路晃がデカデカと掲載されていたりと、もうガタガタ。

そもそも、会場となったのは神戸ウィングスタジアム（現ホームズ・スタジアム神戸）だったのだが、首都圏でさえどうかというマニアックなマッチメイクに観客動員は当然のように大苦戦。日韓ワールドカップの会場ともなった広大なスタンドには観客もまばらで、やたらと寒々しかった。

猪木の一言でリング上大混乱 そのとき"あの"王者は……!!

総合と打撃ルールが混じり合った試合は、それでも無事に進行していった。そんな中に挟まっていたのが、なぜかドラゴン藤波辰爾の引退エキシビション！ 当時、引退問題で揺れていた藤波に猪木が「引退式はイノキボンバイエでやれ」ということで実現したのだが、なんとも中途半端な攻防の末に「続きは1・4東京ドームで」って言われても……。そういえば、会場には大仁田厚が現われ、猪木にビンタを食らう場面も。

そして、なんといっても究極だったのが、年越し百八つビンタ！ 試合のほうは9時過ぎには終わってしまったので、年越しを待つ観客は2時間以上待たされることになり、ほかの大半のお客さんは帰ってしまう事態に。さらにビンタのほうも段取りがまったくなっておらず、猪木が「もう、なんでもあり！」と言ってしまったものだからリングに数百人が殺到！ 押しくらまんじゅう状態となったリング上で「殺すぞコラーッ！」「ルールを守れーッ！」と猪木が叫ぶ中、ほかの選手たちが群がる観客をリングから放り出すというハチャメチャさ！ なお、このとき即座に危険を察知したエメリヤーエンコ兄弟は、足早にリングからフェードアウト……。さすがです！（微笑）。



まったく段取りがなっていなかったがために、大混乱に陥った年越し百八つビンタ。自分に群がってくる観衆に、アントンはとっさに「ハウスハウスハウス!!」と叫ぶも、騒然とした空気は一向に収まる気配ナシ！

視聴率、無念の圧倒的惨敗 そしてPRIDEの運命は……

傍目にはこんな笑えるイベントもなかったのだが、「曙vsボブ・サップ」という究極のカードを切った『Dynamite!!』、カード編成に苦戦しながらもなんとか乗りきった『PRIDE』にテレビ視聴率では惨敗！ その後もタダで済むわけはなく、制作費の支払いや契約問題を巡って複数の訴訟が巻き起こる大騒動がはてしなく続けられた。

しかも、このイベントの件が発端となって一般週刊誌が『PRIDE』バッシング記事を連続掲載、その後のフジテレビ放送打ち切りへとつながっていく。『PRIDE』にとってはプロデューサーを務めていた猪木との決別のきっかけとなっただけでなく王者ヒョードルほか数選手を引き抜かれ、挙げ句に強烈な最後ッ屁まで食らわされるきっかけとなった痛恨の一夜なのである。

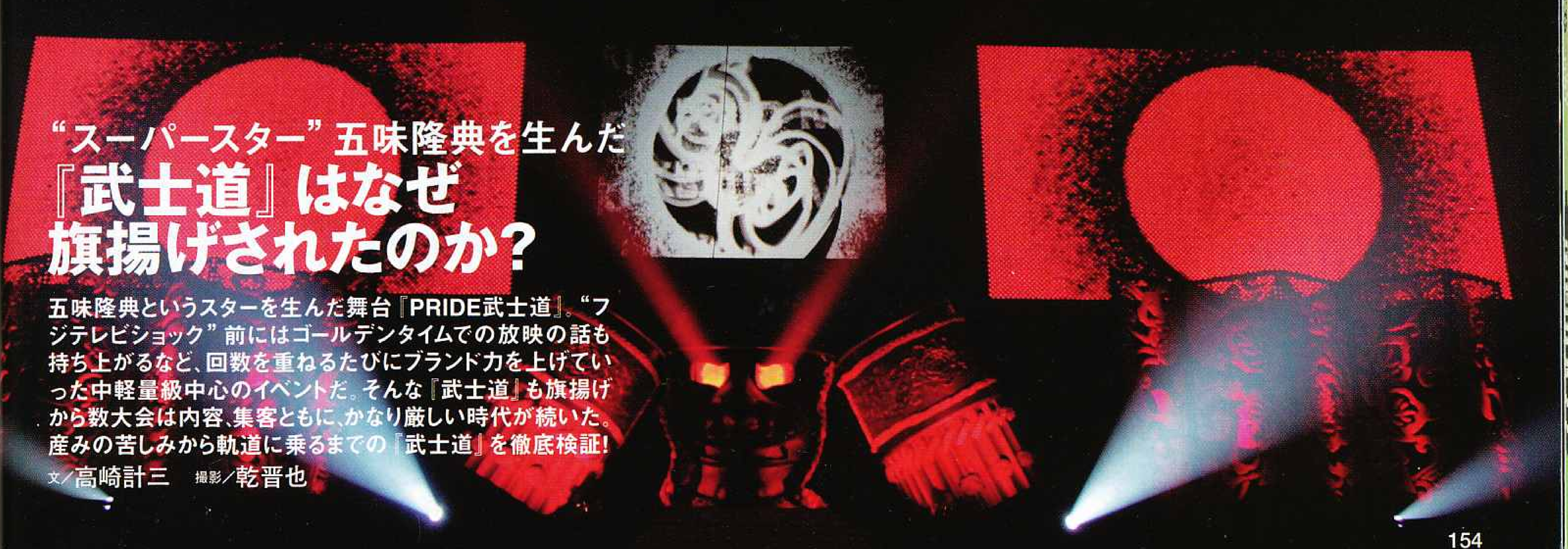
もしもこの日の一件がなかったら……歴史に「れば・たら」はナンセンスかもしれないが、この『猪木祭り』騒動」がもしなければ、我々はいまもまだ、『PRIDE』のイベントを楽しめていたのかもしれない。歴史はこの日、確実に曲がり角を迎えていたのだ。

中軽量級イベント、確立までの苦悩



やれんのか？ やれんのか？

『PRIDE武士道』誕生の裏側



“スーパースター”五味隆典を生んだ『武士道』はなぜ旗揚げされたのか？

五味隆典というスターを生んだ舞台『PRIDE武士道』。“フジテレビショック”前にはゴールデンタイムでの放映の話も持ち上がるなど、回数を重ねるたびにブランド力を上げていった中軽量級中心のイベントだ。そんな『武士道』も旗揚げから数大会は内容、集客ともに、かなり厳しい時代が続いた。産みの苦しみから軌道に乗るまでの『武士道』を徹底検証！

文／高崎計三　撮影／乾晋也

その時、何が起こったのか？

『武士道』立ち上げに関与した意外な人物とは

2003年、森下社長の死という悲劇を乗り越えて〝REBORN〟を果たした『PRIDE』はミドル級GPを成功させた後、かねてからウワサに上っていたサイドプロジェクトを始動させる。「世界で通用する中量級の日本人選手を発掘する」ことをテーマに、この年の10月にスタートした『PRIDE武士道』である。

2006年11月、『其の十三』まで開催されたこのイベントは、いかにして誕生したのか？ スタートから関わり、のちにPRIDE広報となった佐伯繁DEEP代表にも話を聞きつつ、『武士道』の誕生と成長を振り返ってみよう。

中軽量級を中心としたイベントを開催するアイデア自体は、DSE内部にあったものだった。それが一気に実現に向かったのは、2001年の旗揚げから3年目を迎えていた佐伯氏のDEEPがちょっとした転機を迎えていたからだった。

「3年目で、イベントの方向性にちょっと煮詰まってきたし、金もなくなってきたしね、DEEPとしては。それで（当時『紙のプロレスRADICAL』編集長の）山口（日昇）さんに相談して。そしたら、『PRIDE』でも考えていることがあるから一緒にやったらって話になった。それまで『PRIDE』との接点はなかったからね。どっちかというと、『PRIDE』の向こうを張るような感じでやってたから（笑）」

現「ハッスルエンターテインメント」代表の山口氏が、『武士道』の誕生にも関わっていたわけだ。当時、DEEPは桜井〝マッハ〟速人らも参戦させ、初期の「おもちゃ箱」から「団体の垣根を越えた闘いの場」へと変貌を遂げようとしていた時期。それでいてドスJr.といった変わり種の選手も抱えていたことが、ナンバーシリーズから大きく差別化したところで『武士道』を始めたかったDSEには好都合だった。とくに加藤浩之DSE元専務が中軽量級の推進には熱心だったようだ。

03年8月、『PRIDE GP2003開幕戦』のリング上ではマッハ、中村和裕、小路晃、三島☆ド根性ノ助、岡見勇信といった日本人選手に、マリオ・スペーヒー、アスエリオ・シウバ、はてはピーター・アーツまでが当時のPRIDEエグゼクティブ・プロデューサー、アントニオ猪木の呼びかけに応じて登場。新イベントの開催が高らかに宣言された。

この顔触れを見てもわかるように、当初の『武士道』は中軽量級のみに特化していたわけではなかった。

「まだ、中量級一本でいくには選手の知名度がなかったからね。だからミルコを入れたり、グレイシーとの対抗戦みたいな企画ものでやるしかなかった」（佐伯氏）

第1回イベントは10月5日、さいたまスーパーアリーナで開催されたが、このときのメインはミルコ・クロコップvsドス・カラスJr.。中量級の選手は「日本vsグレイシー5対5対抗戦」に組み込まれたが、主役と目されていたマッハが9月のDEEPでの長南亮戦で眼窩底骨折の重傷、欠場となったのは痛手だった。代わりに期待された浜中和宏、高瀬大樹らが敗れ、初来日のマウリシオ・ショーグン、セルゲイ・ハリトーノフらが激勝。そしてミルコがハイキックで衝撃KOを飾ったため、「中量級の大会」という点ではインパクトは残せなかった。

翌年2月の『其の弐』からは五味隆典も参戦。その後、彼が破竹の快進撃を繰り広げたことが、『武士道』のコンセプトを認識させる大きな推進力となった。05年4月の『其の六』まではエメリヤーエンコ・ヒョードルらのヘビー級主力勢も投入されていたが、中軽量級の選手たちも次第にファンに認知されてきた。

ちなみにここまでの『武士道』には、いま振り返ると意外な顔触れも多く上がっている。日本人では前述の岡見、光岡映二といった和術慧舟會勢、外国人では、いまやK−1GPの常連となったハリッド〝ディ・ファウスト〟も参戦。ヒョードルの弟アレキサンダーやチェ・ム・べも『武士道』で初来日を果たしている。

『武士道』がいよいよ中軽量級に特化したのは05年5月の『其の七』からだが、それまでには存続の危機も何度かあったようだ。五味の躍進で軸はハッキリしてきたものの、やはり認知度という点でナンバーシリーズには及ばない。とくに地方などでは、観客動員にも苦労したためだ。

実際、『其の四』の前には、髙田本部長が「場合によってはクローズする可能性もある」とまで発言している。産みの苦しみは、かなりのものだったのだ。

だが五味がエースとして認知されたこと、修斗現役王者・川尻達也の参戦がかなったことなどから、『其の七』で開幕したライト級&ウェルター級GPは人気爆発。ここでようやく、『武士道』は当初のプランを実現させることができたのだ。

「ヒョードルやミルコみたいな外国人の試合は凄いけど、やっぱり現実離れしてるとこがあるでしょ。日本人で彼らと互角に闘える選手なんていないもの。だけど軽量級は、GPやっても日本人選手が何人も残る。やっと等身大で応援できるようになったわけですよ。ウェルター級GPで三崎選手が優勝したのなんか、それまでから考えれば奇跡でしょう！」（佐伯氏）

これまた余談だが、『武士道』という名前は以前、UWFインターが海外で放送される際に使われていた番組名でもある。このイベントに『武士道』の名を提案したのは坂田亘だという説もある……。

また、『武士道』の名に引っかけて、階級名も「織田信長級」とか「侍級」といったものが候補となっていたらしい。が、これは採用されなくてよかった気がする。「マッハはこれまで秀吉級で闘っていたが、これからは信長級に転向」とか言っても、ワケわかんなすぎる！（笑）。

修斗やZSTといった他団体とも協調路線を敷き、多くの日本人選手の目標となった『武士道』。実際、興行人気も急上昇しており、フジテレビとDSEのあいだでも『武士道』のゴールデンタイム放送について話し合いが持たれる予定だったほど。いわゆる〝フジテレビショック〟でそれも吹き飛んでしまったが……。

『武士道』の盛り上がりに伴なう波及効果もあった。DEEPのリングが「武士道への登竜門」として活性化していったことも、その一つだ。

「確かにそういう面はあるね。だけど、大舞台を踏んだ選手は当然、ギャラも上がる。同じ額は払えないけど、やっぱりある程度維持してあげないといけないという苦しみもあったよ」と語る佐伯氏。

『PRIDE』再開が絶望的となったいま、自動的に『武士道』もその歴史を終えようとしている。だが、日本人中軽量級の歴史も終わるわけではない。かたちを変えた『武士道』が我々の前に現れる日は、意外に近いのかもしれない。



その時、何が起こったのか？

文／田中太陽　撮影／乾晋也

ズンドコ“PRIDE”の登龍門“THE BEST”とは何か？

イロモノたちが跳梁跋扈する格闘お笑いワンダーランド!!

かつて格闘技界に『PRIDE』旋風を巻き起こし、我々に「MMAプロモーション」のなんたるかを見せつけてくれたDSE。

常にクオリティの高いプロデュースを行ないファンを心から満足させてきた彼らの歴史にも、やはりというべきかデタラメなイベントも存在していた。あのDSEが作りあげたとはとても思えない、いかがわしさに満ちあふれた格闘技イベントについてご存知だろうか。

その名は『THE BEST』。日本人選手の育成を目指し、『PRIDE』への登竜門的な位置づけでスタートしたこの大会は、岡見勇信や中村大介といった有望株を輩出したことで、一応の目的を果たしたことになっている。

しかしながらその実態は、『PRIDE』の方向性とはかけ離れたイロモノたちが跳梁跋扈する「格闘お笑いワンダーランド」だったのである！

02年2月22日、記念すべき『THE BEST』第1回興行のメインに抜擢されたのは、なんとイロモノ中のイロモノ、ジョー・サン！　キモのマネージャーとしてUFCにさっそうと登場し、選手としてはK−1で角田信朗との死闘を展開。観客をおおいに沸かせたのである。対するは当時、髙田道場の注目株であった今村雄介。

ケツ肉まるだしのTバック着用で登場し、のっけから観客のド肝を抜いたジョー・サン。試合が始まれば棒のように倒され、寝技の攻防ではサポーターがずれまくり放送事故寸前の事態に！　その後コーナーに押し込まれた瞬間、腕の痛みに耐えかねて、まさかのスタンディング・タップ。控室ではタバコを吸いながら「あのとき関節を極められていた」とうそぶく図々しさも見せた。この男、間違いなくDSE史上最強のイロモノである！

勢いに乗るジョー・サンは第2回興行にも登場。しかも相手は元力士にしてあらゆる武術の段位を持ち、「戦陣組討教士」という謎の格闘技をもマスターしているという怪しすぎる選手、柔圭である。ジョー・サンは三度笠のガッツ石松スタイル、柔圭は力士時代の先輩である寺尾関のTシャツでそれぞれ入場。この時点でいかがわしさ満点である。

しかし試合のほうはというと、開始まもなく柔圭に投げとばされたジョー・サンが受け身をとりそこない、肩を負傷してまさかのTKO負けというトホホな内容。「相手に何もさせず完敗する」ジョー・サンの秒自殺劇がまたしても炸裂する結果となった。

最後となった第3回では、島田裕二レフェリーと川崎浩市氏の「プロデュース合戦」という興味深い試みがなされた。のちに局地的ブームを巻き起こす「ミャンマー・ラウェイ」の使い手（ビルマ拳法として登場）に、インドネシア拳法をぶつけるというような怪しい試合を連発する島田レフェリーに対し、川崎氏は日本人主体のシビアな勝負を演出するというコントラスト。次につながるおもしろさを見せたが、残念ながら『THE BEST』の歴史はここで終了した。

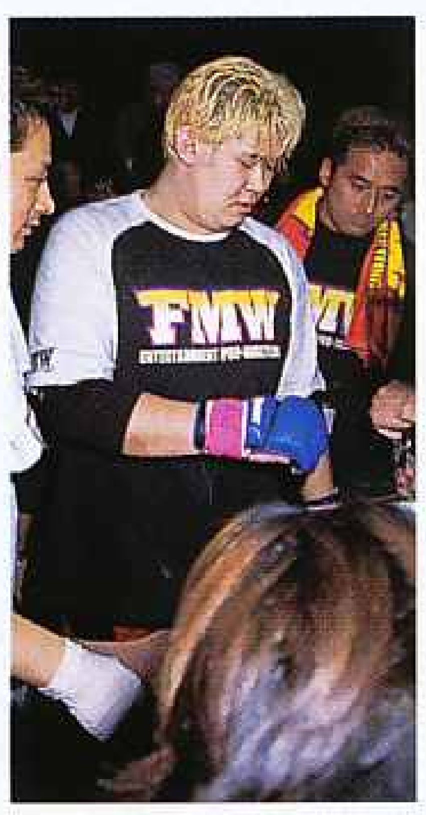
専用の八角形リングをあつらえ、PPV中継もされるなど、じつはそれなりに力の入ったイベントであったこの『THE BEST』だが、思い出されるのはジョー・サンのケツやインドネシア拳法といった怪しさばかりだ。

遺物となった八角形のリングはのちに『ハッスル8』で使用を検討されたが、マットの硬さがアダとなり、結局どこかにしまいこまれてしまったという。ジョー・サンはそのイロモノ性を評価されたのか、実際に『ハッスル』参戦まで果たした。

このような事実関係から鑑みるに、「PRIDEの実験場」が謳い文句であったこの大会は、案外『ハッスル』の登龍門であったのかもしれない。



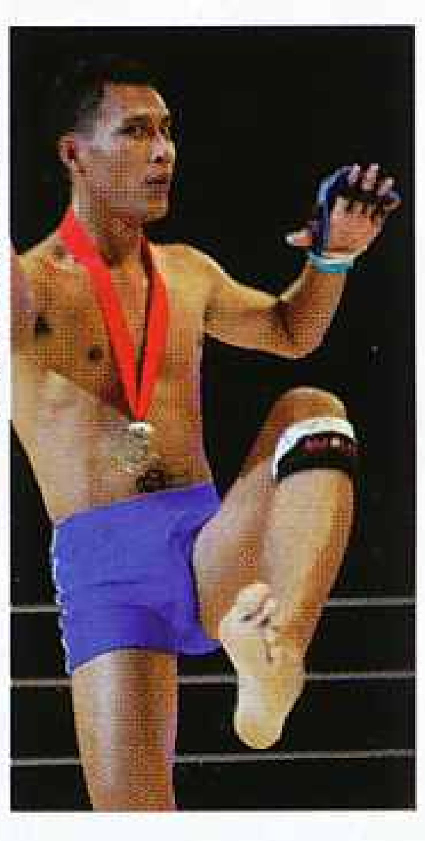
変態の中の変態
ジョー・サン
“PRIDEの登竜門”は、この男のド変態ぶりによって木っ端微塵に！『ハッスル』の当日券売り場に並んでいることを発見され、そのまま出場するというステキなエピソードもある。



FMWを背負った男
マンモス佐々木
FMW倒産直後、同団体生え抜きの佐々木が金宗王と対戦。チョコボール向井、新宿鮫をセコンドに、試合早々ラッシュをかけた佐々木だったが、経験にまさる金のフロントチョーク前にタップ。



インチキMMAファイター
シャノン・“ザ・キャノン”・リッチ
ジョー・サン、“闘魂ストーカー”イズマイウと並ぶいい加減極まりないカルトMMA戦士。当時絶頂だった猪木軍入りをアピールする機を見るに敏な入場を披露したが、まったく相手にされなかった。



インドネシア拳法の達人
アジ・スシーロ
ビルマ拳法と異色の拳法対決！　劇画で実現すればファンタジーだが、現実で行なわれるとどうにも胡散臭さしかない。それは俺たちが大人になってしまったからか。勝ったのはインドネシア拳法！

kamipro SHOPPING



あの～、みのも先生のマッスルTシャツが売り切れましたので増産しま～す!!

これでキミも立派なマッスルメイツだ!!



マッスル スターウォーズ Tシャツ
[S·M·L·XL イエロー] ¥3,150(税込)

ゴー・フォー・ブロック! 男が憧れる男を着こなせ!!



マサ斎藤Tシャツ
[M·L·XL ブラック]
¥3,150(税込)



T.J.シンTシャツ
[XS·S·M·L·XL ブラック]
¥4,200(税込)



＼(^o^)／Tシャツ
[XS·S·M·L·XL ホワイト×ネイビー]
¥3,990(税込)



ニューリン様 "BERO" Tシャツ
[LADY'S M·M·L·XL ブラック]
¥3,990(税込)



ニューリン様 "SIGN" Tシャツ
[LADY'S M·M·L·XL ブラック]
¥3,990(税込)



HEAD HUNTERS Tシャツ
[S·M·L·XL ライトブルー]
¥3,990(税込)



WARG Tシャツ
[M·L·XL ブラック]
¥3,990(税込)



ニューリン様 "SIGN"
スウェットトートバッグ
[ブラック(プリント:シルバー)]
¥2,100(税込)
※バックサイズ:24×11×35cm(持ち手のぞく)



Kamiproマスクtシャツ
[S·M·L·XL ホワイト×レッド] ¥3,990(税込)



I編集長 "殺し" Tシャツ
[M·L·XL ブルー] ¥3,990(税込)

『kamipro』通販方法

★通販はすべて代引きです。お支払いは、現金、デビットカード、クレジットカードの中から選べます。

★全国どこでも送料一律500円です。(何枚でも可。離島・山岳部の方はお問い合せください)

★代引き手数料は315円です。(代引き金額によって異なります)

『kamipro Hand』でご注文の場合

詳しくは『kamipro Hand』の通販コーナーをご覧ください。ご注文後、確認メールを送りますので注意してご覧ください。

電話でご注文の場合

平日13:00～19:00
(株)ダブルクロス
TEL.03-5368-1797

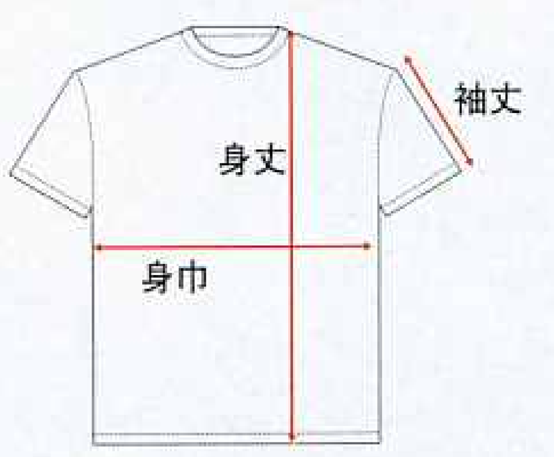
メールでご注文の場合

郵便番号、住所、氏名、電話番号(携帯)、商品名、サイズ、枚数、年齢を書いたメールを
kapra@kamipro.com
までお送りください。申し込みメール確認後、佐川急便にて発送いたします(確認メールはいきませんのでご了承ください)。
販売元／(株)ダブルクロス

[kamiproオリジナルTシャツ サイズ表]

(単位はcmです)

サイズ	S	M	L	XL
身丈	66	70	74	78
身巾	49	52	55	58
袖丈	19	20	22	24



ケータイサイトはもちろん24時間受付OK!

非会員でもショッピング可能!!

アクセス方法

DoCoMo iMenu ▶ メニューリスト ▶ スポーツ ▶ 格闘技／大相撲 ▶
※もしくは「kamipro」で一発検索!!

au/TU-KA トップメニュー ▶ カテゴリで探す ▶ スポーツ ▶ 格闘技 ▶

SoftBank メインメニュー ▶ メニューリスト ▶ スポーツ ▶ 格闘技 ▶

WILLCOM 趣味&スポーツ ▶ スポーツ ▶ 総合 ▶
エンターティメント ▶ TV・メディア・本 ▶ 本 ▶

kamipro Hand

[QRコード]

※価格はすべて税込みです

秋の夜長は……DVDで

金網三昧!!

観ればわかるさ！ UFC帝国の“脅威”

kamipro PRESENTS

応募要項

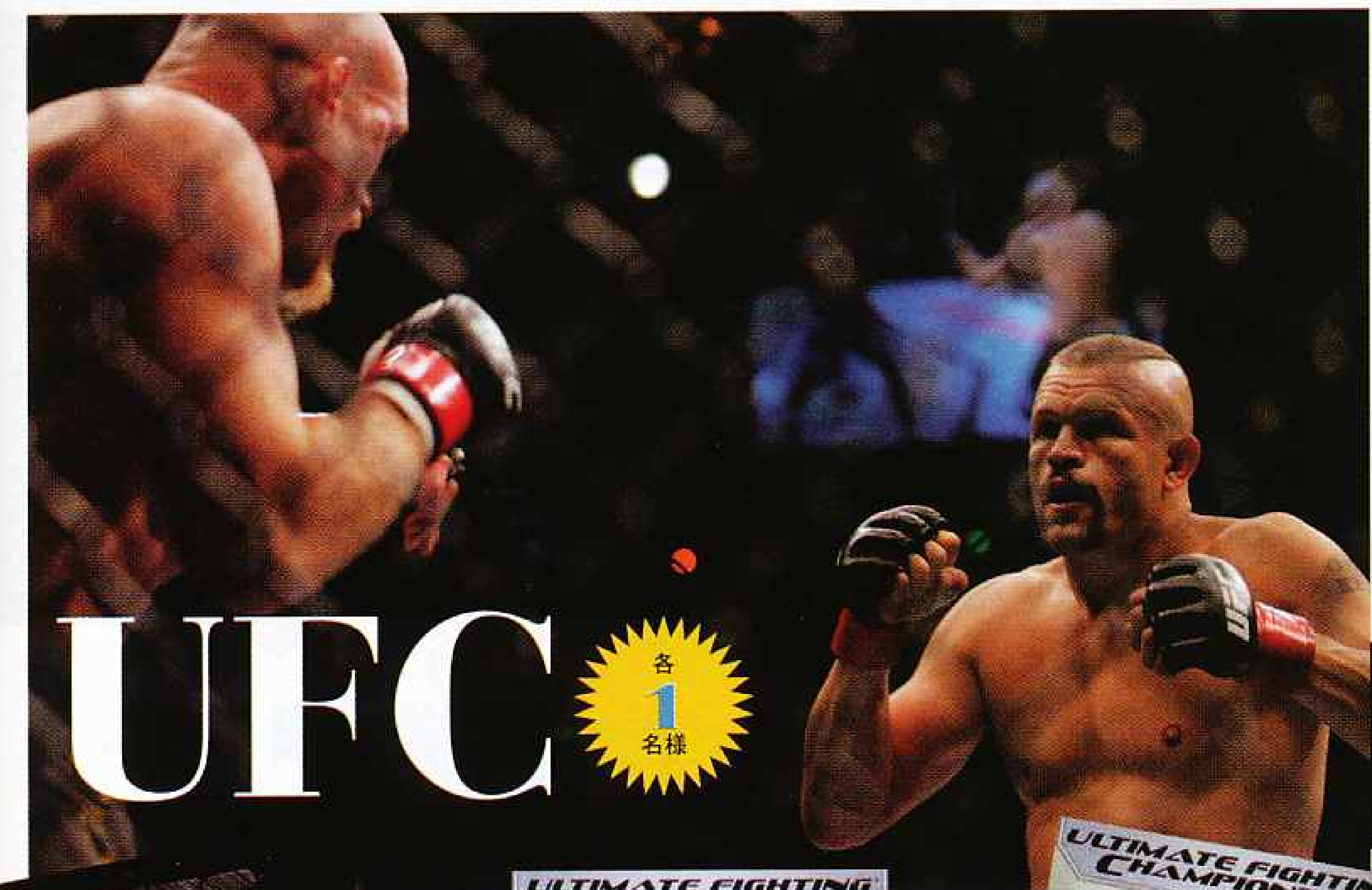
ハガキに応募券を貼り、①～⑧の質問の答えをご明記の上、下記の宛先まで郵送してください。応募多数の場合はそれぞれ抽選で決定いたします。ただし、雑誌公正競争規約の定めにより、懸賞に当選された方は、この号の他の懸賞に当選できない場合がありますのでご了承ください。なお、当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます（賞品は11月21日以降発送予定です）。
【質問事項】①郵便番号・住所・電話番号②氏名③年齢・職業④希望商品⑤おもしろかった記事&その理由⑥つまらなかった記事&その理由⑦『kamipro』で好きなコラムは？（その理由）⑧こんなグッズを作ってほしい！
【宛先】〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6パレ・ジュノ2F
（株）ダブルクロス『kamipro』編集部「ざまぁみろ！」係まで
※締め切りは11月20日（火）当日消印有効

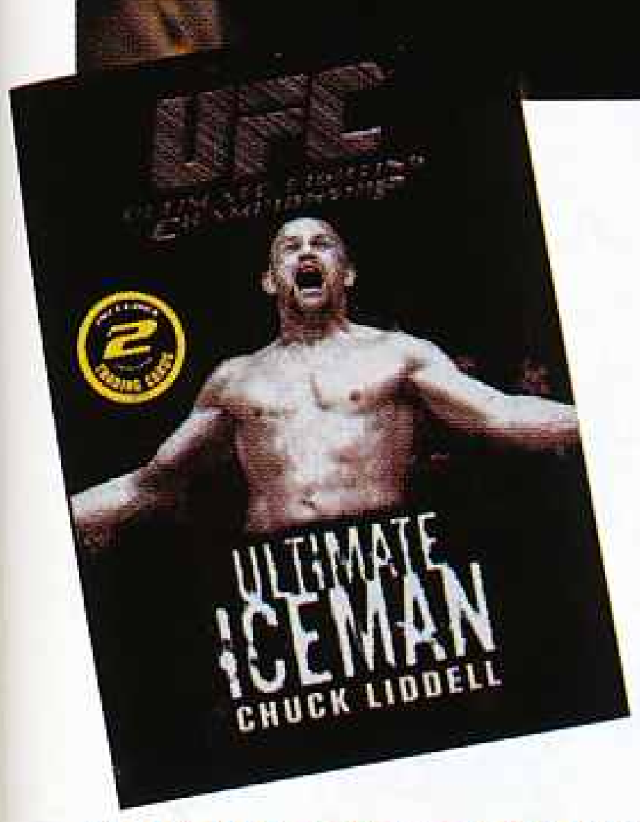
kamipro 116 応募券 ロレンゾ、コンノヤロォォオ！

ちぎって持ってっちゃダメだぞ!!

UFC

各1名様





『ULTIMATE ICEMAN CHUCK LIDDELL』DVD

（輸入版）

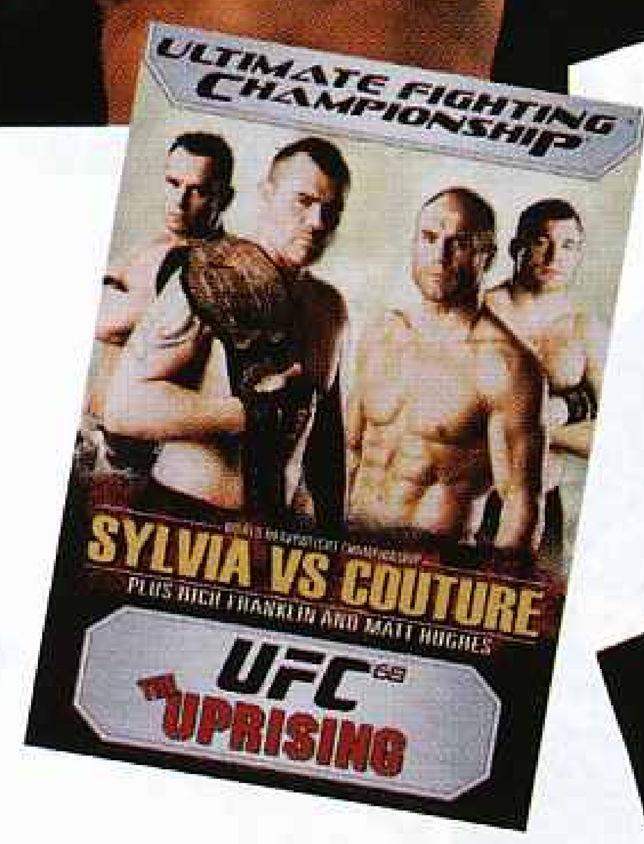
絶大な人気を誇るUFCスター、チャック・リデルの魅力がたっぷり詰まったDVD。家族や関係者らの証言から“アイスマン”のサクセスの秘密を解き明かすアルティメットな一本だ。



『UFC 69 SHOOTOUT』DVD

（輸入版）

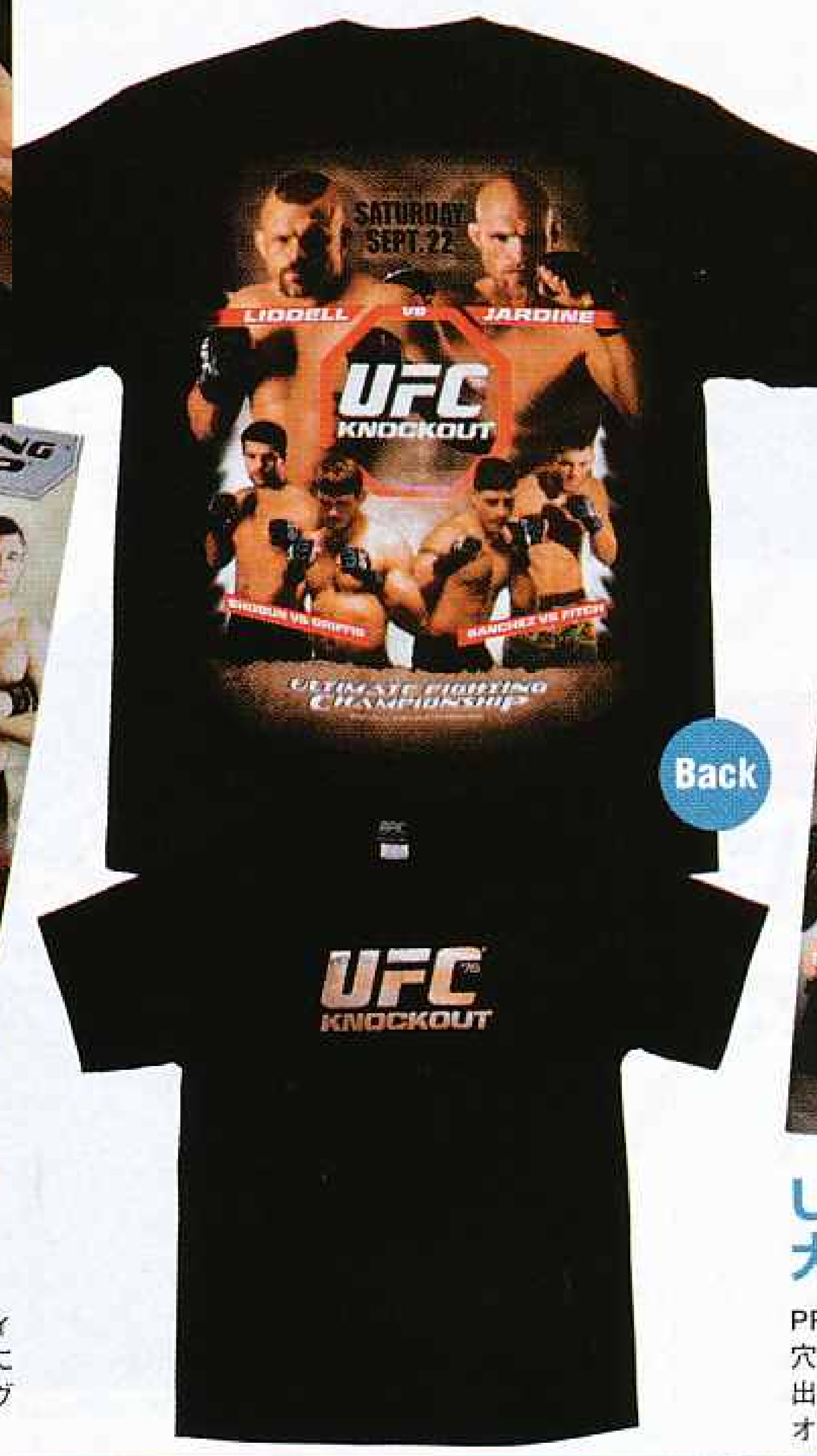
“TUF世代”のディエゴ・サンチェスとジョシュ・コスチェックが喧嘩上等で激突、マット・セラがアップセットを起こしたウェルター級選手権など『UFC 69』の舞台裏まで網羅した一枚。



『UFC 68 THE UPRISING』DVD

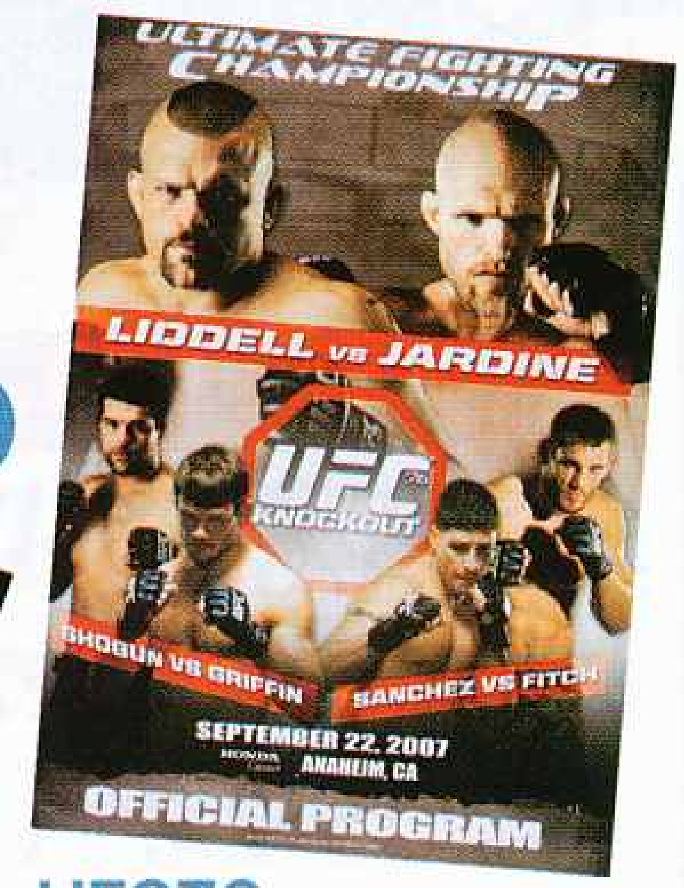
（輸入版）

48歳の“鉄人”ランディ・クートゥアーがティム・シルビアを下してUFCヘビー級王座に奇跡的カムバック！ まさにアップライジングな今年3月の『UFC 68』を完全収録。



UFC76 大会記念Tシャツ

リデルが復帰戦でまさかの敗北、ショーグンvsグリフィンのハイレベルマッチも実現した『UFC 76』の大会記念シャツを本誌特派員、坂井ノブがゲッツ！ この希少な逸品も放出いたします！



UFC76 大会パンフレット

PRIDEファイターがまたもや“金網の落とし穴”にハマってしまう結果となった、波乱続出の『UFC 76』大会パンフレット。もちろんオクタゴンギャルズの美麗フォトも満載！

UFC■http://www.ufc.com/

REVERSAL

各1名様



アッシーマ ビッグドラムバッグ

ブラック／¥15,540（税込）

おなじみの格闘ブランド、reversalからユニークかつ機能性に優れた最新バッグが到着！ かなりビッグサイズのバッグやリュックとして使用できるのはもちろん、瞬時にコンパクトな円盤サイズにもトランスフォームするから驚きだ。



ZST×reversal コラボステッカー

¥500（税込）

ZST とreversalがガッチリとタッグを組んだコラボステッカーが登場。こちらは100枚限定のレア品だけに一度逃したら手に入れるのは至難の業？ この機会を逃すな！



reversalビッグタオル

¥2,625（税込）

大きいことはいいことだ！ スポーツに格闘技に、そして風呂上がりにももちろん対応！ 縦38cm、横110cmのビッグサイズタオルにロゴも入った使い勝手のいい一品。

reversal■http://www.rvddw.com/

HUSTLE



2名様

WARG Tシャツ

ブラック／¥3,990（税込）

一生、一緒にいてくれや～♪ と『ハッスル』でRGの長年の夢であった天龍とのタッグ結成が実現。チーム名はズバリ“WARG”！ レッスルならぬ、ハッスル・アンド・ロマンス魂あふれるTシャツがここに完成！

ハッスル■http://www.hustlehustle.com/

ALL JAPAN

各1名様



全日本プロレス 創立35周年記念 記念マグカップ

¥1,050（税込）

う～っし！ いまや“王道”から“パッケージプロレス”へと大きな変貌を遂げた全日本プロレスの創立35周年を記念して、特製マグカップが到着！ おなじみのロゴに“35th”の数字が光輝く。

全日本プロレス 創立35周年記念 Tシャツ

ブラック／¥3,150（税込）

10.18代々木第2体育館大会では健介vs 川田の三冠戦も開催するなど、35回目の秋を迎えてさらに“邁進”する全日本プロレス。創立35周年を記念したこのTシャツは選手も絶賛愛用中。

全日本プロレス■http://www.all-japan.co.jp/

YUKE'S



ニンテンドーDS用ゲームソフト『ハメコミ LUCKY PUZZLE DS』

¥ 3,000（税込）

あの "サムライ" 越中詩郎が今度はなんとDS用ソフトの応援団長に就任!?　7つのピースの組み合わせでさまざまなかたちを作る傑作パズルゲーム。もうやるしかないって!

YUKE'S■http://www.yukes.co.jp/

NEW JAPAN

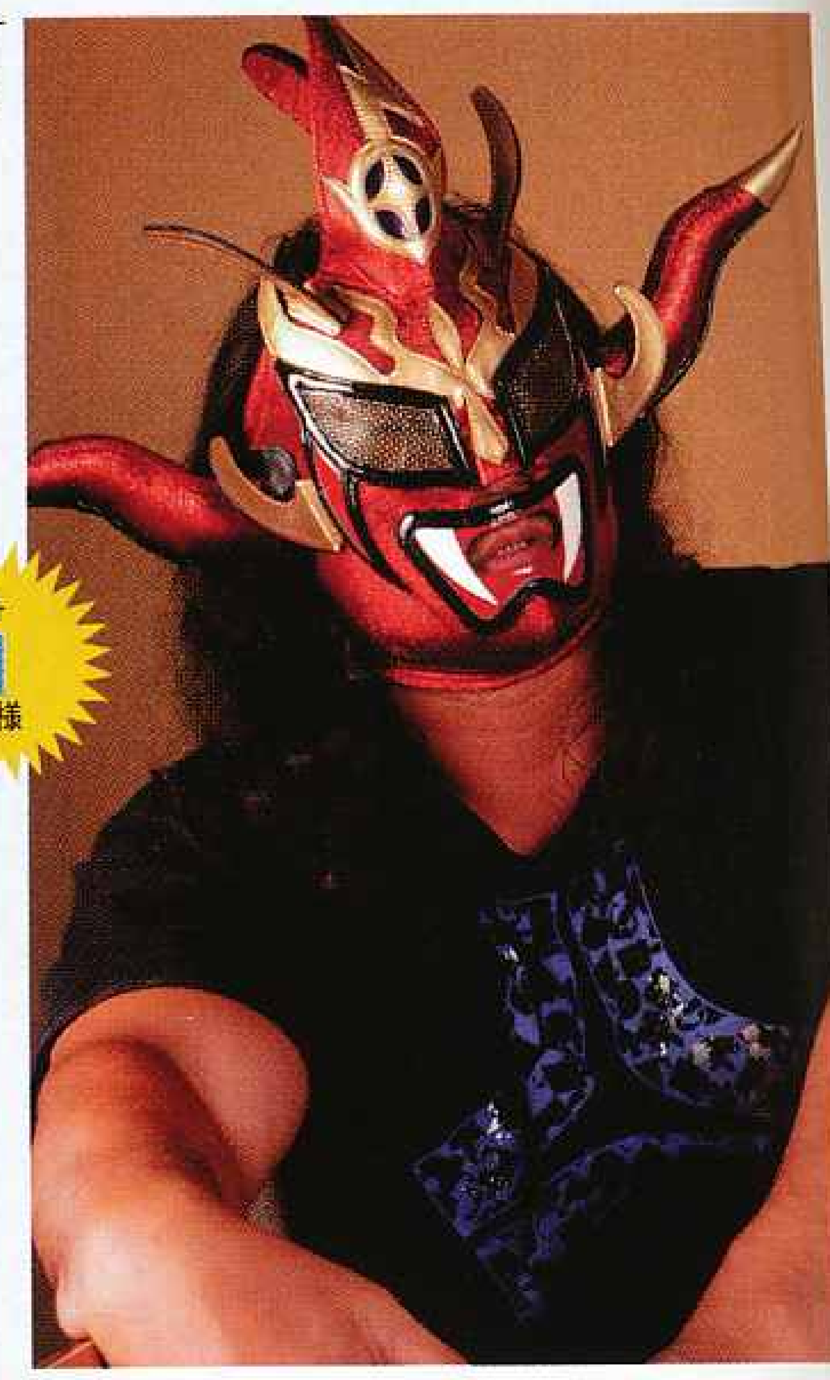


各1名様

LEGEND Tシャツ

デニム／¥ 3,000（税込）

今号でも、船木誠勝との対談ではっちゃけたヤングライオン青春列伝をたっぷりと語ってくれた獣神サンダー・ライガーが長州、蝶野、越中、マシンらと結成したLEGEND軍の最新Tシャツが緊急発売!





真壁「GORILLA-2」Tシャツ

ブラック／¥ 3,000（税込）

LEGEND軍なんて関係ねぇ!　10.8両国大会では越中からピンフォール勝利など、まだまだ猛威を奮うGBH軍の "爆薬庫" 真壁刀義の新作シャツが登場。チェーンを巻くゴリラという直球ながらインパクトあるデザイン。

闘魂SHOP■http://shop.njpw.co.jp

PANCRASE





各1名様

10.14大会記念Tシャツ

グレー／¥3,675（税込）

エース・近藤有己が桜木裕司と激突し、坂口征夫がプロ3戦目に挑んだ10.14ディファ有明大会の開催を記念して、大会カードがズラリと明記された大会記念シャツが登場。

パンクラス ロゴパーカー

ブラック／¥6,090（税込）

いまこそ原点回帰!　パンクラスの07年秋の新作グッズは、パンクラスの "バッテンロゴ" を活かしたシンプルなデザイン。これからの季節にピッタリのロングパーカーをご提供。

PANCRACE■http://www.pancrase.co.jp/

HARDCORE CHOCOLATE



1名様

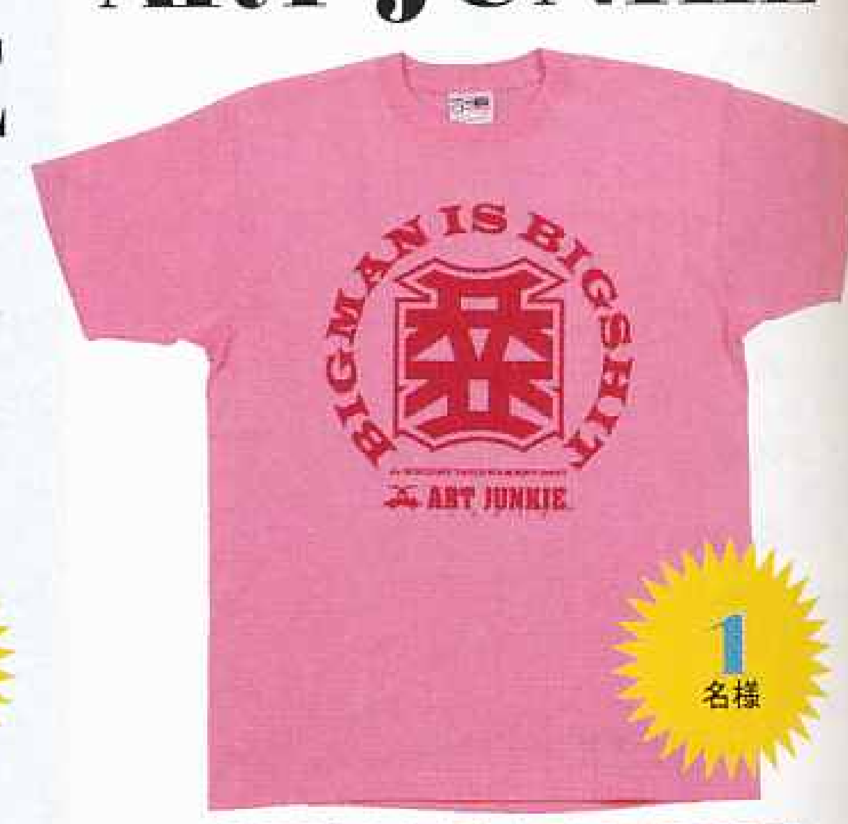
キャプテン・レッドネック Tシャツ

ホワイト／¥3,675（税込）

いつ何時でもケツ出しペロリ!　ビールっ腹に毒針エルボーに必殺カーフブランディング!　テキサスの気まぐれな "天才" キャプテンレッドネックTシャツがここにリリース。

HARDCORE CHOCOLATE■http://www.core-choco.com/

ART JUNKIE



1名様

BIGMAN IS BIGSHIT! Tシャツ

ピンク／¥3,000（税込）

ART JUNKIEから、「BIGMAN IS BIGSHIT!」という "神様" ゴッチさんの名言を引用した、ZERO1-MAX版の "ジュニアの祭典" 天下一ジュニアの公式Tシャツが登場。

ART JUNKIE■http://www.artjunkie.jp/

DVD



各1名様

『JWP激闘史 vol.1』

200分／¥5,880（税込）

『鈴木秀明 キックボクシング・アドバンス2 vs.オールラウンダー篇』

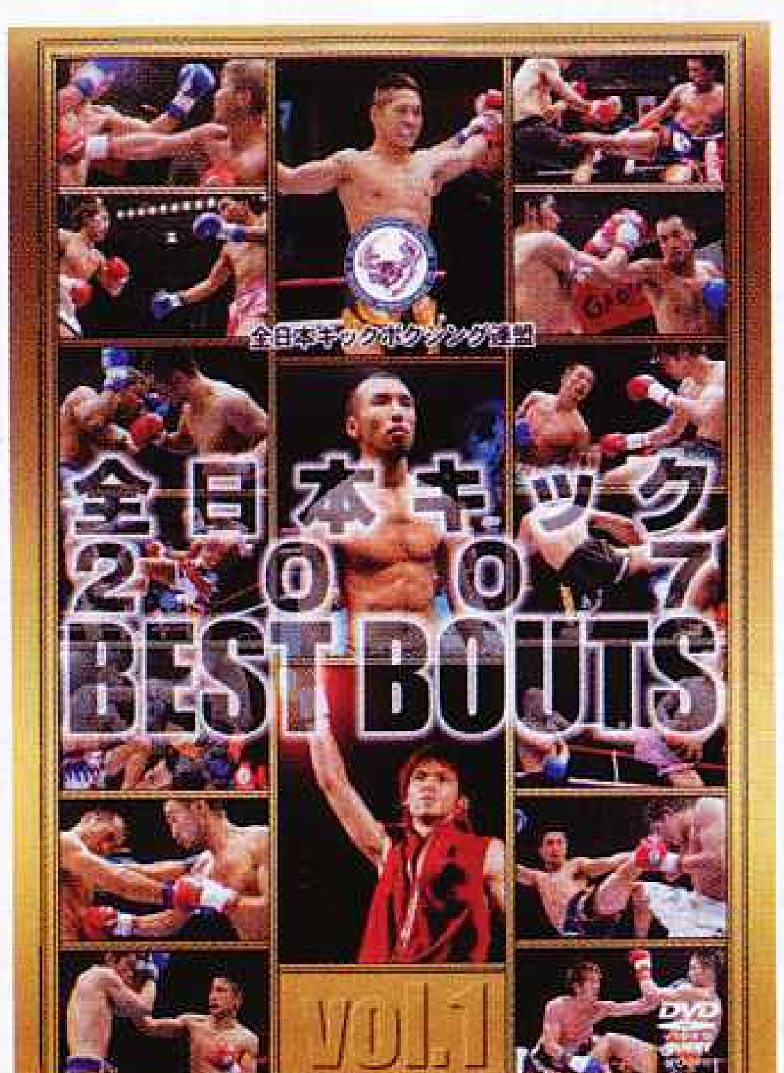
127分／¥5,880（税込）

『新極真会 教則DVD-BOX』

137分／¥15,750（税込）

『武神館DVDシリーズ 初見良昭 口伝 その八』

101分／¥5,040（税込）



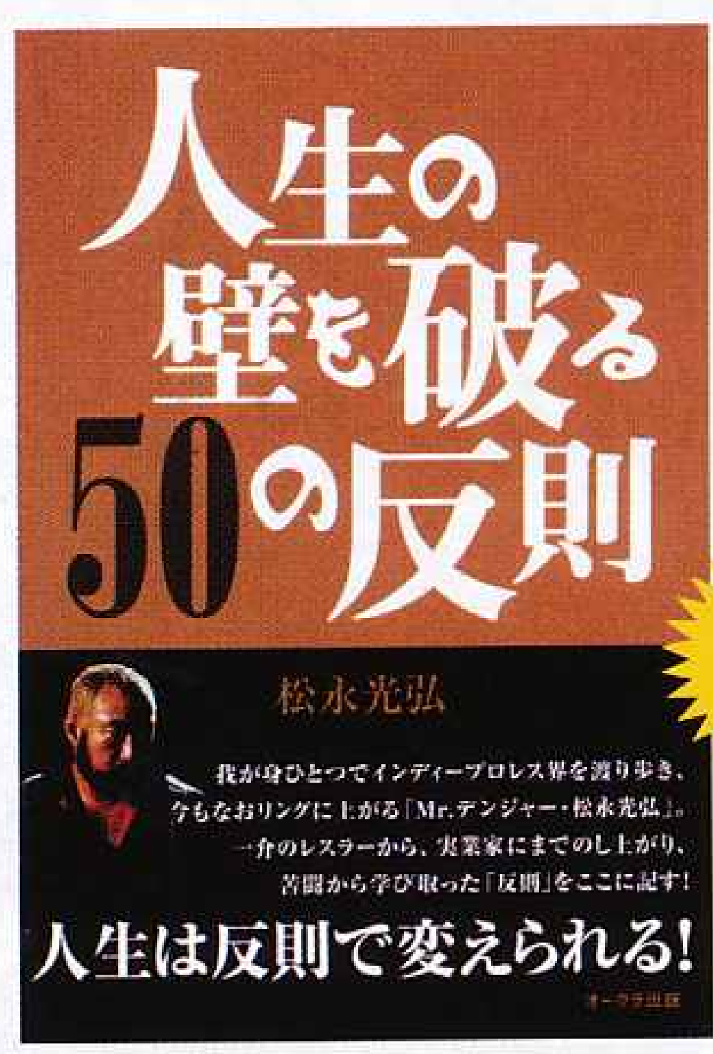
『全日本キック 2007 BEST BOUTS vol.1』

248分／¥5,880（税込）

今号ではなぜかRGとの対談が実現してしまった "野良犬" こと小林聡のFINALマッチや、タイのラジャダムナン遠征など全日本キック07年上半期の名勝負を完全網羅!!

QUEST■http://www.queststation.com/

Mr.DANGER



各1名様

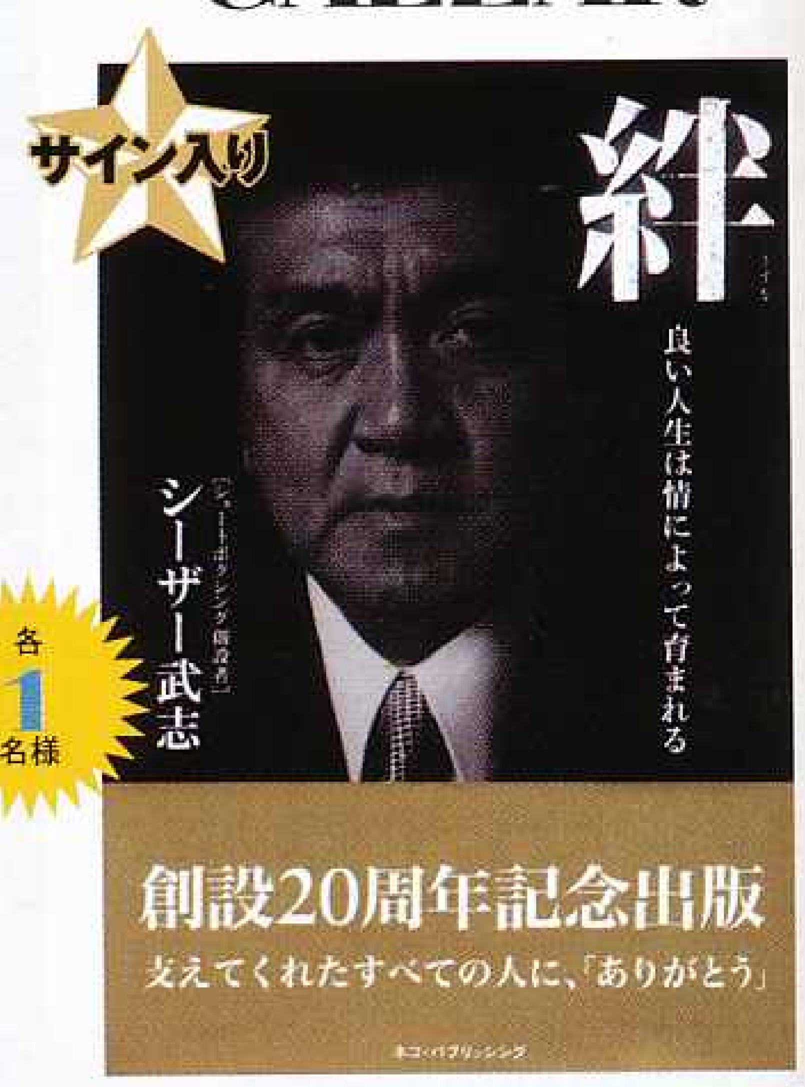
『人生の壁を破る50の反則』

松永光弘（著）（オークラ出版刊）／¥1,500（税込）

インディー界を渡り歩いてきた "Mr.デンジャー" こと松永光弘は、実業家としていかにステーキ屋を成功させたのか?　人生を乗り越える "反則" のヒントを記した新刊。

オークラ出版■http://www.oakla.com/

CAEZAR



『絆 ―良い人生は情によって育まれる』

シーザー武志（著）（ネコパブリッシング刊）／¥1,200（税込）

今号で『プロレス探検隊』に登場したシュートボクシング総帥・シーザー武志が、シュートボクシング創設20周年記念として、設立の苦労談や人生の "絆" を書き下ろした一冊。

ネコパブリッシング■http://www.neko.co.jp/

kamipro 紙のプロレス

No.116
2007年11月5日 発行

発行人
浜村弘一

編集人
斉藤慎一

編集統括本部長
ジャン斉藤

編集スタッフ
坂井ノブ
堀江ガンツ
阿修羅チョロ
松下ミワ
真下義之
八木賢太郎（マクラーレン調査のため非番）

不適切な発言
上杉SV

見習いの見習い
すがさわくん

終身名誉バイザー
吉田 豪

助っ人
ジャイ子
能登くん

編集次長（各方面謝罪担当）
松林 貴

デザイン大将
出田さん（TwoThree）

デザイン司令長官
金井ヒサくん（TwoThree）

デザイン
松坂マツくん
谷タニやん
廣田ブンちゃん
野口ノグッチー
白木しらき（以上、TwoThree）

トメさん
はなえちゃん（以上、さおとめの事務所）

カメラマン
乾 晋也
菊池茂夫
平工幸雄
山口比佐夫
黒田史夫
吉場正和
平 専英
戸成嘉則
梅木麗子
大甲邦喜

お勘定&衣料部
ニュー林様

いつも大ピンチ!!
ジャック入江（TwoThree）

雑誌営業
堂前秀隆
中村宣忠

助っ人営業
上野宏樹

業務部
樽本“ぎっくり腰”義之

編集庶務
原 正典
山内ユリコ

終身名誉編集庶務
高木由美子

編集チアガール
金川奈津子

広告営業
株式会社ビューポイント
（広告掲載のお問い合わせは☎03-5776-0717まで）

発行所
株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1
☎0570-060-555（代表）

印刷
図書印刷株式会社

協力
BUSHIDO KOVOTOJO KELIAS
FightSport

本書の内容、不良品交換等についてのお問い合わせは下記の窓口までお願いいたします。なお、内容につきましては記載以上の詳細につきましてはお答えできませんので、あらかじめご了承ください。

［カスタマーサポート］
☎0570-060-555
（受付時間／土日祝祭日を除く 12:00～17:00）
メールアドレス support@ml.enterbrain.co.jp

●個人情報の取り扱いについて
本書にお寄せいただいたハガキ、各種のお問い合わせに関連してご提供いただいた個人情報につきましては株式会社ダブルクロス、および株式会社エンターブレイン（URL:http://www.enterbrain.co.jp/）、それぞれのプライバシー・ポリシーの定めるところにより、取り扱わせていただきます。



NEXT ISSUE

世の中が乱れたときこそ『kamipro』の出番!!
大晦日情報が満載の本誌No.117は
11月16日(金)発売予定!!

UFC78詳報、大晦日情報が詰まった
Kamipro Special 2007 WINTERは
11月30日(金)発売予定!!

※ 地域によっては多少発売日が遅れます。

kamipro 2007 116

「さよなら」は別れの言葉ではなく再び逢うための遠い約束……なのか!?

2007年11月5日

発行人／浜村弘一　編集人／斎藤慎一　発行・発売所／株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町 6-1 ☎0570-060-555（代表）
印刷・製本／図書印刷株式会社 ©2007 ENTERBRAIN,INC. ©2007 DOUBLECROSS



9784757738317

定価：本体838円＋税

雑誌 61955-49 Ⓗ2008.2

ISBN978-4-7577-3831-7
C9476 ¥838E

1929476008381

Printed in Japan 図書印刷

enterbrain